フリーダム・バイブル

The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom Bible translation

フリーダム・バイブル
The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom Bible translation

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は eBible.org です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を ebible.org+jpnm@gmail.com までお寄せください。

2026-07-08

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 8 Jul 2026 from source files dated 8 Jul 2026
8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424

Contents

創世記 1
出エジプト記 71
レビ記 125
民数記 166
申命記 222
ヨシュア記 272
士師記 304
ルツ記 337
サムエル記第一 342
サムエル記第二 387
列王記第一 425
列王記第二 466

モーセの**第一**の**書**、
一般に**呼**ばれる
創世記

1 初めに、神* は天と地を創造された。
2 地は形がなく、空であった。闇が深い水の面を覆っており、
神の霊が水の面の上を漂っていた。
3 神は言われた。「光があれ。」すると、光があった。
4 神はその光を見て、良いとされた。神は光と闇を分けられた。
5 神は光を「昼」と呼び、闇を「夜」と呼ばれた。夕があり、朝があった。
第一日である。
6 神は言われた。「水の間に大空があれ。水と水を分けよ。」
7 神は大空を造り、大空の下にある水と、大空の上にある水を分けられ
た。すると、そのようになった。
8 神は大空を「天」と呼ばれた。夕があり、朝があった。第二日である。
9 神は言われた。「天の下の水は一つの場所に集まれ。乾いた地が現れ
よ。」すると、そのようになった。
10 神は乾いた地を「地」と呼び、水の集まった所を「海」と呼ばれた。神は
それを見て、良いとされた。
11 神は言われた。「地は青草を生えさせよ。種を結ぶ草と、それぞれの種
類にしたがって種のある実を結ぶ果樹を、地の上に生えさせよ。」すると、そ
のようになった。
12 地は青草、それぞれの種類にしたがって種を結ぶ草、またそれぞれの種
類にしたがって種のある実を結ぶ木を生えさせた。神はそれを見て、良いとさ
れた。
13 夕があり、朝があった。第三日である。
14 神は言われた。「天の大空に光るものがあれ。昼と夜を分け、それら
は、しるし、季節、日、年のためのものとなれ。
15 また、それらは天の大空で光るものとなり、地の上を照らせ。」する
と、そのようになった。
16 神は二つの大きな光るものを造られた。大きい方の光るものに昼を治めさ
せ、小さい方の光るものに夜を治めさせた。また、星々も造られた。
17 神はそれらを天の大空に配置し、地の上を照らさせ、
18 昼と夜を治めさせ、光と闇を分けさせた。神はそれを見て、良いとされ
た。
19 夕があり、朝があった。第四日である。
20 神は言われた。「水は生き物の群れで満ちあふれよ。また、
鳥は地の上、天の大空を飛べ。」
21 神は大きな海の生き物と、水の中に群がり動くすべての生き物を、それぞ
れの種類にしたがって創造し、また翼のあるすべての鳥を、それぞれの種類に
したがって創造された。神はそれを見て、良いとされた。
22 神はそれらを祝福して言われた。「生めよ。増えよ。海の水に満ちよ。ま
た、鳥は地の上に増えよ。」
23 夕があり、朝があった。第五日である。
24 神は言われた。「地は生き物を、それぞれの種類にしたがって生み出せ。
家畜、這うもの、地の獣を、それぞれの種類にしたがって。」すると、そのよ
うになった。

---

* **1:1 1:1** 「神」と訳されているヘブライ語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

25 神は地の獣をそれぞれの種類にしたがって、家畜をそれぞれの種類にしたがって、また地を這うすべてのものを、それぞれの種類にしたがって造られた。神はそれを見て、良いとされた。
26 神は言われた。「われわれのかたちに、われわれに似せて人を造ろう。彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、全地、そして地を這うすべてのものを治めさせよう。」
27 神はご自身のかたちに人を創造された。神のかたちに人を創造し、男と女に彼らを創造された。
28 神は彼らを祝福された。神は彼らに言われた。「生めよ。増えよ。地に満ちて、それを従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を動くすべての生き物を治めよ。」
29 神は言われた。「見よ、†わたしは、全地の表にある種を結ぶすべての草と、種のある実を結ぶすべての木をあなたがたに与えた。それがあなたがたの食物となる。
30 また、地のすべての獣、空のすべての鳥、地を這うすべてのもの、すなわち命のあるすべてのものには、食物としてすべての青草を与えた。」すると、そのようになった。
31 神はご自分が造られたすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日である。

2

1 天と地と、そのすべての万象は完成した。
2 神は第七日に、ご自分がなさっていた仕事を完成された。そして、ご自分がなさっていたすべての仕事を終えて、第七日に休まれた。
3 神は第七日を祝福し、これを聖なるものとされた。神が創造のすべての仕事を終えて、この日に休まれたからである。
4 これが天と地の歴史* である。主なる神† が地と天を造られた日に、
5 地にはまだ野の低木がなく、野の草もまだ生えていなかった。主なる神が地の上に雨を降らせておらず、土を耕す人もいなかったからである。
6 しかし、地から霧が立ち上り、地面の全面を潤していた。
7 主なる神は、地面のちりで人を形造り、その鼻に命の息を吹き込まれた。こうして人は生きる魂となった。
8 主なる神は東の方のエデンに園を植え、ご自分が形造った人をそこに置かれた。
9 主なる神は、見るからに好ましく、食物として良いすべての木を地面から生えさせた。また、園の中央には命の木と、善悪の知識の木を生えさせた。
10 一つの川が、園を潤すためにエデンから流れ出ていた。それはそこから分かれ、四つの川の源となった。
11 第一の川の名はピションである。それは金のあるハビラの全土を巡って流れる。
12 その地の金は良い。そこにはブデリウム‡ とシマメノウもある。
13 第二の川の名はギホンである。それはクシュの全土を巡って流れる川である。
14 第三の川の名はヒデケルである。これはアッシリアの前を流れる川である。第四の川はユーフラテスである。
15 主なる神は人を連れて行き、エデンの園に置き、そこを耕させ、守らせた。

---

† **1:29 1:29** 「見よ」はヘブライ語הִנֵּה」（ヒンネー）で、注意を促す表現である。 * **2:4 2:4** 「歴史」と訳されているヘブライ語תּוֹלְדוֹת」（トレドット）は「系譜、記録、歴史」を意味し、創世記の構造的区
† **2:4 2:4** ここで「主」と訳されているヘブライ語は、神の固有名יהוה」（ヤハウェ）である。
‡ **2:12 2:12** または「芳香樹脂」。

16 主なる神は人に命じて言われた。「あなたは園のどの木からでも、思いのままに食べてもよい。
17 しかし、善悪の知識の木からは食べてはならない。それを食べたその日に、あなたは必ず死ぬからである。」
18 主なる神は言われた。「人が一人でいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい§助け手を造ろう。」
19 主なる神は、野のすべての獣と空のすべての鳥を地面から形造り、人がそれらを何と呼ぶかを見るために、人のところに連れて来られた。人がそれぞれの生き物を呼んだ名前、それがその名前となった。
20 人はすべての家畜、空の鳥、野のすべての獣に名前をつけた。しかし人には、彼にふさわしい助け手が見つからなかった。
21 主なる神は人を深い眠りに落とされた。人が眠っている間に、神はそのあばら骨の一つを取り、その場所を肉で塞がれた。
22 主なる神は、人から取ったあばら骨で女を造り、彼女を人のところに連れて来られた。
23 人は言った。「これこそ、私の骨からの骨、私の肉からの肉。彼女は『女』と呼ばれる。男から取られたのだから。」
24 それゆえ、男は父と母を離れ、妻と結ばれ、二人は一つの肉となる。
25 人とその妻は二人とも裸であったが、恥じていなかった。

3

1 主なる神が造られた野のすべての動物の中で、蛇は最も狡猾であった。蛇は女に言った。「神は本当に、『園のどの木からも食べてはならない』と言われたのか。」
2 女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよい。
3 しかし、園の中央にある木の実については、神は『それを食べてはならない。それに触れてもならない。死ぬことになるといけないからだ』と言われた。」
4 蛇は女に言った。「あなたがたは決して死なない。
5 それを食べたその日に、あなたがたの目が開かれ、神のようになって善と悪を知るようになることを、神は知っているのだ。」
6 女がその木を見ると、それは食物として良く、目に好ましく、賢くなるために望ましいものであった。そこで女はその実を取って食べ、一緒にいた夫にも与えた。彼もそれを食べた。
7 すると、二人の目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。彼らはイチジクの葉をつなぎ合わせ、自分たちのために腰を覆うものを作った。
8 彼らは、日の涼しい頃に、主なる神が園を歩かれる音を聞いた。人とその妻は、主なる神の御前を避けて、園の木々の間に身を隠した。
9 主なる神は人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」
10 人は言った。「私は園であなたの声を聞きました。自分が裸だったので恐れ、身を隠しました。」
11 神は言われた。「あなたが裸であることを、誰があなたに告げたのか。食べてはならないとわたしが命じたあの木から、あなたは食べたのか。」
12 人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から実をくれたので、私は食べました。」
13 主なる神は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」
女は言った。「蛇が私を欺いたので、私は食べました。」
14 主なる神は蛇に言われた。
「あなたがこのようなことをしたため、
あなたはすべての家畜、
すべての野の動物の中で呪われる。

§ **2:18 2:18** または「彼に適した」「彼に対応する」。

あなたは腹ばいで進み、
　一生の日々、ちりを食べる。
15 わたしは、あなたと女との間に、
　あなたの子孫と女の子孫との間に敵意を置く。
彼はあなたの頭を打ち砕き、
　あなたは彼のかかとを傷つける。」
16 女に神は言われた。
「わたしは、あなたの身ごもりの苦しみを大いに増す。
　あなたは苦しんで子を産む。
あなたは夫を慕い求め、
　彼はあなたを支配する。」
17 アダムに神は言われた。
「あなたは妻の声に聞き従い、
　『それから食べてはならない』と
　わたしが命じた木から食べた。
それゆえ、地はあなたのために呪われる。
　あなたは一生の日々、苦労して地から食物を得る。
18 地はあなたのために、いばらとあざみを生えさせる。
　あなたは野の草を食べる。
19 あなたは顔に汗を流してパンを食べ、
　ついに土に帰る。
あなたはそこから取られたからである。
　あなたはちりだから、
　ちりに帰るのだ。」
20 人は妻をエバと名付けた。彼女がすべての生きる者の母となるからである。
21 主なる神は、アダムと彼の妻のために皮の衣を作り、彼らに着せられた。
22 主なる神は言われた。「見よ、人はわれわれの一人のようになり、善と悪を知るようになった。今、彼が手を伸ばし、命の木からも取って食べ、永遠に生きることがないようにしよう。」
23 それゆえ、主なる神は彼をエデンの園から追い出し、彼が取られた元の土を耕させることにされた。
24 こうして神は人を追放し、命の木への道を守るために、エデンの園の東にケルビム* と、四方に向かって回転する炎の剣を置かれた。

4

1 人はその妻エバを知った*。彼女は身ごもり†、カインを産んで言った。
「私は主の助けによって、一人の男を得た。」
2 彼女はまた、カインの弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。
3 時が経って、カインは地の産物から主へのささげ物を持って来た。
4 アベルもまた、自分の羊の初子の中から、その肥えたものを持って来た。
主はアベルとそのささげ物に目を留められたが、
5 カインとそのささげ物には目を留められなかった。カインは非常に怒り、顔を伏せた。
6 主はカインに言われた。「なぜあなたは怒っているのか。なぜ顔を伏せているのか。

---

* **3:24 3:24** ケルビムは、神に仕える力ある天的な存在である。エゼキエル書10章を参照。　* **4:1 4:1** または「性的関係を持った」。　† **4:1 4:1** または「妊娠し」。

7 もしあなたが良いことをしているなら、顔を上げられるではないか。もし良いことをしていないなら、罪が戸口で待ち伏せている。罪はあなたを慕い求めるが、あなたはそれを治めなければならない。」
8 カインは弟アベルに言った。「野に行こう。」彼らが野にいたとき、カインは弟アベルに立ち向かい、彼を殺した。
9 主はカインに言われた。「あなたの弟アベルはどこにいるのか。」
彼は言った。「知りません。私は弟の番人でしょうか。」
10 主は言われた。「あなたは何ということをしたのか。あなたの弟の血の声が、地からわたしに向かって叫んでいる。
11 今、あなたは地から呪われる。地はその口を開けて、あなたの手から弟の血を受けた。
12 今後、あなたが地を耕しても、地はもはやその力をあなたに与えない。あなたは地上をさまよい歩く逃亡者となる。」
13 カインは主に言った。「私の罰は重すぎて、担いきれません。
14 見よ、あなたは今日、私をこの地の表から追い出されました。私はあなたの御前から隠され、地上をさまよい歩く逃亡者となります。私を見つける者は誰でも私を殺すでしょう。」
15 主は彼に言われた。「それゆえ、カインを殺す者は誰でも、七倍の復讐を受ける。」主はカインに一つのしるしを付けられ、彼を見つける者が誰も彼を打ち殺すことのないようにされた。
16 カインは主の前から去り、エデンの東、ノドの地に住んだ。
17 カインはその妻を知った。彼女は身ごもり、エノクを産んだ。カインは町を建て、その町を息子の名にちなんでエノクと名付けた。
18 エノクにはイラドが生まれた。イラドはメフヤエルの父となり、メフヤエルはメトシャエルの父となり、メトシャエルはレメクの父となった。
19 レメクは二人の妻をめとった。一人の名はアダ、もう一人の名はチラであった。
20 アダはヤバルを産んだ。彼は天幕に住む者たち、また家畜を飼う者たちの父となった。
21 彼の弟の名はユバルであった。彼は竪琴と笛を奏でるすべての者の父となった。
22 チラもまた、トバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる刃物を鍛える者であった。トバル・カインの妹はナアマであった。
23 レメクは妻たちに言った。
「アダとチラよ、私の声を聞け。
レメクの妻たちよ、私の言葉に耳を傾けよ。
私は、私に傷を負わせた男を殺した。
私を打った若者を殺した。
24 カインのための復讐が七倍なら、
レメクのためには七十七倍だ。」
25 アダムは再びその妻を知った。彼女は男の子を産み、その子をセツと名付けて言った。「カインがアベルを殺したので、神がアベルの代わりに別の子を私に授けてくださったからです。」
26 セツにもまた男の子が生まれ、彼はその子をエノスと名付けた。その頃、人々は主の御名を呼び求め始めた。

5

1 これはアダムの系図の書である。神が人を創造された日、神は人を神に似せて造られた。
2 神は彼らを男と女に創造し、彼らを祝福された。彼らが創造された日、神は彼らを人* と名付けられた。

* **5:2 5:2** 「アダム」と「人」は、ヘブライ語で同じ語である。

3 アダムは百三十年生きて、彼自身に似た、彼のかたちどおりの男の子の父となり、その子をセツと名付けた。
4 セツの父となって後、アダムは八百年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
5 こうして、アダムの全生涯は九百三十年であった。そして彼は死んだ。
6 セツは百五年生きて、エノスの父となった。
7 エノスの父となって後、セツは八百七年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
8 こうして、セツの全生涯は九百十二年であった。そして彼は死んだ。
9 エノスは九十年生きて、ケナンの父となった。
10 ケナンの父となって後、エノスは八百十五年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
11 こうして、エノスの全生涯は九百五年であった。そして彼は死んだ。
12 ケナンは七十年生きて、マハラレルの父となった。
13 マハラレルの父となって後、ケナンは八百四十年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
14 こうして、ケナンの全生涯は九百十年であった。そして彼は死んだ。
15 マハラレルは六十五年生きて、ヤレドの父となった。
16 ヤレドの父となって後、マハラレルは八百三十年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
17 こうして、マハラレルの全生涯は八百九十五年であった。そして彼は死んだ。
18 ヤレドは百六十二年生きて、エノクの父となった。
19 エノクの父となって後、ヤレドは八百年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
20 こうして、ヤレドの全生涯は九百六十二年であった。そして彼は死んだ。
21 エノクは六十五年生きて、メトセラの父となった。
22 メトセラの父となって後、エノクは三百年、神と共に歩み、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
23 こうして、エノクの全生涯は三百六十五年であった。
24 エノクは神と共に歩み、そしていなくなった。神が彼を取られたからである。
25 メトセラは百八十七年生きて、レメクの父となった。
26 レメクの父となって後、メトセラは七百八十二年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
27 こうして、メトセラの全生涯は九百六十九年であった。そして彼は死んだ。
28 レメクは百八十二年生きて、一人の男の子の父となった。
29 彼はその子をノアと名付けて言った。「主が呪われた地のゆえに、私たちの仕事と手の労苦について、この子が私たちを慰めてくれるだろう。」
30 ノアの父となって後、レメクは五百九十五年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
31 こうして、レメクの全生涯は七百七十七年であった。そして彼は死んだ。
32 ノアは五百歳になり、セム、ハム、ヤペテの父となった。

6

1 人が地の表で増え始め、彼らに娘たちが生まれたとき、
2 神の子たちは、人の娘たちが美しいのを見て、自分たちが選んだ者を妻としてめとった。
3 主は言われた。「わたしの霊は永遠に人と争うことはない。彼もまた肉だからである。彼の日々は百二十年となる。」

4 その当時、またその後にも、ネフィリム* が地上にいた。それは、神の子たちが人の娘たちのところに入り、彼女たちが彼らに子どもを産んだからである。彼らは昔の勇士であり、名高い人々であった。
5 主は、地上における人の悪が大きく、人の心に思い計ることが、いつも悪いことばかりであるのを見られた。
6 主は、地の上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。
7 主は言われた。「わたしが創造した人を地の表から消し去ろう。人とともに、獣、這うもの、空の鳥も消し去ろう。わたしはこれらを造ったことを悔やんでいるからだ。」
8 しかし、ノアは主の目に恵みを見出していた。
9 これがノアの記録である。ノアは義人であり、その時代の人々の中で非の打ち所がなかった。ノアは神と共に歩んだ。
10 ノアは、セム、ハム、ヤペテという三人の息子の父となった。
11 地は神の前に腐敗し、地は暴力で満ちていた。
12 神は地を見られた。見よ、それは腐敗していた。すべての肉なるものが、地上でその道を腐敗させていたからである。
13 神はノアに言われた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。彼らによって地は暴力で満ちているからだ。見よ、わたしは彼らを地とともに滅ぼす。
14 あなたはゴフェルの木で箱舟を造りなさい。箱舟の中に部屋を造り、内側も外側もピッチで塗りなさい。
15 このようにそれを造りなさい。箱舟の長さは三百キュビト†、幅は五十キュビト、高さは三十キュビトとする。
16 箱舟に屋根を造り、上から一キュビトのところで仕上げなさい。箱舟の戸は側面に設けなさい。一階、二階、三階の層にして、それを造りなさい。
17 見よ、わたし、このわたしが、地の上に大水による洪水を起こし、命の息を持つすべての肉を天の下から滅ぼす。地にあるすべてのものは死に絶える。
18 しかし、わたしはあなたと契約を結ぶ。あなたは、あなたの息子たち、あなたの妻、息子たちの妻たちと一緒に、箱舟に入りなさい。
19 すべての肉なるあらゆる生き物の中から、それぞれ二匹ずつを箱舟に連れて入り、あなたと共に生かしておきなさい。それらは雄と雌でなければならない。
20 それぞれの種類にしたがって、鳥、家畜、地面を這うすべてのものの中から、それぞれ二匹ずつが、生き延びるためにあなたのところに来る。
21 あなたは食べられるすべての食物を自分のために取り、集めておきなさい。それはあなたと彼らのための食物となる。」
22 ノアはそのようにした。神が彼に命じられたすべてのとおりに、彼は行った。

7

1 主はノアに言われた。「あなたとあなたの家族は皆、箱舟に入りなさい。この世代の中で、あなたがわたしの前に正しい者であることを見たからである。
2 あなたは、清いすべての動物の中から、雄と雌を七つがいずつ連れて行きなさい。清くない動物の中からは、雄と雌を一つがいずつ連れて行きなさい。
3 空の鳥の中からも、雄と雌を七つがいずつ連れて行きなさい。全地の表に、その種を生かしておくためである。

---

* **6:4 6:4** または「巨人」。 † **6:15 6:15** キュビトは、男性の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すな

4 あと七日で、わたしは四十日四十夜、地の上に雨を降らせる。わたしが造ったすべての生き物を、地の表から消し去る。」
5 ノアは、主が命じられたすべてのとおりに行った。
6 地に大水による洪水が起こったとき、ノアは六百歳であった。
7 ノアは洪水から逃れるため、息子たち、妻、息子たちの妻たちと一緒に箱舟に入った。
8 清い動物、清くない動物、鳥、地面を這うすべてのものは、
9 神がノアに命じられたとおりに、雄と雌のつがいになって、ノアのところに来て箱舟に入った。
10 七日後、大水による洪水が地に起こった。
11 ノアの生涯の六百年目、第二の月、その月の十七日、その日に、大いなる淵の源がすべて裂け、天の窓が開かれた。
12 そして、四十日四十夜、地の上に雨が降った。
13 まさにその日、ノアは箱舟に入った。ノアの息子たちセム、ハム、ヤペテ、ノアの妻、息子たちの三人の妻たちも一緒であった。
14 彼らと、それぞれの種類にしたがったすべての野の動物、それぞれの種類にしたがったすべての家畜、それぞれの種類にしたがって地を這うすべてのもの、それぞれの種類にしたがったすべての鳥、翼のあるすべてのものが入った。
15 命の息を持つすべての肉なるものが、つがいになってノアのところに来て箱舟に入った。
16 神がノアに命じられたとおりに、すべての肉なるものの雄と雌が入った。その後、主はノアの後ろで戸を閉ざされた。
17 洪水は四十日間、地の上に続いた。水は増して箱舟を押し上げ、箱舟は地から浮かび上がった。
18 水は勢いを増し、地の上で大いに増し加わった。箱舟は水面を漂った。
19 水は地の上でますます激しく勢いを増し、全天の下にある高い山々はすべて覆われた。
20 水はさらに十五キュビト高くなり、山々は覆われた。
21 地の上を動くすべての肉なるものは死んだ。鳥、家畜、野の動物、地に群がるすべての這うもの、そしてすべての人が死んだ。
22 乾いた地にいて、その鼻に命の霊の息を持つすべてのものが死んだ。
23 人、家畜、這うもの、空の鳥を含む、地の表にいたすべての生き物が消し去られた。それらは地から消し去られた。ノアと、彼と一緒に箱舟にいた者たちだけが残った。
24 水は百五十日間、地の上で勢いを失わなかった。

8

1 神はノアと、彼と一緒に箱舟にいたすべての野の動物、すべての家畜を心に留められた。神が地の上に風を吹かせると、水は引いていった。
2 淵の源と天の窓は閉じられ、天からの雨は止められた。
3 水は地からしだいに引いていき、百五十日の終わりに水は減った。
4 第七の月の十七日に、箱舟はアララトの山々の上にとどまった。
5 水は第十の月まで、しだいに減り続けた。第十の月の一日に、山々の頂が現れた。
6 四十日の終わりに、ノアは自分が造った箱舟の窓を開け、
7 烏を放った。烏は、地から水が乾ききるまで、行ったり来たりした。
8 ノアはまた、地の表から水が引いたかどうかを見るために、鳩を放った。
9 しかし、全地の表に水があったため、鳩は足を休める場所を見つけられず、箱舟のノアのもとへ戻って来た。ノアは手を伸ばして鳩を捕らえ、箱舟の中の自分のところへ引き入れた。
10 ノアはさらに七日待ち、再び箱舟から鳩を放った。

11 夕方になって、鳩はノアのもとへ戻って来た。見よ、そのくちばしには、摘み取られたばかりのオリーブの葉があった。こうしてノアは、地から水が引いたことを知った。
12 ノアはさらに七日待ち、鳩を放った。鳩は二度と彼のもとへ戻って来なかった。
13 第六百一年の第一の月、その月の一日に、地の水は乾いた。ノアは箱舟の覆いを取り外して見た。見よ、地の表は乾いていた。
14 第二の月の二十七日に、地は完全に乾いた。
15 神はノアに語って言われた。
16 「あなた、あなたの妻、あなたの息子たち、あなたの息子たちの妻たちは、一緒に箱舟から出なさい。
17 あなたと一緒にいるすべての肉なるあらゆる生き物、鳥、家畜、地を這うすべてのものを一緒に連れ出しなさい。彼らが地に満ち広がり、地の上で子を生み、増えるためである。」
18 ノアは、息子たち、妻、息子たちの妻たちと一緒に外に出た。
19 すべての野の動物、すべての這うもの、すべての鳥、地の上を動くすべてのものは、それぞれの家族ごとに箱舟から出た。
20 ノアは主に祭壇を築き、すべての清い動物とすべての清い鳥の中から選んで、祭壇の上で全焼のささげ物をささげた。
21 主はその芳ばしい香りをかがれた。主は心の中で言われた。「わたしは、人のゆえに二度と地を呪うことはしない。人の心に思い計ることは、幼い時から悪いからである。わたしは、わたしが行ったように、すべての生き物を二度と打ち滅ぼすことはしない。
22 地が続く限り、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜がやむことはない。」

9

1 神はノアとその息子たちを祝福して、彼らに言われた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。
2 地のすべての動物、空のすべての鳥、地面を動くすべてのもの、海のすべての魚は、あなたがたを恐れ、おののく。これらはあなたがたの手に委ねられている。
3 生きて動くものはすべて、あなたがたの食物となる。青草を与えたように、わたしはこれらすべてをあなたがたに与える。
4 ただし、その命である血を含んだまま、肉を食べてはならない。
5 わたしは必ず、あなたがたの命の血の責任を問う。すべての動物にもその責任を問う。また人にも、すなわちその兄弟である人にも、人の命の責任を問う。
6 人の血を流す者は、人によって自分の血を流される。神はご自身のかたちに人を造られたからである。
7 あなたがたは、生めよ。増えよ。地に満ち広がり、地の上で増えよ。」
8 神はノアと、彼と一緒にいる息子たちに語って言われた。
9 「見よ、わたしはあなたがたと、あなたがたの後に続く子孫と、わたしの契約を結ぶ。
10 また、あなたがたと一緒にいるすべての生き物、すなわち鳥、家畜、あなたがたと一緒にいる地のすべての動物、箱舟から出たすべてのもの、地のすべての動物と契約を結ぶ。
11 わたしはあなたがたと契約を結ぶ。すべての肉なるものが、再び洪水によって断ち切られることはなく、地を滅ぼす洪水は二度と起こらない。」
12 神は言われた。「これは、わたしとあなたがた、またあなたがたと一緒にいるすべての生き物との間に、代々永遠に結ぶ契約のしるしである。

13 わたしは雲の中にわたしの虹を置く。それが、わたしと地との間の契約のしるしとなる。
14 わたしが地の上に雲を起こし、雲の中に虹が現れるとき、
15 わたしは、わたしとあなたがた、またすべての肉なるあらゆる生き物との間にあるわたしの契約を思い起こす。水が再び洪水となって、すべての肉なるものを滅ぼすことはない。
16 雲の中に虹があるとき、わたしはそれを見て、神と、地の上にあるすべての肉なるあらゆる生き物との間の永遠の契約を思い起こす。」
17 神はノアに言われた。「これが、わたしと、地の上にあるすべての肉なるものとの間に、わたしが立てた契約のしるしである。」
18 箱舟から出たノアの息子たちは、セム、ハム、ヤペテであった。ハムはカナンの父である。
19 この三人がノアの息子たちであり、彼らから全地の人々が広がった。
20 ノアは農夫となり、ぶどう園を作った。
21 彼はぶどう酒を飲んで酔い、天幕の中で裸になっていた。
22 カナンの父であるハムは、父の裸を見て、外にいる二人の兄弟に告げた。
23 セムとヤペテは着物を取り、それを二人の肩に掛け、後ろ向きに歩いて行き、父の裸を覆った。彼らは顔を背けていたので、父の裸を見なかった。
24 ノアはぶどう酒から覚め、末の息子が自分にしたことを知った。
25 彼は言った。
「カナンは呪われよ。
彼は兄弟たちのしもべのしもべとなる。」
26 彼は言った。
「セムの神である主は祝福されよ。
カナンはセムのしもべとなれ。
27 神がヤペテを広げてくださるように。
ヤペテがセムの天幕に住むように。
カナンは彼のしもべとなれ。」
28 洪水のあと、ノアは三百五十年生きた。
29 こうして、ノアの全生涯は九百五十年であった。そして彼は死んだ。

10

1 これはノアの息子たち、セム、ハム、ヤペテの系図である。洪水のあと、彼らに息子たちが生まれた。
2 ヤペテの息子たちは、ゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、トバル、メシェク、ティラスである。
3 ゴメルの息子たちは、アシュケナズ、リファト、トガルマである。
4 ヤワンの息子たちは、エリシャ、タルシシュ、キティム、ドダニムである。
5 これらから、海沿いの国々の民が、それぞれ自分たちの土地に分かれていった。彼らは、それぞれの言語、それぞれの氏族、それぞれの国にしたがっていた。
6 ハムの息子たちは、クシュ、ミツライム、プト、カナンである。
7 クシュの息子たちは、セバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカである。ラアマの息子たちは、シェバとデダンである。
8 クシュはニムロドの父となった。ニムロドは地上で力ある者となり始めた。
9 彼は主の前に力ある狩人であった。それゆえ、「主の前に力ある狩人ニムロドのように」と言われるようになった。
10 彼の王国の始まりは、シンアルの地にあるバベル、エレク、アッカド、カルネであった。
11 彼はその地からアッシリアに出て行き、ニネベ、レホボト・イル、カラ、
12 そしてニネベとカラの間にあるレセンを建てた。これが大きな町である。

13 ミツライムは、ルディム、アナミム、レハビム、ナフトヒム、
14 パトルシム、カスルヒム、カフトリムの父となった。ペリシテ人はカスルヒムから出た。
15 カナンは、長子シドン、ヘト、
16 エブス人、アモリ人、ギルガシ人、
17 ヒビ人、アルキ人、シニ人、
18 アルワド人、ツェマリ人、ハマテ人の父となった。その後、カナン人の氏族は散らばっていった。
19 カナン人の境界は、シドンからゲラルに向かってガザに至り、さらにソドム、ゴモラ、アデマ、ツェボイムに向かってラシャに至るものであった。
20 これらがハムの息子たちであり、それぞれの氏族、それぞれの言語、その土地、その国々にしたがっていた。
21 エベルのすべての子孫の父であり、ヤペテの兄であるセムにも、子どもたちが生まれた。
22 セムの息子たちは、エラム、アシュル、アルパクシャド、ルデ、アラムである。
23 アラムの息子たちは、ウツ、フル、ゲテル、マシュである。
24 アルパクシャドはシェラの父となり、シェラはエベルの父となった。
25 エベルには二人の息子が生まれた。一人の名はペレグであった。彼の時代に地が分けられたからである。彼の弟の名はヨクタンであった。
26 ヨクタンは、アルモダド、シェレフ、ハツァルマベト、エラ、
27 ハドラム、ウザル、ディクラ、
28 オバル、アビマエル、シェバ、
29 オフィル、ハビラ、ヨバブの父となった。これらは皆、ヨクタンの息子たちであった。
30 彼らの住まいは、メシャから、東の山地であるセファルへ向かう地域であった。
31 これらがセムの息子たちであり、それぞれの氏族、それぞれの言語、その土地、その国々にしたがっていた。
32 これらがノアの息子たちの氏族であり、それぞれの系図にしたがい、その国々にいた。洪水のあと、これらから国々が地上に分かれていった。

11

1 全地は一つの言語、一つの話し言葉であった。
2 人々が東へ移動したとき、*
彼らはシンアルの地に平野を見つけ、そこに住んだ。
3 彼らは互いに言った。「さあ、れんがを作り、よく焼こう。」彼らは石の代わりにれんがを使い、漆喰の代わりに瀝青を使った。
4 彼らは言った。「さあ、自分たちのために町を建て、頂が天に届く塔を建てよう。全地の表に散らされないように、自分たちの名を上げよう。」
5 主は、人の子らが建てた町と塔を見るために下って来られた。
6 主は言われた。「見よ、彼らは一つの民であり、皆が一つの言語を持っている。そして、これが彼らのし始めたことである。今や、彼らが企てることで、彼らに不可能なことは何もないだろう。
7 さあ、われわれは下って行き、そこで彼らの言語を混乱させ、互いの言葉を理解できないようにしよう。」
8 こうして主は、彼らをそこから全地の表に散らされた。彼らは町を建てるのをやめた。
9 それゆえ、その名はバベルと呼ばれた。そこで主が全地の言語を混乱させたからである。そこから、主は彼らを全地の表に散らされた。

* **11:2 11:2** 七十人訳は「東から」と読んでいる。

10 これはセムの系図である。セムは百歳のとき、洪水の二年後にアルパクシャドの父となった。
11 アルパクシャドの父となって後、セムは五百年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
12 アルパクシャドは三十五年生きて、シェラの父となった。
13 シェラの父となって後、アルパクシャドは四百三年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
14 シェラは三十年生きて、エベルの父となった。
15 エベルの父となって後、シェラは四百三年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
16 エベルは三十四年生きて、ペレグの父となった。
17 ペレグの父となって後、エベルは四百三十年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
18 ペレグは三十年生きて、レウの父となった。
19 レウの父となって後、ペレグは二百九年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
20 レウは三十二年生きて、セルグの父となった。
21 セルグの父となって後、レウは二百七年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
22 セルグは三十年生きて、ナホルの父となった。
23 ナホルの父となって後、セルグは二百年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
24 ナホルは二十九年生きて、テラの父となった。
25 テラの父となって後、ナホルは百十九年生き、ほかにも息子や娘たちをもうけた。
26 テラは七十年生きて、アブラム、ナホル、ハランの父となった。
27 これはテラの系図である。テラはアブラム、ナホル、ハランの父となった。ハランはロトの父となった。
28 ハランは父テラがまだ生きている間に、自分の生まれた地、カルデアのウルで死んだ。
29 アブラムとナホルは妻をめとった。アブラムの妻の名はサライ、ナホルの妻の名はミルカであった。ミルカはハランの娘であり、ハランはイスカの父でもあった。
30 サライは不妊で、子どもがいなかった。
31 テラは、息子アブラムと、ハランの息子で自分の孫であるロトと、息子アブラムの妻で自分の嫁であるサライを連れて行った。彼らはカナンの地へ行くために、カルデアのウルを出発した。彼らはハランに着き、そこに住んだ。
32 テラの生涯は二百五年であった。テラはハランで死んだ。

12

1 主はアブラムに言われた。「あなたの国、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしがあなたに示す地へ行きなさい。
2 わたしはあなたを大いなる国民とする。わたしはあなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となる。
3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを侮る者を呪う。地上のすべての家族は、あなたによって祝福される。」
4 こうしてアブラムは、主が彼に言われたとおりに出発した。ロトも彼と一緒に行った。ハランを出発したとき、アブラムは七十五歳であった。
5 アブラムは、妻サライ、兄弟の息子ロト、自分たちが集めたすべての財産、ハランで得た人々を連れて行った。彼らはカナンの地へ向かって出発し、カナンの地に入った。

6 アブラムはその地を通り抜け、シェケムの場所、モレの樫の木に至った。その当時、カナン人がその地にいた。
7 主はアブラムに現れて言われた。「わたしはこの地をあなたの子孫*に与える。」彼は、自分に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。
8 彼はそこからベテルの東にある山へ進み、天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼はそこに主†のための祭壇を築き、主の御名を呼び求めた。
9 アブラムは旅を続け、さらに南へと進んでいった。
10 その地に飢饉があった。その地の飢饉が激しかったので、アブラムは寄留者として住むためにエジプトへ下って行った。
11 彼がエジプトに入ろうとして近づいたとき、妻サライに言った。「見よ、あなたが美しい女性であることを、私はよく知っている。
12 エジプト人があなたを見れば、『これは彼の妻だ』と言うだろう。そうすれば、彼らは私を殺し、あなたを生かしておくだろう。
13 どうか、私の妹だと言ってくれ。そうすれば、あなたのおかげで私はよく扱われ、あなたによって私の命は助かるだろう。」
14 アブラムがエジプトに入ると、エジプト人たちはサライが非常に美しいのを見た。
15 ファラオの高官たちも彼女を見て、ファラオの前で彼女をほめた。こうして彼女はファラオの家に召し入れられた。
16 ファラオは彼女のゆえにアブラムを厚くもてなした。アブラムは羊、牛、雄ろば、男のしもべ、女のしもべ、雌ろば、らくだを得た。
17 しかし主は、アブラムの妻サライのゆえに、ファラオとその家をひどい災いで打たれた。
18 ファラオはアブラムを呼び寄せて言った。「あなたは私に何ということをしたのか。なぜ彼女があなたの妻であると私に言わなかったのか。
19 なぜあなたは『彼女は私の妹です』と言ったのか。そのために、私は彼女を妻として迎えてしまった。さあ今、あなたの妻を連れて行け。立ち去れ。」
20 ファラオはアブラムについて部下たちに命じ、彼らはアブラムを、彼の妻と彼のすべての持ち物とともに送り出した。

13

1 アブラムは、妻と、すべての持ち物、そしてロトと一緒に、エジプトを出てネゲブ地方へ上って行った。
2 アブラムは家畜、銀、金を非常に多く持ち、たいへん豊かであった。
3 彼は旅を続けて、ネゲブからベテルへ向かい、初めに天幕を張っていたベテルとアイの間の場所へ行った。
4 そこは、彼が以前に築いた祭壇の場所であった。そこでアブラムは主の御名を呼び求めた。
5 アブラムと一緒に行ったロトもまた、羊の群れ、牛の群れ、天幕を持っていた。
6 その地は、彼らが一緒に住むには十分ではなかった。彼らの持ち物が多すぎて、一緒に住むことができなかったからである。
7 アブラムの家畜の牧者たちと、ロトの家畜の牧者たちの間に争いが起こった。その当時、カナン人とペリジ人がその地に住んでいた。
8 アブラムはロトに言った。「どうか、私とあなたの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちの間に、争いがないようにしよう。私たちは親族なのだから。

---

* **12:7 12:7** または「種」。 † **12:8 12:8** ここで「主」と訳されているヘブライ語は、神の固有名יהוה」」（ヤハウ

9 全地があなたの前にあるではないか。どうか、私から別れてほしい。あなたが左へ行くなら、私は右へ行こう。あなたが右へ行くなら、私は左へ行こう。」
10 ロトが目を上げてヨルダンの低地一帯を見渡すと、ツォアルに至るまで、どこもよく潤っていた。それは主がソドムとゴモラを滅ぼされる前のことで、主の園のように、またエジプトの地のようであった。
11 そこでロトは、ヨルダンの低地一帯を自分のために選び取った。ロトは東へ旅立ち、彼らは互いに別れた。
12 アブラムはカナンの地に住み、ロトは低地の町々に住んで、ソドムの近くまで天幕を張った。
13 さて、ソドムの人々は主に対して極めて邪悪な罪人であった。
14 ロトが別れて行った後、主はアブラムに言われた。「さあ、目を上げて、あなたのいる場所から北、南、東、西を見渡しなさい。
15 あなたが見渡しているこのすべての地を、わたしはあなたとあなたの子孫に永遠に与える。
16 わたしはあなたの子孫を地のちりのようにする。もし人が地のちりを数えることができるなら、あなたの子孫も数えることができるだろう。
17 さあ、立って、その地を縦と横に歩き回りなさい。わたしはそれをあなたに与えるからだ。」
18 アブラムは天幕を移し、ヘブロンにあるマムレの樫の木々のところに来て住んだ。そしてそこに、主のための祭壇を築いた。

14

1 シンアルの王アムラフェル、エルラサルの王アリオク、エラムの王ケドルラオメル、ゴイムの王ティダルの時代に、
2 これらの王たちは、ソドムの王ベラ、ゴモラの王ビルシャ、アデマの王シナブ、ツェボイムの王シェメベル、そしてベラ、すなわちツォアルの王と戦った。
3 これらの王たちは皆、シディムの谷、すなわち塩の海に集まった。
4 彼らは十二年の間ケドルラオメルに仕えていたが、十三年目に反逆した。
5 十四年目に、ケドルラオメルと彼に味方した王たちが来て、アシュテロテ・カルナイムでレファイム人を、ハムでズジ人を、シャベ・キルヤタイムでエミム人を、
6 セイルの山地でホリ人を打ち、荒野の近くにあるエル・パランまで進んだ。
7 彼らは引き返してエン・ミシュパト、すなわちカデシュに来て、アマレク人の全土と、ハツァツォン・タマルに住むアモリ人を打った。
8 そこでソドムの王、ゴモラの王、アデマの王、ツェボイムの王、ベラ、すなわちツォアルの王は出て行き、シディムの谷で陣を敷き、彼らに立ち向かった。
9 すなわち、エラムの王ケドルラオメル、ゴイムの王ティダル、シンアルの王アムラフェル、エルラサルの王アリオクという四人の王が、五人の王と戦った。
10 さて、シディムの谷には瀝青の穴がたくさんあった。ソドムとゴモラの王たちは逃げてそこに落ち、残りの者たちは山へ逃げた。
11 敵はソドムとゴモラのすべての財産と、すべての食料を奪って去った。
12 彼らはまた、ソドムに住んでいたアブラムの親族ロトとその財産を奪って去った。
13 逃れて来た一人の人が、ヘブライ人アブラムにこのことを告げた。その時、アブラムはアモリ人マムレの樫の木々のそばに住んでいた。マムレはエシュコルとアネルの兄弟であり、彼らはアブラムの同盟者であった。

14 アブラムは自分の親族が捕らえられたことを聞くと、自分の家で生まれた三百十八人の訓練された者たちを率いて、ダンまで追跡した。
15 夜になると、彼はしもべたちを分けて敵を襲い、彼らを打ち、ダマスコの北にあるホバまで追撃した。
16 彼はすべての財産を取り戻し、親族のロトとその財産、また女たちや人々も取り戻した。
17 アブラムがケドルラオメルと、彼に味方した王たちを打ち負かして帰って来たとき、ソドムの王はシャベの谷、すなわち王の谷まで彼を出迎えた。
18 サレムの王メルキゼデクはパンとぶどう酒を持って来た。彼はいと高き神の祭司であった。
19 彼はアブラムを祝福して言った。「天と地の所有者であるいと高き神に、アブラムが祝福されるように。
20 あなたの敵をあなたの手に渡された、いと高き神がほめたたえられるように。」
アブラムはすべての物の十分の一を彼に与えた。
21 ソドムの王はアブラムに言った。「人々は私に返し、財産はあなたのものとして取ってください。」
22 アブラムはソドムの王に言った。「私は、いと高き神、天と地の所有者である主に、手を上げて誓いました。
23 あなたのものからは、糸一本も、サンダルのひも一本も取りません。『私がアブラムを富ませた』とあなたが言うことのないようにするためです。
24 ただ、若者たちが食べたものと、私と一緒に行った人々、すなわちアネル、エシュコル、マムレの分け前は別です。彼らにはその分け前を取らせてください。」

15

1 これらのことの後、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。「恐れてはならない、アブラムよ。わたしはあなたの盾であり、あなたの非常に大きな報いである。」
2 アブラムは言った。「主なる神* よ、私に何をくださるというのですか。私には子どもがなく、私の家を継ぐ者はダマスコのエリエゼルです。」
3 アブラムは言った。「見よ、あなたは私に子どもを与えてくださいませんでした。見よ、私の家で生まれた者が私の跡継ぎとなるのです。」
4 見よ、主の言葉が彼に臨んだ。「その男はあなたの跡継ぎとはならない。あなた自身から生まれ出る者が、あなたの跡継ぎとなる。」
5 主は彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を仰いで、星を数えなさい。もし数えることができるなら。」そして彼に言われた。「あなたの子孫もそのようになる。」
6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義とみなされた。
7 また彼に言われた。「わたしは、この地をあなたに与えて受け継がせるため、あなたをカルデアのウルから導き出した主である。」
8 アブラムは言った。「主なる神よ、私がそれを受け継ぐことを、どのようにして知ることができるでしょうか。」
9 主は彼に言われた。「三歳の雌牛、三歳の雌山羊、三歳の雄羊、山鳩、そして家鳩のひなを、わたしのところに持って来なさい。」
10 彼はこれらすべてを持って来て、真ん中から二つに切り裂き、それぞれの半分を互いに向かい合わせて置いた。しかし、鳥は切り裂かなかった。
11 猛禽が死肉の上に降りて来たが、アブラムはそれらを追い払った。
12 日が沈みかけたころ、深い眠りがアブラムに下った。すると見よ、恐怖と大きな闇が彼を襲った。

* **15:2 15:2**「主」と訳されている語は、ヘブライ語「אֲדֹנָי」（アドナイ）で、「主人、主」を意味する。

13 主はアブラムに言われた。「あなたは、このことを確かに知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものではない国で寄留者となり、その国の人々に仕える。彼らは四百年の間、あなたの子孫を苦しめる。
14 しかし、彼らが仕えるその国民を、わたしは裁く。その後、彼らは大きな財産を持って出て来る。
15 あなた自身は、平安のうちにあなたの先祖のところへ行き、長寿を全うして葬られる。
16 そして四代目に、彼らはここに戻って来る。アモリ人の罪がまだ満ちていないからである。」
17 日が沈んで暗くなったとき、見よ、煙を吐く炉と燃えるたいまつが、これらの切り裂かれた動物の間を通り過ぎた。
18 その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「わたしはあなたの子孫に、エジプトの川からあの大河、ユーフラテス川までのこの地を与えた。
19 すなわち、ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、
20 ヘト人、ペリジ人、レファイム人、
21 アモリ人、カナン人、ギルガシ人、そしてエブス人の地である。」

16

1 アブラムの妻サライは、彼に子どもを産まなかった。彼女にはハガルという名のエジプト人の女のしもべがいた。
2 サライはアブラムに言った。「見よ、主は私に子を産ませてくださいません。どうか、私のしもべのところに入ってください。彼女によって、私も子を得られるかもしれません。」アブラムはサライの言うことを聞いた。
3 アブラムがカナンの地に十年住んだ後、アブラムの妻サライは、エジプト人のしもべハガルを連れて来て、夫アブラムの妻として彼に与えた。
4 アブラムがハガルのところに入ると、彼女は身ごもった。彼女は自分が身ごもったのを知ると、女主人を見下すようになった。
5 サライはアブラムに言った。「私が受けている不当な扱いは、あなたの責任です。私は自分のしもべをあなたに与えました。しかし、彼女は自分が身ごもったのを知って、私を見下しています。主が私とあなたの間を裁かれますように。」
6 アブラムはサライに言った。「見よ、あなたのしもべはあなたの手の中にある。あなたの目に良いと思うように、彼女を扱いなさい。」サライが彼女を厳しく扱ったので、彼女はサライのもとから逃げた。
7 主の使いは、荒野の泉のほとり、シュルへ行く道にある泉のほとりで彼女を見つけた。
8 彼は言った。「サライのしもべハガルよ、あなたはどこから来たのか。そして、どこへ行くのか。」
彼女は言った。「私は女主人サライのもとから逃げているところです。」
9 主の使いは彼女に言った。「あなたの女主人のもとへ帰り、彼女の手の下に身を低くしなさい。」
10 主の使いは彼女に言った。「わたしはあなたの子孫を大いに増し加える。彼らは多すぎて数えきれないほどになる。」
11 主の使いは彼女に言った。「見よ、あなたは身ごもっており、男の子を産む。あなたはその子をイシュマエルと名付けなさい。主があなたの苦しみを聞き入れられたからである。
12 彼は野ろばのような人になる。彼の手はすべての人に向かい、すべての人の手も彼に向かう。彼はすべての兄弟たちと対立して住むようになる。」
13 彼女は、自分に語りかけた主の名を「あなたは私を見てくださる神です」と呼んだ。彼女が「私を見てくださる方を見た後も、なお私は生きているのだろうか」と言ったからである。

14 それゆえ、その井戸はベエル・ラハイ・ロイ*
と呼ばれた。見よ、それはカデシュとベレドの間にある。
15 ハガルはアブラムに男の子を産んだ。アブラムはハガルが産んだ自分の息子の名をイシュマエルと呼んだ。
16 ハガルがアブラムにイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった。

17

1 アブラムが九十九歳になったとき、主がアブラムに現れて言われた。「わたしは全能の神である。わたしの前を歩み、非の打ち所のない者でありなさい。
2 わたしは、わたしとあなたとの間に契約を立て、あなたを大いに増し加える。」
3 アブラムはひれ伏した。神は彼に語って言われた。
4 「見よ、わたしの契約はあなたと共にある。あなたは多くの国民の父となる。
5 あなたの名は、もはやアブラムとは呼ばれない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしがあなたを多くの国民の父としたからである。
6 わたしはあなたを大いに実り豊かにする。あなたから国民を起こし、あなたから王たちが出る。
7 わたしは、わたしとあなた、またあなたの後に続くあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として、わたしの契約を立てる。それは、わたしがあなたと、あなたの後に続くあなたの子孫の神となるためである。
8 わたしは、あなたが寄留している地、すなわちカナンの全地を、永遠の所有地としてあなたとあなたの後に続くあなたの子孫に与える。わたしは彼らの神となる。」
9 神はアブラハムに言われた。「あなたについては、あなたとあなたの後に続くあなたの子孫は、代々にわたってわたしの契約を守らなければならない。
10 これは、わたしとあなたがた、またあなたの後に続く子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなければならない。
11 あなたがたは包皮の肉に割礼を受けなさい。それが、わたしとあなたがたとの間の契約のしるしとなる。
12 代々にわたって、あなたがたの中のすべての男子は、生まれて八日目に割礼を受けなければならない。家で生まれた者も、あなたの子孫ではない外国人から金で買われた者も皆、割礼を受けなければならない。
13 あなたの家で生まれた者も、あなたの金で買われた者も、必ず割礼を受けなければならない。わたしの契約は、永遠の契約として、あなたがたの肉にある。
14 包皮の肉に割礼を受けていない無割礼の男子は、その民から断ち切られる。彼はわたしの契約を破ったからである。」
15 神はアブラハムに言われた。「あなたの妻サライについては、その名をサライと呼んではならない。彼女の名はサラとなる。
16 わたしは彼女を祝福し、彼女によってあなたに男の子を与える。そうだ、わたしは彼女を祝福し、彼女は国民の母となる。彼女から諸民の王たちが出る。」
17 そこでアブラハムはひれ伏して笑い、心の中で言った。「百歳の者に子どもが生まれるだろうか。九十歳のサラが子を産むだろうか。」
18 アブラハムは神に言った。「どうか、イシュマエルがあなたの御前で生きられますように。」

---

* **16:14 16:14** ベエル・ラハイ・ロイは「生きておられ、私を見ておられる方の井戸」を意味する。

19 神は言われた。「いや、あなたの妻サラがあなたに男の子を産む。あなた
はその名をイサク* と名付けなさい。わたしは彼と、彼の後に続く彼の子孫の
ために、永遠の契約としてわたしの契約を立てる。
20 イシュマエルについても、わたしはあなたの願いを聞き入れた。見よ、わ
たしは彼を祝福し、彼に子を多く与え、彼を大いに増し加える。彼は十二
人の君主の父となり、わたしは彼を大いなる国民とする。
21 しかし、わたしは来年のこの定めの時に、サラがあなたに産むイサク
と、わたしの契約を立てる。」
22 神はアブラハムと語り終えられると、彼を離れて上って行かれた。
23 アブラハムは息子イシュマエルと、家で生まれたすべての者、金で買われ
たすべての者、すなわちアブラハムの家のすべての男子を連れて行き、
神が彼に言われたとおり、その同じ日に彼らの包皮の肉に割礼を施した。
24 アブラハムが包皮の肉に割礼を受けたとき、彼は九十九歳であった。
25 息子イシュマエルが包皮の肉に割礼を受けたとき、彼は十三歳であった。
26 その同じ日に、アブラハムと息子イシュマエルは割礼を受けた。
27 彼の家のすべての男子、家で生まれた者、外国人から金で買われた者も、
彼と共に割礼を受けた。

18

1 日の暑いころ、アブラハムが天幕の入り口に座っていると、マムレ
の樫の木々のそばで、主が彼に現れた。
2 彼が目を上げて見ると、三人の人が彼の近くに立っていた。彼らを見る
と、アブラハムは天幕の入り口から走って行って彼らを出迎え、地にひれ伏し
て、
3 言った。「ご主人様。もし私があなたの目に恵みを得ているなら、どう
か、しもべのところを通り過ぎて行かないでください。
4 少しの水を持って来させますから、あなたがたは足を洗い、木の下で休ん
でください。
5 私は少しのパンを持って来ます。心を休めてから、旅を続けてくださ
い。あなたがたが、しもべのところにお立ち寄りになったのですから。」
彼らは言った。「そうしてください。あなたの言うとおりにしてくださ
い。」
6 アブラハムは急いで天幕のサラのところへ行き、「早く、上等の小麦
粉を三セア* 用意してこね、パン菓子を作ってくれ」と言った。
7 アブラハムは牛の群れへ走って行き、柔らかくて良い子牛を取り、しもべ
に渡した。しもべは急いでそれを調理した。
8 アブラハムは凝乳と乳と、調理した子牛を持って来て、彼らの前に置い
た。彼が木の下で彼らのそばに立っている間に、彼らは食べた。
9 彼らはアブラハムに尋ねた。「あなたの妻サラはどこにいますか。」
彼は言った。「あそこ、天幕の中です。」
10 その一人が言った。「来年の今ごろ、わたしは必ずあなたのところに戻っ
て来る。見よ、あなたの妻サラには男の子が生まれているだろう。」
サラは彼の後ろにある天幕の入り口で聞いていた。
11 アブラハムとサラは年を取り、非常に高齢であった。サラはすで
に子を産む年齢を過ぎていた。
12 サラは心の中で笑って言った。「年老いた私に、このような喜びがあるだ
ろうか。私の主人も年老いているのに。」
13 主はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑って、『年老いた私が、本
当に子を産めるだろうか』と言ったのか。

* **17:19** **17:19** イサクは「彼は笑う」を意味する。 * **18:6** **18:6** 1セアは約7リットル、または1.9ガロン、あるいは0.8ペックである。

14 主にとって不可能なことがあるだろうか。定められた時に、来年の今ごろ、わたしはあなたのところに戻って来る。そのとき、サラには男の子が生まれている。」
15 サラは恐ろしくなり、「私は笑っていません」と否定した。
彼は言った。「いや、あなたは笑った。」
16 その人たちはそこから立ち上がり、ソドムの方を見下ろした。アブラハムは彼らを見送るために、一緒に行った。
17 主は言われた。「わたしがしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか。
18 アブラハムは必ず大いなる強い国民となり、地上のすべての国々は彼によって祝福されるというのに。
19 わたしが彼を選んだのは、彼が後の子どもたちと家族に命じて、主の道を守らせ、義と公義を行わせるためである。それは、主がアブラハムについて語ったことを、彼の上に実現するためである。」
20 主は言われた。「ソドムとゴモラへの叫びは大きく、彼らの罪は非常に重い。
21 わたしは今から下って行き、わたしに届いた叫びのとおりに彼らが悪を行っているかどうかを見る。もしそうでないなら、わたしはそれを知るだろう。」
22 その人たちはそこから向きを変えてソドムへ向かったが、アブラハムはなお主の前に立っていた。
23 アブラハムは近づいて言った。「あなたは本当に、義人を悪人と一緒に滅ぼされるのですか。
24 もしその町に五十人の義人がいたらどうでしょうか。その中にいる五十人の義人のために、その場所を赦さず、滅ぼされるのですか。
25 義人を悪人と一緒に殺し、義人を悪人と同じように扱うようなこと、そのようなことをあなたがなさるはずがありません。そんなことはあり得ません。全地の裁き主は、公義を行われるべきではありませんか。」
26 主は言われた。「もしソドムの町の中に五十人の義人が見つかったら、彼らのためにその場所のすべてを赦そう。」
27 アブラハムは答えて言った。「私はちりや灰にすぎませんが、あえて主に申し上げます。
28 もし五十人の義人に五人足りなかったらどうでしょうか。その五人足りないために、町のすべてを滅ぼされるのですか。」
彼は言われた。「もしそこに四十五人見つかったら、わたしは滅ぼさない。」
29 アブラハムは再び神に語りかけて言った。「もしそこに四十人見つかったらどうでしょうか。」
彼は言われた。「その四十人のために、わたしはそれをしない。」
30 彼は言った。「主よ、どうかお怒りにならないでください。私は申し上げます。もしそこに三十人見つかったらどうでしょうか。」
彼は言われた。「もしそこに三十人見つかったら、わたしはそれをしない。」
31 彼は言った。「見よ、私はあえて主に申し上げます。もしそこに二十人見つかったらどうでしょうか。」
彼は言われた。「その二十人のために、わたしは滅ぼさない。」
32 彼は言った。「主よ、どうかお怒りにならないでください。私はあと一度だけ申し上げます。もしそこに十人見つかったらどうでしょうか。」
彼は言われた。「その十人のために、わたしは滅ぼさない。」
33 主はアブラハムと語り終えると、去って行かれた。アブラハムも自分の場所へ帰った。

19

1 夕暮れに二人の御使いがソドムに着いた。ロトはソドムの門に座っていた。ロトは彼らを見ると、立ち上がって出迎え、地に顔を伏せて拝し、
2 言った。「見よ、ご主人様。どうか、しもべの家に立ち寄って、一晩泊まり、足を洗ってください。そして、朝早く起きて旅を続けてください。」
彼らは言った。「いや、私たちは広場で夜を過ごします。」
3 ロトが強く勧めたので、彼らは彼と共に家に入り、彼の家に来た。彼は彼らのために宴会を催し、種なしパンを焼いた。彼らはそれを食べた。
4 彼らがまだ寝ないうちに、その町の男たち、ソドムの男たちが、若者から老人まで、町の隅々からやって来て、家を囲んだ。
5 彼らはロトを呼んで言った。「今夜、お前のところに来た男たちはどこにいるのか。彼らを私たちのところに引き出せ。彼らと関係を持つためだ。」
6 ロトは戸口にいる彼らのところに出て行き、後ろの戸を閉めて、
7 言った。「兄弟たち、どうかそんな悪事はしないでくれ。
8 見よ、私にはまだ男を知らない二人の娘がいる。どうか彼女たちをあなたがたのところに引き出させてくれ。好きなようにしてくれてよい。ただ、あの男たちには何もしないでくれ。彼らは私の屋根の陰に入って来たのだから。」
9 彼らは言った。「退け！」さらに言った。「この男は寄留者として来たのに、裁判官になろうとしている。今度は彼らよりもお前をひどい目に遭わせてやる。」彼らはロトというこの男に激しく詰め寄り、戸を壊そうと近づいた。
10 しかし、あの男たちが手を伸ばしてロトを家の中に引き入れ、戸を閉めた。
11 彼らは家の戸口にいる男たちの目を、小さい者から大きい者までくらませたので、彼らは戸口を見つけようとして疲れ果てた。
12 男たちはロトに言った。「ほかにあなたの身内の者がここにいるか。あなたの婿たち、あなたの息子たち、娘たち、またこの町にいるあなたの身内の者をみな、ここから連れ出しなさい。
13 私たちはこの場所を滅ぼそうとしている。彼らに対する叫びが主の御前で大きくなったので、主はここを滅ぼすために私たちを遣わされたからだ。」
14 ロトは出て行き、娘たちをめとることになっていた婿たちに語って言った。「起きて、この場所から出なさい。主がこの町を滅ぼされるからだ。」
しかし、婿たちには彼が冗談を言っているように見えた。
15 朝になったとき、御使いたちはロトを急がせて言った。「立って、ここにいるあなたの妻と二人の娘を連れて行きなさい。さもないと、あなたはこの町の罪のために滅ぼされてしまう。」
16 しかし彼はためらっていた。主が彼にあわれみをかけられたので、男たちは彼の手と、その妻の手と、二人の娘の手をつかみ、彼らを連れ出して町の外に置いた。
17 彼らを外に連れ出したとき、そのうちの一人が言った。「命がけで逃げなさい。後ろを振り返ってはならない。この低地のどこにもとどまってはならない。山へ逃げなさい。さもないと滅ぼされてしまう。」
18 ロトは彼らに言った。「ご主人様、どうかそんなことがありませんように。
19 見よ、しもべはあなたの目に恵みを得ました。あなたは私の命を救って、私に大きな慈しみを示してくださいました。私は山まで逃げることができません。災いが私に追いつき、死んでしまうかもしれません。
20 見よ、あそこにある町は逃げるのに近く、小さな町です。どうか、そこへ逃げさせてください。小さい町ではありませんか。そうすれば、私の魂は生き延びるでしょう。」

21 彼はロトに言った。「見よ、わたしはこのことでもあなたの願い
を聞き入れよう。あなたが語ったその町は滅ぼさない。
22 急いでそこへ逃げなさい。あなたがそこに着くまでは、わたしは何もでき
ないからだ。」それゆえ、その町の名はツォアル* と呼ばれた。
23 ロトがツォアルに着いたとき、太陽は地の上に昇っていた。
24 そのとき、主は、主のもとから、天からソドムとゴモラの上に硫
黄と火を降らせた。
25 主はこれらの町々、低地のすべて、町々のすべての住民、また地の草
木を滅ぼされた。
26 しかし、ロトの妻は彼の後ろで振り返ったため、塩の柱になった。
27 アブラハムは朝早く起き、主の前に立っていた場所へ行った。
28 彼がソドムとゴモラ、および低地の全土を見下ろすと、見よ、かまど
の煙のように、その地の煙が立ち上っていた。
29 神がその低地の町々を滅ぼされたとき、神はアブラハムを心に留められ
た。そして、ロトが住んでいた町々を滅ぼされたとき、神はその滅びの中から
ロトを救い出された。
30 ロトはツォアルを出て上って行き、二人の娘と一緒に山に住んだ。彼はツ
ォアルに住むのを恐れたからである。彼は二人の娘と一緒に洞穴に住んだ。
31 姉は妹に言った。「私たちの父は年をとり、この地には、世の習いに従っ
て私たちのところに来てくれる男の人はいません。
32 さあ、父にぶどう酒を飲ませて、父と一緒に寝ましょう。そうして父によ
って子孫を残しましょう。」
33 彼女たちはその夜、父にぶどう酒を飲ませた。そして姉が入り、父と一
緒に寝た。父は娘が横になったのも、起き上がったのも知らなかった。
34 翌日、姉は妹に言った。「見よ、私は昨夜、父と寝ました。今夜も父にぶ
どう酒を飲ませましょう。そしてあなたが入って父と寝て、父によって子
孫を残しましょう。」
35 彼女たちはその夜も父にぶどう酒を飲ませた。妹が起きて父と一
緒に寝た。父は娘が横になったのも、起き上がったのも知らなかった。
36 こうしてロトの二人の娘は、父によって身ごもった。
37 姉は男の子を産み、その名をモアブと名付けた。彼は今日のモア
ブ人の父である。
38 妹も男の子を産み、その名をベン・アミと呼んだ。彼は今日のアンモ
ン人の父である。

20

1 アブラハムはそこからネゲブ地方へ向かって旅をし、カデシュとシュル
の間に住んだ。彼はゲラルに寄留した。
2 アブラハムは妻サラのことを、「彼女は私の妹です」と言った。ゲラル
の王アビメレクは人を遣わし、サラを召し入れた。
3 しかし夜の夢の中で、神はアビメレクのところに来て言われた。
「見よ、あなたが召し入れた女のゆえに、あなたは死ぬ。彼女は夫のある女だ
からである。」
4 アビメレクはまだ彼女に近づいていなかった。彼は言った。「主よ、あな
たは正しい民までも殺されるのですか。
5 彼自身が私に『彼女は私の妹です』と言ったではありませんか。彼女もま
た『彼は私の兄です』と言いました。私は全き心と潔白な手でこのことをしま
した。」
6 神は夢の中で彼に言われた。「そうだ。あなたが全き心でこのことをした
のを、わたしも知っている。わたしもまた、あなたがわたしに対して罪を犯さ

* **19:22 19:22** ツォアルは「小さい」を意味する。

ないように、あなたを引き止めていた。それゆえ、わたしはあなたが彼女に触れるのを許さなかった。
7 だから今、あの男の妻を返しなさい。彼は預言者であり、あなたのために祈るだろう。そうすればあなたは生きる。もし返さないなら、あなたも、あなたに属するすべての者も必ず死ぬことを、確かに知っておきなさい。」
8 アビメレクは朝早く起き、すべてのしもべたちを呼び寄せ、これらのことをすべて彼らに聞かせた。男たちは非常に恐れた。
9 それからアビメレクはアブラハムを呼んで言った。「あなたは私たちに何ということをしたのか。私があなたに対してどんな罪を犯したというので、私と私の王国にこのような大きな罪をもたらそうとしたのか。あなたは、してはならないことを私にしたのだ。」
10 アビメレクはさらにアブラハムに言った。「あなたは何を考えて、このようなことをしたのか。」
11 アブラハムは言った。「きっとこの場所には神への恐れがなく、人々は私の妻のゆえに私を殺すだろうと思ったからです。
12 それに、彼女は本当に私の妹なのです。私の父の娘ですが、母の娘ではありません。そして、彼女は私の妻になりました。
13 神が私を父の家からさすらいの旅に出させたとき、私は彼女に言いました。『これが、あなたが私に示すべき慈しみです。私たちがどこへ行っても、私について「彼は私の兄です」と言ってください。』」
14 アビメレクは羊、牛、男のしもべ、女のしもべを取ってアブラハムに与え、彼の妻サラを彼に返した。
15 アビメレクは言った。「見よ、私の地はあなたの前にある。あなたの好きな所に住みなさい。」
16 彼はサラに言った。「見よ、私はあなたの兄に銀千枚を与えた。これは、あなたと一緒にいるすべての人の前で、あなたへの償いとなる。こうして、あなたはすべての人の前で潔白とされた。」
17 アブラハムは神に祈った。そこで神はアビメレクと、その妻と、女のしもべたちを癒やされたので、彼女たちは子どもを産むようになった。
18 主が、アブラハムの妻サラのゆえに、アビメレクの家のすべての胎を固く閉ざしておられたからである。

21

1 主は言われたとおりにサラを顧みられ、主は語られたとおりにサラになされた。
2 サラは身ごもり、神がアブラハムに告げられた定めの時に、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。
3 アブラハムは、自分に生まれた息子、サラが彼に産んだ息子をイサク* と名付けた。
4 アブラハムは、神が彼に命じられたとおり、息子イサクが生まれて八日目に割礼を施した。
5 息子イサクが生まれたとき、アブラハムは百歳であった。
6 サラは言った。「神は私を笑わせてくださいました。これを聞く者は皆、私と一緒に笑うでしょう。」
7 彼女はまた言った。「サラが子に乳を飲ませるようになると、誰がアブラハムに言えたでしょうか。しかし私は、彼が年老いてから男の子を産みました。」
8 その子は育ち、乳離れした。イサクが乳離れした日に、アブラハムは盛大な宴会を催した。

---

* **21:3 21:3** イサクは「彼は笑う」を意味する。

9 サラは、エジプト人ハガルがアブラハムに産んだ息子が、あざ笑っているのを見た。
10 それで彼女はアブラハムに言った。「この女のしもべとその息子を追い出してください。この女のしもべの息子は、私の息子イサクと一緒に跡継ぎになるべきではありません。」
11 自分の息子のことだったので、このことはアブラハムにとって非常につらかった。
12 神はアブラハムに言われた。「この少年とあなたの女のしもべのことで、つらく思ってはならない。サラがあなたに言うことはすべて、彼女の声に聞き従いなさい。イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるからである。
13 女のしもべの息子もまた、わたしは一つの国民とする。彼もあなたの子だからである。」
14 アブラハムは朝早く起き、パンと水の皮袋を取り、ハガルに与えて彼女の肩に載せ、少年も託して、彼女を送り出した。彼女は立ち去り、ベエル・シェバの荒野をさまよった。
15 皮袋の水が尽きると、彼女は少年を一本の灌木の下に置いた。
16 彼女は離れて行き、弓の届くほど離れたところに向かい合って座った。「少年が死ぬのを見たくない」と言ったからである。彼女は向かい合って座り、声を上げて泣いた。
17 神は少年の声を聞かれた。
神の使いは天からハガルを呼んで言った。「ハガルよ、どうしたのか。恐れてはならない。神は、あそこにいる少年の声を聞かれたからである。
18 立ち上がり、少年を起こして、あなたの手で彼をしっかり支えなさい。わたしは彼を大いなる国民とするからである。」
19 神が彼女の目を開かれたので、彼女は水の井戸を見た。彼女は行って皮袋に水を満たし、少年に飲ませた。
20 神は少年と共におられ、彼は成長した。彼は荒野に住み、弓を射る者となった。
21 彼はパランの荒野に住んだ。彼の母はエジプトの地から彼のために妻を迎えた。
22 そのころ、アビメレクとその軍の長フィコルはアブラハムに語って言った。「あなたがすることすべてに、神はあなたと共におられる。
23 だから今、ここで神にかけて私に誓ってほしい。私にも、私の子にも、私の子孫にも、決して偽りを行わないと。私があなたに示した慈しみに応じて、私と、あなたが寄留しているこの地に対して、あなたも行ってほしい。」
24 アブラハムは言った。「私は誓います。」
25 アブラハムは、アビメレクのしもべたちが力ずくで奪い取った水の井戸のことで、アビメレクに苦情を言った。
26 アビメレクは言った。「誰がそんなことをしたのか、私は知らない。あなたも私に告げず、私も今日まで聞いていなかった。」
27 アブラハムは羊と牛を取ってアビメレクに与え、二人は契約を結んだ。
28 アブラハムは羊の群れから、七匹の雌の小羊を別にして置いた。
29 アビメレクはアブラハムに言った。「あなたが別にして置いたこの七匹の雌の小羊は、どういう意味なのか。」
30 彼は言った。「この七匹の雌の小羊を私の手から受け取ってください。それが、私がこの井戸を掘ったことの証拠となるためです。」
31 それゆえ、彼はその場所をベエル・シェバ†と呼んだ。そこで二人が誓いを立てたからである。
32 こうして彼らはベエル・シェバで契約を結んだ。アビメレクと軍の長フィコルは立ち上がり、ペリシテ人の地へ帰って行った。

† **21:31 21:31** ベエル・シェバは「誓いの井戸」または「七の井戸」を意味し得る。

33 アブラハムはベエル・シェバに一本のぎょりゅうの木を植え、そこで永遠の神である主の御名を呼び求めた。
34 アブラハムはペリシテ人の地に寄留し、多くの日々を過ごした。

22

1 これらのことの後、神はアブラハムを試して、彼に言われた。「アブラハムよ。」
彼は言った。「はい、ここにおります。」
2 神は言われた。「あなたの息子、あなたの愛するひとり子イサクを連れて、モリヤの地へ行きなさい。わたしがあなたに告げる山の一つで、彼を全焼のささげ物としてささげなさい。」
3 アブラハムは朝早く起き、ろばに鞍を置き、二人の若者と息子イサクを連れて行った。彼は全焼のささげ物のための薪を割り、立ち上がって、神が彼に告げられた場所へ向かった。
4 三日目に、アブラハムは目を上げ、遠くにその場所を見た。
5 アブラハムは若者たちに言った。「ろばと一緒にここに留まっていなさい。私と少年はあそこへ行き、礼拝をしてから、あなたがたのところへ戻って来る。」
6 アブラハムは全焼のささげ物のための薪を取り、息子イサクに負わせた。彼は自分の手に火と刃物を持った。二人は一緒に歩いて行った。
7 イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん。」
彼は言った。「ここにいるよ、わが子よ。」
イサクは言った。「火と薪はありますが、全焼のささげ物のための小羊はどこにあるのですか。」
8 アブラハムは言った。「わが子よ、神ご自身が全焼のささげ物のための小羊を備えてくださる。」こうして、二人は一緒に歩いて行った。
9 彼らは神が彼に告げられた場所に着いた。アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛り、祭壇の上の薪の上に彼を置いた。
10 アブラハムは手を伸ばし、息子を屠るために刃物を取った。
11 主の使いは天から彼を呼んで言った。「アブラハム、アブラハム。」
彼は言った。「はい、ここにおります。」
12 御使いは言った。「少年に手を下してはならない。彼に何もしてはならない。あなたが神を恐れる者であることが、今わかったからだ。あなたは自分の息子、自分のひとり子を、わたしに惜しまなかった。」
13 アブラハムが目を上げて見ると、後ろに一匹の雄羊がいて、角を茂みに引っ掛けていた。アブラハムは行ってその雄羊を取り、息子の代わりに全焼のささげ物としてささげた。
14 アブラハムはその場所の名を「主は備えてくださる」*と呼んだ。今日に至るまで、「主の山に、備えがある」と言われている。
15 主の使いは再び天からアブラハムを呼んで、
16 言った。「主はこう言われる。『わたしは自分自身にかけて誓った。あなたがこのことを行い、自分の息子、自分のひとり子を惜しまなかったので、
17 わたしは必ずあなたを祝福し、あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように大いに増し加える。あなたの子孫は敵の門を手に入れる。
18 地上のすべての国々は、あなたの子孫によって祝福される。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。』」
19 こうしてアブラハムは若者たちのところに戻り、彼らは立ち上がって一緒にベエル・シェバへ行った。アブラハムはベエル・シェバに住んだ。
20 これらのことの後、アブラハムに知らせがあった。「見よ、ミルカもまた、あなたの兄弟ナホルに子どもたちを産みました。

* **22:14 22:14** または「主は見ておられる」。

21 長子ウツ、その弟ブズ、アラムの父であるケムエル、
22 ケセド、ハゾ、ピルダシュ、イデラフ、ベトエルです。」
23 ベトエルはリベカの父となった。これら八人を、ミルカはアブラハムの兄弟ナホルに産んだ。
24 レウマという名の彼のそばめもまた、テバ、ガハム、タハシュ、マアカを産んだ。

23

1 サラの生涯は百二十七年であった。これがサラの生きた年数である。
2 サラはカナンの地にあるキルヤト・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムはサラのために悼み、泣くためにやって来た。
3 アブラハムは亡き妻の前から立ち上がり、ヘトの人々に語って言った。
4 「私はあなたがたの間に住む寄留者であり、滞在者です。私の死者を目の前から葬ることができるように、あなたがたの間に、私のための墓地を所有地として譲ってください。」
5 ヘトの人々はアブラハムに答えて言った。
6 「ご主人様、私たちの言うことを聞いてください。あなたは私たちの間で、神に立てられた君主です。私たちの最も良い墓に、あなたの死者を葬ってください。あなたが死者を葬るために、自分の墓をあなたに差し出すことを拒む者は、私たちの中には誰もいません。」
7 アブラハムは立ち上がり、その地の人々、すなわちヘトの人々に向かってお辞儀をした。
8 彼は彼らに語って言った。「もしあなたがたが、私の死者を私の目の前から葬ることに同意してくださるなら、私の言うことを聞き、ツォハルの子エフロンに私のために頼んでください。
9 彼が所有している、彼の畑の端にあるマクペラの洞穴を私に譲ってくれるように。十分な代価で、あなたがたの間で、墓地の所有地として私に譲ってくれるように。」
10 その時、エフロンはヘトの人々の中に座っていた。ヘト人エフロンは、ヘトの人々、すなわち彼の町の門を出入りするすべての人々が聞いているところで、アブラハムに答えて言った。
11 「いいえ、ご主人様。私の言うことを聞いてください。その畑はあなたに差し上げます。その中にある洞穴もあなたに差し上げます。私の民の人々の前で、それをあなたに差し上げます。あなたの死者を葬ってください。」
12 アブラハムはその地の人々の前でお辞儀をした。
13 彼はその地の人々が聞いているところで、エフロンに語って言った。「どうか、あなたが許してくださるなら、私の言うことを聞いてください。私はその畑の代価を払います。私からそれを受け取ってください。そうして、私はあそこに私の死者を葬ります。」
14 エフロンはアブラハムに答えて言った。
15 「ご主人様、私の言うことを聞いてください。四百シェケル*の銀の土地が、私とあなたの間で何ほどのことでしょうか。あなたの死者を葬ってください。」
16 アブラハムはエフロンの言うことを聞いた。アブラハムは、ヘトの人々が聞いているところでエフロンが口にした銀、すなわち商人の間で通用する重さにしたがって、四百シェケルの銀を量り、エフロンに渡した。
17 こうして、マムレの前にあるマクペラにあったエフロンの畑、すなわちその畑とその中にあった洞穴、そしてその畑のすべての境界内にあるすべての木々は、

* **23:15 23:15** 1シェケルは約10グラム、すなわち約0.35オンスである。

18 ヘトの人々の前で、彼の町の門を出入りするすべての人々の前で、アブラハムの所有地として確定された。
19 その後、アブラハムはカナンの地にあるマムレ、すなわちヘブロンの前にあるマクペラの畑の洞穴に、妻サラを葬った。
20 その畑とそこにある洞穴は、ヘトの人々によって、墓地の所有地としてアブラハムのものとされた。

24

1 アブラハムは年をとり、非常に高齢であった。主はすべてのことにおいてアブラハムを祝福しておられた。
2 アブラハムは、自分のすべての持ち物を管理している家の最年長のしもべに言った。「どうか、あなたの手を私のももの下に入れてくれ。
3 私は天の神であり地の神である主にかけて、あなたに誓わせる。私が一緒に住んでいるカナン人の娘たちの中から、私の息子のために妻をめとってはならない。
4 あなたは私の故郷、私の親族のところへ行き、私の息子イサクのために妻をめとりなさい。」
5 しもべは彼に言った。「もし、その女の人が私についてこの地に来ることを望まなかったら、どうしましょうか。私はあなたの息子を、あなたが出て来られたその地に連れ戻さなければなりませんか。」
6 アブラハムは彼に言った。「決して私の息子をあそこへ連れ戻してはならない。
7 私を父の家から、私の生まれた地から連れ出し、私に語り、私に誓って『あなたの子孫に、わたしはこの地を与える』と言われた天の神、主が、ご自身の御使いをあなたの前に遣わしてくださる。あなたはそこから、私の息子のために妻をめとりなさい。
8 もしその女の人があなたについて来ることを望まないなら、あなたはこの私への誓いから解かれる。ただ、私の息子をあそこへ連れ戻してはならない。」
9 しもべは主人アブラハムのももの下に手を入れ、このことについて彼に誓った。
10 しもべは主人のらくだの中から十頭のらくだを取り、主人のさまざまな良い品々を携えて出発した。彼は立ち上がり、メソポタミアへ、ナホルの町へ向かった。
11 彼は夕暮れ時、女たちが水を汲みに出て来るころに、町の外の水の井戸のそばに、らくだを伏させた。
12 彼は言った。「私の主人アブラハムの神、主よ。どうか今日、私のために事を成し遂げ、私の主人アブラハムに慈しみを示してください。
13 見よ、私は水の泉のそばに立っています。この町の人々の娘たちが水を汲みに出て来ます。
14 私が『どうか、あなたの水差しを傾けて、私に飲ませてください』と言ったとき、その娘が『お飲みください。あなたのらくだにも水を飲ませましょう』と答えたなら、その人こそ、あなたがあなたのしもべイサクのために定めておられた女性としてください。それによって、あなたが私の主人に慈しみを示されたことを、私は知るでしょう。」
15 彼がまだ言い終わらないうちに、見よ、リベカが水差しを肩に載せて出て来た。彼女はアブラハムの兄弟ナホルの妻ミルカが産んだベトエルの娘であった。
16 その若い女は非常に美しく、処女で、男を知らなかった。彼女は泉に下りて行き、水差しを満たして上がって来た。
17 しもべは走って彼女を迎えに行き、言った。「どうか、あなたの水差しから少し水を飲ませてください。」

18 彼女は言った。「お飲みください、ご主人様。」彼女は急いで水差しを手に下ろし、彼に飲ませた。
19 彼に水を飲ませ終わると、彼女は言った。「あなたのらくだのためにも、みな飲み終わるまで水を汲みましょう。」
20 彼女は急いで水差しの水を水桶に空け、再び水を汲むために井戸へ走って行き、彼のすべてのらくだのために水を汲んだ。
21 その人は、主が自分の旅を成功させてくださったかどうかを知ろうとして、黙って彼女を見つめていた。
22 らくだが水を飲み終わると、その人は重さ一ベカ* の金の鼻輪と、彼女の手首のために重さ十シェケルの二つの金の腕輪を取り出して、
23 言った。「あなたは誰の娘ですか。私に教えてください。あなたの父の家には、私たちが泊まる場所がありますか。」
24 彼女は彼に言った。「私は、ミルカがナホルに産んだ息子ベトエルの娘です。」
25 彼女はさらに彼に言った。「私たちのところには、わらも飼葉もたくさんあり、泊まる場所もあります。」
26 その人は頭を下げて、主を礼拝した。
27 彼は言った。「私の主人アブラハムの神、主がほめたたえられますように。主は私の主人に対する慈しみと真実をお捨てになりませんでした。主はこの旅で、私を主人の兄弟の家へと導いてくださいました。」
28 若い女は走って行き、これらのことを母の家の者たちに告げた。
29 リベカにはラバンという名の兄がいた。ラバンは外にいるその人のところへ、泉へ向かって走って行った。
30 彼は妹の手に鼻輪と腕輪があるのを見、また妹のリベカが「あの人は私にこのように言いました」と語るのを聞いて、その人のところへ行った。見よ、その人は泉のそばで、らくだの傍らに立っていた。
31 彼は言った。「お入りください、主に祝福された方よ。なぜ外に立っておられるのですか。私は家を整え、らくだの場所も用意しました。」
32 その人は家に入った。ラバンはらくだの荷を解き、らくだにわらと飼葉を与え、その人と、彼と一緒にいる人々の足を洗うための水を与えた。
33 彼の前に食事が置かれたが、彼は言った。「私が自分の用件を話すまでは、いただきません。」
ラバンは言った。「話してください。」
34 彼は言った。「私はアブラハムのしもべです。
35 主は私の主人を大いに祝福され、主人は大いなる者となりました。主は主人に羊と牛、銀と金、男のしもべと女のしもべ、らくだとろばをお与えになりました。
36 私の主人の妻サラは、年老いてから私の主人に男の子を産みました。主人は彼に自分のすべての持ち物を与えました。
37 私の主人は私に誓わせて言いました。『私がその地に住んでいるカナン人の娘たちの中から、私の息子のために妻をめとってはならない。
38 むしろ、あなたは私の父の家、私の親族のところへ行き、私の息子のために妻をめとりなさい。』
39 私は主人に言いました。『もし、その女の人が私について来なかったらどうしましょうか。』
40 主人は私に言いました。『私がその御前を歩んでいる主が、御使いをあなたと一緒に遣わし、あなたの旅を成功させてくださる。あなたは私の親族、私の父の家から、私の息子のために妻をめとるだろう。
41 あなたが私の親族のところに行けば、私への誓いから解かれる。もし彼らがあなたにその娘を与えないとしても、あなたは私への誓いから解かれる。』

* **24:22 24:22** 1ベカは半シェケルで、約5グラム、すなわち約0.18オンスである。

42 私は今日、泉のところに来て、こう言いました。『私の主人アブラハムの神、主よ。どうか今、私が進んでいる旅を成功させてください。
43 見よ、私は水の泉のそばに立っています。水を汲みに出て来る若い女に、私が「どうか、あなたの水差しから少し水を飲ませてください」と言い、
44 彼女が私に「お飲みください。あなたのらくだのためにも水を汲みましょう」と言ったなら、その人こそ、主が私の主人の息子のために定めておられた女性としてください。』
45 私が心の中で言い終わらないうちに、見よ、リベカが水差しを肩に載せて出て来ました。彼女は泉に下りて行き、水を汲みました。私は彼女に『どうか、私に飲ませてください』と言いました。
46 彼女は急いで肩から水差しを下ろし、『お飲みください。あなたのらくだにも飲ませましょう』と言いました。それで私は飲み、彼女はらくだにも飲ませてくれました。
47 私は彼女に尋ねて、『あなたは誰の娘ですか』と言いました。彼女は『私はミルカがナホルに産んだ息子ベトエルの娘です』と答えました。そこで私は彼女の鼻に輪を付け、彼女の手首に腕輪を付けました。
48 私は頭を下げて主を礼拝し、私の主人アブラハムの神、主をほめたたえました。主は、主人の兄弟の娘をその息子のためにめとるよう、私を正しい道に導いてくださいました。
49 今、もしあなたがたが私の主人に慈しみと真実をもって接してくださるなら、私にそう告げてください。もしそうでないなら、私にそう告げてください。私が右か左に向かえるようにするためです。」
50 すると、ラバンとベトエルは答えて言った。「このことは主から出たことですから、私たちはあなたに善悪を言うことはできません。
51 見よ、リベカはあなたの前にいます。彼女を連れて行き、主が言われたとおり、あなたの主人の息子の妻としてください。」
52 アブラハムのしもべは彼らの言葉を聞くと、地に向かってひれ伏し、主を礼拝した。
53 しもべは銀の飾り物、金の飾り物、そして衣服を取り出し、リベカに与えた。彼はまた、彼女の兄と母にも高価な贈り物を与えた。
54 彼と、彼と一緒にいた人たちは、飲み食いしてそこに泊まった。彼らが朝起きると、しもべは言った。「私を主人のところへ帰らせてください。」
55 彼女の兄と母は言った。「この娘を、あと数日、少なくとも十日は私たちのところに留まらせてください。その後で、彼女は行くでしょう。」
56 しもべは彼らに言った。「私を引き止めないでください。主が私の旅を成功させてくださったのですから。私を送り出してください。私の主人のところへ帰ります。」
57 彼らは言った。「娘を呼んで、彼女自身の口から聞いてみましょう。」
58 彼らはリベカを呼んで言った。「あなたはこの人と一緒に行きますか。」
彼女は言った。「行きます。」
59 彼らは妹リベカと彼女の乳母、そしてアブラハムのしもべと彼の人々を送り出した。
60 彼らはリベカを祝福して言った。
「私たちの妹よ。
あなたは幾千万の母となるように。
あなたの子孫が、
彼らを憎む者たちの門を勝ち取るように。」
61 リベカとその女のしもべたちは立ち上がり、らくだに乗ってその人について行った。しもべはリベカを連れて旅立った。
62 そのころ、イサクはベエル・ラハイ・ロイの方から戻って来ていた。彼はネゲブ地方に住んでいたからである。

63 イサクは夕暮れ時、野に黙想するために出て行った。彼が目を上げて見ると、見よ、らくだがやって来た。
64 リベカも目を上げ、イサクを見ると、らくだから降りた。
65 彼女はしもべに言った。「私たちを迎えに、野を歩いて来るあの人は誰ですか。」
しもべは言った。「私の主人です。」
彼女はベールを取って自分を覆った。
66 しもべは自分が行ったすべてのことをイサクに告げた。
67 イサクは彼女を母サラの天幕に連れて入り、リベカをめとった。彼女は彼の妻となり、彼は彼女を愛した。イサクは母の死後、慰めを得た。

25

1 アブラハムはもう一人の妻をめとった。彼女の名はケトラであった。
2 彼女は彼に、ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミディアン、イシュバク、シュアを産んだ。
3 ヨクシャンはシバとデダンの父となった。デダンの息子たちは、アシュリ人、レトシ人、レウミ人であった。
4 ミディアンの息子たちは、エファ、エフェル、ハノク、アビダ、エルダアであった。これらは皆、ケトラの子どもたちであった。
5 アブラハムは自分のすべての持ち物をイサクに与えた。
6 しかし、アブラハムのそばめたちの息子たちには、アブラハムは贈り物を与えた。彼はまだ生きている間に、彼らを息子イサクから離して、東の方、東の国へ送り出した。
7 アブラハムが生きた年数は百七十五年であった。
8 アブラハムは息を引き取って死んだ。長寿を全うし、老いて満ち足り、自分の民に加えられた。
9 息子たちであるイサクとイシュマエルは、彼をマクペラの洞穴に葬った。そこはマムレの前にある、ヘト人ツォハルの子エフロンの畑であった。
10 その畑は、アブラハムがヘトの人々から買い取ったものである。そこにアブラハムと妻サラが葬られた。
11 アブラハムの死後、神はその息子イサクを祝福された。イサクはベエル・ラハイ・ロイの近くに住んだ。
12 これは、サラのしもべであるエジプト人ハガルがアブラハムに産んだ、アブラハムの息子イシュマエルの系図である。
13 これらは、それぞれの名によるイシュマエルの息子たちの名である。イシュマエルの長子ネバヨト、次にケダル、アドベエル、ミブサム、
14 ミシュマ、ドマ、マサ、
15 ハダド、テマ、エツル、ナフィシュ、ケデマである。
16 これらがイシュマエルの息子たちであり、それぞれの村々、それぞれの宿営地に基づく彼らの名である。彼らは、それぞれの国々による十二人の君主たちであった。
17 イシュマエルの生涯は百三十七年であった。彼は息を引き取って死に、自分の民に加えられた。
18 彼らは、エジプトの前にあるハビラから、アッシリアへ行く道にあるシュルに至るまで住んだ。彼はすべての兄弟たちと対立して住んだ。
19 これはアブラハムの息子イサクの系図である。アブラハムはイサクの父となった。
20 イサクは四十歳のとき、パダン・アラムのアラム人ベトエルの娘であり、アラム人ラバンの妹であるリベカを妻にめとった。
21 イサクは妻のために主に願い求めた。彼女が不妊であったからである。主は彼の願いを聞き入れ、妻リベカは身ごもった。

22 子どもたちが彼女の胎内でぶつかり合ったので、彼女は言った。「こんなことなら、どうして私は生きているのだろうか。」彼女は主に尋ねに行った。
23 主は彼女に言われた。
「二つの国民があなたの胎内にあり、
二つの民があなたの体から分かれ出る。
一つの民はもう一つの民より強くなり、
兄が弟に仕える。」
24 彼女の出産の日が満ちたとき、見よ、彼女の胎内には双子がいた。
25 最初の男の子が出て来た。彼は赤く、全身が毛衣のようであった。彼らはその名をエサウ* と名付けた。
26 その後、弟が出て来た。彼の手はエサウのかかとをつかんでいた。彼らはその名をヤコブ†
と名付けた。彼らが生まれたとき、イサクは六十歳であった。
27 少年たちは成長した。エサウは熟練した狩人となり、野の人となった。ヤコブは物静かな人で、天幕に住んでいた。
28 イサクはエサウを愛した。エサウの獲物が好みだったからである。しかし、リベカはヤコブを愛した。
29 ヤコブが煮物を煮ているとき、エサウが野から帰って来た。彼は疲れ果てていた。
30 エサウはヤコブに言った。「どうか、その赤いものを、あの赤いものを私に食べさせてくれ。私は疲れ果てているからだ。」それゆえ、彼の名はエドム‡ と呼ばれた。
31 ヤコブは言った。「まず、あなたの長子の権利を私に売ってください。」
32 エサウは言った。「見よ、私は死にそうだ。この長子の権利が私にとって何になるというのか。」
33 ヤコブは言った。「まず、私に誓ってください。」
エサウは彼に誓い、自分の長子の権利をヤコブに売った。
34 ヤコブはエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えた。エサウは食べて飲み、立ち上がって去って行った。このようにして、エサウは自分の長子の権利を軽んじた。

26

1 アブラハムの時代にあった先の飢饉とは別に、その地にまた飢饉があった。イサクはゲラルにいるペリシテ人の王アビメレクのところへ行った。
2 主は彼に現れて言われた。「エジプトへ下って行ってはならない。わたしがあなたに告げる地に住みなさい。
3 この地に寄留しなさい。そうすれば、わたしはあなたと共にいて、あなたを祝福する。わたしはあなたとあなたの子孫に、これらのすべての地を与え、あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たすからである。
4 わたしはあなたの子孫を空の星のように増やし、これらすべての地をあなたの子孫に与える。地上のすべての国々は、あなたの子孫によって祝福される。
5 それは、アブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの言いつけ、命令、掟、教えを守ったからである。」
6 イサクはゲラルに住んだ。
7 その場所の人々が彼の妻について尋ねると、彼は「彼女は私の妹です」と言った。彼は「私の妻です」と言うのを恐れたのである。リベカは美し

---

* **25:25** **25:25** エサウは「毛深い」を意味する。
† **25:26** **25:26** ヤコブは「かかとをつかむ者」または「押しのける者」を意味する。
‡ **25:30** **25:30** エドムは「赤い」を意味する。

かったので、「この場所の人々がリベカのゆえに私を殺すかもしれない」と考えたからである。
8 彼がそこに長く滞在していた時のことである。ペリシテ人の王アビメレクが窓から外を見ると、見よ、イサクが妻リベカと親しげにしていた。
9 アビメレクはイサクを呼んで言った。「見よ、彼女は確かにあなたの妻ではないか。なぜあなたは『彼女は私の妹です』と言ったのか。」
イサクは彼に言った。「彼女のゆえに私が死ぬかもしれないと思ったからです。」
10 アビメレクは言った。「あなたは何ということをしてくれたのか。民の一人があなたの妻と寝ていたら、あなたは私たちに罪をもたらすところだったではないか。」
11 アビメレクはすべての民に命じて言った。「この男、またはその妻に触れる者は、必ず殺される。」
12 イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を得た。主が彼を祝福されたのである。
13 彼は豊かになり、ますます栄え、ついに非常に豊かな者となった。
14 彼は羊の群れ、牛の群れ、そして多くのしもべを持つようになった。ペリシテ人は彼をねたんだ。
15 彼の父アブラハムの時代に、父のしもべたちが掘ったすべての井戸を、ペリシテ人は土で埋めて塞いでしまっていた。
16 アビメレクはイサクに言った。「私たちのところから去ってくれ。あなたは私たちよりもはるかに強くなったからだ。」
17 イサクはそこを去り、ゲラルの谷に天幕を張って、そこに住んだ。
18 イサクは、父アブラハムの時代に掘られた水の井戸を再び掘った。アブラハムの死後、ペリシテ人がそれらを塞いでいたからである。彼は、父がつけた名前のとおりに、それらの井戸に名前をつけた。
19 イサクのしもべたちが谷を掘ると、そこに湧き出る水の井戸を見つけた。
20 ゲラルの牧者たちはイサクの牧者たちと争い、「その水は私たちのものだ」と言った。彼らがイサクと争ったので、イサクはその井戸の名をエセク* と呼んだ。
21 彼らは別の井戸を掘ったが、それについても彼らは争った。それで彼はその名をシテナ† と呼んだ。
22 彼はそこから移り、さらに別の井戸を掘った。それについては彼らは争わなかった。それで彼はその名をレホボト‡ と呼んで言った。「今や主が私たちのために場所を広げてくださった。私たちはこの地で増えるだろう。」
23 彼はそこからベエル・シェバへ上って行った。
24 その夜、主は彼に現れて言われた。「わたしはあなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしはあなたと共にいる。わたしのしもべアブラハムのゆえに、わたしはあなたを祝福し、あなたの子孫を増やす。」
25 彼はそこに祭壇を築き、主の御名を呼び求め、そこに天幕を張った。そこでイサクのしもべたちは井戸を掘った。
26 その時、アビメレクがゲラルから、彼の友人アフザテと軍の長フィコルと共に、イサクのところへやって来た。
27 イサクは彼らに言った。「あなたがたは私を憎み、あなたがたのところから私を追い出したのに、なぜ私のところへ来たのですか。」
28 彼らは言った。「私たちは、主があなたと共におられるのをはっきりと見ました。それで私たちは言いました。『どうか、私たちの間、すなわち私たちとあなたの間に誓いを立てさせてほしい。私たちと契約を結んでほしい。

---

* **26:20** **26:20** エセクは「争い」を意味する。 † **26:21** **26:21** シテナは「敵意」または「対立」を意味する。 ‡ **26:22** **26:22** レホボトは「広い場所」を意味する。

29 私たちがあなたに触れず、あなたに良いことだけを行い、あなたを安らかに送り出したように、あなたも私たちに害を加えないでほしい』と。あなたは今、主に祝福された人です。」
30 イサクは彼らのために宴会を催し、彼らは飲み食いした。
31 彼らは朝早く起き、互いに誓いを立てた。イサクが彼らを送り出すと、彼らは安らかに去って行った。
32 同じ日に、イサクのしもべたちが来て、自分たちが掘った井戸について彼に告げて言った。「私たちは水を見つけました。」
33 彼はそれをシバ§
と呼んだ。それゆえ、その町の名は今日に至るまでベエル・シェバである。
34 エサウは四十歳のとき、ヘト人ベエリの娘ユディテと、ヘト人エロンの娘バセマテを妻にめとった。
35 彼女たちはイサクとリベカにとって、心の痛みとなった。

27

1 イサクが年をとり、目がかすんで見えなくなったとき、彼は長男エサウを呼んで、「私の子よ」と言った。
エサウは彼に「はい、ここにおります」と言った。
2 彼は言った。「見よ、私は年をとった。自分が死ぬ日を知らない。
3 だから今、どうかあなたの武器である矢筒と弓を取り、野に出て行き、私のために獲物をしとめて来てくれ。
4 私の好きなおいしい料理を作り、私のところに持って来なさい。私がそれを食べ、死ぬ前にあなたを祝福するためだ。」
5 リベカは、イサクが息子エサウに話しているのを聞いていた。エサウは獲物をしとめて持って来るために、野へ出て行った。
6 リベカは息子ヤコブに語って言った。「私はあなたの父上が、あなたの兄エサウにこう話しているのを聞きました。
7 『私のために獲物を持って来なさい。そしておいしい料理を作り、私に食べさせてくれ。そうして私が死ぬ前に、主の前であなたを祝福するためだ』と。
8 だから今、私の子よ、私があなたに命じるとおりに、私の声に聞き従いなさい。
9 今すぐ羊の群れのところへ行き、そこから良い子山羊を二匹取って来なさい。私はそれで、あなたの父上が好きなおいしい料理を作ります。
10 あなたはそれを父上に持って行き、食べてもらいなさい。死ぬ前に、父上があなたを祝福するためです。」
11 ヤコブは母リベカに言った。「兄エサウは毛深い人ですが、私は肌が滑らかな人です。
12 もし父上が私に触れたらどうなるでしょうか。私は父上を欺く者とみなされ、祝福ではなく呪いを自分に招くことになるでしょう。」
13 母は彼に言った。「私の子よ、あなたの呪いは私が引き受けます。ただ私の声に聞き従い、行って、それらを取って来なさい。」
14 彼は行って、それらを取り、母のところに持って来た。母は彼の父が好きなおいしい料理を作った。
15 リベカは、家の中で自分の手元にあった長男エサウの上等の服を取り、それを次男ヤコブに着せた。
16 彼女は子山羊の毛皮を、彼の手と首の滑らかな部分に巻きつけた。
17 そして彼女は、自分が作ったおいしい料理とパンを、息子ヤコブの手に渡した。

§ **26:33 26:33** シバは「誓い」または「七」を意味する。

18 彼は父のところへ行き、「お父さん」と言った。
父は言った。「ここにいるよ。私の子よ、お前は誰だ。」
19 ヤコブは父に言った。「私はあなたの長男エサウです。あなたが言われたとおりにしました。どうか起き上がり、座って私の獲物を食べてください。そうして、あなたが私を祝福してくださるためです。」
20 イサクは息子に言った。「私の子よ、どうしてこんなに早く見つけられたのか。」
彼は言った。「あなたの神、主が私を成功させてくださったからです。」
21 イサクはヤコブに言った。「私の子よ、どうか近くに来なさい。私があなたに触れて、あなたが本当に私の息子エサウかどうかを確かめよう。」
22 ヤコブは父イサクに近づいた。イサクは彼に触れて言った。「声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。」
23 ヤコブの手が兄エサウの手のように毛深かったので、イサクは彼を見分けられなかった。こうしてイサクは彼を祝福した。
24 彼は言った。「あなたは本当に、私の息子エサウなのか。」
彼は言った。「そうです。」
25 イサクは言った。「それを私の近くに持って来なさい。息子の獲物を食べて、あなたを祝福しよう。」ヤコブがそれを近くに持って行くと、彼は食べた。またヤコブがぶどう酒を持って行くと、彼は飲んだ。
26 父イサクは彼に言った。「私の子よ、さあ近くに来て、私に口づけしなさい。」
27 ヤコブは近づいて、彼に口づけした。イサクは彼の服の香りをかぎ、
彼を祝福して言った。
「見よ、私の息子の香りは、
　主が祝福された野の香りのようだ。
28 神が天の露と、
　地の豊かな産物を、
　そして豊かな穀物と新しいぶどう酒をあなたに与えられるように。
29 多くの民があなたに仕え、
　多くの国々があなたにひれ伏すように。
あなたの兄弟たちの主となれ。
　あなたの母の息子たちがあなたにひれ伏すように。
あなたを呪う者は皆、呪われ、
　あなたを祝福する者は皆、祝福されるように。」
30 イサクがヤコブを祝福し終え、ヤコブが父イサクの前から出て行くとすぐに、兄エサウが狩りから帰って来た。
31 彼もおいしい料理を作り、それを父のところに持って行った。
彼は父に言った。「お父さん、起き上がって息子の獲物を食べてください。そうして、あなたが私を祝福してくださるためです。」
32 父イサクは彼に言った。「お前は誰だ。」
彼は言った。「私はあなたの息子、あなたの長男エサウです。」
33 イサクは激しく身震いして言った。「それでは、獲物をしとめて私のところに持って来たのは誰だったのか。お前が来る前に、私はそのすべてを食べ、彼を祝福してしまった。そうだ、彼は祝福されるだろう。」
34 エサウは父の言葉を聞くと、非常に大きな、苦々しい叫び声を上げて、父に言った。「お父さん、私を、この私をも祝福してください。」
35 イサクは言った。「お前の弟が欺いてやって来て、お前の祝福を奪い取ってしまった。」
36 エサウは言った。「ヤコブという名が彼にふさわしいのではありませんか。彼は二度も私を押しのけました。私の長子の権利を奪い、そして今

度は私の祝福を奪い取りました。」彼はさらに言った。「私のために祝福を残しておかれなかったのですか。」
37 イサクはエサウに答えて言った。「見よ、私は彼をお前の主とし、彼のすべての兄弟をしもべとして彼に与えた。穀物と新しいぶどう酒で彼を支えた。私の子よ、それでは、お前のために私に何ができようか。」
38 エサウは父に言った。「お父さん、あなたには祝福が一つしかないのですか。お父さん、私を、この私をも祝福してください。」エサウは声を上げて泣いた。
39 父イサクは彼に答えて言った。
「見よ、あなたの住まいは、
地の豊かな産物と、上なる天の露に恵まれるだろう。
40 あなたは自分の剣によって生き、
あなたの弟に仕える。
しかし、あなたが自由を求めて立ち上がるとき、
あなたは自分の首から彼のくびきを振り落とすだろう。」
41 父がヤコブを祝福したその祝福のゆえに、エサウはヤコブを憎んだ。エサウは心の中で言った。「父のための喪の日が近づいている。そのとき、私は弟ヤコブを殺してやる。」
42 長男エサウの言葉がリベカに伝えられた。彼女は人を遣わして次男ヤコブを呼び、彼に言った。「見なさい。あなたの兄エサウは、あなたを殺して恨みを晴らそうとしています。
43 だから今、私の子よ、私の声に聞き従いなさい。立ち上がり、ハランにいる私の兄ラバンのところへ逃げなさい。
44 あなたの兄の激しい怒りが収まるまで、しばらくの間、彼と共に滞在しなさい。
45 兄の怒りがあなたから離れ、あなたが彼にしたことを彼が忘れるまでです。そうしたら、私は人を遣わし、あなたをそこから連れ戻します。どうして私が一日のうちにあなたがた二人を失ってよいでしょうか。」
46 リベカはイサクに言った。「私はヘト人の娘たちのせいで、生きているのが嫌になりました。もしヤコブがこの地の娘たち、あのヘト人の娘たちのような者を妻にめとるなら、私の命に何の意味があるでしょうか。」

28

1 イサクはヤコブを呼び、彼を祝福し、彼に命じて言った。「カナンの娘たちの中から妻をめとってはならない。
2 立ち上がり、パダン・アラムにある、お前の母の父ベトエルの家へ行きなさい。そこから、お前の母の兄ラバンの娘たちの中から妻をめとりなさい。
3 全能の神がお前を祝福し、お前を実り豊かにし、お前を大いに増やし、お前が多くの民の集まりとなるようにしてくださるように。
4 アブラハムの祝福を、お前と、お前と共にいるお前の子孫に与えてくださるように。神がアブラハムに与えられた地、お前が寄留しているこの地を、お前が受け継ぐことができるように。」
5 イサクはヤコブを送り出した。ヤコブはパダン・アラムへ向かい、アラム人ベトエルの息子ラバンのところへ行った。ラバンは、ヤコブとエサウの母リベカの兄であった。
6 さて、エサウは、イサクがヤコブを祝福し、妻をめとらせるために彼をパダン・アラムへ送り出したことを見た。また、彼を祝福したとき、「カナンの娘たちの中から妻をめとってはならない」と命じたこと、
7 さらに、ヤコブが父と母に聞き従い、パダン・アラムへ行ったことも見た。
8 エサウは、カナンの娘たちが父イサクの目に良くないことを見て、

9 イシュマエルのところへ行き、すでにいた妻たちのほかに、アブラハムの息子イシュマエルの娘で、ネバヨトの妹であるマハラテを妻にめとった。
10 ヤコブはベエル・シェバを出発し、ハランへ向かった。
11 彼はある場所に着き、太陽が沈んだので、そこで一晩を過ごした。彼はその場所の石の一つを取り、それを自分の頭の下に置き、その場所で横になって眠った。
12 彼は夢を見た。見よ、一つの階段が地に立てられ、その頂は天に届いていた。見よ、神の使いたちがそれを上り下りしていた。
13 見よ、主がその上に立って言われた。「わたしは主、あなたの父アブラハムの神、イサクの神である。あなたが横たわっているこの地を、わたしはあなたとあなたの子孫に与える。
14 あなたの子孫は地のちりのようになり、あなたは西、東、北、南へと広がるだろう。地上のすべての家族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。
15 見よ、わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたを再びこの地に連れ戻す。わたしがあなたに約束したことを成し遂げるまで、わたしはあなたを離れない。」
16 ヤコブは眠りから覚めて言った。「確かに主はこの場所におられる。それなのに、私はそれを知らなかった。」
17 彼は恐れて言った。「この場所は何と恐れ多いことだろう。ここは神の家にほかならない。ここは天の門だ。」
18 ヤコブは朝早く起き、自分の頭の下に置いた石を取り、それを柱として立て、その頂に油を注いだ。
19 彼はその場所の名をベテル*と呼んだが、その町の最初の名はルズであった。
20 ヤコブは誓いを立てて言った。「もし神が私と共におられ、私の行くこの旅路で私を守り、食べるパンと着る服を与え、
21 私が無事に父の家に帰ることができるようにしてくださり、主が私の神となってくださるなら、
22 柱として立てたこの石は神の家となります。あなたが私に与えてくださるすべてのもののうち、私は必ず十分の一をあなたにささげます。」

29

1 ヤコブは旅を続け、東方の人々の地へ来た。
2 彼が見ると、野に一つの井戸があり、見よ、そのそばに三つの羊の群れが伏していた。人々はその井戸から群れに水を飲ませていたからである。井戸の口にある石は大きかった。
3 群れがすべてそこに集められると、人々は井戸の口から石を転がし、羊に水を飲ませ、再び石を井戸の口の元の場所に戻すのであった。
4 ヤコブは彼らに言った。「私の兄弟たち、あなたがたはどこから来たのですか。」
彼らは言った。「私たちはハランから来ました。」
5 彼は彼らに言った。「あなたがたはナホルの子ラバンを知っていますか。」
彼らは言った。「知っています。」
6 彼は彼らに言った。「彼は無事ですか。」
彼らは言った。「無事です。見なさい、彼の娘ラケルが羊と一緒に来ます。」
7 彼は言った。「見なさい、まだ日が高い。家畜を集める時間ではありません。羊に水を飲ませてから、行って草を食べさせなさい。」

---

* **28:19 28:19** ベテルは「神の家」を意味する。

8 彼らは言った。「すべての群れが集められ、人々が井戸の口から石を転がすまでは、そうすることができません。それから羊に水を飲ませるのです。」
9 ヤコブがまだ彼らと話している間に、ラケルが父の羊と一緒にやって来た。彼女は羊を飼っていたからである。
10 ヤコブは、母の兄ラバンの娘ラケルと、母の兄ラバンの羊を見ると、近づいて行って井戸の口から石を転がし、母の兄ラバンの群れに水を飲ませた。
11 ヤコブはラケルに口づけし、声を上げて泣いた。
12 ヤコブはラケルに、自分が彼女の父の親族であり、リベカの息子であることを告げた。彼女は走って行き、父に告げた。
13 ラバンは妹の息子ヤコブの知らせを聞くと、ヤコブを迎えに走って行き、彼を抱きしめ、口づけして自分の家に連れて来た。ヤコブはこれらのすべてのことをラバンに話した。
14 ラバンは彼に言った。「本当に、あなたは私の骨であり、私の肉です。」ヤコブは一か月の間、彼と一緒に滞在した。
15 ラバンはヤコブに言った。「あなたは私の親族だからといって、ただで私に仕えることはない。あなたの報酬をどうするか、私に言ってください。」
16 ラバンには二人の娘がいた。姉の名はレア、妹の名はラケルであった。
17 レアの目は弱かった* が、ラケルは姿も顔立ちも美しかった。
18 ヤコブはラケルを愛していた。彼は言った。「あなたの妹ラケルのために、私は七年間あなたに仕えましょう。」
19 ラバンは言った。「彼女をほかの男に与えるより、あなたに与えるほうが良い。私のところに留まりなさい。」
20 ヤコブはラケルのために七年間仕えた。彼女を愛していたため、彼にはそれがほんの数日のように思えた。
21 ヤコブはラバンに言った。「私の妻を与えてください。私の日数が満ちたので、彼女のところに入りたいのです。」
22 ラバンはその場所のすべての人々を集め、宴会を催した。
23 夕方になって、ラバンは娘レアを連れて来て、ヤコブのところへ連れて行った。ヤコブは彼女のところに入った。
24 ラバンは自分の女のしもべジルパを、娘レアの女のしもべとして与えた。
25 朝になると、見よ、それはレアであった。ヤコブはラバンに言った。「あなたは私に何ということをしたのですか。私はラケルのためにあなたに仕えたのではありませんか。なぜ私を欺いたのですか。」
26 ラバンは言った。「私たちのところでは、長女より先に妹を嫁がせることはしません。
27 この娘との婚礼の週を満たしなさい。そうすれば、あなたがさらに七年間私に仕えることと引き換えに、もう一人の娘もあなたに与えましょう。」
28 ヤコブはそのようにして、レアとの週を満たした。ラバンは自分の娘ラケルを彼の妻として与えた。
29 ラバンは娘ラケルに、自分の女のしもべビルハを、彼女の女のしもべとして与えた。
30 ヤコブはラケルのところにも入った。彼はレアよりもラケルを愛した。そしてさらに七年間、ラバンに仕えた。
31 主はレアが疎まれているのを見られ、彼女の胎を開かれた。しかしラケルは不妊であった。
32 レアは身ごもって男の子を産み、その名をルベン†
と名付けた。彼女が「主が私の苦しみをご覧になったからです。
今や夫は私を愛してくれるでしょう」と言ったからである。

---

* **29:17** **29:17** または「柔らかかった」。意味はやや不明である。 † **29:32** **29:32** ルベンは「見よ、息子だ」を意味する。

33 彼女は再び身ごもって男の子を産み、言った。「私が疎まれているのを主が聞かれたので、この子も私に授けてくださったのです。」彼女はその名をシメオン‡と名付けた。
34 彼女は再び身ごもって男の子を産んだ。彼女は言った。「今度こそ、夫は私に結びついてくれるでしょう。私が彼に三人の男の子を産んだからです。」それゆえ、彼の名はレビ§と呼ばれた。
35 彼女は再び身ごもって男の子を産んだ。彼女は言った。「今度こそ、私は主をほめたたえます。」それゆえ、彼女はその名をユダ*と名付けた。それから彼女は出産をやめた。

30

1 ラケルは自分がヤコブに子どもを産まないのを見ると、姉をねたんだ。彼女はヤコブに言った。「私に子どもをください。そうでなければ、私は死んでしまいます。」
2 ヤコブはラケルに向かって怒りを燃やして言った。「私が神に代わることなどできるだろうか。あなたの胎の実を拒んでおられるのは神なのだ。」
3 彼女は言った。「見よ、私の女のしもべビルハがいます。彼女のところに入ってください。彼女が私の膝の上に子を産むことで、私も彼女によって子を得ることができるでしょう。」
4 彼女は自分の女のしもべビルハを妻としてヤコブに与えたので、ヤコブは彼女のところに入った。
5 ビルハは身ごもり、ヤコブに男の子を産んだ。
6 ラケルは言った。「神は私を裁き、また私の声を聞いて、私に男の子を与えてくださいました。」それゆえ、彼女はその名をダン*と呼んだ。
7 ラケルの女のしもべビルハは再び身ごもり、ヤコブに二番目の男の子を産んだ。
8 ラケルは言った。「私は姉と激しい格闘をして、ついに勝ちました。」彼女はその名をナフタリ†と名付けた。
9 レアは自分が出産をやめたのを見ると、女のしもべジルパを取り、彼女を妻としてヤコブに与えた。
10 レアの女のしもべジルパはヤコブに男の子を産んだ。
11 レアは「何という幸運でしょう」と言った。彼女はその名をガド‡と名付けた。
12 レアの女のしもべジルパはヤコブに二番目の男の子を産んだ。
13 レアは言った。「私は幸せです。娘たちが私を幸せな者と呼ぶでしょうから。」彼女はその名をアシェル§と名付けた。
14 麦刈りの季節にルベンが野へ行き、恋なすび*を見つけて、母レアのところに持って来た。するとラケルがレアに言った。「どうか、あなたの息子の恋なすびを私に分けてください。」
15 レアは彼女に言った。「あなたが私の夫を奪ったのは小さなことですか。そのうえ、私の息子の恋なすびまでも奪おうとするのですか。」
ラケルは言った。「それなら、あなたの息子の恋なすびと引き換えに、今夜は彼があなたと寝るようにしましょう。」

---

‡ **29:33** **29:33** シメオンは「聞くこと」を意味する。
§ **29:34** **29:34** レビは「結びつく」を意味する。
* **29:35** **29:35** ユダは「ほめたたえる」を意味する。
* **30:6** **30:6** ダンは「裁く」を意味する。
† **30:8** **30:8** ナフタリは「私の格闘」を意味する。
‡ **30:11** **30:11** ガドは「幸運」を意味する。
§ **30:13** **30:13** アシェルは「幸せ」を意味する。
* **30:14** **30:14** 恋なすびはマンドラゴラのこと。古代では妊娠を助けるものと考えられていた。

16 夕方、ヤコブが野から帰って来ると、レアは彼を迎えに出て言った。「あなたは私のところに入らなければなりません。私は息子の恋なすびで、確かにあなたを雇ったのですから。」その夜、彼は彼女と寝た。
17 神はレアの願いを聞き入れられた。彼女は身ごもり、ヤコブに五番目の男の子を産んだ。
18 レアは言った。「私が女のしもべを夫に与えたので、神が私に報酬を与えてくださいました。」彼女はその名をイッサカル† と名付けた。
19 レアは再び身ごもり、ヤコブに六番目の男の子を産んだ。
20 レアは言った。「神は私に良い贈り物を与えてくださいました。私が夫に六人の男の子を産んだので、今度こそ夫は私と共に住んでくれるでしょう。」彼女はその名をゼブルン‡ と名付けた。
21 その後、彼女は女の子を産み、その名をディナと名付けた。
22 神はラケルを心に留められた。神は彼女の願いを聞き入れ、彼女の胎を開かれた。
23 彼女は身ごもって男の子を産み、言った。「神が私の恥を取り除いてくださいました。」
24 彼女はその子をヨセフ§ と名付けて、「主が私にもう一人の息子を加えてくださいますように」と言った。
25 ラケルがヨセフを産んだ時、ヤコブはラバンに言った。「私を送り出してください。自分の場所、自分の国へ帰りたいのです。
26 私があなたに仕えて得た妻たちと子どもたちを私に与え、行かせてください。私があなたに仕えた働きは、あなたが知っているはずです。」
27 ラバンは彼に言った。「もし今、私があなたの目に恵みを得ているなら、どうか留まってください。主があなたのゆえに私を祝福してくださったことを、私は占いによって知りました。」
28 彼は言った。「あなたの報酬を指定してください。私はそれを払いましょう。」
29 ヤコブは彼に言った。「私がどのようにあなたに仕え、あなたの家畜が私のもとでどのようになったか、あなたは知っています。
30 私が来る前にあなたが持っていたものはわずかでしたが、それは増えておびただしい数になりました。主は私の行く先々であなたを祝福されました。では今、私はいつになったら自分の家のためにも備えることができるのでしょうか。」
31 ラバンは言った。「何をあなたに与えようか。」
ヤコブは言った。「何も私に与える必要はありません。もしあなたが私のためにこのことをしてくださるなら、私は再びあなたの群れを飼い、それを守りましょう。
32 今日、私はあなたのすべての群れの間を通り、そこから、ぶちとまだらのものすべて、また羊の中の黒いものすべて、そして山羊の中のまだらとぶちのものをより分けます。これが私の報酬となります。
33 後日、あなたが私の報酬を確認に来るとき、私の正しさが私のために証言します。私のもとにいる山羊の中にぶちやまだらでないもの、あるいは羊の中に黒くないものがあれば、それは盗まれたものとみなされてよいでしょう。」
34 ラバンは言った。「見よ、あなたの言うとおりにしよう。」
35 その日、ラバンはしま模様とまだらの雄山羊、ぶちとまだらのすべての雌山羊、すなわち白い部分があるすべてのものと、羊の中のすべての黒いものをより分け、自分の息子たちの手に渡した。

---

† **30:18** **30:18** イッサカルは「報酬」を意味する。 ‡ **30:20** **30:20** ゼブルンは「住む」または「住まい」と関連する。 § **30:24** **30:24** ヨセフは「加える」と関連する。

36 彼は自分とヤコブとの間に三日の道のりを置き、ヤコブはラバンの残りの群れを飼った。
37 ヤコブはポプラ、アーモンド、すずかけの木の若枝を取り、それに白い筋を作るように皮をむき、その枝の白い部分をむき出しにした。
38 彼は皮をむいた枝を、群れが水を飲みに来る水桶、すなわち水飲み場の中に、群れに向けて置いた。群れは水を飲みに来たときに発情した。
39 群れはその枝の前で発情し、しま模様、ぶち、まだらのものを産んだ。
40 ヤコブは小羊を分け、群れをラバンの群れの中のしま模様のものとすべての黒いものに向かわせた。彼は自分の群れを別に分け、それらをラバンの群れの中には入れなかった。
41 群れの中の強いものが発情するたびに、ヤコブはその枝の間で発情するように、水飲み場の群れの目の前に枝を置いた。
42 しかし、群れが弱いときは、それを置かなかった。こうして弱いものはラバンのものとなり、強いものはヤコブのものとなった。
43 この人は極めて豊かになり、大きな群れ、女のしもべと男のしもべ、らくだとろばを持つようになった。

31

1 ヤコブは、「ヤコブは私たちの父のものをすべて奪い取った。父のものから、彼はこのすべての富を得たのだ」と言うラバンの息子たちの言葉を耳にした。
2 ヤコブがラバンの態度を見ると、見よ、以前のようには自分に向けられていなかった。
3 主はヤコブに言われた。「あなたの先祖の地、あなたの親族のところへ帰りなさい。わたしはあなたと共にいる。」
4 ヤコブは人を遣わして、ラケルとレアを群れのいる野に呼び出し、
5 彼女たちに言った。「私はあなたがたの父上の態度を見ているが、以前のようには私に向けられていない。しかし、私の父の神は私と共におられた。
6 私が全力であなたがたの父上に仕えてきたことは、あなたがたも知っている。
7 あなたがたの父上は私を欺き、十回も私の報酬を変えた。しかし神は、彼が私に害を加えるのをお許しにならなかった。
8 もし彼が『ぶちのものがあなたの報酬となる』と言えば、群れはみなぶちのものを産んだ。もし彼が『しま模様のものがあなたの報酬となる』と言えば、群れはみなしま模様のものを産んだ。
9 こうして神は、あなたがたの父上の家畜を取り上げて、私にお与えになった。
10 群れが交尾する季節に、私が目を上げて夢の中で見ると、見よ、群れと交尾している雄山羊は、しま模様、ぶち、まだらであった。
11 神の使いが夢の中で私に『ヤコブよ』と言われたので、私は『はい、ここにおります』と言った。
12 彼は言われた。『さあ、目を上げて見なさい。群れと交尾している雄山羊はみな、しま模様、ぶち、まだらである。ラバンがあなたにしていることを、わたしはすべて見たからである。
13 わたしはベテルの神である。あなたはそこで柱に油を注ぎ、そこでわたしに誓いを立てた。さあ、立ち上がり、この地を出て、あなたの生まれた地へ帰りなさい。』」
14 ラケルとレアは彼に答えて言った。「私たちの父の家には、まだ私たちへの分け前や相続地があるでしょうか。
15 父上は私たちを他人のように見なしているではありませんか。彼は私たちを売り、私たちの代価もすっかり使い果たしてしまいました。

16 神が私たちの父上から取り上げられたすべての富は、私たちと私たちの子どもたちのものです。だから今、神があなたに言われたことをすべて行ってください。」
17 そこでヤコブは立ち上がり、息子たちと妻たちをらくだに乗せ、
18 自分が手に入れたすべての家畜とすべての持ち物、すなわちパダン・アラムで手に入れた家畜をすべて引き連れ、カナンの地にいる父イサクのところへ向かった。
19 その時、ラバンは自分の羊の毛を刈るために出かけていた。そしてラケルは、父のテラフィム* を盗んだ。
20 ヤコブは、自分が逃げることを告げず、アラム人ラバンを欺いた。
21 こうして彼は、自分のすべての持ち物と共に逃げた。彼は立ち上がって川を渡り、ギレアデの山地へ向かった。
22 三日目になって、ヤコブが逃げたことがラバンに知らされた。
23 ラバンは親族を連れて行き、七日の道のりを追跡して、ギレアデの山地で彼に追いついた。
24 夜の夢の中で神がアラム人ラバンのところに来て、彼に言われた。「あなたはヤコブに対して、良いことも悪いことも言わないように気をつけなさい。」
25 ラバンはヤコブに追いついた。ヤコブは山に天幕を張っており、ラバンも親族と共にギレアデの山地に天幕を張った。
26 ラバンはヤコブに言った。「私を欺き、私の娘たちを剣で捕らえた捕虜のように連れ去るとは、あなたは何ということをしたのか。
27 なぜあなたはひそかに逃げ、私を欺き、私に告げなかったのか。私は喜びと歌、タンバリンと竪琴であなたを送り出しただろうに。
28 そして、なぜ私に息子たちや娘たちに口づけさせてくれなかったのか。今、あなたは愚かなことをした。
29 私の手には、あなたがたに害を加える力がある。しかし、昨夜、あなたがたの父の神が私に語って、『ヤコブに対して、良いことも悪いことも言わないように気をつけなさい』と言われた。
30 今、あなたは父の家をひどく慕い求めて去ろうとしているが、なぜ私の神々を盗んだのか。」
31 ヤコブはラバンに答えて言った。「私は恐れました。あなたが私から娘たちを力ずくで奪い取るかもしれないと思ったからです。
32 しかし、あなたの神々を誰のところで見つけたとしても、その者を生かしてはおきません。私たちの親族の前で、私のところにあるあなたのものを調べ、それを持って行ってください。」ヤコブは、ラケルがそれらを盗んだことを知らなかったからである。
33 ラバンはヤコブの天幕、レアの天幕、二人の女のしもべの天幕に入ったが、見つけることはできなかった。彼はレアの天幕を出て、ラケルの天幕に入った。
34 その時、ラケルはテラフィムを取り、それをらくだの鞍の中に入れ、その上に座っていた。ラバンは天幕の中をすべて探ったが、それらを見つけることはできなかった。
35 彼女は父に言った。「ご主人様、あなたの前で立ち上がれないからといって、怒らないでください。私には女の月のものがあるのです。」彼は探し回ったが、テラフィムを見つけることはできなかった。
36 ヤコブは怒り、ラバンを責めた。ヤコブはラバンに答えて言った。「私の罪とは何ですか。私の咎とは何だというので、あなたは私を激しく追って来たのですか。

* **31:19 31:19** または「家の偶像」。

37 あなたは私の持ち物をすべて探ったが、あなたの家の持ち物が何か見つかりましたか。私の親族とあなたの親族の前にそれを置いて、彼らに私たち二人の間を裁かせなさい。
38 この二十年間、私はあなたと共にいました。あなたの雌羊と雌山羊は流産したことがなく、私はあなたの群れの雄羊を食べたこともありません。
39 獣に引き裂かれたものを、私はあなたのところに持って行きませんでした。私がその損失を補いました。昼に盗まれたものも、夜に盗まれたものも、あなたは私の手からそれを償わせました。
40 私のありさまはこうでした。昼は暑さに焼かれ、夜は寒さに凍え、眠りは私の目から逃げ去りました。
41 この二十年間、私はあなたの家で過ごしました。私はあなたの二人の娘のために十四年、あなたの群れのために六年あなたに仕えました。そして、あなたは私の報酬を十回も変えました。
42 もし私の父の神、アブラハムの神、イサクが畏れかしこむ方が私と共におられなかったなら、あなたは今、私を何も持たせずに送り出したことでしょう。神は私の苦しみと、私の手の働きをご覧になり、昨夜あなたをたしなめられたのです。」
43 ラバンはヤコブに答えて言った。「娘たちは私の娘、子どもたちは私の子ども、群れは私の群れ、そしてあなたが見ているすべてのものは私のものだ。今日、これらの私の娘たち、あるいは彼女たちが産んだ子どもたちに対して、私が何を行えようか。
44 さあ、私とあなたで契約を結ぼう。それが私とあなたの間の証拠となるように。」
45 ヤコブは一つの石を取り、それを柱として立てた。
46 ヤコブは親族たちに「石を集めなさい」と言った。彼らは石を取り、一つの石塚を作った。彼らはその石塚のそばで食事をした。
47 ラバンはそれをエガル・サハドゥタ†と呼んだが、ヤコブはそれをガルエド‡と呼んだ。
48 ラバンは言った。「この石塚は今日、私とあなたの間の証拠である。」それゆえ、その名はガルエドと呼ばれ、
49 またミツパ§と呼ばれた。彼がこう言ったからである。「私たちが互いに離れている間、主が私とあなたの間を見張ってくださるように。
50 もしあなたが私の娘たちを苦しめるなら、あるいは私の娘たちのほかに妻をめとるなら、私たちのところに誰もいなくても、見よ、神が私とあなたの間の証人である。」
51 ラバンはヤコブに言った。「見よ、この石塚を。そして見よ、私が私とあなたの間に立てた柱を。
52 害を加えるために、私がこの石塚を越えてあなたのところに行くことがなく、あなたがこの石塚とこの柱を越えて私のところに来ることがないことについて、この石塚が証拠となり、この柱が証拠となるように。
53 アブラハムの神、ナホルの神、彼らの父の神が、私たちの間を裁いてくださるように。」
そこでヤコブは、父イサクが畏れかしこむ方にかけて誓った。
54 ヤコブは山でいけにえをささげ、親族を呼んで食事をした。彼らは食事をし、山で一晩を過ごした。
55 朝早く、ラバンは起き上がり、息子たちや娘たちに口づけして彼らを祝福した。ラバンは去り、自分の場所に帰って行った。

32

1 ヤコブは旅を続けた。すると、神の使いたちが彼に出会った。

† **31:47** **31:47** エガル・サハドゥタはアラム語で「証拠の石塚」を意味する。 ‡ **31:47** **31:47** ガルエドはヘブライ語で「証拠の石塚」を意味する。 § **31:49** **31:49** ミツパは「見張りの塔」を意味する。

2 ヤコブは彼らを見ると、「これは神の陣営だ」と言った。彼はその場
所の名をマハナイム* と呼んだ。
3 ヤコブは自分に先立って、セイルの地、エドムの野にいる兄エサウのもと
へ使者たちを遣わした。
4 彼は彼らに命じて言った。「私の主人エサウにこう言いなさい。『あなた
のしもべヤコブはこう申しております。私はラバンのもとに寄留し、今まで滞
在していました。
5 私は牛、ろば、羊の群れ、男のしもべ、女のしもべを持っています。
私の主人の目に恵みを見出すために、お知らせしようとして使いを遣わしまし
た。』」
6 使者たちはヤコブのもとに戻って来て言った。「私たちはあなたの兄エサ
ウのところへ行きました。見よ、彼もあなたを迎えに来ます。しかも四百
人の男たちが彼と一緒です。」
7 そこでヤコブは非常に恐れ、苦悩した。彼は自分と一緒にい
る人々、羊の群れ、牛の群れ、らくだを二つの陣営に分けた。
8 彼は言った。「もしエサウが一つの陣営のところに来て、それを打って
も、残った陣営は逃げることができるだろう。」
9 ヤコブは言った。「私の父アブラハムの神、私の父イサクの神、主よ。あ
なたは私に、『あなたの地、あなたの親族のところへ帰りなさい。わたしはあ
なたに良くする』と言われました。
10 私は、あなたがしもべに示してくださったすべての慈しみとすべての真
実の、その最も小さなものにも値しない者です。私は一本の杖だけを持ってこ
のヨルダン川を渡りましたが、今では二つの陣営となりました。
11 どうか、私の兄の手から、エサウの手から私を救い出してください。
彼が来て、母も子も打つのではないかと、私は彼を恐れているのです。
12 あなたは、『わたしは必ずあなたに良くし、あなたの子孫を、多すぎ
て数えきれない海の砂のようにする』と言われました。」
13 彼はその夜そこに泊まり、自分の持ち物の中から、兄エサウへ
の贈り物を選んだ。
14 雌山羊二百匹、雄山羊二十匹、雌羊二百匹、雄羊二十匹、
15 乳を飲ませているらくだ三十頭とその子、雌牛四十頭、雄牛十頭、雌ろ
ば二十頭、ろばの子十頭である。
16 彼はそれらを群れごとに分け、しもべたちの手に渡し、しもべたちに言っ
た。「私より先に進み、群れと群れの間に間隔を置きなさい。」
17 彼は先頭の者に命じて言った。「私の兄エサウがあなたに出会い、『あな
たは誰の者か。どこへ行くのか。あなたの前にいるこれらは誰のもの
か』と尋ねたなら、
18 あなたはこう言いなさい。『あなたのしもべヤコブのものです。これ
は私の主人エサウに送る贈り物です。見よ、ヤコブ自身も私たちの後ろにいま
す。』」
19 彼は二番目、三番目の者、そして群れの後について行くすべての者に
も命じて言った。「エサウに出会ったとき、あなたがたは彼にこのように話し
なさい。
20 また、『見よ、あなたのしもべヤコブも私たちの後ろにいます』と言いな
さい。」彼は、「私より先に行く贈り物で彼の顔を和らげ、そ
の後で彼の顔を見よう。そうすれば、彼は私の顔を受け入れてくれるかもしれ
ない」と考えたからである。
21 こうして、贈り物は彼より先に進み、彼自身はその夜、陣営に泊まった。

* **32:2 32:2** マハナイムは「二つの陣営」を意味する。

22 彼はその夜起き上がり、二人の妻、二人の女のしもべ、十一人の息
子を連れて、ヤボクの渡しを渡った。
23 彼は彼らを連れて川を渡らせ、自分の持ち物も渡らせた。
24 ヤコブは一人残った。すると、ある人が夜明けまで彼と格闘した。
25 その人はヤコブに勝てないのを見ると、ヤコブのももの関節に触れた。そ
のため、ヤコブが彼と格闘している間に、ヤコブのももの関節が外れた。
26 その人は言った。「夜が明けるから、私を行かせてくれ。」
ヤコブは言った。「私を祝福してくださるまでは、あなたを行かせませ
ん。」
27 その人は言った。「あなたの名は何というのか。」
彼は言った。「ヤコブです。」
28 その人は言った。「あなたの名は、もはやヤコブとは呼ばれない。イスラ
エル† と呼ばれる。あなたは神と、また人と争って勝ったからである。」
29 ヤコブは尋ねて言った。「どうか、あなたの名を教えてください。」
その人は言った。「なぜあなたは私の名を尋ねるのか。」そして、その場で
ヤコブを祝福した。
30 ヤコブはその場所の名をペニエル‡ と呼んだ。彼が、「私は顔と顔を合わ
せて神を見たのに、私の命は救われた」と言ったからである。
31 彼がペニエルを通り過ぎたとき、太陽は彼の上に昇った。彼はもものため
に足を引きずっていた。
32 それゆえ、イスラエルの子らは今日に至るまで、ももの関節にあ
る筋を食べない。あの人がヤコブのももの関節、その筋に触れたからである。

33

1 ヤコブが目を上げて見ると、見よ、エサウがやって来た。四百人の男たち
が彼と一緒であった。ヤコブはレア、ラケル、そして二人の女のしもべたち
に子どもたちを分けた。
2 彼は女のしもべたちとその子どもたちを先頭に、レアとその子どもたちを
その後に、ラケルとヨセフを最後に置いた。
3 彼自身は彼らの前を進み、兄に近づくまでに七回、地に向かってひれ伏し
た。
4 エサウは彼を迎えに走り、彼を抱きしめ、首に抱きついて口づけした。そ
して彼らは泣いた。
5 エサウが目を上げて女たちと子どもたちを見ると、言った。「あなたと一
緒にいるこの者たちは誰か。」
ヤコブは言った。「神があなたのしもべに恵みとしてお与えくださった子ど
もたちです。」
6 すると、女のしもべたちがその子どもたちと一緒に近づき、ひれ伏した。
7 レアとその子どもたちも近づいてひれ伏した。その後、ヨセフとラケル
が近づいてひれ伏した。
8 エサウは言った。「私が出会ったこのすべての陣営は、どういう意味なの
か。」
ヤコブは言った。「私の主人の目に恵みを見出すためです。」
9 エサウは言った。「私には十分にある、私の弟よ。あなたのものはあなた
のものにしておきなさい。」
10 ヤコブは言った。「いいえ、どうか。もし私が今、あなたの目に恵みを見
出しているなら、私の手から贈り物を受け取ってください。あなたの顔を見て
いると、神の顔を見ているようです。そして、あなたは私を喜んで受け入れて
くださいました。

† **32:28** **32:28** イスラエルは「神と争う」または「神が争われる」と関連する。 ‡ **32:30** **32:30** ペニエルは「神の顔」を意味する。

11 どうか、私があなたに持って来た祝福の贈り物を受け取ってください。
神が私に恵みを与えてくださり、私にはすべてが十分にあるからです。」ヤコ
ブが強く勧めたので、エサウはそれを受け取った。
12 エサウは言った。「さあ、旅立って行こう。私があなたの先を行こう。」
13 ヤコブは彼に言った。「私の主人は、子どもたちが弱く、私と一緒にい
る羊と牛の群れには乳を飲ませる子がいることをご存じです。もし一日で
も急がせれば、群れはみな死んでしまいます。
14 どうか、私の主人はしもべより先に進んでください。私は、私の前にい
る家畜の歩みと、子どもたちの歩みに合わせて、ゆっくりと進み、セイルにい
る私の主人のところへ参ります。」
15 エサウは言った。「では、私と一緒にいる人々の中から、何人かをあなた
のところに残させてくれ。」
ヤコブは言った。「どうしてその必要があるでしょうか。私の主
人の目に恵みを見出させてください。」
16 こうしてエサウは、その日、セイルへの道を帰って行った。
17 ヤコブはスコトへ旅をし、自分のために家を建て、家畜のために小
屋を作った。それゆえ、その場所の名はスコト* と呼ばれる。
18 ヤコブはパダン・アラムから来たとき、カナンの地にあるシェケム
の町に無事に着き、その町の前で宿営した。
19 彼は天幕を張った野の一部を、シェケムの父ハモルの子らの手から、百
枚の銀で買い取った。
20 彼はそこに祭壇を立て、それをエル・エロヘ・イスラエル† と呼んだ。

34

1 レアがヤコブに産んだ娘ディナは、その地の娘たちを見るために出かけ
て行った。
2 その地の君主であるヒビ人ハモルの子シェケムが彼女を見た。彼は彼
女を連れて行き、彼女と寝て、彼女を辱めた。
3 彼の心はヤコブの娘ディナに強く結びつき、彼はその若い女を愛し、彼
女に優しく語りかけた。
4 シェケムは父ハモルに語って言った。「この若い女を、私の妻としてもら
ってください。」
5 ヤコブは、シェケムが娘ディナを汚したことを聞いた。彼の息子たち
は野で家畜と一緒にいたので、ヤコブは彼らが帰って来るまで黙っていた。
6 シェケムの父ハモルは、ヤコブと話し合うために彼のところへ出て行っ
た。
7 ヤコブの息子たちはそれを聞くと、野から帰って来た。その男たち
は心を痛め、非常に怒った。シェケムがヤコブの娘と寝て、イスラエル
の中で愚かなこと、してはならないことをしたからである。
8 ハモルは彼らと話し合って言った。「私の息子シェケムの心は、あなたが
たの娘を慕い求めています。どうか彼女を彼の妻として与えてください。
9 私たちと縁組みをしてください。あなたがたの娘たちを私たちに与え、
私たちの娘たちをあなたがたのためにめとってください。
10 あなたがたは私たちと一緒に住んでください。この地はあなたがたの前に
あります。ここに住み、ここで商いをし、ここに所有地を得てください。」
11 シェケムは彼女の父と兄弟たちに言った。「どうか、あなたがた
の目に恵みを見出させてください。あなたがたが私に言うものは何でも与えま
す。

---

* **33:17** **33:17** スコトは「小屋」または「仮小屋」を意味する。 † **33:20** **33:20** エル・エロヘ・イスラエルは「神、イスラエルの神」を意味する。

12 花嫁の代価と贈り物を、いくらでも私に求めてください。あなたがたが私に求めるものは何でも与えましょう。ただ、その若い女を妻として私に与えてください。」

13 ヤコブの息子たちは、シェケムとその父ハモルに欺きをもって答えた。彼が妹ディナを汚したからである。
14 彼らは言った。「私たちはこのことを行うことはできない。無割礼の者に私たちの妹を与えることは、私たちにとって恥となるからだ。
15 ただこの条件でのみ、私たちはあなたがたに同意する。もしあなたがたのすべての男子が割礼を受け、あなたがたが私たちのようになるなら、
16 私たちは私たちの娘たちをあなたがたに与え、あなたがたの娘たちを私たちのためにめとる。そして私たちはあなたがたと一緒に住み、一つの民となる。
17 しかし、もしあなたがたが私たちの言うことを聞かず、割礼を受けないなら、私たちは娘を連れて去って行く。」

18 彼らの言葉は、ハモルとハモルの子シェケムの目に良いと思われた。
19 その若者はこのことを行うのをためらわなかった。彼がヤコブの娘を喜んでいたからである。彼は父の家の誰よりも尊ばれていた。
20 ハモルとその息子シェケムは自分たちの町の門に行き、その町の人々と話し合って言った。
21 「この人たちは私たちと平和に過ごしている。それゆえ、彼らにこの地に住ませ、ここで商いをさせよう。見よ、この地は彼らにとって十分に広い。彼らの娘たちを私たちの妻としてめとり、私たちの娘たちを彼らに与えよう。
22 ただこの条件でのみ、この人たちは私たちと一緒に住み、一つの民となることに同意してくれる。それは、彼らが割礼を受けているように、私たちの中のすべての男子が割礼を受けることである。
23 彼らの家畜も、彼らの持ち物も、彼らのすべての獣も、私たちのものになるではないか。ただ私たちが彼らに同意しさえすれば、彼らは私たちと一緒に住むのだ。」

24 彼の町の門を出入りするすべての者は、ハモルとその息子シェケムの言うことを聞いた。そしてすべての男子、すなわち彼の町の門を出入りするすべての者は割礼を受けた。
25 三日目になり、彼らがまだ痛みを感じていたとき、ヤコブの二人の息子、ディナの兄弟であるシメオンとレビは、それぞれ自分の剣を取り、無防備な町を襲い、すべての男子を殺した。
26 彼らはハモルとその息子シェケムを剣の刃で殺し、シェケムの家からディナを連れ出し、去って行った。
27 ヤコブの息子たちは殺された者たちのところへ来て、町を略奪した。彼らが彼らの妹を汚したからである。
28 彼らは羊の群れ、牛の群れ、ろば、町にあるもの、野にあるものを取り、
29 さらに彼らのすべての富を奪った。彼らはすべての小さな子どもたちと妻たちを捕虜にし、家の中にあるすべてのものを略奪した。

30 ヤコブはシメオンとレビに言った。「あなたがたは私を悩ませ、この地に住むカナン人やペリジ人の間で私を忌み嫌われる者にした。私は数が少ない。彼らが私に立ち向かって集まり、私を打てば、私も私の家も滅ぼされてしまうだろう。」

31 彼らは言った。「彼は私たちの妹を遊女のように扱ってよいのでしょうか。」

35

1 神はヤコブに言われた。「立ち上がり、ベテルへ上って行き、そこに住みなさい。あなたが兄エサウの顔を避けて逃げたとき、あなたに現れた神のために、そこで祭壇を造りなさい。」
2 そこでヤコブは自分の家族と、彼と一緒にいるすべての者に言った。「あなたがたの中にある外国の神々を捨て去り、身をきよめ、着物を着替えなさい。
3 さあ立ち上がり、ベテルへ上って行こう。私の苦難の日に私に答え、私の行く道で私と共におられた神に、私はそこで祭壇を造る。」
4 彼らは、自分たちの手にあるすべての外国の神々と、耳にある輪をヤコブに渡した。ヤコブはそれらを、シェケムのそばにある樫の木の下に隠した。
5 彼らは旅立ったが、神からの恐れが彼らの周囲の町々に臨んだので、人々はヤコブの息子たちを追跡しなかった。
6 こうして、ヤコブと彼と一緒にいたすべての民は、カナンの地にあるルズ、すなわちベテルに着いた。
7 彼はそこに祭壇を築き、その場所をエル・ベテル*と呼んだ。彼が兄の顔を避けて逃げたとき、そこで神が彼にご自身を現されたからである。
8 リベカの乳母デボラが死に、ベテルの下の方にある樫の木の下に葬られた。その名はアロン・バクテ† と呼ばれた。
9 ヤコブがパダン・アラムから来たとき、神は再び彼に現れ、彼を祝福された。
10 神は彼に言われた。「あなたの名はヤコブである。あなたの名はもはやヤコブとは呼ばれず、あなたの名はイスラエルとなる。」神は彼をイスラエルと名付けられた。
11 神は彼に言われた。「わたしは全能の神である。生めよ、増えよ。一つの国民と、多くの国民の集まりがあなたから出て、王たちがあなたの体から出る。
12 わたしがアブラハムとイサクに与えた地を、わたしはあなたに与え、あなたの後に続くあなたの子孫にその地を与える。」
13 神は、彼と語られた場所から、彼を離れて上って行かれた。
14 ヤコブは、神が彼と語られた場所に一本の柱、石の柱を立てた。彼はその上に飲み物のささげ物を注ぎ、その上に油を注いだ。
15 ヤコブは、神が彼と語られた場所の名をベテルと呼んだ。
16 彼らはベテルから旅立った。エフラテに着くまでにはまだ少し距離があったが、ラケルは産気づいた。彼女は難産であった。
17 彼女が難産で苦しんでいるとき、助産婦は彼女に言った。「恐れてはいけません。今度もまた、あなたは男の子を授かるのですから。」
18 彼女の命が去ろうとするとき、彼女は死にかけていたので、その子をベン・オニ‡ と名付けたが、父は彼をベニヤミン§ と名付けた。
19 ラケルは死に、エフラテ、すなわちベツレヘムへの道に葬られた。
20 ヤコブは彼女の墓の上に柱を立てた。これは今日に至るまで、ラケルの墓の柱である。
21 イスラエルは旅立ち、エデルの塔の向こうに天幕を張った。
22 イスラエルがその地に住んでいたとき、ルベンは行って、父のそばめであるビルハと寝た。イスラエルはそれを聞いた。
さて、ヤコブの息子は十二人であった。

---

* **35:7** **35:7** エル・ベテルは「ベテルの神」を意味する。 † **35:8** **35:8** アロン・バクテは「泣きの樫の木」を意味する。 ‡ **35:18** **35:18** ベン・オニは「私の悲しみの息子」を意味する。 § **35:18** **35:18** ベニヤミンは「右手の息子」を意味する。

23 レアの息子たちは、ヤコブの長男ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン。
24 ラケルの息子たちは、ヨセフ、ベニヤミン。
25 ラケルの女のしもべビルハの息子たちは、ダン、ナフタリ。
26 レアの女のしもべジルパの息子たちは、ガド、アシェル。これらは、パダン・アラムでヤコブに生まれた息子たちである。
27 ヤコブは、アブラハムとイサクが寄留していたマムレ、キルヤト・アルバ、すなわちヘブロンにいる父イサクのところへ行った。
28 イサクの生涯は百八十年であった。
29 イサクは息を引き取って死に、年老いて日数に満ち、自分の民に加えられた。息子のエサウとヤコブは彼を葬った。

36

1 これはエサウ、すなわちエドムの系図である。
2 エサウはカナンの娘たちの中から妻をめとった。ヘト人エロンの娘アダ、ヒビ人ツィベオンの子アナの娘オホリバマ、
3 そしてイシュマエルの娘で、ネバヨトの妹であるバセマテである。
4 アダはエサウにエリファズを産み、バセマテはレウエルを産んだ。
5 オホリバマはエウシュ、ヤラム、コラを産んだ。これらはカナンの地でエサウに生まれた息子たちである。
6 エサウは、妻たち、息子たち、娘たち、家のすべての人々、家畜、すべての獣、カナンの地で手に入れたすべての持ち物を携えて、弟ヤコブから離れた地へ行った。
7 彼らの財産が多すぎて一緒に住むことができず、彼らの家畜のゆえに、彼らが寄留していた地は彼らを支えきれなかったからである。
8 エサウはセイルの山地に住んだ。エサウはエドムである。
9 セイルの山地に住むエドム人の父エサウの系図は次のとおりである。
10 これらはエサウの息子たちの名である。エサウの妻アダの息子エリファズ、エサウの妻バセマテの息子レウエル。
11 エリファズの息子たちは、テマン、オマル、ツェフォ、ガタム、ケナズであった。
12 ティムナはエサウの息子エリファズのそばめであり、彼女はエリファズにアマレクを産んだ。これらはエサウの妻アダの子どもたちである。
13 これらはレウエルの息子たちである。ナハテ、ゼラ、シャンマ、ミザ。これらはエサウの妻バセマテの子どもたちであった。
14 ツィベオンの子アナの娘である、エサウの妻オホリバマの息子たちは次のとおりである。彼女はエサウにエウシュ、ヤラム、コラを産んだ。
15 エサウの息子たちから出た首長たちは次のとおりである。エサウの長男エリファズの息子たちは、首長テマン、首長オマル、首長ツェフォ、首長ケナズ、
16 首長コラ、首長ガタム、首長アマレク。これらはエドムの地でエリファズから出た首長たちである。これらはアダの子どもたちである。
17 エサウの息子レウエルの息子たちは次のとおりである。首長ナハテ、首長ゼラ、首長シャンマ、首長ミザ。これらはエドムの地でレウエルから出た首長たちである。これらはエサウの妻バセマテの子どもたちである。
18 エサウの妻オホリバマの息子たちは次のとおりである。首長エウシュ、首長ヤラム、首長コラ。これらはエサウの妻であるアナの娘オホリバマから出た首長たちである。
19 これらがエサウ、すなわちエドムの息子たちであり、これらが彼らの首長たちである。

20 その地に住んでいたホリ人セイルの息子たちは次のとおりである。ロタン、ショバル、ツィベオン、アナ、
21 ディション、エツェル、ディシャン。これらはエドムの地でセイルの子どもたちであるホリ人から出た首長たちである。
22 ロタンの子どもたちはホリとヘマムであった。ロタンの妹はティムナであった。
23 これらはショバルの子どもたちである。アルワン、マナハテ、エバル、シェフォ、オナム。
24 これらはツィベオンの子どもたちである。アヤとアナ。父ツィベオンのろばを飼っているときに、荒野で温泉* を見つけたのはこのアナである。
25 これらはアナの子どもたちである。ディションと、アナの娘オホリバマ。
26 これらはディションの子どもたちである。ヘムダン、エシュバン、イトラン、ケラン。
27 これらはエツェルの子どもたちである。ビルハン、ザアワン、アカン。
28 これらはディシャンの子どもたちである。ウツとアラン。
29 これらはホリ人から出た首長たちである。首長ロタン、首長ショバル、首長ツィベオン、首長アナ、
30 首長ディション、首長エツェル、首長ディシャン。これらはセイルの地で、それぞれの首長にしたがう、ホリ人から出た首長たちである。
31 イスラエルの子らを王が治める前に、エドムの地を治めていた王たちは次のとおりである。
32 ベオルの息子ベラがエドムで王として治めた。彼の町の名はディンハバであった。
33 ベラが死に、ボツラのゼラの息子ヨバブが彼に代わって王となった。
34 ヨバブが死に、テマン人の地のフシャムが彼に代わって王となった。
35 フシャムが死に、モアブの野でミディアンを打ったベダデの息子ハダドが彼に代わって王となった。彼の町の名はアビテであった。
36 ハダドが死に、マスレカのサムラが彼に代わって王となった。
37 サムラが死に、川のほとりのレホボトのシャウルが彼に代わって王となった。
38 シャウルが死に、アクボルの息子バアル・ハナンが彼に代わって王となった。
39 アクボルの息子バアル・ハナンが死に、ハダルが彼に代わって王となった。彼の町の名はパウであった。彼の妻の名はメヘタベルといい、メザハブの娘であるマトレドの娘であった。
40 エサウから出た首長たちの名は、それぞれの氏族、それぞれの場所、その名にしたがって次のとおりである。首長ティムナ、首長アルワ、首長エテテ、
41 首長オホリバマ、首長エラ、首長ピノン、
42 首長ケナズ、首長テマン、首長ミブツァル、
43 首長マグディエル、首長イラム。これらが、彼らの所有地にある住まいにしたがうエドムの首長たちである。これがエドム人の父エサウである。

37

1 ヤコブは、父が寄留していた地、カナンの地に住んだ。
2 これはヤコブの記録である。
ヨセフは十七歳のとき、兄弟たちと一緒に群れを飼っていた。彼はまだ若く、父の妻であるビルハの息子たちや、ジルパの息子たちと一緒にいた。ヨセフは彼らの悪いうわさを父に伝えた。

* **36:24 36:24** または「らば」。ヘブライ語の意味は不確かである。

3 イスラエルは自分のどの子よりもヨセフを愛していた。彼が年老いてから生まれた息子だったからである。イスラエルは彼のために、色とりどりの長服* を作った。
4 兄弟たちは、父がどの兄弟よりもヨセフを愛しているのを見て、彼を憎み、彼に穏やかに話しかけることができなかった。
5 ヨセフは夢を見て、それを兄弟たちに告げたので、彼らはさらに彼を憎んだ。
6 彼は彼らに言った。「どうか、私が見たこの夢を聞いてください。
7 見よ、私たちが畑の中で束を束ねていました。すると見よ、私の束が起き上がり、まっすぐに立ちました。そして見よ、あなたがたの束が周りに来て、私の束に向かってお辞儀をしたのです。」
8 兄弟たちは彼に言った。「お前が本当に私たちの王となるというのか。お前が本当に私たちを支配するというのか。」彼らは、彼の夢と彼の言葉のゆえに、さらに彼を憎んだ。
9 彼はまた別の夢を見て、それを兄弟たちに告げて言った。「見よ、私はまた別の夢を見ました。見よ、太陽と月と十一の星が、私に向かってお辞儀をしたのです。」
10 彼はそれを父と兄弟たちに告げた。父は彼を叱って言った。「お前が見たこの夢は何のことだ。私とお前の母と兄弟たちが、本当に進み出て、お前に向かって地にお辞儀をするというのか。」
11 兄弟たちは彼をねたんだが、父はこの言葉を心に留めていた。
12 彼の兄弟たちは、シェケムで父の群れを飼うために出かけて行った。
13 イスラエルはヨセフに言った。「お前の兄弟たちはシェケムで群れを飼っているではないか。さあ、お前を彼らのところへ遣わそう。」
彼は父に「はい、ここにおります」と言った。
14 父は彼に言った。「今すぐ行って、兄弟たちは無事か、群れは無事かを見て、私に報告を持ち帰りなさい。」こうして父は彼をヘブロンの谷から送り出し、彼はシェケムに着いた。
15 ある人が彼を見つけた。見よ、彼は野をさまよっていた。その人は彼に尋ねた。「あなたは何を探しているのですか。」
16 彼は言った。「私は兄弟たちを探しています。彼らがどこで群れを飼っているか、どうか教えてください。」
17 その人は言った。「彼らはここを去りました。『ドタンへ行こう』と彼らが言うのを聞いたからです。」
ヨセフは兄弟たちの後を追い、ドタンで彼らを見つけた。
18 兄弟たちは遠くからヨセフを見た。彼が近づいて来る前に、彼らは彼を殺そうと企んだ。
19 彼らは互いに言った。「見よ、あの夢見る者がやって来る。
20 さぁ今、彼を殺して、あの穴の一つに投げ込もう。そして、『悪い獣が彼を食い殺した』と言おう。彼の夢がどうなるか見てみよう。」
21 ルベンはこれを聞いて、彼を彼らの手から救い出そうとして言った。「彼の命を奪うのはやめよう。」
22 ルベンは彼らに言った。「血を流してはならない。彼をこの荒野にある穴に投げ入れなさい。彼に手を下してはならない。」これは、彼を彼らの手から救い出し、父のところへ返すためであった。
23 ヨセフが兄弟たちのところに来ると、彼らはヨセフの服、彼が着ていた色とりどりの長服を剥ぎ取った。
24 そして彼を捕らえ、穴に投げ込んだ。穴は空で、そこには水がなかった。

* **37:3 37:3** または「袖のある長い服」。

25 彼らが座ってパンを食べていたとき、目を上げて見ると、見よ、イシュマエル人の隊商がギレアデからやって来た。彼らのらくだは香料、乳香、没薬を積んでおり、それをエジプトへ下って運んで行くところであった。
26 ユダは兄弟たちに言った。「私たちが弟を殺し、その血を隠したところで、何の益があるだろうか。
27 さあ、彼をイシュマエル人に売ろう。彼に手を下すのはやめよう。彼は私たちの兄弟であり、私たちの肉だからだ。」兄弟たちは彼に聞き従った。
28 ミディアン人の商人たちが通りかかると、彼らはヨセフを穴から引き上げ、銀二十枚でイシュマエル人にヨセフを売った。彼らはヨセフをエジプトへ連れて行った。
29 ルベンが穴に戻り、ヨセフが穴の中にいないのを見ると、彼は自分の着物を引き裂いた。
30 彼は兄弟たちのところに戻って言った。「あの子がいない。私は、この私はどこへ行けばよいのか。」
31 彼らはヨセフの服を取り、雄山羊を屠り、その血に服を浸した。
32 彼らはその色とりどりの長服を父のところに持って行って言った。「これを見つけました。どうか、これがあなたの息子の服かどうか、確かめてください。」
33 父はそれを見分けて言った。「私の息子の服だ。悪い獣が彼を食い殺したのだ。ヨセフは間違いなく引き裂かれてしまった。」
34 ヤコブは自分の着物を引き裂き、腰に粗布をまとい、幾日も息子のために悼んだ。
35 彼のすべての息子たちとすべての娘たちが彼を慰めようと立ち上がったが、彼は慰められることを拒んだ。彼は言った。「私は悼みながら、息子のいるシェオル† へ下って行くのだ。」こうして父は彼のために泣いた。
36 ミディアン人たちはエジプトで、彼をファラオの役人で、護衛の長であるポティファルに売った。

38

1 そのころ、ユダは兄弟たちから離れて下って行き、ヒラという名のあるアドゥラム人のところに身を寄せた。
2 ユダはそこで、シュアという名のあるカナン人の娘を見た。彼は彼女をめとり、彼女のところに入った。
3 彼女は身ごもって男の子を産み、ユダはその名をエルと呼んだ。
4 彼女は再び身ごもって男の子を産み、その名をオナンと呼んだ。
5 彼女はさらにまた男の子を産み、その名をシェラと呼んだ。彼女が彼を産んだとき、ユダはケジブにいた。
6 ユダは長男エルのために妻をめとった。彼女の名はタマルであった。
7 ユダの長男エルは主の目に邪悪であったので、主は彼を殺された。
8 ユダはオナンに言った。「あなたの兄の妻のところに入り、夫の兄弟としての義務を彼女に果たし、あなたの兄のために子孫を起こしなさい。」
9 オナンは、その子孫が自分のものにならないことを知っていた。それで、兄の妻のところに入るとき、兄に子孫を与えないように、精を地にこぼした。
10 彼が行ったことは主の目に悪であったので、主は彼をも殺された。
11 そこでユダは嫁のタマルに言った。「私の息子シェラが成長するまで、あなたの父の家でやもめとしてとどまっていなさい。」彼が「兄たちのように、彼も死ぬといけない」と考えたからである。タマルは行って、自分の父の家に住んだ。

† **37:35 37:35** シェオルは死者の場所である。

12 時が経ち、ユダの妻であるシュアの娘が死んだ。ユダは慰めを得た後、友
人のアドゥラム人ヒラと共に、ティムナにいる羊の毛を刈る者たちのところ
へ上って行った。
13 タマルは、「見よ、あなたの舅が羊の毛を刈るためにティムナへ上っ
て行く」と告げられた。
14 彼女はやもめの着物を脱ぎ、ベールで身を覆い、身を包んで、ティムナへ
の道にあるエナイムの入り口に座った。シェラが成長したのに、自
分が彼の妻として与えられていないのを見たからである。
15 ユダは彼女を見たとき、彼女が顔を覆っていたので、遊女だと思った。
16 彼は道端の彼女のところへ向きを変え、「さあ、どうかあなたのところ
に入らせてくれ」と言った。彼女が自分の嫁であることを知らなかったからで
ある。
彼女は言った。「私のところに入るために、何をくださいますか。」
17 彼は言った。「群れから子山羊を一匹送ろう。」
彼女は言った。「それを送るまで、私に保証の品をくださいますか。」
18 彼は言った。「何の保証の品を与えようか。」
彼女は言った。「あなたの印章とひも、そしてあなたの手にある杖です。」
彼はそれらを彼女に与え、彼女のところに入り、彼女は彼によって身ごもっ
た。
19 彼女は立ち上がって去り、ベールを脱いで、再びやもめの着物を着た。
20 ユダは女の手から保証の品を受け取るために、友人のアドゥラ
ム人の手で子山羊を送ったが、彼は彼女を見つけられなかった。
21 そこで彼はその場所の人々に尋ねた。「道端のエナイムにいたあの遊女は
どこにいますか。」
彼らは言った。「ここに遊女はいませんでした。」
22 彼はユダのところに戻って言った。「彼女を見つけることはできませんで
した。また、その場所の人々も『ここに遊女はいなかった』と言っていまし
た。」
23 ユダは言った。「私たちが恥をかかないように、彼女にそれらを持たせて
おこう。見よ、私はこの子山羊を送ったが、あなたは彼女を見つけられなかっ
たのだから。」
24 約三か月後、ユダは、「あなたの嫁タマルは遊女のようなことをした。し
かも見よ、彼女は遊女の行いによって身ごもっている」と告げられた。
ユダは言った。「彼女を引き出して、火で焼かせよ。」
25 彼女が引き出されるとき、彼女は舅に人を遣わして言った。「これら
の持ち主である男の人によって、私は身ごもりました。」彼女はさらに言っ
た。「どうか、これらのものが誰のものか、確かめてください。印章と、ひも
と、杖です。」
26 ユダはそれらを認めて言った。「彼女は私よりも正しい。私が息子のシェ
ラに彼女を与えなかったからだ。」彼は二度と彼女を知ることはなかった。
27 彼女の出産の時が来ると、見よ、彼女の胎内には双子がいた。
28 彼女が出産するとき、一人が手を出した。助産婦はそれを取り、そ
の手に赤い糸を結びつけて、「この子が先に出た」と言った。
29 しかし、その子が手を引っ込めると、見よ、その兄弟が出て来たので、彼
女は「どうしてあなたは自分で破れ目を作ったのか」と言った。それゆえ、
彼の名はペレツ* と呼ばれた。
30 その後、手に赤い糸を結んだ兄弟が出て来た。彼の名はゼラと呼ばれた。

* **38:29 38:29** ペレツは「破れ目」を意味する。

39

1 ヨセフはエジプトへ下って連れて行かれた。ファラオの役人で護衛の長であるエジプト人ポティファルが、彼をそこへ下って連れて来たイシュマエル人の手から買い取った。
2 主はヨセフと共におられ、彼は成功する人となった。彼は主人であるエジプト人の家にいた。
3 主が彼と共におられ、彼の手がすることすべてを主が成功させてくださるのを、彼の主人は見た。
4 ヨセフは主人の目に恵みを見出し、彼に仕えた。主人は彼を自分の家の管理人にし、自分のすべての持ち物を彼の手に委ねた。
5 彼がヨセフを家の管理人とし、またそのすべての持ち物を任せた時から、主はヨセフのゆえに、このエジプト人の家を祝福された。主の祝福は、家にあるものにも、野にあるものにも、彼のすべての持ち物の上にあった。
6 彼は自分のすべての持ち物をヨセフの手に任せ、自分が食べる食物のほかは、何一つ自分では気にしなかった。ヨセフは体つきも良く、顔立ちも美しかった。
7 これらのことの後、主人の妻がヨセフに目を向け、「私と寝なさい」と言った。
8 しかし彼は拒み、主人の妻に言った。「見てください。私の主人は、家の中のことについては何も私に問いません。主人はご自分のすべての持ち物を私の手に委ねられました。
9 この家の中で、私より大きな者はいません。主人は、あなたが奥様であるという以外は、何一つ私に禁じておられません。それなのに、どうして私がこのような大きな悪を行い、神に対して罪を犯すことができるでしょうか。」
10 彼女は毎日ヨセフに言い寄ったが、彼は彼女のそばに寝ることも、彼女と一緒にいることも聞き入れなかった。
11 ある日のこと、彼が仕事をするために家に入ると、家の中には家の者が一人もいなかった。
12 彼女は彼の服をつかんで、「私と寝なさい」と言った。
しかし、彼は自分の服を彼女の手に残したまま、逃げて外へ出た。
13 彼が自分の服を彼女の手に残して外へ逃げたのを見ると、
14 彼女は家の者たちを呼んで言った。「見てください。私たちを侮辱するために、あの人はヘブライ人を連れて来ました。彼が私と寝ようとして入って来たので、私は大声で叫びました。
15 私が声を上げて叫ぶのを聞くと、彼は服を私のそばに残し、逃げて外へ出たのです。」
16 彼女は主人が家に帰って来るまで、その服を自分のそばに置いておいた。
17 彼女は主人に同じ言葉で語って言った。「あなたが私たちのところに連れて来たあのヘブライ人のしもべが、私を侮辱しようとして入って来ました。
18 私が声を上げて叫んだので、彼は服を私のそばに残し、外へ逃げました。」
19 主人は、「あなたのしもべは私にこのようなことをしました」と彼女が語った妻の言葉を聞くと、激しく怒った。
20 ヨセフの主人は彼を捕らえ、王の囚人たちがつながれている場所である監獄に入れた。こうして彼はその監獄にいた。
21 しかし主はヨセフと共におられ、彼に慈しみを示し、監獄の長の目に恵みを得させられた。
22 監獄の長は、監獄にいるすべての囚人をヨセフの手に委ねた。彼らがそこで行うすべてのことは、ヨセフが取り仕切った。
23 監獄の長は、ヨセフの手に任せたことについては何一つ気にかけなかった。主が彼と共におられ、彼が行うことを主が成功させてくださったからである。

40

1 これらのことの後、エジプトの王の献酌官と料理人が、彼らの主君であるエジプトの王に対して罪を犯した。
2 ファラオは二人の高官、すなわち献酌官の長と料理人の長に向かって怒った。
3 彼は彼らを、護衛の長の家にある監獄、すなわちヨセフがつながれていた場所に入れた。
4 護衛の長は彼らをヨセフに任せ、ヨセフは彼らに仕えた。彼らはしばらくの間、監獄にいた。
5 監獄につながれていたエジプトの王の献酌官と料理人の二人は、同じ夜にそれぞれ夢を見た。それぞれの夢には意味があった。
6 朝になってヨセフが彼らのところに行き、彼らを見ると、見よ、彼らは沈んだ顔をしていた。
7 彼は主人の家で自分と一緒に監獄にいるファラオの高官たちに尋ねて言った。「なぜ今日、あなたがたの顔色は悪いのですか。」
8 彼らは彼に言った。「私たちは夢を見たが、それを解き明かしてくれる人がいないのだ。」
ヨセフは彼らに言った。「解き明かしは神に属することではありませんか。どうか、私に話してください。」
9 献酌官の長は自分の夢をヨセフに話して言った。「私の夢の中で、見よ、私の前に一本のぶどうの木があった。
10 そのぶどうの木には三本の枝があった。それは芽を出し、花を咲かせ、房が熟してぶどうになったかのようだった。
11 ファラオの杯が私の手にあったので、私はそのぶどうを取り、ファラオの杯の中に搾り、その杯をファラオの手に渡した。」
12 ヨセフは彼に言った。「その解き明かしはこうです。三本の枝は三日です。
13 今から三日以内に、ファラオはあなたの頭を上げ、あなたを元の地位に戻すでしょう。あなたは、以前に献酌官であったときのように、ファラオの手に杯を渡すようになります。
14 しかし、あなたが幸いを得たときには、私のことを思い出し、どうか私に慈しみを示してください。私のことをファラオに話し、私をこの家から出してください。
15 実は、私はヘブライ人の地からさらわれて来ました。そしてここでも、私はこの穴に入れられるようなことは何もしていないのです。」
16 料理人の長は、その解き明かしが良いのを見て、ヨセフに言った。「私も夢を見た。見よ、私の頭の上に白いパンの入った三つの籠があった。
17 一番上の籠には、ファラオのためのあらゆる種類の焼き菓子が入っていたが、鳥が私の頭の上の籠からそれらを食べていた。」
18 ヨセフは答えて言った。「その解き明かしはこうです。三つの籠は三日です。
19 今から三日以内に、ファラオはあなたの頭をあなたから取り去り、あなたを木に吊るすでしょう。そして鳥があなたの肉を食べるでしょう。」
20 三日目はファラオの誕生日であり、彼はすべての家来たちのために宴会を催した。彼は家来たちの中で、献酌官の長の頭と、料理人の長の頭を上げた。
21 彼は献酌官の長をその献酌の役職に戻し、献酌官はファラオの手に杯を渡した。
22 しかし、彼は料理人の長を吊るした。ヨセフが彼らに解き明かしたとおりであった。
23 それでも、献酌官の長はヨセフのことを思い出さず、彼を忘れてしまった。

41

1 丸二年が経った後、ファラオは夢を見た。見よ、彼はナイル川のほとりに立っていた。
2 見よ、ナイル川から見栄えが良く肉付きの良い七頭の雌牛が上がって来て、葦の中で草を食べていた。
3 見よ、その後から、見栄えが悪く痩せこけた別の七頭の雌牛がナイル川から上がって来て、川岸にいる他の雌牛たちのそばに立った。
4 見栄えが悪く痩せこけた雌牛が、見栄えが良く肉付きの良い七頭の雌牛を食べてしまった。そこでファラオは目を覚ました。
5 彼は再び眠りにつき、二度目の夢を見た。見よ、一本の茎から、よく実って丸々とした七つの良い穂が出て来た。
6 見よ、その後から、細くて東風に焼け焦げた七つの穂が出て来た。
7 細い穂が、丸々と実った七つの穂を飲み込んでしまった。ファラオは目を覚ました。見よ、それは夢であった。
8 朝になると、彼の心は騒いだ。彼は人を遣わして、エジプトのすべての魔術師とすべての知者たちを呼び寄せた。ファラオは彼らに自分の夢を話したが、ファラオのためにそれを解き明かせる者はいなかった。
9 その時、献酌官の長がファラオに語って言った。「私は今日、自分の過ちを思い出しました。
10 ファラオが家来たちに向かって怒り、私と料理人の長を護衛の長の家にある監獄に入れられたことがありました。
11 私と彼は同じ夜に夢を見ました。私たちは、それぞれ意味を持つ夢を見たのです。
12 そこに、護衛の長のしもべであるヘブライ人の若者が、私たちと一緒にいました。私たちが彼に話すと、彼は私たちの夢を解き明かしてくれました。彼は、それぞれの夢にしたがって解き明かしてくれたのです。
13 そして、彼が私たちに解き明かしたとおりになりました。私は元の役職に戻され、彼は吊るされました。」
14 そこでファラオは人を遣わしてヨセフを呼んだ。人々は急いで彼を地下牢から連れ出した。彼はひげをそり、着物を着替えて、ファラオの前に出た。
15 ファラオはヨセフに言った。「私は夢を見たが、それを解き明かせる者がいない。あなたについては、夢を聞いてそれを解き明かすことができると聞いた。」
16 ヨセフはファラオに答えて言った。「私ではありません。神がファラオに平安の答えを与えてくださるでしょう。」
17 ファラオはヨセフに言った。「夢の中で、見よ、私はナイル川の岸に立っていた。
18 見よ、ナイル川から肉付きが良く見栄えの良い七頭の雌牛が上がって来て、葦の中で草を食べていた。
19 見よ、その後から、弱々しく、非常に見栄えが悪く痩せこけた別の七頭の雌牛が上がって来た。私はエジプトの全土で、これほど見栄えの悪いものを見たことがない。
20 痩せて見栄えの悪い雌牛は、最初の丸々と太った七頭の雌牛を食べてしまった。
21 それらを食べてしまっても、食べたことがわからないほど、初めと同じように見栄えが悪かった。そこで私は目を覚ました。
22 私はまた夢の中で見た。見よ、一本の茎から、丸々と実った七つの良い穂が出て来た。
23 見よ、その後から、しなびて細く、東風に焼け焦げた七つの穂が出て来た。
24 細い穂が、良い七つの穂を飲み込んでしまった。私はこれを魔術師たちに話したが、私に説明できる者はいなかった。」

25 ヨセフはファラオに言った。「ファラオの夢は一つです。神がこれからなさることを、ファラオに示されたのです。
26 良い七頭の雌牛は七年であり、良い七つの穂も七年です。夢は一つです。
27 その後から上がって来た、痩せて見栄えの悪い七頭の雌牛も七年であり、東風に焼け焦げた、中身のない七つの穂もそうです。それは飢饉の七年となります。
28 私がファラオに申し上げたのはこのことです。神がこれからなさることを、ファラオにお見せになったのです。
29 見よ、エジプトの全土に、大豊作の七年が来ます。
30 その後、飢饉の七年が起こります。エジプトの地で、豊作はすべて忘れ去られ、飢饉がその地を滅ぼし尽くすでしょう。
31 その後に来る飢饉が非常に激しいため、この地での豊作は知られなくなります。
32 夢がファラオに二度繰り返されたのは、このことが神によって定められており、神が速やかにそれを行われるからです。
33 ですから今、ファラオは聡明で知恵のある人を見つけ、その人をエジプトの地の上に置くべきです。
34 ファラオはこのように行い、国の上に監督官たちを任命し、豊作の七年の間にエジプトの地の収穫の五分の一を徴収させてください。
35 彼らに、これから来る良い年々のすべての食料を集めさせ、ファラオの権威の下に町々に穀物を蓄えさせ、彼らにそれを守らせてください。
36 その食料は、エジプトの地に起こる飢饉の七年に備える、この国の蓄えとなります。そうすれば、この国が飢饉によって滅びることはありません。」
37 この提案はファラオの目にも、そのすべての家来たちの目にも良いとされた。
38 ファラオは家来たちに言った。「神の霊が宿っているこのような人を、ほかに見つけることができるだろうか。」
39 ファラオはヨセフに言った。「神がこれらすべてをあなたに示されたのだから、あなたのように聡明で知恵のある者はいない。
40 あなたは私の家を治め、私のすべての民はあなたの言葉に従う。王座においてのみ、私はあなたより上に立つ。」
41 ファラオはヨセフに言った。「見よ、私はあなたをエジプトの全土の上に置く。」
42 ファラオは自分の手から指輪を外し、それをヨセフの手にはめ、上等の亜麻布の衣を着せ、彼の首に金の鎖をかけた。
43 彼はヨセフを自分の第二の戦車に乗せ、人々は彼の前で「ひざまずけ」と叫んだ。こうしてファラオは彼をエジプトの全土の上に置いた。
44 ファラオはヨセフに言った。「私はファラオである。あなたの許可なしには、エジプトの全土で誰も手足を上げることはない。」
45 ファラオはヨセフの名をツァフェナテ・パネア*と呼び、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテを彼の妻として与えた。ヨセフはエジプトの地を巡回した。
46 ヨセフがエジプトの王ファラオの前に立ったとき、彼は三十歳であった。ヨセフはファラオの前から出て行き、エジプトの全土を巡回した。
47 豊作の七年の間に、地は豊かに産み出した。
48 彼はエジプトの地にあった七年間のすべての食料を集め、その食料を町々に蓄えた。彼は各々の町の周囲の畑の食料を、その町の中に蓄えた。
49 ヨセフは穀物を海の砂のように、非常に多く蓄えた。ついには数えきれなくなったので、数えるのをやめたほどであった。

* **41:45 41:45** ツァフェナテ・パネアの意味は不確かである。

50 飢饉の年が来る前に、ヨセフに二人の息子が生まれた。オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが彼に産んだのである。
51 ヨセフは長男の名をマナセ†と名付けた。彼が「神が、私のすべての労苦と、私の父のすべての家を忘れさせてくださったからだ」と言ったからである。
52 彼は次男の名をエフライム‡と名付けた。彼が「神が、私の苦しみの地で私を実り多い者としてくださったからだ」と言ったからである。
53 エジプトの地にあった豊作の七年が終わった。
54 ヨセフが言ったとおり、飢饉の七年が始まった。すべての国々に飢饉があったが、エジプトの全土にはパンがあった。
55 エジプトの全土が飢えたとき、民はファラオにパンを求めて叫んだ。ファラオはすべてのエジプト人に言った。「ヨセフのところへ行け。彼があなたがたに言うことを行いなさい。」
56 飢饉は全地の表に広がっていた。ヨセフはすべての倉を開き、エジプト人に穀物を売った。飢饉はエジプトの地で激しかった。
57 全地の国々が、穀物を買うためにエジプトのヨセフのところへ来た。全地で飢饉が激しかったからである。

42

1 さて、ヤコブはエジプトに穀物があるのを見て、息子たちに言った。「なぜあなたがたは顔を見合わせているのか。」
2 彼は言った。「見よ、エジプトに穀物があると聞いた。そこへ下って行き、私たちのためにそこから買って来なさい。私たちが死なずに生き延びるためだ。」
3 ヨセフの十人の兄弟たちは、エジプトから穀物を買うために下って行った。
4 しかしヤコブは、ヨセフの弟ベニヤミンを兄弟たちと一緒には行かせなかった。彼が「彼に災いが降りかかるといけない」と考えたからである。
5 カナンの地にも飢饉があったので、イスラエルの子らは、やって来る人々に混じって買いに行った。
6 ヨセフはその地の統治者であり、その地のすべての民に穀物を売っていた。ヨセフの兄弟たちはやって来て、顔を地に伏せて彼に向かってお辞儀をした。
7 ヨセフは兄弟たちを見て彼らだとわかったが、彼らに対して見知らぬ者のように振る舞い、厳しく語りかけた。彼は彼らに言った。「あなたがたはどこから来たのか。」
彼らは言った。「食物を買うために、カナンの地から来ました。」
8 ヨセフは兄弟たちだとわかったが、彼らには彼だとわからなかった。
9 ヨセフは彼らについて見た夢を思い出し、彼らに言った。「あなたがたはスパイだ。この国の隙をうかがうために来たのだ。」
10 彼らは彼に言った。「いいえ、ご主人様。あなたのしもべたちは食物を買うために来たのです。
11 私たちは皆、一人の人の息子です。私たちは正直な者であり、あなたのしもべたちはスパイではありません。」
12 彼は彼らに言った。「いや、あなたがたはこの国の隙をうかがうために来たのだ。」
13 彼らは言った。「あなたのしもべである私たちは、カナンの地にいる一人の人の息子たちで、十二人の兄弟です。見よ、一番下の者は今日、父と一緒にいます。そして一人は、もういません。」

† **41:51** **41:51** マナセはヘブライ語の「忘れる」という言葉に似ている。
‡ **41:52** **41:52** エフライムはヘブライ語の「実を結ぶ」という言葉に似ている。

14 ヨセフは彼らに言った。「私があなたがたに『あなたがたはスパイだ』と言ったのは、そのことだ。
15 このことによってあなたがたは試される。ファラオの命にかけて言う。あなたがたの一番下の弟がここに来ない限り、あなたがたはここから出ることはできない。
16 あなたがたのうちの一人を遣わして、弟を連れて来させなさい。あなたがたは監獄に入れられる。あなたがたの言葉が試され、あなたがたのうちに真実があるかどうかがわかる。もしないなら、ファラオの命にかけて言うが、あなたがたは確かにスパイだ。」
17 彼は彼らを一緒に三日間、監獄に入れた。
18 三日目にヨセフは彼らに言った。「このことを行って、生き延びなさい。私は神を恐れている。
19 もしあなたがたが正直な者なら、あなたがた兄弟のうち一人だけが監獄に残りなさい。あなたがたは行って、飢えている家族のために穀物を持ち帰りなさい。
20 そして、あなたがたの一番下の弟を私のところに連れて来なさい。そうすれば、あなたがたの言葉は証明され、あなたがたは死なないだろう。」彼らはそのようにした。
21 彼らは互いに言った。「私たちは本当に弟のことで罪を負っている。彼が私たちに哀願したとき、私たちは彼の魂の苦しみを見たのに、聞き入れなかった。だから、この苦しみが私たちに降りかかったのだ。」
22 ルベンは彼らに答えて言った。「私はあなたがたに『あの少年に罪を犯してはならない』と言ったではないか。しかしあなたがたは聞き入れなかった。だから見よ、彼の血の責任が問われているのだ。」
23 彼らはヨセフがそれを理解しているとは知らなかった。彼らの間には通訳がいたからである。
24 ヨセフは彼らから離れて行き、泣いた。そして彼らのところに戻り、彼らと話し、彼らの中からシメオンを取り、彼らの目の前で縛った。
25 それからヨセフは、彼らの袋に穀物を満たし、各々の銀をそれぞれの袋に戻し、道中のための食料を彼らに与えるように命じた。そのように彼らに行われた。
26 彼らは穀物をろばに積んで、そこを出発した。
27 宿泊所で、彼らの一人がろばに餌をやるために袋を開けると、自分の銀が見えた。見よ、それは袋の口にあった。
28 彼は兄弟たちに言った。「私の銀が戻されている。見よ、私の袋の中にある。」彼らの心は沈み、彼らは震えながら互いに向き合って言った。「神は私たちに何ということをされたのか。」
29 彼らはカナンの地にいる父ヤコブのところに帰り、自分たちに起こったすべてのことを彼に告げて言った。
30 「その国の主である人が私たちに厳しく語りかけ、私たちをその国のスパイとみなしました。
31 私たちは彼に言いました。『私たちは正直な者です。スパイではありません。
32 私たちは一人の父の息子たちで、十二人の兄弟です。一人はもうおらず、一番下の者は今日、カナンの地で父と一緒にいます。』
33 その国の主である人は私たちに言いました。『あなたがたが正直な者であることを、このことによって私は知るだろう。あなたがたの兄弟の一人を私のもとに残し、飢えている家族のために穀物を持って行きなさい。
34 そして、あなたがたの一番下の弟を私のところに連れて来なさい。そうすれば、私はあなたがたがスパイではなく、正直な者であることがわかる。そして、あなたがたの兄弟をあなたがたに渡し、あなたがたはこの国で自由に行き来できるだろう。』」

35 彼らが袋を空にすると、見よ、各々の銀包みがその袋の中にあった。彼らと彼らの父がその銀包みを見たとき、彼らは恐れた。
36 父ヤコブは彼らに言った。「あなたがたは私から子どもたちを奪ってしまった。ヨセフはもうおらず、シメオンもいない。そして今度はベニヤミンを連れ去ろうとしている。これらすべてのことが私に降りかかっているのだ。」
37 ルベンは父に語って言った。「もし私が彼をあなたのもとに連れ帰らなかったなら、私の二人の息子を殺してもかまいません。彼を私の手に委ねてください。私が彼をあなたのもとに連れ帰ります。」
38 彼は言った。「私の息子はあなたがたと一緒に下って行くことはない。彼の兄は死に、彼だけが残されているからだ。もしあなたがたが行く道中で彼に災いが降りかかれば、あなたがたは白髪の私を悲しみと共にシェオル* へ下らせることになる。」

43

1 その地では飢饉が激しかった。
2 彼らがエジプトから持ち帰った穀物を食べ尽くしたとき、父は彼らに言った。「また行って、私たちのために少し食物を買って来なさい。」
3 ユダは彼に語って言った。「あの人は厳しく私たちに警告して、『あなたがたの弟が一緒にいない限り、私の顔を見てはならない』と言いました。
4 もしあなたが弟を私たちと一緒に遣わしてくださるなら、私たちは下って行って、あなたのために食物を買って来ます。
5 しかし、もしあなたが彼を遣わさないなら、私たちは下って行きません。あの人が私たちに、『あなたがたの弟が一緒にいない限り、私の顔を見てはならない』と言ったからです。」
6 イスラエルは言った。「なぜあなたがたは、もう一人弟がいるなどと言って、私にそんな悪いことをしたのか。」
7 彼らは言った。「あの人が、私たちのことや私たちの親族について詳しく尋ね、『あなたがたの父はまだ生きているか。あなたがたにはもう一人兄弟がいるか』と言ったのです。私たちはただ、その質問に答えただけです。彼が『弟を連れて下って来い』と言うと、どうして知ることができたでしょうか。」
8 ユダは父イスラエルに言った。「その少年を私と一緒に遣わしてください。そうすれば私たちは立ち上がって行きます。私たちも、あなたも、私たちの幼い子どもたちも、死なずに生き延びるためです。
9 私が彼の保証人になります。私の手から彼を求めてください。もし私が彼をあなたのもとに連れ帰り、あなたの前に立たせなかったなら、私に一生その罪を負わせてください。
10 もし私たちがぐずぐずしていなかったら、今頃は二度も行って帰って来られたはずです。」
11 彼らの父イスラエルは彼らに言った。「どうしてもそうしなければならないのなら、こうしなさい。この地の最も良い産物を器に入れ、あの人への贈り物として持って下りなさい。少しの香油、少しの蜂蜜、香料、没薬、ピスタチオ、アーモンドだ。
12 手には二倍の銀を持って行きなさい。袋の口に戻されていた銀も、手に持って帰りなさい。それは何かの間違いだったのかもしれない。
13 あなたがたの弟も連れて、立ち上がり、再びあの人のところへ行きなさい。

* **42:38 42:38** シェオルは死者の場所である。

14 全能の神が、あの人の前であなたがたにあわれみを与え、あの人があなたがたのもう一人の兄弟とベニヤミンを解放してくれるように。私については、子を失うのなら、失うしかない。」
15 彼らはその贈り物を取り、手に二倍の銀を持ち、ベニヤミンも連れた。彼らは立ち上がってエジプトへ下り、ヨセフの前に立った。
16 ヨセフは彼らと一緒にベニヤミンを見ると、自分の家の管理人に言った。「この人たちを家の中に連れて行き、動物を屠って準備しなさい。この人たちは昼に私と一緒に食事をするからだ。」
17 その人はヨセフが命じたとおりに行い、人々をヨセフの家へ連れて行った。
18 彼らはヨセフの家に連れて行かれたので恐れて、言った。「私たちが連れて来られたのは、最初に袋に戻されていた銀のためだ。私たちに言いがかりをつけて襲いかかり、私たちを奴隷にし、私たちのろばも奪うつもりなのだ。」
19 彼らはヨセフの家の管理人に近づき、家の戸口で彼に話しかけて、
20 言った。「あぁ、ご主人様。私たちは最初、食物を買うために下って来ました。
21 私たちが宿泊所に着いて袋を開けると、見よ、各々の銀が袋の口にありました。私たちの銀が全額そのままありました。私たちはそれを手に持って再び来ました。
22 また、食物を買うための別の銀も手に持って下って来ました。誰が私たちの銀を袋に入れたのか、私たちにはわかりません。」
23 彼は言った。「安心しなさい。恐れることはありません。あなたがたの神、あなたがたの父の神が、あなたがたの袋に宝を与えてくださったのです。あなたがたの銀は、私が受け取っています。」そして彼はシメオンを彼らのところに連れ出した。
24 その人は彼らをヨセフの家に入れ、水を与えたので、彼らは足を洗った。彼は彼らのろばに餌を与えた。
25 彼らは昼にヨセフが来るまでに、贈り物を準備した。彼らがそこで食事をすると聞いていたからである。
26 ヨセフが家に帰って来ると、彼らは手にしていた贈り物を家の中にいる彼のもとに持って行き、地に向かって彼にお辞儀をした。
27 ヨセフは彼らの安否を尋ねて言った。「あなたがたが話していた年老いた父上は無事か。彼はまだ生きているか。」
28 彼らは言った。「あなたのしもべである私たちの父は無事です。まだ生きています。」彼らは頭を下げてお辞儀をした。
29 ヨセフが目を上げて、自分の母の息子、弟ベニヤミンを見ると、彼は言った。「これが、あなたがたが私に話していた一番下の弟か。」そして言った。「神があなたに恵みを与えてくださるように、私の子よ。」
30 弟への愛情が込み上げて来たため、ヨセフは急いで泣く場所を探した。彼は自分の部屋に入り、そこで泣いた。
31 彼は顔を洗い、外に出て来た。そして自分を抑えて、「食事を出しなさい」と言った。
32 人々はヨセフのために別に、彼らのために別に、また彼と一緒に食べるエジプト人たちのためにも別に食事を出した。エジプト人はヘブライ人と一緒に食事をすることができないからである。それはエジプト人にとって忌まわしいことだったからである。
33 彼らはヨセフの前に、長男は長男の席に、一番下の者は一番下の者の席に座らせられたので、彼らは互いに驚いて顔を見合わせた。
34 ヨセフは自分の前から彼らに分け前を送ったが、ベニヤミンの分け前は彼らの誰の分け前よりも五倍も多かった。彼らは飲み、ヨセフと共に楽しんだ。

44

1 ヨセフは自分の家の管理人に命じて言った。「あの人々の袋に、彼らが運べるだけの食料を満たしなさい。そして、それぞれの銀をその袋の口に入れなさい。
2 また、私の杯、あの銀の杯を、一番下の者の袋の口に、彼の穀物の代金の銀と一緒に入れなさい。」管理人はヨセフが言った言葉のとおりに行った。
3 朝が明るくなるとすぐに、彼らはろばと共に送り出された。
4 彼らが町を出て、まだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは管理人に言った。「立って、あの人々を追いかけなさい。彼らに追いついたら、こう言いなさい。『なぜあなたがたは、善に悪を返したのか。
5 これは私の主人が飲む杯であり、また占いに用いるものではないか。あなたがたのしたことは悪である。』」
6 管理人は彼らに追いつき、これらの言葉を彼らに語った。
7 彼らは彼に言った。「ご主人様、なぜそのようなことを言われるのですか。あなたのしもべたちがそのようなことをするなど、決してあり得ません。
8 見よ、私たちは自分たちの袋の口に見つけた銀を、カナンの地からあなたに持ち帰りました。どうして私たちが、あなたの主人の家から銀や金を盗むでしょうか。
9 あなたのしもべたちのうち、それが誰のところで見つかったとしても、その者は死なせてください。私たちもご主人様の奴隷になります。」
10 彼は言った。「それでは、あなたがたの言葉のとおりにしよう。それが見つかった者は私の奴隷となり、あなたがたは無罪となる。」
11 そこで彼らは急いで、それぞれ自分の袋を地面に下ろし、それぞれ自分の袋を開けた。
12 管理人は一番上の者から始め、一番下の者で終わるように探した。すると杯はベニヤミンの袋で見つかった。
13 そこで彼らは自分の着物を引き裂き、それぞれ自分のろばに荷を積んで町へ戻った。
14 ユダとその兄弟たちはヨセフの家に来た。ヨセフはまだそこにいた。彼らは彼の前で地にひれ伏した。
15 ヨセフは彼らに言った。「あなたがたがしたこの仕業は何だ。私のような者が、確かに占いをすることを知らなかったのか。」
16 ユダは言った。「ご主人様に何と申し上げましょうか。何を語りましょうか。どのようにして潔白を示せるでしょうか。神があなたのしもべたちの咎を見つけ出されたのです。見よ、私たちはご主人様の奴隷です。私たちも、手から杯が見つかった者もです。」
17 ヨセフは言った。「私がそのようなことをするなど、決してあり得ない。手から杯が見つかった者だけが私の奴隷となる。あなたがたは、安らかに父のところへ上って行きなさい。」
18 そのとき、ユダは彼に近づいて言った。「ああ、ご主人様、どうかあなたのしもべに、ご主人様の耳に一言だけ語らせてください。あなたのしもべに対して怒りを燃やさないでください。あなたはファラオと同じような方だからです。
19 ご主人様はしもべたちに尋ねて、『あなたがたには父、あるいは兄弟がいるか』と言われました。
20 私たちはご主人様に言いました。『私たちには年老いた父と、父が年老いてから生まれた幼い子がいます。その子の兄は死に、母の子として彼だけが残されているので、父は彼を愛しています。』
21 あなたはしもべたちに言われました。『その子を私のところへ連れて下って来い。私がこの目で彼を見よう。』
22 私たちはご主人様に言いました。『あの少年は父から離れることができません。もし父から離れれば、父は死んでしまうでしょう。』

23 しかしあなたはしもべたちに言われました。『あなたがたの一番
下の弟が一緒に下って来ない限り、あなたがたは二度と私の顔を見てはならな
い。』
24 私たちはあなたのしもべである私の父のところへ上って行き、ご主人
様の言葉を父に告げました。
25 私たちの父は言いました。『また行って、私たちのために少し食物を買っ
て来なさい。』
26 私たちは言いました。『私たちは下って行くことはできません。もし一番
下の弟が私たちと一緒なら、下って行きます。一番下の弟が私たちと一緒でな
ければ、あの方の顔を見ることができないからです。』
27 あなたのしもべである私の父は私たちに言いました。『私の妻が私に二
人の息子を産んだことを、あなたがたは知っている。
28 一人は私のもとから出て行ったので、私は「きっと彼は引き裂かれたの
だ」と言った。そして、それ以来彼を見ていない。
29 もしあなたがたがこの子までも私から奪い去り、彼に災いが降りかかれ
ば、あなたがたは白髪の私を悲しみと共にシェオル*
へ下らせることになる。』
30 ですから今、私があなたのしもべである父のところへ帰り、あの少
年が私たちと一緒でなかったなら、父の命はあの少年の命と結びついているので、
31 父はあの少年がいないのを見ると、死んでしまうでしょう。あなたのしも
べたちは、あなたのしもべである私たちの父の白髪を、悲しみと共にシェオル†
へ下らせることになります。
32 あなたのしもべは父に対し、あの少年の保証人となって、『もし私が彼を
あなたのもとに連れ帰らなかったなら、私は一生、父に対してその罪を負いま
す』と言ったのです。
33 ですから今、どうかあなたのしもべをあの少年の代わりに、ご主人様の奴
隷としてとどまらせてください。あの少年は兄弟たちと一緒に上って行かせて
ください。
34 もしあの少年が私と一緒でなければ、どうして私は父のところへ上っ
て行くことができるでしょうか。父に降りかかる災いを見たくありません。」

45

1 そのとき、ヨセフは自分の前に立っているすべての人の前で、自分を抑え
ることができなくなり、「すべての人を私の前から出しなさい」と叫んだ。ヨ
セフが兄弟たちに自分を明かしたとき、ほかの誰も彼と一緒に立っていなかっ
た。
2 彼は声を上げて泣いた。エジプト人たちはそれを聞き、ファラオの家もそ
れを聞いた。
3 ヨセフは兄弟たちに言った。「私はヨセフです。父はまだ生きています
か。」
兄弟たちは彼に答えることができなかった。彼の前でおびえていたからである。
4 ヨセフは兄弟たちに言った。「どうか、私に近づいてください。」
彼らが近づくと、彼は言った。「私はあなたがたの兄弟ヨセフです。あなた
がたがエジプトに売った者です。
5 今、私をここに売ったことで心を痛めたり、自分を責めたりしないでくだ
さい。神が命を救うために、あなたがたより先に私を遣わしてくださったのです。
6 この二年間、この地に飢饉がありました。そしてまだ五年、耕すこと
も刈り入れることもない年があります。

---

* **44:29 44:29** シェオルは死者の場所である。 † **44:31 44:31** シェオルは死者の場所である。

7 神は、あなたがたのために地上に残りの者を保ち、大いなる救いによってあなたがたを生き延びさせるために、あなたがたより先に私を遣わされました。
8 ですから今、私をここに遣わしたのはあなたがたではなく、神なのです。神は私をファラオの父、その全家の主、そしてエジプト全土の統治者とされました。
9 急いで私の父のところへ上って行き、父に告げてください。『あなたの息子ヨセフはこう言っています。「神は私をエジプト全体の主とされました。私のところへ下って来てください。ためらわないでください。
10 あなたはゴシェンの地に住むことになります。あなたも、子どもたちも、孫たちも、羊の群れも、牛の群れも、あなたのすべての持ち物も、私の近くにいることになります。
11 そこで私があなたを養いましょう。まだ五年の飢饉があるからです。あなたも、あなたの家族も、あなたのすべての持ち物も、貧しくなることのないようにするためです。」』
12 見よ、あなたがたの目も、私の弟ベニヤミンの目も、あなたがたに語っているのが私自身の口であることを見ています。
13 あなたがたは、エジプトでの私のすべての栄光と、あなたがたが見たすべてのことを、私の父に告げなければなりません。急いで私の父をここに連れて下って来てください。」
14 ヨセフは弟ベニヤミンの首を抱いて泣き、ベニヤミンも彼の首を抱いて泣いた。
15 彼はすべての兄弟たちに口づけし、彼らを抱いて泣いた。その後、兄弟たちは彼と語り合った。
16 その知らせはファラオの家で聞かれ、「ヨセフの兄弟たちが来た」と言われた。それはファラオとその家来たちの目に良いことと思われた。
17 ファラオはヨセフに言った。「あなたの兄弟たちに言いなさい。『このようにしなさい。あなたがたの家畜に荷を積み、カナンの地へ行きなさい。
18 あなたがたの父と家族を連れて、私のところへ来なさい。私はあなたがたにエジプトの地の良いものを与え、あなたがたはその地の最良のものを食べるだろう。』
19 また、あなたはこのように命じなさい。『あなたがたの幼い子どもたちと妻たちのために、エジプトの地から荷車を取り、あなたがたの父を乗せて来なさい。
20 また、持ち物のことを気にしなくてよい。エジプト全土の良いものは、あなたがたのものだからだ。』」
21 イスラエルの子らはそのようにした。ヨセフはファラオの命令にしたがって彼らに荷車を与え、道中のための食料を与えた。
22 彼は彼ら全員に、それぞれ着替えの衣を与え、ベニヤミンには銀三百枚と五着の着替えの衣を与えた。
23 彼は父のために次のものを送った。エジプトの良いものを積んだ十頭のろば、父の道中のために穀物とパンと食料を積んだ十頭の雌ろばである。
24 こうしてヨセフは兄弟たちを送り出し、彼らは旅立った。ヨセフは彼らに「途中で言い争わないように」と言った。
25 彼らはエジプトから上って行き、カナンの地にある彼らの父ヤコブのところへ来た。
26 彼らは父に告げて、「ヨセフはまだ生きています。そして、彼がエジプト全土の統治者です」と言った。ヤコブの心はぼう然とした。彼らを信じなかったからである。
27 彼らはヨセフが彼らに語ったすべての言葉を父に伝えた。ヨセフが自分を運ぶために送った荷車を見ると、彼らの父ヤコブの霊は生き返った。

28 イスラエルは言った。「もう十分だ。私の息子ヨセフがまだ生きているとは。私は死ぬ前に、行って彼に会おう。」

46

1 イスラエルは自分のすべての持ち物と共に旅立ち、ベエル・シェバに来て、父イサクの神にいけにえをささげた。
2 神は夜の幻の中でイスラエルに語り、「ヤコブ、ヤコブ」と言われた。
彼は「はい、ここにおります」と言った。
3 神は言われた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトへ下ることを恐れてはならない。そこでわたしはあなたを大いなる国民とするからである。
4 わたしはあなたと一緒にエジプトへ下って行く。わたしは必ずあなたを再び上らせる。ヨセフの手があなたの目を閉じるだろう。」
5 ヤコブはベエル・シェバから旅立った。イスラエルの子らは、自分たちの父ヤコブと、その幼い子どもたち、その妻たちを、彼を運ぶためにファラオが送った荷車に乗せた。
6 彼らは家畜と、カナンの地で得た財産を取り、エジプトへ来た。ヤコブと、彼と一緒にいたすべての子孫である。
7 彼の息子たち、彼と一緒にいた息子たちの息子たち、彼の娘たち、彼の息子たちの娘たち。彼は自分のすべての子孫を一緒にエジプトへ連れて来た。
8 エジプトに来たイスラエルの子ら、ヤコブとその息子たちの名は次のとおりである。ヤコブの長男ルベン。
9 ルベンの息子たちは、ハノク、パル、ヘツロン、カルミ。
10 シメオンの息子たちは、エムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、そしてカナン人の女の息子シャウル。
11 レビの息子たちは、ゲルション、ケハテ、メラリ。
12 ユダの息子たちは、エル、オナン、シェラ、ペレツ、ゼラ。しかし、エルとオナンはカナンの地で死んだ。ペレツの息子たちはヘツロンとハムルであった。
13 イッサカルの息子たちは、トラ、プワ、ヨブ、シムロン。
14 ゼブルンの息子たちは、セレデ、エロン、ヤフレエル。
15 これらは、レアがパダン・アラムでヤコブに産んだ息子たちと、その娘ディナである。彼の息子と娘は合わせて三十三人であった。
16 ガドの息子たちは、ツィフィオン、ハギ、シュニ、エツボン、エリ、アロディ、アレリ。
17 アシェルの息子たちは、イムナ、イシュワ、イシュビ、ベリア、そして彼らの妹セラ。ベリアの息子たちは、ヘベルとマルキエル。
18 これらはラバンが娘レアに与えたジルパの息子たちである。彼女はこれらをヤコブに産んだ。十六人であった。
19 ヤコブの妻ラケルの息子たちは、ヨセフとベニヤミン。
20 エジプトの地で、ヨセフにはマナセとエフライムが生まれた。オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナテが彼に産んだのである。
21 ベニヤミンの息子たちは、ベラ、ベケル、アシュベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシュ、ムピム、フピム、アルデ。
22 これらはヤコブに生まれたラケルの息子たちである。合わせて十四人であった。
23 ダンの息子はフシム。
24 ナフタリの息子たちは、ヤフツェエル、グニ、エツェル、シレム。
25 これらはラバンが娘ラケルに与えたビルハの息子たちであり、彼女はこれらをヤコブに産んだ。合わせて七人であった。

26 ヤコブと一緒にエジプトに来た者、すなわち彼から直接出た子孫は、ヤコブの息子たちの妻を除いて、合わせて六十六人であった。
27 エジプトでヨセフに生まれた息子たちは二人であった。エジプトに来たヤコブの家の者は、合わせて七十人であった。
28 ヤコブは、ゴシェンへの道を示してもらうため、ユダを自分より先にヨセフのところへ遣わした。彼らはゴシェンの地に着いた。
29 ヨセフは戦車を用意し、父イスラエルを迎えにゴシェンへ上って行った。父の前に出ると、その首を抱き、首を抱いたまま長く泣いた。
30 イスラエルはヨセフに言った。「あなたがまだ生きていて、あなたの顔を見たからには、私はもう死んでもよい。」
31 ヨセフは兄弟たちと、その父の家に言った。「私は上って行って、ファラオに話し、こう告げましょう。『カナンの地にいた私の兄弟たちと、私の父の家が私のところに来ました。
32 その人たちは羊飼いであり、家畜を飼う者たちです。彼らは羊の群れと牛の群れ、そしてすべての持ち物を持って来ました。』
33 ファラオがあなたがたを呼び、『あなたがたの職業は何か』と言われたときには、
34 あなたがたは、『あなたのしもべたちは、若いころから今まで、私たちも私たちの先祖も家畜を飼う者です』と言いなさい。そうすれば、あなたがたはゴシェンの地に住むことができます。すべての羊飼いはエジプト人にとって忌み嫌われるものだからです。」

47

1 そこでヨセフは入って行ってファラオに告げて言った。「私の父と兄弟たちが、彼らの羊の群れと牛の群れ、そして彼らのすべての持ち物と共にカナンの地からやって来ました。見よ、彼らはゴシェンの地にいます。」
2 彼は兄弟たちの中から五人を取り、彼らをファラオの前に立たせた。
3 ファラオは彼の兄弟たちに言った。「あなたがたの職業は何か。」
彼らはファラオに言った。「あなたのしもべたちは羊飼いです。私たちも、私たちの先祖もそうです。」
4 彼らはまたファラオに言った。「私たちはこの地に寄留するために来ました。あなたのしもべたちの群れのための牧草地がないからです。カナンの地では飢饉が激しいのです。ですから今、どうかあなたのしもべたちをゴシェンの地に住まわせてください。」
5 ファラオはヨセフに語って言った。「あなたの父と兄弟たちがあなたのところに来た。
6 エジプトの地はあなたの前にある。あなたの父と兄弟たちを、その地の最も良い所に住まわせなさい。彼らをゴシェンの地に住まわせなさい。もし彼らの中に有能な者がいると知っているなら、その者たちを私の家畜の責任者にしなさい。」
7 ヨセフは父ヤコブを連れて来て、彼をファラオの前に立たせた。ヤコブはファラオを祝福した。
8 ファラオはヤコブに言った。「あなたの年齢はいくつですか。」
9 ヤコブはファラオに言った。「私の寄留の年月は百三十年です。私の生涯の年月の日々は少なく、苦しみ多いものでした。それは、私の先祖たちが寄留の日々に生きた生涯の年月の日々には及びません。」
10 ヤコブはファラオを祝福し、ファラオの前から出て行った。
11 ヨセフはファラオが命じたとおり、父と兄弟たちを住まわせ、エジプトの地の最も良い所、ラメセスの地に所有地を与えた。
12 ヨセフは父と兄弟たちと、父の全家族を、その幼い子どもたちの数に応じて、パンで養った。

13 全地にパンがなかった。飢饉が非常に激しかったからである。エジプトの地もカナンの地も、飢饉のために衰え果てた。
14 ヨセフは、人々が買った穀物の代金として、エジプトの地とカナンの地にあったすべての銀を集めた。ヨセフはその銀をファラオの家にもたらした。
15 エジプトの地とカナンの地で銀が尽きたとき、すべてのエジプト人がヨセフのところに来て言った。「私たちにパンを与えてください。どうして私たちはあなたの前で死んでよいでしょうか。私たちの銀は尽きてしまいました。」
16 ヨセフは言った。「あなたがたの家畜を渡しなさい。銀が尽きたのなら、家畜と引き換えに食物を与えよう。」
17 彼らは自分たちの家畜をヨセフのところに持って来た。ヨセフは馬、羊の群れ、牛の群れ、ろばと引き換えに、彼らにパンを与えた。彼はその年、彼らのすべての家畜と引き換えに、パンで彼らを養った。
18 その年が終わり、彼らは二年目にヨセフのところに来て言った。「私たちはご主人様に隠しません。私たちの銀はすべて尽き、家畜の群れもご主人様のものになりました。ご主人様の前に残っているのは、私たちの体と土地だけです。
19 私たちと私たちの土地が、どうしてあなたの目の前で滅びてよいでしょうか。パンと引き換えに、私たちと私たちの土地を買い取ってください。私たちと私たちの土地はファラオの奴隷になります。私たちが死なずに生き延び、土地が荒れ果てないように、種を与えてください。」
20 こうしてヨセフは、エジプトのすべての土地をファラオのために買い取った。飢饉が彼らに激しかったため、エジプト人は皆、自分の畑を売ったからである。土地はファラオのものとなった。
21 民については、ヨセフはエジプトの国境の端から端まで、彼らを町々に移した。
22 彼が買い取らなかったのは、祭司たちの土地だけである。祭司たちにはファラオからの割り当てがあり、ファラオが彼らに与えたその割り当てを食べていたからである。それゆえ、彼らは自分たちの土地を売らなかった。
23 そのとき、ヨセフは民に言った。「見よ、私は今日、あなたがたとあなたがたの土地をファラオのために買い取った。見よ、ここにあなたがたのための種がある。あなたがたは土地に種を蒔きなさい。
24 収穫の時には、五分の一をファラオに納めなさい。四つの部分はあなたがたのものとなり、畑の種のため、あなたがたの食物のため、家族の者たちのため、そして幼い子どもたちの食物のためとしなさい。」
25 彼らは言った。「あなたは私たちの命を救ってくださいました。ご主人様の目に恵みを見出させてください。私たちはファラオの奴隷になります。」
26 ヨセフはこれをエジプトの土地に関する掟とし、今日に至るまで、ファラオが五分の一を得るようにした。ただ、祭司たちの土地だけはファラオのものにならなかった。
27 イスラエルはエジプトの地、ゴシェンの地に住んだ。彼らはそこに所有地を得て、実り豊かになり、大いに増えた。
28 ヤコブはエジプトの地で十七年生きた。ヤコブの生涯の日々、その生涯の年数は百四十七年であった。
29 イスラエルが死ぬ時が近づいたとき、彼は息子ヨセフを呼んで言った。「もし今、私があなたの目に恵みを見出しているなら、どうかあなたの手を私のももの下に入れ、私に慈しみと真実をもって接してくれ。どうか私をエジプトに葬らないでほしい。
30 私が先祖たちと共に眠るとき、あなたは私をエジプトから運び出し、彼らの墓に私を葬りなさい。」
ヨセフは言った。「私はあなたの言われたとおりにします。」

31 イスラエルは言った。「私に誓ってくれ。」ヨセフは彼に誓った。それからイスラエルは寝床の枕元で礼拝した。

48

1 これらのことの後、ある人がヨセフに、「見よ、あなたの父上は病気です」と告げた。そこでヨセフは、二人の息子マナセとエフライムを一緒に連れて行った。
2 ある人がヤコブに告げて、「見よ、あなたの息子ヨセフがあなたのところに来ています」と言った。イスラエルは力を振り絞って、寝床の上に座った。
3 ヤコブはヨセフに言った。「全能の神が、カナンの地にあるルズで私に現れ、私を祝福して、
4 私に言われた。『見よ、わたしはあなたを実り豊かにし、あなたを増やし、多くの民の集まりとする。そして、この地をあなたの後に続く子孫に、永遠の所有地として与える。』
5 今、私がエジプトのあなたのところに来る前に、エジプトの地であなたに生まれた二人の息子は、私のものだ。エフライムとマナセは、ルベンやシメオンと同じように、私のものとなる。
6 彼らの後にあなたがもうける子孫は、あなたのものとなる。彼らは自分たちの相続地において、兄弟たちの名で呼ばれるだろう。
7 私については、私がパダンから来たとき、カナンの地で、エフラテへ行く道のまだ少し手前で、ラケルが私のそばで死んだ。私はエフラテ、すなわちベツレヘムへの道で、彼女をそこに葬った。」
8 イスラエルはヨセフの息子たちを見て、言った。「この子たちは誰か。」
9 ヨセフは父に言った。「ここで神が私に与えてくださった私の息子たちです。」
イスラエルは言った。「どうか、彼らを私のところに連れて来なさい。私は彼らを祝福しよう。」
10 さて、イスラエルの目は年齢のためにかすんでおり、見ることができなかった。ヨセフが彼らを父に近づけると、イスラエルは彼らに口づけし、彼らを抱きしめた。
11 イスラエルはヨセフに言った。「私はあなたの顔を見られるとは思っていなかった。見よ、神はあなたの子孫をも私に見させてくださった。」
12 ヨセフは父の膝の間から彼らを連れ出し、顔を地に伏せてお辞儀をした。
13 ヨセフは二人を取り、エフライムを自分の右手に置いてイスラエルの左手に向かわせ、マナセを自分の左手に置いてイスラエルの右手に向かわせ、彼らを父に近づけた。
14 イスラエルは自分の右手を伸ばして、弟であるエフライムの頭の上に置き、自分の左手をマナセの頭の上に置いた。マナセが長男であったが、彼は意識して手を交差させた。
15 彼はヨセフを祝福して言った。「私の先祖アブラハムとイサクがその御前を歩んだ神、今日に至るまで私の全生涯にわたって私を養ってくださった神、
16 すべての悪から私を贖い出してくださった御使いが、この少年たちを祝福してくださるように。私の名と、私の先祖アブラハムとイサクの名が彼らの上に呼ばれるように。彼らが地のただ中で大いに増えるように。」
17 ヨセフは、父が右手をエフライムの頭の上に置いたのを見て、不満に思った。彼は父の手を持ち上げ、エフライムの頭からマナセの頭へ移そうとした。
18 ヨセフは父に言った。「そうではありません、お父さん。この子が長男です。あなたの右手を彼の頭の上に置いてください。」
19 しかし、父は拒んで言った。「わかっている、私の子よ、わかっている。彼もまた一つの民となり、彼もまた大いなる者となる。しかし、彼の弟は彼よりも大いなる者となり、その子孫は多くの国々の群れとなる。」

20 彼はその日、彼らを祝福して言った。「あなたによって、イスラエルは祝福の言葉を述べるだろう。『神があなたをエフライムのように、マナセのようにしてくださるように。』」こうして、彼はエフライムをマナセの前に置いた。
21 イスラエルはヨセフに言った。「見よ、私は死のうとしている。しかし神はあなたがたと共におられ、あなたがたを先祖の地に再び連れ戻してくださる。
22 さらに私は、あなたの兄弟たちよりも一つ多い分け前をあなたに与えた。それは、私が自分の剣と弓でアモリ人の手から奪い取ったものである。」

49

1 ヤコブは息子たちを呼び寄せて、言った。「集まりなさい。後の日にあなたがたに起こることを、私があなたがたに告げよう。
2 ヤコブの息子たちよ、集まって聞け。
　あなたがたの父イスラエルに耳を傾けよ。
3 ルベンよ、あなたは私の長男、
　私の力、私の勢いの初め。
威厳において優れ、
　力において優れている。
4 水のように奔放なので、あなたは優れることはない。
　あなたが父の寝床に上り、
　それを汚したからだ。
彼は私の寝床に上ったのだ。
5 シメオンとレビは兄弟である。
　彼らの剣は暴力の武器である。
6 私の魂よ、彼らの集まりに入ってはならない。
　私の誉れよ、彼らの集会に連なってはならない。
彼らは怒りに任せて人を殺し、
　自分たちの思いのままに牛の足の筋を切ったからだ。
7 彼らの怒りは呪われよ。それは激しかったからだ。
　彼らの憤りは呪われよ。それは残酷だったからだ。
私は彼らをヤコブの中で分け、
　イスラエルの中に散らそう。
8 ユダよ、あなたの兄弟たちはあなたをほめたたえる。
　あなたの手は敵の首を押さえる。
　あなたの父の息子たちは、あなたの前にひれ伏すだろう。
9 ユダは獅子の子である。
　私の子よ、あなたは獲物を捕らえて上って来た。
彼は身をかがめ、雄獅子のようにうずくまった。
　雌獅子のように。
　誰が彼を起こすことができるだろうか。
10 王笏はユダから離れず、
　支配者の杖はその足の間から離れない。
それが属する方が来るまで。
　諸民の従順はその方のものとなる。
11 彼はその子ろばをぶどうの木につなぎ、
　雌ろばの子を良いぶどうの木につなぐ。
彼は自分の着物をぶどう酒で洗い、
　自分の衣をぶどうの血で洗う。
12 彼の目はぶどう酒で赤く、
　彼の歯は乳で白い。
13 ゼブルンは海辺に住み、
　船の港となる。

その境界はシドンに達するだろう。
14 イッサカルは骨太のろば、
鞍袋の間に伏せている。
15 彼は休息の地が良く、
その国が好ましいのを見た。
彼は肩をかがめて重荷を負い、
強制労働をするしもべとなった。
16 ダンは自分の民を裁くだろう。
イスラエルの部族の一つとして。
17 ダンは道端の蛇となり、
小道にいるまむしとなる。
それは馬のかかとを噛み、
乗り手を後ろに落とす。
18 主よ、私はあなたの救いを待ち望む。
19 ガドには略奪隊が押し寄せるが、
彼は彼らのかかとを押し返すだろう。
20 アシェルについては、その食物は豊かである。
彼は王のごちそうを生み出すだろう。
21 ナフタリは解き放たれた雌鹿である。
彼は美しい子鹿を産む。
22 ヨセフは実を結ぶ枝、
泉のほとりの実を結ぶ枝である。
その枝は壁を越えて伸びる。
23 射手たちは彼を激しく苦しめ、
彼を射て、彼を憎んだ。
24 しかし彼の弓は堅く保たれ、
彼の腕はしなやかで強くされた。
ヤコブの力ある方の手によって、
そこから羊飼い、イスラエルの石が出る。
25 あなたを助けるあなたの父の神によって、
あなたを祝福する全能者によって。
上の天の祝福、
下に横たわる淵の祝福、
乳房と胎の祝福をもって。
26 あなたの父の祝福は、
私の先祖たちの祝福にまさり、
永遠の丘の果てにまで及ぶ。
それらはヨセフの頭の上にあり、
兄弟たちの中から選び出された者の
頭の頂にある。
27 ベニヤミンは貪り食う狼である。
朝には獲物を食らい、
夕には略奪品を分けるだろう。」
28 これらはすべてイスラエルの十二部族であり、これは彼らの父が彼らに語り、彼らを祝福したことである。彼はそれぞれにふさわしい祝福をもって、一人一人を祝福した。
29 彼は彼らに命じて、言った。「私は自分の民に加えられようとしている。ヘト人エフロンの畑にある洞穴に、私を先祖たちと一緒に葬ってくれ。
30 それはカナンの地にあるマムレの前の、マクペラの畑にある洞穴だ。アブラハムが墓地の所有地として、ヘト人エフロンから畑と一緒に買い取ったものである。
31 そこにはアブラハムとその妻サラが葬られた。そこにはイサクとその妻リベカが葬られ、そこに私はレアを葬った。

32 その畑とそこにある洞穴は、ヘトの人々から買い取られたものだ。」
33 ヤコブは息子たちに命じ終えると、足を寝床の中に引き上げ、
息を引き取って、自分の民に加えられた。

50

1 ヨセフは父の顔の上に伏し、彼の上で泣いて、彼に口づけした。
2 ヨセフは自分のしもべである医者たちに、父に防腐処理を施すように命じた。医者たちはイスラエルに防腐処理を施した。
3 防腐処理にはそれだけの日数がかかるため、四十日が満ちた。エジプト人たちは彼のために七十日間泣いた。
4 彼のために泣く日々が過ぎたとき、ヨセフはファラオの家に語って言った。「もし今、私があなたがたの目に恵みを見出しているなら、どうかファラオの耳に語って言ってください。
5 『私の父は私に誓わせて言いました。「見よ、私は死のうとしている。私がカナンの地に自分のために掘った墓に、私を葬ってくれ。」ですから今、どうか私に上って行かせて、父を葬らせてください。そうすれば、私は戻って来ます。』」
6 ファラオは言った。「彼があなたに誓わせたとおりに上って行き、あなたの父を葬りなさい。」
7 ヨセフは父を葬るために上って行った。ファラオのすべての家来たち、ファラオの家の長老たち、エジプトの地のすべての長老たち、
8 そしてヨセフのすべての家、彼の兄弟たち、彼の父の家が彼と一緒に上って行った。ただ、彼らの幼い子どもたちと、羊の群れと牛の群れだけがゴシェンの地に残された。
9 戦車と騎兵も彼と一緒に上って行った。それは非常に大きな一行であった。
10 彼らはヨルダン川の向こうにあるアタドの打ち場に来て、そこで非常に大きく激しい嘆きをもって悼んだ。ヨセフは父のために七日間、喪に服した。
11 その地の住民であるカナン人たちは、アタドの打ち場でのその喪を見て、「これはエジプト人による激しい喪だ」と言った。それゆえ、その名はアベル・ミツライム* と呼ばれた。それはヨルダン川の向こうにある。
12 彼の息子たちは、彼が彼らに命じたとおりに彼に行った。
13 すなわち、彼の息子たちは彼をカナンの地に運び、マクペラの畑の洞穴に彼を葬った。それは墓地の所有地として、アブラハムがマムレの前にある畑と一緒に、ヘト人エフロンから買い取ったものであった。
14 ヨセフは父を葬った後、彼自身と彼の兄弟たち、そして父を葬るために彼と一緒に上って行ったすべての者たちと共に、エジプトへ戻った。
15 ヨセフの兄弟たちは、父が死んだのを見て、言った。「もしかすると、ヨセフは私たちを憎み、私たちが彼にしたすべての悪に対して、必ず仕返しをするかもしれない。」
16 彼らはヨセフに伝言を送って言った。「あなたの父上は死ぬ前に命じて、言われました。
17 『あなたがたはヨセフにこう言いなさい。「どうか今、あなたの兄弟たちの背きと彼らの罪を赦してやってくれ。彼らはあなたに悪を行ったからだ。」』今、どうかあなたの父の神のしもべたちの背きを赦してください。」彼らがそのように語ったとき、ヨセフは泣いた。
18 彼の兄弟たちも行って、彼の前にひれ伏し、言った。「見よ、私たちはあなたのしもべです。」

---

* **50:11 50:11** アベル・ミツライムは「エジプトの嘆き」を意味する。

19 ヨセフは彼らに言った。「恐れることはありません。私が神に代わる者でしょうか。
20 あなたがたは私に対して悪を企みましたが、神はそれを良いことのために計らわれました。今日のように、多くの人々を生かしておくためです。
21 だから今、恐れることはありません。私はあなたがたと、あなたがたの幼い子どもたちを養いましょう。」彼は彼らを慰め、彼らに優しく語りかけた。
22 ヨセフはエジプトに住んだ。彼と、彼の父の家もである。ヨセフは百十年生きた。
23 ヨセフはエフライムの子どもたちを三代まで見た。また、マナセの息子マキルの子どもたちも、ヨセフの膝の上で生まれた。
24 ヨセフは兄弟たちに言った。「私は死のうとしている。しかし、神は必ずあなたがたを顧み、この地から、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地へ、あなたがたを導き上ってくださる。」
25 ヨセフはイスラエルの子らに誓わせて、言った。「神は必ずあなたがたを顧みてくださる。あなたがたは私の骨をここから運び上らなければならない。」
26 こうしてヨセフは百十歳で死んだ。彼らは彼に防腐処理を施し、彼はエジプトで棺に納められた。

モーセの第二の書
通称
出エジプト記

1 ヤコブと共にエジプトに来たイスラエルの子らの名前は次の通りである。おのおの自分の家族と共に来た。
2 ルベン、シメオン、レビ、ユダ、
3 イッサカル、ゼブルン、ベニヤミン、
4 ダンとナフタリ、ガドとアシェル。
5 ヤコブの腰から出た者はすべて合わせて七十人であった。ヨセフはすでにエジプトにいた。
6 ヨセフも、その兄弟たちも、その世代の者もみな死んだ。
7 イスラエルの子らは実を結び、おびただしく増え、増え広がり、極めて強くなった。その地は彼らで満ちた。
8 さて、ヨセフを知らない新しい王がエジプトに起こった。
9 彼は民に言った。「見よ、イスラエルの子らの民は、われわれよりも多く、また強い。
10 さあ、彼らに対して賢くふるまおう。彼らが増え、いざ戦争が起きた時に、彼らもわれわれの敵に加わってわれわれと戦い、この地から逃げ出すことのないようにしよう。」
11 そこで彼らは、重労働で彼らを苦しめるために、彼らの上に奴隷監督を置いた。彼らはファラオのために、貯蔵庫の町ピトムとラメセスを建てた。
12 しかし、エジプト人が彼らを苦しめれば苦しめるほど、彼らはますます増え、ますます広がっていった。そのため彼らはイスラエルの子らに恐怖を抱くようになった。
13 エジプト人はイスラエルの子らを過酷に働かせ、
14 モルタルとれんが作りの激しい労働、畑でのあらゆる労働によって、彼らの生活を苦いものにした。エジプト人は、あらゆる労働で彼らを過酷に働かせた。
15 エジプトの王は、ヘブル人の助産婦たちに語った。その一人の名前はシフラといい、もう一人の名前はプアといった。
16 彼は言った。「ヘブル人の女たちのために助産婦の務めを果たし、分娩台の上の彼女たちを見て、もしそれが男の子なら、その子を殺さなければならない。しかし、もし女の子なら、生かしておきなさい。」
17 しかし、助産婦たちは神を恐れ*、エジプトの王が命じた通りにはせず、男の赤ん坊を生かしておいた。
18 エジプトの王は助産婦たちを呼び寄せて言った。「なぜこのようなことをして、男の子たちを生かしておいたのか。」
19 助産婦たちはファラオに言った。「ヘブル人の女たちはエジプト人の女たちとは違います。彼女たちは元気で、助産婦が行く前に産んでしまうからです。」
20 神は助産婦たちに良くしてくださった。民は増え、非常に強くなった。
21 助産婦たちが神を恐れたので、神は彼女たちに家庭を与えられた。
22 ファラオは自分のすべての民に命じて言った。「生まれた男の子はみなナイル川に投げ込まなければならない。女の子はみな生かしておきなさい。」

---

* **1:17 1:17** 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

2

1 レビの家のひとりの人が行き、レビの娘を妻に迎えた。
2 その女は身ごもり、男の子を産んだ。彼女はその子が美しいのを見て、三か月の間隠しておいた。
3 もはや隠しきれなくなったので、彼女はパピルスの籠を取り、それにタールとピッチを塗り、その中に子どもを入れ、川岸の葦の間に置いた。
4 その子の姉は、彼がどうなるかを見届けるために、遠く離れて立っていた。
5 ファラオの娘が水浴びのために川に下って来た。彼女の侍女たちは川岸を歩いていた。彼女は葦の間に籠があるのを見つけ、はしためを遣わしてそれを取って来させた。
6 彼女がそれを開けると、そこには子どもがおり、見よ、赤ん坊は泣いていた。彼女はその子をあわれんで言った。「これはヘブル人の子どもの一人です。」
7 その時、その子の姉がファラオの娘に言った。「あなたのためにその子に乳を飲ませる乳母を、私が行ってヘブル人の女たちの中から呼んで来ましょうか。」
8 ファラオの娘は彼女に言った。「行きなさい。」少女は行って、その子の母を呼んで来た。
9 ファラオの娘は彼女に言った。「この子を連れて行き、私のために乳を飲ませてください。私があなたの賃金を払いましょう。」
女はその子を引き取り、乳を飲ませた。
10 その子が大きくなると、彼女はその子をファラオの娘のところに連れて行き、その子はファラオの娘の息子となった。ファラオの娘はその子をモーセ*と名付けた。「私が彼を水の中から引き出したからです」と彼女が言ったからである。
11 その頃、モーセは成長し、自分の同胞のところに出て行き、彼らの重荷を見た。彼は一人のエジプト人が、自分の同胞であるヘブル人を打ちたたいているのを見た。
12 彼は辺りを見回し、誰もいないのを確認すると、そのエジプト人を殺し、砂の中に隠した。
13 次の日、彼が出て行くと、見よ、二人のヘブル人が互いに争っていた。彼は悪い方の人に言った。「なぜあなたは仲間を打つのか。」
14 その人は言った。「誰があなたをわれわれの指導者や裁判官にしたのか。あなたがエジプト人を殺したように、私をも殺そうとしているのか。」
モーセは恐れて言った。「確かにこの事は知られている。」
15 ファラオはこの事を聞いて、モーセを殺そうとした。しかし、モーセはファラオの顔を避けて逃亡し、ミディアンの地に住み、ある井戸の傍らに座った。
16 さて、ミディアンの祭司には七人の娘がいた。彼女たちが来て水をくみ、水槽を満たして父の羊の群れに水を飲ませようとした。
17 羊飼いたちがやって来て、彼女たちを追い払った。しかし、モーセは立ち上がって彼女たちを助け、その群れに水を飲ませた。
18 彼女たちが父レウエルのもとに帰ると、彼は言った。「今日はなぜこんなに早く帰って来たのか。」
19 彼女たちは言った。「あるエジプト人が、羊飼いたちの手から私たちを救い出してくれました。その上、私たちのために水をくみ、群れに飲ませてくれました。」
20 彼は娘たちに言った。「その人はどこにいるのか。なぜその人を置いてきたのか。彼を呼んで、食事をしてもらいなさい。」

---

* **2:10 2:10** 「モーセ」はヘブル語の「引き出す」という言葉に発音が似ている。

21 モーセはその人と一緒に住むことに同意した。彼は娘チッポラをモーセ
に与えた。
22 彼女は男の子を産み、モーセはその子をゲルショム†と名付けた。
彼が「私は異国の地で寄留者として生きてきた」と言ったからである。
23 それから長い年月がたつうちに、エジプトの王は死んだ。イスラエル
の子らは奴隷の身のゆえにうめき、叫び声をあげた。奴隷の身のゆえの叫び
は神に届いた。
24 神は彼らのうめきを聞き、神はアブラハム、イサク、ヤコブとの契
約を思い起こされた。
25 神はイスラエルの子らをご覧になり、神は彼らを御心に留められた。

3

1 さて、モーセはしゅうとであるミディアンの祭司エテロの羊の群れを飼っ
ていた。彼が群れを荒野の奥へと導いて行くと、神の山ホレブに来た。
2 主*の使いが、柴の真ん中から燃え上がる炎の中で彼に現れた。彼が見る
と、見よ、柴は火で燃えているのに、燃え尽きていなかった。
3 モーセは言った。「さあ、行ってこの大いなる光景を見よう。な
ぜ柴が燃え尽きないのか。」
4 主は彼が見ようとして近づいて来るのをご覧になり、神は柴の真ん中か
ら彼を呼んで、「モーセよ、モーセよ」と言われた。
彼は「ここにおります」と言った。
5 神は言われた。「近づいてはいけない。あなたの足の履き物を脱ぎなさ
い。あなたが立っている場所は聖なる地だからである。」
6 さらに神は言われた。「わたしはあなたの父の神、アブラハムの神、イサ
クの神、ヤコブの神である。」
モーセは神を見ることを恐れ、顔を隠した。
7 主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみを確か
に見、奴隷監督たちのゆえの彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの悲しみ
を知っている。
8 わたしが下って来たのは、彼らをエジプト人の手から救い出し、その地か
ら、広くて良い地、乳と蜜の流れる地へ、すなわちカナン人、ヘト人、アモ
リ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる場所へ彼らを導き上げるためであ
る。
9 今、見よ、イスラエルの子らの叫びがわたしに届いた。さらにわたし
は、エジプト人が彼らをしいたげているその圧制を見た。
10 さあ、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとへ遣わす。あなたが
わたしの民、イスラエルの子らをエジプトから導き出すためである。」
11 モーセは神に言った。「私がファラオのところに行き、イスラエルの子ら
をエジプトから導き出すとは、私はいったい何者なのでしょうか。」
12 神は言われた。「わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしがあな
たを遣わしたことのしるしとなる。あなたが民をエジプトから導き出した時、
あなたがたはこの山で神に仕えることになる。」
13 モーセは神に言った。「見よ、私がイスラエルの子らのところに行き、
『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされた』と彼ら
に言う時、彼らが私に『その名は何というのか』と尋ねたら、私は彼ら
に何と答えるべきでしょうか。」
14 神はモーセに言われた。「わたしは、わたしがあるところの者であ
る。」そして言われた。「あなたはイスラエルの子らにこう言いなさい。
『「わたしはある」という方が、私をあなたがたのもとに遣わされた』と。」

† 2:22 2:22 「ゲルショム」はヘブル語の「そこにいる寄留者」という言葉に発音が似ている。 * 3:2
3:2 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（ヤハ）

15 神はさらにモーセに言われた。「あなたはイスラエルの子らにこう言いなさい。『主†、あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神が、私をあなたがたのもとに遣わされた。』これが永遠にわたしの名であり、これがすべての世代に対するわたしの記念の名である。
16 行って、イスラエルの長老たちを集め、彼らに言いなさい。『主、あなたがたの父祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神が私に現れて、こう言われた。「わたしは確かにあなたがたを顧み、エジプトであなたがたにされたことを見た。
17 わたしは言った。わたしはあなたがたをエジプトの苦しみから、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の地、乳と蜜の流れる地へ導き上げる。」』
18 彼らはあなたの声に聞き従うであろう。あなたはイスラエルの長老たちと共にエジプトの王のもとに行き、彼に言いなさい。『ヘブル人の神、主が私たちにお会いになりました。どうか今、私たちを荒野へ三日の道のりを行かせ、私たちの神、主にいけにえを献げさせてください。』
19 わたしは知っている。エジプトの王は、強い手によってさえ、あなたがたが行くのを許さないであろうことを。
20 わたしは手を伸ばし、彼らのただ中で行うわたしのすべての不思議な業によってエジプトを打つ。その後で、彼はあなたがたを行かせるであろう。
21 わたしは、この民がエジプト人の目に好意を得るようにする。あなたがたが行く時、手ぶらで行くことはない。
22 女はみな、隣の女や家に滞在している女から、銀の飾り、金の飾り、衣服を求める。あなたがたはそれらを自分の息子や娘に着せる。あなたがたはエジプト人から奪い取るのである。」

4

1 モーセは答えた。「しかし、見よ、彼らは私を信じず、私の声に聞き従わないでしょう。彼らは『主はあなたに現れていない』と言うからです。」
2 主は彼に言われた。「あなたの手にあるそれは何か。」
彼は言った。「杖です。」
3 主は言われた。「それを地面に投げなさい。」
彼がそれを地面に投げると、それは蛇になった。モーセはそれから逃げ出した。
4 主はモーセに言われた。「手を伸ばし、その尾をつかみなさい。」
彼が手を伸ばしてそれをつかむと、彼の手の中で杖になった。
5 「これは、彼らの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主があなたに現れたことを、彼らが信じるためである。」
6 主はさらに彼に言われた。「今、あなたの手をふところに入れなさい。」
彼が手をふところに入れ、それを取り出すと、見よ、彼の手は皮膚病に冒され、雪のように白くなっていた。
7 主は言われた。「あなたの手をもう一度ふところに入れなさい。」
彼がもう一度手をふところに入れ、ふところからそれを取り出すと、見よ、それは再び元の肉のようになっていた。
8 「もし彼らがあなたを信じず、最初のしるしの声に聞き従わないなら、後のしるしの声は信じるであろう。
9 もし彼らがこれら二つのしるしさえも信じず、あなたの声にも聞き従わないなら、あなたはナイル川の水を取って乾いた土の上に注ぎなさい。川から取った水は乾いた土の上で血となるであろう。」

† **3:15** **3:15** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（

10 モーセは主に言った。「あぁ、主よ*、私は弁が立つ者ではありません。
以前からも、あなたがしもべに語られてからもです。私は口が重く、舌が重い
のです。」
11 主は彼に言われた。「誰が人の口を造ったのか。誰が人を口のきけな
い者にし、耳の聞こえない者にし、目の見える者にし、また盲目の者にするの
か。それは主であるわたしではないか。
12 だから今、行きなさい。わたしはあなたの口と共にあり、あなた
が何を語るべきかを教えよう。」
13 モーセは言った。「あぁ、主よ、どうかほかの人を遣わしてください。」
14 主の怒りがモーセに向かって燃え上がり、言われた。「あなたの兄弟、レ
ビ人アロンがいるではないか。わたしは彼がうまく話せることを知ってい
る。また見よ、彼があなたを迎えに出て来るところだ。彼はあなたを見て、
心から喜ぶであろう。
15 あなたは彼に語り、その口に言葉を授けなさい。わたしはあなた
の口と彼の口と共にあり、あなたがたのなすべきことを教えよう。
16 彼はあなたに代わって民に語る口となる。彼はあなたにとって口とな
り、あなたは彼にとって神のようになる。
17 あなたはこの杖を手に取りなさい。それによってしるしを行うのであ
る。」
18 モーセはしゅうとエテロのもとに帰って行った。そして彼に言った。「ど
うか私を行かせ、エジプトにいる私の同胞たちのもとに帰らせて、彼らがま
だ生きているかどうかを見させてください。」
エテロはモーセに「安心して行きなさい」と言った。
19 主はミディアンでモーセに言われた。「行って、エジプトに帰りなさ
い。あなたの命を狙っていた者たちは皆、死んだからである。」
20 モーセは妻と息子たちを連れ、彼らをろばに乗せてエジプトの地へ帰っ
て行った。モーセは手に神の杖を持っていた。
21 主はモーセに言われた。「あなたがエジプトへ帰って行く時、わたしがあ
なたの手にゆだねたすべての不思議な業を、ファラオの前で必ず行いなさ
い。しかし、わたしは彼の心をかたくなにするので、彼は民を行かせないであ
ろう。
22 あなたはファラオに言いなさい。『主はこう言われる。イスラエルはわた
しの子、わたしの長子である。
23 わたしはあなたに言った。「わたしの子を行かせ、わたしに仕えさせなさ
い。」しかしあなたは彼を行かせることを拒んだ。見よ、わたしはあなたの長
子を殺す。』」
24 途中の宿泊所で、主はモーセに出会い、彼を殺そうとされた。
25 その時、チッポラは火打石を取り、息子の包皮を切り取り、それ
を彼の足もとに投げて言った。「あなたは確かに私にとって血の花婿です。」
26 それで主は彼から離れられた。その時、彼女は割礼のゆえに「あなた
は血の花婿です」と言ったのである。
27 主はアロンに言われた。「荒野に行ってモーセに会いなさい。」
彼は行き、神の山でモーセに会い、彼に口づけした。
28 モーセは、自分を遣わした主のすべての言葉と、主が命じたすべてのしる
しをアロンに伝えた。
29 モーセとアロンは行って、イスラエルの子らのすべての長老を集めた。
30 アロンは、主がモーセに語られたすべての言葉を語り、民の目の前でしる
しを行った。
31 民は信じた。主がイスラエルの子らを顧み、彼らの苦しみをご覧になった
ことを聞いた時、彼らは頭を下げて礼拝した。

* **4:10 4:10** 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

5

1 その後、モーセとアロンは来て、ファラオに言った。「イスラエル
の神、主はこう言われます。『わたしの民を行かせ、荒野でわたしのため
に祭りを開かせなさい。』」
2 ファラオは言った。「主とは何者か。私がその声に聞き従い、イスラエル
を行かせなければならないのか。私は主を知らない。それに、イスラエル
を行かせることもしない。」
3 彼らは言った。「ヘブル人の神が私たちにお会いになりました。どうか荒
野へ三日の道のりを行かせ、私たちの神、主にいけにえを献げさせてくださ
い。そうしなければ、主は疫病や剣で私たちを打たれるでしょう。」
4 エジプトの王は彼らに言った。「モーセとアロンよ、なぜあなたがた
は民を仕事から離れさせようとするのか。自分たちの重荷に戻りなさい。」
5 ファラオは言った。「見よ、今やこの地の民は多い。それなのに、あなた
がたは彼らを労働から休ませようとしている。」
6 その日、ファラオは民の奴隷監督たちと役人たちに命じて言った。
7 「れんがを作るためのわらを、これまでのように民に与えてはならない。
彼ら自身に行かせて、わらを集めさせなさい。
8 また、彼らがこれまで作っていたれんがの規定量を彼らに課しなさい。それ
を減らしてはならない。彼らは怠けているのだ。だから、『行って、私たち
の神にいけにえを献げさせてください』と叫ぶのだ。
9 この人々にさらに重い仕事を課し、それに励ませなさい。偽りの言葉に注
意を払わせないようにしなさい。」
10 民の奴隷監督たちと役人たちは出て行き、民に語って言った。「ファラオ
はこう言われる。『あなたがたにわらを与えない。
11 自分たちで行き、見つけられる所でわらを取りなさい。あなたがたの仕
事は少しも減らされない。』」
12 そこで民はエジプトの地全体に散らばり、わらの代わりに刈り株を集め
た。
13 奴隷監督たちは彼らを急き立てて言った。「わらがあった時と同じよう
に、毎日の仕事の規定量を果たしなさい。」
14 ファラオの奴隷監督たちがイスラエルの子らの上に立てた役人たちは打ち
たたかれ、「なぜ昨日も今日も、これまでのようにれんが作りの規定量を果た
さなかったのか」と責められた。
15 そこで、イスラエルの子らの役人たちは来て、ファラオに叫んで言った。
「なぜ、あなたのしもべたちにこのような扱いをなさるのですか。
16 あなたのしもべたちにわらが与えられないのに、彼らは『れんが
を作れ』と言います。見よ、あなたのしもべたちは打ちたたかれていますが、
悪いのはあなたの民なのです。」
17 しかしファラオは言った。「おまえたちは怠けているのだ。怠けているの
だ。だから、『行って、主にいけにえを献げさせてください』と言うのだ。
18 だから今、行って働きなさい。わらは与えられないが、同じ数のれんが
を納めなければならない。」
19 イスラエルの子らの役人たちは、「毎日のれんがの規定量を減らしてはな
らない」と言われた時、自分たちが苦境にあるのを知った。
20 彼らはファラオのところから出て来た時、道で待っていたモーセとアロン
に会い、
21 彼らに言った。「主があなたがたを見て裁かれますように。あなたがた
は、ファラオの目と、その家臣たちの目に、私たちを忌み嫌われる悪
臭を放つ者とし、私たちを殺すための剣を彼らの手に渡したからです。」
22 モーセは主のところに戻って言った。「主よ、なぜあなたはこの民に苦し
みをもたらされたのですか。なぜ私を遣わされたのですか。

23 私があなたの御名によって語るためにファラオのところに来て以来、彼はこの民に苦しみをもたらしています。それなのに、あなたはご自分の民を全く救い出していません。」

6

1 主はモーセに言われた。「今、あなたはわたしがファラオにすることを見るであろう。強い手によって彼は彼らを行かせ、強い手によって自分の地から彼らを追い出すであろう。」
2 神はモーセに語り、彼に言われた。「わたしは主である。
3 わたしはアブラハム、イサク、ヤコブに全能の神として現れたが、わたしの名である主*としては、彼らに自らを知らせなかった。
4 わたしはまた、彼らと契約を立て、彼らが寄留者として住んでいた寄留の地、カナンの地を彼らに与えることにした。
5 さらに、わたしはエジプト人が奴隷としているイスラエルの子らのうめきを聞き、わたしの契約を思い起こした。
6 それゆえ、イスラエルの子らに言いなさい。『わたしは主である。わたしはエジプト人の重労働の下からあなたがたを導き出し、彼らの奴隷の身からあなたがたを救い出す。わたしは伸ばした腕と大いなる裁きによってあなたがたを贖う。
7 わたしはあなたがたをわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたをエジプト人の重労働の下から導き出す、あなたがたの神、主であることを知るであろう。
8 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓った地にあなたがたを導き入れ、それをあなたがたの所有として与える。わたしは主である。』」
9 モーセはそのようにイスラエルの子らに語ったが、彼らは心が打ちひしがれ、過酷な奴隷労働のゆえに、モーセに聞き従わなかった。
10 主はモーセに語って言われた。
11 「行きなさい。エジプトの王ファラオに語り、イスラエルの子らを彼の地から去らせるように言いなさい。」
12 モーセは主の前で語って言った。「見よ、イスラエルの子らさえ私に聞き従いませんでした。どうしてファラオが私に聞き従うでしょうか。私は唇に割礼を受けていない者ですのに。」
13 主はモーセとアロンに語り、イスラエルの子らとエジプトの王ファラオに対して命令を与えて、イスラエルの子らをエジプトの地から導き出すようにされた。
14 彼らの父祖の家々の長は次の通りである。イスラエルの長子ルベンの子らは、エノク、パル、ヘツロン、カルミ。これらはルベンの諸氏族である。
15 シメオンの子らは、イムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、そしてカナン人の女の息子サウル。これらはシメオンの諸氏族である。
16 その世代に基づくレビの子らの名前は次の通りである。ゲルション、ケハト、メラリ。レビの生涯の年は百三十七年であった。
17 その諸氏族に基づくゲルションの子らは、リブニとシムイである。
18 ケハトの子らは、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエル。ケハトの生涯の年は百三十三年であった。
19 メラリの子らは、マフリとムシ。これらがその世代に基づくレビ人の諸氏族である。
20 アムラムは父の妹ヨケベデを妻とし、彼女は彼にアロンとモーセを産んだ。アムラムの生涯の年は百三十七年であった。
21 イツハルの子らは、コラ、ネフェグ、ジクリである。

---

* 6:3 6:3 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（

22 ウジエルの子らは、ミシャエル、エルツァファン、シトリである。
23 アロンはアミナダブの娘でナフションの妹であるエリシェバを妻とし、彼女は彼にナダブ、アビフ、エルアザル、イタマルを産んだ。
24 コラの子らは、アシル、エルカナ、アビアサフ。これらがコラ人の諸氏族である。
25 アロンの息子エルアザルはプティエルの娘の一人を妻とし、彼女は彼にピネハスを産んだ。これらがその諸氏族に基づくレビ人の父祖の家々の長である。
26 「イスラエルの子らをその軍団ごとにエジプトの地から導き出せ」と主が言われたのは、このアロンとモーセである。
27 イスラエルの子らをエジプトから導き出すためにエジプトの王ファラオに語ったのは彼らである。それがこのモーセとアロンである。
28 主がエジプトの地でモーセに語られた日、
29 主はモーセに言われた。「わたしは主である。わたしがあなたに語るすべてのことを、エジプトの王ファラオに語りなさい。」
30 モーセは主の前で言った。「見よ、私は唇に割礼を受けていない者です。どうしてファラオが私に聞き従うでしょうか。」

7

1 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたをファラオに対して神のようにした。あなたの兄弟アロンはあなたの預言者となる。
2 あなたは、わたしが命じるすべてのことを語らなければならない。そして、あなたの兄弟アロンは、イスラエルの子らを彼の地から去らせるようにファラオに語るのである。
3 わたしはファラオの心をかたくなにし、エジプトの地でわたしのしるしと不思議な業を増し加える。
4 しかしファラオはあなたがたに聞き従わないであろう。それで、わたしはエジプトに手を下し、大いなる裁きによって、わたしの軍団でありわたしの民であるイスラエルの子らをエジプトの地から導き出す。
5 わたしがエジプトの上に手を伸ばし、イスラエルの子らを彼らの中から導き出す時、エジプト人はわたしが主であることを知るであろう。」
6 モーセとアロンはそのようにした。主が彼らに命じられた通りに行ったのである。
7 彼らがファラオに語った時、モーセは八十歳、アロンは八十三歳であった。
8 主はモーセとアロンに語って言われた。
9 「ファラオがあなたがたに『奇跡を示してみよ』と言うなら、あなたはアロンに『あなたの杖を取り、ファラオの前に投げなさい』と言いなさい。それは蛇になるであろう。」
10 モーセとアロンはファラオのところに行き、主が命じられた通りにした。アロンはファラオとその家臣たちの前に杖を投げ、それは蛇になった。
11 そこでファラオも賢者たちや呪術師たちを呼び寄せた。エジプトの魔術師たちもまた、彼らの秘術を使って同じことをした。
12 彼らもそれぞれ自分の杖を投げ、それらは蛇になった。しかしアロンの杖は彼らの杖を飲み込んだ。
13 しかしファラオの心はかたくなになり、主が語られた通り、彼らに聞き従わなかった。
14 主はモーセに言われた。「ファラオの心は強情である。彼は民を行かせることを拒んでいる。

15 朝、ファラオのところに行きなさい。見よ、彼は水辺に出て来る。あなたは彼に会うために川岸に立ちなさい。そして、蛇に変わったあの杖を手に取りなさい。
16 あなたは彼に言いなさい。『ヘブル人の神、主が私をあなたのもとに遣わして言われました。「わたしの民を行かせ、荒野でわたしに仕えさせなさい。」見よ、今まであなたは聞き従わなかった。
17 主はこう言われます。「これによって、あなたはわたしが主であることを知るであろう。見よ、私が手にしているこの杖で川の水を打つと、水は血に変わる。
18 川の魚は死に、川は悪臭を放つようになる。エジプト人は川から水を飲むことを忌み嫌うようになるであろう。」』」
19 主はモーセに言われた。「アロンに言いなさい。『あなたの杖を取り、エジプトの水、その川、水路、池、およびすべての貯水池の上に手を伸ばして、それらを血に変えなさい。』そうすれば、エジプトの地全体で、木の器や石の器の中にさえ、血があるようになるであろう。」
20 モーセとアロンは主が命じられた通りにした。彼はファラオの目の前と、その家臣たちの目の前で杖を上げ、川の水を打った。すると、川の水はすべて血に変わった。
21 川の魚は死んだ。川は悪臭を放った。エジプト人は川から水を飲むことができなくなった。血はエジプトの地全体に及んだ。
22 エジプトの魔術師たちも彼らの秘術を使って同じことをした。そのため、ファラオの心はかたくなになり、主が語られた通り、彼らに聞き従わなかった。
23 ファラオは向き直って自分の家に入り、このことさえ心に留めなかった。
24 エジプト人は皆、飲む水を得るために川の周辺を掘った。川の水を飲むことができなかったからである。
25 主が川を打たれてから、七日が満ちた。

8

1 主はモーセに語られた。「ファラオのところに行き、彼に言いなさい。『主はこう言われます。「わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。
2 もしあなたが行かせることを拒むなら、見よ、わたしはあなたの領土全体をカエルで打つ。
3 川にはカエルが群がり、それらははい上がって、あなたの家、寝室、ベッドの上、あなたの家臣たちの家、あなたの民の上、そしてあなたのかまどやこね鉢の中に入るであろう。
4 カエルはあなたの上にも、あなたの民の上にも、あなたのすべての家臣の上にもはい上がるであろう。」』」
5 主はモーセに言われた。「アロンに言いなさい。『あなたの杖を持った手を川、水路、池の上に伸ばし、カエルをエジプトの地にはい上がらせなさい。』」
6 アロンがエジプトの水の上に手を伸ばすと、カエルがはい上がって来て、エジプトの地を覆った。
7 魔術師たちも彼らの秘術を使って同じことをし、カエルをエジプトの地にはい上がらせた。
8 その時、ファラオはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「主にお願いして、私と私の民からカエルを取り除いてくれ。そうすれば民を行かせ、彼らが主にいけにえを献げられるようにしよう。」
9 モーセはファラオに言った。「私があなたとあなたの家臣とあなたの民のために祈り、カエルがあなたとあなたの家々から断たれ、ただ川にだけ残るようにする時を定める栄誉を、あなたにお譲りしましょう。」
10 ファラオは「明日だ」と言った。

モーセは言った。「あなたの言葉通りになりますように。私たちの神、主のような方は他にいないことを、あなたが知るためです。
11 カエルはあなたから、あなたの家から、あなたの家臣から、あなたの民から去り、川にだけ残るでしょう。」
12 モーセとアロンはファラオのところから出て行った。そしてモーセは、主がファラオにもたらしたカエルについて主に叫び求めた。
13 主はモーセの言葉通りにされ、カエルは家の中から、庭から、畑から死に絶えた。
14 彼らがそれらを山積みにすると、地は悪臭を放った。
15 しかしファラオは、一息つけるようになったのを見ると、心をかたくなにし、主が語られた通り、彼らに聞き従わなかった。
16 主はモーセに言われた。「アロンに言いなさい。『あなたの杖を伸ばして地のちりを打ち、エジプトの地全体でそれがシラミになるようにしなさい。』」
17 彼らはそのようにした。アロンが杖を持った手を伸ばして地のちりを打つと、人や動物の上にシラミがたかった。エジプトの地全体で、地のちりがすべてシラミになった。
18 魔術師たちも彼らの秘術を使ってシラミを出そうとしたが、できなかった。シラミは人や動物の上にたかった。
19 そこで魔術師たちはファラオに言った。「これは神の指です。」しかしファラオの心はかたくなになり、主が語られた通り、彼らに聞き従わなかった。
20 主はモーセに言われた。「朝早く起き、ファラオの前に立ちなさい。見よ、彼は水辺に出て来る。彼に言いなさい。『主はこう言われます。「わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。
21 そうでなく、もしわたしの民を行かせないなら、見よ、わたしはあなたと、あなたの家臣と、あなたの民と、あなたの家の中にハエの群れを送る。エジプト人の家々はハエの群れで満ち、彼らがいる地面もそうなるであろう。
22 その日、わたしはわたしの民が住んでいるゴシェンの地を区別し、そこにはハエの群れがいないようにする。それは、わたしがこの地における主であることを、あなたが知るためである。
23 わたしはわたしの民とあなたの民とを区別する。明日、このしるしが起こるであろう。」』」
24 主はそのようにされた。激しいハエの群れがファラオの家とその家臣たちの家に入って来た。エジプトの地全体で、地はハエの群れによって荒れ果てた。
25 ファラオはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「行って、この地であなたがたの神にいけにえを献げなさい。」
26 モーセは言った。「そのようにするのは適切ではありません。私たちは、私たちの神、主にエジプト人の忌み嫌うものをいけにえとして献げるからです。見よ、私たちがエジプト人の忌み嫌うものを彼らの目の前でいけにえとして献げたら、彼らは私たちを石で打ち殺さないでしょうか。
27 私たちは荒野へ三日の道のりを行き、私たちの神、主に命じられる通りにいけにえを献げます。」
28 ファラオは言った。「あなたがたを行かせよう。あなたがたは荒野であなたがたの神、主にいけにえを献げなさい。ただし、決して遠くへ行ってはならない。私のために祈ってくれ。」
29 モーセは言った。「見よ、私はあなたのところから出て行きます。明日、ハエの群れがファラオと、その家臣と、その民から去るように、私は主に祈りましょう。ただ、ファラオが民を行かせて主にいけにえを献げさせることにおいて、これ以上欺くことのないようにしてください。」
30 モーセはファラオのところから出て行き、主に祈った。

31 主はモーセの言葉通りにされ、ハエの群れをファラオと、その家臣と、その民から取り除かれた。一匹も残らなかった。
32 しかしファラオは、この時も心をかたくなにし、民を行かせなかった。

9

1 主はモーセに言われた。「ファラオのところに行き、彼に言いなさい。『ヘブル人の神、主はこう言われます。「わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。
2 もしあなたが行かせることを拒み、依然として彼らを留めておくなら、
3 見よ、主の手は野にいるあなたの家畜、すなわち馬、ろば、らくだ、牛の群れ、羊の群れの上に下り、非常に激しい疫病が起こるであろう。
4 主はイスラエルの家畜とエジプトの家畜とを区別される。イスラエルの子らに属するものは、一頭も死ぬことはない。」』」
5 主は定めの時を設けて言われた。「明日、主はこの地でこの事を行われる。」
6 主は次の日にその事を行われた。エジプトの家畜はすべて死んだが、イスラエルの子らの家畜は一頭も死ななかった。
7 ファラオが人をやって調べさせると、見よ、イスラエル人の家畜は一頭も死んでいなかった。しかしファラオの心は強情であり、彼は民を行かせなかった。
8 主はモーセとアロンに言われた。「炉の灰を両手いっぱいに取り、ファラオの目の前で、モーセがそれを天に向かってまき散らしなさい。
9 それはエジプトの地全体に細かいちりとなり、エジプトの地全体で、人や動物に腫れ物と水ぶくれを生じさせるであろう。」
10 彼らは炉の灰を取り、ファラオの前に立った。モーセがそれを天に向かってまき散らすと、それは人や動物に腫れ物と水ぶくれを生じさせた。
11 魔術師たちは腫れ物のためにモーセの前に立つことができなかった。腫れ物が魔術師たちとすべてのエジプト人にできたからである。
12 主はファラオの心をかたくなにされ、主がモーセに語られた通り、彼は彼らに聞き従わなかった。
13 主はモーセに言われた。「朝早く起き、ファラオの前に立ち、彼に言いなさい。『ヘブル人の神、主はこう言われます。「わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。
14 今回、わたしはすべての災いをあなたの心と、あなたの家臣と、あなたの民に対して送る。それは、全地でわたしのような者がいないことを、あなたが知るためである。
15 今、わたしが手を伸ばし、あなたとあなたの民を疫病で打っていたなら、あなたは地から断ち切られていたであろう。
16 しかし、わたしはこのことのためにあなたを立たせた。すなわち、あなたにわたしの力を示し、わたしの名が全地に宣言されるためである。
17 あなたはまだわたしの民に対して高ぶり、彼らを行かせないのか。
18 見よ、明日の今頃、わたしはエジプトが建国された日から今に至るまでなかったような、非常に激しい雹を降らせる。
19 だから今、あなたの家畜と、野にいるあなたのすべてのものを避難させるよう命じなさい。家に連れ戻されず、野にいる人や動物は皆、雹が降ってきて死ぬであろう。」』」
20 ファラオの家臣の中で主の言葉を恐れた者は、自分のしもべたちや家畜を家の中に逃げ込ませた。
21 主の言葉を心に留めなかった者は、自分のしもべたちや家畜を野に残した。
22 主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばし、エジプトの地全体で、人や動物、また野のすべての草の上に、雹が降るようにしなさい。」

23 モーセが杖を天に向けて伸ばすと、主は雷と雹を送られ、稲妻が地に向かってひらめいた。主はエジプトの地に雹を降らせた。
24 非常に激しい雹が降り、雹の間に稲妻がひらめいた。それはエジプトが国となって以来、その地全体でかつてなかったほどのものであった。
25 雹はエジプトの地全体で、野にいるすべての人と動物を打った。雹は野のすべての草を打ち、野のすべての木を打ち砕いた。
26 イスラエルの子らがいたゴシェンの地にだけは、雹は降らなかった。
27 ファラオは人をやってモーセとアロンを呼び寄せ、彼らに言った。「今回、私は罪を犯した。主は義であり、私と私の民は悪者だ。
28 主に祈ってくれ。激しい雷と雹はもうたくさんだ。あなたがたを行かせよう。これ以上とどまることはない。」
29 モーセは彼に言った。「町を出たらすぐに、私は主に向かって両手を広げます。雷は止み、もはや雹は降らないでしょう。それは、この地が主のものであることを、あなたが知るためです。
30 しかし、あなたとあなたの家臣については、あなたがたがまだ神である主を恐れていないことを私は知っています。」
31 亜麻と大麦は打たれた。大麦は実っており、亜麻は花を咲かせていたからである。
32 しかし、小麦とスペルト小麦は打たれなかった。これらはまだ成長していなかったからである。
33 モーセはファラオのところから町を出て、主に向かって両手を広げた。すると雷と雹は止み、雨は地に注がれなくなった。
34 雨と雹と雷が止んだのを見ると、ファラオはさらに罪を重ね、彼もその家臣も心をかたくなにした。
35 ファラオの心はかたくなになり、主がモーセを通して語られた通り、彼はイスラエルの子らを行かせなかった。

10

1 主はモーセに言われた。「ファラオのところに行きなさい。わたしが彼とその家臣の心をかたくなにしたのは、これらのわたしのしるしを彼らの中で示すためであり、
2 また、わたしがエジプトに対して行った事や、彼らの中で行ったわたしのしるしを、あなたが息子や孫に語り伝えるためである。それは、わたしが主であることをあなたがたが知るためである。」
3 モーセとアロンはファラオのところに行き、彼に言った。「ヘブル人の神、主はこう言われます。『あなたはいつまで、わたしの前にへりくだることを拒むのか。わたしの民を行かせ、わたしに仕えさせなさい。
4 もしあなたがわたしの民を行かせることを拒むなら、見よ、明日わたしはいなごをあなたの国に送る。
5 それらは地の面を覆い、誰も地を見ることができなくなる。それらは雹から逃れてあなたがたに残された残りのものを食べ、また野であなたがたのために育っている木をすべて食べるであろう。
6 あなたの家々、すべての家臣の家々、そしてすべてのエジプト人の家々は、いなごで満たされるであろう。このようなことは、あなたの父祖たちも、そのまた父祖たちも、彼らが地上にいた日から今日に至るまで、見たことがない。』」モーセは向き直り、ファラオのところから出て行った。
7 ファラオの家臣たちは彼に言った。「いつまでこの男は私たちにとっての罠となるのでしょうか。男たちを行かせ、彼らの神、主に仕えさせてください。エジプトが滅びてしまったことが、まだお分かりにならないのですか。」
8 モーセとアロンは再びファラオのもとに連れ戻された。彼は彼らに言った。「行って、あなたがたの神、主に仕えなさい。しかし、行くのは誰か。」

9 モーセは言った。「私たちは若者も老人も共に連れて行きます。息
子も娘も、羊の群れも牛の群れも連れて行きます。私たちは主の祭りを祝わな
ければならないからです。」
10 ファラオは彼らに言った。「私があなたがたの子どもたちを一緒に行かせ
るとしたら、主があなたがたに味方してくださるように。見よ、明らかに悪
事がおまえたちの顔の前にある。
11 そうはいかない。男たちだけ行って、主に仕えなさい。それこそおまえた
ちが望んでいたことではないか。」こうして、彼らはファラオの前か
ら追い出された。
12 主はモーセに言われた。「いなごのために、エジプトの地の上に手を伸ば
しなさい。それらがエジプトの地にはい上がり、地のすべての草、すなわ
ち雹が残したすべてのものを食べるようにしなさい。」
13 モーセがエジプトの地の上に杖を伸ばすと、主はその日一日中、そして一
晩中、地の上に東風を吹かせた。朝になると、東風がいなごを運んで来た。
14 いなごはエジプトの地全体にはい上がり、エジプトの全領土にとどまっ
た。それは非常に激しいものであった。あのような規模のいなごはかつてな
く、また今後もないであろう。
15 それらは地の面全体を覆ったので、地は暗くなった。それらは地のすべて
の草と、雹が残した木のすべての実を食べた。エジプトの地全体を通して、
木にも野の草にも、緑のものは何も残らなかった。
16 そこでファラオは急いでモーセとアロンを呼び寄せて言った。「私はあな
たがたの神、主に対して、またあなたがたに対して罪を犯した。
17 どうか今、もう一度だけ私の罪を赦し、あなたがたの神、主に祈って、こ
の死だけは私から取り除いてくれ。」
18 モーセはファラオのところから出て行き、主に祈った。
19 主は非常に強い西風を送り、それがいなごを巻き上げ、紅海*に追い払っ
た。エジプトの全領土に一匹のいなごも残らなかった。
20 しかし、主はファラオの心をかたくなにされ、彼はイスラエルの子ら
を行かせなかった。
21 主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばし、エジプト
の地の上に暗闇、手で触れるほどの暗闇をもたらしなさい。」
22 モーセが天に向けて手を伸ばすと、三日間、エジプトの地全体が濃い暗
闇に覆われた。
23 三日間、人々は互いを見ることも、誰も自分の場所から動くこともなかっ
た。しかし、イスラエルの子らが住む所にはすべて光があった。
24 ファラオはモーセを呼び寄せて言った。「行って、主に仕えなさい。た
だ、あなたがたの羊の群れと牛の群れは残しておけ。子どもたちも一緒に連れ
て行くがよい。」
25 モーセは言った。「私たちが私たちの神、主にいけにえを献げるため
に、あなたは犠牲や全焼のいけにえも私たちの手に渡さなければなりません。
26 私たちの家畜も一緒に連れて行きます。ひづめ一つ残すことはありませ
ん。私たちはそこから取って私たちの神、主に仕えなければならないからで
す。そして私たちはそこに行くまで、何をもって主に仕えるべきか分からない
のです。」
27 しかし主はファラオの心をかたくなにされ、彼は彼らを行かせようとはし
なかった。
28 ファラオは彼に言った。「私の前から立ち去れ。二度と私の顔を見ないよ
うに気をつけろ。私の顔を見るその日に、おまえは死ぬであろう。」

---

* **10:19 10:19**「紅海」はヘブル語の「ヤム・スフ」の翻訳であり、文字通りには「葦の海」または「ガマの海」と

29 モーセは言った。「おっしゃる通りです。私は二度とあなたの顔を見ることはないでしょう。」

11

1 主はモーセに言われた。「わたしはファラオとエジプトに、もう一つの災いをもたらす。その後、彼はあなたがたを行かせるであろう。彼があなたがたを行かせる時、彼は必ずあなたがたをここからすっかり追い出すであろう。
2 今、民の耳に語りなさい。男は自分の隣人から、女は自分の隣人から、銀の飾りと金の飾りを求めるようにさせなさい。」
3 主は、民がエジプト人の目に好意を得るようにされた。さらに、モーセという人はエジプトの地で、ファラオの家臣たちの目にも、民の目にも、非常に偉大であった。
4 モーセは言った。「主はこう言われます。『真夜中ごろ、わたしはエジプトのただ中に出て行く。
5 そして、王座に座るファラオの長子から、ひき臼の後ろにいる女奴隷の長子に至るまで、エジプトの地のすべての長子は死ぬ。また家畜の初子もすべて死ぬ。
6 エジプトの全地に、これまでになかったような、また二度とないような大きな叫びが起こるであろう。
7 しかし、イスラエルの子らのだれに対しても、人に対しても動物に対しても、犬さえ舌を動かして吠えることはない。それは、主がエジプト人とイスラエルとを区別されることを、あなたがたが知るためである。』
8 あなたのこれらの家臣たちは皆、私のところに下って来て私にひれ伏し、『あなたと、あなたに従うすべての民は出て行ってくれ』と言うでしょう。その後で、私は出て行きます。」モーセは激しく怒って、ファラオのところから出て行った。
9 主はモーセに言われた。「ファラオはあなたがたに聞き従わないであろう。それは、わたしの不思議な業がエジプトの地で増し加わるためである。」
10 モーセとアロンはファラオの前でこれらすべての不思議な業を行ったが、主はファラオの心をかたくなにされたので、彼はイスラエルの子らをその地から行かせなかった。

12

1 主はエジプトの地でモーセとアロンに語って言われた。
2 「この月はあなたがたにとって月々の始まりとなる。それはあなたがたにとって年の最初の月となる。
3 イスラエルの全会衆に告げて言いなさい。『この月の十日に、彼らは父祖の家ごとに一匹の小羊、すなわち一家族につき一匹の小羊を取らなければならない。
4 もし家族が小羊一匹には少なすぎるなら、その人は家の近くの隣人と共に、人数に応じて一匹を取らなければならない。あなたがたは、それぞれが食べる量に応じて、その小羊を数えなければならない。
5 あなたがたの小羊は傷のない、一歳の雄でなければならない。それは羊の群れ、あるいは山羊の群れから取らなければならない。
6 あなたがたはそれをこの月の十四日まで取り分けておき、イスラエルの会衆の全集会は夕暮れにそれを屠らなければならない。
7 彼らはその血のいくらかを取り、それを食べる家々の二つの門柱と鴨居に付けなければならない。
8 彼らはその夜、火で焼いたその肉を、種なしパンと一緒に食べなければならない。彼らはそれを苦菜と一緒に食べなければならない。

9 それを生で食べたり、水で煮たりしてはならない。頭も、足も、内臓も一緒に、火で焼かなければならない。
10 あなたがたは朝までそれを少しでも残しておいてはならない。朝まで残ったものは、火で焼き尽くさなければならない。
11 あなたがたは、腰に帯を締め、足に履き物を履き、手に杖を持ったまま、このようにしてそれを食べなければならない。あなたがたは急いでそれを食べなければならない。それは主の過越である。
12 わたしはその夜、エジプトの地を巡り、エジプトの地で人から動物に至るまで、すべての長子を打つからである。わたしはエジプトのすべての神々に裁きを下す。わたしは主である。
13 その血は、あなたがたがいる家々において、あなたがたのためのしるしとなる。わたしがその血を見る時、わたしはあなたがたを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つ時、あなたがたを滅ぼす災いはあなたがたの上に臨まない。
14 この日はあなたがたにとって記念となる。あなたがたはこれを主への祭りとして祝わなければならない。あなたがたは代々にわたり、永遠の掟としてこれを祭りにしなければならない。
15 『七日間、あなたがたは種なしパンを食べなければならない。その初日には、あなたがたの家からパン種を取り除かなければならない。初日から七日目までの間に種入りパンを食べる者は、その者がイスラエルから断たれるからである。
16 初日にはあなたがたに聖なる集会があり、七日目にも聖なる集会がなければならない。これらの日には、どんな仕事もしてはならない。ただ、各人が食べるもの、それだけはあなたがたが行ってもよい。
17 あなたがたは種なしパンの祭りを守らなければならない。まさにこの日に、わたしはあなたがたの軍団をエジプトの地から導き出したからである。それゆえ、あなたがたは代々にわたり、永遠の掟としてこの日を守らなければならない。
18 最初の月の十四日の夕暮れに、あなたがたは種なしパンを食べ始め、その月の二十一日の夕暮れまで食べなければならない。
19 七日間、あなたがたの家にパン種が見つかってはならない。種が入ったものを食べる者は、寄留者であれ、その地で生まれた者であれ、その者がイスラエルの会衆から断たれるからである。
20 あなたがたは種が入ったものを一切食べてはならない。あなたがたのすべての住まいで、種なしパンを食べなければならない。』」
21 そこでモーセはイスラエルのすべての長老たちを呼び寄せて、彼らに言った。「あなたがたの家族のために小羊を選び取って、過越のいけにえを屠りなさい。
22 ヒソプの束を取り、それを鉢の中の血に浸し、鉢の中の血を鴨居と二つの門柱に付けなさい。あなたがたは誰一人、朝まで自分の家の戸口から出てはならない。
23 主がエジプト人を打つために通り過ぎられるからである。主が鴨居と二つの門柱にある血をご覧になる時、主はその戸口を過ぎ越され、滅ぼす者があなたがたの家に入ってあなたがたを打つことをお許しにならない。
24 あなたがたはこれを、あなたとあなたの子らへの掟として、永遠に守らなければならない。
25 あなたがたが、主の約束通りに主が与えられる地に入った時、この儀式を守らなければならない。
26 そして、あなたがたの子どもたちがあなたがたに『この儀式にはどのような意味があるのですか』と尋ねる時、
27 あなたがたは『それは主の過越のいけにえである。主がエジプト人を打たれた時、エジプトにいたイスラエルの子らの家を過ぎ越され、私たちの家々を守ってくださったのだ』と言わなければならない。」

民は頭を下げて礼拝した。
28 イスラエルの子らは行って、そのようにした。主がモーセとアロンに命じられた通りに、彼らは行った。
29 真夜中に、主はエジプトの地のすべての長子を打たれた。それは王座に座るファラオの長子から、地下牢にいる捕虜の長子に至るまで、また家畜のすべての初子に及んだ。
30 ファラオは夜中に起き上がり、彼もそのすべての家臣も、すべてのエジプト人も起きた。エジプトには大きな叫びが起こった。死人のいない家は一つもなかったからである。
31 彼は夜のうちにモーセとアロンを呼び寄せて言った。「起き上がり、私の民の中から出て行け。おまえたちもイスラエルの子らもだ。行って、おまえたちが言ったように主に仕えよ。
32 おまえたちが言ったように、羊の群れも牛の群れも連れて去れ。そして私のことも祝福してくれ。」
33 エジプト人は民を急き立てて、大急ぎでその地から送り出そうとした。「私たちは皆、死んでしまう」と彼らが言ったからである。
34 民はパン種が入る前のパン生地を取り、こね鉢を衣服に包んで肩に担いだ。
35 イスラエルの子らはモーセの言葉通りに行い、エジプト人から銀の飾り、金の飾り、衣服を求めた。
36 主が、民がエジプト人の目に好意を得るようにされたので、彼らは民の求めるものを与えた。こうして彼らはエジプト人から奪い取った。
37 イスラエルの子らはラメセスからスコテへと旅立った。子どもたちを除いて、徒歩の男たちは約六十万人であった。
38 多くの入り混じった群衆も彼らと共に上り、羊の群れ、牛の群れ、さらに非常に多くの家畜も共に行った。
39 彼らはエジプトから持ち出したパン生地で、種なしの菓子を焼いた。エジプトから追い出され、待つことができず、また自分たちのための食料も準備していなかったため、それにはパン種が入っていなかったからである。
40 イスラエルの子らがエジプトに住んでいた期間は四百三十年であった。
41 四百三十年が終わったまさにその日に、主のすべての軍団はエジプトの地から出て行った。
42 それは、彼らをエジプトの地から導き出された主のために、大いに守られるべき夜である。この夜は、イスラエルのすべての子らが代々にわたり大いに守るべき主の夜である。
43 主はモーセとアロンに言われた。「これが過越の掟である。外国人は誰もこれを食べてはならない。
44 しかし、金で買われた人の奴隷はみな、あなたが彼に割礼を施したなら、これを食べることができる。
45 滞在している外国人や雇い人は、これを食べてはならない。
46 それは一つの家の中で食べなければならない。あなたはその肉のいかなる部分も、家の外に持ち出してはならない。その骨を一つも折ってはならない。
47 イスラエルの全会衆がこれを守らなければならない。
48 異国人が寄留者としてあなたと共に住んでおり、主に過越を守りたいと願うなら、彼のすべての男子に割礼を受けさせなさい。そうして初めて、彼は近づいてこれを守ることができる。彼はその地で生まれた者のようになる。しかし、割礼を受けていない者は誰もこれを食べてはならない。
49 家で生まれた者にも、あなたがたの間に寄留する異国人にも、一つの同じ律法が適用される。」
50 イスラエルの子らは皆、そのようにした。主がモーセとアロンに命じられた通りに彼らは行った。

51 まさにその日、主はイスラエルの子らをその軍団ごとにエジプトの地から導き出された。

13

1 主はモーセに言われた。
2 「イスラエルの子らのうち、人でも動物でも、胎を開く初子はすべて、わたしのために聖別しなさい。それはわたしのものである。」
3 モーセは民に言った。「あなたがたがエジプト、奴隷の家から出て来たこの日を記念しなさい。主が力強い手であなたがたをそこから導き出されたからである。種入りパンを食べてはならない。
4 あなたがたは今日、アビブの月に旅立った。
5 主が、カナン人、ヘト人、アモリ人、ヒビ人、エブス人の地、すなわちあなたの父祖たちに与えると誓った、乳と蜜の流れる地にあなたを導き入れる時、あなたはこの月にこの儀式を守らなければならない。
6 七日間、種なしパンを食べなければならない。七日目には主への祭りがある。
7 種なしパンは七日間食べなければならない。種入りパンがあなたのところに見られてはならない。また、あなたのすべての領土で、パン種があなたのところに見られてはならない。
8 あなたはその日に自分の子に説明して言いなさい。『これは、私がエジプトから出て来た時、主が私のためにしてくださったことのためである。』
9 これはあなたの手のしるし、また目の間の記念としてあなたのところにある。それは主の律法があなたの口にあるようにするためである。主が力強い手で、あなたをエジプトから導き出されたからである。
10 それゆえ、あなたはこの掟を、その定められた時に、年ごとに守らなければならない。
11 主があなたとあなたの父祖たちに誓われたように、あなたをカナン人の地に導き入れ、そこをあなたに与えられる時、
12 あなたは胎を開くすべてのものを主のために取り分けなければならない。あなたの家畜から生まれるすべての初子、すなわち雄は、主のものである。
13 ロバの初子はすべて、小羊をもってあがなわなければならない。あがなわないなら、その首を折らなければならない。また、あなたの子らのうち、人の初子はすべてあがなわなければならない。
14 後になってあなたの子が『これは何ですか』と尋ねるなら、あなたは彼に言いなさい。『主は力強い手で、奴隷の家であるエジプトから私たちを導き出された。
15 ファラオが頑なになって私たちを行かせるのを拒んだ時、主はエジプトの地で、人の初子から家畜の初子に至るまで、すべての初子を殺された。それゆえ、私は胎を開くすべての雄の初子を主にいけにえとして献げ、自分の息子たちのうち、人の初子はすべてあがなっている。』
16 これはあなたの手のしるし、また目の間の記章としてあなたのところにある。主が力強い手で、私たちをエジプトから導き出されたからである。」
17 ファラオが民を去らせた時、神は彼らをペリシテ人の地の道には導かなかった。それは近い道であったが、神は「民が戦いを見て心を変え、エジプトに帰るかもしれない」と言われたからである。
18 神は民を、荒野の道を通って紅海の方へと回り道させた。イスラエルの子らはエジプトの地から武装して上った。
19 モーセはヨセフの骨を携えていた。ヨセフがイスラエルの子らに「神は必ずあなたがたを顧みられる。その時、私の骨をここから携えて上りなさい」と言って、堅く誓わせたからである。
20 彼らはスコテを出発し、荒野の端にあるエタムに宿営した。

21 主は、昼は雲の柱で彼らを導き、夜は火の柱で彼らを照らして、彼らを昼夜とも進ませるために、彼らの前を進まれた。
22 昼は雲の柱、夜は火の柱が、民の前から離れることはなかった。

14

1 主はモーセに言われた。
2 「イスラエルの子らに、引き返して、ミグドルと海の間にあるピハヒロテの前、バアル・ツェフォンの前に宿営するように言いなさい。あなたがたはそれに向かい合って、海沿いに宿営しなければならない。
3 ファラオはイスラエルの子らについて、『彼らはあの地で迷っており、荒野が彼らを閉じ込めた』と言うであろう。
4 わたしはファラオの心をかたくなにし、彼が彼らを追いかけて来るようにする。わたしはファラオとそのすべての軍勢によって誉れを得る。エジプト人は、わたしが主であることを知るであろう。」彼らはそのようにした。
5 民が逃亡したことがエジプトの王に告げられると、ファラオとその家臣たちは民に対して心を変え、彼らは言った。「私たちは何ということをしたのか。イスラエルを私たちに仕えることから解放して行かせてしまった。」
6 彼は戦車を整え、自分の軍勢を連れて行った。
7 彼は選りすぐりの戦車六百台、およびエジプトのすべての戦車、それらすべての上の指揮官を連れて行った。
8 主はエジプトの王ファラオの心をかたくなにされたので、彼はイスラエルの子らを追跡した。イスラエルの子らは高く手を上げて出て行った*。
9 エジプト人は彼らを追跡した。ファラオのすべての馬、戦車、騎兵、軍勢が、海沿いのピハヒロテのそば、バアル・ツェフォンの前で宿営していた彼らに追いついた。
10 ファラオが近づいて来た時、イスラエルの子らは目を上げた。見よ、エジプト人が彼らの後ろから進んで来る。彼らはひどく恐れ、イスラエルの子らは主に叫んだ。
11 彼らはモーセに言った。「エジプトに墓がないからといって、あなたは私たちを荒野で死なせるために連れて来たのですか。私たちをエジプトから連れ出して、あなたは私たちに何ということをしたのですか。
12 私たちがエジプトであなたに言った言葉は、これではありませんでしたか。『私たちを放っておいて、エジプト人に仕えさせなさい』と。エジプト人に仕える方が、荒野で死ぬよりも私たちには良かったのです。」
13 モーセは民に言った。「恐れてはならない。しっかりと立ち、今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。あなたがたが今日見ているエジプト人を、二度と永遠に見ることはないであろう。
14 主があなたがたのために戦われる。あなたがたは静かにしていなさい。」
15 主はモーセに言われた。「なぜわたしに叫ぶのか。イスラエルの子らに前進するように言いなさい。
16 あなたは杖を上げ、手を海の上に向けて伸ばし、海を分けなさい。イスラエルの子らは海の真ん中を乾いた地として通るであろう。
17 見よ、わたし自身がエジプト人の心をかたくなにするので、彼らはその後を追って入って行く。わたしはファラオとそのすべての軍勢、その戦車、その騎兵によって誉れを得る。
18 わたしがファラオとその戦車、騎兵によって誉れを得る時、エジプト人はわたしが主であることを知るであろう。」
19 イスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは移動し、彼らの後ろに行った。雲の柱も彼らの前を離れ、彼らの後ろに立った。

---

* **14:8 14:8** または「反抗的に」。

20 それはエジプトの陣営とイスラエルの陣営の間に来た。そこには雲と闇があったが、夜を照らした。夜の間、一方は他方に近づかなかった。
21 モーセが手を海の上に向けて伸ばすと、主は一晩中、強い東風で海を後退させ、海を乾いた地とし、水は分かれた。
22 イスラエルの子らは海の真ん中を乾いた地として通り、水は彼らの右と左で壁となった。
23 エジプト人は追跡し、ファラオのすべての馬、戦車、騎兵が彼らの後を追って海の中に入って来た。
24 朝の見張り時に、主は火と雲の柱の中からエジプト人の軍勢を見下ろし、エジプト人の軍勢を混乱に陥れられた。
25 主は彼らの戦車の車輪を外し、それを重くして進みにくくされた。エジプト人は言った。「イスラエルの前から逃げよう。主が彼らのためにエジプト人と戦っておられるからだ。」
26 主はモーセに言われた。「手を海の上に向けて伸ばし、水がエジプト人、戦車、騎兵の上に返るようにしなさい。」
27 モーセが手を海の上に向けて伸ばすと、朝方、海は元の勢いに戻った。エジプト人はそれに向かって逃げたが、主はエジプト人を海の真ん中で打ち倒された。
28 水は戻り、彼らの後を追って海に入ったファラオの全軍勢の戦車と騎兵を覆った。一人も残らなかった。
29 しかしイスラエルの子らは海の真ん中を乾いた地として歩いた。水は彼らの右と左で壁となった。
30 こうして、主はその日、イスラエルをエジプト人の手から救われた。イスラエルは海辺にエジプト人の死体を見た。
31 イスラエルは、主がエジプト人に行われた大いなる御業を見た。民は主を恐れ、主とそのしもべモーセを信じた。

15

1 その時、モーセとイスラエルの子らは、主に向かってこの歌を歌った。彼らは言った。
「私は主に歌う。主は高く勝ち誇られたから。
馬と乗り手を海に投げ込まれた。
2 主は私の力、私の歌、私の救いとなられた。
この方は私の神。私はこの方を賛美する。私の父の神。私はこの方をあがめる。
3 主は戦いの人。主はその名。
4 主はファラオの戦車と軍勢を海に投げ込まれた。
その選りすぐりの指揮官たちは紅海に沈んだ。
5 大水が彼らを覆った。彼らは深みに石のように沈んだ。
6 主よ、あなたの右の手は力において栄光に輝く。
主よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。
7 あなたの偉大な威厳によって、あなたはあなたに逆らい立つ者たちを打ち倒される。
あなたは憤りを放ち、それは彼らをわらのように焼き尽くす。
8 あなたの鼻の息によって水は積み上げられた。流れは堰のように立ち、深海は海の真ん中で固まった。
9 敵は言った。『追いかけよう。追いつこう。獲物を分けよう。私の欲望を彼らで満たそう。私は剣を抜こう。私の手は彼らを滅ぼそう。』
10 あなたが風を吹きかけると、海は彼らを覆った。彼らは大水の中に鉛のように沈んだ。
11 主よ、神々の中にあなたのような方は誰がいるでしょうか。
聖さにおいて栄光あり、賛美において恐るべき方、奇跡を行う方のような方は誰がいるでしょうか。

12 あなたが右の手を伸ばされると、地は彼らを飲み込んだ。
13 あなたは贖い出した民を慈しみによって導き、あなたの聖なる住まいへ、あなたの力によって彼らを導かれる。
14 もろもろの民は聞いて震える。ペリシテの住民に苦しみが襲う。
15 エドムの長たちは驚き、モアブの力ある者たちには震えが及ぶ。カナンの住民は皆、溶け去る。
16 恐怖と恐れが彼らの上に臨む。あなたの腕の偉大さゆえに、彼らは石のように静まり返る。主よ、あなたの民が通り過ぎるまで、あなたが買い取られたこの民が通り過ぎるまで。
17 あなたは彼らを導き入れ、あなたの嗣業の山に植えられる。
主よ、それはあなたが住まうためにご自分のために造られた場所。主よ、あなたの手が据えられた聖所。
18 主はとこしえに、永遠に王として治められる。」
19 ファラオの馬が、戦車や騎兵と共に海に入った時、主は海の水を彼らの上に引き戻された。しかしイスラエルの子らは海の真ん中を乾いた地として歩いた。
20 アロンの姉妹、女預言者ミリアムは手にタンバリンを取り、女たちは皆、タンバリンを手に踊りながら彼女の後について出て来た。
21 ミリアムは彼らに応えて歌った。
「主に歌え。主は高く勝ち誇られた。
馬と乗り手を海に投げ込まれたから。」
22 モーセはイスラエルを紅海から進ませた。彼らはシュルの荒野に出て行き、荒野で三日間旅をしたが、水を見つけられなかった。
23 彼らがマラに着いた時、マラの水は苦くて飲むことができなかった。そのためその場所はマラ*と呼ばれた。
24 民はモーセにつぶやいて言った。「私たちは何を飲めばよいのか。」
25 モーセが主に叫ぶと、主は彼に一本の木を示された。彼がそれを水に投げ入れると、水は甘くなった。そこで主は彼らのために掟と定めを設け、そこで彼らを試みられた。
26 そして言われた。「もしあなたが、あなたの神、主の声に注意深く聞き従い、主の目に正しいことを行い、その命令に耳を傾け、すべての掟を守るなら、わたしはエジプト人に下した病を一つもあなたに下さない。わたしはあなたを癒やす主であるから。」
27 彼らはエリムに着いた。そこには十二の泉と七十本のなつめやしの木があった。彼らはそこで水辺に宿営した。

16

1 彼らはエリムを出発した。イスラエルの子らの全会衆はエリムとシナイの間のシン荒野に来た。それはエジプトの地から出て来た後、第二の月の十五日であった。
2 イスラエルの子らの全会衆は、荒野でモーセとアロンにつぶやいた。
3 イスラエルの子らは彼らに言った。「私たちはエジプトの地で、肉の鍋の傍らに座り、パンを腹いっぱい食べていた時に、主の手によって死んでいればよかった。あなたがたは、この全集会を飢え死にさせるために、私たちをこの荒野に連れ出したのだ。」
4 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたがたのために天からパンを降らせる。民は出て行って、日ごとに一日の分を集めなければならない。わたしは彼らがわたしの律法に歩むかどうかを試みる。
5 六日目には、彼らが持ち帰ったものを用意すると、それは毎日集める分の二倍となる。」

* **15:23 15:23** 「マラ」は「苦い」を意味する。

6 モーセとアロンはイスラエルのすべての子らに言った。「夕方になると、あなたがたはエジプトの地からあなたがたを導き出されたのが主であることを知る。
7 朝になると、あなたがたは主の栄光を見る。主に対するあなたがたのつぶやきを、主が聞かれるからである。私たちは何者なのか。あなたがたが私たちに対してつぶやくとは。」
8 モーセは言った。「主は夕方には食べる肉を、朝には満ち足りるほどのパンをあなたがたに与えてくださる。主に対してあなたがたがつぶやいているそのつぶやきを、主が聞かれるからである。私たちは何者なのか。あなたがたのつぶやきは私たちに対してではなく、主に対してなのだ。」
9 モーセはアロンに言った。「イスラエルの子らの全会衆に言いなさい。『主の前に近づきなさい。主があなたがたのつぶやきを聞かれたからである。』」
10 アロンがイスラエルの子らの全会衆に語っていると、彼らは荒野の方を見た。すると見よ、主の栄光が雲の中に現れた。
11 主はモーセに言われた。
12 「わたしはイスラエルの子らのつぶやきを聞いた。彼らに語って言え。『夕方になると、あなたがたは肉を食べ、朝にはパンで満ち足りる。そうすれば、わたしがあなたがたの神、主であることを知るであろう。』」
13 夕方になると、うずらが飛んで来て陣営を覆った。朝になると、陣営の周囲に露が降りていた。
14 降りていた露が上がると、見よ、荒野の面に、地の上の霜のような、小さく丸いものがあった。
15 イスラエルの子らはそれを見ると、互いに言った。「これは何だろう。」彼らはそれが何であるかを知らなかったからである。モーセは彼らに言った。「これは主があなたがたに食べるために与えられたパンである。
16 主が命じられたことはこうである。『各人は食べる分だけ、一人につき一オメル*ずつ、自分の天幕にいる人数に応じて集めなさい。』」
17 イスラエルの子らはそのようにした。ある者は多く、ある者は少なく集めた。
18 彼らがオメルで量ると、多く集めた者も余らず、少なく集めた者も不足しなかった。各人は食べる分だけ集めた。
19 モーセは彼らに言った。「だれも朝までそれを残してはならない。」
20 しかし彼らはモーセに聞き従わなかった。ある者たちが朝までそれを残しておくと、虫がわき、臭くなった。モーセは彼らに怒った。
21 彼らは毎朝、各人が食べる分だけを集めた。日が熱くなると、それは溶けた。
22 六日目になると、彼らは二倍のパン、すなわち一人につき二オメルずつ集めた。会衆の長は皆来て、モーセに告げた。
23 モーセは彼らに言った。「これは主が語られたことである。『明日は厳粛な休み、主への聖なる安息である。焼きたいものは焼き、煮たいものは煮なさい。残ったものはすべて、明日の朝まで保管のために取っておきなさい。』」
24 彼らはモーセが命じた通り、朝までそれを取っておいたが、臭くもならず、虫もわかなかった。
25 モーセは言った。「今日はそれを食べなさい。今日は主への安息である。今日、野でそれを見つけることはないであろう。
26 六日間はそれを集めなければならないが、七日目は安息である。その日には何もない。」
27 七日目になると、民のうちのある者たちが集めに出て行ったが、何も見つからなかった。

---

* **16:16 16:16** 一オメルは約二・二リットルである。

28 主はモーセに言われた。「あなたがたはいつまで、わたしの戒めとわたしの律法を守ることを拒むのか。
29 見よ、主が安息をあなたがたに与えられたので、六日目には二日分のパンをあなたがたに与えられる。七日目には、各人は自分の場所に留まり、だれもその場所から出てはならない。」
30 こうして民は七日目に休んだ。
31 イスラエルの家はそれをマナ†と名付けた。それはコリアンダーの種のように白く、蜂蜜を入れた薄焼き菓子の味のようであった。
32 モーセは言った。「主が命じられたことはこれである。『一オメル分を保管しなさい。それはあなたがたの代々にわたるためである。それは、わたしがあなたがたをエジプトの地から導き出した時、荒野であなたがたに食べさせたパンを、彼らが見るためである。』」
33 モーセはアロンに言った。「壺を取り、その中に一オメル分のマナを入れ、それを主の前に置いて、あなたがたの代々にわたり保管しなさい。」
34 主がモーセに命じられた通り、アロンはそれを保管のためにあかしの前に置いた。
35 イスラエルの子らは、人が住む地に着くまで、四十年間マナを食べた。彼らはカナンの地の境に着くまでマナを食べた。
36 オメルはエファの十分の一である。‡

17

1 イスラエルの子らの全会衆は、主の命令に従い、シンの荒野から旅程ごとに旅立った。彼らはレフィディムで宿営したが、そこには民が飲む水がなかった。
2 それで民はモーセと争い、「私たちに飲む水を与えよ」と言った。モーセは彼らに言った。「なぜ私と争うのか。なぜ主を試みるのか。」
3 民はそこで水に渇いていた。民はモーセに対してつぶやいて言った。「なぜ私たちをエジプトから導き上ったのか。私や子どもたち、家畜を渇きで死なせるためか。」
4 モーセは主に叫んで言った。「私はこの民をどうすればよいのでしょうか。彼らは今にも私を石で打ち殺そうとしています。」
5 主はモーセに言われた。「民の前を進み、イスラエルの長老たちを連れて行きなさい。ナイル川を打ったあなたの杖を手に取って行きなさい。
6 見よ、わたしはホレブの岩の上で、あなたの前のそこに立つ。あなたはその岩を打たなければならない。そうすれば、そこから水が出て、民は飲むことができる。」モーセはイスラエルの長老たちの目の前でそのようにした。
7 彼はその場所の名前をマサ*、およびメリバ†と呼んだ。イスラエルの子らが争ったためであり、また彼らが「主は私たちのうちにおられるのか、おられないのか」と言って主を試みたからである。
8 その時アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。
9 モーセはヨシュアに言った。「私たちのために男たちを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。明日、私は神の杖を手に持って、丘の頂に立つ。」
10 ヨシュアはモーセが言った通りにし、アマレクと戦った。モーセ、アロン、フルは丘の頂に上った。
11 モーセが手を上げている時はイスラエルが優勢になり、彼が手を下ろすとアマレクが優勢になった。
12 しかし、モーセの手が重くなったので、彼らは石を取って彼の下に置き、彼はその上に座った。アロンとフルは、一人はこちら側、もう一人はあちら側で彼の手を支えた。こうして彼の手は日が沈むまでしっかりと保たれた。

---

† **16:31** **16:31** 「マナ」は「これは何か」を意味する。 ‡ **16:36** **16:36** 一エファは約二十二リットルである。 * **17:7** **17:7** 「マサ」は「試みる」という意味である。 † **17:7** **17:7** 「メリバ」は「争う」という意味である。

13 ヨシュアは剣の刃でアマレクとその民を打ち破った。
14 主はモーセに言われた。「これを記念として書物に書き記し、ヨシュアの耳に語り聞かせなさい。わたしは天の下からアマレクの記憶を完全に消し去るからである。」
15 モーセは祭壇を築き、その名前を「主は私の旗」‡と呼んだ。
16 彼は言った。「主は誓われた。主は代々にわたりアマレクと戦われる。」

18

1 ミディアンの祭司でモーセのしゅうとであるエテロは、神がモーセとご自分の民イスラエルのために行われたすべてのこと、主がイスラエルをエジプトから導き出されたことを聞いた。
2 モーセのしゅうとエテロは、送り返されていたモーセの妻チッポラと、
3 その二人の息子を連れて来た。一人の名前はゲルショム*であった。モーセが「私は異国の地で寄留者として生きてきた」と言ったからである。
4 もう一人の名前はエリエゼル†であった。彼が「私の父の神は私の助けであり、ファラオの剣から私を救い出してくださった」と言ったからである。
5 モーセのしゅうとエテロは、モーセの息子たちと妻を連れ、荒野で神の山に宿営しているモーセのところに来た。
6 彼はモーセに言った。「あなたのしゅうとである私エテロが、あなたの妻と彼女の二人の息子と共にあなたのところに来た。」
7 モーセはしゅうとを迎えるために出て行き、身をかがめて彼に口づけした。彼らは互いの安否を尋ね合い、天幕に入った。
8 モーセはしゅうとに、主がイスラエルのためにファラオとエジプト人に行われたすべてのこと、途中で彼らに降りかかったすべての苦難、そして主が彼らをどのように救い出されたかを語った。
9 エテロは、主がイスラエルをエジプト人の手から救い出して彼らに行われたすべての良いことを喜んだ。
10 エテロは言った。「主はほめたたえられるべきである。主はあなたがたをエジプト人の手から、またファラオの手から救い出され、民をエジプト人の手の下から救い出された。
11 私は今、主がすべての神々にまさって大いなる方であることを知った。彼らが民に対して高ぶって行ったその事においてである。」
12 モーセのしゅうとエテロは全焼のいけにえと、神への犠牲を持って来た。アロンとイスラエルのすべての長老たちが来て、モーセのしゅうとと共に神の前でパンを食べた。
13 翌日、モーセは民を裁くために座り、民は朝から夕方までモーセの周りに立っていた。
14 モーセのしゅうとは、彼が民のためにしているすべてのことを見て言った。「あなたが民のためにしているこの事は何ですか。なぜあなただけが一人で座り、民は皆、朝から夕方まであなたの周りに立っているのですか。」
15 モーセはしゅうとに言った。「民が神に尋ねるために私のところに来るからです。
16 彼らに事柄がある時、彼らは私のところに来ます。私は一人とその隣人との間を裁き、神の掟と律法を知らせるのです。」
17 モーセのしゅうとは彼に言った。「あなたのしている事は良くありません。
18 あなたも、あなたと一緒にいるこの民も、必ず疲れ果ててしまいます。この事はあなたには重すぎます。あなた一人でそれを行うことはできません。

---

‡ **17:15** **17:15** 「主は私の旗」はヘブル語で「ヤハウェ・ニシ」である。
* **18:3** **18:3** 「ゲルショム」はヘブル語の「そこにいる寄留者」という言葉に発音が似ている。
† **18:4** **18:4** 「エリエゼル」は「私の神は助け」という意味である。

19 今、私の声に聞き従いなさい。私はあなたに助言を与えます。神があなたと共におられますように。あなたは神の前で民の代表となり、その事柄を神のところに持って行きなさい。
20 あなたは彼らに掟と律法を教え、彼らが歩むべき道と、なすべき事を彼らに示しなさい。
21 さらにあなたは、すべての民の中から、神を恐れる有能な人々、真実な人々、不当な利益を憎む人々を見つけ出し、彼らを千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として民の上に立てなさい。
22 彼らに常に民を裁かせなさい。すべての大きな事柄はあなたのところに持って来させ、すべての小さな事柄は彼ら自身で裁かせなさい。そうすれば、あなたには楽になり、彼らはあなたと重荷を分かち合うでしょう。
23 もしあなたがこの事を行い、神もあなたにそう命じられるなら、あなたは耐えることができ、またこの民も皆、平和に自分の場所に帰ることができるでしょう。」
24 そこでモーセはしゅうとの声に聞き従い、彼が言った通りのことをすべて行った。
25 モーセは全イスラエルの中から有能な人々を選び、彼らを民の頭、すなわち千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長とした。
26 彼らは常に民を裁いた。難しい事柄はモーセのところに持って来たが、小さな事柄はすべて彼ら自身で裁いた。
27 モーセはしゅうとを送り出し、彼は自分の地へ帰って行った。

19

1 イスラエルの子らがエジプトの地を出てから三か月目、その同じ日に、彼らはシナイの荒野に着いた。
2 彼らはレフィディムから旅立ち、シナイの荒野に来て、荒野に宿営した。イスラエルはそこで山の前に宿営した。
3 モーセは神のもとへ上って行った。主は山から彼を呼んで言われた。「ヤコブの家にこう言い、イスラエルの子らに告げなさい。
4 『あなたがたは、わたしがエジプト人に行ったこと、また、わたしがあなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。
5 だから今、もしあなたがたがわたしの声に確かに聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての民の中からわたし自身の宝となる。全地はわたしのものであるからだ。
6 あなたがたはわたしにとって、祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、あなたがイスラエルの子らに語るべき言葉である。」
7 モーセは来て、民の長老たちを呼び寄せ、主が彼に命じられたこれらすべての言葉を彼らの前に置いた。
8 民は皆一緒に答えて言った。「主が言われたことを、私たちはすべて行います。」モーセは民の言葉を主に持ち帰った。
9 主はモーセに言われた。「見よ、わたしは濃い雲の中であなたのところに行く。それは、わたしがあなたと語る時、民が聞き、あなたを永遠に信じるためである。」モーセは民の言葉を主に告げた。
10 主はモーセに言われた。「民のところに行き、今日と明日、彼らを聖別しなさい。彼らに衣服を洗わせ、
11 三日目に備えさせなさい。三日目に、主はすべての民の目の前でシナイ山に下られるからである。
12 あなたは民のために周囲に境界を設けて言いなさい。『山に上ったり、その境界に触れたりしないように気をつけなさい。山に触れる者はみな、必ず死刑に処せられる。

13 その者に手を触れてはならない。その者は必ず石で打たれるか、矢で射抜かれるからである。動物であれ人であれ、生かしておいてはならない。』角笛が長く鳴り響く時、彼らは山に近づいてよい。」
14 モーセは山から民のところに下り、民を聖別した。彼らは衣服を洗った。
15 彼は民に言った。「三日目に備えなさい。女に近づいてはならない。」
16 三日目の朝になると、雷と稲妻があり、濃い雲が山の上にあった。そして非常に大きな角笛の音がして、陣営にいたすべての民は震えた。
17 モーセは神に会うために、民を陣営から導き出し、彼らは山のふもとに立った。
18 シナイ山は全体が煙っていた。主が火の中でその上に下られたからである。その煙はかまどの煙のように立ち上り、山全体が激しく震えた。
19 角笛の音がますます大きくなった時、モーセは語り、神は声を出して彼に答えられた。
20 主はシナイ山の上、その山の頂に下られた。主はモーセを山の頂に呼ばれ、モーセは上って行った。
21 主はモーセに言われた。「下って行き、民が主を見るために押し破って来ないように警告しなさい。そうしなければ、多くの者が滅びるであろう。
22 また、主に近づく祭司たちも自らを聖別しなければならない。主が彼らに襲いかかられないためである。」
23 モーセは主に言った。「民はシナイ山に上ることはできません。あなたが私たちに『山の周囲に境界を設け、それを聖別しなさい』と言って警告されたからです。」
24 主は彼に言われた。「行きなさい。下って行き、アロンと一緒に上って来なさい。しかし、祭司たちや民には、主に上って来るために押し破らせてはならない。主が彼らに襲いかかられないためである。」
25 そこでモーセは民のところに下り、彼らに語った。

20

1 神はこれらすべての言葉を語って言われた。
2 「わたしはあなたの神、主である。わたしはあなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した。
3 あなたには、わたしの前にほかの神々があってはならない。
4 あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、あるいは地の下の水の中にあるものの、いかなる形も造ってはならない。
5 あなたはそれらを拝んではならず、それらに仕えてはならない。あなたの神である主、わたしはねたむ神であるからだ。わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼす。
6 しかし、わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、千代にわたって慈しみを示す。
7 あなたの神、主の名をみだりに用いてはならない*。主は、ご自分の名をみだりに用いる者を罰せずにはおかれないからである。
8 安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。
9 六日間働き、あなたのすべての仕事をしなければならない。
10 しかし七日目は、あなたの神、主への安息である。あなたも、息子も娘も、男奴隷も女奴隷も、家畜も、あなたの門の中にいる寄留者も、いかなる仕事もしてはならない。
11 主は六日間で天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとされた。

* **20:7 20:7** または「あなたの神、主の名をむなしく取ってはならない」。

12 あなたの父と母を敬え。それは、あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地で、あなたの日々が長く続くためである。
13 殺人を犯してはならない。
14 姦淫してはならない。
15 盗んではならない。
16 あなたの隣人に対して偽証してはならない。
17 あなたの隣人の家をむさぼってはならない。あなたの隣人の妻、彼の男奴隷、女奴隷、彼の牛、彼のろば、あるいはあなたの隣人のいかなるものもむさぼってはならない。」
18 すべての民は、雷、稲妻、角笛の音、そして煙る山を見た。民はそれを見ると震え、遠く離れて立った。
19 彼らはモーセに言った。「あなたご自身が私たちに語ってください。そうすれば私たちは聞き従います。しかし、神が私たちに語られないようにしてください。私たちが死んでしまわないためです。」
20 モーセは民に言った。「恐れてはならない。神が来られたのは、あなたがたを試みるためであり、あなたがたの前に神への恐れがあって、あなたがたが罪を犯さないためである。」
21 民は遠く離れて立ち、モーセは神がおられる濃い暗闇に近づいて行った。
22 主はモーセに言われた。「あなたはイスラエルの子らにこう言いなさい。『あなたがたは、わたしが天からあなたがたと語ったことを自ら見た。
23 あなたがたは、わたしと並べて銀の神々や金の神々を自分のために造ってはならない。決して造ってはならない。
24 わたしのために土の祭壇を造り、その上にあなたの全焼のいけにえ、和解のいけにえ、あなたの羊と牛を献げなさい。わたしがわたしの名を記すすべての場所で、わたしはあなたのところに来て、あなたを祝福する。
25 もしわたしのために石の祭壇を造るなら、切り石でそれを築いてはならない。あなたがそれに道具を当てるなら、それを汚すことになるからである。
26 また、階段によってわたしの祭壇に上ってはならない。あなたの裸がそこで露わにされないためである。』

21

1 「これらは、あなたが彼らの前に置くべき掟である。
2 あなたがヘブル人の奴隷を買う場合、彼は六年間仕え、七年目には無償で自由の身となって出て行く。
3 もし彼がひとりで来たなら、ひとりで出て行く。もし彼が妻帯者であれば、妻は彼と共に出て行く。
4 もし主人が彼に妻を与え、彼女が彼に息子や娘を産んだ場合、その妻と子どもたちは主人のものとなり、彼はひとりで出て行く。
5 しかし、もしその奴隷がはっきりと『私は主人と、妻と、子どもたちを愛している。自由の身となって出て行くことはしない』と言うなら、
6 主人は彼を神のもとに連れて行き、戸口か門柱に連れて行く。そして主人はきりで彼の耳を突き通し、彼は永遠に主人に仕える。
7 人が自分の娘を女奴隷として売る場合、彼女は男奴隷たちが出て行くようには出て行かない。
8 もし彼女が、自分を妻とした主人の気に入らない場合、主人は彼女をあがなわせなければならない。主人は彼女を裏切ったのであるから、彼女を外国の民に売る権利はない。
9 もし主人が彼女を自分の息子と結婚させるなら、彼女を娘として扱わなければならない。
10 もし主人が別の妻をめとる場合、彼女の食事、衣服、夫婦の権利を減らしてはならない。
11 もし主人が彼女にこれら三つのことをしないなら、彼女は金を払わずに自由の身となって出て行くことができる。

12 人を打って死なせた者は、必ず死刑に処せられる。
13 しかし、それが故意ではなく、神がそうなることをお許しになったのであれば、わたしは彼が逃げるための場所を指定する。
14 人が悪巧みをし、故意に隣人を襲って殺すなら、あなたは彼をわたしの祭壇からでも連れ出して死刑にしなければならない。
15 自分の父や母を打つ者は、必ず死刑に処せられる。
16 人を誘拐し、彼を売る者、あるいは彼を自分の手元に置いているのが見つかった者は、必ず死刑に処せられる。
17 自分の父や母をのろう者は、必ず死刑に処せられる。
18 男たちが争い、一方が他方を石かこぶしで打ち、その人が死なずに床に伏せ、
19 もし彼が再び起き上がり、杖をついて歩き回るなら、彼を打った者は無罪とされる。ただ、その休業の損失を償い、彼が完全に治るまでの治療費を負担しなければならない。
20 人が自分の男奴隷や女奴隷を杖で打ち、その者が彼の手の下で死んだ場合、彼は必ず罰せられる。
21 しかし、もしその者が一日か二日の後に起き上がるなら、彼は罰せられない。その奴隷は彼の財産だからである。
22 男たちが争い、身重の女を傷つけて早産させたが、他に害が及ばなかった場合、その女の夫が要求し、裁判官が認めるだけの罰金を必ず科せられる。
23 しかし、もし害が及んだなら、あなたは命には命を取り、
24 目には目、歯には歯、手には手、足には足、
25 やけどにはやけど、傷には傷、打ち身には打ち身を取らなければならない。
26 人が自分の男奴隷の目、あるいは女奴隷の目を打ってそれをつぶした場合、その目のゆえに彼を自由の身として去らせなければならない。
27 もし彼が男奴隷の歯、あるいは女奴隷の歯を打ち折った場合、その歯のゆえに彼を自由の身として去らせなければならない。
28 牛が男や女を角で突いて死なせた場合、その牛は必ず石で打ち殺され、その肉は食べてはならない。しかし牛の持ち主は責任を問われない。
29 しかし、もしその牛に以前から角で突く癖があり、その持ち主が警告されていたにもかかわらず、それをつないでおかず、それが男や女を殺したなら、その牛は石で打ち殺され、その持ち主も死刑に処せられる。
30 もし彼に身代金が課せられたなら、彼は自分の命のあがないとして、課せられたものをすべて支払わなければならない。
31 それが息子を突いた場合でも、娘を突いた場合でも、この定めに従って彼に行われる。
32 もし牛が男奴隷や女奴隷を突いた場合、その持ち主に銀三十シェケル*を与え、牛は石で打ち殺されなければならない。
33 人が穴を開けるか、あるいは穴を掘ってそれに覆いをせず、そこに牛やろばが落ちた場合、
34 穴の持ち主はそれを償わなければならない。彼はお金をその持ち主に与え、死んだ動物は彼のものとなる。
35 ある人の牛が他の人の牛を傷つけ、それが死んだ場合、彼らは生きている牛を売り、その代金を分け合う。また、死んだ動物も分け合う。
36 あるいは、その牛に以前から角で突く癖があることが知られていたのに、持ち主がそれをつないでおかなかった場合、彼は必ず牛の代わりに牛を償い、死んだ動物は彼のものとなる。

---

* **21:32 21:32** ―シェケルは約10グラム、すなわち約0.35オンスである。したがって三十シェケルは約300グラム、す

22

1 「人が牛や羊を盗み、それを殺すか売った場合、彼は牛一頭の代わりに牛五頭を、羊一匹の代わりに羊四匹を償わなければならない。
2 もし泥棒が押し入るところを見つけられ、打たれて死んだ場合、彼について血を流した罪はない。
3 もし日が昇っていたなら、血を流した罪がある。彼は必ず償いをしなければならない。もし彼に何もなければ、彼はその盗みのために売られなければならない。
4 もし盗んだものが、牛であれ、ろばであれ、羊であれ、彼の手元に生きて見つかった場合、彼は二倍にして償わなければならない。
5 人が畑やぶどう園を食い荒らさせ、自分の家畜を放して別の人の畑で食べさせた場合、彼は自分の畑の最良のもの、また自分のぶどう園の最良のものから償いをしなければならない。
6 火が出て、いばらに燃え移り、麦の束、あるいは立ち穂、あるいは畑が焼き尽くされた場合、火をつけた者は必ず償いをしなければならない。
7 人が隣人にお金や物品を預けて保管させ、それがその人の家から盗まれた場合、もし泥棒が見つかれば、彼は二倍にして償わなければならない。
8 もし泥棒が見つからなければ、その家の主人は神の前に進み出て、隣人の財産に手を出したかどうかを明らかにしなければならない。
9 牛、ろば、羊、衣服、またはいかなる紛失物についてでも、『これは私のものだ』と言って違反の事柄が起きた場合、双方の言い分は神の前に持ち出されなければならない。神が有罪と宣告した者は、隣人に二倍にして償わなければならない。
10 人が隣人に、ろば、牛、羊、あるいはいかなる動物でも預けて保管させ、それが死ぬか、傷つくか、あるいは誰も見ていないところで追い去られた場合、
11 彼が隣人の財産に手を出していないという主にかけた誓いが、彼ら二人の間になければならない。その持ち主はこれを受け入れ、彼は償いをする必要はない。
12 しかし、もしそれが彼から盗まれたのであれば、盗んだ者はその持ち主に償いをしなければならない。
13 もしそれが野獣に引き裂かれたのであれば、彼はそれを証拠として持って来なければならない。彼は引き裂かれたものを償う必要はない。
14 人が隣人から何かを借り、その持ち主が一緒にいない時にそれが傷つくか死んだ場合、彼は必ず償いをしなければならない。
15 もしその持ち主が一緒にいたなら、彼は償う必要はない。それが賃借りされたものであったなら、借り賃に含まれる。
16 人がまだ婚約していない処女をそそのかして彼女と寝た場合、彼は必ず結納金を払って彼女を自分の妻にしなければならない。
17 もし彼女の父が彼に彼女を与えることを固く拒むなら、彼は処女の結納金に応じたお金を支払わなければならない。
18 呪術を使う女を生かしておいてはならない。
19 動物と寝る者はみな、必ず死刑に処せられる。
20 主おひとりを除いて、他の神にいけにえを献げる者は、完全に滅ぼされなければならない。
21 あなたは寄留者を不当に扱ってはならず、しいたげてもならない。あなたがたはエジプトの地で寄留者だったからである。
22 あなたはどのようなやもめも、孤児も苦しめてはならない。
23 もしあなたが彼らを少しでも苦しめ、彼らが少しでもわたしに向かって叫ぶなら、わたしは必ず彼らの叫びを聞く。
24 そしてわたしの怒りは燃え上がり、わたしは剣であなたがたを殺す。あなたがたの妻はやもめとなり、あなたがたの子どもたちは孤児となるであろう。

25 もしあなたが、あなたと共にいるわたしの民の貧しい者にお金を貸すなら、彼に対して金貸しのようになってはならない。彼から利息を取ってはならない。
26 もし隣人の上着を抵当に取るなら、日が沈む前に彼に返さなければならない。
27 それが彼にとって唯一の覆いであり、肌に着る上着だからである。彼は何を着て寝ればよいのか。彼がわたしに叫ぶ時、わたしは聞く。わたしは恵み深いからである。
28 神を冒瀆してはならない。また、あなたの民の指導者をのろってはならない。
29 あなたの収穫物と、あなたの搾り場からあふれ出るものの中から、ささげ物を遅らせてはならない。あなたの息子たちの長男をわたしに与えなければならない。
30 あなたの牛と羊についても同様にしなければならない。七日間は母親と共に置き、八日目にそれをわたしに与えなければならない。
31 あなたがたはわたしにとって聖なる人とならなければならない。それゆえ、野で獣に引き裂かれた肉を食べてはならない。それを犬に投げ与えなさい。

23

1 「あなたは偽りのうわさを広めてはならない。悪者に手を貸して、悪意ある証人となってはならない。
2 あなたは多数の者に従って悪を行ってはならない。また、裁判において多数の者に同調して証言し、正義を曲げてはならない。
3 あなたは貧しい人だからといって、その訴訟において不当にひいきにしてはならない。
4 あなたの敵の牛やろばが迷っているのに出会ったなら、必ずそれを彼のところに連れ戻さなければならない。
5 あなたを憎む者のろばが荷物の下敷きになって倒れているのを見た時、彼を見捨ててはならない。あなたは必ず彼と共にそれを助け起こさなければならない。
6 あなたは、あなたの貧しい民の訴訟において、正義を曲げてはならない。
7 偽りの告発から遠ざかり、罪のない者や正しい者を殺してはならない。わたしは悪者を義と認めないからである。
8 あなたは賄賂を受け取ってはならない。賄賂は目の見える者の目をくらませ、正しい者の言葉を曲げるからである。
9 あなたは寄留者をしいたげてはならない。あなたがたはエジプトの地で寄留者であったので、寄留者の心を知っているからである。
10 六年間、あなたは自分の土地に種をまき、その収穫を集めなければならない。
11 しかし七年目にはそれを休ませて、そのままにしておかなければならない。そうすれば、あなたの民の貧しい者が食べることができ、彼らが残したものを野の動物が食べることができる。あなたのぶどう園やオリーブ畑についても同じようにしなければならない。
12 六日間、あなたは自分の仕事をしなければならない。しかし七日目には休まなければならない。それはあなたの牛とろばが休み、あなたの女奴隷の息子と寄留者が元気を回復するためである。
13 わたしがあなたがたに言ったすべてのことに注意を払いなさい。他の神々の名を呼び求めてはならない。それがあなたの口から聞かれるようにしてはならない。
14 年に三回、わたしのために祭りを守らなければならない。
15 あなたは種なしパンの祭りを守らなければならない。わたしがあなたに命じたように、アビブの月の定められた時に、七日間種なしパンを食べなけ

ればならない（その月にあなたがエジプトから出て来たからである）。誰も手ぶらでわたしの前に現れてはならない。
16 また、あなたが畑にまいた労働の初穂の祭りである刈り入れの祭り、さらに年の終わりに畑からあなたの労働の実りを集める取り入れの祭りを守らなければならない。
17 年に三回、あなたの男子は皆、主なる神の前に現れなければならない。
18 あなたはわたしのいけにえの血を、種入りパンと共に献げてはならない。わたしの祭りの脂肪を、朝まで夜通し残しておいてはならない。
19 あなたの土地の最初の初穂を、あなたの神、主の家に持って来なければならない。子山羊をその母の乳で煮てはならない。
20 見よ、わたしはあなたの前に使いを遣わし、道中であなたを守り、わたしが備えた場所にあなたを導き入れる。
21 彼に注意を払い、その声に聞き従いなさい。彼に逆らってはならない。彼はあなたがたの背きを赦さないであろう。わたしの名が彼の内にあるからである。
22 しかし、もしあなたが確かに彼の声に聞き従い、わたしが語るすべてのことを行うなら、わたしはあなたの敵の敵となり、あなたの仇の仇となる。
23 わたしの使いがあなたの前を行き、アモリ人、ヘト人、ペリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人のところにあなたを導き入れ、わたしは彼らを断ち切るからである。
24 あなたは彼らの神々にひれ伏してはならず、それらに仕えてはならない。また、彼らの行いにならってはならない。かえって、あなたは彼らを完全に打ち倒し、彼らの石の柱を打ち砕かなければならない。
25 あなたがたはあなたがたの神、主に仕えなければならない。そうすれば主はあなたのパンと水を祝福される。わたしはあなたの中から病気を取り除く。
26 あなたの地には流産する者も、不妊の者もいなくなる。わたしはあなたの日数を満たす。
27 わたしはあなたの前にわたしへの恐れを送り、あなたが赴くすべての民を混乱に陥れ、あなたのすべての敵があなたに背を向けて逃げるようにする。
28 わたしはあなたの前にスズメバチを送り、ヒビ人、カナン人、ヘト人をあなたの前から追い出させる。
29 わたしは一年で彼らをあなたの前から追い出すことはしない。地が荒れ果て、野の動物があなたに対して増えすぎないためである。
30 あなたがたが増え、その地を受け継ぐまで、わたしは少しずつ彼らをあなたの前から追い出す。
31 わたしはあなたの境界を、紅海からペリシテ人の海まで、また荒野から川までと定める。わたしはその地の住民をあなたの手にゆだね、あなたは彼らをあなたの前から追い出すからである。
32 あなたは彼らや彼らの神々と契約を結んではならない。
33 彼らをあなたの地に住ませてはならない。彼らがあなたに、わたしに対して罪を犯させないためである。もしあなたが彼らの神々に仕えるなら、それは必ずあなたにとって罠となる。」

24

1 主はモーセに言われた。「あなたは、アロン、ナダブ、アビフ、そしてイスラエルの長老七十人と共に、主のもとに上って来なさい。そして遠く離れて礼拝しなさい。
2 モーセだけが主に近づかなければならない。彼らは近づいてはならない。また、民は彼と一緒に上ってはならない。」

3 モーセは来て、主のすべての言葉とすべての掟を民に告げた。すべての民は声をそろえて答え、「主が語られたすべての言葉を私たちは行います」と言った。
4 モーセは主のすべての言葉を書き記した。彼は朝早く起き、山のふもとに祭壇と、イスラエルの十二部族のための十二の石の柱を築いた。
5 彼はイスラエルの子らの若者たちを遣わし、彼らは主に全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえとして牛を屠った。
6 モーセは血の半分を取って鉢に入れ、残りの半分の血を祭壇に振りかけた。
7 彼は契約の書を取り、民が聞いている前でそれを読み上げた。彼らは言った。「主が語られたすべてのことを私たちは行い、聞き従います。」
8 モーセは血を取り、それを民に振りかけて言った。「見よ、これはこれらすべての言葉に関して、主があなたがたと結ばれた契約の血である。」
9 それからモーセ、アロン、ナダブ、アビフ、およびイスラエルの長老七十人は上って行った。
10 彼らはイスラエルの神を見た。その足の下はサファイア*の石を敷き詰めたかのようであり、澄み切った空のようであった。
11 神はイスラエルの子らの尊い者たちに手を下されなかった。彼らは神を見、そして食べ、また飲んだ。
12 主はモーセに言われた。「山に上り、わたしのところに来て、そこにとどまりなさい。わたしは、彼らを教えるために、わたしが書き記した律法と命令の石の板をあなたに与える。」
13 モーセは従者ヨシュアと共に立ち上がり、モーセは神の山に上って行った。
14 彼は長老たちに言った。「私たちがあなたがたのところに再び戻って来るまで、ここで私たちを待っていなさい。見よ、アロンとフルがあなたがたと一緒にいる。争い事がある者は誰でも、彼らのところに行きなさい。」
15 モーセは山に上り、雲が山を覆った。
16 主の栄光がシナイ山の上にとどまり、雲は六日間山を覆った。七日目に、主は雲の真ん中からモーセを呼ばれた。
17 主の栄光の姿は、イスラエルの子らの目には、山の頂にある焼き尽くす火のようであった。
18 モーセは雲の真ん中に入り、山に上って行った。モーセは四十日四十夜、山にいた。

25

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに、わたしのためにささげ物を持って来るように言いなさい。心から喜んでささげるすべての人から、わたしのためのささげ物を受け取りなさい。
3 あなたがたが彼らから受け取るべきささげ物は、次の通りである。
金、銀、青銅、
4 青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布、山羊の毛、
5 赤く染めた雄羊の皮、ジュゴンの皮*、アカシアの木、
6 灯火のための油、注ぎ油と香りのよい香のための香料、
7 縞めのう、そしてエポデや胸当てにはめ込むための宝石である。
8 わたしが彼らの間に住むために、彼らにわたしのための聖所を造らせなさい。
9 わたしがあなたに示す幕屋の型、およびそのすべての器具の型に従って、あなたがたはそれを造らなければならない。

* **24:10 24:10** あるいは、ラピスラズリ。 * **25:5 25:5** あるいは、上質な革。

10 彼らはアカシアの木で箱を造らなければならない。その長さは二・五キュビト†、幅は一・五キュビト、高さは一・五キュビトとする。
11 あなたはそれに純金をかぶせなければならない。内側と外側にそれをかぶせ、その周りに金の飾り縁を造りなさい。
12 そのために四つの金の環を鋳造し、その四つの足に取り付けなさい。一方の側に二つの環、もう一方の側にも二つの環を取り付ける。
13 アカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせなさい。
14 その横木を箱の側面の環に通し、それで箱を担げるようにしなさい。
15 横木は箱の環に挿したままにしておき、そこから外してはならない。
16 わたしがあなたに与えるあかしを、箱の中に納めなければならない。
17 純金で贖いの座を造りなさい。その長さは二・五キュビト、幅は一・五キュビトとする。
18 打ち出し細工の金で、二つのケルビムを造りなさい。贖いの座の両端にそれらを造りなさい。
19 一つのケルブを一方の端に、もう一つのケルブをもう一方の端に造りなさい。ケルビムを贖いの座の両端に、座と一体にして造らなければならない。
20 ケルビムはその翼を上に向けて広げ、その翼で贖いの座を覆うようにし、互いに顔を向かい合わせる。ケルビムの顔は贖いの座の方に向けられなければならない。
21 その贖いの座を箱の上に置き、箱の中にはわたしがあなたに与えるあかしを納めなさい。
22 そこでわたしはあなたと会い、贖いの座の上から、すなわちあかしの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの子らのためにあなたに命じるすべてのことを語る。
23 アカシアの木で机を造りなさい。その長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一・五キュビトとする。
24 それに純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を造りなさい。
25 その周りに手の幅の枠を造り、その枠の周りにも金の飾り縁を造りなさい。
26 そのために四つの金の環を造り、四つの足にある四隅にその環を取り付けなさい。
27 机を担ぐ横木を通す場所として、環は枠の近くになければならない。
28 アカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせなさい。それで机が担がれるためである。
29 注ぎのささげ物を注ぐための皿、さじ、水差し、鉢を造りなさい。それらは純金で造らなければならない。
30 常にわたしの前の机の上に、供えのパンを置きなさい。
31 純金で燭台を造りなさい。燭台は打ち出し細工で造らなければならない。その台座、支柱、杯、節、花は、それと一体でなければならない。
32 その側面からは六つの枝を出させる。すなわち、一方の側から燭台の三つの枝を出し、もう一方の側から燭台の三つの枝を出す。
33 一つの枝にはアーモンドの花のような三つの杯、節、花を造り、もう一つの枝にもアーモンドの花のような三つの杯、節、花を造る。燭台から出ている六つの枝をそのようにする。
34 燭台の支柱には、アーモンドの花のような四つの杯、節、花を造る。
35 燭台から出ている六つの枝のために、それと一体の二つの枝の下に一つの節、それと一体の他の二つの枝の下に一つの節、それと一体のさらに他の二つの枝の下に一つの節を造る。

† **25:10** 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約46センチメートルで

36 それらの節と枝は燭台と一体とし、その全体を一つの純金の打ち出し細
工としなさい。
37 燭台の七つのともしびを造りなさい。人々がそのともしびに火をとも
し、その前の空間を照らすようにする。
38 その芯切りばさみも芯取り皿も純金とする。
39 これらのすべての器具を含めて、一タラント‡の純金でこれを造らなければ
ならない。
40 あなたが山で示された型通りにこれらを造るように、注意しなさい。

26

1 さらに、撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の糸で、ケルビム
を織り出した十枚の幕で幕屋を造りなさい。それらは熟練した職人の細工とし
て造らなければならない。
2 それぞれの幕の長さは二十八キュビト*、幅は四キュビトとする。すべて
の幕を同じ寸法にしなければならない。
3 五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、もう五枚の幕も互いにつなぎ合わせる。
4 つなぎ合わせた一方の幕の端に青い糸で輪を作り、もう一つのつなぎ合わ
せた幕の外側の端にも同じようにする。
5 一方の幕に五十の輪を作り、もう一つのつなぎ合わせた幕の端にも五
十の輪を作る。輪は互いに向かい合うようにする。
6 五十の金の留め金を造り、その留め金で幕を互いにつなぎ合わせる。こう
して幕屋は一つとなる。
7 幕屋の上に掛ける天幕として、山羊の毛で幕を造りなさい。十一
枚の幕を造らなければならない。
8 それぞれの幕の長さは三十キュビト、幅は四キュビトとする。十一
枚の幕を同じ寸法にしなければならない。
9 五枚の幕を一つにつなぎ合わせ、六枚の幕を一つにつなぎ合わせる。そし
て六枚目の幕を天幕の前面で折り返す。
10 つなぎ合わせた一方の外側の幕の端に五十の輪を作り、もう一つのつな
ぎ合わせた幕の外側の端にも五十の輪を作る。
11 五十の青銅の留め金を造り、その留め金を輪にはめ込んで、天幕を一つに
つなぎ合わせる。
12 天幕の幕の余った垂れ下がった部分、すなわち余った半分の幕は、幕
屋の背面に垂れ下がるようにする。
13 天幕の幕の長さに余る部分は、一方の側で一キュビト、もう一
方の側で一キュビト、幕屋の両側に垂れ下がるようにして、それを覆う。
14 天幕のために、赤く染めた雄羊の皮の覆いを造り、その上にジュゴン
の皮の覆いを造りなさい。
15 幕屋のためにアカシアの木で板を造り、直立させなさい。
16 板の長さは十キュビト、それぞれの板の幅は一・五キュビトとする。
17 それぞれの板には、互いに合うように二つのほぞを造る。幕屋のすべて
の板をこのように造らなければならない。
18 南側に向かう幕屋のために二十枚の板を造りなさい。
19 その二十枚の板の下に四十の銀の台座を造る。すなわち、一枚の板の二つ
のほぞの下に二つの台座、もう一枚の板の二つのほぞの下にも二つの台
座を置く。
20 幕屋のもう一方の側、すなわち北側にも二十枚の板を造り、

---

‡ **25:39** **25:39** 一タラントは約30キログラム、すなわち66ポンド、あるいは965トロイオンスである。

* **26:2** **26:2** 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約46センチメートルで

21 それらの四十の銀の台座を造る。すなわち、一枚の板の下に二つの台座、
もう一枚の板の下にも二つの台座を置く。
22 幕屋の奥、すなわち西側のために六枚の板を造りなさい。
23 幕屋の奥の両隅のために二枚の板を造りなさい。
24 これらは下で二重になり、同じように頂部でも一つの環に向けて一つとな
るようにする。これら二枚ともそのようにし、二つの隅のためのものとする。
25 八枚の板と、その銀の台座は十六の台座となる。一枚の板の下に二つの台
座、もう一枚の板の下にも二つの台座を置く。
26 アカシアの木で横木を造りなさい。幕屋の一方の側の板のために五本、
27 幕屋のもう一方の側の板のために五本の横木、そして幕屋の奥、すなわ
ち西側の板のために五本の横木を造る。
28 板の真ん中を通る中央の横木は、端から端まで通るようにする。
29 板には金をかぶせ、横木を通す場所として金の環を造りなさい。横木に
も金をかぶせなさい。
30 あなたが山で示された方法に従って幕屋を建てなさい。
31 青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で垂れ幕を造りなさい。それにケルビムを熟練した職人の細工として織り出さなければならない。
32 金をかぶせたアカシアの木の四本の柱にそれを掛けなさい。その掛け釘は金とし、四つの銀の台座の上に立てる。
33 その垂れ幕を留め金の下に掛け、そこに、垂れ幕の内側にあかしの箱を運び入れなさい。垂れ幕はあなたがたのために聖所と至聖所とを分けるものとなる。
34 至聖所にあるあかしの箱の上に贖いの座を置きなさい。
35 垂れ幕の外側に机を置き、机の向かい側、すなわち幕屋の南側に燭台を置く。机は北側に置かなければならない。
36 天幕の入り口のために、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で、刺繍をする者の細工による幕を造りなさい。
37 その幕のためにアカシアの木で五本の柱を造り、それに金をかぶせる。その掛け釘は金とする。柱のために五つの青銅の台座を鋳造しなさい。

27

1 アカシアの木で祭壇を造りなさい。長さは五キュビト*、幅は五キュビトとする。祭壇は四角形でなければならない。その高さは三キュビト†とする。
2 その四隅に角を造りなさい。その角は祭壇と一体でなければならない。それに青銅をかぶせなさい。
3 灰を取り除くための壺、十能、鉢、肉刺し、火皿を造りなさい。その器具はすべて青銅で造らなければならない。
4 そのために青銅の網目細工の格子を造りなさい。その格子の四隅に四つの青銅の環を造る。
5 それを祭壇の出っ張りの下、すなわち下部に取り付け、格子が祭壇の半分の高さに届くようにする。
6 祭壇のために横木を、すなわちアカシアの木で横木を造り、それに青銅をかぶせなさい。
7 横木は環に通される。祭壇を担ぐ時、横木は祭壇の両側にあるようにする。
8 祭壇は板で空洞に造りなさい。山で示された通りに、彼らはそれを造らなければならない。

---

* **27:1 27:1** ―キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約46センチメートルであ
† **27:1 27:1** 祭壇は約2.3×2.3×1.4メートル、あるいは約7.5×7.5×4.5フィートであった。

9 幕屋の庭を造りなさい。南側に向かう片側のために、撚り糸で織った亜麻布の庭の幕を設けなさい。長さは百キュビトとする。
10 その二十本の柱と二十の台座は青銅とする。柱の掛け釘と帯飾りは銀とする。
11 北側についても同様に、その長さに沿って百キュビトの幕を設ける。その二十本の柱と二十の台座は青銅とする。柱の掛け釘と帯飾りは銀とする。
12 西側の庭の幅については、五十キュビトの幕を設ける。その柱は十本、台座は十とする。
13 東に向かう東側の庭の幅は五十キュビトとする。
14 入り口の一方の側の幕は十五キュビト、その柱は三本、台座は三つとする。
15 もう一方の側の幕も十五キュビト、その柱は三本、台座は三つとする。
16 庭の入り口のためには、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で、刺繍をする者の細工による二十キュビトの幕を設ける。その柱は四本、台座は四つとする。
17 庭の周囲のすべての柱には銀の帯飾りを付け、その掛け釘は銀、台座は青銅とする。
18 庭の長さは百キュビト、幅は全体にわたって五十キュビト、高さは五キュビトとする。幕は撚り糸で織った亜麻布とし、その台座は青銅とする。
19 すべての奉仕に用いる幕屋のすべての器具、そのすべての釘、および庭のすべての釘は青銅としなさい。
20 イスラエルの子らに命じて、ともしびのために、ついて搾った純粋なオリーブ油をあなたのところに持って来させ、ともしびが常にともっているようにしなさい。
21 会見の天幕の中、契約の前にある垂れ幕の外側で、アロンとその子らは夕方から朝まで、主の前でこれを整えなければならない。これはイスラエルの子らのために、彼らの代々にわたる永遠の掟である。

28

1 あなたの兄弟アロンと、その子らを彼と共に、イスラエルの子らの中からあなたの近くに呼び寄せ、祭司としてわたしに仕えさせなさい。すなわち、アロンと、アロンの子らであるナダブ、アビフ、エルアザル、イタマルである。
2 栄光と美しさのために、あなたの兄弟アロンのために聖なる衣服を造りなさい。
3 わたしが知恵の霊で満たした、心に知恵のあるすべての人々に語りなさい。彼らがアロンを聖別するために衣服を造り、彼が祭司としてわたしに仕えることができるようにするためである。
4 彼らが造るべき衣服は次の通りである。胸当て、エポデ、上着、織り模様の長服、ターバン、飾り帯である。あなたの兄弟アロンとその子らが、祭司としてわたしに仕えることができるように、彼らは聖なる衣服を造らなければならない。
5 彼らは金、青色、紫色、緋色の糸、および亜麻布を用いなければならない。
6 熟練した職人の細工として、金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布でエポデを造らなければならない。
7 それが一つにつながるように、両端につなぎ合わせた二つの肩ひもを付けなければならない。
8 エポデの上にある巧みに織られた帯は、同じような細工で、それと一体にしなさい。すなわち、金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で作る。
9 二つの縞めのうを取り、その上にイスラエルの子らの名前を彫りなさい。

10 一方の石に彼らの名前を六つ、もう一方の石に残りの六つの名前を、生まれた順に彫りなさい。
11 石の彫刻師の細工のように、印章を彫るようにして、イスラエルの子らの名前に従って二つの石を彫りなさい。それらを金の枠にはめ込んで造らなければならない。
12 その二つの石をエポデの肩ひもに付け、イスラエルの子らのための記念の石としなさい。アロンは彼らの名前を主の前の両肩に負い、記念とする。
13 金の枠を造りなさい。
14 純金で二つの鎖を造りなさい。撚り合わせた編んだひものように造らなければならない。その編んだ鎖を枠に取り付けなさい。
15 熟練した職人の細工として、さばきの胸当てを造りなさい。エポデの細工と同じように造らなければならない。金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で造らなければならない。
16 それは四角形で、二つ折りにしなければならない。長さは一スパン*、幅も一スパンとする。
17 その中に石をはめ込み、四列の石を並べなさい。第一列はルビー、トパーズ、緑柱石の列としなさい。
18 第二列はトルコ石、サファイア†、エメラルドとする。
19 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶とする。
20 第四列はクリソライト、縞めのう、碧玉とする。これらは金の枠にはめ込まれなければならない。
21 石はイスラエルの子らの名前に従って十二とし、彼らの名前に従うものとする。印章を彫るように、十二部族のために、それぞれ名前に従って彫らなければならない。
22 胸当ての上に、純金で撚り合わせた編んだひものような鎖を造りなさい。
23 胸当ての上に二つの金の環を造り、その二つの環を胸当ての両端に取り付けなさい。
24 その二つの金の編んだ鎖を、胸当ての端にある二つの環に通しなさい。
25 二つの編んだ鎖の他の二つの端を、二つの枠に取り付け、それをエポデの前面の肩ひもに取り付けなさい。
26 二つの金の環を造り、胸当ての両端、すなわち内側のエポデに向いている側の縁にそれを取り付けなさい。
27 二つの金の環を造り、それをエポデの二つの肩ひもの下部、前面のつなぎ目の近く、エポデの巧みに織られた帯の上に取り付けなさい。
28 胸当ての環とエポデの環を青いひもで結びつけ、胸当てがエポデの巧みに織られた帯の上にあり、エポデからずれないようにしなければならない。
29 アロンが聖所に入る時、主の前で常に記念とするために、さばきの胸当てにあるイスラエルの子らの名前を心の上に負わなければならない。
30 さばきの胸当ての中に、ウリムとトンミムを入れなさい。アロンが主の前に進み出る時、それらがアロンの心の上にあるようにする。アロンは常に主の前で、イスラエルの子らのさばきを心の上に負わなければならない。
31 エポデの上着を、すべて青色で造りなさい。
32 その真ん中には頭を通す穴を空ける。その穴の周囲には、よろいの穴のように、それが裂けないように織物の縁取りを設けなければならない。
33 その裾の周囲には、青色、紫色、緋色の糸でざくろを造り、その裾の周囲に置き、それらの間に金の鈴を配置しなさい。
34 上着の裾の周囲に、金の鈴とざくろ、金の鈴とざくろを交互に配置する。

---

* **28:16 28:16** 一スパンは、大人の手が広げられた時の親指の先から小指の先までの長さである（約半キュビト、すな
† **28:18 28:18** あるいは、ラピスラズリ。

35 アロンは仕える時にそれを着なければならない。彼が主の前の聖所に入る時、またそこから出る時にその音が聞こえ、彼が死なないためである。
36 純金の札を造り、印章を彫るように、その上に『主に聖なるもの』と彫りなさい。
37 それを青いひもに付け、飾り帯の上にくるようにしなさい。それは飾り帯の前面になければならない。
38 それはアロンの額の上になければならない。アロンは、イスラエルの子らがすべての聖なるささげ物として聖別する、聖なる物に関わる咎を負う。それが常に彼の額の上にあることで、彼らは主の前に受け入れられる。
39 亜麻布で長服を織りなさい。亜麻布でターバンを造りなさい。刺繍をする者の細工による飾り帯を造りなさい。
40 アロンの子らのために長服を造りなさい。彼らのために飾り帯を造りなさい。栄光と美しさのために、彼らのために頭帯を造りなさい。
41 あなたの兄弟アロンと、彼と共にいるその子らにこれらを着せ、彼らに油を注ぎ、彼らを任職し、聖別して、祭司としてわたしに仕えさせなさい。
42 裸の肉を覆うために、彼らに亜麻布のももひきを造りなさい。それは腰から太ももにまで届くものでなければならない。
43 アロンとその子らが会見の天幕に入る時、あるいは聖所で仕えるために祭壇に近づく時、彼らはこれを身に着けなければならない。彼らが咎を負って死なないためである。これは、彼と彼の後の子孫に対する永遠の掟である。

29

1 「彼らが祭司としてわたしに仕えるために、彼らを聖なるものとするため、あなたが彼らになすべき事は次の通りである。若い雄牛一頭と、傷のない雄羊二匹を取りなさい。
2 種なしパン、油を混ぜた種なしの菓子、油を塗った種なしの薄焼きパンを取りなさい。あなたは上質な小麦粉でそれらを造らなければならない。
3 それらを一つの籠に入れ、その籠に入れて、雄牛と二匹の雄羊と共に持って来なさい。
4 あなたはアロンとその子らを会見の天幕の入り口に連れて行き、水で彼らを洗わなければならない。
5 衣服を取り、アロンに長服、エポデの上着、エポデ、胸当てを着せ、エポデの巧みに織られた帯を締めなさい。
6 彼の頭にターバンをかぶせ、ターバンの上に聖なる冠を置きなさい。
7 そして注ぎ油を取り、彼の頭に注いで、彼に油を注ぎなさい。
8 息子たちを連れて来て、彼らに長服を着せなさい。
9 アロンとその子らに飾り帯を締め、彼らに頭帯を結びつけなさい。永遠の掟によって、祭司の職は彼らのものとなる。あなたはアロンとその子らを任職しなければならない。
10 あなたは雄牛を会見の天幕の前に連れて来なさい。アロンとその子らはその雄牛の頭に手を置かなければならない。
11 あなたは会見の天幕の入り口で、主の前でその雄牛を屠らなければならない。
12 雄牛の血の一部を取り、あなたの指で祭壇の角に塗り、すべての血を祭壇の土台に注ぎ出さなければならない。
13 内臓を覆うすべての脂肪、肝臓の覆い、二つの腎臓とそれについている脂肪を取り、祭壇の上で焼かなければならない。
14 しかし、雄牛の肉、その皮、その糞は、陣営の外で火で焼かなければならない。これは罪のいけにえである。
15 また、一匹の雄羊を取り、アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置かなければならない。

16 あなたはその雄羊を屠り、その血を取って祭壇の周囲に振りかけなければならない。
17 その雄羊を切り分け、その内臓と足を洗い、切り分けた肉や頭と一緒に置きなさい。
18 その雄羊のすべてを祭壇の上で焼かなければならない。これは主への全焼のいけにえである。それは心地よい香り、主への火によるささげ物である。
19 もう一匹の雄羊を取り、アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置かなければならない。
20 そしてあなたはその雄羊を屠り、その血の一部を取り、アロンの右の耳たぶ、その子らの右の耳たぶ、彼らの右手の親指、右足の親指に塗り、その血を祭壇の周囲に振りかけなければならない。
21 祭壇の上にある血と注ぎ油の一部を取って、アロンとその衣服、および彼と共にいるその子らとその衣服に振りかけなさい。そうすれば彼とその衣服、および彼と共にいるその子らとその衣服は聖なるものとなる。
22 また、その雄羊の脂肪、脂尾、内臓を覆う脂肪、肝臓の覆い、二つの腎臓、それについている脂肪、右のももを取りなさい（それは任職の雄羊だからである）。
23 さらに、主の前にある種なしパンの籠から、パンの塊一つ、油を塗ったパンの菓子一つ、薄焼きパン一つを取りなさい。
24 あなたはこれらすべてをアロンの手と、その子らの手に乗せ、揺り動かすささげ物として主の前に揺り動かさなければならない。
25 あなたはそれらを彼らの手から取り、祭壇の上で全焼のいけにえの上で焼きなさい。これは主の前の心地よい香り、主への火によるささげ物である。
26 アロンの任職の雄羊の胸を取り、揺り動かすささげ物として主の前に揺り動かさなければならない。これがあなたの分となる。
27 あなたは揺り動かされたささげ物の胸と、持ち上げられたささげ物のももを聖別しなければならない。それは任職の雄羊のものであり、アロンのためのもの、その子らのためのものである。
28 これは永遠の分として、イスラエルの子らからアロンとその子らに与えられるものである。それは持ち上げられたささげ物だからである。それはイスラエルの子らがささげる和解のいけにえの犠牲の一部、すなわち主への持ち上げられたささげ物である。
29 アロンの聖なる衣服は、彼の後の子らのためのものとなり、彼らがそれを着て油を注がれ、それを着て任職される。
30 息子の中で彼の代わりに祭司となる者が、聖所で仕えるために会見の天幕に入る時、七日間それを着なければならない。
31 任職の雄羊を取り、その肉を聖なる場所で煮なさい。
32 アロンとその子らは、会見の天幕の入り口で、その雄羊の肉と籠の中にあるパンを食べなければならない。
33 彼らは任職と聖別のために贖罪がなされたこれらのものを食べなければならない。しかし、他の人はそれを食べてはならない。それらは聖なるものだからである。
34 もし任職の肉やパンが朝まで残ったなら、その残りを火で焼き尽くさなければならない。それは聖なるものなので、食べてはならない。
35 あなたは、わたしがあなたに命じたすべてに従って、アロンとその子らにそのようにしなければならない。あなたは七日間かけて彼らを任職しなければならない。
36 あなたは毎日、贖罪のための罪のいけにえの雄牛をささげなければならない。祭壇のために贖罪をする時、あなたはそれをきよめなければならない。またそれに油を注いで聖別しなければならない。

37 七日間、祭壇のために贖罪をし、それを聖別しなさい。そうすれば祭
壇は最も聖なるものとなる。祭壇に触れるものはみな聖なるものとなる。
38 あなたが祭壇の上にささげるべきものは次の通りである。一歳の小羊二
匹を、毎日絶えずささげる。
39 一匹の小羊は朝にささげ、もう一匹の小羊は夕暮れにささげなければなら
ない。
40 一匹の小羊と共に、一エファ*の十分の一の上質な小麦粉に、一ヒン†の四
分の一のついて搾った油を混ぜたものと、注ぎのささげ物として一ヒンの四
分の一のぶどう酒をささげる。
41 もう一匹の小羊は夕暮れにささげ、朝の穀物のささげ物と注ぎのささ
げ物と同様にしなさい。心地よい香り、主への火によるささげ物である。
42 これが、あなたがたの代々にわたり、会見の天幕の入り口、主の前で絶え
ずささげられる全焼のいけにえとなる。そこでわたしはあなたがたと会い、そ
こであなたに語る。
43 そこでわたしはイスラエルの子らと会う。その場所はわたしの栄光によっ
て聖別される。
44 わたしは会見の天幕と祭壇を聖別する。わたしはまた、アロンとその子ら
を聖別し、祭司としてわたしに仕えさせる。
45 わたしはイスラエルの子らの間に住み、彼らの神となる。
46 彼らは、わたしが彼らの間に住むために、エジプトの地から彼ら
を導き出した、彼らの神、主であることを知るであろう。わたしは彼ら
の神、主である。

30

1 香をたくための祭壇を造りなさい。アカシアの木でそれを造らなければな
らない。
2 その長さは一キュビト*、その幅は一キュビトとする。それは四角形であ
り、その高さは二キュビトとする。その角は祭壇と一体でなければならない。
3 その上面、周囲の側面、およびその角に純金をかぶせなさい。そしてそ
の周囲に金の飾り縁を造りなさい。
4 その飾り縁の下に二つの金の環を造りなさい。その両側の側面にそれ
を造らなければならない。それらは祭壇を担ぐための横木を通す場所となる。
5 アカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせなさい。
6 あかしの箱のそばにある垂れ幕の手前、わたしがあなたと会うあかし
の上にある贖いの座の前にそれを置きなさい。
7 アロンは毎朝、その上で香りのよい香をたかなければならない。彼がとも
しびを整える時、それをたかなければならない。
8 夕暮れにアロンがともしびをともす時、彼はそれをたかなければならな
い。これは、あなたがたの代々にわたり、主の前で絶えずたく香である。
9 あなたがたは、その上で異なった香をたいたり、全焼のいけにえや穀物の
ささげ物をささげたりしてはならない。また、その上に注ぎのささげ物を注い
ではならない。
10 アロンは年に一度、その角の上で贖罪をしなければならない。年に一
度、贖罪のための罪のいけにえの血をもって、あなたがたの代々にわたり、そ
の祭壇のために贖罪をしなければならない。それは主にとって最も聖なるもの
である。」
11 主はモーセに語って言われた。

---

* **29:40 29:40** 1エファは約22リットル、あるいは約3分の2ブッシェルである。 † **29:40 29:40** 1ヒンは約6.5リットル、すなわち1.7ガロンである。したがって、1ヒンの四分の一は約1.6リットルである。
* **30:2 30:2** 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約46センチメートルで

12 「あなたがイスラエルの子らの人口調査をして、数えられる者たちを数える時、彼らを数えるにあたり、各人は自分の魂のあがない金を主に納めなければならない。これは、あなたが彼らを数える時に、彼らの中に疫病が起こらないためである。
13 数えられる者たちの中に加わる者は皆、聖所のシェケル†に従って半シェケルを納めなければならない（一シェケルは二十ゲラ‡である）。半シェケルが主へのささげ物となる。
14 数えられる者たちの中に加わる二十歳以上の者は皆、主へのささげ物を納めなければならない。
15 あなたがたの魂のために贖罪をするため、主へのささげ物を納める時、富んでいる者が半シェケルよりも多く納めてはならず、貧しい者が少なく納めてもならない。
16 あなたはイスラエルの子らから贖罪の銀を受け取り、それを会見の天幕の奉仕に当てなさい。それはあなたがたの魂のために贖罪をするため、主の御前でイスラエルの子らのための記念となる。」
17 主はモーセに語って言われた。
18 「洗うための青銅の洗盤と、青銅のその台を造りなさい。それを会見の天幕と祭壇の間に置き、その中に水を入れなさい。
19 アロンとその子らは、それで手と足を洗わなければならない。
20 彼らが会見の天幕に入る時、死なないように水で洗わなければならない。あるいは、奉仕のために祭壇に近づき、主への火によるささげ物を焼く時にもそうである。
21 死なないために、彼らは手と足を洗わなければならない。これは彼らに対する、すなわち彼とその後の代々の彼の子孫に対する永遠の掟となる。」
22 さらに主はモーセに語って言われた。
23 「また、最上の香料を取りなさい。液体の没薬を五百シェケル§、香りのよい肉桂をその半分の二百五十、香りのよい菖蒲を二百五十、
24 桂皮を聖所のシェケルに従って五百、そしてオリーブ油を一ヒン*取りなさい。
25 あなたは香料作りの技法に従って調合した香料の、聖なる注ぎ油を造りなさい。それは聖なる注ぎ油となる。
26 これを用いて、会見の天幕、あかしの箱、
27 机とそのすべての器具、燭台とその付属物、香の祭壇、
28 全焼のいけにえの祭壇とそのすべての器具、洗盤とその台に油を注ぎなさい。
29 それらを聖別し、最も聖なるものとしなさい。それに触れるものはみな聖なるものとなる。
30 アロンとその子らに油を注いで聖別し、祭司としてわたしに仕えさせなさい。
31 あなたはイスラエルの子らに語って言いなさい。『これはあなたがたの代々にわたり、わたしにとって聖なる注ぎ油となる。
32 人の肉の上にこれを注いではならない。また、同じ調合でこれと似たものを造ってもならない。これは聖なるものである。あなたがたにとって聖なるものとしなければならない。
33 これに似たものを調合する者、あるいはこれを一般の人に塗る者はみな、その民から断ち切られる。』」
34 主はモーセに言われた。「香料を取りなさい。樹脂、オニカ、ガルバヌム、これらの香料と純粋な乳香である。それぞれ同量とする。

† **30:13** **30:13** 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。 ‡ **30:13** **30:13** 一ゲラは約0.5グラム、あるいは約7.7グレーンである。 § **30:23** **30:23** 一シェケルは約10グラム、すなわち約0.35オンスである。したがって500シェケルは約5キログラム、すなわち約11ポン
* **30:24** **30:24** 1ヒンは約6.5リットル、あるいは1.7ガロンである。

35 香料作りの技法に従って、塩を混ぜた、純粋で聖なる香を造りなさい。
36 その一部を細かく砕き、それを会見の天幕の中の契約の前に置きなさい。そこでわたしはあなたと会う。それはあなたがたにとって最も聖なるものとなる。
37 あなたがたが造るこの香は、同じ調合で自分たちのために造ってはならない。それは主のために聖なるものとしなければならない。
38 香りを楽しむためにこれに似たものを造る者はみな、その民から断ち切られる。」

31

1 主はモーセに語って言われた。
2 「見よ、わたしはユダ部族のフルの子であるウリの子ベツァルエルを名指しで呼んだ。
3 わたしは彼を神の霊で満たし、知恵と英知と知識とあらゆる種類の職人の技を与えた。
4 それは、巧みな意匠を考案し、金、銀、青銅で細工をし、
5 はめ込み用の石を切り、木を彫り、あらゆる種類の職人の技で仕事をするためである。
6 見よ、わたし自身が、ダン部族のアヒサマクの子オホリアブを彼と共に任命した。わたしは心に知恵のあるすべての者の心に知恵を授けた。それは彼らが、わたしがあなたに命じたすべてのものを造るためである。
7 すなわち、会見の天幕、あかしの箱、その上にある贖いの座、天幕のすべての器具、
8 机とその器具、純金の燭台とそのすべての器具、香の祭壇、
9 全焼のいけにえの祭壇とそのすべての器具、洗盤とその台、
10 精巧に織られた衣服、すなわち祭司アロンのための聖なる衣服と、その子らが祭司として仕えるための衣服、
11 注ぎ油、聖所のための香りのよい香である。わたしがあなたに命じたすべてに従って、彼らは造らなければならない。」
12 主はモーセに語って言われた。
13 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。それは、わたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであり、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、あなたがたが知るためである。
14 それゆえ、あなたがたは安息日を守らなければならない。それはあなたがたにとって聖なるものだからである。これを汚す者は必ず死刑に処せられる。その日に仕事をする者はみな、その民の中から魂が断ち切られるからである。
15 六日間は仕事をしてもよい。しかし七日目は全き休みの安息日であり、主に対して聖なる日である。安息日に仕事をする者は、必ず死刑に処せられる。
16 だからイスラエルの子らは安息日を守り、代々にわたって永遠の契約として安息日を遵守しなければならない。
17 これはわたしとイスラエルの子らとの間の永遠のしるしである。主は六日間で天と地を造り、七日目に休んで、息をつかれたからである。』」
18 神はシナイ山でモーセと語り終えられた時、あかしの板二枚、すなわち神の指で書かれた石の板をモーセに与えられた。

32

1 民は、モーセが山から下りて来るのが遅いのを見ると、アロンのもとに集まって彼に言った。「さあ、私たちのために、私たちの先頭に立っ

て行く神々を造ってください。私たちをエジプトの地から導き上ったあのモーセという人が、どうなってしまったのか分からないからです。」
2 アロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や息子、娘たちの耳にある金の環を外し、私のところに持って来なさい。」
3 民は皆、自分たちの耳にある金の環を外し、アロンのところに持って来た。
4 アロンは彼らが渡したものを受け取り、彫刻具でそれを形作り、鋳造した子牛を造った。すると彼らは言った。「イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々である。」
5 アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。アロンは布告して、「明日は主への祭りである」と言った。
6 彼らは翌日早く起き、全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえを持って来た。民は座って飲み食いし、立ち上がって遊んだ。
7 主はモーセに言われた。「行け、下りて行け。あなたがエジプトの地から導き上ったあなたの民は堕落してしまったからだ。
8 彼らは、わたしが彼らに命じた道から早くも外れてしまった。彼らは自分たちのために鋳造した子牛を造り、それを拝み、それにいけにえをささげて、『イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々である』と言っている。」
9 主はモーセに言われた。「わたしはこの民を見た。見よ、彼らはうなじの固い民である。
10 だから今、わたしを放っておけ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がり、彼らを滅ぼし尽くすためである。そしてわたしはあなたを大いなる国民とする。」
11 モーセは彼の神、主に懇願して言った。「主よ、なぜあなたの怒りが、大いなる力と力強い手によってエジプトの地から導き出されたあなたの民に向かって燃え上がるのですか。
12 なぜエジプト人に『神は彼らを山々で殺し、地の面から滅ぼし尽くすという、災いのために彼らを導き出したのだ』と言わせるのですか。あなたの激しい怒りをおさめ、あなたの民に対するこの災いを思い直してください。
13 あなたのしもべであるアブラハム、イサク、イスラエルを思い出してください。あなたはご自身にかけて彼らに誓い、『わたしはあなたがたの子孫*を空の星のように増やし、わたしが語ったこのすべての地をあなたがたの子孫に与え、彼らはそれを永遠に受け継ぐであろう』と言われました。」
14 それで主は、ご自分の民に下すと言われた災いを思い直された。
15 モーセは向き直り、あかしの板二枚を手に持って山から下りた。その板は両面に字が書かれていた。片面にも、もう片面にも書かれていた。
16 その板は神の作であり、その字は板に彫られた神の文字であった。
17 ヨシュアは民が叫ぶ声を聞いて、モーセに言った。「陣営に戦いの声がします。」
18 モーセは言った。「勝利を叫ぶ声ではない。敗北を嘆く声でもない。私が聞くのは歌を歌う者たちの声である。」
19 彼は陣営に近づくとすぐに、子牛と踊りを見た。するとモーセの怒りは激しく燃え上がり、彼は手から板を投げつけ、山のふもとでそれを砕いた。
20 彼は彼らが造った子牛を取り、火で焼き、粉々に砕き、それを水の上にまき散らし、イスラエルの子らに飲ませた。
21 モーセはアロンに言った。「この民があなたに何をしたので、あなたは彼らに大きな罪をもたらしたのか。」
22 アロンは言った。「我が主よ、怒りを燃やさないでください。この民が悪に傾いていることを、あなたはご存じです。

* **32:13 32:13** あるいは、種。

23 彼らは私に言いました。『私たちのために、私たちの先頭に立って行く神々を造ってください。私たちをエジプトの地から導き上ったあのモーセという人が、どうなってしまったのか分からないからです。』
24 私は彼らに言いました。『金を持っている者は誰でもそれを外しなさい。』こうして彼らがそれを私に渡したので、私がそれを火に投げ入れると、この子牛が出てきたのです。」
25 民が抑えがきかなくなっているのをモーセは見た。アロンが彼らの抑えを失わせ、敵の物笑いの種にしてしまったからである。
26 その時、モーセは陣営の入り口に立って言った。「主の側につく者は誰でも、私のところに来なさい！」
すると、レビのすべての子らが彼のもとに集まった。
27 彼は彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『各人は太ももに剣を帯び、陣営の入り口から入り口へと行き巡り、各々が自分の兄弟、各々が自分の友、各々が自分の隣人を殺せ。』」
28 レビの子らはモーセの言葉通りにした。その日、民のうち約三千人が倒れた。
29 モーセは言った。「今日、あなたがたは主のために自らを聖別しなさい。各々が自分の息子や自分の兄弟に逆らったからであり、今日主があなたがたに祝福をお与えになるためである。」
30 翌日、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。今、私は主のもとに上って行く。あるいは、あなたがたの罪のために贖罪ができるかもしれない。」
31 モーセは主のもとに戻って言った。「ああ、この民は大きな罪を犯し、自分たちのために金の神々を造りました。
32 しかし今、もしあなたが彼らの罪を赦してくださるのなら。――もしそうでないなら、どうかあなたが書かれたあなたの書物から、私を消し去ってください。」
33 主はモーセに言われた。「わたしに対して罪を犯した者は誰でも、わたしの書物から消し去る。
34 さあ行きなさい。わたしがあなたに語った場所に民を導け。見よ、わたしの使いがあなたの前を行く。しかし、わたしが罰する日には、わたしは彼らの罪のために彼らを罰する。」
35 主は民を打たれた。アロンが造った子牛に関して、彼らが行ったことのゆえである。

33

1 主はモーセに言われた。「ここから出発し、上って行きなさい。あなたと、あなたがエジプトの地から導き上った民と共に、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに『あなたの子孫にそれを与える』と誓った地へ行きなさい。
2 わたしはあなたの前に使いを遣わし、カナン人、アモリ人、ヘト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い出す。
3 乳と蜜の流れる地へ行きなさい。しかし、わたしはあなたがたの間には上って行かない。あなたがたはうなじの固い民であり、わたしが途中であなたがたを滅ぼしてしまうかもしれないからである。」
4 民はこの悪い知らせを聞いて嘆き悲しみ、だれも飾り物を身に着けなかった。
5 主はモーセに言われていた。「イスラエルの子らに言いなさい。『あなたがたはうなじの固い民である。もしわたしが一瞬でもあなたがたの間に上って行けば、わたしはあなたがたを滅ぼしてしまうだろう。だから今、飾り物を外しなさい。そうすれば、わたしがあなたがたに何をするかを知ることになる。』」
6 イスラエルの子らはホレブの山から先、自分たちの飾り物を外した。

7 さて、モーセは天幕を取り、それを陣営の外、陣営から遠く離れた所に張り、それを「会見の天幕」と呼んでいた。主を求める者はみな、陣営の外にある会見の天幕へ出て行った。
8 モーセが天幕へ出て行く時は、民は皆立ち上がり、それぞれ自分の天幕の入り口に立って、モーセが天幕に入るまで彼を見送った。
9 モーセが天幕に入ると、雲の柱が降りてきて天幕の入り口に立ち、主はモーセと語られた。
10 民は皆、雲の柱が天幕の入り口に立っているのを見た。民は皆立ち上がり、それぞれ自分の天幕の入り口で礼拝した。
11 人が自分の友と語るように、主はモーセと顔と顔を合わせて語られた。彼は陣営に戻ったが、彼の従者であるヌンの子ヨシュアという若者は、天幕から離れなかった。
12 モーセは主に言った。「見よ、あなたは私に『この民を導き上れ』と言われます。しかし、誰を私と一緒に遣わすのかを知らせておられません。しかもあなたは『わたしはあなたを名指しで知っており、あなたもわたしの目に好意を得ている』と言われました。
13 だから今、もし私があなたの目に好意を得ているなら、どうか今、私にあなたの道を示してください。私があなたを知り、あなたの目に好意を得るためです。そして、この国民があなたの民であることを心に留めてください。」
14 主は言われた。「わたしの臨在があなたと共に行き、わたしはあなたに安息を与える。」
15 モーセは主に言った。「もしあなたの臨在が共に行かないなら、私たちをここから連れ上らないでください。
16 私とあなたの民が、あなたの目に好意を得ていることは、何によって知られるのでしょうか。あなたが私たちと共に行ってくださることによってではありませんか。そうして、私とあなたの民が、地の面にあるすべての民から区別されるのです。」
17 主はモーセに言われた。「あなたが語ったこの事も、わたしは行おう。あなたがわたしの目に好意を得ており、わたしがあなたを名指しで知っているからである。」
18 モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」
19 主は言われた。「わたしは、わたしのすべての良きものをあなたの前に通り過ぎさせ、あなたの前に主の名を宣言する。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ。」
20 さらに言われた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」
21 主はさらに言われた。「見よ、わたしの傍らに一つの場所がある。あなたはその岩の上に立ちなさい。
22 わたしの栄光が通り過ぎる時、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまでわたしの手であなたを覆う。
23 その後、わたしが手をのけるので、あなたはわたしの背を見るだろう。しかし、わたしの顔は見られない。」

34

1 主はモーセに言われた。「最初のような石の板を二枚切り出しなさい。あなたが砕いた最初の板にあった言葉を、わたしはその板に書き記す。
2 朝までに準備をし、朝、シナイ山に上り、山の頂でわたしの前に立ちなさい。
3 誰もあなたと一緒に上って来てはならず、山のどこにも姿を見せてはならない。羊の群れも牛の群れも、その山の前で草をはませてはならない。」

4 モーセは最初のような石の板を二枚切り出した。そしてモーセは朝
早く起き、主が命じられた通りにシナイ山に上り、手に二枚の石の板を持って
いた。
5 主は雲の中に降りてきて、そこで彼と共に立ち、主*の御名を宣言された。
6 主は彼の前を通り過ぎ、宣言された。「主、主、あわれみ深く恵み豊か
な神、怒るのに遅く、慈しみと真実に満ち、
7 何千代にもわたって慈しみを保ち、咎と背きと罪を赦す者。しかし、有
罪の者を決して無罪とはせず、父の咎を子に、子の子に、三代、四代にま
で報いる者。」
8 モーセは急いで地に頭を下げて礼拝した。
9 彼は言った。「主よ、もし今、私があなたの目に好意を得ているなら、ど
うか主が私たちの間を行かれますように。これはうなじの固い民ですが、私た
ちの咎と罪を赦し、私たちをあなたの嗣業としてください。」
10 主は言われた。「見よ、わたしは契約を結ぶ。あなたのすべて
の民の前で、全地においても、どの国民においても今までなされたことのない
ような驚くべき事を行う。あなたの周囲にいるすべての民は、主の業を見るで
あろう。わたしがあなたと共に行うことは、恐るべきことだからである。
11 今日わたしがあなたに命じることを守りなさい。見よ、わたしはアモ
リ人、カナン人、ヘト人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人をあなたの前か
ら追い出す。
12 あなたがこれから入って行く地の住民と契約を結ばないように気をつけな
さい。それがあなたがたの間で罠とならないためである。
13 かえって、あなたがたは彼らの祭壇を壊し、彼らの石の柱を打ち砕き、
彼らのアシェラの木の柱を切り倒さなければならない。
14 あなたは他の神を拝んではならない。主の御名は『ねたみ』であり、ねた
む神だからである。
15 その地の住民と契約を結んではならない。彼らがその神々を慕って淫
行を行い、その神々にいけにえをささげる時、誰かがあなたを招き、あなたが
そのいけにえを食べるかもしれないからである。
16 また、あなたが彼らの娘たちをあなたの息子たちの妻に迎え、その娘たち
が自分の神々を慕って淫行を行い、あなたの息子たちにもその神々を慕って淫
行を行わせるかもしれないからである。
17 あなたは自分のために鋳造した神々を造ってはならない。
18 種なしパンの祭りを守らなければならない。わたしがあなたに命じ
た通り、アビブの月の定められた時に、七日間、種なしパンを食べなければな
らない。アビブの月に、あなたがエジプトから出て来たからである。
19 胎を開くものはみな、わたしのものである。あなたの家畜のうち、
牛や羊の雄の初子もみなそうである。
20 ろばの初子は小羊で贖わなければならない。もし贖わないなら、そ
の首を折らなければならない。あなたは自分の息子たちの初子をみな贖わなけ
ればならない。誰も手ぶらでわたしの前に現れてはならない。
21 六日間は働き、七日目には休まなければならない。耕す時にも刈り入れ
の時にも休まなければならない。
22 小麦の刈り入れの初穂で七週の祭りを、また年の終わりに取り入れの祭り
を守らなければならない。
23 年に三回、あなたの男子はみな、イスラエルの神、主なる神の前に現れな
ければならない。

---

* **34:5 34:5** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה

24 わたしはあなたの前から国々を追い出し、あなたの境界を広げる。あなたが年に三回、あなたの神、主の前に現れるために上って行く時、誰もあなたの地を欲しがることはない。
25 わたしのいけにえの血を、パン種が入ったものと共にささげてはならない。過越の祭りのいけにえを朝まで残しておいてはならない。
26 あなたの土地の初穂の最上のものを、あなたの神、主の家に持って来なければならない。子山羊をその母の乳で煮てはならない。
27 主はモーセに言われた。「これらの言葉を書き記しなさい。これらの言葉に従って、わたしはあなたと、そしてイスラエルと契約を結んだからである。」
28 モーセはそこで四十日四十夜、主と共にいた。彼はパンも食べず、水も飲まなかった。彼は契約の言葉、十戒を板に書き記した。
29 モーセがシナイ山から下りて来た時、手には二枚のあかしの板を持っていた。彼が山から下りて来た時、主と語ったために自分の顔の肌が光を放っていることを、モーセは知らなかった。
30 アロンとイスラエルのすべての子らがモーセを見ると、見よ、彼の顔の肌は光を放っていた。彼らは恐れて彼に近づけなかった。
31 モーセが彼らを呼ぶと、アロンと会衆のすべての指導者たちが彼のもとに戻って来たので、モーセは彼らに語った。
32 その後、イスラエルのすべての子らが近づいて来たので、彼は主がシナイ山で彼に語られたすべての命令を彼らに授けた。
33 モーセは彼らと語り終えると、自分の顔に覆いを掛けた。
34 しかし、モーセが主と語るために主の前に進み出る時は、外に出るまで覆いを外していた。彼は出て来ると、命じられたことをイスラエルの子らに語った。
35 イスラエルの子らがモーセの顔、すなわちモーセの顔の肌が光を放っているのを見たので、モーセは主と語るために中に入るまで、再び自分の顔に覆いを掛けた。

35

1 モーセはイスラエルの子らの全会衆を集めて彼らに言った。「これは、あなたがたが行うようにと主が命じられた言葉である。
2 六日間は仕事をしてもよいが、七日目はあなたがたにとって聖なる日であり、主への全き休みの安息日である。この日に仕事をする者はみな死刑に処せられる。
3 安息日には、あなたがたのどの住まいでも火をたいてはならない。」
4 モーセはイスラエルの子らの全会衆に語って言った。「これは主が命じられたことである。
5 あなたがたの中から主へのささげ物を取りなさい。心から進んでささげる者はだれでも、主へのささげ物としてこれを持って来なさい。金、銀、青銅、
6 青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布、山羊の毛、
7 赤く染めた雄羊の皮、ジュゴンの皮、アカシアの木、
8 灯火のための油、注ぎ油と香りのよい香のための香料、
9 縞めのう、そしてエポデや胸当てにはめ込むための宝石である。
10 あなたがたのうち心に知恵のある者はみな来て、主が命じられたすべてのものを造りなさい。
11 幕屋、その天幕、その覆い、その留め金、その板、その横木、その柱、その台座、
12 箱とその横木、贖いの座、仕切りの垂れ幕、
13 机とその横木、そのすべての器具、供えのパン、
14 灯火のための燭台とその器具、そのともしび、灯火のための油、

15 香の祭壇とその横木、注ぎ油、香りのよい香、幕屋の入り口にある戸
口の幕、
16 全焼のいけにえの祭壇と青銅の格子、その横木、そのすべての器具、洗
盤とその台、
17 庭の幕、その柱、その台座、庭の入り口の幕、
18 幕屋の釘、庭の釘とそれらのひも、
19 聖所で仕えるための精巧に織られた衣服、すなわち祭司アロンのため
の聖なる衣服と、その子らが祭司として仕えるための衣服である。」
20 イスラエルの子らの全会衆はモーセの前から退出した。
21 そして、心が動かされた者、霊に促されて進んで心に決めた者はみ
な来て、会見の天幕の仕事のため、そのすべての奉仕のため、また聖なる衣
服のために、主へのささげ物を持って来た。
22 男も女も進んで心に決めた者はみな来て、ブローチ、耳輪、印章指輪、腕
輪など、あらゆる金の飾り物を持って来た。金を主へのささげ物としてささげ
た者もみなそうであった。
23 青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布、山羊の毛、赤く染めた雄
羊の皮、ジュゴンの皮を持っている者もみな、それらを持って来た。
24 銀や青銅のささげ物をささげる者はみな、それを主へのささげ物とし
て持って来た。奉仕のあらゆる仕事に用いるアカシアの木を持っている者もみ
な、それを持って来た。
25 心に知恵のある女たちはみな、自分たちの手で糸を紡ぎ、その紡いだも
の、すなわち青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布を持って来た。
26 知恵によって心が動かされた女たちもみな、山羊の毛を紡いだ。
27 指導者たちは、縞めのうと、エポデや胸当てにはめ込むための宝石を持っ
て来た。
28 また、香料と、灯火のため、注ぎ油のため、香りのよい香のため
の油も持って来た。
29 イスラエルの子らは、男も女も、主がモーセを通して命じられたすべて
の仕事のために、進んで心に決めて持って来ようとする者はみな、自ら進ん
で主へのささげ物を持って来た。
30 モーセはイスラエルの子らに言った。「見よ、主はユダ部族のフルの子で
あるウリの子ベツァルエルを名指しで呼んだ。
31 神は彼を神の霊で満たし、知恵、英知、知識、そしてあらゆる種類の職
人の技を与えた。
32 それは巧みな意匠を考案し、金、銀、青銅で細工をし、
33 はめ込み用の石を切り、木を彫り、あらゆる種類の巧みな職人の技で仕
事をするためである。
34 主は、彼とダン部族のアヒサマクの子オホリアブの心に、人に教え
る力を授けられた。
35 主は彼らを心の知恵で満たし、彫刻師の仕事、熟練した職人の仕事、青
色、紫色、緋色の糸、および撚り糸で織った亜麻布による刺繍をする者の仕
事、また機織りの仕事など、あらゆる仕事を行う者、また巧みな意匠を考案す
る者のすべての仕事を行わせるようにされた。

36

1 ベツァルエル、オホリアブ、および心に知恵のあるすべての人は、聖
所の奉仕のためのすべての仕事を行う方法を知るようにと主から知恵と英
知を授けられた者であり、彼らは主が命じられたすべてに従って仕事をしなけ
ればならない。」

2 モーセは、ベツァルエル、オホリアブ、および主がその心に知恵を授けられた心に知恵のあるすべての人、すなわちその仕事を行うために心が動かされて来たすべての者を呼び寄せた。
3 彼らは、イスラエルの子らが聖所の奉仕の仕事を行い、それを造るために持って来たすべてのささげ物をモーセから受け取った。民はなおも毎朝、自ら進んでささげ物を彼のもとに持って来た。
4 聖所のすべての仕事を行っていた知恵のある人々はみな、各自が行っていた仕事から離れて来て、
5 モーセに語って言った。「民は、主が造るようにと命じられた奉仕の仕事に十分な量よりもはるかに多く持って来ています。」
6 そこでモーセは命じて、陣営中に布告を行き渡らせて言った。「男も女も、聖所へのささげ物のために、もう何も作ってはならない。」こうして、民は持って来るのを止められた。
7 彼らが持っていた材料は、すべての仕事を行うのに十分であり、なお余りがあったからである。
8 仕事をする者たちのうち、心に知恵のある人々はみな、撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の糸で十枚の幕を造り、幕屋を造った。彼らはケルビムを熟練した職人の細工としてこれらに織り出した。
9 それぞれの幕の長さは二十八キュビト*、幅は四キュビトとした。すべての幕は同じ寸法であった。
10 彼は五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、もう五枚の幕も互いにつなぎ合わせた。
11 彼はつなぎ合わせた一方の幕の端に青い糸で輪を作った。もう一つのつなぎ合わせた幕の外側の端にも同じようにした。
12 一方の幕に五十の輪を作り、もう一つのつなぎ合わせた幕の端にも五十の輪を作った。輪は互いに向かい合うようにした。
13 彼は五十の金の留め金を造り、その留め金で幕を互いにつなぎ合わせた。こうして幕屋は一つとなった。
14 彼は幕屋の上に掛ける天幕として、山羊の毛で幕を造った。十一枚の幕を造った。
15 それぞれの幕の長さは三十キュビト、幅は四キュビトとした。十一枚の幕は同じ寸法であった。
16 彼は五枚の幕を一つにつなぎ合わせ、六枚の幕を一つにつなぎ合わせた。
17 彼はつなぎ合わせた一方の外側の幕の端に五十の輪を作り、もう一つのつなぎ合わせた幕の外側の端にも五十の輪を作った。
18 彼は五十の青銅の留め金を造り、天幕を一つにつなぎ合わせた。
19 彼は天幕のために赤く染めた雄羊の皮の覆いを造り、その上にジュゴンの皮の覆いを造った。
20 彼は幕屋のためにアカシアの木で板を造り、直立させた。
21 板の長さは十キュビト、それぞれの板の幅は一・五キュビトであった。
22 それぞれの板には、互いに合うように二つのほぞがあった。彼は幕屋のすべての板をこのように造った。
23 彼は幕屋の南側に向かう側に、二十枚の板を造った。
24 彼はその二十枚の板の下に四十の銀の台座を造った。すなわち、一枚の板の二つのほぞの下に二つの台座、もう一枚の板の二つのほぞの下にも二つの台座を置いた。
25 幕屋のもう一方の側、すなわち北側にも二十枚の板を造り、
26 それらの四十の銀の台座を造った。すなわち、一枚の板の下に二つの台座、もう一枚の板の下にも二つの台座を置いた。
27 幕屋の奥、すなわち西側のために六枚の板を造った。

---

* **36:9 36:9** 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約46センチメートルであ

28 幕屋の奥の両隅のために二枚の板を造った。
29 これらは下で二重になり、同じように頂部でも一つの環に向けて一つとなるようにした。彼は二つの隅にある両方の板をそのようにした。
30 八枚の板と、その銀の台座は十六の台座となった。すべての板の下に二つずつ台座があった。
31 彼はアカシアの木で横木を造った。幕屋の一方の側の板のために五本、
32 幕屋のもう一方の側の板のために五本の横木、そして幕屋の奥、すなわち西側の板のために五本の横木を造った。
33 彼は板の真ん中を通る中央の横木を、端から端まで通るようにした。
34 彼は板に金をかぶせ、横木を通す場所として金の環を造り、横木にも金をかぶせた。
35 彼は青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で垂れ幕を造った。それにケルビムを熟練した職人の細工として織り出した。
36 そのために四本のアカシアの木の柱を造り、それに金をかぶせた。その掛け釘は金であった。彼はそのために四つの銀の台座を鋳造した。
37 彼は天幕の入り口のために、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で、刺繍をする者の細工による幕を造った。
38 また、その五本の柱とその掛け釘を造り、その柱頭と帯飾りに金をかぶせた。その五つの台座は青銅であった。

37

1 ベツァルエルはアカシアの木で箱を造った。その長さは二・五キュビト*、幅は一・五キュビト、高さは一・五キュビトであった。
2 彼はその内側と外側に純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を造った。
3 彼はその四つの足に四つの金の環を鋳造した。一方の側に二つの環、もう一方の側にも二つの環を取り付けた。
4 彼はアカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせた。
5 箱を担ぐために、彼はその横木を箱の側面の環に通した。
6 彼は純金で贖いの座を造った。その長さは二・五キュビト、幅は一・五キュビトであった。
7 彼は金のケルビムを二つ造った。贖いの座の両端に、それらを打ち出し細工で造った。
8 一つのケルブを一方の端に、もう一つのケルブをもう一方の端に造った。彼はケルビムを贖いの座の両端に、座と一体にして造った。
9 ケルビムはその翼を上に向けて広げ、その翼で贖いの座を覆い、互いに顔を向かい合わせていた。ケルビムの顔は贖いの座の方に向けられていた。
10 彼はアカシアの木で机を造った。その長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一・五キュビトであった。
11 彼はそれに純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を造った。
12 彼はその周りに手の幅の枠を造り、その枠の周りにも金の飾り縁を造った。
13 彼はそのために四つの金の環を鋳造し、四つの足にある四隅にその環を取り付けた。
14 机を担ぐための横木を通す場所として、環は枠の近くにあった。
15 机を担ぐために、彼はアカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせた。
16 彼は机の上にある器具、すなわち皿、さじ、鉢、注ぎのささげ物を注ぐための水差しを純金で造った。
17 彼は純金で燭台を造った。彼は燭台を打ち出し細工で造った。その台座、支柱、杯、節、花は、それと一体であった。

---

* **37:1 37:1** 一キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約46センチメートルで

18 その側面からは六つの枝が出ていた。一方の側から燭台の三つの枝、もう一方の側から燭台の三つの枝が出ていた。
19 一つの枝にはアーモンドの花のような三つの杯、節、花があり、もう一つの枝にもアーモンドの花のような三つの杯、節、花があった。燭台から出ている六つの枝がそのようであった。
20 燭台の支柱には、アーモンドの花のような四つの杯、節、花があった。
21 燭台から出ている六つの枝のために、それと一体の二つの枝の下に一つの節、それと一体の他の二つの枝の下に一つの節、それと一体のさらに他の二つの枝の下に一つの節があった。
22 それらの節と枝は燭台と一体であった。その全体が一つの純金の打ち出し細工であった。
23 彼はその七つのともしび、芯切りばさみ、芯取り皿を純金で造った。
24 彼はそのすべての器具を含めて、一タラント†の純金でこれを造った。
25 彼はアカシアの木で香の祭壇を造った。それは四角形で、長さは一キュビト、幅は一キュビトであった。高さは二キュビトであった。その角は祭壇と一体であった。
26 彼はその上面、周囲の側面、およびその角に純金をかぶせた。彼はその周囲に金の飾り縁を造った。
27 飾り縁の下にある両側の側面に、二つの金の環を造った。それらは祭壇を担ぐための横木を通す場所であった。
28 彼はアカシアの木で横木を造り、それに金をかぶせた。
29 彼は香料作りの技法に従って、聖なる注ぎ油と、香りのよい純粋な香を造った。

38

1 彼はアカシアの木で全焼のいけにえの祭壇を造った。それは四角形であった。長さは五キュビト*、幅は五キュビト、高さは三キュビトであった。
2 その四隅に角を造った。その角は祭壇と一体であり、それに青銅をかぶせた。
3 彼は祭壇のすべての器具、すなわち壺、十能、鉢、肉刺し、火皿を造った。そのすべての器具を青銅で造った。
4 祭壇のために青銅の網目細工の格子を造り、祭壇の出っ張りの下、すなわち下部に取り付け、格子が祭壇の半分の高さに届くようにした。
5 青銅の格子の四隅に、横木を通す場所として四つの環を鋳造した。
6 彼はアカシアの木で横木を造り、それに青銅をかぶせた。
7 祭壇を担ぐために、祭壇の側面にある環にその横木を通した。彼は祭壇を板で空洞に造った。
8 彼は青銅の洗盤とその青銅の台を、会見の天幕の入り口で奉仕する女たちの鏡で造った。
9 彼は庭を造った。南側に向かう片側のために、撚り糸で織った亜麻布の庭の幕を百キュビト設けた。
10 その二十本の柱と二十の台座は青銅であり、柱の掛け釘と帯飾りは銀であった。
11 北側には百キュビトの幕を設けた。その二十本の柱と二十の台座は青銅であり、柱の掛け釘と帯飾りは銀であった。
12 西側には五十キュビトの幕を設けた。その柱は十本、台座は十であり、柱の掛け釘と帯飾りは銀であった。
13 東に向かう東側は五十キュビトであった。

† **37:24 37:24** ―タラントは約30キログラム、すなわち66ポンド、あるいは965トロイオンスである。
* **38:1 38:1** ―キュビトは、大人の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、すなわち約46センチメートルであ

14 入り口の一方の側の幕は十五キュビト、その柱は三本、台座は三つであった。
15 もう一方の側も同様であった。庭の入り口の両側には十五キュビトの幕があり、その柱は三本、台座は三つであった。
16 庭の周囲のすべての幕は、撚り糸で織った亜麻布であった。
17 柱の台座は青銅であった。柱の掛け釘と帯飾りは銀であり、その柱頭には銀がかぶせられていた。庭のすべての柱には銀の帯飾りがあった。
18 庭の入り口の幕は、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布による、刺繍をする者の細工であった。長さは二十キュビトで、幅に沿った高さは庭の幕と同じく五キュビトであった。
19 その柱は四本、青銅の台座は四つであった。その掛け釘は銀であり、柱頭の覆いと帯飾りも銀であった。
20 幕屋のすべての釘と、庭の周囲の釘は青銅であった。
21 これらは幕屋、すなわちあかしの幕屋のために用いられた材料の総量である。それはモーセの命令により、祭司アロンの子イタマルの手によって、レビ人の奉仕のために数えられた。
22 ユダ部族のフルの子であるウリの子ベツァルエルは、主がモーセに命じられたすべてのものを造った。
23 彼と共に、ダン部族のアヒサマクの子オホリアブがいた。彼は彫刻師であり、熟練した職人であり、青色、紫色、緋色の糸、および亜麻布による刺繍をする者であった。
24 聖所のすべての仕事、すなわちあらゆる奉仕の仕事に用いられた金、すなわちささげ物の金は、聖所のシェケル†に従って、二十九タラント‡と七百三十シェケルであった。
25 会衆の中で数えられた者たちの銀は、聖所のシェケルに従って百タラント§と千七百七十五シェケル*であった。
26 これは数えられる者たちの中に加わる二十歳以上の者、すなわち六十万三千五百五十人の一人一人について、一人当たり一ベカ†、すなわち聖所のシェケル‡に従って半シェケルであった。
27 百タラント§の銀は、聖所の台座と垂れ幕の台座を鋳造するためのものであった。百タラントで百の台座を、すなわち一つの台座につき一タラントを用いた。
28 彼は千七百七十五シェケル*で柱のための掛け釘を作り、その柱頭に銀をかぶせ、そのための帯飾りを作った。
29 ささげ物の青銅は、七十タラント†と二千四百シェケル‡であった。
30 彼はこれで会見の天幕の入り口の台座、青銅の祭壇とその青銅の格子、祭壇のすべての器具、
31 庭の周囲の台座、庭の入り口の台座、幕屋のすべての釘、および庭の周囲のすべての釘を作った。

---

† **38:24** **38:24** —シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。 ‡ **38:24** **38:24** —タラントは約30キログラム、すなわち66ポンド、あるいは965トロイオンスである。
§ **38:25** **38:25** —タラントは約30キログラム、すなわち66ポンドである。 * **38:25** **38:25** —シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。 † **38:26** **38:26** —ベカは約5グラム、あるいは約0.175オンスである。 ‡ **38:26** **38:26** —シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。 § **38:27** **38:27** —タラントは約30キログラム、すなわち66ポンドである。 * **38:28** **38:28** —シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。したがって1775シェケルは約17.75キログラム、すなわち約
† **38:29** **38:29** —タラントは約30キログラム、すなわち66ポンドである。 ‡ **38:29** **38:29** 70タラントと2400シェケルは約2124キログラム、すなわち2.124メートルトンである。

39

1 主がモーセに命じられた通りに、彼らは青色、紫色、緋色の糸を用いて、聖所で仕えるための精巧に織られた衣服を作り、アロンのための聖なる衣服を作った。
2 彼は金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布でエポデを作った。
3 彼らは金をたたいて薄い板にし、それを切り分けて糸にし、熟練した職人の細工として、青色、紫色、緋色の糸、および亜麻布の中に織り込んだ。
4 彼らは互いにつながる肩ひもを作り、それは両端でつながれていた。
5 主がモーセに命じられた通りに、それを結びつけるための、エポデの上にある巧みに織られた帯は、それと同じような細工で、それと一体であった。すなわち、金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で作られた。
6 彼らは縞めのうを金の枠にはめ込み、イスラエルの子らの名前に従って、印章を彫るようにしてそれを彫った。
7 主がモーセに命じられた通りに、彼はそれらをエポデの肩ひもに付け、イスラエルの子らのための記念の石とした。
8 彼は熟練した職人の細工として、エポデの細工と同じように胸当てを作った。すなわち、金、青色、紫色、緋色の糸、撚り糸で織った亜麻布で作った。
9 それは四角形であった。彼らは胸当てを二つ折りにした。二つ折りにして、長さは一スパン*、幅も一スパンであった。
10 彼らはその中に四列の石をはめ込んだ。第一列はルビー、トパーズ、緑柱石の列であった。
11 第二列はトルコ石、サファイア†、エメラルドであった。
12 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶であった。
13 第四列はクリソライト、縞めのう、碧玉であった。これらは金の枠にはめ込まれていた。
14 石はイスラエルの子らの名前に従って十二あり、彼らの名前に従うものであった。印章を彫るように、十二部族のために、それぞれ名前に従って彫られていた。
15 彼らは胸当ての上に、純金で撚り合わせた編んだひものような鎖を作った。
16 彼らは二つの金の枠と二つの金の環を作り、その二つの環を胸当ての両端に取り付けた。
17 彼らはその二つの金の編んだ鎖を、胸当ての端にある二つの環に通した。
18 二つの編んだ鎖の他の二つの端を、彼らは二つの枠に取り付け、それをエポデの前面の肩ひもに取り付けた。
19 彼らは二つの金の環を作り、胸当ての両端、すなわち内側のエポデに向いている側の縁にそれを取り付けた。
20 彼らはさらに二つの金の環を作り、それをエポデの二つの肩ひもの下部、前面のつなぎ目の近く、エポデの巧みに織られた帯の上に取り付けた。
21 主がモーセに命じられた通りに、彼らは胸当ての環とエポデの環を青いひもで結びつけ、それがエポデの巧みに織られた帯の上にあり、胸当てがエポデからずれないようにした。
22 彼はエポデの上着を織物細工で、すべて青色で作った。
23 その真ん中にある上着の穴は、よろいの穴のようであり、それが裂けないように穴の周囲に縁取りがあった。
24 彼らは上着の裾に、青色、紫色、緋色の糸、および撚り糸で織った亜麻布でざくろを作った。

---

* **39:9 39:9** 一スパンは、大人の手が広げられた時の親指の先から小指の先までの長さである（約半キュビト、すなわ
† **39:11 39:11** あるいは、ラピスラズリ。

25 彼らは純金の鈴を作り、その鈴を上着の裾の周囲にあるざくろとざくろの間に置いた。
26 主がモーセに命じられた通りに、奉仕のために着る上着の裾の周囲に、鈴とざくろ、鈴とざくろを交互に配置した。
27 彼らはアロンとその子らのために、亜麻布の織物細工で長服を作った。
28 亜麻布のターバン、亜麻布の頭帯、撚り糸で織った亜麻布のももひき、
29 主がモーセに命じられた通りに、撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の糸を用いた、刺繍をする者の細工による飾り帯を作った。
30 彼らは純金で聖なる冠の札を作り、印章を彫るように、その上に「主に聖なるもの」と碑文を書き記した。
31 主がモーセに命じられた通りに、それに青いひもを結びつけ、上のターバンに取り付けた。
32 こうして、会見の天幕の幕屋のすべての仕事は完成した。イスラエルの子らは、主がモーセに命じられたすべてに従って行った。そのように彼らは行った。
33 彼らは幕屋をモーセのもとに持って来た。天幕とそのすべての器具、その留め金、その板、その横木、その柱、その台座、
34 赤く染めた雄羊の皮の覆い、ジュゴンの皮の覆い、仕切りの垂れ幕、
35 その横木が付いたあかしの箱、贖いの座、
36 机、そのすべての器具、供えのパン、
37 純金の燭台、そのともしび、整えられるべきともしび、そのすべての器具、灯火のための油、
38 金の祭壇、注ぎ油、香りのよい香、天幕の入り口の幕、
39 青銅の祭壇、その青銅の格子、その横木、そのすべての器具、洗盤とその台、
40 庭の幕、その柱、その台座、庭の入り口の幕、そのひも、その釘、会見の天幕のための幕屋の奉仕に用いるすべての器具、
41 聖所で仕えるための精巧に織られた衣服、すなわち祭司アロンのための聖なる衣服と、その子らが祭司として仕えるための衣服である。
42 主がモーセに命じられたすべてに従って、イスラエルの子らはそのすべての仕事を行った。
43 モーセがそのすべての仕事を見ると、見よ、彼らは主が命じられた通りにそれを完成させていた。彼らはそのように行っていた。そこでモーセは彼らを祝福した。

40

1 主はモーセに語って言われた。
2 「第一の月の最初の日、あなたは会見の天幕である幕屋を建てなければならない。
3 あなたはその中にあかしの箱を置き、垂れ幕でその箱を覆いなさい。
4 あなたは机を運び入れ、その上のものを整えなさい。燭台を運び入れ、そのともしびに火をともしなさい。
5 あなたは香をたく金の祭壇をあかしの箱の前に置き、幕屋の入り口の幕を掛けなさい。
6 あなたは全焼のいけにえの祭壇を、会見の天幕である幕屋の入り口の前に置きなさい。
7 あなたは洗盤を会見の天幕と祭壇の間に置き、その中に水を入れなさい。
8 あなたはその周囲に庭を設け、庭の入り口に幕を掛けなさい。
9 あなたは注ぎ油を取り、幕屋とその中にあるすべてのものに油を注いで聖別しなさい。そのすべての器具も聖別しなさい。そうすれば、それは聖なるものとなる。

10 あなたは全焼のいけにえの祭壇と、そのすべての器具に油を注ぎ、その祭
壇を聖別しなさい。そうすれば、祭壇は最も聖なるものとなる。
11 あなたは洗盤とその台に油を注ぎ、それを聖別しなさい。
12 あなたはアロンとその子らを会見の天幕の入り口に連れて行き、水で彼ら
を洗わなければならない。
13 あなたはアロンに聖なる衣服を着せなさい。そして彼に油を注いで聖
別し、彼が祭司としてわたしに仕えることができるようにしなさい。
14 あなたは彼の子らを連れて来て、長服を着せなさい。
15 あなたが彼らの父に油を注いだように、彼らにも油を注ぎなさい。彼ら
が祭司としてわたしに仕えるためである。その注ぎの油は、彼らの代々にわた
る永遠の祭司職のためとなる。」
16 モーセはそのようにした。主が命じられたすべてに従って、彼はそのよう
に行った。
17 第二年の第一の月、その月の最初の日に、幕屋は建てられた。
18 モーセは幕屋を建て、その台座を置き、その板を立て、その横
木を通し、その柱を立てた。
19 主がモーセに命じられた通りに、彼は天幕の上に覆いを広げ、その上に幕
屋の屋根を掛けた。
20 彼はあかしを取り、箱の中に納め、箱に横木を付け、箱の上に贖い
の座を置いた。
21 主がモーセに命じられた通りに、彼は箱を幕屋に運び入れ、仕切り
の垂れ幕を掛け、あかしの箱を覆った。
22 彼は会見の天幕の、幕屋の北側、垂れ幕の外側に机を置いた。
23 主がモーセに命じられた通りに、彼は主の前の机の上にパンを整えた。
24 彼は会見の天幕の、幕屋の南側、机の向かい側に燭台を置いた。
25 主がモーセに命じられた通りに、彼は主の前にともしびに火をともした。
26 彼は会見の天幕の、垂れ幕の前に金の祭壇を置き、
27 主がモーセに命じられた通りに、その上で香りのよい香をたいた。
28 彼は幕屋の入り口に幕を掛けた。
29 主がモーセに命じられた通りに、彼は全焼のいけにえの祭壇を、会見の天
幕である幕屋の入り口の前に置き、その上で全焼のいけにえと穀物のささ
げ物をささげた。
30 彼は会見の天幕と祭壇の間に洗盤を置き、洗うためにその中に水を入れ
た。
31 モーセ、アロン、およびその子らは、そこで手と足を洗った。
32 主がモーセに命じられた通りに、彼らが会見の天幕に入る時、また祭
壇に近づく時に、彼らは洗った。
33 彼は幕屋と祭壇の周囲に庭を設け、庭の入り口の幕を掛けた。こうしてモ
ーセはその仕事を終えた。
34 その時、雲が会見の天幕を覆い、主の栄光が幕屋に満ちた。
35 雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたため、モーセは会
見の天幕に入ることができなかった。
36 雲が幕屋の上から取り上げられる時、イスラエルの子らはいつも旅立っ
た。
37 しかし、雲が取り上げられない時は、それが取り上げられる日まで彼ら
は旅立たなかった。
38 昼は主の雲が幕屋の上にあり、夜は雲の中に火があって、イスラエルの全
家の目の前で、彼らのすべての旅路においてそれが見えたからである。

モーセの第三の書
通称
レビ記

1 主*はモーセを呼び、会見の天幕から彼に語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語り、彼らに言いなさい。『あなたがたのうちのだれかが主にささげ物をささげるときは、家畜の中から、すなわち牛の群れ、また羊の群れの中から、あなたがたのささげ物をささげなければならない。
3 「『もし彼のささげ物が牛の群れからの全焼のささげ物であるなら、傷のない雄をささげなければならない。彼は主の前に受け入れられるために、会見の天幕の入り口でそれをささげなければならない。
4 彼は全焼のささげ物の頭に手を置かなければならない。そうすれば、それは彼のために贖罪をするものとして受け入れられる。
5 彼は主の前でその若い牛を屠らなければならない。祭司であるアロンの子らはその血を差し出し、会見の天幕の入り口にある祭壇の周囲にその血を振りかけなければならない。
6 彼は全焼のささげ物の皮を剥ぎ、それを切り分けなければならない。
7 祭司アロンの子らは祭壇の上に火を置き、火の上に薪を整えて並べなければならない。
8 祭司であるアロンの子らは、切り分けた肉、頭、脂肪を、祭壇の上の火にある薪の上に整えて並べなければならない。
9 ただし、その内臓と足は水で洗わなければならない。祭司はそのすべてを祭壇の上で全焼のささげ物として燃やさなければならない。これは火によるささげ物であり、主への心地よい香りである。
10 「『もし彼のささげ物が羊の群れ、すなわち羊または山羊からの全焼のささげ物であるなら、傷のない雄をささげなければならない。
11 彼は祭壇の北側で、主の前にそれを屠らなければならない。祭司であるアロンの子らは、その血を祭壇の周囲に振りかけなければならない。
12 彼はそれを、その頭と脂肪とともに切り分けなければならない。祭司はそれらを、祭壇の上の火にある薪の上に整えて並べなければならない。
13 ただし、内臓と足は水で洗わなければならない。祭司はその全体をささげ、祭壇の上で燃やさなければならない。これは全焼のささげ物、火によるささげ物であり、主への心地よい香りである。
14 「『もし彼の主へのささげ物が鳥の全焼のささげ物であるなら、山鳩または家鳩の雛の中から、彼のささげ物をささげなければならない。
15 祭司はそれを祭壇に持って行き、その頭をねじり切り、祭壇の上で燃やさなければならない。その血は祭壇の側面に絞り出されなければならない。
16 彼はその餌袋を羽毛とともに取り除き、祭壇の東側にある灰の場所に投げ捨てなければならない。
17 彼はその翼のところでそれを引き裂かなければならない。ただし、二つに切り離してはならない。祭司はそれを祭壇の上、火にある薪の上で燃やさなければならない。これは全焼のささげ物、火によるささげ物であり、主への心地よい香りである。』」

---

* 1:1 1:1 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（

2

1 「『だれかが主に穀物のささげ物をささげるときは、そのささげ物は上
質の小麦粉でなければならない。その上に油を注ぎ、乳香を添えなければなら
ない。
2 彼はそれを祭司であるアロンの子らのところに持って行かなければならな
い。祭司はそこから上質の小麦粉と油を一掴み取り、すべての乳香とともに、
記念の部分として祭壇の上で燃やさなければならない。これは火によるささ
げ物であり、主への心地よい香りである。
3 穀物のささげ物の残りは、アロンとその子らのものとなる。これは主へ
の火によるささげ物の中で最も聖なる部分である。
4 「『かまどで焼いた穀物のささげ物をささげるときは、それは油を混ぜ
た上質の小麦粉の種なしの菓子、または油を塗った種なしの薄焼きパンでなけ
ればならない。
5 もしあなたのささげ物が鉄板の上で作られた穀物のささげ物であるな
ら、それは油を混ぜた種なしの上質の小麦粉でなければならない。
6 あなたはそれを切り分け、その上に油を注がなければならない。これは穀
物のささげ物である。
7 もしあなたのささげ物が鍋で作られた穀物のささげ物であるなら、それ
は上質の小麦粉と油で作られなければならない。
8 これらのものから作られた穀物のささげ物を主のもとに持って行かなけれ
ばならない。それは祭司に差し出され、祭司はそれを祭壇に持って行かなけれ
ばならない。
9 祭司はその穀物のささげ物から記念の部分を取り、祭壇の上で燃やさなけ
ればならない。これは火によるささげ物であり、主への心地よい香りである。
10 穀物のささげ物の残りは、アロンとその子らのものとなる。これは主へ
の火によるささげ物の中で最も聖なる部分である。
11 「『あなたがたが主にささげる穀物のささげ物は、どれもパン種を入れ
て作ってはならない。パン種も蜜も、主への火によるささげ物として燃やして
はならないからである。
12 初穂のささげ物としては、それらを主にささげてもよいが、祭壇の上に心
地よい香りとして上らせてはならない。
13 あなたの穀物のささげ物にはすべて、塩で味付けをしなければならな
い。あなたの穀物のささげ物に、あなたの神*の契約の塩を欠かしてはならな
い。あなたのすべてのささげ物とともに、塩をささげなければならない。
14 「『もしあなたが初穂の穀物のささげ物を主にささげるなら、あなたの初
穂の穀物のささげ物として、火で炒った新穀の穂を砕いたものをささげなけれ
ばならない。
15 その上に油をかけ、乳香を添えなければならない。これは穀物のささ
げ物である。
16 祭司は記念の部分として、砕いた穀物の一部と油の一部を、すべての乳
香とともに燃やさなければならない。これは主への火によるささげ物であ
る。』」

3

1 「『もし彼のささげ物が和解のいけにえであり、牛の群れからささげるな
ら、雄でも雌でも、傷のないものを主の前にささげなければならない。
2 彼はそのささげ物の頭に手を置き、会見の天幕の入り口でそれを屠らなけ
ればならない。祭司であるアロンの子らは、その血を祭壇の周囲に振りかけな
ければならない。
3 彼はその和解のいけにえから、主への火によるささげ物をささげなければ
ならない。すなわち、内臓を覆う脂肪と、内臓についているすべての脂肪、

* 2:13 2:13 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

4 二つの腎臓と、腰のあたりにあるそれらの上の脂肪、および腎臓と一
緒に取り外す肝臓の覆いである。
5 アロンの子らは、祭壇の上の全焼のささげ物の上で、すなわち火にあ
る薪の上で、それを燃やさなければならない。これは火によるささげ物であ
り、主への心地よい香りである。
6 「『もし彼の主への和解のいけにえのささげ物が羊の群れからであるな
ら、雄でも雌でも、傷のないものをささげなければならない。
7 もし彼がささげ物として子羊をささげるなら、主の前にそれをささげなけ
ればならない。
8 彼はそのささげ物の頭に手を置き、会見の天幕の前でそれを屠らなければ
ならない。アロンの子らはその血を祭壇の周囲に振りかけなければならない。
9 彼はその和解のいけにえから、主への火によるささげ物をささげなければ
ならない。その脂肪、すなわち背骨の近くで取り外す脂尾全体と、内
臓を覆う脂肪、および内臓についているすべての脂肪、
10 二つの腎臓と、腰のあたりにあるそれらの上の脂肪、および腎臓と一
緒に取り外す肝臓の覆いである。
11 祭司はそれを祭壇の上で燃やさなければならない。これは主への火によ
るささげ物の食物である。
12 「『もし彼のささげ物が山羊であるなら、主の前にそれをささげなければ
ならない。
13 彼はその頭に手を置き、会見の天幕の前でそれを屠らなければならな
い。アロンの子らはその血を祭壇の周囲に振りかけなければならない。
14 彼はそこから自分のささげ物として、主への火によるささげ物をささげな
ければならない。すなわち、内臓を覆う脂肪と、内臓についているすべての脂
肪、
15 二つの腎臓と、腰のあたりにあるそれらの上の脂肪、および腎臓と一
緒に取り外す肝臓の覆いである。
16 祭司はそれらを祭壇の上で燃やさなければならない。これは心地よい香り
のための、火によるささげ物の食物である。脂肪はすべて主のものである。
17 「『あなたがたは脂肪も血も一切食べてはならない。これは、あなたがた
のすべての住まいで、代々にわたっての永遠の掟である。』」

4

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『もしだれかが、主がしてはな
らないと命じられたことのどれかを行って、意図せずに罪を犯したなら、
3 もし油注がれた祭司が罪を犯して民に罪過をもたらしたなら、自分が犯し
た罪のために、傷のない若い牛を贖罪のささげ物として主にささげなければな
らない。
4 彼はその牛を主の前、会見の天幕の入り口に連れて来て、
牛の頭に手を置き、主の前でその牛を屠らなければならない。
5 油注がれた祭司はその牛の血の一部を取り、会見の天幕の中に持って行か
なければならない。
6 祭司は指を血に浸し、主の前、すなわち聖所の垂れ幕の前で、血の一
部を七度振りかけなければならない。
7 祭司はその血の一部を、会見の天幕の中にある主の前の香りのよい香の祭
壇の角に塗らなければならない。そして牛の残りの血をすべて、会見の天
幕の入り口にある全焼のささげ物の祭壇の土台に注ぎ出さなければならない。
8 彼は贖罪のささげ物である牛からすべての脂肪を取り外さなければならな
い。すなわち、内臓を覆う脂肪と、内臓についているすべての脂肪、

9 二つの腎臓と、腰のあたりにあるそれらの上の脂肪、および腎臓と一緒に取り外す肝臓の覆いである。
10 和解のいけにえの牛から取り外されるのと同じように、これらを取り外さなければならない。祭司はそれらを全焼のささげ物の祭壇の上で燃やさなければならない。
11 その牛の皮、すべての肉、頭、足、内臓、糞、
12 すなわち牛の残りのすべての部分は、宿営の外のきよい場所、灰を捨てる場所に運び出し、薪の上の火で燃やさなければならない。それは灰を捨てる場所で燃やされなければならない。
13 「『もしイスラエルの全会衆が罪を犯し、そのことが集会の目から隠されており、主がしてはならないと命じられたことのどれかを行って罪過がある場合、
14 彼らが犯した罪が知られるようになったとき、集会は贖罪のささげ物として若い牛をささげ、それを会見の天幕の前に連れて来なければならない。
15 会衆の長老たちは、主の前でその牛の頭に手を置かなければならない。そしてその牛は主の前で屠られなければならない。
16 油注がれた祭司はその牛の血の一部を、会見の天幕の中に持って行かなければならない。
17 祭司は指を血に浸し、主の前、垂れ幕の前で、それを七度振りかけなければならない。
18 彼はその血の一部を、会見の天幕の中にある主の前の祭壇の角に塗らなければならない。そして残りの血をすべて、会見の天幕の入り口にある全焼のささげ物の祭壇の土台に注ぎ出さなければならない。
19 彼はそこからすべての脂肪を取り外し、祭壇の上で燃やさなければならない。
20 彼はこの牛を、贖罪のささげ物の牛にしたのと同じようにしなければならない。これにもそのようにしなければならない。祭司が彼らのために贖罪を行うなら、彼らは赦される。
21 彼はその牛を宿営の外に運び出し、最初の牛を燃やしたようにそれを燃やさなければならない。これは集会のための贖罪のささげ物である。
22 「『指導者が罪を犯し、彼の神、主がしてはならないと命じられたすべてのことのどれかを意図せずに行って罪過がある場合、
23 自分が犯した罪を知らされたなら、彼は自分のささげ物として、傷のない雄山羊を持って来なければならない。
24 彼はその山羊の頭に手を置き、主の前で全焼のささげ物を屠る場所でそれを屠らなければならない。これは贖罪のささげ物である。
25 祭司は贖罪のささげ物の血の一部を指に取り、全焼のささげ物の祭壇の角に塗らなければならない。残りの血は全焼のささげ物の祭壇の土台に注ぎ出さなければならない。
26 そのすべての脂肪は、和解のいけにえの脂肪のように、祭壇の上で燃やさなければならない。祭司が彼の罪について彼のために贖罪を行うなら、彼は赦される。
27 「『もし一般の民のだれかが、主がしてはならないと命じられたことのどれかを行って、意図せずに罪を犯し、罪過があり、
28 自分が犯した罪を知らされたなら、彼は自分が犯した罪のために、自分のささげ物として傷のない雌山羊を持って来なければならない。
29 彼はその贖罪のささげ物の頭に手を置き、全焼のささげ物をささげる場所でその贖罪のささげ物を屠らなければならない。
30 祭司はその血の一部を指に取り、全焼のささげ物の祭壇の角に塗らなければならない。そして残りの血をすべて祭壇の土台に注ぎ出さなければならない。

31 そのすべての脂肪は、和解のいけにえから脂肪が取り外されるように取り外さなければならない。祭司はそれを主への心地よい香りとして祭壇の上で燃やさなければならない。祭司が彼のために贖罪を行うなら、彼は赦される。
32 「『もし彼が贖罪のささげ物として子羊を持って来るなら、傷のない雌を持って来なければならない。
33 彼はその贖罪のささげ物の頭に手を置き、全焼のささげ物を屠る場所で、それを贖罪のささげ物として屠らなければならない。
34 祭司は贖罪のささげ物の血の一部を指に取り、全焼のささげ物の祭壇の角に塗らなければならない。残りの血はすべて祭壇の土台に注ぎ出さなければならない。
35 和解のいけにえから子羊の脂肪が取り外されるように、そのすべての脂肪を取り外さなければならない。祭司は主への火によるささげ物の上で、それらを祭壇の上で燃やさなければならない。祭司が彼の犯した罪について彼のために贖罪を行うなら、彼は赦される。』」

5

1 「『もしだれかが証人であり、見たことや知っていることがあるのに、証言を求める公の誓告を聞きながら報告せずに罪を犯したなら、その人は自分の咎を負わなければならない。
2 「『また、もしだれかが汚れたもの、すなわち汚れた野生動物の死骸、汚れた家畜の死骸、あるいは汚れた這うものの死骸に触れ、それが彼に隠されていて、彼が汚れたなら、その人は有罪である。
3 「『また、もし彼が、人が汚れるどのような人の汚れであれ、それに触れ、それが彼に隠されていたが、後でそれを知ったなら、その人は有罪である。
4 「『また、もしだれかが、悪いことをするにも良いことをするにも、人が誓いをもって軽率に口にするようなどのようなことであれ、唇で軽率に誓い、それが彼に隠されていたが、後でそれを知ったなら、その人はこれらのいずれかにおいて有罪となる。
5 これらのいずれかにおいて有罪となったときは、その犯した罪を告白しなければならない。
6 そして、自分が犯した罪のために、主への代償のささげ物として、羊の群れから雌、すなわち子羊または山羊を、贖罪のささげ物として持って来なければならない。祭司は彼の罪について彼のために贖罪を行わなければならない。
7 「『もし子羊を手に入れる余裕がないなら、自分が犯した罪のための代償のささげ物として、二羽の山鳩または二羽の家鳩の雛を主のもとに持って来なければならない。一羽は贖罪のささげ物、もう一羽は全焼のささげ物である。
8 彼はそれらを祭司のもとに持って行かなければならない。祭司はまず贖罪のささげ物となる一羽をささげなければならない。彼はその首のところから頭をねじり切らなければならない。ただし完全に切り離してはならない。
9 彼は贖罪のささげ物の血の一部を祭壇の側面に振りかけなければならない。残りの血は祭壇の土台に絞り出されなければならない。これは贖罪のささげ物である。
10 二羽目は定めに従って全焼のささげ物としてささげなければならない。祭司が彼の犯した罪について彼のために贖罪を行うなら、彼は赦される。
11 「『もし二羽の山鳩も二羽の家鳩の雛も手に入れる余裕がないなら、自分が犯した罪のためのささげ物として、十分の一エパ*の上質の小麦粉を贖

* **5:11 5:11** 一エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

罪のささげ物として持って来なければならない。これに油をかけてはならず、乳香を添えてもならない。これは贖罪のささげ物だからである。
12 彼はそれを祭司のもとに持って行かなければならない。祭司は記念の部分として一掴み取り、主への火によるささげ物の上で、それを祭壇の上で燃やさなければならない。これは贖罪のささげ物である。
13 これらのことのいずれかにおいて彼が犯した罪について、祭司が彼のために贖罪を行うなら、彼は赦される。残りは穀物のささげ物のように、祭司のものとなる。』」
14 主はモーセに語って言われた。
15 「もしだれかが主の聖なるものについて背信の罪を犯し、意図せずに罪を犯したなら、その人は羊の群れから傷のない雄羊一頭を、主への代償のささげ物として持って来なければならない。その価値は、あなたの評価額に従い、聖所のシェケル†による銀でなければならない。これが代償のささげ物である。
16 彼は聖なるものに関して犯した罪を償い、それにその五分の一を加算して祭司に渡さなければならない。祭司が代償のささげ物の雄羊で彼のために贖罪を行うなら、彼は赦される。
17 「もしだれかが罪を犯し、主がしてはならないと命じられたことのいずれかを行い、それを知らなかったとしても、その人は有罪であり、その咎を負わなければならない。
18 彼は羊の群れから傷のない雄羊を、あなたの評価額に従って代償のささげ物として祭司のもとに持って来なければならない。祭司は彼が気づかずに犯し、知らなかったことについて、彼のために贖罪を行わなければならない。そうすれば彼は赦される。
19 これは代償のささげ物である。彼は主の前で確かに有罪である。」

6

1 主はモーセに語って言われた。
2 「もしだれかが罪を犯し、主に対して背信の罪を犯し、預かり物、取引、強奪の件で隣人を欺いたり、隣人をしいたげたり、
3 または失くした物を見つけたのにそれについて嘘をつき、偽って誓うなど、人が行って罪となるこれらのことのいずれかを行ったなら、
4 そのように罪を犯して有罪となったなら、彼は強奪したもの、しいたげて得たもの、預けられたもの、または彼が見つけた失くした物を返還しなければならない。
5 あるいは、偽って誓ったものすべてについて、その全額を返還し、さらにその五分の一を加えなければならない。有罪とされる日に、それを本来の持ち主に返還しなければならない。
6 彼は主への代償のささげ物を祭司のもとに持って来なければならない。すなわち、羊の群れから、あなたの評価額に従う傷のない雄羊を、代償のささげ物として持って来なければならない。
7 祭司が主の前で彼のために贖罪を行うなら、彼が有罪となったどんなことについても赦される。」
8 主はモーセに語って言われた。
9 「アロンとその子らに命じて言いなさい。『全焼のささげ物についての律法は次の通りである。全焼のささげ物は、朝まで一晩中、祭壇の炉の上に置かれ、祭壇の火はその上で燃え続けていなければならない。
10 祭司は亜麻布の衣を身に着け、その身に亜麻布のももひきを着けなければならない。そして祭壇の上で火が全焼のささげ物を焼き尽くした後の灰を取り除き、それを祭壇のそばに置かなければならない。

† **5:15 5:15** ―シェケルは約10グラム、または約0.35オンスである。

11 彼はその衣を脱ぎ、別の衣を着て、その灰を宿営の外のきよい場
所に運び出さなければならない。
12 祭壇の上の火はその上で燃え続けていなければならず、消してはならな
い。祭司は毎朝その上で薪を燃やし、その上に全焼のささげ物を整え
て並べ、その上で和解のいけにえの脂肪を燃やさなければならない。
13 火は常に祭壇の上で燃え続けていなければならない。決して消してはなら
ない。
14 「『穀物のささげ物についての律法は次の通りである。アロンの子らはそ
れを、主の前、祭壇の前にささげなければならない。
15 祭司はそこから、穀物のささげ物の上質の小麦粉と油を一掴み、また穀
物のささげ物の上にあるすべての乳香を取り、その記念の部分として、主へ
の心地よい香りとして祭壇の上で燃やさなければならない。
16 その残りはアロンとその子らが食べなければならない。それはパ
ン種を入れずに、聖なる場所で食べなければならない。彼らは会見の天
幕の庭でそれを食べなければならない。
17 それはパン種を入れて焼いてはならない。わたしはそれを、わたしの火に
よるささげ物の中から彼らへの分として与えた。それは、贖罪のささげ物や代
償のささげ物と同様に、最も聖なるものである。
18 アロンの子らのうちの男子は皆、これを食べなければならない。これは、
主への火によるささげ物の中から、あなたがたの代々にわたって永遠に彼ら
の分となる。それらに触れるものはすべて聖なるものとなる。』」
19 主はモーセに語って言われた。
20 「アロンとその子らが、アロンが油注がれる日に主にささげるささ
げ物は次の通りである。常供の穀物のささげ物として、十分の一エパ*の上
質の小麦粉を、半分は朝に、半分は夕方にささげなさい。
21 それは鉄板の上で油を用いて作られなければならない。油をよく染み込ま
せてから、それを持って来なければならない。あなたはそれを焼いたもの
を砕いて、穀物のささげ物として、主への心地よい香りとしてささげなければ
ならない。
22 彼の子らの中から、彼の代わりに油注がれる祭司が、これをささげなければ
ならない。これは永遠の掟であり、それは主のために完全に焼き尽くされな
ければならない。
23 祭司の穀物のささげ物はすべて、完全に焼き尽くされなければならない。
食べてはならない。」
24 主はモーセに語って言われた。
25 「アロンとその子らに語って言いなさい。『贖罪のささげ物についての律
法は次の通りである。全焼のささげ物を屠る場所で、贖罪のささ
げ物を主の前で屠らなければならない。これは最も聖なるものである。
26 罪のためにそれをささげる祭司が、それを食べなければならない。それ
は聖なる場所、会見の天幕の庭で食べなければならない。
27 その肉に触れるものはすべて聖なるものとなる。その血が衣服に少しで
も振りかけられたなら、あなたはその振りかけられた部分を聖なる場所で洗わ
なければならない。
28 それを煮た土の器は砕かなければならない。もしそれが青銅の器で煮られ
たなら、その器は磨き、水ですすがなければならない。
29 祭司の男子は皆、これを食べなければならない。これは最も聖なるもので
ある。
30 しかし、聖所で贖罪を行うために、その血のいくらかが会見の天
幕の中に持ち込まれた贖罪のささげ物は、いっさい食べてはならない。それ
は火で焼かなければならない。

---

* **6:20 6:20** ―エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

7

1 「『代償のささげ物についての律法は次の通りである。これは最も聖なるものである。
2 全焼のささげ物を屠る場所で、代償のささげ物を屠らなければならない。その血は祭壇の周囲に振りかけなければならない。
3 彼はそのすべての脂肪をささげなければならない。すなわち、脂尾、内臓を覆う脂肪、
4 二つの腎臓と、腰のあたりにあるそれらの上の脂肪、および腎臓と一緒に取り外す肝臓の覆いである。
5 祭司はそれらを、主への火によるささげ物として祭壇の上で燃やさなければならない。これは代償のささげ物である。
6 祭司の男子は皆、これを食べてもよい。それは聖なる場所で食べなければならない。これは最も聖なるものである。
7 「『贖罪のささげ物も代償のささげ物も同じである。これらには一つの律法がある。それで贖罪を行う祭司がそれを受ける。
8 人のために全焼のささげ物をささげる祭司は、自らささげた全焼のささげ物の皮を自分のものとする。
9 かまどで焼かれたすべての穀物のささげ物と、鍋や鉄板で準備されたすべてのものは、それをささげる祭司のものとなる。
10 すべての穀物のささげ物は、油を混ぜたものでも乾いたものでも、等しくアロンのすべての子らのものとなる。
11 「『人が主にささげる和解のいけにえについての律法は次の通りである。
12 もし感謝のためにそれをささげるなら、感謝のいけにえとともに、油を混ぜた種なしの菓子、油を塗った種なしの薄焼きパン、油を混ぜた菓子をささげなければならない。
13 感謝のための和解のいけにえとともに、パン種を入れたパンの菓子をささげ物としてささげなければならない。
14 その中から、それぞれのささげ物の一つを、主への持ち上げるささげ物としてささげなければならない。それは和解のいけにえの血を振りかける祭司のものとなる。
15 感謝のための和解のいけにえの肉は、それをささげたその日に食べなければならない。その一部でも朝まで残しておいてはならない。
16 「『しかし、もしそのささげ物のいけにえが誓願、または自発的なささげ物であるなら、それは彼がいけにえをささげたその日に食べなければならない。次の日にもその残りを食べてもよい。
17 しかし、三日目に残っているいけにえの肉は、火で焼かなければならない。
18 もし彼の和解のいけにえの肉が三日目に少しでも食べられるなら、それは受け入れられず、それをささげた者のために認められない。それは忌むべきものとなり、それを食べる者はその咎を負う。
19 「『汚れたものに触れた肉は食べてはならない。それは火で焼かなければならない。肉については、きよい者は皆それを食べてもよい。
20 しかし、自分の汚れを身に帯びたままで、主に属する和解のいけにえの肉を食べる者は、その民から断たれなければならない。
21 もしだれかが汚れたもの、すなわち人の汚れ、あるいは汚れた動物、あるいはどんな汚れた忌むべきものにでも触れ、主に属する和解のいけにえの肉をいくらかでも食べるなら、その者は自分の民から断たれなければならない。』」
22 主はモーセに語って言われた。
23 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『牛、羊、山羊の脂肪は一切食べてはならない。

24 自然に死んだ動物の脂肪や、野獣に引き裂かれた動物の脂肪は、他のどんな用途に使ってもよいが、決して食べてはならない。
25 人が主への火によるささげ物としてささげる動物の脂肪を食べる者はだれでも、それを食べるその者は自分の民から断たれるからである。
26 あなたがたはどの住まいにおいても、鳥であれ動物であれ、いっさいの血を食べてはならない。
27 血を食べる者はだれでも、その者は自分の民から断たれる。』」
28 主はモーセに語って言われた。
29 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『主に和解のいけにえをささげる者は、その和解のいけにえの中から主へのささげ物を持って来なければならない。
30 彼は自分自身の手で、主への火によるささげ物を持って来なければならない。胸を主の前で揺り動かすささげ物として揺り動かすために、その胸と一緒に脂肪を持って来なければならない。
31 祭司はその脂肪を祭壇の上で燃やさなければならない。しかしその胸はアロンとその子らのものとなる。
32 あなたがたは和解のいけにえの中から、右のももを持ち上げるささげ物として祭司に与えなければならない。
33 アロンの子らのうち、和解のいけにえの血と脂肪をささげる者が、右のももを自分の分として受け取る。
34 わたしはイスラエルの子らの和解のいけにえの中から、揺り動かされた胸と持ち上げられたももを取り、それを永遠の分として、イスラエルの子らから祭司アロンとその子らに与えたからである。』」
35 これは、彼らを主に祭司として仕えさせるために差し出した日に、主への火によるささげ物の中からアロンに聖別された分と、その子らに聖別された分である。
36 それは、主が彼らに油を注がれた日に、イスラエルの子らから彼らに与えるよう主が命じられたものである。これは代々にわたって彼らの永遠の分である。
37 以上が、全焼のささげ物、穀物のささげ物、贖罪のささげ物、代償のささげ物、任職、そして和解のいけにえについての律法である。
38 これは、シナイの荒野でイスラエルの子らに主へのささげ物をささげるよう命じられた日に、主がシナイ山でモーセに命じられたものである。

8

1 主はモーセに語って言われた。
2 「アロンと、彼と共にいるその子ら、衣服、注ぎ油、贖罪のささげ物となる牛、二頭の雄羊、種なしパンの籠を取りなさい。
3 そして全会衆を会見の天幕の入り口に集めなさい。」
4 モーセは主が彼に命じられた通りに行った。そして会衆は会見の天幕の入り口に集められた。
5 モーセは会衆に言った。「これが、行うように主が命じられたことである。」
6 モーセはアロンとその子らを連れて来て、水で彼らを洗った。
7 彼はアロンに長服を着せ、飾り帯を締め、上着を着せ、エポデをその上に置き、エポデの巧みに織られた帯を締めて、それによって彼に固定した。
8 彼はその上に胸当てを置き、その胸当ての中にウリムとトンミムを入れた。
9 彼はその頭にターバンをかぶらせた。主がモーセに命じられた通りに、ターバンの前面に金の札、すなわち聖なる冠を付けた。
10 モーセは注ぎ油を取り、幕屋とその中にあるすべてのものに油を注いで、それらを聖別した。

11 彼はそれを祭壇に七度振りかけ、祭壇とそのすべての器具、また洗盤とその台に油を注いで、それらを聖別した。
12 彼は注ぎ油の一部をアロンの頭に注ぎ、彼に油を注いで、彼を聖別した。
13 モーセは主がモーセに命じられた通りに、アロンの子らを連れて来て、長服を着せ、飾り帯を締め、頭帯をかぶらせた。
14 彼は贖罪のささげ物の牛を連れて来た。アロンとその子らは、贖罪のささげ物の牛の頭に手を置いた。
15 彼はそれを屠った。モーセはその血を取り、指で祭壇の角の周囲にそれを塗って祭壇をきよめ、その血を祭壇の土台に注ぎ出して、それを聖別し、そのために贖罪を行った。
16 彼は内臓についているすべての脂肪と、肝臓の覆い、二つの腎臓とその脂肪を取り、モーセはそれを祭壇の上で燃やした。
17 しかし、その牛、すなわちその皮、肉、そして糞は、主がモーセに命じられた通りに、宿営の外で火で焼いた。
18 彼は全焼のささげ物の雄羊をささげた。アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置いた。
19 彼はそれを屠り、モーセはその血を祭壇の周囲に振りかけた。
20 彼は雄羊を切り分け、モーセは頭と切り分けた肉と脂肪を燃やした。
21 彼は内臓と足を水で洗った。そしてモーセは雄羊全体を祭壇の上で燃やした。これは心地よい香りのための全焼のささげ物であり、主への火によるささげ物であった。主がモーセに命じられた通りである。
22 彼はもう一頭の雄羊、すなわち任職の雄羊をささげた。アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置いた。
23 彼はそれを屠り、モーセはその血の一部を取って、アロンの右の耳たぶと、右手の親指と、右足の親指に塗った。
24 彼はアロンの子らを連れて来た。モーセはその血の一部を彼らの右の耳たぶと、右手の親指と、右足の親指に塗った。そしてモーセはその血を祭壇の周囲に振りかけた。
25 彼は脂肪、脂尾、内臓についているすべての脂肪、肝臓の覆い、二つの腎臓とその脂肪、および右のももを取った。
26 また、主の前にある種なしパンの籠から、種なしの菓子を一つ、油を塗ったパンの菓子を一つ、薄焼きパンを一つ取り出し、それらを脂肪と右のももの上に置いた。
27 彼はこれらすべてをアロンの手に、そしてその子らの手に渡し、主の前で揺り動かすささげ物として揺り動かした。
28 モーセは彼らの手からそれらを受け取り、祭壇の上の全焼のささげ物の上で燃やした。これらは心地よい香りのための任職のささげ物であった。それは主への火によるささげ物であった。
29 モーセは胸を取り、主の前で揺り動かすささげ物として揺り動かした。主がモーセに命じられた通り、それは任職の雄羊からのモーセの分であった。
30 モーセは注ぎ油の一部と、祭壇の上にある血の一部を取り、アロンとその衣服、また彼と共にいるその子らとその衣服に振りかけ、アロンとその衣服、彼と共にいるその子らとその衣服を聖別した。
31 モーセはアロンとその子らに言った。「会見の天幕の入り口で肉を煮なさい。そして、そこでその肉と、任職の籠の中にあるパンを食べなさい。『アロンとその子らがそれを食べなければならない』と私が命じた通りに。
32 肉とパンの残りは火で焼かなければならない。
33 あなたがたの任職の日々が満ちるまで、七日間、会見の天幕の入り口から出てはならない。あなたがたの任職は七日間かけて行われるからである。
34 今日行われたことは、あなたがたのために贖罪を行うよう主が命じられたことである。

35 あなたがたは七日間、昼も夜も会見の天幕の入り口にとどまり、死ぬことがないように主の命令を守らなければならない。私はそのように命じられているからである。」
36 アロンとその子らは、主がモーセを通して命じられたすべてのことを行った。

9

1 八日目に、モーセはアロンとその子ら、そしてイスラエルの長老たちを呼び寄せた。
2 そしてアロンに言った。「贖罪のささげ物として牛の群れから子牛を、全焼のささげ物として雄羊を、傷のないものとして取り、主の前にささげなさい。
3 またイスラエルの子らに語って言いなさい。『贖罪のささげ物として雄山羊を、全焼のささげ物として、いずれも一歳の傷のない子牛と子羊を取りなさい。
4 また和解のいけにえとして、主の前でいけにえをささげるために雄牛と雄羊を、そして油を混ぜた穀物のささげ物を取りなさい。今日、主があなたがたに現れるからである。』」
5 彼らはモーセが命じたものを会見の天幕の前に持って来た。全会衆が近づき、主の前に立った。
6 モーセは言った。「これは、あなたがたが行うように主が命じられたことである。そうすれば、主の栄光があなたがたに現れる。」
7 モーセはアロンに言った。「祭壇に近づき、あなたの贖罪のささげ物と全焼のささげ物をささげて、あなた自身と民のために贖罪を行いなさい。そして、主が命じられた通りに、民のささげ物をささげて、彼らのために贖罪を行いなさい。」
8 そこでアロンは祭壇に近づき、自分自身のための贖罪のささげ物である子牛を屠った。
9 アロンの子らは彼に血を差し出した。彼は指を血に浸し、それを祭壇の角に塗り、残りの血を祭壇の土台に注ぎ出した。
10 しかし、贖罪のささげ物の脂肪と、腎臓と、肝臓の覆いは、主がモーセに命じられた通りに祭壇の上で燃やした。
11 肉と皮は宿営の外で火で焼いた。
12 彼は全焼のささげ物を屠った。アロンの子らは彼に血を渡し、彼はそれを祭壇の周囲に振りかけた。
13 彼らは全焼のささげ物を、切り分けた部分ごとに、また頭を彼に渡した。彼はそれらを祭壇の上で燃やした。
14 彼は内臓と足を洗い、祭壇の上の全焼のささげ物の上でそれらを燃やした。
15 彼は民のささげ物をささげた。民のための贖罪のささげ物の山羊を取り、それを屠り、最初のものと同じように罪のためにそれをささげた。
16 彼は全焼のささげ物をささげ、定めに従ってそれをささげた。
17 彼は穀物のささげ物をささげ、そこから手いっぱいに取り、朝の全焼のささげ物に加えて祭壇の上でそれを燃やした。
18 彼はまた、民のための和解のいけにえである雄牛と雄羊を屠った。アロンの子らは彼に血を渡し、彼はそれを祭壇の周囲に振りかけた。
19 雄牛と雄羊の脂肪、すなわち脂尾、内臓を覆うもの、腎臓、そして肝臓の覆い、
20 彼らはその脂肪を胸の上に置き、彼はその脂肪を祭壇の上で燃やした。
21 モーセが命じた通り、アロンは胸と右のももを主の前で揺り動かすささげ物として揺り動かした。

22 アロンは民に向かって両手を上げて彼らを祝福した。そして贖罪のささげ物、全焼のささげ物、和解のいけにえをささげ終えて降りて来た。
23 モーセとアロンは会見の天幕に入り、そして出て来て民を祝福した。すると主の栄光がすべての民に現れた。
24 主の前から火が出て、祭壇の上の全焼のささげ物と脂肪を焼き尽くした。すべての民はこれを見て叫び声を上げ、ひれ伏した。

10

1 アロンの子であるナダブとアビフは、それぞれ自分の香炉を取り、その中に火を入れ、その上に香を置き、主が彼らに命じておられない異なる火を主の前にささげた。
2 すると、主の前から火が出て彼らを焼き尽くし、彼らは主の前で死んだ。
3 そこでモーセはアロンに言った。「これは、主が語られたことである。主はこう言われた。
『わたしに近づく者たちに対して、わたしは自らを聖なる者として示し、
すべての民の前で、わたしは栄光を受ける。』」
アロンは黙っていた。
4 モーセはアロンの叔父ウジエルの子ら、ミシャエルとエルツァファンを呼び寄せ、彼らに言った。「近づきなさい。そしてあなたがたの兄弟たちを聖所の前から宿営の外へ運び出しなさい。」
5 彼らは近づき、モーセが言ったように、長服を着せたまま彼らを宿営の外へ運び出した。
6 モーセはアロンと、その子であるエルアザルとイタマルに言った。「あなたがたの頭髪を乱してはならず、衣を引き裂いてはならない。あなたがたが死なないため、また主が全会衆に対して怒られないためである。しかし、あなたがたの兄弟であるイスラエルの全家は、主が燃え上がらせたこの火のゆえに泣き悲しみなさい。
7 あなたがたが死なないために、会見の天幕の入り口から出てはならない。主の注ぎ油があなたがたの上にあるからである。」彼らはモーセの言葉の通りにした。
8 そして主はアロンに言われた。
9 「あなたとあなたと共にいる子らが会見の天幕に入るときには、ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。あなたがたが死なないためである。これは代々にわたる永遠の掟である。
10 あなたがたは聖なるものと俗なるもの、汚れたものときよいものを区別しなければならない。
11 また、あなたがたは、主がモーセを通してイスラエルの子らに語られたすべての掟を、彼らに教えなければならない。」
12 モーセはアロンと、残された子であるエルアザルとイタマルに言った。「主への火によるささげ物のうち、残っている穀物のささげ物を取り、祭壇のそばでパン種を入れずに食べなさい。それは最も聖なるものだからである。
13 あなたがたはそれを聖なる場所で食べなければならない。それは主への火によるささげ物の中からの、あなたとあなたの子らの分だからである。私はそのように命じられている。
14 また揺り動かされた胸と持ち上げられたももは、きよい場所で食べなければならない。あなたと、あなたと共にいる息子たちと娘たちも食べることができる。これらは、イスラエルの子らの和解のいけにえから、あなたとあなたの子らの分として与えられているからである。
15 彼らは、火によるささげ物である脂肪とともに、持ち上げられたももと揺り動かされた胸を持って来て、主の前で揺り動かすささげ物として揺り動かさなければならない。主が命じられた通り、それはあなたとあなたと共にいる子らの永遠の分となる。」

16 モーセは贖罪のささげ物である山羊について念入りに尋ねたが、見よ、それはすでに焼かれていた。彼はアロンの残された子であるエルアザルとイタマルに対して怒り、言った。
17 「なぜあなたがたは聖所の場所で、贖罪のささげ物を食べなかったのか。それは最も聖なるものであり、会衆の咎を負うため、また主の前で彼らのために贖罪を行うために、あなたがたに与えられたものではないか。
18 見よ、その血は聖所の内側に持ち込まれなかった。私が命じた通りに、あなたがたは必ずそれを聖所で食べるべきであった。」
19 アロンはモーセに言った。「見よ、今日彼らは主の前に贖罪のささげ物と全焼のささげ物をささげましたが、このようなことが私の身に起こりました。もし私が今日、贖罪のささげ物を食べていたなら、それは主の目にかなうことであったでしょうか。」
20 モーセはそれを聞いて、それをよしとした。

11

1 主はモーセとアロンに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『地上のすべての動物のうち、あなたがたが食べてもよい生き物は次のとおりである。
3 動物のうち、ひづめが分かれ、ひづめが完全に割れており、反すうするものはすべて食べてもよい。
4 『ただし、反すうするもの、あるいはひづめが分かれているもののうち、これらは食べてはならない。ラクダは反すうするが、ひづめが分かれていないため、あなたがたには汚れたものである。
5 ハイラックス*は反すうするが、ひづめが分かれていないため、あなたがたには汚れたものである。
6 野うさぎは反すうするが、ひづめが分かれていないため、あなたがたには汚れたものである。
7 豚は、ひづめが分かれ、完全に割れているが、反すうしないため、あなたがたには汚れたものである。
8 あなたがたはこれらの肉を食べてはならない。その死骸に触れてはならない。これらはあなたがたには汚れたものである。
9 『水の中にいるすべてのもののうち、これらは食べてもよい。水の中、すなわち海や川にいるもののうち、ひれとうろこがあるものはすべて食べてもよい。
10 海や川にいて、ひれとうろこがないもの、すなわち水の中で動くすべてのもの、水の中にいるすべての生き物は、あなたがたには忌まわしいものである。
11 あなたがたはそれらを忌み嫌わなければならない。その肉を食べてはならない。その死骸を忌み嫌わなければならない。
12 水の中にいて、ひれとうろこがないものはすべて、あなたがたには忌まわしいものである。
13 『鳥のうち、これらを忌み嫌わなければならない。これらは忌まわしいものなので食べてはならない。すなわち、鷲、はげわし、黒はげわし、
14 赤とび、あらゆる種類の黒とび、
15 あらゆる種類のからす、
16 ワシミミズク、コノハズク、かもめ、あらゆる種類の鷹、
17 小ふくろう、鵜、大ふくろう、
18 白ふくろう、荒野のふくろう、みさご、
19 こうのとり、あらゆる種類のさぎ、やつがしら、こうもりである。

* **11:5 11:5** または岩アナグマ、またはコニー。

20 『四つ足で歩く羽のある昆虫はすべて、あなたがたには忌まわしいものである。
21 しかし、四つ足で歩く羽のある這うもののうち、地上を跳ねるための関節のある長い足を持つものは食べてもよい。
22 これらのうち、食べてもよいものは次のとおりである。あらゆる種類のいなご、あらゆる種類のキリギリス、あらゆる種類のこおろぎ、あらゆる種類のばったである。
23 しかし、四つの足を持つその他の羽のある這うものはすべて、あなたがたには忌まわしいものである。
24 『以下のものによって、あなたがたは汚れる。これらの死骸に触れる者はだれでも、夕方まで汚れる。
25 これらの死骸の一部でも運ぶ者は、自分の衣服を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
26 『ひづめが分かれているが完全に割れていない動物、または反すうしないすべての動物は、あなたがたには汚れたものである。これらに触れる者はだれでも汚れる。
27 四つ足で歩くすべての動物のうち、足の裏で歩くものはすべて、あなたがたには汚れたものである。その死骸に触れる者はだれでも、夕方まで汚れる。
28 その死骸を運ぶ者は、自分の衣服を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。これらはあなたがたには汚れたものである。
29 『地上を這うもののうち、あなたがたに汚れたものは次のとおりである。いたち、ねずみ、あらゆる種類の大きなとかげ、
30 やもり、おおとかげ、壁とかげ、すきんく、カメレオンである。
31 這うすべてのもののうち、これらはあなたがたには汚れたものである。これらが死んだときに触れる者はだれでも、夕方まで汚れる。
32 これらが死んで何かの上に落ちた場合、それはすべて汚れる。それが木の器であれ、衣服、皮、袋であれ、仕事に使われるどんな器であっても、水に入れなければならない。それは夕方まで汚れ、その後きよくなる。
33 これらのいずれかが土の器の中に落ちたなら、その中にあるものはすべて汚れる。あなたがたはその器を砕かなければならない。
34 食べることのできる食物で、水に浸されたものはすべて汚れる。そのような器の中で飲むことのできる飲み物もすべて汚れる。
35 これらの死骸の一部が落ちたものはすべて汚れる。それがかまどであれ、鍋を置く台であれ、打ち砕かなければならない。これらは汚れたものであり、あなたがたにとっても汚れたものとなる。
36 しかし、泉や水が集められた水ためはきよいままである。ただし、その死骸に触れるものは汚れる。
37 これらの死骸の一部が、これから蒔かれる種の上に落ちても、それはきよい。
38 しかし、水が種にかけられており、その上にこれらの死骸の一部が落ちたなら、それはあなたがたには汚れたものである。
39 『あなたがたが食べてもよい動物が死んだ場合、その死骸に触れる者は夕方まで汚れる。
40 その死骸を食べる者は自分の衣服を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。その死骸を運ぶ者も自分の衣服を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
41 『地上を這うすべてのものは忌まわしい。それは食べてはならない。
42 腹ばいで進むもの、四つ足で歩くもの、多くの足を持つものなど、地上を這うすべてのものを食べてはならない。それらは忌まわしいからである。
43 這うどんな生き物によっても、自分自身を忌まわしいものにしてはならない。それらによって自分を汚し、汚された者となってはならない。

44 わたしはあなたがたの神、主だからである。それゆえ、自分自身を聖別し、聖なる者となりなさい。わたしは聖なる者だからである。地上を動くどんな這うものによっても、自分自身を汚してはならない。
45 わたしはあなたがたの神となるために、エジプトの地からあなたがたを導き上った主である。それゆえ、あなたがたは聖なる者となりなさい。わたしは聖なる者だからである。』
46 これが、動物、鳥、水の中を動くすべての生き物、そして地上を這うすべての生き物についての律法であり、
47 汚れたものときよいもの、食べられる生き物と食べられない生き物を区別するためのものである。」

12

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『もし女が身ごもり、男の子を産んだなら、彼女は七日間汚れる。月経の期間と同じように汚れる。
3 八日目に、その子の包皮の肉に割礼を施さなければならない。
4 彼女は清めの血の期間として三十三日間とどまらなければならない。彼女の清めの日々が満ちるまで、聖なるものにいっさい触れてはならず、聖所に入ってもならない。
5 しかし、もし女の子を産んだなら、月経のときのように二週間汚れる。彼女は清めの血の期間として六十六日間とどまらなければならない。
6 『息子あるいは娘のための清めの日々が満ちたとき、彼女は全焼のささげ物として一歳の子羊と、贖罪のささげ物として家鳩の雛あるいは山鳩を、会見の天幕の入り口にいる祭司のところに持って来なければならない。
7 祭司はそれを主の前にささげ、彼女のために贖罪を行わなければならない。そうすれば、彼女はその出血の源からきよくなる。
これが、男の子であれ女の子であれ、子を産んだ女についての律法である。
8 もし子羊を手に入れる余裕がないなら、二羽の山鳩か二羽の家鳩の雛を取りなさい。一羽は全焼のささげ物、もう一羽は贖罪のささげ物とする。祭司は彼女のために贖罪を行わなければならない。そうすれば彼女はきよくなる。』」

13

1 主はモーセとアロンに語って言われた。
2 「人が自分の体の皮膚に腫れ物、かさぶた、あるいは光る斑点ができ、それが体の皮膚で規定の病の患部となったなら、その人を祭司アロンか、その子らである祭司の一人のところに連れて来なければならない。
3 祭司は体の皮膚にある患部を調べなければならない。患部の毛が白く変わり、患部の見た目が体の皮膚より深くなっているなら、それは規定の病の患部である。祭司は彼を調べて、彼を汚れていると宣言しなければならない。
4 もし彼の体の皮膚にある光る斑点が白く、その見た目が皮膚より深くなく、その毛が白く変わっていないなら、祭司は患部のあるその人を七日間隔離しなければならない。
5 祭司は七日目に彼を調べなければならない。見よ、祭司の目に患部がとどまっており、患部が皮膚に広がっていないなら、祭司は彼をさらに七日間隔離しなければならない。
6 祭司は七日目に彼を再び調べなければならない。見よ、患部が薄くなり、患部が皮膚に広がっていないなら、祭司は彼をきよいと宣言しなければならない。それはかさぶたである。彼は自分の衣服を洗わなければならない。そうすればきよくなる。
7 しかし、清めのために祭司に自分を見せた後で、そのかさぶたが皮膚に広がるなら、彼は再び祭司に自分を見せなければならない。

8 祭司は彼を調べなければならない。見よ、もしそのかさぶたが皮膚に広がっているなら、祭司は彼を汚れていると宣言しなければならない。それは規定の病である。
9 規定の病の患部が人にある場合、その人を祭司のところに連れて来なければならない。
10 祭司は彼を調べなければならない。見よ、皮膚に白い腫れ物があり、それが毛を白く変え、腫れ物の中に生肉ができているなら、
11 それは彼の体の皮膚にある慢性の規定の病である。祭司は彼を汚れていると宣言しなければならない。彼を隔離してはならない。彼はすでに汚れているからである。
12 もし規定の病が皮膚の至るところに広がり、祭司が見る限り、規定の病が患部のあるその人の頭から足に至るまで皮膚の全面を覆っているなら、
13 祭司は彼を調べなければならない。見よ、規定の病が彼の全身を覆っているなら、祭司はその患部について彼をきよいと宣言しなければならない。それはすべて白く変わっているので、彼はきよい。
14 しかし、生肉が彼に現れたときはいつでも、彼は汚れる。
15 祭司はその生肉を調べ、彼を汚れていると宣言しなければならない。生肉は汚れている。それは規定の病である。
16 あるいは、生肉が再び変化して白く変わったなら、彼は祭司のところに来なければならない。
17 祭司は彼を調べなければならない。見よ、患部が白く変わっているなら、祭司はその患部について彼をきよいと宣言しなければならない。彼はきよい。
18 体の皮膚に腫れ物ができ、それが癒え、
19 腫れ物があった場所に白い腫れ物、あるいは赤みがかった白い光る斑点ができたなら、それを祭司に見せなければならない。
20 祭司はそれを調べなければならない。見よ、その見た目が皮膚より深く、その毛が白く変わっているなら、祭司は彼を汚れていると宣言しなければならない。それは規定の病の患部である。それは腫れ物の中に発生したのである。
21 しかし、祭司がそれを調べ、見よ、そこに白い毛がなく、皮膚より深くなく薄くなっているなら、祭司は彼を七日間隔離しなければならない。
22 もしそれが皮膚に広がっているなら、祭司は彼を汚れていると宣言しなければならない。それは患部である。
23 しかし、その光る斑点がそこにとどまり、広がっていないなら、それは腫れ物の跡である。祭司は彼をきよいと宣言しなければならない。
24 あるいは、体の皮膚に火によるやけどがあり、やけどの生肉が赤みがかった白い、あるいは白い光る斑点になったなら、
25 祭司はそれを調べなければならない。見よ、光る斑点の毛が白く変わり、その見た目が皮膚より深くなっているなら、それは規定の病である。それはやけどの中に発生したのである。祭司は彼を汚れていると宣言しなければならない。それは規定の病の患部である。
26 しかし、祭司がそれを調べ、見よ、光る斑点の中に白い毛がなく、皮膚より深くなく薄くなっているなら、祭司は彼を七日間隔離しなければならない。
27 祭司は七日目に彼を調べなければならない。もしそれが皮膚に広がっているなら、祭司は彼を汚れていると宣言しなければならない。それは規定の病の患部である。
28 もし光る斑点がそこにとどまり、皮膚に広がっておらず、薄くなっているなら、それはやけどによる腫れ物である。祭司は彼をきよいと宣言しなければならない。それはやけどの跡だからである。
29 男または女の頭あるいはひげに患部がある場合、

30 祭司はその患部を調べなければならない。見よ、その見た目が皮膚より深く、そこの毛が黄色く細くなっているなら、祭司はその者を汚れていると宣言しなければならない。それはかゆみである。それは頭あるいはひげの規定の病である。
31 祭司がそのかゆみの患部を調べ、見よ、その見た目が皮膚より深くなく、そこに黒い毛がないなら、祭司はかゆみの患部があるその者を七日間隔離しなければならない。
32 七日目に祭司は患部を調べなければならない。見よ、かゆみが広がっておらず、そこに黄色い毛がなく、かゆみの見た目が皮膚より深くないなら、
33 その者は毛を剃らなければならない。ただし、かゆみのところを剃ってはならない。それから祭司はかゆみのある者をさらに七日間隔離しなければならない。
34 七日目に、祭司はかゆみを調べなければならない。見よ、かゆみが皮膚に広がっておらず、その見た目が皮膚より深くないなら、祭司は彼をきよいと宣言しなければならない。彼は自分の衣服を洗わなければならない。そうすればきよくなる。
35 しかし、彼がきよくされた後にかゆみが皮膚に広がるなら、
36 祭司は彼を調べなければならない。見よ、かゆみが皮膚に広がっているなら、祭司は黄色い毛を探す必要はない。彼は汚れている。
37 しかし、祭司の目にかゆみがとどまっており、そこに黒い毛が生えているなら、かゆみは癒えている。彼はきよい。祭司は彼をきよいと宣言しなければならない。
38 男または女の体の皮膚に光る斑点、すなわち白い光る斑点がある場合、
39 祭司はそれらを調べなければならない。見よ、彼らの体の皮膚にある光る斑点が鈍い白色であるなら、それは無害な発疹である。それは皮膚に発生したのである。その者はきよい。
40 男の頭の毛が抜け落ちたなら、彼ははげである。彼はきよい。
41 もしその毛が頭の前部から抜け落ちたなら、彼は前頭はげである。彼はきよい。
42 しかし、はげ頭、あるいは前頭はげのところに赤みがかった白い患部があるなら、それは彼のはげ頭、あるいは前頭はげに発生した規定の病である。
43 祭司は彼を調べなければならない。見よ、彼のはげ頭、あるいは前頭はげにある患部の腫れ物が赤みがかった白色で、体の皮膚にある規定の病のような見た目であるなら、
44 彼は規定の病の者である。彼は汚れている。祭司は彼を確かに汚れていると宣言しなければならない。彼の患部は頭にある。
45 患部がある規定の病の者は、引き裂かれた衣服を着て、頭の毛を乱したままにしなければならない。彼は上唇を覆い、『汚れている、汚れている』と叫ばなければならない。
46 その患部が彼にある間、彼は汚れている。彼は汚れている。彼は一人で住まなければならない。彼の住まいは宿営の外でなければならない。
47 また、規定の病の患部がある衣服、それが羊毛の衣服であれ、亜麻布の衣服であれ、
48 それが亜麻布または羊毛の縦糸であれ横糸*であれ、革であれ、革で作られたどんなものであれ、
49 もし衣服、革、縦糸、横糸、あるいは革で作られたどんなものにおいても、その患部が緑がかった色、あるいは赤みがかった色であるなら、それは規定の病の患部であり、祭司に見せなければならない。
50 祭司はその患部を調べ、その患部を七日間隔離しなければならない。

* **13:48 13:48** 縦糸と横糸は織物の縦と横の糸である。

51 彼は七日目にその患部を調べなければならない。もしその患部が、衣服、縦糸、横糸、あるいは革、その革がどのような用途に使われるものであれ、そこに広がっているなら、その患部は悪性のカビである。それは汚れている。
52 患部がある衣服、すなわち羊毛あるいは亜麻布の縦糸であれ横糸であれ、またはどんな革製品であれ、彼はそれを燃やさなければならない。それは悪性のカビだからである。それは火で燃やさなければならない。

53 もし祭司がそれを調べ、見よ、患部が衣服、縦糸、横糸、あるいはどんな革製品においても広がっていないなら、
54 祭司は患部があるものを洗うように命じなければならない。そして彼はそれをさらに七日間隔離しなければならない。
55 患部が洗われた後、祭司はそれを調べなければならない。見よ、患部の色が変わっておらず、患部が広がっていなくても、それは汚れている。あなたはそれを火で燃やさなければならない。内側であれ外側であれ、それはカビの侵食である。
56 もし祭司が見て、見よ、それが洗われた後に患部が薄くなっているなら、彼は衣服、あるいは革、あるいは縦糸、あるいは横糸からそれを引き裂かなければならない。
57 そしてもしそれが衣服、縦糸、横糸、あるいはどんな革製品に再び現れるなら、それは広がっている。あなたは患部があるものを火で燃やさなければならない。
58 あなたが洗った衣服、縦糸、横糸、あるいはいかなる革製品であれ、そこから患部が消え去ったなら、それを二度目に洗わなければならない。そうすればそれはきよくなる。」

59 これが、羊毛あるいは亜麻布の衣服、縦糸、横糸、あるいはどんな革製品におけるカビの患部について、それをきよいと宣言するか、汚れていると宣言するための律法である。

14

1 主はモーセに語って言われた。

2 「規定の病の者がきよめられる日についての律法は次のとおりである。彼は祭司のところに連れて来られなければならない。
3 祭司は宿営の外に出なければならない。祭司は彼を調べなければならない。見よ、規定の病の者にある患部が癒やされているなら、
4 祭司は、きよめられる者のために、生きたきよい二羽の鳥、杉の木、緋色の糸、ヒソプを取るように命じなければならない。
5 祭司は、流水を入れた土の器の上で、鳥の一羽を屠るように命じなければならない。
6 生きた鳥については、彼はそれと、杉の木、緋色の糸、ヒソプを取り、流水の上で屠られた鳥の血にそれらと生きた鳥を浸さなければならない。
7 彼は規定の病からきよめられる者にそれを七度振りかけ、彼をきよいと宣言し、生きた鳥を野に放たなければならない。

8 きよめられる者は自分の衣服を洗い、毛をすべて剃り落とし、水で体を洗わなければならない。そうすれば彼はきよくなる。その後、彼は宿営に入ることができるが、七日間は自分の天幕の外に住まなければならない。
9 七日目に、彼は頭とひげと眉毛の毛をすべて剃り落とさなければならない。彼は毛をすべて剃り落とさなければならない。彼は自分の衣服を洗い、体を水で洗わなければならない。そうすれば彼はきよくなる。

10 八日目に、彼は傷のない二頭の雄の子羊、傷のない一歳の雌の子羊一
頭、油を混ぜた穀物のささげ物のための十分の三エパ*の上質の小麦粉、およ
び一ログ†の油を取らなければならない。
11 彼をきよめる祭司は、きよめられる者とこれらのものを、会見の天
幕の入り口で主の前に置かなければならない。
12 祭司は雄の子羊一頭を取り、一ログの油とともにそれを代償のささげ物と
してささげ、主の前で揺り動かすささげ物としてそれらを揺り動かさなければ
ならない。
13 彼は贖罪のささげ物と全焼のささげ物を屠る場所、すなわち聖所の場
所で、その雄の子羊を屠らなければならない。贖罪のささげ物が祭司のもので
あるように、代償のささげ物も祭司のものだからである。それは最も聖なるも
のである。
14 祭司は代償のささげ物の血の一部を取り、きよめられる者の右の耳たぶ、
右手の親指、および右足の親指にそれを塗らなければならない。
15 祭司はその一ログの油の一部を取り、自分自身の左手のひらに注がなけれ
ばならない。
16 祭司は右の指を左手にある油に浸し、その指で油の一部を主の前に七度
振りかけなければならない。
17 祭司は手にある残りの油の一部を、きよめられる者の右の耳たぶ、右
手の親指、および右足の親指に、代償のささげ物の血の上に塗らなければなら
ない。
18 祭司の手にある残りの油は、きよめられる者の頭に塗らなければならな
い。そして祭司は主の前で彼のために贖罪を行わなければならない。
19 祭司は贖罪のささげ物をささげ、汚れのためにきよめられる者のために贖
罪を行わなければならない。その後、彼は全焼のささげ物を屠らなければなら
ない。
20 そして祭司は全焼のささげ物と穀物のささげ物を祭壇の上でささげなけれ
ばならない。祭司は彼のために贖罪を行わなければならない。そうすれば彼は
きよくなる。
21 もし彼が貧しく、それだけの余裕がないなら、自分のための贖罪を行うた
めに、揺り動かすための代償のささげ物として雄の子羊一頭、穀物のささ
げ物のための油を混ぜた十分の一エパ‡の上質の小麦粉、および一ロ
グ§の油を取らなければならない。
22 さらに、彼が手に入れる余裕のある二羽の山鳩、または二羽の家
鳩の雛を取らなければならない。一羽は贖罪のささげ物、もう一羽は全焼のさ
ささげ物とする。
23 八日目に、きよめのために彼はそれらを祭司のもとに、会見の天
幕の入り口の主の前に持って来なければならない。
24 祭司は代償のささげ物の子羊と一ログの油を取り、それら
を主の前で揺り動かすささげ物として揺り動かさなければならない。
25 彼は代償のささげ物の子羊を屠らなければならない。祭司は代償のささ
げ物の血の一部を取り、きよめられる者の右の耳たぶ、右手の親指、および右
足の親指にそれを塗らなければならない。
26 祭司は自分自身の左手のひらに油の一部を注がなければならない。
27 祭司は右の指で、左手にある油の一部を主の前に七度振りかけなければな
らない。

---

* **14:10** **14:10** —エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。
† **14:10** **14:10** —ログは約300ミリリットル、または10オンスの液量単位である。
‡ **14:21** **14:21** —エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。
§ **14:21** **14:21** —ログは約300ミリリットル、または10オンスの液量単位である。

28 それから祭司は手にある油の一部を、きよめられる者の右の耳たぶ、右
手の親指、および右足の親指に、代償のささげ物の血の場所に塗らなければならない。
29 祭司の手にある残りの油は、きよめられる者の頭に塗り、主の前で彼のために贖罪を行わなければならない。
30 彼は手に入れる余裕のある山鳩、あるいは家鳩の雛の一羽をささげなければならない。
31 すなわち彼が手に入れる余裕のあるもののうち、一羽を贖罪のささげ物として、もう一羽を全焼のささげ物として、穀物のささげ物とともにささげなければならない。祭司はきよめられる者のために、主の前で贖罪を行わなければならない。」
32 これが、規定の病の患部がある者で、きよめのためのいけにえを手に入れる余裕がない者のための律法である。
33 主はモーセとアロンに語って言われた。
34 「わたしがあなたがたに所有地として与えるカナンの地に入ったとき、あなたがたの所有地にある家に、わたしが広がるカビの患部を生じさせるなら、
35 その家の持ち主は来て、祭司に『家に何かの患部のようなものがあるように見えます』と告げなければならない。
36 祭司は、患部を調べるために家に入る前に、家の中にあるすべてのものが汚れないように、家を空にするよう命じなければならない。その後、祭司はその家を調べるために入らなければならない。
37 彼はその患部を調べなければならない。見よ、その患部が家の壁にあり、緑がかった色、あるいは赤みがかった色のくぼんだ縞模様となっていて、それが壁よりも深く見えるなら、
38 祭司はその家から出て、家の入り口に行き、その家を七日間閉鎖しなければならない。
39 祭司は七日目に再び来て、見なければならない。もし患部が家の壁に広がっているなら、
40 祭司は患部がある石を取り外し、町の外の汚れた場所に捨てるように命じなければならない。
41 彼は家の内側をすべて削り落とさせなければならない。彼らは削り落とした漆喰を、町の外の汚れた場所に注ぎ出さなければならない。
42 彼らは別の石を取って、それらの石の場所に置かなければならない。また彼は別の漆喰を取って、その家に塗らなければならない。
43 もし彼が石を取り外し、家を削り落とし、漆喰を塗った後で、再び患部が生じてその家に発生するなら、
44 祭司は入って見なければならない。見よ、もし患部が家に広がっているなら、それは家の中にある悪性のカビである。それは汚れている。
45 彼はその家、その石、その木材、そしてその家のすべての漆喰を打ち壊さなければならない。彼はそれらを町の外の汚れた場所に運び出さなければならない。
46 さらに、それが閉鎖されている間にその家に入る者は、夕方まで汚れる。
47 その家で横たわる者は自分の衣服を洗わなければならない。その家で食べる者も自分の衣服を洗わなければならない。
48 しかし、家に漆喰が塗られた後に祭司が入って調べ、見よ、患部が家に広がっていないなら、患部は癒やされているので、祭司はその家をきよいと宣言しなければならない。
49 その家をきよめるために、彼は二羽の鳥、杉の木、緋色の糸、ヒソプを取らなければならない。
50 彼は流水を入れた土の器の上で、鳥の一羽を屠らなければならない。
51 彼は杉の木、ヒソプ、緋色の糸、および生きた鳥を取り、屠られた鳥の血と流水にそれらを浸し、その家に七度振りかけなければならない。

52 彼は鳥の血、流水、生きた鳥、杉の木、ヒソプ、および緋色の糸で、その家をきよめなければならない。
53 しかし、彼は生きた鳥を町の外の野に放たなければならない。このようにして彼がその家のために贖罪を行うなら、そこはきよくなる。」
54 これが、あらゆる規定の病の患部、およびかゆみ、
55 衣服や家の悪性のカビ、
56 腫れ物、かさぶた、および光る斑点についての律法であり、
57 いつ汚れているか、いつきよいかを教えるためのものである。
これが規定の病についての律法である。

15

1 主はモーセとアロンに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『どんな男であれ、その体から漏出がある場合、その漏出のゆえに彼は汚れている。
3 その漏出における彼の汚れは次のとおりである。体が漏出を流していても、漏出が止まっていても、それは彼の汚れである。
4 漏出のある者が横たわるすべての寝床は汚れ、彼が座るすべてのものも汚れる。
5 彼の寝床に触れる者はだれでも、自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
6 漏出のある男が座っていたものに座る者は、自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
7 漏出のある者の体に触れる者は、自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
8 もし漏出のある者が、きよい人に唾を吐きかけたなら、その人は自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その人は夕方まで汚れる。
9 漏出のある者が乗るどんな鞍も汚れる。
10 彼の下にあったものに触れる者はだれでも、夕方まで汚れる。それらのものを運ぶ者は、自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
11 漏出のある者が水で手をすすがずにだれかに触れたなら、触れられた者は自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
12 漏出のある者が触れた土の器は砕かなければならない。また、すべての木の器は水ですすがなければならない。
13 漏出のある者がその漏出からきよめられるとき、彼はきよめのために七日間を数え、自分の衣服を洗わなければならない。彼は流水で自分の体を洗わなければならない。そうすれば彼はきよくなる。
14 八日目に彼は二羽の山鳩、あるいは二羽の家鳩の雛を取り、会見の天幕の入り口で主の前に来て、それらを祭司に渡さなければならない。
15 祭司は一羽を贖罪のささげ物として、もう一羽を全焼のささげ物としてささげなければならない。祭司は彼の漏出について、主の前で彼のために贖罪を行わなければならない。
16 どんな男であれ、精液の漏出があったなら、彼は水で全身を洗わなければならない。彼は夕方まで汚れる。
17 精液がついたすべての衣服や革は、水で洗わなければならない。それは夕方まで汚れる。
18 男が女と寝て精液の漏出があったなら、二人は水で体を洗わなければならない。彼らは夕方まで汚れる。
19 女に漏出があり、その体からの漏出が血であるなら、彼女は七日間その月経の汚れにとどまる。彼女に触れる者はだれでも、夕方まで汚れる。
20 彼女がその汚れの期間中に横たわるものはすべて汚れる。彼女が座るものもすべて汚れる。

21 彼女の寝床に触れる者はだれでも、自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
22 彼女が座るものに触れる者はだれでも、自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
23 それが寝床の上であれ、彼女が座っているものの上であれ、彼がそれに触れたなら、夕方まで汚れる。
24 もし男が彼女と寝て、彼女の月経の血が彼についたなら、彼は七日間汚れる。彼が横たわるすべての寝床は汚れる。
25 もし女が月経の期間ではないのに何日も血の漏出がある場合、あるいは月経の期間を過ぎても漏出がある場合、彼女の汚れの漏出の期間中はすべて、月経の期間のようである。彼女は汚れている。
26 その漏出のすべての日に彼女が横たわるすべての寝床は、月経の時の寝床のように彼女にとって汚れたものである。彼女が座るすべてのものは、月経の汚れのように汚れる。
27 これらのものに触れる者はだれでも汚れる。その者は自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その者は夕方まで汚れる。
28 しかし、彼女がその漏出からきよめられたなら、彼女は七日間を数え、その後きよくなる。
29 八日目に彼女は二羽の山鳩、あるいは二羽の家鳩の雛を取り、それらを会見の天幕の入り口の祭司のもとに持って来なければならない。
30 祭司は一羽を贖罪のささげ物として、もう一羽を全焼のささげ物としてささげなければならない。そして祭司は彼女の漏出の汚れについて、主の前で彼女のために贖罪を行わなければならない。
31 このようにして、あなたがたはイスラエルの子らを彼らの汚れから引き離さなければならない。彼らの間にあるわたしの幕屋を彼らが汚して、その汚れの中で死ぬことがないためである。』」
32 これが、漏出のある者、および精液の漏出によって汚れた者、
33 月経中の女、および漏出のある男女、そして汚れている女と寝る男についての律法である。

16

1 主は、アロンの二人の子が主の前に近づいて死んだ後、モーセに語って言われた。
2 主はモーセに言われた。「あなたの兄弟アロンに告げなさい。箱の上にある贖いの座の前、すなわち垂れ幕の内側の至聖所に、いつでも入って来てはならない。彼が死なないためである。わたしは贖いの座の上の雲の中に現れるからである。
3 「アロンは、贖罪のささげ物として若い牛を、全焼のささげ物として雄羊を携えて、聖所に入らなければならない。
4 彼は聖なる亜麻布の長服を着なければならない。亜麻布のももひきを身に着け、亜麻布の飾り帯を締め、亜麻布のターバンをかぶらなければならない。これらは聖なる衣である。彼は水で体を洗い、それらを着なければならない。
5 彼はイスラエルの子らの会衆から、贖罪のささげ物として二頭の雄山羊を、全焼のささげ物として一頭の雄羊を取らなければならない。
6 「アロンは自分自身のための贖罪のささげ物の牛をささげ、自分と自分の家のために贖罪を行わなければならない。
7 彼は二頭の山羊を取り、会見の天幕の入り口で主の前に立たせなければならない。
8 アロンは二頭の山羊のためにくじを引かなければならない。一つのくじは主のため、もう一つのくじはスケープゴートのためである。

9 アロンは主のためのくじが当たった山羊をささげ、それを贖罪のささげ物としてささげなければならない。
10 しかし、スケープゴートのためのくじが当たった山羊は、主の前に生かしたまま立たせておき、それによって贖罪を行い、スケープゴートとして荒野に放たなければならない。
11 「アロンは自分自身のための贖罪のささげ物の牛をささげ、自分と自分の家のために贖罪を行い、自分自身のための贖罪のささげ物の牛を屠らなければならない。
12 彼は主の前にある祭壇から、火のついた炭を満たした香炉と、細かく砕いた香りのよい香を両手いっぱいに取り、垂れ幕の内側に持って入らなければならない。
13 彼は主の前でその香を火の上に置かなければならない。それは、香の雲があかしの上にある贖いの座を覆い、彼が死なないためである。
14 彼は牛の血の一部を取り、指で贖いの座の東側に振りかけなければならない。また贖いの座の前で、その血の一部を指で七度振りかけなければならない。
15 「その後、彼は民のための贖罪のささげ物の山羊を屠り、その血を垂れ幕の内側に持って入り、牛の血にしたようにその血を扱い、贖いの座の上と贖いの座の前にそれを振りかけなければならない。
16 彼はイスラエルの子らの汚れと、その背き、すなわち彼らのすべての罪のために、聖所のために贖罪を行わなければならない。また、彼らの汚れのただ中で彼らと共に住む会見の天幕のためにも、同じように行わなければならない。
17 彼が聖所で贖罪を行うために入り、彼自身と彼の家、そしてイスラエルの全会衆のために贖罪を行って出て来るまで、会見の天幕にはだれもいてはならない。
18 「彼は主の前にある祭壇のところに出て行き、そのために贖罪を行わなければならない。牛の血の一部と山羊の血の一部を取り、祭壇の角の周囲に塗らなければならない。
19 彼はその血の一部を指で祭壇に七度振りかけ、イスラエルの子らの汚れからそれをきよめ、聖なるものとしなければならない。
20 「聖所、会見の天幕、および祭壇のための贖罪を終えたとき、彼は生きた山羊をささげなければならない。
21 アロンは生きた山羊の頭に両手を置き、その上でイスラエルの子らのすべての咎と、すべての背き、すなわち彼らのすべての罪を告白しなければならない。彼はそれらを山羊の頭に置き、用意された人の手によって荒野に送り出さなければならない。
22 山羊は彼らのすべての咎を負って、人里離れた地に運んで行く。彼はその山羊を荒野に放たなければならない。
23 「アロンは会見の天幕に入り、聖所に入った時に着た亜麻布の衣を脱ぎ、そこに残しておかなければならない。
24 それから彼は聖なる場所で水で体を洗い、自分の衣服を着て外に出なければならない。そして彼自身の全焼のささげ物と民の全焼のささげ物をささげ、自分自身と民のために贖罪を行わなければならない。
25 彼は贖罪のささげ物の脂肪を祭壇の上で燃やさなければならない。
26 「スケープゴートとして山羊を放った者は、自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その後、彼は宿営に入ることができる。
27 聖所で贖罪を行うために血が持ち込まれた贖罪のささげ物の牛と、贖罪のささげ物の山羊は、宿営の外に運び出されなければならない。人々はその皮、肉、および糞を火で焼かなければならない。
28 それらを焼く者は、自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならない。その後、彼は宿営に入ることができる。

29 「これはあなたがたにとって永遠の掟となる。第七の月の十日には、あなたがたは身を慎み、いかなる仕事もしてはならない。生まれながらの者であれ、あなたがたの間に寄留する寄留者であれ、同様である。
30 この日に、あなたがたをきよめるために贖罪が行われるからである。あなたがたは主の前で、すべての罪からきよくなる。
31 これはあなたがたにとって全き休みの安息日であり、あなたがたは身を慎まなければならない。これは永遠の掟である。
32 油注がれ、父に代わって祭司となるように任職された祭司が、贖罪を行わなければならない。彼は亜麻布の衣、すなわち聖なる衣を着なければならない。
33 彼は聖なる聖所のために贖罪を行い、会見の天幕と祭壇のために贖罪を行わなければならない。また、祭司たちと会衆のすべての民のために贖罪を行わなければならない。
34 「これはあなたがたにとって永遠の掟となり、イスラエルの子らのすべての罪のために年に一度、贖罪を行うためのものである。」
主がモーセに命じられた通りに事が行われた。

17

1 主はモーセに語って言われた。
2 「アロンとその子ら、およびイスラエルのすべての子らに語り、彼らに言いなさい。『これが主が命じられたことである。
3 イスラエルの家のどんな人でも、牛、子羊、山羊を宿営の中で屠るか、宿営の外で屠るかして、
4 それを会見の天幕の入り口に持って来ず、主の幕屋の前で主へのささげ物としてささげないなら、血の罪がその人に負わされる。彼は血を流したのである。その人は自分の民の中から断たれなければならない。
5 これは、イスラエルの子らが野原でささげているいけにえを、主のもと、すなわち会見の天幕の入り口の祭司のところに持って来て、それらを主への和解のいけにえとしてささげるためである。
6 祭司は、会見の天幕の入り口にある主の祭壇に血を振りかけ、主への心地よい香りとして脂肪を燃やさなければならない。
7 彼らは、自分たちが淫行を働いて従ってきた山羊の偶像に、二度といけにえをささげてはならない。これは彼らにとって、代々にわたる永遠の掟となる。』
8 「あなたは彼らに言いなさい。『イスラエルの家のどんな人でも、あるいは彼らの間に寄留する寄留者でも、全焼のささげ物あるいはいけにえをささげる場合、
9 それを主へのいけにえとしてささげるために会見の天幕の入り口に持って来ないなら、その人は自分の民から断たれなければならない。
10 『イスラエルの家のどんな人でも、あるいは彼らの間に寄留する寄留者でも、いかなる血でも食べるなら、わたしは血を食べるその人に顔を向け、彼をその民の中から断つ。
11 肉体の命は血にあるからである。わたしはあなたがたの魂のために贖罪を行うために、祭壇の上にそれをあなたがたに与えた。命のゆえに贖罪を行うのは血だからである。
12 それゆえ、わたしはイスラエルの子らに言った。「あなたがたのうちのだれも血を食べてはならない。あなたがたの間に寄留する寄留者も血を食べてはならない。」
13 『イスラエルの子らであれ、彼らの間に寄留する寄留者であれ、食べてもよい動物や鳥を狩りで捕らえた者はだれでも、その血を注ぎ出し、土で覆わなければならない。

14 すべての肉体の命に関して、その血は命とともにあるからである。それゆえ、わたしはイスラエルの子らに言った。「いかなる肉体の血も食べてはならない。すべての肉体の命はその血だからである。それを食べる者はだれでも断たれる。」
15 『自然に死んだもの、あるいは野獣に引き裂かれたものを食べる者はだれでも、生まれながらの者であれ寄留者であれ、自分の衣服を洗い、水で体を洗わなければならず、夕方まで汚れる。その後、彼はきよくなる。
16 しかし、彼がそれらを洗わず、自分の体を洗わないなら、その咎を負う。』」

18

1 主はモーセに言われた。
2 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『わたしはあなたがたの神、主である。
3 あなたがたが住んでいたエジプトの地で彼らが行っているようなことを行ってはならない。わたしがあなたがたを導き入れるカナンの地で彼らが行っているようなことを行ってはならない。彼らの掟に従って歩んではならない。
4 あなたがたはわたしの法を行いなさい。わたしの掟を守り、それに従って歩みなさい。わたしはあなたがたの神、主である。
5 それゆえ、あなたがたはわたしの掟と法を守りなさい。人がそれを行うなら、それによって生きる。わたしは主である。
6 『あなたがたのだれも、近い肉親に近づいて、その裸を暴いてはならない。わたしは主である。
7 『あなたは父の裸、また母の裸を暴いてはならない。彼女はあなたの母である。彼女の裸を暴いてはならない。
8 『あなたは父の妻の裸を暴いてはならない。それは父の裸である。
9 『あなたは自分の姉妹、すなわち父の娘、あるいは母の娘の裸を暴いてはならない。家で生まれた者でも、外で生まれた者でも同じである。
10 『あなたは息子の娘、あるいは娘の娘の裸を暴いてはならない。彼女たちの裸はあなた自身の裸だからである。
11 『あなたは父の妻の娘の裸を暴いてはならない。彼女は父によって生まれた者であり、あなたの姉妹だからである。
12 『あなたは父の姉妹の裸を暴いてはならない。彼女は父の近親者である。
13 『あなたは母の姉妹の裸を暴いてはならない。彼女は母の近親者だからである。
14 『あなたは父の兄弟の裸を暴いてはならない。あなたは彼の妻に近づいてはならない。彼女はあなたのおばである。
15 『あなたは息子の妻の裸を暴いてはならない。彼女は息子の妻である。あなたは彼女の裸を暴いてはならない。
16 『あなたは兄弟の妻の裸を暴いてはならない。それは兄弟の裸である。
17 『あなたは女とその娘の裸を暴いてはならない。彼女の息子の娘や、彼女の娘の娘をめとって、その裸を暴いてはならない。彼女たちは近親者である。それは邪悪なことである。
18 『あなたは妻が生きている間に、その姉妹をめとって妻の競争相手とし、その裸を暴いてはならない。
19 『あなたは女が月経によって汚れている間、彼女に近づいてその裸を暴いてはならない。
20 『あなたは隣人の妻と肉体的に寝て、彼女と共に身を汚してはならない。
21 『あなたは自分の子どもをモレクへのいけにえとして渡してはならない。あなたは自分の神の御名を汚してはならない。わたしは主*である。

* **18:21 18:21** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形の

22 『あなたは女と寝るように男と寝てはならない。それは忌まわしいことである。
23 『あなたはどんな動物とも寝て、それによって自分を汚してはならない。女は動物に自分をゆだねて、それと交わってはならない。それは倒錯した行為である。
24 『これらのどのことにおいても、自分たちを汚してはならない。わたしがあなたがたの前から追い出そうとしている国々は、これらすべてのことによって汚されたからである。
25 その地は汚された。それゆえわたしはその咎を罰し、その地はそこの住民を吐き出したのである。
26 それゆえ、あなたがたはわたしの掟と法を守り、これらの忌まわしいことをいっさい行ってはならない。生まれながらの者も、あなたがたの間に寄留する寄留者も同様である。
27 あなたがたよりも前にいたその地の人々が、これらすべての忌まわしいことを行い、その地が汚されたからである。
28 あなたがたがその地を汚すとき、あなたがたよりも前にいた国民を吐き出したように、その地があなたがたを吐き出さないためである。
29 『これらの忌まわしいことを行う者はだれでも、それを行うその人は自分の民の中から断たれるからである。
30 それゆえ、あなたがたはわたしの命令を守り、あなたがたの前に実行されていたこれらの忌まわしい慣習をいっさい行わず、それらによって自分たちを汚さないようにしなさい。わたしはあなたがたの神、主である。』」

19

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らの全会衆に語って言いなさい。『あなたがたは聖なる者となりなさい。あなたがたの神、主であるわたしが聖なる者だからである。
3 『あなたがたはそれぞれ、自分の母と父を敬わなければならない。また、わたしの安息日を守らなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。
4 『偶像に頼ってはならず、自分たちのために鋳造した神々を造ってはならない。わたしはあなたがたの神、主である。
5 『あなたがたが主に和解のいけにえをささげる場合は、あなたがたが受け入れられるようにそれをささげなければならない。
6 それはあなたがたがささげるその日と、その翌日に食べなければならない。三日目まで残ったものは、火で焼かなければならない。
7 もし三日目に少しでも食べるなら、それは忌まわしいものとなる。それは受け入れられない。
8 それを食べる者はだれでも、自分の咎を負う。その人が主の聖なるものを汚したからである。その人は自分の民から断たれなければならない。
9 『あなたがたの土地の収穫を刈り入れるとき、畑の隅まで刈り尽くしてはならず、収穫の落ち穂を拾い集めてはならない。
10 あなたのぶどう園の実を取り尽くしてはならず、ぶどう園の落ちたぶどうを集めてはならない。貧しい者と寄留者のためにそれらを残しておかなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。
11 『あなたがたは盗んではならない。嘘をついてはならない。互いに欺いてはならない。
12 『わたしの名によって偽って誓い、あなたの神の御名を汚してはならない。わたしは主*である。

* 19:12 19:12 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のה

13 『隣人をしいたげてはならず、また奪ってはならない。雇い人の賃金を、
朝まで一晩中あなたのもとにとどめておいてはならない。
14 『耳の聞こえない者を呪ってはならず、目の見えない者の前につまず
く石を置いてはならない。あなたの神を恐れなさい。わたしは主である。
15 『裁きにおいて不正を行ってはならない。貧しい者をえこひいきしてはな
らず、力ある者を優遇してはならない。あなたは義をもって隣人を裁かなけれ
ばならない。
16 『あなたの民の間を中傷して回ってはならない。隣人の命†を危険にさらし
てはならない。わたしは主である。
17 『心の中で兄弟を憎んではならない。隣人を必ず戒めなさい。そうすれ
ば彼のために罪を負うことはない。
18 『復讐してはならず、あなたの民の子らに対して恨みを抱いてはならな
い。隣人を自分自身のように愛しなさい。わたしは主である。
19 『あなたがたはわたしの掟を守らなければならない。異なる種類の家
畜を交配させてはならない。畑に二種類の種を蒔いてはならない。二種類の素
材で作られた衣服を着てはならない。
20 『もし男が女と肉体的に寝た場合で、彼女が別の男のために定められた女
奴隷であり、まだ身代金が払われておらず、自由も与えられていないなら、処
罰がなされなければならない。彼女が自由の身ではなかったので、彼らは死
刑にされてはならない。
21 彼は主への代償のささげ物として、代償のささげ物の雄羊を会見の天
幕の入り口に持って来なければならない。
22 祭司は、彼が犯した罪のために、主の前で代償のささげ物の雄羊で彼のた
めに贖罪を行わなければならない。そうすれば彼の犯した罪は赦される。
23 『あなたがたがその地に入り、食物のためにあらゆる種類の木を植えたな
ら、その実は禁じられたもの‡とみなしなさい。三年間、それはあなたがた
に禁じられる。それは食べてはならない。
24 しかし、四年目には、その実はすべて、主を賛美するための聖なるものと
なる。
25 五年目には、あなたがたはその実を食べてもよい。それがあなたがたに収
穫をもたらすためである。わたしはあなたがたの神、主である。
26 『血がまだ残っている肉を食べてはならない。まじないをしてはならず、
魔術を行ってはならない。
27 『頭の側面の毛を剃り落としてはならず、ひげの端を切り落としてはなら
ない。
28 『死者のために自分の肉体に傷をつけてはならず、体に刺青をしてはなら
ない。わたしは主である。
29 『娘を遊女にして、娘を汚してはならない。その地が淫行に陥り、そ
の地が邪悪で満ちることがないためである。
30 『わたしの安息日を守り、わたしの聖所を敬いなさい。わたしは主であ
る。
31 『霊媒師や占い師のところに赴いてはならない。彼らによって汚されないよ
うに、彼らを捜し求めてはならない。わたしはあなたがたの神、主である。
32 『白髪の老人の前では立ち上がり、老人の顔を敬いなさい。そしてあなた
の神を恐れなさい。わたしは主である。
33 『寄留者があなたの地であなたがたと共に住む場合、その人を不当に扱っ
てはならない。
34 あなたがたと共に住む寄留者は、あなたがたの間で生まれながら
の者と同じようにしなければならない。あなたは彼を自分自身のように愛しな
さい。あなたがたもエジプトの地では寄留者だったからである。わたしはあな
たがたの神、主である。

† **19:16 19:16** 直訳では「血」。 ‡ **19:23 19:23** 直訳では「無割礼の」。

35 『裁きにおいて、長さ、重さ、あるいは量の測りにおいて、不正を行ってはならない。
36 正しいはかり、正しい重り、正しいエパ§、正しいヒン*を用いなければならない。わたしはあなたがたをエジプトの地から導き出した、あなたがたの神、主である。
37 『あなたがたはわたしのすべての掟とわたしのすべての法を守り、それらを行いなさい。わたしは主である。』」

20

1 主はモーセに語って言われた。
2 「さらに、イスラエルの子らに言いなさい。『イスラエルの子ら、あるいはイスラエルに寄留する寄留者のうち、自分の子孫*をモレクに渡す者はだれでも、必ず死刑に処されなければならない。その地の民はその人を石で打ち殺さなければならない。
3 わたしもその人に顔を向け、彼を自分の民の中から断つ。彼が自分の子孫をモレクに渡し、わたしの聖所を汚し、わたしの聖なる御名を汚したからである。
4 もしその人が自分の子孫をモレクに渡した時に、その地の民がみな彼から目を隠し、彼を死刑にしないなら、
5 わたしはその男と彼の家族に顔を向け、彼を断つ。また彼に従って淫行を働き、モレクと淫行を働く者たちをみな、彼らの民の中から断つ。
6 『霊媒師や占い師のところに赴き、彼らに従って淫行を働く者がいれば、わたしはその人に顔を向け、彼を自分の民の中から断つ。
7 『それゆえ、自分自身を聖別し、聖なる者となりなさい。わたしはあなたがたの神、主だからである。
8 あなたがたはわたしの掟を守り、それらを行いなさい。わたしはあなたがたを聖別する主である。
9 『自分の父や母を呪う者はだれでも、必ず死刑に処されなければならないからである。彼は自分の父や母を呪った。その血は彼自身に帰する。
10 『他の男の妻と姦淫する男、すなわち自分の隣人の妻と姦淫する者は、姦淫した男も姦淫した女も、必ず死刑に処されなければならない。
11 『父の妻と寝る男は、父の裸を暴いたのである。彼らは二人とも必ず死刑に処されなければならない。彼らの血は彼ら自身に帰する。
12 『男が息子の妻と寝るなら、彼らは二人とも必ず死刑に処されなければならない。彼らは倒錯した行為を行ったのである。彼らの血は彼ら自身に帰する。
13 『男が女と寝るように男と寝るなら、彼らは二人とも忌まわしいことを行ったのである。彼らは必ず死刑に処されなければならない。彼らの血は彼ら自身に帰する。
14 『男が妻とその母をめとるなら、それは邪悪なことである。彼も彼女たちも火で焼かなければならない。あなたがたの間に邪悪なことがないためである。
15 『男が動物と寝るなら、彼は必ず死刑に処されなければならない。あなたがたはその動物も殺さなければならない。
16 『女がどんな動物にでも近づいてそれと交わるなら、あなたはその女とその動物を殺さなければならない。彼らは必ず死刑に処されなければならない。彼らの血は彼ら自身に帰する。
17 『男が自分の姉妹、すなわち父の娘、あるいは母の娘をめとり、彼女の裸を見て、彼女も彼の裸を見るなら、それは恥ずべきことである。彼ら

§ **19:36** **19:36** —エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。 * **19:36** **19:36** —ヒンは約6.5リットル、または1.7ガロンである。 * **20:2** **20:2** または「種」。

は彼らの民の子らの目の前で断たれなければならない。彼は自分の姉妹の裸を暴いたのである。彼は自分の咎を負う。
18『男が月経中の女と寝て、彼女の裸を暴くなら、彼は彼女の血の源をあらわにし、彼女も自分の血の源をあらわにしたのである。二人はともにその民の中から断たれなければならない。
19『母の姉妹、あるいは父の姉妹の裸を暴いてはならない。彼は自分の近親者をあらわにしたからである。彼らは自分たちの咎を負う。
20 男が叔父の妻と寝るなら、彼は叔父の裸を暴いたのである。彼らは自分たちの罪を負う。彼らは子どものないまま死ぬ。
21『男が兄弟の妻をめとるなら、それは汚れたことである。彼は兄弟の裸を暴いたのである。彼らは子どものないままとなる。
22『それゆえ、あなたがたはわたしのすべての掟とすべての法を守り、それらを行いなさい。わたしがあなたがたを導き入れて住まわせるその地が、あなたがたを吐き出さないためである。
23 あなたがたは、わたしがあなたがたの前から追い出そうとしている国民の慣習に従って歩んではならない。彼らはこれらすべてのことを行ったため、わたしは彼らを忌み嫌ったのである。
24 しかし、わたしはあなたがたに言った。「あなたがたは彼らの地を受け継ぐ。わたしはそれをあなたがたに与えて所有させる。乳と蜜の流れる地である。」わたしはあなたがたを諸国の民からえり分けた、あなたがたの神、主である。
25『それゆえ、あなたがたはきよい動物と汚れた動物、また汚れた鳥ときよい鳥を区別しなければならない。わたしがあなたがたのために汚れたものとしてえり分けた動物、あるいは鳥、あるいは地面に群がるどんなものによっても、自分自身を忌まわしいものとしてはならない。
26 あなたがたはわたしにとって聖なる者となりなさい。主であるわたしは聖なる者であり、あなたがたがわたしのものとなるように、諸国の民からあなたがたをえり分けたからである。
27『霊媒師あるいは占い師である男または女は、必ず死刑に処されなければならない。彼らは石で打ち殺されなければならない。彼らの血は彼ら自身に帰する。』」

21

1 主はモーセに言われた。「アロンの子らである祭司たちに語り、彼らに言いなさい。『祭司は、自分の民の中の死者のために自分を汚してはならない。
2 ただし、自分に近い親族、すなわち自分の母、父、息子、娘、兄弟のため、
3 また、自分に近く、まだ夫を持ったことのない処女の姉妹のためには、自分を汚してもよい。
4 彼は自分の民の中の長である者として、自分を汚して自らを俗なるものにしてはならない。
5『彼らは頭を剃ったり、ひげの端を剃り落としたり、肉体に切り傷をつけたりしてはならない。
6 彼らは自分たちの神に対して聖なる者でなければならず、自分たちの神の御名を汚してはならない。彼らは主への火によるささげ物、すなわち自分たちの神のパンをささげるからである。それゆえ、彼らは聖なる者でなければならない。
7『彼らは遊女や俗なる女を妻にめとってはならない。祭司は夫から離縁された女をめとってはならない。彼は自分の神に対して聖なる者だからである。
8 それゆえ、あなたは彼を聖別しなさい。彼はあなたの神のパンをささげるからである。彼はあなたにとって聖なる者でなければならない。あなたがたを聖別する主であるわたしが聖なる者だからである。

9 『祭司の娘が遊女となって自分を汚すなら、彼女は自分の父を汚すことになる。彼女は火で燃やされなければならない。
10 『兄弟たちの中で大祭司であり、その頭に注ぎ油が注がれ、衣服を着るために聖別された者は、頭の毛を乱したままにしたり、自分の衣服を引き裂いたりしてはならない。
11 彼はどんな死体にも近づいてはならず、自分の父や母のためであっても自身を汚してはならない。
12 彼は聖所から出てはならず、自分の神の聖所を汚してはならない。彼の神の注ぎ油の冠が彼の上にあるからである。わたしは主である。
13 『彼は処女を妻にめとらなければならない。
14 やもめ、離縁された女、汚された女、遊女をめとってはならない。彼は自分の民の中から処女を妻にめとらなければならない。
15 彼は自分の民の中で自分の子孫を汚してはならない。わたしは彼を聖別する主だからである。』」
16 主はモーセに語って言われた。
17 「アロンに語って言いなさい。『あなたの代々の子孫のうち、体に欠陥のある者は、その神のパンをささげるために近づいてはならない。
18 欠陥のある者はだれでも近づいてはならない。すなわち、目の見えない者、足の不自由な者、鼻のつぶれた者、または体に変形のある者、
19 足や手に骨折がある者、
20 背中の曲がった者、小人の者、目に欠陥のある者、かゆみのある病やかさぶたのある者、睾丸が損なわれている者である。
21 祭司アロンの子孫で体に欠陥のある者は、主への火によるささげ物をささげるために近づいてはならない。彼には欠陥があるので、その神のパンをささげるために近づいてはならない。
22 彼は自分の神のパンを、最も聖なるものも聖なるものも食べることができる。
23 しかし、彼には欠陥があるので、垂れ幕に近づいたり、祭壇に近づいたりしてはならない。わたしの聖所を汚さないためである。わたしは彼らを聖別する主だからである。』」
24 こうしてモーセは、アロンとその子ら、およびイスラエルのすべての子らに語った。

22

1 主はモーセに語って言われた。
2 「アロンとその子らに、イスラエルの子らがわたしのために聖別する聖なるものから身を慎んで離れ、わたしの聖なる御名を汚さないように告げなさい。わたしは主*である。
3 「彼らに言いなさい。『あなたがたの代々の子孫のうちだれでも、自分の汚れを身に帯びたまま、イスラエルの子らが主に聖別する聖なるものに近づくなら、その者はわたしの前から断たれる。わたしは主である。
4 『アロンの子孫で、規定の病の者、あるいは漏出のある者は、きよくなるまで聖なるものを食べてはならない。死者によって汚れたものに触れる者、あるいは精液の漏出があった者、
5 あるいは、人に汚れをもたらす這うものに触れる者、またはどんな汚れであれ、その人を汚すような人間に触れる者、
6 そのようなものに触れた者は夕方まで汚れ、水で自分の体を洗わない限り、聖なるものを食べてはならない。
7 太陽が沈めば彼はきよくなる。その後、聖なるものを食べることができる。それは彼のパンだからである。

* **22:2 22:2** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה

8 彼は自然に死んだものや、野獣に引き裂かれたものを食べて、それによって自分を汚してはならない。わたしは主である。
9 『それゆえ、彼らはわたしの命令を守らなければならない。それを汚すなら、そのために罪を負い、その中で死ぬことがないためである。わたしは彼らを聖別する主である。
10 『一般の人はだれも聖なるものを食べてはならない。祭司のもとに滞在している者や雇い人も、聖なるものを食べてはならない。
11 しかし、祭司が自分のお金で奴隷を買い取ったなら、その奴隷はそれを食べることができる。また、彼の家で生まれた者たちも、彼のパンを食べることができる。
12 祭司の娘が一般の人に嫁いだなら、彼女は聖なるものの持ち上げるささげ物を食べてはならない。
13 しかし、祭司の娘がやもめとなるか離縁されるかして、子どもがなく、若い時のように父の家に戻ったなら、彼女は父のパンを食べることができる。しかし、一般の人はだれもそれを食べてはならない。
14 『もし人が意図せずに聖なるものを食べたなら、その人はその価値の五分の一を加算して、その聖なるものを祭司に渡さなければならない。
15 祭司たちは、イスラエルの子らが主にささげる聖なるものを汚してはならない。
16 また彼らが聖なるものを食べることで、彼らに罪過をもたらす咎を負わせてはならない。わたしは彼らを聖別する主だからである。』」
17 主はモーセに語って言われた。
18 「アロンとその子ら、およびイスラエルのすべての子らに語り、彼らに言いなさい。『イスラエルの家の人、あるいはイスラエルに住む寄留者のうち、自分のささげ物をささげる者はだれでも、それが誓願によるものでも、自発的なささげ物でも、主への全焼のささげ物としてささげる場合、
19 それが受け入れられるために、牛、羊、または山羊の群れから、傷のない雄をささげなければならない。
20 しかし、どんなものであれ傷のあるものをささげてはならない。それはあなたがたのために受け入れられないからである。
21 誓願を果たすため、あるいは自発的なささげ物として、牛や羊の群れから主への和解のいけにえをささげる者は、それが受け入れられるために、完全なものでなければならない。それには何の傷もあってはならない。
22 目の見えないもの、傷を負ったもの、不具のもの、いぼのあるもの、ただれているもの、膿の出る患部のあるものを主にささげてはならず、それらを祭壇の上で主への火によるささげ物にしてはならない。
23 余分な部分や欠けた部分のある牛や子羊は、自発的なささげ物としてささげてもよいが、誓願のためには受け入れられない。
24 睾丸が傷ついたり、潰れたり、引き裂かれたり、切り取られたりしたものを主にささげてはならない。あなたがたの地でこのようなことをしてはならない。
25 あなたがたは外国人の手からこれらのいかなるものも受け取って、あなたがたの神のパンとしてささげてはならない。それらには損なわれたところがあり、傷があるからである。それらはあなたがたのために受け入れられない。』」
26 主はモーセに語って言われた。
27 「牛、羊、または山羊が生まれたときは、七日間その母と共にいさせなければならない。八日目以降は、主への火によるささげ物のためのささげ物として受け入れられる。
28 牛であれ羊であれ、親とその子を同じ日に屠ってはならない。
29 「主に感謝のいけにえをささげるときは、あなたがたが受け入れられるようにそれをささげなければならない。

30 それはその日のうちに食べなければならない。朝までそれを少しでも残しておいてはならない。わたしは主である。
31 「それゆえ、あなたがたはわたしの命令を守り、それらを行いなさい。わたしは主である。
32 わたしの聖なる御名を汚してはならない。わたしはイスラエルの子らの中で聖なるものとされる。わたしはあなたがたを聖別する主†であり、
33 あなたがたの神となるために、エジプトの地からあなたがたを導き出した。わたしは主である。」

23

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語り、彼らに言いなさい。『あなたがたが聖なる集会として布告すべき主の定められた祭り、これらがわたしの定められた祭りである。
3 『六日間は仕事をしてもよいが、七日目は厳かな安息日であり、聖なる集会の日である。いかなる仕事もしてはならない。これはあなたがたのすべての住まいにおける主への安息日である。
4 『主の定められた祭り、すなわちあなたがたがその定められた時に布告すべき聖なる集会は次のとおりである。
5 第一の月の十四日の夕暮れには主の過越の祭りがある。
6 同じ月の十五日は主への種なしパンの祭りである。七日間、種なしパンを食べなければならない。
7 最初の日に、あなたがたは聖なる集会を開きなさい。通常の仕事をしてはならない。
8 七日間、主への火によるささげ物をささげなさい。七日目は聖なる集会である。通常の仕事をしてはならない。』」
9 主はモーセに語って言われた。
10 「イスラエルの子らに語り、彼らに言いなさい。『わたしがあなたがたに与える地に入り、その収穫を刈り入れるとき、あなたがたの収穫の初穂の束を祭司のところに持って来なければならない。
11 祭司はあなたがたが受け入れられるように、主の前でその束を揺り動かしなさい。安息日の翌日に、祭司はそれを揺り動かさなければならない。
12 その束を揺り動かす日に、あなたがたは一歳の傷のない雄の子羊を、主への全焼のささげ物としてささげなさい。
13 それに伴う穀物のささげ物は、油を混ぜた十分の二エパ*の上質の小麦粉であり、心地よい香りのための主への火によるささげ物とする。それに伴う飲み物のささげ物は、四分の一ヒン†のぶどう酒とする。
14 あなたがたは自分の神へのささげ物を持って来るこの日までは、パンも、炒った穀物も、新しい穀物も食べてはならない。これは、あなたがたのすべての住まいで、代々にわたっての永遠の掟である。
15 『あなたがたは、揺り動かすささげ物の束を持って来た日、すなわち安息日の翌日から数えなさい。七回の安息日を満了しなければならない。
16 七回目の安息日の翌日まで数えて五十日とし、主への新しい穀物のささげ物をささげなさい。
17 あなたがたは揺り動かすささげ物として、自分の住まいから二つのパンを持って来なさい。それは十分の二エパ‡の上質の小麦粉で作られ、パン種を入れて焼かれたもので、主への初穂とする。

---

† **22:32 22:32** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のה
* **23:13 23:13** —エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。 † **23:13 23:13** —ヒンは約6.5リットル、または1.7ガロンである。 ‡ **23:17 23:17** —エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

18 そのパンとともに、一歳の傷のない七頭の子羊と、若い雄牛一頭と、雄羊二頭をささげなさい。これらは主への全焼のささげ物となり、それに伴う穀物のささげ物と飲み物のささげ物とともに、主への心地よい香りのための、火によるささげ物となる。
19 贖罪のささげ物として雄山羊一頭を、和解のいけにえのささげ物として一歳の雄の子羊二頭をささげなさい。
20 祭司はそれらを、初穂のパンおよび二頭の子羊とともに、主の前で揺り動かすささげ物として揺り動かしなさい。これらは主に対する聖なるものとなり、祭司のものとなる。
21 あなたがたは同じ日に布告しなさい。それはあなたがたにとって聖なる集会となる。通常のいかなる仕事もしてはならない。これは、あなたがたのすべての住まいで、代々にわたっての永遠の掟である。
22 『あなたがたの土地の収穫を刈り入れるとき、畑の隅々まで刈り尽くしてはならない。収穫の落ち穂を拾い集めてはならない。貧しい者と寄留者のためにそれらを残しておかなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。』」
23 主はモーセに語って言われた。
24 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『第七の月の最初の日に、あなたがたは厳かな安息を守り、ラッパを吹き鳴らす記念とし、聖なる集会を開きなさい。
25 通常のいかなる仕事もしてはならない。主への火によるささげ物をささげなさい。』」
26 主はモーセに語って言われた。
27 「ただし、この第七の月の十日は贖罪の日である。それはあなたがたにとって聖なる集会となる。あなたがたは身を慎み、主への火によるささげ物をささげなさい。
28 その日にはいかなる仕事もしてはならない。これは贖罪の日であり、あなたがたの神、主の前であなたがたのために贖罪を行うためである。
29 その日に身を慎まない者はだれでも、自分の民の中から断たれる。
30 その日にいかなる仕事をする者も、わたしはその人をその民の中から滅ぼす。
31 いかなる仕事もしてはならない。これは、あなたがたのすべての住まいで、代々にわたっての永遠の掟である。
32 これはあなたがたにとって厳かな安息の安息日であり、身を慎まなければならない。その月の九日の夕暮れに、その夕暮れから次の夕暮れまで、安息日を守らなければならない。」
33 主はモーセに語って言われた。
34 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『この第七の月の十五日は、主のための七日間にわたる仮庵の祭り§である。
35 最初の日は聖なる集会とする。通常のいかなる仕事もしてはならない。
36 七日間、主への火によるささげ物をささげなさい。八日目には、あなたがたのための聖なる集会を開きなさい。主への火によるささげ物をささげなさい。これは厳粛な集会である。通常の仕事をしてはならない。
37 『これらが主の定められた祭りであり、あなたがたが聖なる集会として布告し、主への火によるささげ物、全焼のささげ物、穀物のささげ物、いけにえ、飲み物のささげ物を、それぞれその日にささげるためのものである。
38 これは主の安息日に加えて、また、あなたがたが主に与えるささげ物に加えて、またすべての誓願に加えて、またすべての自発的なささげ物に加えて行われる。

§ **23:34 23:34** あるいは、天幕の祭り、またはスコット。

39『それで、第七の月の十五日、あなたがたがその土地の産物を収穫し終えたとき、七日間にわたって主の祭りを守りなさい。最初の日は厳かな安息の日であり、八日目も厳かな安息の日である。
40最初の日に、あなたがたは立派な木の実、なつめやしの葉、茂った木の枝、川の柳の枝を取り、七日間、あなたがたの神、主の前で喜び楽しみなさい。
41一年のうち七日間、主への祭りとしてこれを守りなさい。これはあなたがたの代々にわたっての永遠の掟である。第七の月にこれを守らなければならない。
42あなたがたは七日間、仮庵*に住まなければならない。イスラエルで生まれながらの者は皆、仮庵に住まなければならない。
43それは、わたしがエジプトの地からイスラエルの子らを導き出したとき、彼らを仮庵に住まわせたことを、あなたがたの代々の人々が知るためである。わたしはあなたがたの神、主である。』」
44こうしてモーセはイスラエルの子らに、主の定められた祭りについて告げた。

24

1主はモーセに語って言われた。
2「イスラエルの子らに命じて、ともしびのために打って搾った純粋なオリーブ油をあなたのもとに持って来させ、ともしびが絶えずともるようにしなさい。
3会見の天幕の中、あかしの垂れ幕の外側で、アロンは夕暮れから朝まで、主の前で絶えずそれを整えなければならない。これは代々にわたっての永遠の掟である。
4彼は主の前で、純金の燭台の上のともしびを絶えず整えなければならない。
5「上質の小麦粉を取り、それで十二のパンを焼きなさい。一つのパンには十分の二エパ*を用いなければならない。
6それらを主の前の純金の机の上に、一列に六つずつ、二列に並べなさい。
7各列の上に純粋な乳香を置きなさい。それがパンのための記念の部分となり、主への火によるささげ物となるためである。
8彼は安息日ごとに、絶えずそれを主の前に整えなければならない。これはイスラエルの子らのための永遠の契約である。
9それはアロンとその子らのものとなる。彼らはそれを聖なる場所で食べなければならない。それは永遠の掟によって、主への火によるささげ物の中から彼に与えられる最も聖なるものだからである。」
10父親がエジプト人であるイスラエル人の女の息子が、イスラエルの子らの中へ出て行った。このイスラエル人の女の息子とイスラエル人の男が宿営の中で争った。
11このイスラエル人の女の息子は御名を冒涜して呪った。そこで人々は彼をモーセのところに連れて来た。彼の母親の名はスロミテといい、ダン部族のディブリの娘であった。
12主の意志が彼らに示されるまで、彼らはその者を留置しておいた。
13主はモーセに語って言われた。
14「呪った者を宿営の外に引き出しなさい。それを聞いた者はみな彼の頭に手を置き、全会衆で彼を石で打ち殺しなさい。
15イスラエルの子らに語って言いなさい。『自分の神を呪う者はだれでも、その罪を負う。

---

* **23:42 23:42** あるいは、仮小屋。 * **24:5 24:5** 一エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

16 主の御名を冒涜する者は、必ず死刑に処されなければならない。全会
衆は必ず彼を石で打ち殺さなければならない。寄留者であれ、生まれながら
の者であれ、御名を冒涜したときは死刑に処される。
17 『人を打ち殺した者は、必ず死刑に処されなければならない。
18 動物を打ち殺した者は、命には命をもって償わなければならない。
19 隣人に傷を負わせたなら、彼がしたのと同じように彼にもされなければな
らない。
20 骨折には骨折を、目には目を、歯には歯を。彼が人に傷を負わせたよう
に、彼にもそのようにされなければならない。
21 動物を殺した者は償いをしなければならず、人を殺した者は死刑に処され
る。
22 寄留者にも生まれながらの者にも、あなたがたは一つの同じ法を持たなけ
ればならない。わたしはあなたがたの神、主だからである。』」
23 モーセがイスラエルの子らに語ると、彼らは呪った者を宿
営の外に引き出し、石で打ち殺した。イスラエルの子らは主がモーセに命じら
れたとおりに行った。

25

1 主はシナイ山でモーセに言われた。
2 「イスラエルの子らに語り、彼らに言いなさい。『わたしが与える地にあ
なたがたが入ったとき、その地は主への安息を守らなければならない。
3 六年間は畑に種を蒔き、六年間はぶどう園の手入れをして、その産物を収
穫しなさい。
4 しかし、七年目は地にとって厳かな安息の安息日、すなわち主への安息
日となる。畑に種を蒔いたり、ぶどう園の手入れをしたりしてはならない。
5 あなたの収穫の後に自然に生えたものを刈り取ってはならず、手入れをし
なかったぶどうの木のぶどうを収穫してはならない。地にとって厳かな安
息の年となるからである。
6 地の安息の年の産物は、あなたがたの食物となる。すなわち、あなた、あ
なたの男奴隷、女奴隷、雇い人、あなたと共に住む寄留者のためである。
7 あなたの家畜や、あなたの地にいる動物のためにも、そのすべての産
物が食物となる。
8 『あなたは安息の年を七回、すなわち七年を七回数えなさい。七回の安
息の年の日数は四十九年となる。
9 そして第七の月の十日には、大きく角笛を吹き鳴らさなければならない。
贖罪の日に、あなたがたの全土に角笛を響き渡らせなさい。
10 第五十年目を聖別し、その地のすべての住民に解放を布告しなさい。これ
はあなたがたにとってヨベルの年である。あなたがたはそれぞれ自分の所有
地に帰り、それぞれ自分の家族のもとに帰らなければならない。
11 その第五十年目はあなたがたにとってヨベルの年となる。種を蒔いてはな
らず、自然に生えたものを刈り取ってはならず、手入れをしなかったぶどう
の木から収穫してもならない。
12 それはヨベルの年だからである。それはあなたがたにとって聖なるもので
ある。あなたがたは畑からの産物を食べなさい。
13 『このヨベルの年には、あなたがたはそれぞれ自分の所有地に帰らなけれ
ばならない。
14 『隣人に何かを売る場合、あるいは隣人から買う場合、互いに不当な扱い
をしてはならない。
15 ヨベルの年からの年数に応じて、あなたは隣人から買い、収穫の年
数に応じて、彼はあなたに売らなければならない。
16 年数が多いほどあなたはその価格を上げ、年数が少ないほどあなたはそ
の価格を下げなさい。彼は収穫の回数をあなたに売るからである。

17 互いに不当な扱いをしてはならず、あなたの神を恐れなさい。わたしはあなたがたの神、主である。
18 『それゆえ、わたしの掟を行い、わたしの法を守り、それらを行いなさい。そうすれば、あなたがたはその地で安全に住むことができる。
19 その地は実を結び、あなたがたは十分に食べ、そこで安全に住むことができる。
20 もしあなたがたが、『七年目には何を食べればよいのか。見よ、私たちは種を蒔くことも、産物を集めることもできないではないか』と言うなら、
21 わたしは六年目にあなたがたに祝福を命じる。その地は三年分の実りをもたらす。
22 八年目に種を蒔き、九年目まで古い蓄えの産物を食べなさい。その産物が入るまで、あなたがたは古い蓄えを食べなさい。
23 『土地は永久に売却されてはならない。土地はわたしのものであるからだ。あなたがたはわたしのもとにいる異国人であり寄留者である。
24 あなたがたの所有地全土において、土地を買い戻す権利を認めなければならない。
25 『あなたの兄弟が貧しくなり、自分の所有地の一部を売ったなら、彼に最も近い親族が来て、兄弟が売ったものを買い戻さなければならない。
26 もし買い戻す者がおらず、自分自身が豊かになり、それを買い戻す十分な手段を得たなら、
27 売却してからの年数を計算し、売った相手に余分に相当する分を返しなさい。そうすれば彼は自分の所有地に戻ることができる。
28 しかし、もし自ら買い戻すことができないなら、売ったものはヨベルの年まで買った者の手に残る。ヨベルの年にはそれは手放され、彼は自分の所有地に戻ることができる。
29 『もし城壁のある町にある住居を売ったなら、売却後まる一年の間は買い戻すことができる。まる一年の間は買い戻す権利がある。
30 もしまる一年の間に買い戻されなければ、城壁のある町にあるその家は、それを買った者に代々にわたって永久に確定される。それはヨベルの年にも手放されない。
31 しかし、周囲に城壁のない村々の家は、その国の畑と同じとみなされる。それらは買い戻すことができ、ヨベルの年には手放される。
32 『ただし、レビ人の町、すなわち彼らの所有地である町々の家については、レビ人はいつでも買い戻すことができる。
33 レビ人が売った家、すなわちその所有する町は買い戻すことができ、それはヨベルの年に手放される。レビ人の町々の家は、イスラエルの子らの中における彼らの所有地だからである。
34 しかし、彼らの町々の放牧地の畑は売ってはならない。それは彼らの永久の所有地だからである。
35 『もしあなたの兄弟が貧しくなり、あなたのもとで自らを支えることができなくなったなら、あなたは彼を支えなさい。彼は異国人や一時滞在者のように、あなたと共に生きなければならない。
36 彼から利息や利益を取ってはならない。あなたの神を恐れ、あなたの兄弟があなたとともに生きられるようにしなさい。
37 あなたのお金を利息をとって貸したり、利益のためにあなたの食物を与えたりしてはならない。
38 わたしはあなたがたの神、主であり、カナンの地をあなたがたに与え、あなたがたの神となるために、エジプトの地からあなたがたを導き出した。
39 『もしあなたの兄弟が貧しくなり、自身をあなたに売ったなら、あなたは彼を奴隷として働かせてはならない。
40 彼は雇い人や滞在者のようにあなたのもとにおり、ヨベルの年まであなたのもとで働かなければならない。

41 その後、彼と彼の子らはあなたのもとを去り、自分の家族のもとに帰り、
父祖の所有地に戻らなければならない。
42 彼らはわたしがエジプトの地から導き出した、わたしのしもべだからで
ある。彼らは奴隷として売られてはならない。
43 あなたは彼を過酷に支配してはならない。あなたの神を恐れなさい。
44 『あなたが所有してもよい男奴隷と女奴隷については、あなたがたの周
囲の国々から、男奴隷と女奴隷を買うことができる。
45 さらに、あなたがたの間に住む異国人の子らや、あなたがたの地にい
て彼らがもうけたその家族から、あなたがたは買うことができる。彼らはあな
たがたの所有物となる。
46 あなたがたは彼らを自分の後の子らに遺産として譲り、所有物とし
て受け継がせることができる。あなたがたは彼らを永久に奴隷とすることがで
きる。しかし、あなたがたの兄弟であるイスラエルの子らに対しては、互い
に過酷に支配してはならない。
47 『もしあなたのもとにいる異国人や一時滞在者が豊かになり、そのそばに
いるあなたの兄弟が貧しくなって、あなたのもとに住む異国人や寄留者、ある
いはその異国人の家族の者に自分を売った場合、
48 売られた後、彼は買い戻される権利がある。彼の兄弟の一
人が彼を買い戻すことができる。
49 あるいは彼の叔父、叔父の息子が彼を買い戻すことができ、彼の家
族の近しい親族のだれもが彼を買い戻すことができる。または、もし彼自
身が豊かになったなら、自らを買い戻すことができる。
50 彼は自分を買った者と、自身を売った年からヨベルの年までを計算しなさ
い。その売却の価格は年数に応じたものであり、雇い人の働く期間に応じ
て彼のもとでの期間が決められる。
51 もしまだ多くの年数が残っているなら、それに従って、自分が買われた金
額の中から買い戻しの価格を返さなければならない。
52 ヨベルの年まで数年しか残っていないなら、彼とともに計算し、その労
働の年数に応じて買い戻しの価格を返さなければならない。
53 彼は年ごとの雇い人として彼のもとにいなければならない。あなた
の目の前で、その者が彼を過酷に支配してはならない。
54 もしこれらの方法で買い戻されない場合でも、ヨベルの年には、彼とそ
の子どもたちはともに手放される。
55 イスラエルの子らはわたしにとってしもべだからである。彼らはわたしが
エジプトの地から導き出したわたしのしもべである。わたしはあなたがた
の神、主である。』」

26

1 「『あなたがたは自分たちのために偶像を造ってはならない。また、彫
像や石柱を立ててはならず、あなたがたの地に模様のある石を置いて、それに
ひれ伏してはならない。わたしはあなたがたの神、主だからである。
2 『わたしの安息日を守り、わたしの聖所を敬いなさい。わたしは主であ
る。
3 『もしあなたがたがわたしの掟に従って歩み、わたしの命令を守り、それ
らを行うなら、
4 わたしは季節に応じてあなたがたに雨を与える。地はその産物をもたら
し、野の木はその実を結ぶ。
5 あなたがたの脱穀はぶどうの収穫まで続き、ぶどうの収穫は種まきの時
期まで続く。あなたがたはパンを十分に食べ、あなたがたの地で安全に住むこ
とができる。
6 『わたしはその地に平和を与える。あなたがたは横になり、だれもあなた
がたを恐れさせることはない。わたしはその地から凶暴な獣を取り除き、剣が
あなたがたの地を通ることはない。

7 あなたがたは敵を追い散らし、彼らはあなたがたの前で剣によって倒れる。
8 あなたがたの五人が百人を追い散らし、百人が一万人を追い散らす。あなたがたの敵はあなたがたの前で剣によって倒れる。
9 『わたしはあなたがたに目を留め、あなたがたを実り豊かにし、あなたがたを増し加え、あなたがたとのわたしの契約を確立する。
10 あなたがたは長く保存された古い蓄えを食べ、新しいもののために古い蓄えを運び出すことになる。
11 わたしはあなたがたの間にわたしの天幕を置く。わたしの魂があなたがたを忌み嫌うことはない。
12 わたしはあなたがたの間を歩み、あなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。
13 わたしは、あなたがたが彼らの奴隷とならないように、エジプトの地からあなたがたを導き出したあなたがたの神、主である。わたしはあなたがたのくびきの横木を砕き、あなたがたをまっすぐに歩かせた。
14 『しかし、もしあなたがたがわたしに聞き従わず、これらすべての命令を行わないなら、
15 また、もしあなたがたがわたしの掟を拒み、あなたがたの魂がわたしの法を忌み嫌い、わたしのすべての命令を行わずにわたしの契約を破るなら、
16 わたしもあなたがたにこのことを行う。わたしはあなたがたに恐怖を割り当て、目を衰えさせ、魂をやつれさせる消耗病と熱病を割り当てる。あなたがたはむなしく種を蒔く。あなたがたの敵がそれを食べるからである。
17 わたしはあなたがたに顔を向け、あなたがたは敵の前に打たれる。あなたがたを憎む者があなたがたを支配し、あなたがたはだれも追っていないのに逃げることになる。
18 『もしこれらのことがあってもなお、わたしに聞き従わないなら、わたしはあなたがたの罪のために、さらに七倍の懲らしめを与える。
19 わたしはあなたがたの力の高ぶりを砕き、あなたがたの空を鉄のようにし、あなたがたの土を青銅のようにする。
20 あなたがたの力はむなしく費やされる。あなたがたの地はその産物をもたらさず、地の木々もその実を結ばないからである。
21 『もしあなたがたがわたしに逆らって歩み、わたしに聞き従わないなら、わたしはあなたがたの罪に応じて、さらに七倍の災いをあなたがたにもたらす。
22 わたしはあなたがたの間に野の獣を送り込む。それらはあなたがたの子どもを奪い、あなたがたの家畜を滅ぼし、あなたがたの数を減らす。あなたがたの道は荒れ果てる。
23 『もしこれらのことによってもあなたがたがわたしに立ち返らず、わたしに逆らって歩むなら、
24 わたしもまたあなたがたに逆らって歩む。わたし自身があなたがたの罪のために七倍もあなたがたを打つ。
25 わたしは契約の復讐を遂行する剣をあなたがたにもたらす。あなたがたが自分たちの町々に集まるとき、わたしはあなたがたの間に疫病を送り込む。あなたがたは敵の手に引き渡される。
26 わたしがあなたがたのパンの杖を砕くとき、十人の女が一つのかまどであなたがたのパンを焼き、量ってあなたがたのパンを返す。あなたがたは食べても、満足することはない。
27 『もしこれでもあなたがたがわたしに聞き従わず、わたしに逆らって歩むなら、
28 わたしも憤りをもってあなたがたに逆らって歩む。わたしもあなたがたの罪のために七倍の懲らしめを与える。

29 あなたがたは自分たちの息子の肉を食べ、自分たちの娘の肉を食べることになる。
30 わたしはあなたがたの高き所を滅ぼし、あなたがたの香の祭壇を切り倒し、あなたがたの死体をあなたがたの偶像の死体の上に投げ捨てる。わたしの魂はあなたがたを忌み嫌う。
31 わたしはあなたがたの町々を荒廃させ、あなたがたの聖所を荒れ果てさせる。わたしはあなたがたのささげ物の心地よい香りを楽しむことはない。
32 わたしはその地を荒れ果てさせる。そこに住むあなたがたの敵は、そのことに驚き怪しむであろう。
33 わたしはあなたがたを国々の間に散らし、あなたがたのうしろから剣を抜く。あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は荒廃する。
34 そのとき、その地が荒れ果て、あなたがたが敵の地にいる間、その地は安息日を楽しむ。そのとき初めて地は休み、その安息日を楽しむ。
35 その地は、荒れ果てている間ずっと休みを得る。あなたがたがそこに住んでいたときの安息日には得られなかった休みを得るのである。
36 『あなたがたのうち残された者たちについては、わたしは彼らの敵の地で彼らの心におびえを送り込む。風に追われる葉の音さえも彼らを逃げ走らせる。彼らは剣から逃げるように逃げる。だれも追っていないのに彼らは倒れる。
37 だれも追っていないのに、彼らは剣の前を逃げるようにお互いにつまずく。あなたがたには敵の前に立つ力はない。
38 あなたがたは国々の間で滅びる。あなたがたの敵の地があなたがたを食い尽くす。
39 あなたがたのうち残された者たちは、敵の地で自分たちの咎のゆえにやつれ果てる。彼らはまた、自分たちの父祖の咎のゆえにもやつれ果てる。
40 『もし彼らが、わたしに対して犯した背きにおいて、自分たちの咎と自分たちの父祖の咎を告白し、また、彼らがわたしに逆らって歩んだことを告白するなら、
41 それゆえ、わたしも彼らに逆らって歩み、彼らを敵の地に追いやった。もしそのとき、彼らの無割礼の心がへりくだり、彼らが自分たちの咎の罰を受け入れるなら、
42 わたしはヤコブとのわたしの契約を思い起こし、イサクとのわたしの契約、そしてアブラハムとのわたしの契約を思い起こす。そしてわたしはその地を思い起こす。
43 その地は彼らによって残され、彼らがいない間、荒れ果てて安息日を楽しむ。彼らがわたしの法を拒み、彼らの魂がわたしの掟を忌み嫌ったので、彼らは自分たちの咎の罰を受け入れる。
44 それにもかかわらず、彼らが敵の地にいるとき、わたしは彼らを拒まず、彼らを完全に滅ぼして彼らとのわたしの契約を破るほど彼らを忌み嫌うこともない。わたしは彼らの神、主だからである。
45 わたしは彼らの神となるために、国々の目の前でエジプトの地から導き出した彼らの父祖たちとの契約を、彼らのために思い起こす。わたしは主である。』」
46 これらは、シナイ山でモーセを通して、主とイスラエルの子らとの間に主が設けられた掟、法、そして律法である。

27

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『人が主への誓願として人を献げる場合、その評価額はあなたの評価に従わなければならない。

3 二十歳から六十歳までの男性の評価は、聖所のシェケル*による銀五十シェケルとしなければならない。
4 女性であれば、あなたの評価は三十シェケルとしなければならない。
5 五歳から二十歳までであれば、あなたの評価は、男性なら二十シェケル、女性なら十シェケルとしなければならない。
6 一か月から五歳までであれば、あなたの評価は、男性なら銀五シェケル、女性なら銀三シェケルとしなければならない。
7 六十歳以上であれば、男性ならあなたの評価は十五シェケル、女性なら十シェケルとしなければならない。
8 しかし、もし彼があなたの評価額を払えないほど貧しいなら、彼は祭司の前に立たされ、祭司が彼に評価額を定めなければならない。祭司は誓願を立てる者の支払う能力に応じて評価額を定めなければならない。
9 『もしそれが、人々が主へのささげ物としてささげる動物であるなら、だれかがそのようなものを主に与える場合、それはすべて聖なるものとなる。
10 彼はそれを変えたり、良いものを悪いものと、悪いものを良いものと交換したりしてはならない。もし少しでも動物を他の動物と交換するなら、それと交換されたものの両方が聖なるものとなる。
11 もしそれが汚れた動物で、主へのささげ物としてささげられないものであるなら、彼はその動物を祭司の前に立たせなければならない。
12 そして祭司は、それが良いか悪いかを評価しなさい。祭司が評価したとおりになる。
13 しかし、もし彼がそれを買い戻すなら、彼はその評価額にその五分の一を加算しなければならない。
14 『人が自分の家を主への聖なるものとして聖別する場合、祭司はそれが良いか悪いかを評価しなさい。祭司が評価したとおりに確定する。
15 もし家を聖別した者がそれを買い戻すなら、彼はあなたの評価した金額にその五分の一を加算しなさい。そうすればそれは彼のものとなる。
16 『もし人が自分の所有地である畑の一部を主に聖別するなら、あなたの評価はそれに蒔く種に応じたものとしなければならない。一ホメル†の大麦の種まきは銀五十シェケル‡と評価されなければならない。
17 もし彼がヨベルの年から自分の畑を聖別するなら、あなたの評価のまま確定する。
18 しかし、もし彼がヨベルの年より後に自分の畑を聖別するなら、祭司は次のヨベルの年まで残っている年数に応じて彼に金額を計算しなさい。そしてあなたの評価額から減額されなければならない。
19 畑を聖別した者がそれを買い戻すなら、彼はあなたの評価した金額にその五分の一を加算しなさい。そうすればそれは彼のもとに留まる。
20 もし彼が畑を買い戻さない場合、あるいは彼が畑を他の人に売っていた場合は、それはもはや買い戻すことはできない。
21 その畑がヨベルの年に手放されるとき、それは永久にささげられた畑として、主にとって聖なるものとなる。それは祭司の所有地となる。
22 『もし彼が、自分の所有地ではない、自分で買った畑を主に聖別するなら、
23 祭司はヨベルの年までのあなたの評価額を彼に計算しなさい。彼はその日に、主への聖なるものとしてあなたの評価額を納めなければならない。
24 ヨベルの年には、その畑は彼がそれを買った相手、すなわちその土地の所有権を持つ者に返される。

---

* **27:3** **27:3** 一シェケルは約10グラム、または約0.35オンスである。 † **27:16** **27:16** 一ホメルは約220リットル、または6ブッシェルである。 ‡ **27:16** **27:16** 一シェケルは約10グラム、または約0.35オンスである。

25 あなたのすべての評価は聖所のシェケルによらなければならない。一シェケルは二十ゲラ§としなければならない。
26 『しかし、動物の初子については、初子として主のものであるから、牛であれ羊であれ、だれも聖別してはならない。それは主のものである。
27 もしそれが汚れた動物であるなら、あなたの評価に従ってそれを買い戻し、それにその五分の一を加算しなければならない。あるいは買い戻されないなら、あなたの評価に従って売らなければならない。
28 『とはいえ、人が自分が持っているすべてのもののうち、人であれ動物であれ、自分の所有する畑であれ、主に永久にささげるどんなものも、売ったり買い戻したりしてはならない。永久にささげられるすべてのものは、主にとって最も聖なるものである。
29 『人のうち、滅びのためにささげられた者はだれも、贖い出されてはならない。彼は必ず死刑に処されなければならない。
30 『土地の種であれ、木の実であれ、土地の十分の一はすべて主のものである。それは主にとって聖なるものである。
31 もし人が自分の十分の一のいくらかを買い戻すなら、彼はそれにその五分の一を加算しなければならない。
32 牛や羊の群れのすべての十分の一、すなわち杖の下を通るすべてのもののうち、十番目のものは主にとって聖なるものとなる。
33 それが良いか悪いかを調べてはならず、それを交換してもならない。もし少しでもそれを交換するなら、それと交換されたものの両方が聖なるものとなる。それは買い戻されてはならない。』」
34 これらが、シナイ山でイスラエルの子らのために、主がモーセに命じられた命令である。

§ **27:25 27:25** 一ゲラは約0.5グラム、または約7.7グレーンである。

モーセの第四の書
通称
民数記

1 主*は、彼らがエジプトの地から出た後の第二年の第二の月の最
初の日に、シナイの荒野にある会見の天幕でモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らの全会衆について、その氏族ごと、父の家ごとに、姓
名の数にしたがって、すべての男子を一人一人数えなさい。
3 二十歳以上で、イスラエルにおいて軍務につくことのできるすべて
の者を数えなさい。あなたとアロンは、その部隊ごとに彼らを数えなさい。
4 あなたがたとともに、各部族から一人ずつ、その父祖の家の長であ
る者を立ち会わせなさい。
5 あなたがたとともに立つ者たちの名は次のとおりである。
ルベンからは、シェデウルの子エリツル。
6 シメオンからは、ツリシャダイの子シェルミエル。
7 ユダからは、アミナダブの子ナフション。
8 イッサカルからは、ツアルの子ネタネル。
9 ゼブルンからは、ヘロンの子エリアブ。
10 ヨセフの子らのうち、エフライムからは、アミフデの子エリシャマ。マナ
セからは、ペダツルの子ガマリエル。
11 ベニヤミンからは、ギデオニの子アビダン。
12 ダンからは、アミシャダイの子アヒエゼル。
13 アシェルからは、オクランの子パギエル。
14 ガドからは、デウエルの子エリアサフ。
15 ナフタリからは、エナンの子アヒラ。」
16 これらは会衆の中から召し出された者たちであり、彼らの父祖の部族の指
導者たち†であった。彼らはイスラエルの千人の部隊の長たちであった。
17 モーセとアロンは、名指しされたこれらの者たちを連れて行った。
18 彼らは第二の月の最初の日に全会衆を呼び集めた。そして彼らは、氏族ご
と、父の家ごとに、二十歳以上の者たちの姓名の数にしたがって、一人一人、
その系統を登録した。
19 主がモーセに命じられたとおりに、彼はシナイの荒野で彼らを数えた。
20 イスラエルの長子であるルベンの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ご
とに、姓名の数にしたがい、一人一人、二十歳以上で軍務につくことのできる
すべての男子が登録された。
21 ルベンの部族から数えられた者は、四万六千五百人であった。
22 シメオンの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にした
がい、一人一人、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての男子が登録さ
れた。
23 シメオンの部族から数えられた者は、五万九千三百人であった。
24 ガドの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたが
い、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
25 ガドの部族から数えられた者は、四万五千六百五十人であった。
26 ユダの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたが
い、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
27 ユダの部族から数えられた者は、七万四千六百人であった。

---

* **1:1 1:1** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（ヤ
† **1:16 1:16** または、首長たち、長たち。

28 イッサカルの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたがい、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
29 イッサカルの部族から数えられた者は、五万四千四百人であった。
30 ゼブルンの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたがい、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
31 ゼブルンの部族から数えられた者は、五万七千四百人であった。
32 ヨセフの子らのうち、エフライムの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたがい、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
33 エフライムの部族から数えられた者は、四万五百人であった。
34 マナセの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたがい、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
35 マナセの部族から数えられた者は、三万二千二百人であった。
36 ベニヤミンの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたがい、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
37 ベニヤミンの部族から数えられた者は、三万五千四百人であった。
38 ダンの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたがい、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
39 ダンの部族から数えられた者は、六万二千七百人であった。
40 アシェルの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたがい、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
41 アシェルの部族から数えられた者は、四万一千五百人であった。
42 ナフタリの子らの子孫は、その氏族ごと、父の家ごとに、姓名の数にしたがい、二十歳以上で軍務につくことのできるすべての者が登録された。
43 ナフタリの部族から数えられた者は、五万三千四百人であった。
44 以上は数えられた者たちであり、モーセとアロン、およびイスラエルの長である十二人の者たちが数えた。彼らはそれぞれ自分の父の家を代表する者であった。
45 こうして、イスラエルの子らの中で、二十歳以上でイスラエルにおいて軍務につくことのできるすべての者が、父の家ごとに数えられたが、
46 その数えられた者の総数は、六十万三千五百五十人であった。
47 しかし、レビ人は彼らの父祖の部族にしたがって、彼らの中に数えられなかった。
48 主はモーセに語って言われていたからである。
49 「レビの部族だけは数えてはならず、イスラエルの子らの中で彼らの人口調査を行ってはならない。
50 むしろ、あかしの幕屋、そのすべての器具、およびそれに属するすべてのものの上にレビ人を任命しなさい。彼らは幕屋とそのすべての器具を運び、それに仕え、幕屋の周りに宿営しなければならない。
51 幕屋が進み出るときには、レビ人がそれを降ろさなければならない。幕屋を設営するときには、レビ人がそれを建てなければならない。近づく部外者は死刑に処されなければならない。
52 イスラエルの子らは、それぞれ自分の宿営、それぞれ自分の旗印のもとに、部隊ごとに天幕を張らなければならない。
53 しかし、イスラエルの子らの会衆に激しい怒りが下ることのないように、レビ人はあかしの幕屋の周りに宿営しなければならない。レビ人はあかしの幕屋の務めを守らなければならない。」
54 イスラエルの子らはそのように行った。主がモーセに命じられたすべてのことと全く同じように、彼らは行った。

2

1 主はモーセとアロンに語って言われた。
2 「イスラエルの子らは、それぞれ自分の旗のもと、父祖の家の旗印のもとに宿営しなければならない。彼らは会見の天幕の周りに、それから離れて宿営しなければならない。
3 「東側、すなわち日の出る方角に宿営する者は、その部隊にしたがって、ユダの宿営の旗の者とする。ユダの子らの長は、アミナダブの子ナフションである。
4 彼の部隊で、数えられた者は七万四千六百人であった。
5 「彼の隣に宿営する者は、イッサカルの部族とする。イッサカルの子らの長は、ツアルの子ネタネルである。
6 彼の部隊で、数えられた者は五万四千四百人であった。
7 「ゼブルンの部族。ゼブルンの子らの長は、ヘロンの子エリアブである。
8 彼の部隊で、数えられた者は五万七千四百人であった。
9 「ユダの宿営で数えられた者の総数は、その部隊にしたがって十八万六千四百人であった。彼らが先頭に立って出発しなければならない。
10 「南側には、その部隊にしたがってルベンの宿営の旗を置く。ルベンの子らの長は、シェデウルの子エリツルである。
11 彼の部隊で、数えられた者は四万六千五百人であった。
12 「彼の隣に宿営する者は、シメオンの部族とする。シメオンの子らの長は、ツリシャダイの子シェルミエルである。
13 彼の部隊で、数えられた者は五万九千三百人であった。
14 「ガドの部族。ガドの子らの長は、レウエルの子エリアサフである。
15 彼の部隊で、数えられた者は四万五千六百五十人であった。
16 「ルベンの宿営で数えられた者の総数は、その部隊にしたがって十五万一千四百五十人であった。彼らが二番目に出発しなければならない。
17 「次に、会見の天幕は、レビ人の宿営とともに宿営群の中央を進んで出発しなければならない。彼らは宿営したのと同じように出発しなければならない。各自が自分の持ち場で、その旗にしたがって進むのである。
18 「西側には、その部隊にしたがってエフライムの宿営の旗を置く。エフライムの子らの長は、アミフデの子エリシャマである。
19 彼の部隊で、数えられた者は四万五百人であった。
20 「彼の隣にはマナセの部族を置く。マナセの子らの長は、ペダツルの子ガマリエルである。
21 彼の部隊で、数えられた者は三万二千二百人であった。
22 「ベニヤミンの部族。ベニヤミンの子らの長は、ギデオニの子アビダンである。
23 彼の部隊で、数えられた者は三万五千四百人であった。
24 「エフライムの宿営で数えられた者の総数は、その部隊にしたがって十万八千百人であった。彼らが三番目に出発しなければならない。
25 「北側には、その部隊にしたがってダンの宿営の旗を置く。ダンの子らの長は、アミシャダイの子アヒエゼルである。
26 彼の部隊で、数えられた者は六万二千七百人であった。
27 「彼の隣に宿営する者は、アシェルの部族とする。アシェルの子らの長は、オクランの子パギエルである。
28 彼の部隊で、数えられた者は四万一千五百人であった。
29 「ナフタリの部族。ナフタリの子らの長は、エナンの子アヒラである。
30 彼の部隊で、数えられた者は五万三千四百人であった。
31 「ダンの宿営で数えられた者の総数は、十五万七千六百人であった。彼らはその旗にしたがって、最後に出発しなければならない。」
32 これらが、父の家ごとに数えられたイスラエルの子らである。部隊ごとに宿営で数えられた者の総数は、六十万三千五百五十人であった。

33 しかし、主がモーセに命じられたとおり、レビ人はイスラエルの子らの中には数えられなかった。
34 イスラエルの子らはそのように行った。主がモーセに命じられたすべてのことと全く同じように、彼らはその旗のもとに宿営し、それぞれの氏族ごとに、父祖の家にしたがって出発した。

3

1 主がシナイ山でモーセと語られた日における、アロンとモーセの系図は次のとおりである。
2 アロンの子らの名は次のとおりである。長子はナダブ、次にアビフ、エルアザル、イタマルである。
3 これらはアロンの子らの名であり、彼らは油注がれた祭司たちであり、祭司の務めを果たすために任職された者たちである。
4 ナダブとアビフは、シナイの荒野で主の前に異なる火をささげたとき、主の前で死んだ。彼らには子どもがいなかった。エルアザルとイタマルは、その父アロンの前で祭司の務めを果たした。
5 主はモーセに語って言われた。
6 「レビの部族を近づけ、祭司アロンの前に立たせて、彼に仕えさせなさい。
7 彼らは、会見の天幕の前でアロンに対する務めと全会衆に対する務めを守り、幕屋の奉仕をしなければならない。
8 彼らは会見の天幕のすべての器具を守り、イスラエルの子らの務めを守り、幕屋の奉仕をしなければならない。
9 あなたはレビ人をアロンとその子らに与えなさい。彼らはイスラエルの子らに代わって、全く彼に与えられた者たちである。
10 あなたはアロンとその子らを任命し、彼らに祭司職を守らせなさい。近づく部外者は死刑に処されなければならない。」
11 主はモーセに語って言われた。
12 「見よ、わたしは、イスラエルの子らの中で胎を開くすべての長子の代わりに、イスラエルの子らの中からレビ人を取った。レビ人はわたしのものとなる。
13 すべての長子はわたしのものだからである。わたしがエジプトの地で長子をすべて打ち殺した日に、人間であれ動物であれ、イスラエルのすべての長子をわたしのために聖別した。彼らはわたしのものとなる。わたしは主である。」
14 主はシナイの荒野でモーセに語って言われた。
15 「レビの子らを、父の家ごとに、氏族ごとに数えなさい。一か月以上のすべての男子を数えなさい。」
16 モーセは命じられたとおり、主の言葉にしたがって彼らを数えた。
17 レビの子らは、その名によれば次のとおりである。ゲルション、ケハテ、メラリである。
18 氏族によるゲルションの子らの名は、リブニとシムイである。
19 氏族によるケハテの子らは、アムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルである。
20 氏族によるメラリの子らは、マフリとムシである。
これらが、父祖の家によるレビ人の氏族である。
21 ゲルションからはリブニ人の氏族とシムイ人の氏族が出た。これらがゲルション人の氏族である。
22 一か月以上のすべての男子の数にしたがって数えられた彼らのうちの者は、七千五百人であった。
23 ゲルション人の氏族は、幕屋の後ろ、すなわち西側に宿営しなければならない。

24 ゲルション人の父祖の家の長は、ラエルの子エルヤサフであった。
25 会見の天幕におけるゲルションの子らの任務は、幕屋、天幕、その覆い、会見の天幕の入口の垂れ幕、
26 庭の掛け幕、幕屋と祭壇の周りにある庭の入口の垂れ幕、およびそのすべての奉仕のためのひもであった。
27 ケハテからはアムラム人の氏族、イツハル人の氏族、ヘブロン人の氏族、ウジエル人の氏族が出た。これらがケハテ人の氏族である。
28 一か月以上のすべての男子の数にしたがうと、聖所の務めを守る者は八千六百人であった。
29 ケハテの子らの氏族は、幕屋の南側に宿営しなければならない。
30 ケハテ人の氏族の父祖の家の長は、ウジエルの子エリツァファンであった。
31 彼らの任務は、箱、机、燭台、祭壇、彼らが奉仕に用いる聖所の器具、垂れ幕、およびそのすべての奉仕であった。
32 祭司アロンの子エルアザルはレビ人の長たちの長であり、聖所の務めを守る者たちの監督であった。
33 メラリからはマフリ人の氏族とムシ人の氏族が出た。これらがメラリの氏族である。
34 彼らのうち数えられた者、すなわち一か月以上のすべての男子の数は、六千二百人であった。*
35 メラリの氏族の父祖の家の長は、アビハイルの子ツリエルであった。彼らは幕屋の北側に宿営しなければならない。
36 メラリの子らの割り当てられた任務は、幕屋の板、その横木、その柱、その台座、そのすべての器具、そのすべての奉仕、
37 庭の周囲の柱、その台座、その釘、そのひもであった。
38 幕屋の前、すなわち東側、会見の天幕の正面の日の出る方角に宿営する者は、モーセ、アロンとその子らであり、彼らはイスラエルの子らの務めとして、聖所の務めを守る者であった。近づく部外者は死刑に処されなければならない。
39 主の命令によってモーセとアロンが氏族ごとに数えたレビ人のうち、数えられたすべての者、すなわち一か月以上のすべての男子は、二万二千人であった。
40 主はモーセに言われた。「イスラエルの子らの長子であるすべての男子を、一か月以上から数え、彼らの名前の数を調べなさい。
41 あなたはイスラエルの子らの中のすべての長子の代わりに、わたしのためにレビ人をーーわたしは主であるーー取りなさい。また、イスラエルの子らの家畜のすべての初子の代わりに、レビ人の家畜を取りなさい。」
42 モーセは、主が命じられたとおりに、イスラエルの子らの中のすべての長子を数えた。
43 名前の数にしたがって一か月以上から数えられたすべての長子である男子は、二万二千二百七十三人であった。
44 主はモーセに語って言われた。
45 「イスラエルの子らの中のすべての長子の代わりにレビ人を、彼らの家畜の代わりにレビ人の家畜を取りなさい。レビ人はわたしのものとなる。わたしは主である。
46 レビ人の数を超えているイスラエルの子らの長子二百七十三人の贖いとして、

* **3:34 3:34** 22,000は有効数字2桁に丸められた合計である。上記で挙げられたゲルション人、ケハテ人、メラリ人の

47 あなたは一人につき五シェケルずつ取りなさい。聖所のシェケル†
にしたがってこれらを取りなさい（一シェケルは二十ゲラ‡である）。
48 そして、その余剰の者たちが贖われるためのその銀を、アロンとその子ら
に渡しなさい。」
49 モーセは、レビ人によって贖われた者たちの数を超えた者たちから、贖い
の銀を取った。
50 彼はイスラエルの子らの長子からその銀、すなわち聖所のシェケルにした
がって千三百六十五シェケル§を取った。
51 モーセは主の言葉にしたがい、主がモーセに命じられたとおりに、その
贖いの銀をアロンとその子らに渡した。

4

1 主はモーセとアロンに語って言われた。
2 「レビの子らの中から、ケハテの子らを氏族ごと、父祖の家ごと
に数え上げなさい。
3 三十歳以上から五十歳までの、会見の天幕の仕事をするための奉仕に入る
すべての者を数えなさい。
4 「会見の天幕における、最も聖なるものに関するケハテの子らの奉
仕は次のとおりである。
5 宿営が進むとき、アロンとその子らは中に入り、仕切り
の垂れ幕を取り外し、あかしの箱をそれで覆いなさい。
6 その上にアザラシの皮の覆いを置き、その上に青い布を広げ、そ
の棒を通しなさい。
7 「彼らは臨在のパンの机の上に青い布を広げ、その上に皿、さじ、鉢、お
よび注ぐための杯を置きなさい。また、絶えず供えるパンをその上に置かなけ
ればならない。
8 彼らはその上に緋色の布を広げ、アザラシの皮の覆いでそれを覆い、そ
の棒を通しなさい。
9 「彼らは青い布を取り、光のための燭台と、そのともしび、芯切りばさ
み、芯取り皿、および奉仕に用いるすべての油の器を覆いなさい。
10 それとすべての器具をアザラシの皮の覆いの中に入れ、担ぎ台の上に載せ
なさい。
11 「金の祭壇の上に彼らは青い布を広げ、アザラシの皮の覆いでそれ
を覆い、その棒を通しなさい。
12 「彼らが聖所で奉仕するために用いるすべての奉仕の器具を取り、それら
を青い布に入れ、アザラシの皮の覆いで覆い、担ぎ台の上に載せなさい。
13 「祭壇から灰を取り除き、その上に紫の布を広げなさい。
14 その上に、祭壇の奉仕に用いるすべての器具、すなわち火皿、肉刺し、灰
取り用のシャベル、鉢など、祭壇のすべての器具を置きなさい。その上にアザ
ラシの皮の覆いを広げ、その棒を通しなさい。
15 「宿営が進むとき、アロンとその子らが聖所と聖所のすべての器
具を覆い終わった後、ケハテの子らがそれを担ぐために来なければならな
い。しかし彼らは、死ぬことのないように、聖所のものに触れてはならない。
会見の天幕に属するこれらのものが、ケハテの子らが担ぐ荷である。
16 「祭司アロンの子エルアザルの任務は、光のための油、芳ばしい香、絶え
ずささげる穀物のささげ物、および注ぎ油であり、幕屋全体と、そこにあるす
べてのもの、すなわち聖所とその器具に関する務めである。」
17 主はモーセとアロンに語って言われた。

---

† **3:47** **3:47** 1シェケルは約10グラム、または約0.35オンスである。 ‡ **3:47**
3:47 1ゲラは約0.5グラム、または約7.7グレーンである。 § **3:50** **3:50**
1シェケルは約10グラム、または約0.35オンスであるため、1365シェケルは約13.65キログラム、または約30ポンドで

18 「レビ人の中から、ケハテ人の諸氏族の部族を断ち切ってはならない。
19 彼らが最も聖なるものに近づくとき、死なずに生きるために、彼らに次のようにしなさい。アロンとその子らは中に入り、それぞれにその奉仕とその荷を割り当てなさい。
20 しかし彼らは、一瞬でも聖所を見るために中に入ってはならない。彼らが死なないためである。」
21 主はモーセに語って言われた。
22 「ゲルションの子らについても、父祖の家ごと、氏族ごとに数え上げなさい。
23 三十歳以上から五十歳までの、会見の天幕の仕事をするための奉仕に入るすべての者を数えなさい。
24 「ゲルション人の氏族が奉仕し、荷を担ぐための奉仕は次のとおりである。
25 彼らは幕屋の幕と会見の天幕、その覆い、その上にあるアザラシの皮の覆い、会見の天幕の入口の垂れ幕を運びなさい。
26 また、庭の掛け幕、幕屋と祭壇の周りにある庭の入口の垂れ幕、そのひも、彼らの奉仕のためのすべての器具、およびそれらを用いて行われるすべてのものを運びなさい。彼らはそこで奉仕しなければならない。
27 アロンとその子らの命令によって、ゲルション人の子らのすべての奉仕は、そのすべての荷とすべての奉仕において行われなければならない。あなたがたは彼らのすべての担うべき務めを割り当てなさい。
28 これが会見の天幕におけるゲルション人の子らの氏族の奉仕である。彼らの任務は、祭司アロンの子イタマルの監督のもとにある。
29 「メラリの子らについては、氏族ごと、父祖の家ごとに彼らを数えなさい。
30 三十歳以上から五十歳までの、会見の天幕の仕事をするための奉仕に入るすべての者を数えなさい。
31 会見の天幕における彼らのすべての奉仕にしたがって、彼らの担う荷の務めは次のとおりである。すなわち、幕屋の板、その横木、その柱、その台座、
32 その周りの庭の柱、その台座、その釘、そのひもと、それらのすべての器具、およびすべての奉仕に用いるものである。あなたがたは彼らの担う荷の務めとなる器具を、名前を挙げて割り当てなさい。
33 これが、祭司アロンの子イタマルの手による、会見の天幕における彼らのすべての奉仕にしたがう、メラリの子らの氏族の奉仕である。」
34 モーセとアロン、および会衆の長たちは、ケハテ人の子らをその氏族ごと、父の家ごとに数えた。
35 三十歳以上から五十歳までの、会見の天幕の仕事のための奉仕に入るすべての者である。
36 氏族ごとに数えられた者は、二千七百五十人であった。
37 これらは、会見の天幕で奉仕するケハテ人の氏族のうち数えられたすべての者であり、モーセを通しての主の命令にしたがって、モーセとアロンが数えた者たちである。
38 ゲルションの子らで、氏族ごと、父の家ごとに数えられた者は、
39 三十歳以上から五十歳までの、会見の天幕の仕事のための奉仕に入るすべての者、
40 すなわち、氏族ごと、父の家ごとに数えられた者は、二千六百三十人であった。
41 これらは、会見の天幕で奉仕するゲルションの子らの氏族のうち数えられたすべての者であり、主の命令にしたがって、モーセとアロンが数えた者たちである。
42 メラリの子らの氏族で、氏族ごと、父の家ごとに数えられた者は、

43 三十歳以上から五十歳までの、会見の天幕の仕事のための奉仕に入るすべての者、
44 すなわち、氏族ごとに数えられた者は、三千二百人であった。
45 これらは、モーセを通しての主の命令にしたがって、モーセとアロンが数えたメラリの子らの氏族のうちの数えられた者たちである。
46 モーセとアロン、およびイスラエルの長たちが、レビ人を氏族ごと、父の家ごとに数えたすべての者、
47 三十歳以上から五十歳までの、会見の天幕で奉仕の仕事と荷を担ぐ仕事をするために加わったすべての者、
48 すなわち数えられた者は、八千五百八十人であった。
49 主の命令にしたがって、彼らはモーセによって、それぞれその奉仕とその荷にしたがって数えられた。主がモーセに命じられたとおりに、彼らはモーセによって数えられた。

5

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに命じて、すべての規定の病の者、漏出のある者、死者によって汚れた者を宿営から出させなさい。
3 男であれ女であれ、あなたがたは彼らを宿営の外に出さなければならない。わたしがそのただ中に住む彼らの宿営を、彼らが汚さないためである。」
4 イスラエルの子らはそのように行い、彼らを宿営の外に出した。主がモーセに語られたとおりに、イスラエルの子らは行った。
5 主はモーセに語って言われた。
6 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『男であれ女であれ、人が犯すどのような罪でも犯して主に対して背信の罪を犯し、その者が有罪となったなら、
7 その者は自分の犯した罪を告白しなければならない。そして自分の咎の償いを全額支払い、さらにその五分の一を加えて、自分が罪を犯した相手に渡さなければならない。
8 しかし、その人に咎の償いを渡すべき近親者がいないなら、主に渡されるその咎の償いは、彼のために贖罪を行うための贖罪の雄羊とともに、祭司のものとなる。
9 イスラエルの子らが祭司のもとに持って来るすべての聖なるものの持ち上げるささげ物は、祭司のものとなる。
10 それぞれの人の聖なるものは、その人のものとなる。人が祭司に与えるものはすべて、祭司のものとなる。』」
11 主はモーセに語って言われた。
12 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『もし、ある人の妻が迷い出て、夫に対して不実を行い、
13 別の男が彼女と肉体的に寝たのに、それが夫の目から隠され、そのことが隠れたままで、彼女が汚され、彼女に対する証人もなく、彼女が現場で捕らえられなかった場合、
14 夫にねたみの霊が臨み、妻に対してねたみを抱き、彼女が実際に汚されていた場合、あるいは、夫にねたみの霊が臨み、妻に対してねたみを抱いたが、彼女が汚されていなかった場合、
15 その男は妻を祭司のもとに連れて行き、彼女のためのささげ物として、十分の一エパ*の大麦の粉を持って来なければならない。彼はその上に油を注いではならず、乳香を添えてもならない。それはねたみのための穀物のささげ物であり、咎を思い起こさせる記念の穀物のささげ物だからである。
16 祭司は彼女を近づけ、主の前に立たせなさい。

* **5:15 5:15** ―エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

17 祭司は土の器に聖なる水を取り、幕屋の床にあるちりを少し取って、その水の中に入れなさい。
18 祭司はその女を主の前に立たせ、その女の頭の髪をほどき、記念の穀物のささげ物、すなわちねたみのための穀物のささげ物を彼女の両手に置きなさい。祭司は、呪いをもたらす苦い水を自分の手に持ちなさい。
19 祭司は彼女に誓わせ、その女に言いなさい。『もし他の男があなたと寝たことがなく、あなたが夫の権威の下にありながら迷い出て汚れたことがないなら、呪いをもたらすこの苦い水から免れなさい。
20 しかし、もしあなたが夫の権威の下にありながら迷い出て、自分を汚し、夫以外の男があなたと寝たのなら――』
21 そのとき、祭司はその女に呪いの誓いを立てさせ、祭司はその女に言いなさい。『主があなたのももを衰えさせ、腹を膨れさせて、あなたをあなたの民の中で呪いと誓いの的とされるように。
22 呪いをもたらすこの水があなたの内臓に入り、腹を膨れさせ、ももを衰えさせますように。』その女は『アーメン、アーメン』と言いなさい。
23 「『祭司はこれらの呪いを巻物に書き記し、それを苦い水の中に洗い落としなさい。
24 彼はその女に、呪いをもたらす苦い水を飲ませなさい。すると、呪いをもたらす水は彼女の中に入って苦いものとなる。
25 祭司はその女の手からねたみのための穀物のささげ物を取り、その穀物のささげ物を主の前で揺り動かし、祭壇に持って行きなさい。
26 祭司はその穀物のささげ物から記念の部分として一握りを取り、祭壇の上で燃やしなさい。その後、女にその水を飲ませなさい。
27 彼が彼女にその水を飲ませたとき、次のようになる。もし彼女が汚されており、夫に対して背信の罪を犯していたなら、呪いをもたらす水が彼女の中に入って苦いものとなり、彼女の腹は膨れ、ももは衰える。その女は自分の民の中で呪いの的となる。
28 しかし、もしその女が汚されておらず、きよいなら、彼女は罰を免れ、子を宿す。†
29 「『これがねたみについての律法である。すなわち、妻が夫の権威の下にありながら迷い出て自分を汚した場合、
30 あるいは、男にねたみの霊が臨み、妻に対してねたみを抱いた場合である。彼はその女を主の前に立たせ、祭司は彼女にこの律法をすべて行いなさい。
31 男は咎を免れ、その女は自分の咎を負う。』」

6

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『男であれ女であれ、主のために自らを聖別する特別な誓願、すなわちナジル人の誓願を立てる場合、
3 その人はぶどう酒や強い酒を断たなければならない。ぶどう酒の酢や発酵した飲み物の酢を飲んではならず、どんなぶどうの汁も飲んではならない。また、生のぶどうも干しぶどうも食べてはならない。
4 自らを聖別している全期間、種から皮に至るまで、ぶどうの木から作られるものは一切食べてはならない。
5 『自らを聖別する誓願の全期間、主のために自らを聖別する日々が満ちるまで、頭に剃刀を当ててはならない。彼は聖なる者でなければならない。彼は自分の頭の髪の房を長く伸ばさなければならない。
6 『主のために自らを聖別している全期間、死体に近づいてはならない。

† **5:28 5:28** または「種」。

7 父、母、兄弟、姉妹が死んだときであっても、彼らのために自分を汚してはならない。彼の神*への聖別のしるしが彼の頭にあるからである。
8 自らを聖別している全期間、彼は主にとって聖なる者である。
9 『もしだれかが彼のそばで突然死に、彼が自らを聖別している頭を汚したなら、彼は自分がきよめられる日に頭を剃らなければならない。第七の日にそれを剃らなければならない。
10 第八の日に、彼は二羽の山鳩、または二羽の家鳩の雛を、会見の天幕の入口にいる祭司のもとに持って来なければならない。
11 祭司は一羽を贖罪のささげ物として、もう一羽を全焼のささげ物としてささげ、彼が死者のゆえに罪を犯したことについて彼のために贖罪を行い、その同じ日に彼の頭を聖なるものとしなさい。
12 彼は自らを聖別する日々を主のために改めて始め、代償のささげ物として一歳の雄の子羊を持って来なければならない。しかし、彼の聖別が汚されたため、以前の日々は無効となる。
13 『ナジル人についての律法は次の通りである。自らを聖別する日々が満ちたとき、彼は会見の天幕の入口に連れて来られなければならない。
14 彼は主へのささげ物として、全焼のささげ物のために傷のない一歳の雄の子羊一頭、贖罪のささげ物のために傷のない一歳の雌の子羊一頭、和解のいけにえのために傷のない雄羊一頭をささげ、
15 油を混ぜた上質の小麦粉の種なしの菓子と、油を塗った種なしの薄焼きパンを入れた種なしパンの籠を、それらに伴う穀物のささげ物と飲み物のささげ物とともにささげなさい。
16 祭司はそれらを主の前にささげ、彼の贖罪のささげ物と全焼のささげ物をささげなさい。
17 祭司は種なしパンの籠とともに、主への和解のいけにえのささげ物として雄羊をささげなさい。祭司は、それに伴う穀物のささげ物と飲み物のささげ物もささげなさい。
18 ナジル人は会見の天幕の入口で自らを聖別していた頭を剃り、その聖別の頭の髪を取って、和解のいけにえのささげ物の下にある火の上に置きなさい。
19 祭司は雄羊の煮た肩の肉と、籠の中から種なしの菓子を一つ、種なしの薄焼きパンを一つ取り、ナジル人が自らを聖別していた頭を剃った後で、それらを彼の手の上に置きなさい。
20 祭司は主の前で、それらを揺り動かすささげ物として揺り動かしなさい。これらは、揺り動かされた胸と持ち上げられたももとともに、祭司にとって聖なるものである。その後、ナジル人はぶどう酒を飲んでもよい。
21 『これが、誓願を立てるナジル人と、彼が自らを聖別したことのために主にささげるささげ物についての律法である。これは彼の手に入れられるものに加えてささげるものである。彼が立てる誓願に従って、自らを聖別する律法に従って行わなければならない。』」
22 主はモーセに語って言われた。
23 「アロンとその子らに語って言いなさい。『あなたがたはこのようにイスラエルの子らを祝福し、彼らに言いなさい。
24 「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
25 主が御顔をあなたに輝かせ、
あなたを恵まれるように。
26 主が御顔をあなたに向け、
あなたに平安を与えられるように。」』
27 「彼らはわたしの名をイスラエルの子らの上に置く。わたしは彼らを祝福する。」

* **6:7 6:7** 「神」と訳されているヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

7

1 モーセが幕屋を建て終え、それとそのすべての器具に油を注いで聖別し、
祭壇とそのすべての器具にも油を注いで聖別したその日に、
2 イスラエルの長たち、すなわち彼らの父の家の頭たちがささげ物をした。
彼らは部族の長たちであり、数えられた者たちを監督していた者たちであった。
3 彼らは主の前にささげ物を持って来た。それは覆いのある荷車六台と牛十
二頭であり、長たち二人につき荷車一台、一人につき牛一頭であった。彼らは
それらを幕屋の前に差し出した。
4 主はモーセに語って言われた。
5 「会見の天幕の奉仕に用いるために、彼らからこれらを受け取りなさ
い。そして、それらをレビ人に、それぞれその奉仕に応じて与えなさい。」
6 モーセは荷車と牛を受け取り、それらをレビ人に与えた。
7 彼は二台の荷車と四頭の牛を、ゲルションの子らに、その奉仕に応じ
て与えた。
8 彼は四台の荷車と八頭の牛を、祭司アロンの子イタマルの指揮のもとにあ
るメラリの子らに、その奉仕に応じて与えた。
9 しかしケハテの子らには何も与えなかった。聖所の奉仕が彼らの務めであ
り、彼らは肩に担いで運ばなければならなかったからである。
10 祭壇に油が注がれた日に、長たちは祭壇の奉献のためにささげ物をした。
長たちは祭壇の前に自分たちのささげ物を差し出した。
11 主はモーセに言われた。「彼らは祭壇の奉献のために、長たちが一日につ
き一人ずつ、自分のささげ物をささげなければならない。」
12 最初の日に自分のささげ物をささげたのは、ユダの部族の、アミナダブ
の子ナフションであった。
13 彼のささげ物は、
重さ百三十シェケル*の銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、
穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
14 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
15 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
16 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
17 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一
歳の雄の子羊五頭。これがアミナダブの子ナフションのささげ物であった。
18 第二の日には、イッサカルの長であるツアルの子ネタネルがささげ物をし
た。
19 彼は自分のささげ物としてささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、
穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
20 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
21 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
22 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
23 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一
歳の雄の子羊五頭。これがツアルの子ネタネルのささげ物であった。
24 第三の日には、ゼブルンの子らの長であるヘロンの子エリアブが、
25 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、
穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。

---

* **7:13 7:13** ―シェケルは約10グラム、または約0.35オンスである。

26 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
27 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
28 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
29 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがヘロンの子エリアブのささげ物であった。
30 第四の日には、ルベンの子らの長であるシェデウルの子エリツルが、
31 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
32 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
33 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
34 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
35 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがシェデウルの子エリツルのささげ物であった。
36 第五の日には、シメオンの子らの長であるツリシャダイの子シェルミエルが、
37 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
38 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
39 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
40 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
41 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがツリシャダイの子シェルミエルのささげ物であった。
42 第六の日には、ガドの子らの長であるデウエルの子エリアサフが、
43 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
44 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
45 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
46 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
47 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがデウエルの子エリアサフのささげ物であった。
48 第七の日には、エフライムの子らの長であるアミフデの子エリシャマが、
49 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
50 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
51 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
52 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
53 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがアミフデの子エリシャマのささげ物であった。
54 第八の日には、マナセの子らの長であるペダツルの子ガマリエルが、
55 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
56 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。

57 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
58 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
59 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがペダツルの子ガマリエルのささげ物であった。
60 第九の日には、ベニヤミンの子らの長であるギデオニの子アビダンが、
61 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
62 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
63 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
64 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
65 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがギデオニの子アビダンのささげ物であった。
66 第十の日には、ダンの子らの長であるアミシャダイの子アヒエゼルが、
67 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
68 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
69 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
70 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
71 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがアミシャダイの子アヒエゼルのささげ物であった。
72 第十一の日には、アシェルの子らの長であるオクランの子パギエルが、
73 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
74 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
75 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
76 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
77 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがオクランの子パギエルのささげ物であった。
78 第十二の日には、ナフタリの子らの長であるエナンの子アヒラが、
79 自分のささげ物をささげた。
重さ百三十シェケルの銀の皿一つ、
聖所のシェケルによる七十シェケルの銀の鉢一つであり、これら二つには、穀物のささげ物として油を混ぜた上質の小麦粉が満たされていた。
80 香で満たされた十シェケルの金のさじ一つ。
81 全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊一頭。
82 贖罪のささげ物として、雄山羊一頭。
83 和解のいけにえのささげ物として、牛二頭、雄羊五頭、雄山羊五頭、一歳の雄の子羊五頭。これがエナンの子アヒラのささげ物であった。
84 祭壇に油が注がれた日における、イスラエルの長たちによる祭壇の奉献のささげ物はこれである。すなわち、銀の皿十二、銀の鉢十二、金のさじ十二。
85 銀の皿はそれぞれ百三十シェケル、鉢はそれぞれ七十シェケルであった。器の銀はすべて合わせて、聖所のシェケルにより二千四百シェケルであった。
86 香で満たされた十二の金のさじは、聖所のシェケルによりそれぞれ十シェケルであった。さじの金はすべて合わせて、百二十シェケルであった。

87 全焼のささげ物のための牛はすべて合わせて十二頭、雄羊は十二頭、一
歳の雄の子羊は十二頭、およびそれらに伴う穀物のささげ物であった。贖罪の
ささげ物のための雄山羊は十二頭であった。
88 和解のいけにえのささげ物のための牛はすべて合わせて二十四頭、雄
羊は六十頭、雄山羊は六十頭、一歳の雄の子羊は六十頭であった。これが祭
壇に油が注がれた後の、祭壇の奉献のささげ物であった。
89 モーセが主と語るために会見の天幕に入ったとき、彼は、あかし
の箱の上にある贖いの座の上、二つのケルビムの間から、自分に語りかける御
声を聞いた。主は彼に語られた。

8

1 主はモーセに語って言われた。
2 「アロンに語って言いなさい。『あなたがともしびをともすとき、七つの
ともしびは燭台の前面を照らすようにしなければならない。』」
3 アロンはそのように行った。主がモーセに命じられたとおりに、彼は燭
台の前面を照らすようにともしびをともした。
4 燭台の作りは次のようであった。それは金の打ち出し細工で、その台座か
ら花に至るまで打ち出し細工であった。主がモーセに示された型に従って、
彼は燭台を作った。
5 主はモーセに語って言われた。
6 「イスラエルの子らの中からレビ人を取り、彼らをきよめなさい。
7 あなたは彼らをきよめるために、このように彼らに行わなければならな
い。彼らにきよめの水を振りかけ、彼らに全身に剃刀を当てさせ、衣服を洗わ
せて、自らをきよめさせなさい。
8 それから、彼らに若い牛一頭と、それに伴う穀物のささげ物、すなわ
ち油を混ぜた上質の小麦粉を取らせなさい。またあなたは、贖罪のささげ物と
して、もう一頭の若い牛を取りなさい。
9 あなたはレビ人を会見の天幕の前に連れて来なければならない。また、イ
スラエルの子らの全会衆を集めなければならない。
10 あなたはレビ人を主の前に近づけなさい。イスラエルの子らはレ
ビ人の上に手を置かなければならない。
11 アロンはイスラエルの子らを代表して、主の前でレビ人を揺り動かすささ
げ物としてささげなさい。彼らが主への奉仕を行うためである。
12 レビ人は二頭の牛の頭に手を置かなければならない。そして、レビ人のた
めに贖罪を行うため、あなたは一頭を贖罪のささげ物として、もう一頭を全
焼のささげ物として主にささげなさい。
13 あなたはレビ人をアロンとその子らの前に立たせ、彼らを揺り動かすささ
げ物として主にささげなさい。
14 このようにして、あなたはイスラエルの子らの中からレビ人をえり分けな
さい。レビ人はわたしのものとなる。
15 「その後、レビ人は会見の天幕の奉仕を行うために入らなければならな
い。あなたは彼らをきよめ、揺り動かすささげ物としてささげなければならな
い。
16 彼らはイスラエルの子らの中から、完全にわたしに与えられているからで
ある。わたしは、胎を開くすべての者、すなわちイスラエルの子らのすべて
の長子の代わりに、彼らをわたしのものとして取った。
17 イスラエルの子らの長子はみな、人であれ動物であれ、わたしのものだか
らである。わたしがエジプトの地で長子をすべて打ち殺した日に、わたし
は彼らをわたしのために聖別した。
18 わたしは、イスラエルの子らの中のすべての長子の代わりにレビ人を取っ
た。

19 わたしは、イスラエルの子らの中から、レビ人をアロンとその子らへの贈り物として与えた。それは彼らが会見の天幕でイスラエルの子らの奉仕を行い、イスラエルの子らのために贖罪を行うためであり、また、イスラエルの子らが聖所に近づくときに、イスラエルの子らの中に災いが起こらないようにするためである。」
20 モーセとアロン、およびイスラエルの子らの全会衆は、レビ人にそのように行った。主がレビ人についてモーセに命じられたすべてのことと全く同じように、イスラエルの子らは彼らに対して行った。
21 レビ人は罪からきよめられ、衣服を洗った。そしてアロンは彼らを主の前で揺り動かすささげ物としてささげた。アロンは彼らをきよめるために彼らのための贖罪を行った。
22 その後、レビ人は会見の天幕で、アロンとその子らの前で奉仕を行うために入った。主がレビ人についてモーセに命じられたとおりに、彼らはレビ人に対して行った。
23 主はモーセに語って言われた。
24 「レビ人に割り当てられることは次の通りである。二十五歳以上の者は、会見の天幕の働きにおいて奉仕を行うために入らなければならない。
25 五十歳からは、彼らは働きの奉仕から退き、もはや奉仕してはならない。
26 ただし、務めを守るために、会見の天幕で兄弟たちを補佐することはできるが、奉仕の仕事を行ってはならない。あなたはレビ人の務めについて、彼らにこのように行わせなければならない。」

9

1 エジプトの地から出た後の第二年の第一の月に、主はシナイの荒野でモーセに告げて言われた。
2 「イスラエルの人々に、その定められた時に過越の祭りを守らせなさい。
3 この月の十四日の夕暮れに、あなたがたはその定められた時にそれを守らなければならない。そのすべての掟とすべての定めに従って、それを守らなければならない。」
4 モーセはイスラエルの人々に、過越の祭りを守るように語った。
5 彼らは第一の月の十四日の夕暮れに、シナイの荒野で過越の祭りを守った。主がモーセに命じられたすべてのことと全く同じように、イスラエルの人々は行った。
6 さて、人間の死体によって汚れ、その日に過越の祭りを守ることができない人たちがいた。彼らはその日、モーセとアロンの前に進み出た。
7 その人たちは彼に言った。「私たちは人間の死体によって汚れています。なぜ私たちは、定められた時にイスラエルの人々の中で主へのささげ物をささげることを阻まれなければならないのですか。」
8 モーセは彼らに言った。「待っていなさい。主があなたがたについて何を命じられるかを聞いてみよう。」
9 主はモーセに告げて言われた。
10 「イスラエルの人々に告げて言いなさい。『あなたがた、あるいはあなたがたの代々の子孫のうち、だれかが死体によって汚れているか、遠い旅に出ている場合でも、その人は主への過越の祭りを守らなければならない。
11 彼らは第二の月の十四日の夕暮れにそれを守り、種なしパンと苦菜とともにそれを食べなければならない。
12 朝までそれを少しでも残しておいてはならず、その骨を一本でも折ってはならない。過越の祭りのすべての掟に従って、それを守らなければならない。
13 しかし、きよい人で旅にも出ていないのに過越の祭りを守らない者がいれば、その魂は自分の民の中から断たれなければならない。その人は定められた時に主へのささげ物をささげなかったので、自分の罪を負う。

14 もし寄留者があなたがたの間に住んでおり、主への過越の祭りを守りたいと願うなら、過越の祭りの掟とその定めに従って、そのように行わなければならない。寄留者にも、その地で生まれながらの者にも、あなたがたは一つの同じ掟を持たなければならない。』」
15 幕屋が建てられた日、雲があかしの天幕である幕屋を覆った。夕暮れには、それは幕屋の上にあり、朝まで火のような外観を見せていた。
16 それは常にそのようであった。雲がそれを覆い、夜には火のような外観を見せた。
17 雲が天幕の上から昇るときには、その後でイスラエルの人々は旅立った。雲がとどまる場所で、イスラエルの人々は宿営した。
18 イスラエルの人々は主の命令によって旅立ち、主の命令によって宿営した。雲が幕屋の上にとどまっている間、彼らは宿営し続けた。
19 雲が幕屋の上に何日もとどまるときは、イスラエルの人々は主の務めを守り、旅立たなかった。
20 雲が数日しか幕屋の上にないこともあった。そのときも主の命令に従って彼らは宿営し、主の命令に従って旅立った。
21 雲が夕暮れから朝までしかないこともあった。朝になって雲が昇ると、彼らは旅立った。昼であれ夜であれ、雲が昇ると彼らは旅立った。
22 二日であれ、一か月であれ、一年であれ、雲が幕屋の上にとどまっている間は、イスラエルの人々は宿営し続け、旅立たなかった。しかし、それが昇ると彼らは旅立った。
23 彼らは主の命令によって宿営し、主の命令によって旅立った。彼らはモーセを通した主の命令に従って、主の務めを守った。

10

1 主はモーセに告げて言われた。
2 「銀のラッパを二つ作りなさい。それは打ち出し細工で作らなければならない。あなたはそれを、会衆を呼び集めるため、また宿営を旅立たせるために用いなさい。
3 両方が吹き鳴らされると、全会衆は会見の天幕の入口にあるあなたのもとに集まらなければならない。
4 もし一つだけ吹き鳴らされたなら、イスラエルの千人の部隊の長である指導者たちがあなたのもとに集まらなければならない。
5 あなたがたが警告のラッパを吹き鳴らすと、東側に宿営している陣営が旅立たなければならない。
6 二度目に警告のラッパを吹き鳴らすと、南側に宿営している陣営が旅立たなければならない。彼らが旅立つときには、警告のラッパを吹き鳴らさなければならない。
7 しかし、集会を呼び集めるときには、ラッパを吹き鳴らさなければならないが、警告の音を出してはならない。
8 祭司であるアロンの子らが、そのラッパを吹き鳴らさなければならない。これはあなたがたの代々にわたっての永遠の掟となる。
9 あなたがたの地で、あなたがたをしいたげる敵に対して戦いに出るときは、ラッパで警告を吹き鳴らさなければならない。そうすれば、あなたがたはあなたがたの神、主の御前で覚えられ、敵から救われる。
10 「また、あなたがたの喜びの日、定められた祭り、そして月の初めにも、全焼のささげ物と和解のいけにえのささげ物の上でラッパを吹き鳴らさなければならない。それは、あなたがたの神の御前で、あなたがたの記念となる。わたしはあなたがたの神、主である。」
11 第二年の第二の月の二十日に、あかしの幕屋の上から雲が昇った。
12 イスラエルの人々はシナイの荒野を出発して旅立った。そして雲はパランの荒野にとどまった。
13 彼らはモーセを通した主の命令によって、初めて旅立った。

14 先頭に立って旅立ったのは、ユダの子らの宿営の旗であり、その部隊ごとに進んだ。その部隊の長は、アミナダブの子ナフションであった。
15 イッサカルの子らの部族の部隊の長は、ツアルの子ネタネルであった。
16 ゼブルンの子らの部族の部隊の長は、ヘロンの子エリアブであった。
17 幕屋が降ろされると、幕屋を担ぐゲルションの子らとメラリの子らが旅立った。
18 次に、ルベンの宿営の旗が、その部隊ごとに旅立った。その部隊の長は、シェデウルの子エリツルであった。
19 シメオンの子らの部族の部隊の長は、ツリシャダイの子シェルミエルであった。
20 ガドの子らの部族の部隊の長は、デウエルの子エリアサフであった。
21 次にケハテ人が聖所を担いで旅立った。彼らが到着する前に、ほかの者たちが幕屋を建てた。
22 次に、エフライムの子らの宿営の旗が、その部隊ごとに旅立った。その部隊の長は、アミフデの子エリシャマであった。
23 マナセの子らの部族の部隊の長は、ペダツルの子ガマリエルであった。
24 ベニヤミンの子らの部族の部隊の長は、ギデオニの子アビダンであった。
25 すべての宿営のしんがりとして、ダンの子らの宿営の旗が、その部隊ごとに旅立った。その部隊の長は、アミシャダイの子アヒエゼルであった。
26 アシェルの子らの部族の部隊の長は、オクランの子パギエルであった。
27 ナフタリの子らの部族の部隊の長は、エナンの子アヒラであった。
28 これがイスラエルの人々の旅の順序であり、彼らはその部隊ごとに進んだ。
29 モーセは、モーセのしゅうとであるミディアン人レウエルの子ホバブに言った。「私たちは、主が『それをあなたがたに与える』と言われた場所へ向かって旅立とうとしています。私たちと一緒に来てください。私たちはあなたを良く待遇します。主がイスラエルについて良いことを約束しておられるからです。」
30 彼はモーセに言った。「私は行きません。自分の土地、私の親族のところへ帰ります。」
31 モーセは言った。「どうか私たちを離れないでください。あなたは、私たちが荒野のどこで宿営すべきかを知っており、私たちの目の代わりとなってくださるからです。
32 もし私たちと一緒に来てくださるなら、主が私たちになさるどんな良いことも、私たちは同じようにあなたにいたします。」
33 彼らは主の山から三日間の道のりを旅立った。主の契約の箱は、彼らの休息の場所を探すために、彼らの先頭に立って三日間の道のりを進んだ。
34 彼らが宿営を出発して旅立つとき、昼間は主の雲が彼らの上にあった。
35 箱が出発するとき、モーセは言った。「主よ、立ち上がってください。あなたの敵が散らされますように。あなたを憎む者たちが、御前から逃げ去りますように。」
36 それがとどまるとき、彼は言った。「主よ、イスラエルの幾千万の民のもとへお帰りください。」

11

1 民は主の耳に届くように不平を言った。主がそれを聞かれたとき、主の怒りが燃え上がり、主の火が彼らの間で燃え、宿営の端の一部を焼き尽くした。
2 民がモーセに叫び求めると、モーセは主に祈り、火は静まった。
3 主の火が彼らの間で燃えたため、その場所の名はタベラと呼ばれた。

4 彼らの間にいた混血の群衆は、激しい欲求に駆られた。イスラエルの人々もまた泣き出して言った。「誰が私たちに肉を食べさせてくれるだろうか。
5 私たちはエジプトでただで食べていた魚、きゅうり、すいか、にら、玉ねぎ、にんにくを思い出す。
6 しかし今、私たちの魂は干からびてしまった。このマナのほかに、見るものは何もない。」
7 マナはコリアンダーの種のようで、その見た目はブデリウムのようであった。
8 民は歩き回ってそれを集め、ひき臼でひくか、すり鉢でつき、
鍋で煮て、パン菓子を作った。その味は新鮮な油の味のようであった。
9 夜、宿営に露が降りるとき、マナもその上に降った。
10 モーセは、民がその家族ごとに、それぞれ自分の天幕の入口で泣いているのを聞いた。主の怒りは激しく燃え上がり、モーセも不快に思った。
11 モーセは主に言った。「なぜあなたは、あなたのしもべをこのようにひどく扱われるのですか。なぜ私はあなたの御前で恵みを見出せず、このすべての民の重荷を私に負わせられるのですか。
12 私がこのすべての民を身ごもったのでしょうか。私が彼らを産み出したので、あなたが私に、『乳母が乳飲み子を抱くように、彼らをあなたの胸に抱き、あなたが彼らの父祖たちに誓った地へ連れて行け』と言われるのですか。
13 どこで私は肉を手に入れて、このすべての民に与えることができるでしょうか。彼らは私の前で泣き、『私たちに肉を与えて食べさせよ』と言うのです。
14 私一人では、このすべての民を背負うことはできません。私には重すぎるからです。
15 もしあなたが私をこのように扱われるのなら、どうか今すぐ私を殺してください。私があなたの御前で恵みを見出しているのなら、私のこの惨めさを見ないで済むようにしてください。」
16 主はモーセに言われた。「イスラエルの長老たちの中から、あなたが民の長老であり、彼らの上の役人であることを知っている七十人の者たちをわたしのところに集めなさい。彼らを会見の天幕に連れて来て、そこであなたとともに立たせなさい。
17 わたしはそこに降りて行って、あなたと語る。わたしはあなたの上にある霊の一部を取り、彼らの上に置く。彼らはあなたとともに民の重荷を背負い、あなたが一人で背負うことのないようにする。
18 「民に言いなさい。『明日のために自らをきよめなさい。あなたがたは肉を食べる。あなたがたが主の耳に届くように泣き、「誰が私たちに肉を食べさせてくれるだろうか。エジプトにいたときは良かった」と言ったからである。それゆえ、主はあなたがたに肉を与え、あなたがたは食べる。
19 あなたがたは一日、二日、五日、十日、あるいは二十日だけ食べるのではない。
20 丸一か月の間、それがあなたがたの鼻からあふれ出て、嫌になるまで食べる。あなたがたが、自分たちの間にいる主を拒み、主の御前で泣いて、「なぜ私たちはエジプトから出てきたのだろうか」と言ったからである。』」
21 モーセは言った。「私と一緒にいる民は、徒歩の男だけで六十万人です。それなのに、あなたは『彼らに肉を与え、丸一か月の間食べさせる』と言われます。
22 彼らに十分なように、羊や牛の群れを屠るというのでしょうか。あるいは、彼らに十分なように、海の魚をすべて集めるというのでしょうか。」
23 主はモーセに言われた。「主の手は短くなったというのか。わたしの言葉があなたに実現するかどうか、今にわかる。」

24 モーセは外に出て、主の言葉を民に告げた。彼は民の長老たちの中から七十人を集め、彼らを天幕の周りに立たせた。
25 主は雲の中に降りて来て、彼に語られた。そして彼の上にある霊の一部を取って、七十人の長老たちに与えた。霊が彼らの上にとどまったとき、彼らは預言したが、それを再び行うことはなかった。
26 しかし、二人の者が宿営に残っていた。一人の名はエルダド、もう一人の名はメダドであった。霊が彼らの上にとどまった。彼らも登録された者たちであったが、天幕には出て行かず、宿営の中で預言した。
27 若者が走って来てモーセに告げて言った。「エルダドとメダドが宿営の中で預言しています！」
28 モーセのしもべであり、選ばれた者たちの一人であるヌンの子ヨシュアが答えて言った。「わが主モーセよ、彼らをやめさせてください！」
29 モーセは彼に言った。「あなたは私のためにねたんでいるのか。主の民がみな預言者となり、主が彼らの上に霊を置いてくだされればよいのに！」
30 そしてモーセとイスラエルの長老たちは宿営に戻った。
31 さて、主から風が吹き起こり、海からうずらをもたらして、宿営のそばに落とした。それは宿営の周り、こちら側に約一日の道のり、あちら側にも約一日の道のりの範囲に広がり、地表から約二キュビトの高さにまで及んだ。
32 民はその日一日中、またその夜も、そして次の日も一日中起き出して、うずらを集めた。最も少なく集めた者でも十ホメル*を集めた。彼らはそれを自分たちのために宿営の周り一面に広げた。
33 肉がまだ彼らの歯の間にあり、噛み砕かれる前に、主の怒りが民に向かって燃え上がり、主は非常に大きな疫病で民を打たれた。
34 その場所の名はキブロト・ハタアワ†と呼ばれた。そこで彼らは欲望に駆られた民を葬ったからである。
35 民はキブロト・ハタアワからハツェロトへ旅立ち、ハツェロトにとどまった。

12

1 ミリアムとアロンは、モーセがめとったクシュ人の女のことでモーセに逆らって語った。彼がクシュ人の女をめとっていたからである。
2 彼らは言った。「主はモーセを通してだけ語られたのだろうか。私たちを通しても語られたのではないか。」主はそれを聞かれた。
3 さて、モーセという人は、地の面にいるすべての人にまさって非常にへりくだった人であった。
4 主は突然、モーセとアロンとミリアムに言われた。「あなたがた三人は会見の天幕へ出て来なさい。」三人は出て行った。
5 主は雲の柱の中に降りて来て、天幕の入り口に立ち、アロンとミリアムを呼ばれた。二人が進み出ると、
6 主は言われた。「今、わたしの言葉を聞きなさい。あなたがたの中に預言者がいるなら、主であるわたしは幻の中で自分を彼に知らせ、夢の中で彼と語る。
7 わたしのしもべモーセはそうではない。彼はわたしの全家において忠実である。
8 彼とは、わたしは口と口で、はっきりと語り、謎によっては語らない。彼は主の姿を見る。それなのに、なぜあなたがたはわたしのしもべ、モーセに逆らって語ることを恐れなかったのか。」
9 主の怒りが彼らに向かって燃え上がり、主は去って行かれた。

---

* **11:32** **11:32** 1ホメルは約220リットル、または6ブッシェルである。 † **11:34** **11:34** キブロト・ハタアワは「欲望の墓」を意味する。

10 雲が天幕の上から離れ去ると、見よ、ミリアムは雪のように白く、規
定の病にかかっていた。アロンがミリアムを見ると、見よ、彼女は規定の病に
かかっていた。
11 アロンはモーセに言った。「ああ、わが主よ。私たちが愚かに行い、
罪を犯したこの罪を、どうか私たちに負わせないでください。
12 どうか彼女を、母の胎から出たときに肉が半分食い尽くされている死人の
ようにしないでください。」
13 モーセは主に叫び求めて言った。「神よ、どうか彼女を癒やしてくださ
い。どうかお願いします。」
14 主はモーセに言われた。「もし彼女の父が彼女の顔に唾を吐きかけたな
ら、彼女は七日間、恥じるべきではないか。彼女を七日間、宿
営の外に閉じ込めなさい。その後、彼女は再び連れ戻される。」
15 ミリアムは七日間、宿営の外に閉じ込められ、民はミリアムが連れ戻され
るまで旅立たなかった。
16 その後、民はハツェロトから旅立ち、パランの荒野で宿営した。

13

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らにわたしが与えるカナンの地を偵察させるために、
男たちを遣わしなさい。彼らの父祖の各部族から一人ずつ、すべて彼ら
の中の長である者を遣わさなければならない。」
3 モーセは主の命令にしたがい、パランの荒野から彼らを遣わした。彼ら
は皆、イスラエルの子らの頭である者たちであった。
4 彼らの名は次のとおりである。ルベンの部族からは、ザクルの子シャム
ア。
5 シメオンの部族からは、ホリの子シャファト。
6 ユダの部族からは、エフネの子カレブ。
7 イッサカルの部族からは、ヨセフの子イグアル。
8 エフライムの部族からは、ヌンの子ホシェア。
9 ベニヤミンの部族からは、ラフの子パルティ。
10 ゼブルンの部族からは、ソディの子ガディエル。
11 ヨセフの部族、すなわちマナセの部族からは、スシの子ガディ。
12 ダンの部族からは、ゲマリの子アミエル。
13 アシェルの部族からは、ミカエルの子セトル。
14 ナフタリの部族からは、ウォフシの子ナフビ。
15 ガドの部族からは、マキの子ゲウエル。
16 これらは、モーセがその地を偵察させるために遣わした男たちの名であ
る。モーセはヌンの子ホシェアをヨシュアと呼んだ。
17 モーセはカナンの地を偵察させるために彼らを遣わし、彼らに言った。
「この道を通って南の地へ上り、山地に上りなさい。
18 その地がどのようなものか、そこに住む民が強いか弱いか、少ないか多い
かを見なさい。
19 彼らが住んでいる地がどのようなものか、良いか悪いか、彼らが住んでい
る町々がどのようなものか、宿営か要塞かを見なさい。
20 その地がどのようなものか、肥えているか痩せているか、そこに木があるか
ないかを見なさい。勇気を出し、その地の果実をいくらか持って来なさ
い。」さて、その時期はぶどうの初なりの季節であった。
21 こうして彼らは上って行き、ツィンの荒野からハマトの入り口にあるレホ
ブまで、その地を偵察した。
22 彼らは南の地を通って上り、ヘブロンに来た。そこにはアナクの子らであ
るアヒマン、シェシャイ、タルマイがいた。（ヘブロンはエジプトのツォアン
より七年前に建てられていた。）

23 彼らはエシュコルの谷に来て、そこからぶどうの一房のついた枝を切り取り、二人で棒にかけてそれを担いだ。彼らはざくろといちじくもいくらか持って来た。
24 イスラエルの子らがそこから切り取ったぶどうの房のゆえに、その場所はエシュコルの谷と呼ばれた。
25 彼らは四十日の終わりに、その地の偵察から帰って来た。
26 彼らはパランの荒野のカデシュにいるモーセとアロン、およびイスラエルの子らの全会衆のもとに来て、彼らと全会衆に報告し、その地の果実を彼らに見せた。
27 彼らはモーセに告げて言った。「私たちは、あなたが遣わされた地へ行きました。そこは確かに乳と蜜が流れており、これがその果実です。
28 しかし、その地に住む民は強く、町々は城壁で囲まれて非常に大きく、さらにそこでアナクの子らを見ました。
29 アマレク人は南の地に住み、ヘト人、エブス人、アモリ人は山地に住み、カナン人は海辺とヨルダン川沿いに住んでいます。」
30 カレブはモーセの前で民を静めて言った。「私たちはすぐに上って行き、そこを所有しましょう。私たちは必ずそれに打ち勝つことができるからです。」
31 しかし、彼とともに上って行った男たちは言った。「私たちはあの民に向かって上って行くことはできません。彼らは私たちよりも強いからです。」
32 そして彼らは、偵察した地についてイスラエルの子らに悪い報告をもたらして言った。「私たちが偵察して通り巡った地は、その住民を食い尽くす地です。私たちがそこで見た民は皆、大きな体格の者たちです。
33 そこで私たちはネフィリム*、すなわちネフィリムから出たアナクの子らを見ました。私たちの目には、自分たちがいなごのように見えました。彼らの目にもそのように見えたでしょう。」

14

1 全会衆は声を上げて叫び、民はその夜、泣いた。
2 イスラエルの子らは皆、モーセとアロンに向かってつぶやいた。全会衆は彼らに言った。「私たちはエジプトの地で死んでいればよかったのに！それとも、この荒野で死んでいればよかったのに！
3 なぜ主は私たちをこの地に導き入れて、剣に倒れさせようとされるのか。私たちの妻や幼子たちは捕らえられ、あるいは殺されてしまう。私たちにとって、エジプトに帰るほうが良いではないか。」
4 彼らは互いに言った。「指導者を立てて、エジプトに帰ろう。」
5 そこでモーセとアロンは、イスラエルの子らの会衆の全集会の前で顔を伏せた。
6 その地を偵察した者たちのうち、ヌンの子ヨシュアとエフネの子カレブは自分たちの衣を引き裂いた。
7 そしてイスラエルの子らの全会衆に語って言った。「私たちが偵察して通り巡った地は、非常に良い地です。
8 もし主が私たちを喜ばれるなら、私たちをこの地に導き入れ、それを私たちに与えてくださるでしょう。そこは乳と蜜が流れる地です。
9 ただ、主に背いてはなりません。また、その地の民を恐れてはなりません。彼らは私たちのパンだからです。彼らの守りは彼らの上から取り去られており、主が私たちとともにおられます。彼らを恐れてはなりません。」
10 しかし、全会衆は彼らを石で打ち殺そうとした。
主の栄光が会見の天幕でイスラエルのすべての子らに現れた。

---

* **13:33 13:33** または、巨人。

11 主はモーセに言われた。「この民はいつまでわたしを侮るのか。わたしが彼らの間で行ったすべてのしるしにもかかわらず、いつまでわたしを信じないのか。
12 わたしは疫病で彼らを打ち、彼らから相続を取り上げる。そして、彼らよりも大きく、力強い国民をあなたから起こそう。」
13 モーセは主に言った。「それではエジプト人が聞くでしょう。あなたは御力によって、彼らの間からこの民を導き上られたからです。
14 彼らはこの地の住民に告げるでしょう。彼らは、主であるあなたがこの民のただ中におられることを聞いています。主であるあなたは顔と顔を合わせて見られ、あなたの雲は彼らの上に立ち、あなたは昼は雲の柱の中に、夜は火の柱の中にいて、彼らの前を進まれるからです。
15 もしあなたがこの民をひとりの人のように殺されるなら、あなたの名声を聞いた国々は語って言うでしょう。
16『主はこの民を、彼らに誓った地に導き入れることができなかったので、彼らを荒野で殺したのだ』と。
17 ですから今、あなたが語られたとおりに、どうか主*の御力を大いなるものとしてください。あなたは言われました。
18『主は怒るのに遅く、慈しみに富み、咎と背きを赦す。しかし、罰すべき者を決して罰せずにおくことはなく、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼす』と。
19 どうか、あなたの慈しみの大きさに従い、エジプトから今に至るまでこの民を赦してこられたように、この民の咎を赦してください。」
20 主は言われた。「あなたの言葉どおりに、わたしは赦した。
21 しかし、わたしが生きていること、そして全地が主の栄光で満たされることにかけて言う。
22 エジプトや荒野でわたしが行った栄光やしるしを見ながら、このように十度もわたしを試み、わたしの声に聞き従わなかった者たちは皆、
23 わたしが彼らの父祖たちに誓った地を確かに見ることはない。わたしを侮った者たちも、だれ一人それを見ることはない。
24 しかし、わたしのしもべカレブは、彼のうちに別の霊があり、わたしに完全に従ったので、彼が行ったその地に彼を導き入れる。彼の子孫はそこを所有する。
25 アマレク人とカナン人は谷に住んでいる。明日、向きを変えて、紅海への道を通って荒野へ出発しなさい。」
26 主はモーセとアロンに語って言われた。
27「わたしに向かってつぶやくこの邪悪な会衆を、わたしはいつまで耐えなければならないのか。イスラエルの子らがわたしに向かってつぶやくのを、わたしは聞いた。
28 彼らに言いなさい。『わたしは生きている、と主は言われる。あなたがたがわたしの耳に語ったとおりに、わたしは確かにあなたがたに行う。
29 あなたがたの死体はこの荒野に倒れる。あなたがたの総数にしたがって数えられた者のうち、二十歳以上でわたしに向かってつぶやいた者は皆、倒れる。
30 エフネの子カレブとヌンの子ヨシュアを除いて、あなたがたをそこに住まわせるとわたしが誓った地に、あなたがたは決して入ることはできない。
31 しかし、捕らえられ、あるいは殺されるとあなたがたが言った幼子たちを、わたしは導き入れる。彼らはあなたがたが拒んだ地を知るようになる。
32 しかし、あなたがたについては、あなたがたの死体はこの荒野に倒れる。
33 あなたがたの子どもたちは、あなたがたの死体が荒野で朽ち果てるまで、四十年間、荒野で放浪者となり、あなたがたの淫行を負うことになる。

---

* **14:17 14:17**「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

34 あなたがたがその地を偵察した日数、すなわち四十日の間、一日を一年として、四十年間あなたがたは自分の咎を負う。そして、わたしの反感を知るようになる。』
35 主であるわたしは語った。わたしに逆らって集まったこの邪悪な全会衆に、わたしは必ずこれを行う。この荒野で彼らは朽ち果て、そこで死ぬ。」
36 モーセがその地を偵察するために遣わした男たちで、帰って来てその地について悪い報告をもたらし、全会衆をモーセに向かってつぶやかせるようにした者たち、
37 すなわち、その地について悪い報告をもたらしたその男たちは、主の前で災いによって死んだ。
38 しかし、その地を偵察に行った男たちのうち、ヌンの子ヨシュアとエフネの子カレブは生き残った。
39 モーセがこれらの言葉をイスラエルのすべての子らに告げると、民は非常に悲しんだ。
40 彼らは朝早く起き、山頂に上って言った。「見よ、私たちはここにいます。主が約束された場所へ上って行きましょう。私たちは罪を犯したからです。」
41 モーセは言った。「なぜ今、主の命令に背くのですか。それは成功しません。
42 上って行ってはなりません。主はあなたがたのただ中におられないからです。敵の前に打ち倒されてはなりません。
43 そこにはアマレク人とカナン人があなたがたの前にいて、あなたがたは剣に倒れるからです。あなたがたが主に従うことから退いたので、主はあなたがたとともにおられません。」
44 しかし、彼らはあえて山頂に上って行った。それでも、主の契約の箱とモーセは宿営の中から離れなかった。
45 すると、その山に住んでいたアマレク人とカナン人が下って来て、彼らを打ち、ホルマにまで彼らを打ち砕いた。

15

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『わたしがあなたがたに与える住まいの地に入り、
3 主への火によるささげ物、すなわち全焼のささげ物、いけにえ、誓願を果たすためのもの、自発的なささげ物、あるいはあなたがたの定められた祭りにおいて、牛の群れまたは羊の群れから、主への心地よい香りとしてささげ物をささげるとき、
4 そのささげ物をささげる者は、十分の一エパ*の上質の小麦粉に四分の一ヒン†の油を混ぜた穀物のささげ物を主にささげなければならない。
5 あなたは子羊一頭ごとに、全焼のささげ物またはいけにえとともに、飲み物のささげ物として四分の一ヒンのぶどう酒を準備しなければならない。
6 『雄羊の場合は、穀物のささげ物として、三分の一ヒンの油を混ぜた十分の二エパ‡の上質の小麦粉を準備しなければならない。
7 飲み物のささげ物として三分の一ヒンのぶどう酒を、主への心地よい香りとしてささげなさい。
8 『全焼のささげ物、いけにえ、誓願を果たすためのもの、あるいは主への和解のいけにえとして若い雄牛を準備するときは、

---

* **15:4** **15:4** 1エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。 † **15:4** **15:4** 1ヒンは約6.5リットル、または1.7ガロンである。 ‡ **15:6** **15:6** 1エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

9 その若い雄牛とともに、二分の一ヒンの油を混ぜた十分の三エパ§
の上質の小麦粉の穀物のささげ物をささげなければならない。
10 飲み物のささげ物として二分の一ヒンのぶどう酒をささげなさい。これ
は主への心地よい香りのための、火によるささげ物である。
11 『牛一頭ごと、雄羊一頭ごと、あるいは雄の子羊や若い山羊一頭ごと
に、このように行わなければならない。
12 あなたがたが準備する数に従い、その数に応じて、それぞれについてこの
ように行いなさい。
13 『その地で生まれた者は皆、主への心地よい香りのための火によるささ
げ物をささげるとき、これらのことをこのように行わなければならない。
14 もし寄留者があなたがたとともに外国人として住んでいるなら、あるいは
あなたがたの代々にわたってあなたがたの間にいる者が、主への心地よい香り
のための火によるささげ物をささげるときは、あなたがたが行うのと同じよう
に彼も行わなければならない。
15 会衆については、あなたがたにも、外国人として住む寄留者にも、一つ
の掟がある。これはあなたがたの代々にわたって永遠の掟である。あなたがた
と同じように、寄留者も主の前にある。
16 あなたがたにも、あなたがたとともに外国人として住む寄留者にも、一つ
の律法、一つの定めがなければならない。』」
17 主はモーセに語って言われた。
18 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『わたしがあなたがた
を導き入れる地に入るとき、
19 その地のパンを食べるときには、主への揺り動かすささげ物をささげなけ
ればならない。
20 あなたがたは初めの練り粉から、一つの菓子を揺り動かすささげ物として
ささげなさい。打ち場の揺り動かすささげ物のように、それを持ち上げてささ
げなければならない。
21 あなたがたは代々にわたって、初めの練り粉から主への揺り動かすささ
げ物を与えなければならない。
22 『もしあなたがたが誤って、主がモーセに語られたこれらすべての命
令を守らず、
23 主がモーセを通してあなたがたに命じられたすべてのこと、すなわ
ち主が命じられた日から後、代々にわたって命じられたことを守らなかった場
合、
24 それが会衆の目から隠れて、意図せずに行われたなら、全会衆は定め
に従って、主への心地よい香りのための全焼のささげ物として若い雄牛一
頭を、その穀物のささげ物と飲み物のささげ物とともにささげ、贖罪のささ
げ物として雄山羊一頭をささげなければならない。
25 祭司はイスラエルの子らの全会衆のために贖罪を行いなさい。そうすれ
ば彼らは赦される。それは過ちであり、彼らはその過ちのために、自分たちの
ささげ物、すなわち主への火によるささげ物と贖罪のささげ物を主の前に持っ
て来たからである。
26 イスラエルの子らの全会衆も、彼らの間に外国人として住む寄留者も赦さ
れる。すべての民に関して、それは意図せずに行われたことだからである。
27 『もし一人の人が意図せずに罪を犯したなら、その人は贖罪のささげ物と
して一歳の雌山羊をささげなければならない。
28 祭司は、意図せずに罪を犯して誤った者のために、主の前で贖罪を行いな
さい。彼のために贖罪を行えば、彼は赦される。

§ **15:9 15:9** 1エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

29 イスラエルの子らの中で生まれた者にも、彼らの間に外国人として住む寄留者にも、意図せずに事を行う者については、一つの律法がなければならない。
30 『しかし、その地で生まれた者であれ寄留者であれ、高ぶった手で事を行う者は、主を冒涜する者である。その者は自分の民の中から断たれなければならない。
31 彼は主の言葉を侮り、その命令を破ったので、その者は必ず断たれなければならない。その咎は彼の上にある。』」
32 イスラエルの子らが荒野にいたとき、ある男が安息日に薪を集めているのを見つけた。
33 薪を集めているのを見つけた者たちは、彼をモーセとアロン、および全会衆のもとに連れて来た。
34 彼をどのようにすべきか宣言されていなかったので、彼らはその男を留置しておいた。
35 主はモーセに言われた。「その男は必ず死刑に処されなければならない。全会衆は宿営の外で彼を石で打ち殺しなさい。」
36 全会衆は彼を宿営の外に連れ出し、主がモーセに命じられたとおりに、石で打ち殺した。
37 主はモーセに語って言われた。
38 「イスラエルの子らに語って言いなさい。『彼らが代々にわたって、自分たちの衣服の裾に房*を作り、それぞれの裾の房に青いひもをつけるようにしなさい。
39 それはあなたがたのための房となる。あなたがたがそれを見て、主のすべての命令を思い起こしてそれを行うため、また、あなたがたが追い求めて淫行を働いていた自分の心と自分の目に従わないためである。
40 そうしてあなたがたがわたしのすべての命令を思い起こしてそれを行い、あなたがたの神に対して聖なる者となるためである。
41 わたしは、あなたがたの神となるためにエジプトの地からあなたがたを導き出した、あなたがたの神、主である。わたしはあなたがたの神、主である。』」

16

1 さて、レビの子ケハテの子イツハルの子コラは、ルベンの子らであるエリアブの子ダタンとアビラム、およびペレトの子オンとともに人々を集めた。
2 彼らはイスラエルの子らの中から、会衆の指導者であり、集会に召された名のある人々二百五十人とともに、モーセの前に立ち上がった。
3 彼らはモーセとアロンに逆らって集まり、彼らに言った。「あなたがたは行き過ぎている。全会衆はみな聖なる者であり、主が彼らのただ中におられるのだから。それなのに、なぜあなたがたは主の集会の上に自分たちを高く上げるのか。」
4 モーセはこれを聞くと、ひれ伏した。
5 彼はコラとその全仲間に言った。「朝になれば、主はだれがご自分のものか、だれが聖なる者かを示し、その者をみもとに近づけられる。主が選ばれる者を、主はみもとに近づけられる。
6 コラとその全仲間よ、このようにしなさい。あなたがたは香炉を取りなさい。
7 明日、主の前でその中に火を入れ、その上に香を置きなさい。主が選ばれるその人こそが聖なる者となる。レビの子らよ、あなたがたは行き過ぎている！」
8 モーセはコラに言った。「レビの子らよ、今聞きなさい。

* **15:38 15:38** または、房飾り（ヘブル語 צִיצִת）。

9 イスラエルの神がイスラエルの会衆からあなたがたを分け、みもとに近づけて主の幕屋の奉仕をさせ、会衆の前に立たせて彼らに仕えさせてくださったことは、あなたがたにとって小さなことなのか。
10 主はあなたと、あなたとともにいるすべての兄弟たちであるレビの子らを近づけられた。それなのに、あなたがたは祭司の務めまでも求めるのか。
11 それゆえ、あなたとあなたの全仲間は主に逆らって集まったのだ！アロンが何者だから、あなたがたは彼に向かってつぶやくのか。」
12 モーセはエリアブの子ダタンとアビラムを呼びに人を遣わしたが、彼らは言った。「私たちは上って行かない！
13 あなたが私たちを乳と蜜の流れる地から導き上って、この荒野で殺そうとしていることは、小さなことなのか。そのうえ、あなたは私たちの上で支配者として振る舞おうとするのか。
14 しかも、あなたは私たちを乳と蜜の流れる地に導き入れず、畑とぶどう園を相続地として与えてもいない。あなたはこの人たちの目をえぐり出すつもりか。私たちは上って行かない。」
15 モーセは非常に怒り、主に言った。「彼らのささげ物を顧みないでください。私は彼らからろば一頭も取っておらず、彼らのうちのだれにも害を与えていません。」
16 モーセはコラに言った。「明日、あなたとあなたの全仲間は、あなたと彼ら、そしてアロンとともに、主の前に出なさい。
17 各自が自分の香炉を取り、その上に香を置き、各自が自分の香炉を主の前に持って来なさい。二百五十の香炉である。あなたも、アロンも、それぞれ自分の香炉を持って来なさい。」
18 彼らは各自自分の香炉を取り、その中に火を入れ、その上に香を置き、モーセとアロンとともに会見の天幕の入口に立った。
19 コラは、会見の天幕の入口で彼らに向かい合うように、全会衆を集めた。
主の栄光が全会衆に現れた。
20 主はモーセとアロンに語って言われた。
21 「この会衆の間から離れなさい。わたしが一瞬のうちに彼らを滅ぼし尽くすためである！」
22 彼らはひれ伏して言った。「神よ、すべての肉なるものの霊の神よ。一人の人が罪を犯したからといって、あなたは全会衆に向かって怒られるのですか。」
23 主はモーセに語って言われた。
24 「会衆に語って言いなさい。『コラ、ダタン、アビラムの天幕の周りから離れなさい！』」
25 モーセは立ち上がり、ダタンとアビラムのところに行った。イスラエルの長老たちも彼に従った。
26 彼は会衆に語って言った。「どうか、この邪悪な男たちの天幕から離れ、彼らのものにはいっさい触れないでください。彼らのすべての罪に巻き込まれて滅ぼされないためです！」
27 そこで彼らは、四方からコラ、ダタン、アビラムの天幕から離れた。ダタンとアビラムは出て来て、妻、息子、幼子たちとともに自分たちの天幕の入口に立った。
28 モーセは言った。「これによって、主がこれらすべての事を行うために私を遣わされたこと、これらが私の心から出たのではないことを、あなたがたは知るであろう。
29 もしこの者たちがすべての人の普通の死に方で死ぬか、すべての人が経験することを経験するなら、主は私を遣わされたのではない。
30 しかし、もし主が新しい事をなされ、地面がその口を開いて彼らとそのすべての持ち物を飲み込み、彼らが生きたままよみ* に下るなら、この者たち

* **16:30 16:30** よみは死者の場所である。

が主を侮ったことをあなたがたは理解するであろう。」
31 彼がこれらすべての言葉を語り終えると、彼らの下にある地面が裂けた。
32 地はその口を開き、彼らとその家族、コラに属するすべての人々、そしてすべての財産を飲み込んだ。
33 こうして彼らとそのすべての持ち物は生きたままよみに下った。地は彼らの上を閉じ、彼らは集会の中から滅び去った。
34 彼らの周りにいたすべてのイスラエルは、彼らの叫び声を聞いて逃げた。彼らは「地が私たちを飲み込むかもしれない！」と言ったからである。
35 主のもとから火が出て、香をささげた二百五十人を焼き尽くした。
36 主はモーセに語って言われた。
37 「祭司アロンの子エルアザルに、焼け残った中から香炉を取り上げ、その火を宿営から離れた所にまき散らすように言いなさい。それらは聖なるものだからである。
38 自分自身の命に対して罪を犯したこれらの者たちの香炉は、祭壇を覆うための打ち出し細工の板にしなさい。彼らが主の前にそれらをささげたからである。それゆえ、それらは聖なるものである。それらはイスラエルの子らへのしるしとなる。」
39 祭司エルアザルは、焼かれた者たちがささげた青銅の香炉を取った。人々はそれらを祭壇を覆うために打ち延ばした。
40 それは、アロンの子孫ではない一般の人が、主の前で香をたくために近づき、コラとその仲間のようにならないため、イスラエルの子らへの記念となるためであった。主がモーセによって彼に語られたとおりである。
41 しかし翌日、イスラエルの子らの全会衆はモーセとアロンに向かってつぶやいて言った。「あなたがたが主の民を殺したのだ！」
42 会衆がモーセとアロンに逆らって集まり、彼らが会見の天幕の方を見たとき、見よ、雲がそれを覆い、主の栄光が現れた。
43 モーセとアロンは会見の天幕の前に来た。
44 主はモーセに語って言われた。
45 「この会衆の間から離れなさい。わたしが一瞬のうちに彼らを滅ぼし尽くすためである！」彼らはひれ伏した。
46 モーセはアロンに言った。「あなたの香炉を取り、祭壇からその中に火を入れ、香を置いて、急いで会衆のところに持って行き、彼らのために贖罪を行いなさい。主のもとから憤りが出ている！ 災いが始まったのだ。」
47 アロンはモーセが言ったようにし、集会の真ん中へ走って行った。見よ、民の間で災いが始まっていた。彼は香を置き、民のために贖罪を行った。
48 彼は死者と生きている者との間に立った。そして災いはとどまった。
49 コラの件で死んだ者たちに加えて、この災いで死んだ者は一万四千七百人であった。
50 災いがとどまったので、アロンは会見の天幕の入口にいるモーセのもとに戻った。

17

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに語って、彼らから杖を取りなさい。彼らのすべての指導者から、父の家ごとに一本ずつ、父の家に従って十二本の杖を取りなさい。各々の名をその杖に書き記しなさい。
3 レビの杖にはアロンの名を書き記さなければならない。父の家の長ごとに一本の杖がなければならないからである。
4 あなたはそれらを会見の天幕の中、わたしがあなたがたと会うあかしの前に置きなさい。
5 わたしが選ぶ人の杖は芽を吹く。こうして、イスラエルの子らがあなたがたに向かってつぶやくそのつぶやきを、わたしからやめさせる。」

6 モーセがイスラエルの子らに語ると、すべての指導者たちは父の家に従って、指導者一人につき一本ずつ、合計十二本の杖を彼に渡した。アロンの杖もその杖の中にあった。
7 モーセはあかしの天幕で、主の前にそれらの杖を置いた。
8 翌日、モーセがあかしの天幕に入ると、見よ、レビの家のアロンの杖が芽を吹き、つぼみを出し、花を咲かせ、熟したアーモンドを結んでいた。
9 モーセはすべての杖を主の前からイスラエルのすべての子らのところに持ち出した。彼らはそれを見て、各々自分の杖を取った。
10 主はモーセに言われた。「アロンの杖をあかしの前に戻し、反逆の子らへのしるしとして保管しなさい。こうしてあなたが彼らのわたしに対するつぶやきを終わらせ、彼らが死なないようにするためである。」
11 モーセはそのように行った。主が彼に命じられたとおりに、彼は行った。
12 イスラエルの子らはモーセに語って言った。「見よ、私たちは死に絶える！ 私たちは滅びる！ 私たちはみな滅びる！
13 主の幕屋に近づき続ける者はみな死ぬのだ！
私たちはみな死に絶えなければならないのか。」

18

1 主はアロンに言われた。「あなたと、あなたとともにいるあなたの子ら、およびあなたの父の家は、聖所に対する咎を負わなければならない。また、あなたと、あなたとともにいるあなたの子らは、祭司の務めに対する咎を負わなければならない。
2 あなたの兄弟たち、すなわちあなたの父の部族であるレビの部族もあなたとともに近づけなさい。彼らがあなたに結びつき、あなたに仕えるためである。しかし、あなたと、あなたとともにいるあなたの子らは、あかしの天幕の前にいなければならない。
3 彼らはあなたの任務と天幕全体の任務を守らなければならない。ただ、彼らもあなたがたも死ぬことのないように、彼らは聖所の器具や祭壇に近づいてはならない。
4 彼らはあなたに結びつき、会見の天幕のすべての奉仕のために、会見の天幕の任務を守らなければならない。一般の人はあなたがたに近づいてはならない。
5 あなたがたは聖所の任務と祭壇の任務を守らなければならない。イスラエルの子らに再び憤りが下らないためである。
6 見よ、わたしはイスラエルの子らの中から、あなたがたの兄弟であるレビ人をえり分けた。彼らは主への贈り物としてあなたがたに与えられた者であり、会見の天幕の奉仕を行うためである。
7 あなたと、あなたとともにいるあなたの子らは、祭壇のすべての事と、垂れ幕の内側の事について、祭司の務めを守らなければならない。あなたがたは奉仕しなければならない。わたしはあなたがたの祭司の務めを、贈り物としての奉仕として与える。近づく一般の人は死刑に処されなければならない。」
8 主はアロンに語って言われた。「見よ、わたしはわたしの揺り動かすささげ物の管理をあなたに与えた。イスラエルの子らのすべての聖なるものについて、わたしは注ぎ油のゆえに、それらをあなたとあなたの子らに永遠の割り当てとして与えた。
9 火から取られる最も聖なるもののうち、これはあなたのものとなる。すなわち、彼らのすべてのささげ物、すべての穀物のささげ物、すべての贖罪のささげ物、すべての代償のささげ物であり、彼らがわたしにささげるものは、あなたとあなたの子らにとって最も聖なるものである。
10 あなたはそれを最も聖なるものとして食べなければならない。男子はみな、それを食べることができる。それはあなたにとって聖なるものである。

11 「これもあなたのものとなる。彼らの贈り物の揺り動かすささげ物、すなわちイスラエルの子らのすべての揺り動かすささげ物である。わたしはこれらを永遠の割り当てとして、あなたと、あなたとともにいる息子たち、娘たちに与えた。あなたの家の中できよい者はだれでもそれを食べることができる。
12 「最も良い油すべて、最も良い新しいぶどう酒と穀物すべて、すなわち彼らが主にささげる初穂を、わたしはあなたに与える。
13 彼らの地にある最初の熟した実で、彼らが主のもとに持って来るものはすべてあなたのものとなる。あなたの家できよい者はだれでもそれを食べることができる。
14 「イスラエルにおいて、永久にささげられたすべてのものはあなたのものとなる。
15 人であれ動物であれ、彼らが主にささげるすべての肉体のうち、胎を開くものはすべてあなたのものとなる。しかし、人の長子は必ず贖わなければならず、汚れた動物の初子も贖わなければならない。
16 生後一か月以上の贖われるべき者については、あなたの評価に従い、聖所のシェケルによる銀五シェケル*で贖わなければならない。一シェケルは二十ゲラ† である。
17 しかし、牛の初子、羊の初子、あるいは山羊の初子は贖ってはならない。それらは聖なるものである。あなたはその血を祭壇に振りかけ、その脂肪を主への心地よい香りのための火によるささげ物として燃やさなければならない。
18 その肉はあなたのものとなる。揺り動かされた胸と右のももと同じように、それはあなたのものとなる。
19 「イスラエルの子らが主にささげる聖なるもののすべての揺り動かすささげ物を、わたしは永遠の割り当てとして、あなたと、あなたとともにいる息子たち、娘たちに与える。これは、あなたと、あなたとともにいるあなたの子孫のための、主の前における永遠の塩の契約である。」
20 主はアロンに言われた。「あなたは彼らの地で所有地を持ってはならず、彼らの間にあなたの割り当てがあってはならない。イスラエルの子らの中において、わたしがあなたの割り当てであり、あなたの所有地である。
21 「見よ、わたしはレビの子らに、イスラエルのすべての十分の一を所有地として与えた。それは彼らが行う奉仕、すなわち会見の天幕の奉仕への報酬である。
22 今後、イスラエルの子らは会見の天幕に近づいてはならない。罪を負って死ぬことがないためである。
23 しかし、レビ人は会見の天幕の奉仕を行い、自らの咎を負わなければならない。これはあなたがたの代々にわたっての永遠の掟となる。彼らはイスラエルの子らの中で所有地を持ってはならない。
24 イスラエルの子らが主への揺り動かすささげ物としてささげる十分の一を、わたしはレビ人に所有地として与えたからである。それゆえ、わたしは彼らに『イスラエルの子らの中で所有地を持ってはならない』と言ったのである。」
25 主はモーセに語って言われた。
26 「さらにレビ人に語り、彼らに言いなさい。『わたしがイスラエルの子らからあなたがたの所有地としてあなたがたに与えた十分の一を、あなたがたが彼らから受け取るときは、その十分の一の中から十分の一を、主への揺り動かすささげ物としてささげなければならない。
27 あなたがたの揺り動かすささげ物は、打ち場からの穀物や、ぶどう搾り場の満ちあふれるもののようにみなされる。

---

* **18:16** **18:16** 一シェケルは約10グラム、または約0.35オンスである。 † **18:16** **18:16** 一ゲラは約0.5グラム、または約7.7グレーンである。

28 このように、あなたがたも、イスラエルの子らから受け取るすべての十分の一の中から、主への揺り動かすささげ物をささげなければならない。そしてその中から、主への揺り動かすささげ物を祭司アロンに与えなければならない。
29 あなたがたに与えられるすべての贈り物の中から、その最も良い部分すべて、すなわちその聖なる部分から、主へのすべての揺り動かすささげ物をささげなければならない。』
30 「それゆえ、あなたは彼らに言いなさい。『あなたがたがその最も良い部分を持ち上げてささげるとき、それはレビ人にとって、打ち場の産物や、ぶどう搾り場の産物のようにみなされる。
31 あなたがたもあなたがたの家族も、あらゆる場所でそれを食べることができる。それは会見の天幕におけるあなたがたの奉仕の報酬だからである。
32 あなたがたがその最も良い部分を持ち上げてささげるなら、そのことによって罪を負うことはない。イスラエルの子らの聖なるものを汚してはならない。死なないためである。』」

19

1 主はモーセとアロンに語って言われた。
2 「主が命じられた律法の掟は次のとおりである。イスラエルの子らに、傷がなく、欠陥がなく、まだくびきを置かれたことのない赤い雌牛をあなたのところに持って来るように言いなさい。
3 あなたがたはそれを祭司エルアザルに渡しなさい。彼はそれを宿営の外に引き出し、彼の目の前で屠らせなさい。
4 祭司エルアザルはその血の一部を指に取り、会見の天幕の正面に向かって、その血を七度振りかけなさい。
5 その雌牛を彼の目の前で燃やさせなさい。その皮、肉、血を、糞とともに燃やさなければならない。
6 祭司は杉の木、ヒソプ、緋色の糸を取り、雌牛を燃やしている中に投げ入れなさい。
7 その後、祭司は自分の衣服を洗い、水で体を洗いなさい。その後、彼は宿営に入ることができるが、祭司は夕方まで汚れる。
8 それを燃やす者も、自分の衣服を水で洗い、水で体を洗いなさい。彼は夕方まで汚れる。
9 「きよい人が雌牛の灰を集め、それを宿営の外のきよい場所に置きなさい。それはイスラエルの子らの会衆のために、汚れをきよめる水に用いるため保管しておかなければならない。これは贖罪のささげ物である。
10 雌牛の灰を集める者は、自分の衣服を洗いなさい。彼は夕方まで汚れる。これはイスラエルの子らにとって、また彼らの間に滞在する寄留者にとって、永遠の掟となる。
11 「『いかなる人間の死体であれ、それに触れる者は七日間汚れる。
12 彼は三日目と七日目に、その水で自分自身をきよめなさい。そうすれば彼はきよくなる。しかし、もし彼が三日目と七日目に自分自身をきよめないなら、彼はきよくならない。
13 死んだ人間の死体に触れ、自分自身をきよめない者はだれでも、主の幕屋を汚すのである。その魂はイスラエルから断たれる。汚れをきよめる水が彼に振りかけられなかったので、彼は汚れている。その汚れはなお彼の上にある。
14 「『人が天幕の中で死んだ場合の律法は次のとおりである。その天幕に入るすべての者と、その天幕の中にいるすべての者は、七日間汚れる。
15 覆いで結ばれていない開いた器はすべて汚れる。
16 野原で、剣で殺された者、死体、人間の骨、あるいは墓に触れる者はだれでも、七日間汚れる。

17 「汚れた者のために、彼らは贖罪のささげ物として燃やされた灰の一
部を取り、器の中でそれに流水を加えなさい。
18 きよい人がヒソプを取り、その水に浸し、天幕と、すべての器と、そこに
いた人々と、骨、殺された者、死体、あるいは墓に触れた者にそれを振りかけ
なさい。
19 きよい人は三日目と七日目に、汚れた者にそれを振りかけなさい。七日
目に彼はその人をきよめなさい。その人は自分の衣服を洗い、水で体を洗いな
さい。そうすれば夕暮れにきよくなる。
20 しかし、汚れていても自分自身をきよめない者は、その魂が集会の中か
ら断たれる。彼が主の聖所を汚したからである。汚れをきよめる水が彼に振り
かけられなかったのである。彼は汚れている。
21 これは彼らにとって永遠の掟となる。汚れをきよめる水を振りかけ
る者は自分の衣服を洗いなさい。汚れをきよめる水に触れる者は夕方まで汚れ
る。
22 汚れた者が触れるものはすべて汚れ、それに触れる魂は夕方まで汚れ
る。』」

20

1 イスラエルの子ら、すなわち全会衆は第一の月にツィンの荒野に着き、
民はカデシュにとどまった。ミリアムはそこで死に、そこに葬られた。
2 会衆のための水がなかった。彼らはモーセとアロンに逆らって集まった。
3 民はモーセと争い、語って言った。「私たちの兄弟たちが主の前で死んだ
とき、私たちも死んでいればよかったのに!
4 なぜあなたがたは主の集会をこの荒野に導き入れて、私たちと家畜をここ
で死なせようとするのか。
5 なぜあなたがたは私たちをエジプトから上らせて、この悪い場
所に導き入れたのか。ここは種を蒔く場所でもなく、いちじく、ぶどう、ざく
ろの場所でもない。その上、飲む水もない。」
6 モーセとアロンは集会の前から会見の天幕の入口に行き、ひれ伏した。す
ると、主の栄光が彼らに現れた。
7 主はモーセに語って言われた。
8 「杖を取りなさい。あなたとあなたの兄弟アロンは会衆を集め、彼ら
の目の前で岩に語りかけ、それに水を出させなさい。あなたは彼らのため
に岩から水を出し、会衆とその家畜に飲ませなさい。」
9 モーセは命じられたとおりに、主の前から杖を取った。
10 モーセとアロンは会衆を岩の前に集め、彼らに言った。「反逆する者たち
よ、今聞きなさい。私たちはこの岩からあなたがたのために水を出すのか。」
11 モーセは手を上げ、杖で岩を二度打った。すると水が豊かに湧き出し、会
衆も家畜も飲んだ。
12 主はモーセとアロンに言われた。「あなたがたはわたしを信じず、イスラ
エルの子らの目の前でわたしを聖なるものとしなかった。それゆえ、あなたが
たはこの集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。」
13 これがメリバ* の水である。イスラエルの子らが主と争い、主が彼ら
の中で聖なる者とされたからである。
14 モーセはカデシュからエドムの王に使いを遣わして言った。「あなたの兄
弟イスラエルはこう言います。『あなたは、私たちが遭遇したすべての困
難を知っています。
15 私たちの父祖たちはエジプトに下り、私たちは長い間エジプトに住んでい
ました。エジプト人は私たちと私たちの父祖たちをひどく扱いました。

* **20:13 20:13** 「メリバ」は「争い」を意味する。

16 私たちが主に叫び求めたとき、主は私たちの声を聞き、御使いを遣わして、私たちをエジプトから導き出されました。見よ、私たちはあなたの領土の境にある町、カデシュにいます。
17 どうかあなたの国を通らせてください。私たちは畑やぶどう園を通りませんし、井戸の水も飲みません。私たちは王の道を通り、あなたの領土を通り過ぎるまで、右にも左にも曲がりません。』」
18 エドムは彼に言った。「私のところを通ってはならない。さもないと、私は剣を持ってあなたを迎え撃つために出て行く。」
19 イスラエルの子らは彼に言った。「私たちは大通りを上って行きます。もし私や家畜があなたの水を飲むなら、その代価を払います。ただ徒歩で通り過ぎるだけで、他には何もしません。」
20 彼は言った。「通ってはならない。」エドムは大軍を率いて、強い手で彼を迎え撃つために出て来た。
21 こうしてエドムは、イスラエルがその領土を通ることを拒んだので、イスラエルは彼から遠ざかった。
22 イスラエルの子ら、すなわち全会衆はカデシュから旅立ち、ホル山に着いた。
23 主はエドムの地の境にあるホル山で、モーセとアロンに語って言われた。
24 「アロンは彼の民に加えられる。メリバの水であなたがたがわたしの言葉に背いたので、彼はわたしがイスラエルの子らに与えた地に入ることはできない。
25 アロンとその子エルアザルを連れて、ホル山に登りなさい。
26 アロンの衣を脱がせ、それを彼の子エルアザルに着せなさい。アロンはそこで民に加えられ、死ぬ。」
27 モーセは主が命じられたとおりに行った。彼らは全会衆の目の前でホル山に登った。
28 モーセはアロンの衣を脱がせ、それを彼の子エルアザルに着せた。アロンはそこで、山の頂で死んだ。そしてモーセとエルアザルは山から下りた。
29 全会衆はアロンが死んだのを見たとき、イスラエルの全家はアロンのために三十日間泣き悲しんだ。

21

1 南の地に住んでいたカナン人、アラドの王は、イスラエルがアタリムの道を通って来たと聞いて、イスラエルと戦い、そのうちの何人かを捕虜にした。
2 イスラエルは主に誓願を立てて言った。「もしあなたが、この民を完全に私の手に引き渡してくださるなら、私は彼らの町々を完全に滅ぼします。」
3 主はイスラエルの声を聞き、カナン人を引き渡された。彼らはカナン人とその町々を完全に滅ぼした。その場所の名はホルマ* と呼ばれた。
4 彼らはエドムの地をう回するため、ホル山から紅海への道を通って旅立った。民の心は途中で耐えきれなくなった。
5 民は神とモーセに逆らって語った。「なぜあなたがたは私たちをエジプトから導き上って、この荒野で死なせようとするのか。パンもなく、水もない。私たちはこの嫌な食物を忌み嫌っている。」
6 主は民の間に毒蛇を送られた。蛇は民を噛み、イスラエルの多くの民が死んだ。
7 民はモーセのところに来て言った。「私たちは主とあなたに逆らって語り、罪を犯しました。蛇を私たちから取り去ってくださるように、主に祈ってください。」モーセは民のために祈った。

* **21:3 21:3** 「ホルマ」は「滅び」を意味する。

8 主はモーセに言われた。「毒蛇を作り、それを竿の上に掲げなさい。噛まれた者は皆、それを見れば生きる。」
9 モーセは青銅の蛇を作り、それを竿の上に掲げた。蛇がだれかを噛んでも、その人が青銅の蛇を見ると、生きた。
10 イスラエルの子らは旅立ち、オボテに宿営した。
11 彼らはオボテから旅立ち、モアブの東、日の出る方角にある荒野のイエ・アバリムに宿営した。
12 そこから旅立ち、ゼレドの谷に宿営した。
13 そこから旅立ち、アモリ人の境界から広がる荒野にあるアルノン川の向こう側に宿営した。アルノン川はモアブとアモリ人の間にある、モアブの境界だからである。
14 それゆえ、主の戦いの書 にはこう言われている。
「スファにおけるワヘブ、
　アルノンの谷、
15 谷の斜面、
　アルの住まいに傾き、
　モアブの境界に寄りかかる。」
16 そこから彼らはベエルへ向かった。そこは、主がモーセに「民を集めなさい。わたしは彼らに水を与える」と言われた井戸である。
17 そのとき、イスラエルはこの歌を歌った。
「湧き上がれ、井戸よ！ これに向かって歌え。
18 長たちが掘った井戸、
　民の尊い者たちが、
　王笏と杖で掘った井戸。」
荒野から彼らはマタナへ向かい、
19 マタナからナハリエルへ、ナハリエルからバモテへ、
20 バモテからモアブの野にある谷へ、荒れ地を見下ろすピスガの頂へ向かった。
21 イスラエルはアモリ人の王シホンに使いを遣わして言った。
22 「あなたの国を通らせてください。私たちは畑やぶどう園にそれることはしません。井戸の水も飲みません。あなたの境界を通り過ぎるまで、王の道を通ります。」
23 しかし、シホンはイスラエルが自分の境界を通ることを許さなかった。シホンはそのすべての民を集め、イスラエルを迎え撃つために荒野に出て来て、ヤハツに着き、イスラエルと戦った。
24 イスラエルは彼を剣の刃で打ち、アルノン川からヤボク川に至るまで、アンモン人のところまで彼の地を占領した。アンモン人の境界は強固だったからである。
25 イスラエルはこれらのすべての町を取った。イスラエルはアモリ人のすべての町、すなわちヘシュボンとそのすべての村々に住んだ。
26 ヘシュボンはアモリ人の王シホンの町であった。彼は以前のモアブの王と戦い、アルノン川に至るまですべての地を彼の手から奪い取っていた。
27 それゆえ、ことわざを言う者たちは言う。
「ヘシュボンに来て、
　シホンの町を建て、堅く立たせよ。
28 火がヘシュボンから、
　炎がシホンの町から出て、
　モアブのアルを、
　アルノン川の高き所の主たちを食い尽くしたからである。
29 モアブよ、おまえは災いだ。
　ケモシュの民よ、おまえは滅びた。
　彼はその息子たちを逃亡者とし、
　娘たちをアモリ人の王シホンへの捕虜とした。

30 私たちは彼らを射た。
ヘシュボンはディボンに至るまで滅びた。
私たちはメデバに達するノファに至るまで荒れ廃れさせた。」
31 こうしてイスラエルはアモリ人の地に住んだ。
32 モーセはヤゼルを偵察するために人を遣わした。彼らはその村々を取り、そこにいたアモリ人を追い出した。
33 彼らは向きを変え、バシャンの道へ上って行った。バシャンの王オグは、彼とそのすべての民とともに彼らを迎え撃つために出て来て、エドレイで戦った。
34 主はモーセに言われた。「彼を恐れてはならない。わたしは彼と彼のすべての民、そして彼の地をあなたの手に引き渡した。あなたは、ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホンにしたのと同じように、彼にもしなければならない。」
35 そこで彼らは、彼とその息子たち、および彼のすべての民を、一人も残さずに打ち倒し、その地を占領した。

22

1 イスラエルの子らは旅立ち、エリコのそば、ヨルダンの向こう側にあるモアブの平野に宿営した。
2 ツィポルの子バラクは、イスラエルがアモリ人に行ったすべてのことを見た。
3 モアブは、民の数が多いので、彼らを非常に恐れた。モアブはイスラエルの子らのゆえに苦悩した。
4 モアブはミディアンの長老たちに言った。「今やこの群集は、牛が野の草をなめ尽くすように、私たちの周りにあるすべてのものをなめ尽くそうとしている。」
ツィポルの子バラクは、その時モアブの王であった。
5 彼は、川のほとりにあるペトル、すなわち彼の民の子らの地にいるベオルの子バラムを呼び寄せるために使いを遣わして、言った。「見よ、一つの民がエジプトから出て来た。見よ、彼らは地の面を覆い、私のそばに住み着いている。
6 だから今、来て、私のためにこの民を呪ってほしい。彼らは私よりも強いからである。そうすれば、私が彼らを打ち、この地から追い出すことができるかもしれない。あなたが祝福する者は祝福され、あなたが呪う者は呪われることを、私は知っているからだ。」
7 モアブの長老たちとミディアンの長老たちは、占いの報酬を手に持って出発し、バラムのもとに来て、バラクの言葉を彼に告げた。
8 彼は彼らに言った。「今夜はここに泊まりなさい。主が私に語られるとおりに、あなたがたに返事をしよう。」そこでモアブの指導者たちはバラムのもとにとどまった。
9 神がバラムのところに来て言われた。「あなたと一緒にいるこの男たちはだれか。」
10 バラムは神に言った。「モアブの王、ツィポルの子バラクが私に使いを遣わして言いました。
11 『見よ、エジプトから出て来た民が地の面を覆っている。今来て、私のために彼らを呪ってほしい。そうすれば私は彼らと戦い、彼らを追い出すことができるかもしれない。』」
12 神はバラムに言われた。「あなたは彼らと一緒に行ってはならない。その民を呪ってはならない。彼らは祝福されているからである。」
13 朝になってバラムは起き、バラクの指導者たちに言った。「あなたがたの国へ帰りなさい。主が、私にあなたがたと一緒に行くことをお許しにならないからだ。」

14 モアブの指導者たちは起きてバラクのもとへ帰り、言った。「バラム
は私たちと一緒に来ることを拒みました。」
15 バラクは再び、先の人たちよりも多く、より尊い指導者たちを遣わした。
16 彼らはバラムのところに来て言った。「ツィポルの子バラクはこう言います。『どうか、私のもとに来ることを妨げるものがないようにしてください。
17 私はあなたを大いに優遇し、あなたが私に言うことは何でも行います。だからどうか来て、私のためにこの民を呪ってください。』」
18 バラムはバラクの家来たちに答えて言った。「たといバラクが、
銀と金で満ちた彼の家を私にくれたとしても、私は私の神、主の言葉を越えて、小さなことも大きなことも行うことはできない。
19 それゆえ、どうかあなたがたも今夜はここにとどまってほしい。主が私にさらに何を語られるかを知るためである。」
20 夜、神はバラムのところに来て言われた。「もしこの男たちがあなた
を呼ぶために来たのなら、立って彼らと一緒に行きなさい。しかし、わたしがあなたに告げることだけを行わなければならない。」
21 バラムは朝起きて、自分のろばに鞍を置き、モアブの指導者たちとともに出発した。
22 彼が出発したことで神の怒りが燃え上がり、主の使いが彼をはばむ者として道に立った。彼はろばに乗り、二人の若者が彼とともにいた。
23 ろばは主の使いが抜き身の剣を手に持って道に立っているのを見て、道からそれて畑に入って行った。バラムはろばを道に戻そうとして、ろばを打った。
24 すると、主の使いはぶどう園の間の狭い道に立った。両側には石垣があった。
25 ろばは主の使いを見ると、石垣に身を押し付け、バラムの足を石
垣に押し付けた。そこで彼は再びろばを打った。
26 主の使いはさらに進み、右にも左にも曲がる余地のない狭い場所に立った。
27 ろばは主の使いを見ると、バラムを乗せたまましゃがみ込んだ。バラムの怒りは燃え上がり、杖でろばを打った。
28 すると、主がろばの口を開かれた。ろばはバラムに言った。「私があなたに何をしたというのですか。私をこのように三度も打つとは。」
29 バラムはろばに言った。「おまえが私をからかったからだ。私の手に剣があれば、今おまえを殺していただろう。」
30 ろばはバラムに言った。「私は、あなたが今日に至るまで生涯乗ってきたあなたのろばではありませんか。私は今まであなたにこのようなことをしたことがあったでしょうか。」
彼は言った。「いや、ない。」
31 そのとき、主はバラムの目を開かれた。彼は主の使い
が抜き身の剣を手に持って道に立っているのを見た。彼は頭を下げ、顔を地につけてひれ伏した。
32 主の使いは彼に言った。「なぜあなたのろばをこのように三度も打ったのか。見よ、あなたの道がわたしの前で曲がっているので、わたしはあなたに敵対する者として出て来たのだ。
33 ろばはわたしを見て、このように三度わたしの前から身をかわした。もしろばがわたしの前から身をかわさなかったなら、わたしは今ごろ確実にあなたを殺し、ろばを生かしていただろう。」
34 バラムは主の使いに言った。「私は罪を犯しました。あなた
が私に立ち向かうために道に立っておられることを知らなかったからです。それゆえ今、もしこれがあなたの目に悪いのなら、私は引き返します。」

35 主の使いはバラムに言った。「この男たちと一緒に行きなさい。ただし、わたしがあなたに語る言葉だけを語らなければならない。」こうしてバラムはバラクの指導者たちとともに行った。
36 バラクはバラムが来たことを聞き、彼を出迎えるためにモアブの町へ出て行った。それはアルノン川の境界、境界の果てにある町である。
37 バラクはバラムに言った。「私はあなたを呼ぶために使いを遣わしたではないか。なぜ私のところに来なかったのか。私はあなたを優遇することができないとでもいうのか。」
38 バラムはバラクに言った。「見よ、私はあなたのところに来た。今、私に何かを語る力が少しでもあるだろうか。神が私の口に置かれる言葉、それを私は語らなければならない。」
39 バラムはバラクとともに行き、キルヤテ・フゾトに着いた。
40 バラクは牛と羊をいけにえとし、バラムと、彼とともにいた指導者たちに送った。
41 朝になると、バラクはバラムを連れてバモテ・バアルに上った。そこから彼は民の端を見た。

23

1 バラムはバラクに言った。「私のためにここに七つの祭壇を築き、七頭の牛と七頭の雄羊をここに準備してください。」
2 バラクはバラムが言ったとおりに行い、バラクとバラムは各々の祭壇に牛一頭と雄羊一頭をささげた。
3 バラムはバラクに言った。「あなたの全焼のささげ物のそばに立っていてください。私は行ってきます。もしかすると、主が私に会いに来てくださるかもしれません。彼が私に示されることを、あなたに告げましょう。」そして彼は裸の丘へ行った。
4 神がバラムに会われた。バラムは神に言った。「私は七つの祭壇を準備し、各々の祭壇に牛一頭と雄羊一頭をささげました。」
5 主はバラムの口に言葉を置き、言われた。「バラクのところに戻り、このように語りなさい。」
6 彼は戻って行った。見よ、バラクはモアブのすべての指導者たちとともに、自分の全焼のささげ物のそばに立っていた。
7 彼は自分の託宣を取り上げて、言った。
「アラムからバラクは私を連れて来た。
　モアブの王が東の山々から。
『来て、私のためにヤコブを呪え。
　来て、イスラエルを非難せよ。』
8 神が呪っていない者を、どうして私が呪えようか。
　主が非難していない者を、どうして私が非難できようか。
9 岩の頂から私は彼を見る。
　丘の上から私は彼を見つめる。
　見よ、独りで住み、
　国々の間には数えられない民。
10 だれがヤコブのちりを数え、
　イスラエルの四分の一を数えられようか。
私は義人の死を遂げたい。
　私の終わりが彼のようであってほしい！」
11 バラクはバラムに言った。「あなたは何ということを私にしたのか。私の敵を呪うためにあなたを連れて来たのに、見よ、あなたは彼らを完全に祝福した。」
12 バラムは答えて言った。「主が私の口に置かれることを、私は注意して語らなければならないではないか。」

13 バラクは彼に言った。「どうか、私と一緒に別の場所へ行きましょう。そこから彼らを見ることができます。ただ彼らの端だけが見え、全部は見えません。そこから私のために彼らを呪ってください。」
14 バラクは彼をツォフィムの野、ピスガの頂へ連れて行き、七つの祭壇を築き、各々の祭壇に牛一頭と雄羊一頭をささげた。
15 バラムはバラクに言った。「私が向こうで主に会っている間、あなたの全焼のささげ物のそばに立っていてください。」
16 主がバラムに会い、彼の口に言葉を置いて、言われた。「バラクのところに戻り、このように語りなさい。」
17 彼がバラクのところに来ると、見よ、バラクは自分の全焼のささげ物のそばに立っており、モアブの指導者たちも彼とともにいた。バラクは彼に言った。「主は何と語られたか。」
18 バラムは自分の託宣を取り上げて、言った。
「バラクよ、立ち上がって聞け。
　ツィポルの子よ、私に耳を傾けよ。
19 神は人間ではないから、偽ることはない。
　人の子ではないから、心を変えることはない。
　神が言われたことを、行わないだろうか。
　神が語られたことを、実行されないだろうか。
20 見よ、私は祝福せよとの命令を受けた。
　神が祝福された。私はそれを変えることができない。
21 彼はヤコブの中に咎を見ず、
　イスラエルの中に曲がったことを見られない。
彼らの神、主が彼らとともにおられ、
　王をたたえる声が彼らの間にある。
22 神が彼らをエジプトから導き出された。
　彼には野牛のような力がある。
23 確かにヤコブには呪術がなく、
　イスラエルには占いもない。
今、ヤコブとイスラエルについて言われるだろう。
　『神は何ということをなされたのか！』と。
24 見よ、その民は雌獅子のように起き上がり、
　獅子のように自らを奮い立たせる。
獲物を食べ、
　殺された者の血を飲むまで、彼は横たわらない。」
25 バラクはバラムに言った。「彼らを決して呪うな。また決して彼らを祝福するな。」
26 しかしバラムはバラクに答えて言った。「私があなたに、『主が語られることを、私はすべて行わなければならない』と告げたではないか。」
27 バラクはバラムに言った。「さあ、あなたを別の場所へ連れて行こう。そこから私のために彼らを呪うことが、神の御目にかなうかもしれない。」
28 バラクはバラムを、荒れ地を見下ろすペオルの頂へ連れて行った。
29 バラムはバラクに言った。「私のためにここに七つの祭壇を築き、ここに七頭の牛と七頭の雄羊を準備してください。」
30 バラクはバラムが言ったとおりに行い、各々の祭壇に牛一頭と雄羊一頭をささげた。

24

1 バラムは、イスラエルを祝福することが主の御目にかなうことを見たとき、以前のように呪術を求めて行くことはせず、荒野の方へ顔を向けた。
2 バラムが目を上げると、イスラエルがその部族ごとに宿営しているのが見えた。そして神の霊が彼の上に臨んだ。

3 彼は自分の託宣を取り上げて、言った。
「ベオルの子バラムの言葉。
　目を開かれた者の言葉。
4 神の言葉を聞く者の言葉。
　彼は全能者の幻を見る。
　彼は倒れるが、その目は開かれている。
5 ヤコブよ、あなたの天幕はなんと美しいことか。
　イスラエルよ、あなたの宿営は！
6 それらは谷のように広がり、
　川のほとりの園のように、
　主が植えられたアロエのように、
　水のほとりの杉の木のように広がる。
7 水は彼のバケツから流れ出て、
　彼の種は多くの水の中にある。
彼の王はアガグよりも高く上げられ、
　彼の王国は高められる。
8 神が彼をエジプトから導き出された。
　彼には野牛のような力がある。
　彼は敵である国々を食い尽くし、
　彼らの骨を砕き、
　矢で彼らを射抜く。
9 彼はしゃがみ、獅子のように、
　雌獅子のように横たわる。
　だれが彼を呼び覚ますことができようか。
　あなたを祝福する者は皆祝福され、
　あなたを呪う者は皆呪われる。」
10 バラクの怒りはバラムに向かって燃え上がり、彼は手を打ち鳴らした。バラクはバラムに言った。「私は敵を呪うためにあなたを呼んだのに、見よ、あなたはこの三度、彼らを完全に祝福した。
11 だから今、あなたのいる所へ逃げ帰れ。私はあなたを大いに優遇すると言ったが、見よ、主はあなたが優遇されることを妨げられたのだ。」
12 バラムはバラクに言った。「私が、あなたが遣わした使者たちにも告げたではないか。
13 『たといバラクが、銀と金で満ちた彼の家を私にくれたとしても、私は主の言葉を越えて、私の思いによって良いことも悪いことも行うことはできない。主が語られることを、私は語るのだ』と。
14 今、見よ、私は私の民のところへ帰る。来なさい。後々の日に、この民があなたの民に何をするか、あなたに知らせよう。」
15 彼は自分の託宣を取り上げて、言った。
「ベオルの子バラムの言葉。
　目を開かれた者の言葉。
16 神の言葉を聞く者の言葉。
　いと高き方の知識を知る者。
　彼は全能者の幻を見る。
　彼は倒れるが、その目は開かれている。
17 私は彼を見るが、今ではない。
　私は彼を見つめるが、近くではない。
ヤコブから一つの星が現れ、
　イスラエルから一つの王笏が立ち上がる。
それはモアブの隅々を打ち砕き、
　シェトのすべての子らを砕く。
18 エドムは所有地となり、
　セイルもその敵たちの所有地となる。

イスラエルは力強く行動する。
19 ヤコブから支配者が現れ、
町からの生き残りを滅ぼす。」
20 彼はアマレクを見て、自分の託宣を取り上げて、言った。
「アマレクは国々の初めであったが、
その終わりは滅びに至る。」
21 彼はケニ人を見て、自分の託宣を取り上げて、言った。
「あなたの住まいは堅固であり、
あなたの巣は岩に置かれている。
22 しかし、カインは荒れ果て、
やがてアッシュルがあなたを捕虜として連れ去るだろう。」
23 彼は自分の託宣を取り上げて、言った。
「ああ、神がこれをなされるとき、だれが生き残れようか。
24 しかし、キティムの岸から船が来て、
アッシュルを苦しめ、エベルを苦しめる。
彼もまた、完全に滅びる。」
25 バラムは立ち上がり、去って自分の所へ帰った。バラクも自分の道を行った。

25

1 イスラエルはシティムにとどまっていた。すると、民はモアブの娘たちと淫行を働き始めた。
2 彼女たちが自分たちの神々のいけにえに民を招いたからである。民は食べ、彼女たちの神々にひれ伏した。
3 イスラエルはバアル・ペオルに結びつき、主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がった。
4 主はモーセに言われた。「民の長たちをすべて捕らえ、日の下で主の前に吊るしなさい。そうすれば、主の激しい怒りはイスラエルから去る。」
5 モーセはイスラエルの裁き人たちに言った。「あなたがたはそれぞれ、バアル・ペオルに結びついた自分の部下たちを殺しなさい。」
6 見よ、イスラエルの子らの一人が来て、モーセの目の前、およびイスラエルの子らの全会衆の目の前で、自分の兄弟たちのところに一人のミディアン人の女を連れて来た。そのとき、彼らは会見の天幕の入口で泣いていた。
7 祭司アロンの子エルアザルの子ピネハスはそれを見ると、会衆の中から立ち上がり、手に槍を取った。
8 彼はイスラエルの男の後を追って天幕の奥に入り、イスラエルの男と、その女の腹を二人とも刺し貫いた。こうして、イスラエルの子らの間で災いはとどまった。
9 その災いで死んだ者は二万四千人であった。
10 主はモーセに語って言われた。
11 「祭司アロンの子エルアザルの子ピネハスは、イスラエルの子らからわたしの憤りをそらせた。彼が彼らの間でわたしのねたみをもってねたんだため、わたしは自分のねたみによってイスラエルの子らを滅ぼし尽くすことはなかった。
12 それゆえ、言いなさい。『見よ、わたしは彼にわたしの平和の契約を与える。
13 彼が自分の神のためにねたみ、イスラエルの子らのために贖罪を行ったので、これは彼と、彼の後の子孫にとって永遠の祭司の務めの契約となる。』」
14 さて、ミディアン人の女とともに殺されたイスラエルの男の名は、サルの子ジムリといい、シメオン人の父の家の指導者であった。

15 殺されたミディアン人の女の名は、ツルの娘コズビであった。ツルはミディアンの父の家の民の頭であった。
16 主はモーセに語って言われた。
17 「ミディアン人を苦しめ、彼らを打ちなさい。
18 ペオルのことや、ペオルのことによる災いの日に殺されたミディアン人の指導者の娘である彼らの姉妹コズビのことで、彼らがたくらみをもってあなたがたを欺き、あなたがたを苦しめたからである。」

26

1 災いの後、主はモーセと祭司アロンの子エルアザルに語って言われた。
2 「イスラエルの子らの全会衆について、二十歳以上でイスラエルにおいて軍務につくことのできるすべての者を、父の家ごとに数えなさい。」
3 モーセと祭司エルアザルは、エリコの向かい側にあるヨルダン川のほとりのモアブの平野で彼らに語って言った。
4 「主がモーセとイスラエルの子らに命じられたとおりに、二十歳以上の者を数えなさい。」
エジプトの地から出た者たちは次のとおりである。
5 イスラエルの長子であるルベン。ルベンの子らは、ハノクからハノク人の氏族、パルからパル人の氏族、
6 ヘツロンからヘツロン人の氏族、カルミからカルミ人の氏族が出た。
7 これらがルベン人の氏族である。彼らのうち数えられた者は、四万三千七百三十人であった。
8 パルの子はエリアブであった。
9 エリアブの子らはネムエル、ダタン、アビラムであった。このダタンとアビラムは、会衆に呼び出された者たちであったが、コラの仲間とともに主に向かって争ったとき、モーセとアロンに向かって争った。
10 そのとき地はその口を開き、コラとともに彼らを飲み込んだ。その仲間が死んだとき、火が二百五十人の男たちを食い尽くし、彼らはしるしとなった。
11 しかし、コラの子らは死ななかった。
12 シメオンの子らの氏族は次のとおりである。ネムエルからネムエル人の氏族、ヤミンからヤミン人の氏族、ヤキンからヤキン人の氏族、
13 ゼラからゼラ人の氏族、シャウルからシャウル人の氏族が出た。
14 これらがシメオン人の氏族であり、二万二千二百人であった。
15 ガドの子らの氏族は次のとおりである。ツェフォンからツェフォン人の氏族、ハギからハギ人の氏族、シュニからシュニ人の氏族、
16 オズニからオズニ人の氏族、エリからエリ人の氏族、
17 アロドからアロド人の氏族、アレリからアレリ人の氏族が出た。
18 これらがガドの子らの氏族であり、数えられた者に従うと四万五百人であった。
19 ユダの子らはエルとオナンであった。エルとオナンはカナンの地で死んだ。
20 ユダの子らの氏族は次のとおりである。シェラからシェラ人の氏族、ペレツからペレツ人の氏族、ゼラからゼラ人の氏族が出た。
21 ペレツの子らは、ヘツロンからヘツロン人の氏族、ハムルからハムル人の氏族が出た。
22 これらがユダの氏族であり、数えられた者に従うと七万六千五百人であった。
23 イッサカルの子らの氏族は次のとおりである。トラからトラ人の氏族、プワからプワ人の氏族、
24 ヤシュブからヤシュブ人の氏族、シムロンからシムロン人の氏族が出た。

25 これらがイッサカルの氏族であり、数えられた者に従うと六万四千三百人であった。
26 ゼブルンの子らの氏族は次のとおりである。セレドからセレド人の氏族、エロンからエロン人の氏族、ヤフレエルからヤフレエル人の氏族が出た。
27 これらがゼブルン人の氏族であり、数えられた者に従うと六万五百人であった。
28 ヨセフの子らの氏族は、マナセとエフライムであった。
29 マナセの子らは、マキルからマキル人の氏族が出た。マキルはギルアデの父となった。ギルアデからギルアデ人の氏族が出た。
30 ギルアデの子らは次のとおりである。イエゼルからイエゼル人の氏族、ヘレクからヘレク人の氏族、
31 アスリエルからアスリエル人の氏族、シェケムからシェケム人の氏族、
32 シェミダからシェミダ人の氏族、ヘフェルからヘフェル人の氏族が出た。
33 ヘフェルの子ゼロフェハデには息子がなく、娘だけであった。ゼロフェハデの娘たちの名は、マフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァであった。
34 これらがマナセの氏族である。彼らのうち数えられた者は、五万二千七百人であった。
35 エフライムの子らの氏族は次のとおりである。シュテラからシュテラ人の氏族、ベケルからベケル人の氏族、タハンからタハン人の氏族が出た。
36 シュテラの子らは次のとおりである。エランからエラン人の氏族が出た。
37 これらがエフライムの子らの氏族であり、数えられた者に従うと三万二千五百人であった。これらがヨセフの子らの氏族である。
38 ベニヤミンの子らの氏族は次のとおりである。ベラからベラ人の氏族、アシュベルからアシュベル人の氏族、アヒラムからアヒラム人の氏族、
39 シュファムからシュファム人の氏族、フファムからフファム人の氏族が出た。
40 ベラの子らはアルドとナアマンであり、アルドからアルド人の氏族、ナアマンからナアマン人の氏族が出た。
41 これらがベニヤミンの子らの氏族である。彼らのうち数えられた者は、四万五千六百人であった。
42 ダンの子らの氏族は次のとおりである。シュハムからシュハム人の氏族が出た。これらがダンの氏族である。
43 シュハム人のすべての氏族は、数えられた者に従うと六万四千四百人であった。
44 アシェルの子らの氏族は次のとおりである。イムナからイムナ人の氏族、イシュビからイシュビ人の氏族、ベリアからベリア人の氏族が出た。
45 ベリアの子らは、ヘベルからヘベル人の氏族、マルキエルからマルキエル人の氏族が出た。
46 アシェルの娘の名はセラといった。
47 これらがアシェルの子らの氏族であり、数えられた者に従うと五万三千四百人であった。
48 ナフタリの子らの氏族は次のとおりである。ヤフツェエルからヤフツェエル人の氏族、グニからグニ人の氏族、
49 イエツェルからイエツェル人の氏族、シレムからシレム人の氏族が出た。
50 これらがナフタリの氏族である。彼らのうち数えられた者は、四万五千四百人であった。
51 イスラエルの子らの中で数えられた者たちは、これら六十万一千七百三十人であった。
52 主はモーセに語って言われた。
53 「これらの者に、名前の数に従って、所有地として地を割り当てなければならない。

54 人数の多い者には所有地を多く与え、人数の少ない者には所有地を少なく与えなければならない。それぞれ数えられた者に応じて所有地が与えられなければならない。
55 しかし、その地はくじによって割り当てられなければならない。彼らは父祖の部族の名に従ってそれを受け継ぐ。
56 その所有地は、人数の多い者と少ない者との間で、くじに従って割り当てられなければならない。」
57 レビ人の氏族に従って数えられた者は次のとおりである。ゲルションからゲルション人の氏族、ケハテからケハテ人の氏族、メラリからメラリ人の氏族が出た。
58 レビの氏族は次のとおりである。リブニ人の氏族、ヘブロン人の氏族、マフリ人の氏族、ムシ人の氏族、コラ人の氏族である。ケハテはアムラムの父となった。
59 アムラムの妻の名は、エジプトでレビに生まれたレビの娘ヨケベデであった。彼女はアムラムにアロンとモーセ、およびその姉妹ミリアムを産んだ。
60 アロンにはナダブとアビフ、エルアザルとイタマルが生まれた。
61 ナダブとアビフは、主の前に異なる火をささげたときに死んだ。
62 一か月以上のすべての男子で、彼らのうち数えられた者は二万三千人であった。彼らはイスラエルの子らの中には数えられなかった。イスラエルの子らの中で彼らには所有地が与えられなかったからである。
63 これらは、エリコの向かい側にあるヨルダン川のほとりのモアブの平野で、イスラエルの子らを数えたモーセと祭司エルアザルによって数えられた者たちである。
64 しかし、これらのうちには、シナイの荒野でイスラエルの子らを数えたモーセと祭司アロンによって数えられた男は一人もいなかった。
65 主が彼らについて、「彼らは必ず荒野で死ぬ」と言われていたからである。彼らのうち、エフネの子カレブとヌンの子ヨシュアを除いては、男は一人も残っていなかった。

27

1 そのとき、ヨセフの子マナセの氏族のうち、マナセの子マキルの子ギルアデの子ヘフェルの子であるゼロフェハデの娘たちが近づいて来た。その娘たちの名はマフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァであった。
2 彼女たちは会見の天幕の入口で、モーセと祭司エルアザル、および指導者たちと全会衆の前に立って言った。
3 「私たちの父は荒野で死にました。彼はコラの仲間として主に向かって集まった者たちの仲間にはおらず、自分自身の罪によって死にました。彼には息子がいませんでした。
4 息子がいなかったという理由で、なぜ私たちの父の名がその氏族の中から取り去られなければならないのでしょうか。私たちの父の兄弟たちの間で、私たちに所有地を与えてください。」
5 モーセは彼女たちの訴えを主の前に持ち出した。
6 主はモーセに語って言われた。
7 「ゼロフェハデの娘たちの言うことは正しい。あなたは確かに、彼女たちの父の兄弟たちの間で所有地を受け継がせ、彼女たちの父の所有地を彼女たちに譲らなければならない。
8 あなたはイスラエルの子らに告げて言いなさい。『もし男が死んで息子がいないなら、あなたはその所有地を娘に譲らなければならない。
9 もし娘もいないなら、その所有地を彼の兄弟たちに与えなければならない。
10 もし兄弟たちもいないなら、その所有地を彼の父の兄弟たちに与えなければならない。

11 もし彼の父に兄弟たちがいないなら、その所有地を氏
族の中で彼に最も近い親族に与えなければならない。彼はそれを所有する。これは、主がモーセに命じられたとおり、イスラエルの子らにとって律法の定めとなる。』」
12 主はモーセに言われた。「このアバリムの山に登り、わたしがイスラエルの子らに与えた地を見なさい。
13 それを見た後、あなたの兄弟アロンが加えられたように、あなたもあなたの民に加えられる。
14 あなたがたはツィンの荒野で会衆が争ったとき、彼らの目の前で水についてわたしを聖なるものとするというわたしの言葉に背いたからである。」（これはツィンの荒野のカデシュにあるメリバの水のことである。）
15 モーセは主に語って言った。
16 「すべての肉体の霊の神、主よ、どうか会衆の上に一人の人を任命してください。
17 彼らの前に立って出て行き、彼らの前に入って来る者、彼らを導き出し、彼らを導き入れる者です。主の会衆が羊飼いのいない羊のようにならないためです。」
18 主はモーセに言われた。「その内に霊のある人、ヌンの子ヨシュアを取り、あなたの手を彼の上に置きなさい。
19 彼を祭司エルアザルと全会衆の前に立たせ、彼らの目の前で彼に任務をゆだねなさい。
20 あなたは自分の権威の一部を彼に与え、イスラエルの子らの全会衆を彼に従わせなさい。
21 彼は祭司エルアザルの前に立ち、エルアザルは主の前で彼のためにウリムの裁きによって伺いを立てなければならない。彼と、彼とともにいるイスラエルのすべての人々、すなわち全会衆は、エルアザルの言葉によって出て行き、その言葉によって入って来なければならない。」
22 モーセは主が命じられたとおりに行った。彼はヨシュアを取り、彼を祭司エルアザルと全会衆の前に立たせた。
23 彼は主がモーセを通して語られたように、自分の手を彼の上に置き、彼に任務をゆだねた。

28

1 主はモーセに語って言われた。
2 「イスラエルの子らに命じて、彼らに言いなさい。『わたしへのささげ物、すなわち、わたしへの心地よい香りのための火によるささげ物の食物を、定められた時にわたしにささげるよう守らなければならない。』
3 あなたは彼らに言いなさい。『あなたがたが主にささげる火によるささげ物は次のとおりである。絶えずささげる全焼のささげ物として、一歳の傷のない雄の子羊を毎日二頭ささげなさい。
4 一頭の子羊は朝にささげ、もう一頭の子羊は夕方にささげなさい。
5 穀物のささげ物として十分の一エパ*
の上質の小麦粉に、打って搾った四分の一ヒン†
の油を混ぜたものをささげなさい。
6 これはシナイ山で定められた、絶えずささげる全焼のささげ物であり、主への心地よい香りのための、火によるささげ物である。
7 その飲み物のささげ物は、子羊一頭につき四分の一ヒン‡とする。あなたは聖所で、強い酒の飲み物のささげ物を主に注ぎなさい。

---

* **28:5** **28:5** 一エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。 † **28:5** **28:5** 一ヒンは約6.5リットル、または1.7ガロンである。 ‡ **28:7** **28:7** 一ヒンは約6.5リットル、または1.7ガロンである。

8 もう一頭の子羊は夕方にささげなさい。朝の穀物のささげ物とその飲み物のささげ物と同じように、主への心地よい香りのための火によるささげ物として、これをささげなければならない。
9 「『安息日には、一歳の傷のない雄の子羊二頭と、穀物のささげ物として油を混ぜた十分の二エパ§の上質の小麦粉、およびその飲み物のささげ物をささげなさい。
10 これは絶えずささげる全焼のささげ物とその飲み物のささげ物に加えてささげる、毎安息日の全焼のささげ物である。
11 「『あなたがたの月の初めには、主への全焼のささげ物をささげなさい。すなわち若い牛二頭、雄羊一頭、一歳の傷のない雄の子羊七頭である。
12 牛一頭につき、穀物のささげ物として油を混ぜた十分の三エパ*の上質の小麦粉を、雄羊一頭につき、穀物のささげ物として油を混ぜた十分の二エパの上質の小麦粉をささげなさい。
13 子羊一頭ごとに、穀物のささげ物として油を混ぜた十分の一エパの上質の小麦粉をささげなさい。これは主への心地よい香りのための火によるささげ物、全焼のささげ物である。
14 その飲み物のささげ物は、牛一頭につき二分の一ヒンのぶどう酒、雄羊には三分の一ヒン、子羊には四分の一ヒンとする。これは一年を通じた各月の、毎月の全焼のささげ物である。
15 主への贖罪のささげ物として雄山羊一頭を、絶えずささげる全焼のささげ物とその飲み物のささげ物に加えてささげなければならない。
16 「『第一の月の十四日は、主の過越の祭りである。
17 この月の十五日は祭りである。七日間、種なしパンを食べなければならない。
18 最初の日は聖なる集会とする。通常のいかなる仕事もしてはならない。
19 しかし、あなたがたは主への火によるささげ物、全焼のささげ物をささげなさい。若い牛二頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭である。それらは傷のないものでなければならない。
20 それらに伴う穀物のささげ物は、油を混ぜた上質の小麦粉とする。牛一頭につき十分の三エパを、雄羊につき十分の二エパをささげなさい。
21 七頭の子羊のそれぞれ一頭につき、十分の一エパをささげなさい。
22 また、あなたがたのために贖罪を行うため、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
23 あなたがたはこれらを、朝の全焼のささげ物、すなわち絶えずささげる全焼のささげ物に加えてささげなさい。
24 このようにして、あなたがたは七日間、毎日、主への心地よい香りのための火によるささげ物の食物をささげなさい。それは絶えずささげる全焼のささげ物とその飲み物のささげ物に加えてささげられなければならない。
25 七日目には、あなたがたは聖なる集会を開きなさい。通常のいかなる仕事もしてはならない。
26 「『また、初穂の日、すなわち七週の祭りに主へ新しい穀物のささげ物をささげるとき、あなたがたは聖なる集会を開きなさい。通常のいかなる仕事もしてはならない。
27 あなたがたは主への心地よい香りのための全焼のささげ物をささげなさい。若い牛二頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭である。
28 それらに伴う穀物のささげ物は油を混ぜた上質の小麦粉とし、牛一頭につき十分の三エパ、雄羊一頭につき十分の二エパ、
29 七頭の子羊のそれぞれ一頭につき十分の一エパとする。
30 また、あなたがたのために贖罪を行うため、雄山羊一頭をささげなさい。

§ **28:9** **28:9** 一エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。
* **28:12** **28:12** 一エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

31 あなたがたは絶えずささげる全焼のささげ物とその穀物のささげ物に加えて、これらと、その飲み物のささげ物をささげなさい。それらはあなたがたのために傷のないものでなければならない。』」

29

1 「『第七の月の最初の日には、あなたがたは聖なる集会を開きなさい。通常のいかなる仕事もしてはならない。それはあなたがたにとってラッパを吹き鳴らす日である。
2 あなたがたは主への心地よい香りのための全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の傷のない雄の子羊七頭をささげなさい。
3 その穀物のささげ物は油を混ぜた上質の小麦粉とし、牛には十分の三エパ、雄羊には十分の二エパ、
4 七頭の子羊のそれぞれ一頭には十分の一エパをささげなさい。
5 また、あなたがたのために贖罪を行うため、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
6 これは、新月の全焼のささげ物とその穀物のささげ物、絶えずささげる全焼のささげ物とその穀物のささげ物、およびその定めに従ったそれらの飲み物のささげ物に加えてささげる、主への心地よい香りのための火によるささげ物である。
7 「『この第七の月の十日には、あなたがたは聖なる集会を開きなさい。あなたがたは自分の魂を苦しめなければならない。いかなる仕事もしてはならない。
8 あなたがたは主への心地よい香りのための全焼のささげ物として、若い牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭をささげなさい。それらは傷のないものでなければならない。
9 その穀物のささげ物は油を混ぜた上質の小麦粉とし、牛には十分の三エパ、一頭の雄羊には十分の二エパ、
10 七頭の子羊のそれぞれ一頭には十分の一エパをささげなさい。
11 贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。これは贖罪のための贖罪のささげ物、絶えずささげる全焼のささげ物とその穀物のささげ物、およびそれらの飲み物のささげ物に加えてささげるものである。
12 「『第七の月の十五日には、あなたがたは聖なる集会を開きなさい。通常のいかなる仕事もしてはならない。七日間、主への祭りを守りなさい。
13 あなたがたは主への心地よい香りのための火によるささげ物、全焼のささげ物をささげなさい。若い牛十三頭、雄羊二頭、一歳の雄の子羊十四頭である。それらは傷のないものでなければならない。
14 その穀物のささげ物は油を混ぜた上質の小麦粉とし、十三頭の牛のそれぞれ一頭に十分の三エパ、二頭の雄羊のそれぞれ一頭に十分の二エパ、
15 十四頭の子羊のそれぞれ一頭に十分の一エパをささげなさい。
16 また、絶えずささげる全焼のささげ物、その穀物のささげ物、およびその飲み物のささげ物に加えて、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
17 「『二日目には、若い牛十二頭、雄羊二頭、一歳の傷のない雄の子羊十四頭をささげなさい。
18 牛、雄羊、および子羊のためのその穀物のささげ物と飲み物のささげ物は、その定めに従い、その数に応じてささげなさい。
19 また、絶えずささげる全焼のささげ物とその穀物のささげ物、およびそれらの飲み物のささげ物に加えて、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
20 「『三日目には、牛十一頭、雄羊二頭、一歳の傷のない雄の子羊十四頭をささげなさい。

21 牛、雄羊、および子羊のためのその穀物のささげ物と飲み物のささげ物は、その定めに従い、その数に応じてささげなさい。
22 また、絶えずささげる全焼のささげ物とその穀物のささげ物、およびその飲み物のささげ物に加えて、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
23 「『四日目には、牛十頭、雄羊二頭、一歳の傷のない雄の子羊十四頭をささげなさい。
24 牛、雄羊、および子羊のためのその穀物のささげ物と飲み物のささげ物は、その定めに従い、その数に応じてささげなさい。
25 また、絶えずささげる全焼のささげ物、その穀物のささげ物、およびその飲み物のささげ物に加えて、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
26 「『五日目には、牛九頭、雄羊二頭、一歳の傷のない雄の子羊十四頭をささげなさい。
27 牛、雄羊、および子羊のためのその穀物のささげ物と飲み物のささげ物は、その定めに従い、その数に応じてささげなさい。
28 また、絶えずささげる全焼のささげ物とその穀物のささげ物、およびその飲み物のささげ物に加えて、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
29 「『六日目には、牛八頭、雄羊二頭、一歳の傷のない雄の子羊十四頭をささげなさい。
30 牛、雄羊、および子羊のためのその穀物のささげ物と飲み物のささげ物は、その定めに従い、その数に応じてささげなさい。
31 また、絶えずささげる全焼のささげ物、その穀物のささげ物、およびその飲み物のささげ物に加えて、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
32 「『七日目には、牛七頭、雄羊二頭、一歳の傷のない雄の子羊十四頭をささげなさい。
33 牛、雄羊、および子羊のためのその穀物のささげ物と飲み物のささげ物は、その定めに従い、その数に応じてささげなさい。
34 また、絶えずささげる全焼のささげ物、その穀物のささげ物、およびその飲み物のささげ物に加えて、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
35 「『八日目には、あなたがたは厳かな集会を開きなさい。通常のいかなる仕事もしてはならない。
36 あなたがたは主への心地よい香りのための火によるささげ物、全焼のささげ物をささげなさい。牛一頭、雄羊一頭、一歳の傷のない雄の子羊七頭である。
37 牛、雄羊、および子羊のためのその穀物のささげ物と飲み物のささげ物は、その定めに従い、その数に応じてささげなさい。
38 また、絶えずささげる全焼のささげ物とその穀物のささげ物、およびその飲み物のささげ物に加えて、贖罪のささげ物として雄山羊一頭をささげなさい。
39 「『あなたがたは定められた祭りに、これらのものを主にささげなさい。これはあなたがたの誓願のささげ物や自発的なささげ物、すなわち全焼のささげ物、穀物のささげ物、飲み物のささげ物、および和解のいけにえのささげ物に加えてささげるものである。』」
40 モーセは、主がモーセに命じられたすべてのことに従って、イスラエルの子らに告げた。

30

1 モーセはイスラエルの子らの部族の長たちに語って言った。「これが、
主が命じられたことである。
2 人が主に誓願を立てるか、自分の魂を縛る誓約の誓いを立てたなら、そ
の言葉を破ってはならない。彼は自分の口から出たすべてのことに従って行わ
なければならない。
3 「また、女が若い時に父の家にいて、主に誓願を立て、誓約によって自ら
を縛り、
4 その父が彼女の誓願と、彼女が自分の魂を縛った誓約を聞いても、父が彼
女に何も言わないなら、彼女のすべての誓願は有効であり、彼女が自
分の魂を縛ったすべての誓約も有効である。
5 しかし、父がそれを聞いたその日に彼女を禁じたなら、彼女の誓願や、彼
女が自分の魂を縛った誓約は、いっさい有効ではない。父が彼女を禁じたの
で、主は彼女を赦される。
6 「もし彼女が夫を持つ身でありながら、誓願を立てたり、唇で軽率に口にし
て自分の魂を縛ったりした場合、
7 夫がそれを聞き、聞いたその日に彼女に何も言わないなら、彼女の誓
願は有効であり、彼女が自分の魂を縛った誓約も有効である。
8 しかし、夫がそれを聞いたその日に彼女を禁じたなら、彼は彼女が立てて
いる誓願と、彼女が唇で軽率に口にして自分の魂を縛ったことを無効にするこ
とができる。主は彼女を赦される。
9 「しかし、やもめ、または離縁された女の誓願は、彼女が自分の魂を縛っ
たすべてのことにおいて、彼女に対して有効である。
10 「もし女が夫の家で誓願を立てたり、誓いによって自分の魂を縛る誓約をし
たりして、
11 夫がそれを聞き、黙っていて彼女を禁じなかったなら、彼女のすべての誓
願は有効であり、彼女が自分の魂を縛ったすべての誓約も有効である。
12 しかし、夫がそれを聞いたその日にそれらを完全に無効にしたなら、彼
女の誓願や魂の誓約について彼女の唇から出たことはいっさい有効ではない。
彼女の夫がそれらを無効にしたのである。主は彼女を赦される。
13 すべての誓願と、魂を苦しめるためのすべての誓約の誓いは、彼女の夫が
それを有効にすることもでき、彼女の夫がそれを無効にすることもできる。
14 しかし、もし夫が日を重ねても彼女に何も言わないなら、彼は彼女のすべ
ての誓願、または彼女が立てているすべての誓約を有効にしたことになる。
彼はそれを聞いたその日に彼女に何も言わなかったので、それらを有効にした
のである。
15 しかし、もし彼がそれらを聞いた後でそれらを無効にするなら、彼は彼
女の咎を負わなければならない。」
16 これらが、夫と妻の間、また、若い時に父の家にいる娘と父との間につい
て、主がモーセに命じられた掟である。

31

1 主はモーセに語って言われた。
2 「ミディアン人に対して、イスラエルの子らの復讐をしなさい。その後、
あなたは自分の民に加えられる。」
3 モーセは民に語って言った。「あなたがたの中から戦いのために男たち
を武装させ、ミディアンに向かって行かせ、ミディアンに主の復讐を遂行させ
なさい。
4 イスラエルのすべての部族から、各部族千人ずつを戦いに遣わしなさ
い。」
5 こうして、イスラエルの幾千の部隊の中から、各部族千人ずつ、合わせ
て一万二千人が戦いのために武装して差し出された。

6 モーセは彼ら、すなわち各部族の千人を戦いに遣わした。彼らは祭司エルアザルの子ピネハスとともに戦いに行き、彼の手には聖所の器具と、警告のためのラッパがあった。
7 彼らは主がモーセに命じられたとおりにミディアンと戦い、すべての男子を殺した。
8 彼らは殺された者たちとともにミディアンの王たち、すなわちエヴィ、レケム、ツル、フル、レバというミディアンの五人の王を殺した。彼らはまた、ベオルの子バラムを剣で殺した。
9 イスラエルの子らはミディアンの女たちとその幼子たちを捕虜にし、彼らのすべての家畜、すべての羊の群れ、およびすべての財産をぶんどり物として奪った。
10 彼らは、彼らが住んでいたすべての町々と、すべての宿営を火で燃やした。
11 彼らは人であれ動物であれ、すべてのぶんどり物とすべての獲物を取った。
12 彼らは捕虜、獲物、ぶんどり物を、エリコの向かい側にあるヨルダン川のほとりのモアブの平野にある宿営のモーセと祭司エルアザル、およびイスラエルの子らの会衆のもとに持って来た。
13 モーセ、祭司エルアザル、および会衆のすべての指導者たちは、彼らを出迎えるために宿営の外に出た。
14 モーセは、戦いの任務から帰って来た軍隊の役人たち、すなわち千人の長たちや百人の長たちに対して怒った。
15 モーセは彼らに言った。「あなたがたは女たちをみな生かしておいたのか。
16 見よ、これらの女たちはバラムの助言によって、ペオルの事件でイスラエルの子らが主に対して背く罪を犯す原因となり、主の会衆の間に災いが起こったではないか。
17 だから今、幼子たちのうちの男子をみな殺し、男と寝て男を知っている女をみな殺しなさい。
18 しかし、男と寝て男を知らない若い女たちはみな、あなたがたのために生かしておきなさい。
19 「あなたがたは七日間、宿営の外に宿営しなさい。人を殺した者や、殺された者に触れた者はだれでも、三日目と七日目に自分自身と捕虜をきよめなさい。
20 あなたがたはすべての衣服、すべての革製品、山羊の毛で作られたすべてのもの、およびすべての木製品をきよめなさい。」
21 祭司エルアザルは、戦いに行った軍人たちに言った。「これが主がモーセに命じられた律法の掟である。
22 金、銀、青銅、鉄、すず、鉛、
23 火に耐えられるものはすべて火の中を通さなければならない。そうすれば、それはきよくなる。それでもなお、汚れをきよめる水でそれをきよめなければならない。火に耐えられないものはすべて水の中を通さなければならない。
24 あなたがたは七日目に衣服を洗いなさい。そうすればきよくなる。その後、宿営に入ることができる。」
25 主はモーセに語って言われた。
26 「あなたと祭司エルアザル、および会衆の父の家の頭たちは、奪い取られたぶんどり物のうち、人も動物もその総数を数えなさい。
27 そして、そのぶんどり物を、戦いに出た、戦いに熟練した者たちと、全会衆との間で二等分しなさい。
28 戦いに出た軍人たちからは、主への貢ぎ物を徴収しなさい。すなわち、人、牛、ろば、羊の群れのうち、五百につき一つの魂である。

29 彼らの半分からそれを取り、主への揺り動かすささげ物として祭司エルアザルに与えなさい。
30 イスラエルの子らの半分からは、人、牛、ろば、羊の群れ、すべての家畜のうちから五十につき一つを取り出し、主の幕屋の任務を果たすレビ人に与えなさい。」
31 モーセと祭司エルアザルは、主がモーセに命じられたとおりに行った。
32 軍人たちが奪った獲物の残りのぶんどり物は、羊六十七万五千頭、
33 牛七万二千頭、
34 ろば六万一千頭、
35 および、男と寝て男を知らない女の人が合わせて三万二千人であった。
36 その半分、すなわち戦いに出た者たちの割り当ては、羊三十三万七千五百頭であった。
37 その羊からの主への貢ぎ物は六百七十五頭であった。
38 牛は三万六千頭であり、その中からの主への貢ぎ物は七十二頭であった。
39 ろばは三万五百頭であり、その中からの主への貢ぎ物は六十一頭であった。
40 人は一万六千人であり、その中からの主への貢ぎ物は三十二人であった。
41 モーセは主が彼に命じられたとおり、主への揺り動かすささげ物であるその貢ぎ物を祭司エルアザルに与えた。
42 モーセが戦った男たちから分けた、イスラエルの子らの半分については、
43 （会衆の半分は、羊三十三万七千五百頭、
44 牛三万六千頭、
45 ろば三万五百頭、
46 および人一万六千人であった。）
47 モーセはそのイスラエルの子らの半分から、人であれ動物であれ、五十につき一つを取り出し、主がモーセに命じられたとおり、主の幕屋の任務を果たすレビ人に与えた。
48 軍隊の千人の部隊を指揮する役人たち、すなわち千人の長たちや百人の長たちがモーセに近づいた。
49 彼らはモーセに言った。「あなたのしもべたちは、私たちの指揮下にある軍人たちの総数を調べましたが、私たちの中から一人も欠けていません。
50 私たちは主へのささげ物として、それぞれが見つけた金の装飾品、すなわち腕輪、腕飾り、印章指輪、耳輪、首飾りを持って来ました。主の前で私たちの魂のために贖罪を行うためです。」
51 モーセと祭司エルアザルは、彼らから金、すなわちすべての細工物を受け取った。
52 千人の長たちや百人の長たちが主にささげた揺り動かすささげ物の金の総額は、一万六千七百五十シェケル*であった。
53 軍人たちはめいめい自分のために獲物を奪っていた。
54 モーセと祭司エルアザルは千人の長たちや百人の長たちから金を受け取り、イスラエルの子らのための主の前での記念として、それを会見の天幕に持って行った。

32

1 さて、ルベンの子らとガドの子らは、非常に多くの家畜の群れを持っていた。彼らがヤゼルの地とギルアデの地を見ると、見よ、その場所は家畜に適した場所であった。
2 そこでガドの子らとルベンの子らは来て、モーセと祭司エルアザル、および会衆の指導者たちに語って言った。

---

* **31:52 31:52** ―シェケルは約10グラム、または約0.35オンスなので、16,750シェケルは約167.5キログラム、または約

3「アタロト、ディボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシュボン、エルアレ、セバム、ネボ、ベオン、
4すなわち主がイスラエルの会衆の前で打たれた地は、家畜に適した地です。そして、あなたのしもべたちは家畜を持っています。」
5彼らは言った。「もし私たちがあなたの目の前で恵みを見出しているなら、この地をあなたのしもべたちの所有地として与えてください。私たちをヨルダン川の向こうへ渡らせないでください。」
6モーセはガドの子らとルベンの子らに言った。「あなたがたの兄弟たちが戦いに行くのに、あなたがたはここに座っているつもりか。
7なぜあなたがたは、主が彼らに与えられた地へ渡って行こうとするイスラエルの子らの心をくじくのか。
8私がその地を見るためにカデシュ・バルネアから彼らを遣わしたとき、あなたがたの父祖たちもそうした。
9彼らがエシュコルの谷に上って行き、その地を見たとき、彼らはイスラエルの子らの心をくじき、主が彼らに与えられた地へ行かないようにさせた。
10その日、主の怒りが燃え上がり、誓って言われた。
11『エジプトから上って来た者たちのうち、二十歳以上の者はだれも、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓った地を見ることはない。彼らがわたしに完全に従わなかったからである。
12ただし、ケナズ人エフネの子カレブと、ヌンの子ヨシュアは例外である。彼らは主に完全に従ったからである。』
13主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主の前で悪を行ったその世代のすべての者が滅び去るまで、彼らを四十年間、荒野でさまよわせた。
14「見よ、あなたがたは父祖たちに代わって、罪ある人々の増し加わりとして立ち上がり、イスラエルに対する主の激しい怒りをさらに増し加えようとしている。
15もしあなたがたが主に従うことから顔を背けるなら、主はさらにこの民を荒野に見捨てられる。そして、あなたがたはこのすべての民を滅ぼすことになるのだ。」
16彼らはモーセに近づいて言った。「私たちはここに家畜のために羊の囲いを建て、幼子たちのために町々を建てます。
17しかし私たち自身は武装し、イスラエルの子らを彼らの場所に導き入れるまで、彼らの先頭に立って行きます。私たちの幼子たちは、この地の住民を避けるために城壁のある町々に住みます。
18イスラエルの子らが皆、それぞれ自分の所有地を受け継ぐまで、私たちは自分の家に帰りません。
19私たちの所有地が、このヨルダン川のこちら側、すなわち東側で与えられたので、私たちは彼らとともにヨルダン川の向こう側やさらに先で所有地を受け継ぐことはしません。」
20モーセは彼らに言った。「もしあなたがたがこのことを行い、主の前で戦いのために武装し、
21あなたがたの武装した者が皆、主が御前から敵を追い出されるまで、主の前でヨルダン川を渡り、
22その地が主の前で征服されるなら、その後あなたがたは帰り、主に対してもイスラエルに対しても義務を免れる。そしてこの地は、主の前であなたがたの所有地となる。
23「しかし、もしあなたがたがそのようにしないなら、見よ、あなたがたは主に対して罪を犯したことになり、あなたがたの罪が必ずあなたがたを見つけ出すことを知れ。
24幼子たちのために町々を建て、羊のために囲いを建てなさい。そして、あなたがたの口から出たことを実行しなさい。」

25 ガドの子らとルベンの子らはモーセに語って言った。「あなたのしもべたちは、わが主が命じられるとおりに行います。
26 私たちの幼子たち、妻たち、群れ、そしてすべての家畜は、そこのギルアデの町々にとどまります。
27 しかしあなたのしもべたち、すなわち戦いのために武装したすべての者は、わが主が言われるように、主の前で戦いのために渡って行きます。」
28 そこでモーセは、彼らのことについて、祭司エルアザルと、ヌンの子ヨシュアと、イスラエルの子らの部族の父の家の頭たちに命じた。
29 モーセは彼らに言った。「もしガドの子らとルベンの子らのうち、戦いのために武装したすべての男が、主の前であなたがたとともにヨルダン川を渡り、その地があなたがたの前で征服されたなら、あなたがたは彼らにギルアデの地を所有地として与えなさい。
30 しかし、もし彼らが武装してあなたがたとともに渡らないなら、彼らはカナンの地であなたがたの間に所有地を持たなければならない。」
31 ガドの子らとルベンの子らは答えて言った。「主があなたのしもべたちに言われたとおりに、私たちは行います。
32 私たちは武装して主の前でカナンの地に渡って行きますが、私たちの受け継ぐ所有地はヨルダン川のこちら側にとどまります。」
33 モーセは彼ら、すなわちガドの子らとルベンの子ら、およびヨセフの子マナセの半部族に、アモリ人の王シホンの王国とバシャンの王オグの王国、すなわちその境界の町々を含むその地、および周辺の地の町々を与えた。
34 ガドの子らはディボン、アタロト、アロエル、
35 アトロテ・ショファン、ヤゼル、ヨグボハ、
36 ベテ・ニムラ、ベテ・ハランを城壁のある町として建て、羊のための囲いを建てた。
37 ルベンの子らはヘシュボン、エルアレ、キルヤタイム、
38 ネボ、バアル・メオン（これらの名は変更された）、およびシブマを建てた。彼らは自分たちが建てた町々に別の名を与えた。
39 マナセの子マキルの子らはギルアデに行ってこれを取り、そこにいたアモリ人を追い出した。
40 モーセはギルアデをマナセの子マキルに与えた。彼はそこに住んだ。
41 マナセの子ヤイルは行ってその村々を取り、それらをハボテ・ヤイルと呼んだ。
42 ノバは行ってケナテとその村々を取り、自分の名にちなんでそれをノバと呼んだ。

33

1 モーセとアロンの指導のもとで、その部隊ごとにエジプトの地から出たイスラエルの人々の旅の記録は次のとおりである。
2 モーセは主の命令によって、彼らの旅の出発地を書き記した。その出発地による彼らの旅の記録は次のとおりである。
3 彼らは第一の月の十五日にラメセスを旅立った。過越の祭りの翌日、イスラエルの人々はすべてのエジプト人の目の前で、意気揚々と出て行った。
4 そのとき、エジプト人たちは、主が彼らの間で打ち殺されたすべての長子を葬っていた。主はまた、彼らの神々に裁きを下された。
5 イスラエルの人々はラメセスを旅立ち、スコテに宿営した。
6 彼らはスコテを旅立ち、荒野の端にあるエタムに宿営した。
7 彼らはエタムを旅立ち、バアル・ツェフォンの前にあるピ・ハヒロトに引き返し、ミグドルの前に宿営した。
8 彼らはハヒロトの前を旅立ち、海の中を通って荒野へ出た。そしてエタムの荒野を三日間の道のりで進み、マラに宿営した。

9 彼らはマラを旅立ち、エリムに着いた。エリムには十二の水の泉と七十
本のなつめやしの木があり、彼らはそこに宿営した。
10 彼らはエリムを旅立ち、紅海のほとりに宿営した。
11 彼らは紅海を旅立ち、シンの荒野に宿営した。
12 彼らはシンの荒野を旅立ち、ドフカに宿営した。
13 彼らはドフカを旅立ち、アルシュに宿営した。
14 彼らはアルシュを旅立ち、レフィディムに宿営したが、そこには民が飲む
ための水がなかった。
15 彼らはレフィディムを旅立ち、シナイの荒野に宿営した。
16 彼らはシナイの荒野を旅立ち、キブロト・ハタアワに宿営した。
17 彼らはキブロト・ハタアワを旅立ち、ハツェロトに宿営した。
18 彼らはハツェロトを旅立ち、リトマに宿営した。
19 彼らはリトマを旅立ち、リモン・ペレツに宿営した。
20 彼らはリモン・ペレツを旅立ち、リブナに宿営した。
21 彼らはリブナを旅立ち、リサに宿営した。
22 彼らはリサを旅立ち、ケヘラタに宿営した。
23 彼らはケヘラタを旅立ち、シェフェル山に宿営した。
24 彼らはシェフェル山を旅立ち、ハラダに宿営した。
25 彼らはハラダを旅立ち、マクヘロトに宿営した。
26 彼らはマクヘロトを旅立ち、タハトに宿営した。
27 彼らはタハトを旅立ち、テラに宿営した。
28 彼らはテラを旅立ち、ミトカに宿営した。
29 彼らはミトカを旅立ち、ハシュモナに宿営した。
30 彼らはハシュモナを旅立ち、モセロトに宿営した。
31 彼らはモセロトを旅立ち、ベネ・ヤアカンに宿営した。
32 彼らはベネ・ヤアカンを旅立ち、ホル・ハギデガドに宿営した。
33 彼らはホル・ハギデガドを旅立ち、ヨトバタに宿営した。
34 彼らはヨトバタを旅立ち、アブロナに宿営した。
35 彼らはアブロナを旅立ち、エツヨン・ゲベルに宿営した。
36 彼らはエツヨン・ゲベルを旅立ち、ツィンの荒野、すなわちカデシュに宿
営した。
37 彼らはカデシュを旅立ち、エドムの地の端にあるホル山に宿営した。
38 祭司アロンは主の命令によってホル山に登り、そこで死んだ。それはイス
ラエルの人々がエジプトの地から出た後の第四十年目の、第五の月の最
初の日のことであった。
39 アロンがホル山で死んだとき、彼は百二十三歳であった。
40 カナンの地のネゲブ* に住んでいたカナン人であるアラドの王は、イスラ
エルの人々が来るのを聞いた。
41 彼らはホル山を旅立ち、ツァルモナに宿営した。
42 彼らはツァルモナを旅立ち、プノンに宿営した。
43 彼らはプノンを旅立ち、オボテに宿営した。
44 彼らはオボテを旅立ち、モアブの境界にあるイエ・アバリムに宿営した。
45 彼らはイイムを旅立ち、ディボン・ガドに宿営した。
46 彼らはディボン・ガドを旅立ち、アルモン・ディブラタイムに宿営した。
47 彼らはアルモン・ディブラタイムを旅立ち、ネボの前にあるアバリム
の山々に宿営した。
48 彼らはアバリムの山々を旅立ち、エリコの向かい側にあるヨルダン川のほ
とりのモアブの平野に宿営した。

* **33:40 33:40** または、南。

49 彼らはモアブの平野にあるベテ・エシモトからアベル・シティムに至るまでの、ヨルダン川のほとりに宿営した。
50 主はエリコの向かい側にあるヨルダン川のほとりのモアブの平野で、モーセに告げて言われた。
51 「イスラエルの人々に告げて言いなさい。『あなたがたがヨルダン川を渡ってカナンの地に入るとき、
52 あなたがたの前からその地のすべての住民を追い出し、彼らの石の偶像をすべて打ち砕き、彼らの鋳造した偶像をすべて打ち砕き、彼らのすべての高き所を破壊しなければならない。
53 あなたがたはその地を占領し、そこに住みなさい。わたしがその地を所有地としてあなたがたに与えたからである。
54 あなたがたは氏族ごとにくじによってその地を所有地として受け継がなければならない。人数の多い者にはその所有地を多く与え、人数の少ない者にはその所有地を少なく与えなければならない。くじが当たった場所は、だれのものであれ、その人のものとなる。あなたがたは父祖の部族に従って受け継がなければならない。
55 しかし、もしあなたがたがその地の住民をあなたがたの前から追い出さないなら、あなたがたが残しておいた者たちは、あなたがたの目のとげとなり、脇腹のいばらとなって、あなたがたが住むその地であなたがたを苦しめることになる。
56 そして、わたしが彼らに行おうと考えていたことを、あなたがたに行う。』」

34

1 主はモーセに告げて言われた。
2 「イスラエルの人々に命じて、彼らに言いなさい。『あなたがたがカナンの地に入るとき（これは所有地としてあなたがたに割り当てられる地、すなわちその境界に基づくカナンの地である）、
3 あなたがたの南の地方は、エドムの側面に沿ったツィンの荒野から始まり、あなたがたの南の境界は、塩の海の東の端から始まる。
4 あなたがたの境界は、アクラビムの坂の南に回り込み、ツィンを通り過ぎる。その行く先はカデシュ・バルネアの南となる。そこからハツァル・アダルに出て、アツモンを通り過ぎる。
5 境界はアツモンからエジプトの川に回り込み、その行く先は海となる。
6 『西の境界については、あなたがたは大海とその境界を持つ。これがあなたがたの西の境界となる。
7 『これがあなたがたの北の境界となる。大海からホル山までをあなたがたのために線を引かなければならない。
8 ホル山からハマトの入り口まで線を引かなければならない。その境界の行く先はツェダデとなる。
9 境界はツィフロンに出る。その行く先はハツァル・エナンとなる。これがあなたがたの北の境界となる。
10 『あなたがたの東の境界は、ハツァル・エナンからシェファムまで線を引かなければならない。
11 境界はシェファムからアインの東側にあるリブラに下る。境界はさらに下り、東のキネレテの海の側面に達する。
12 境界はヨルダン川に下り、その行く先は塩の海となる。これが、その周囲の境界に従った、あなたがたの地となる。』」
13 モーセはイスラエルの人々に命じて言った。「これはあなたがたがくじによって所有地として受け継ぐ地であり、主が九つの部族と半部族に与えるように命じられた地である。

14 ルベンの子らの部族は彼らの父の家ごとに受け取り、ガドの子らの部族も彼らの父の家ごとに受け取り、マナセの半部族も彼らの所有地を受け取ったからである。
15 この二つの部族と半部族は、エリコの向かい側にあるヨルダン川の東側、日の出る方角で、すでに彼らの所有地を受け取っている。」
16 主はモーセに告げて言われた。
17 「所有地としてあなたがたのためにその地を分ける者たちの名は次のとおりである。祭司エルアザルと、ヌンの子ヨシュアである。
18 あなたがたは所有地としてその地を分けるために、各部族から一人の指導者を取りなさい。
19 その男たちの名は次のとおりである。ユダの部族からは、エフネの子カレブ。
20 シメオンの子らの部族からは、アミフデの子シェムエル。
21 ベニヤミンの部族からは、キスロンの子エリダデ。
22 ダンの子らの部族の指導者として、ヨグリの子ブキ。
23 ヨセフの子らのうち、マナセの子らの部族の指導者として、エフォデの子ハニエル。
24 エフライムの子らの部族の指導者として、シフタンの子ケムエル。
25 ゼブルンの子らの部族の指導者として、パルナクの子エリツァファン。
26 イッサカルの子らの部族の指導者として、アザンの子パルティエル。
27 アシェルの子らの部族の指導者として、シェロミの子アヒフデ。
28 ナフタリの子らの部族の指導者として、アミフデの子ペダヘル。」
29 これらが、カナンの地でイスラエルの人々に所有地を分けるように主が命じられた者たちである。

35

1 主はエリコの向かい側にあるヨルダン川のほとりのモアブの平野でモーセに告げて言われた。
2 「イスラエルの人々に命じて、彼らが受け継ぐ所有地からレビ人に住むための町々を与えさせなさい。またあなたがたは、それらの町々の周囲の放牧地をレビ人に与えなければならない。
3 彼らは住むための町々を持ち、その放牧地は彼らの家畜のため、彼らの財産のため、また彼らのすべての動物のためのものとなる。
4 「あなたがたがレビ人に与える町々の放牧地は、町の城壁から外側に向かって周囲一千キュビトとしなければならない。
5 あなたがたは町を真ん中にして、町の外側の東側に二千キュビト、南側に二千キュビト、西側に二千キュビト、北側に二千キュビトを測らなければならない。これが彼らにとって町々の放牧地となる。
6 「あなたがたがレビ人に与える町々のうち、人を殺した者が逃れるための六つの逃れの町を与えなければならない。それに加えて、四十二の町を与えなければならない。
7 あなたがたがレビ人に与えるすべての町は四十八の町となり、それらを放牧地とともに与えなければならない。
8 あなたがたがイスラエルの人々の所有地から与える町々については、人数の多い部族からは多く取り、人数の少ない部族からは少なく取らなければならない。各部族は、自分が受け継ぐ所有地に応じて、その町々の一部をレビ人に与えなければならない。」
9 主はモーセに告げて言われた。
10 「イスラエルの人々に告げて言いなさい。『あなたがたがヨルダン川を渡ってカナンの地に入るとき、
11 あなたがたのために逃れの町となる町々を定めなさい。無意識のうちに人を殺した者がそこに逃れるためである。

12 それらの町は、人を殺した者が復讐する者の手から逃れるための避難所となる。それは、人を殺した者が裁きのために会衆の前に立つ前に死ぬことがないためである。
13 あなたがたが与える町々は、あなたがたのための六つの逃れの町となる。
14 あなたがたはヨルダン川の向こう側に三つの町を与え、カナンの地に三つの町を与えなければならない。これらは逃れの町となる。
15 イスラエルの人々にとって、また彼らの間に住む寄留者や外国人にとって、これら六つの町は逃れの町となる。無意識のうちに人を殺した者が皆、そこに逃れるためである。
16 『しかし、もし彼が鉄の道具で人を打ち、その人が死んだなら、彼は殺人者である。殺人者は必ず死刑に処されなければならない。
17 もし彼が、人が死ぬような石を手に持って人を打ち、その人が死んだなら、彼は殺人者である。殺人者は必ず死刑に処されなければならない。
18 あるいは彼が、人が死ぬような木の武器を手に持って人を打ち、その人が死んだなら、彼は殺人者である。殺人者は必ず死刑に処されなければならない。
19 血の復讐をする者自身がその殺人者を死刑に処す。彼に出会ったときに、彼を死刑に処すのである。
20 もし彼が憎しみから人を突き飛ばすか、あるいは待ち伏せして物を投げつけ、その人が死んだなら、
21 あるいは悪意から手で人を打ち、その人が死んだなら、打った者は必ず死刑に処されなければならない。彼は殺人者である。血の復讐をする者は、その殺人者に出会ったときに、彼を死刑に処す。
22 『しかし、もし彼が悪意なく突然人を突き飛ばすか、待ち伏せせずに何かを投げつけるか、
23 あるいは人が死ぬようなどんな石であっても、見ていないのにその人の上に落とし、その人が死んだ場合で、彼がその人の敵ではなく、危害を加えようとしていたのでもないなら、
24 会衆はこれらの掟に従って、打ち殺した者と血の復讐をする者との間を裁かなければならない。
25 会衆は人を殺した者を血の復讐をする者の手から救い出し、会衆は彼が逃げ込んだ逃れの町に彼を戻さなければならない。彼は聖なる油を注がれた大祭司が死ぬまで、そこに住まなければならない。
26 しかし、もし人を殺した者が、逃げ込んだ逃れの町の境界を少しでも越え、
27 血の復讐をする者が逃れの町の境界の外で彼を見つけ、血の復讐をする者がその人を殺した者を殺しても、彼に血を流した罪はない。
28 人を殺した者は、大祭司が死ぬまで逃れの町にとどまらなければならなかったからである。しかし、大祭司が死んだ後は、人を殺した者は自分の所有地に戻ることができる。
29 『これらのことは、あなたがたのすべての住まいで、代々にわたっての律法の定めとなる。
30 『人を殺した者については、証人たちの証言によって殺人者を死刑に処さなければならない。しかし、一人の証人だけでは、だれをも死刑に処す証言とはならない。
31 また、死刑に当たる有罪の殺人者の命の身代金を受け取ってはならない。彼は必ず死刑に処されなければならない。
32 また、逃れの町に逃げ込んだ者のために身代金を受け取り、祭司が死ぬ前に彼が再びその地に住むために戻ることを許してはならない。
33 『このようにして、あなたがたは自分たちのいる地を汚してはならない。血はその地を汚すからである。その地で流された血について、その地のため

に贖罪を行うことはできない。ただ、それを流した者の血による以外にはない。
34 あなたがたが住む地、わたしが住む地を汚してはならない。わたしはイスラエルの人々の間に住む主だからである。』」

36

1 ヨセフの子らの氏族のうち、マナセの子マキルの子ギルアデの子らの氏族の、父の家々の頭たちが近づいて来て、モーセと、イスラエルの人々の父の家々の頭である指導者たちの前で語った。
2 彼らは言った。「主はわが主に、イスラエルの人々にくじによってその地を所有地として与えるように命じられました。そしてわが主は主から、私たちの兄弟ゼロフェハデの所有地をその娘たちに与えるように命じられました。
3 もし彼女たちがイスラエルの人々の他の部族の息子たちのうちのだれかと結婚すれば、彼女たちの所有地は私たちの父祖たちの所有地から取り去られ、彼女たちが属する部族の所有地に加えられます。このようにして、それは私たちの所有地のくじから取り去られるのです。
4 イスラエルの人々のヨベルの年が来ても、彼女たちの所有地は彼女たちが属する部族の所有地に加えられます。このようにして、彼女たちの所有地は私たちの父祖の部族の所有地から取り去られるのです。」
5 モーセは主の言葉に従ってイスラエルの人々に命じて言った。「ヨセフの子らの部族の言うことは正しい。
6 ゼロフェハデの娘たちについて、主が命じられることは次のとおりである。『彼女たちは自分たちが最も良いと思う者と結婚してよい。ただし、彼女たちの父の部族の氏族とだけ結婚しなければならない。
7 イスラエルの人々の所有地が、部族から部族へと移ってはならない。イスラエルの人々は皆、自分の父祖の部族の所有地を保たなければならないからである。
8 イスラエルの人々のどの部族においても、所有地を持つ娘は皆、自分の父の部族の氏族の一人の妻とならなければならない。イスラエルの人々がそれぞれ自分の父祖の所有地を受け継ぐためである。
9 所有地が、ある部族から他の部族へと移ってはならない。イスラエルの人々の部族は、それぞれ自分の所有地を保たなければならないからである。』」
10 主がモーセに命じられたとおりに、ゼロフェハデの娘たちは行った。
11 ゼロフェハデの娘たちであるマフラ、ティルツァ、ホグラ、ミルカ、ノアは、彼女たちの父の兄弟たちの息子たちと結婚した。
12 彼女たちはヨセフの子マナセの子らの氏族に嫁ぎ、彼女たちの所有地は彼女たちの父の氏族の部族にとどまった。
13 これらが、エリコの向かい側にあるヨルダン川のほとりのモアブの平野で、主がモーセを通してイスラエルの人々に命じられた命令と掟である。

モーセの第五の書
通称
申命記

1 これらは、ヨルダン川の向こう側、荒野、スフの向かい側のアラバで、パラン、トフェル、ラバン、ハツェロト、ディザハブの間で、モーセが全イスラエルに語った言葉である。
2 ホレブからセイル山を通る道を経てカデシュ・バルネアに至るには、十一日の道のりである。
3 第四十年目の、第十一の月の最初の日に、主* がモーセに命じられたすべてのことに従って、モーセはイスラエルの子らに語った。
4 彼がヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホンと、アシュタロトとエドレイに住んでいたバシャンの王オグを打ち倒した後のことである。
5 ヨルダン川の向こう側、モアブの地で、モーセはこの律法を説明し始めて、言った。
6 「私たちの神、主† はホレブで私たちに語って言われた。『あなたがたはこの山に長く住みすぎた。
7 向きを変えて旅立ち、アモリ人の山地と、その近くのすべての場所、すなわちアラバ、山地、低地、南、海辺、カナン人の地、そしてレバノンへ行き、大河ユーフラテス川にまで行きなさい。
8 見よ、わたしはその地をあなたがたの前に置いた。入って行き、主があなたがたの父祖であるアブラハム、イサク、ヤコブに、彼らとその後の子孫‡ に与えると誓われたその地を所有しなさい。』」
9 わたしはその時、あなたがたに語って言った。「わたし一人ではあなたがたを背負うことはできない。
10 あなたがたの神、主があなたがたを増やされたので、見よ、今日、あなたがたは天の星のように多い。
11 あなたがたの父祖の神、主が、あなたがたを今の千倍に増やし、約束されたとおりにあなたがたを祝福してくださるように!
12 わたし一人で、どうしてあなたがたの問題や、あなたがたの重荷や、あなたがたの争いを背負うことができようか。
13 あなたがたの部族の中から、知恵があり、理解力があり、よく知られている男たちを取りなさい。わたしは彼らをあなたがたの頭とする。」
14 あなたがたはわたしに答えて言った。「あなたが言ったことは、行うのに良いことだ。」
15 そこでわたしは、あなたがたの部族の頭である、知恵がありよく知られている男たちを取り、あなたがたの頭、すなわち千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長、およびあなたがたの部族の役人とした。
16 わたしはその時、あなたがたの裁き人たちに命じて言った。「あなたがたの兄弟たちの間の事件を聞き、人とその兄弟、または彼とともに住む寄留者との間を義をもって裁きなさい。
17 裁きにおいて人をえこひいきしてはならない。小さい者も大いなる者も等しく聞かなければならない。人を恐れてはならない。裁きは神のものだからである。あなたがたにとって難しすぎる事件は、わたしのところに持って来なさい。わたしがそれを聞こう。」

---

* **1:3 1:3** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（ヤ
† **1:6 1:6** 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。 ‡ **1:8 1:8** または、種

18 わたしはその時、あなたがたが行うべきすべてのことをあなたがたに命じた。
19 わたしたちはホレブを旅立ち、わたしたちの神、主がわたしたちに命じられたとおりに、あなたがたが見たあの大きくて恐ろしい荒野をすべて通り抜け、アモリ人の山地に向かう道を進み、カデシュ・バルネアに到着した。
20 わたしはあなたがたに言った。「あなたがたはアモリ人の山地に着いた。そこはわたしたちの神、主がわたしたちに与えてくださるところである。
21 見よ、あなたの神、主はあなたの前にその地を置かれた。あなたの父祖の神、主があなたに語られたとおりに、上って行ってそれを所有しなさい。恐れてはならない。また、おじけづいてはならない。」
22 するとあなたがたは皆、わたしのところに近づいて来て言った。「私たちの前に男たちを遣わし、彼らにその地を偵察させ、私たちが上って行くべき道や、私たちが至るべき町々について、報告を持ち帰らせましょう。」
23 その提案はわたしを喜ばせた。わたしはあなたがたの中から各部族に一人ずつ、十二人の男たちを取った。
24 彼らは向きを変えて山地へ上って行き、エシュコルの谷に至ってそこを偵察した。
25 彼らはその地の果実をいくらか手に取り、わたしたちのところに持って下って来て、わたしたちに報告して言った。「わたしたちの神、主がわたしたちに与えてくださる地は良い地です。」
26 それでもあなたがたは上って行くことを拒み、あなたがたの神、主の命令に背いた。
27 あなたがたは自分たちの天幕の中でつぶやいて言った。「主は私たちを憎んでいるからこそ、私たちをエジプトの地から導き出し、アモリ人の手に引き渡して滅ぼそうとされているのだ。
28 私たちはどこへ上って行くのか。私たちの兄弟たちが、『その民は私たちよりも大きく背が高い。町々は大きく、城壁は天にまで届いている。その上、そこでアナクの子孫を見た』と言って、私たちの心をくじかせたのだ。」
29 そこでわたしはあなたがたに言った。「恐れてはならない。彼らを怖がってはならない。
30 あなたがたの先頭に立って行かれるあなたがたの神、主が、エジプトであなたがたの目の前で、あなたがたのために行われたすべてのことと同じように、あなたがたのために戦われる。
31 また荒野でも、あなたがたがこの場所に着くまで歩んできたすべての道で、人が自分の息子を抱きかかえるように、あなたの神、主があなたを抱きかかえられたのを、あなたは見た。」
32 しかし、このことにおいても、あなたがたはあなたがたの神、主を信じなかった。
33 主はあなたがたの先頭に立って道を進み、あなたがたが天幕を張る場所を探し、夜は火の中にいてあなたがたが行くべき道を示し、昼は雲の中におられた。
34 主はあなたがたの言葉の声を聞いて怒り、誓って言われた。
35 「わたしが彼らの父祖たちに与えると誓ったあの良い地を、この悪の世代の男たちはだれ一人として見ることはない。
36 ただし、エフネの子カレブは例外である。彼はそれを見る。わたしは彼が踏んだその地を、彼とその子供たちに与える。彼が主に完全に従ったからである。」
37 主はあなたがたのゆえにわたしにも怒って、言われた。「あなたもそこに入ることはできない。
38 あなたの前に立つヌンの子ヨシュア、彼がそこに入る。彼を励ましなさい。彼がイスラエルにそれを受け継がせるからである。

39 また、捕虜になるか殺されるだろうとあなたがたが言ったあなたがたの幼
子たち、今日善悪の知識を持たないあなたがたの子供たち、彼らがそこ
に入る。わたしは彼らにそれを与え、彼らがそれを所有する。
40 しかしあなたがたは向きを変え、紅海への道を通って荒野へ旅立ちなさ
い。」
41 するとあなたがたは答えて、わたしに言った。「私たちは主に対し
て罪を犯しました。私たちは、私たちの神、主が命じられたすべてのこと
に従って、上って行って戦います。」あなたがたは各々戦いの武
器を身に着け、あえて山地へ上って行こうとした。
42 主はわたしに言われた。「彼らに言いなさい。『上って行ってはならな
い。また戦ってはならない。わたしはあなたがたのただ中にはいないからで
ある。あなたがたが敵の前に打ち倒されることがないためである。』」
43 そこでわたしはあなたがたに語ったが、あなたがたは聞き従わなかっ
た。あなたがたは主の命令に背き、高ぶって山地へ上って行った。
44 その山地に住んでいたアモリ人があなたがたを迎え撃つために出て来て、
蜂のようにあなたがたを追いかけ、セイルにおいてホルマにまであなたがた
を打ち砕いた。
45 あなたがたは帰って来て主の前で泣いた。しかし主はあなたがた
の声に耳を傾けず、あなたがたに耳を貸されなかった。
46 こうしてあなたがたは、そこにとどまっていた日数に従って、多くの日を
カデシュにとどまった。

2

1 それからわたしたちは向きを変え、主がわたしに語られたとおりに紅海へ
の道を通って荒野へ旅立ち、長い間セイル山を巡り歩いた。
2 主はわたしに語って言われた。
3 「あなたがたはこの山を長く巡り歩きすぎた。北に向かいなさい。
4 民に命じて言いなさい。『あなたがたはセイルに住むエサウの子らであ
る、あなたがたの兄弟たちの境界を通ろうとしている。彼らはあなたがた
を恐れるであろう。だから深く注意しなさい。
5 彼らと争ってはならない。わたしは彼らの地を、足の裏が踏むほどの広さ
でさえ、あなたがたには与えないからである。わたしはセイル山をエサウに所
有地として与えたからである。
6 あなたがたは彼らから食べ物を金で買い、それを食べなさい。ま
た水も彼らから金で買い、それを飲みなさい。』」
7 あなたの神、主は、あなたの手のすべての業においてあなたを祝福され
た。主はこの大きな荒野を行くあなたの旅を知っておられる。この四十年間、
あなたの神、主はあなたとともにおられ、あなたは何も欠けることがなかっ
た。
8 そこでわたしたちは、セイルに住むエサウの子らであるわたしたちの兄
弟たちから離れ、エラトとエツヨン・ゲベルからのアラバの道を通り過ぎ
た。わたしたちは向きを変え、モアブの荒野の道を通って進んだ。
9 主はわたしに言われた。「モアブを悩ませてはならない。また、戦い
で彼らと争ってはならない。わたしはその地を所有地としてあなたに与えない
からである。わたしはアルをロトの子らに所有地として与えたからである。」
10 （以前、そこにはエミム人が住んでいた。彼らは大きく、数が多く、アナ
ク人のように背の高い民であった。
11 彼らもアナク人のようにレファイム人として数えられるが、モア
ブ人は彼らをエミム人と呼んでいる。
12 また、以前にはセイルにホリ人も住んでいたが、エサウの子らが彼ら
に取って代わった。イスラエルが主から与えられた所有地の地で行ったよう

に、エサウの子らは彼らを自分たちの前から滅ぼし、彼らに代わってそこに住んだ。）
13「今、起きてゼレドの谷を渡りなさい。」わたしたちはゼレドの谷を渡った。
14わたしたちがカデシュ・バルネアを出てからゼレドの谷を渡るまでの日数は三十八年であり、ついに主が彼らに誓われたとおり、戦士たちのその世代の者たちは皆、宿営の真ん中から滅び去った。
15また主の御手も彼らに向かって下り、ついに彼らが滅び去るまで、彼らを宿営の真ん中から滅ぼした。
16民の中から戦士たちが皆死に絶えたとき、
17主はわたしに語って言われた。
18「あなたは今日、モアブの境界であるアルを越えようとしている。
19アンモンの子らの近くに進むときは、彼らを悩ませてはならない。また彼らと争ってはならない。わたしはアンモンの子らの地を所有地としてあなたに与えないからである。わたしはそれをロトの子らに所有地として与えたからである。」
20（そこもレファイムの地として数えられる。以前にはレファイム人がそこに住んでいたが、アンモン人は彼らをザムズミム人と呼んでいる。
21彼らは大きく、数が多く、アナク人のように背の高い民であった。しかし主はイスラエルの前から彼らを滅ぼし、アンモン人は彼らに取って代わり、彼らに代わってそこに住んだ。
22それは、セイルに住むエサウの子らのために主が行われたことと同じである。主がホリ人を彼らの前から滅ぼされ、彼らがホリ人に取って代わり、今日に至るまで彼らに代わってそこに住んでいるのと同じである。
23ガザに至るまでの村々に住んでいたアビム人についても、カフトルから出て来たカフトル人が彼らを滅ぼし、彼らに代わってそこに住んだ。）
24「起きて旅立ち、アルノン川の谷を渡りなさい。見よ、わたしはヘシュボンの王であるアモリ人シホンと、彼の地をあなたの手に引き渡した。それを所有し始め、戦いで彼と争いなさい。
25今日わたしは、全天の下にいる国々の民に、あなたに対する恐れと恐怖を置き始める。彼らはあなたの報告を聞き、あなたのゆえに震え、苦しむであろう。」
26わたしはケデモトの荒野からヘシュボンの王シホンに使者を遣わし、平和の言葉をもって言った。
27「あなたの国を通らせてください。わたしは大通りを通って行きます。右にも左にも曲がりません。
28わたしが食べられるように、食べ物を金で売ってください。わたしが飲めるように、水を金で与えてください。ただ、わたしを徒歩で通らせてください。
29それは、セイルに住むエサウの子らと、アルに住むモアブ人がわたしにしてくれたのと同じです。そうすれば、わたしはヨルダン川を渡り、わたしたちの神、主がわたしたちに与えてくださる地に入ることができます。」
30しかしヘシュボンの王シホンは、わたしたちが彼のところを通ることを許さなかった。あなたの神、主が、今日あるように、彼をあなたの手に引き渡すために、彼の霊を頑なにし、彼の心をかたくなにされたからである。
31主はわたしに言われた。「見よ、わたしはシホンと彼の地をあなたの前に引き渡し始めた。所有し始め、彼の地を受け継ぎなさい。」
32するとシホンは、彼と彼のすべての民とともに、ヤハツで戦うためにわたしたちを迎え撃つために出て来た。
33わたしたちの神、主は彼をわたしたちの前に引き渡され、わたしたちは彼と、その息子たちと、彼のすべての民を打ち倒した。

34 わたしたちはその時、彼のすべての町を取り、すべての人の住む町と、
女と、幼子を完全に滅ぼした。わたしたちは一人も残さなかった。
35 ただ家畜だけはわたしたち自身の獲物として取り、わたしたちが取っ
た町々のぶんどり物とともに取った。
36 アルノン川の谷の端にあるアロエルから、またその谷にある町からギルア
デに至るまで、わたしたちにとって高すぎる町は一つもなかった。わたしたち
の神、主がそのすべてをわたしたちの前に引き渡されたのである。
37 ただし、アンモンの子らの地、ヤボク川のすべての岸辺、山地の町々、そ
してわたしたちの神、主が禁じられた場所には、あなたは近づかなかった。

3

1 それからわたしたちは向きを変え、バシャンの道へ上って行った。バシャ
ンの王オグは、彼とそのすべての民とともにエドレイで戦うためにわたしたち
を迎え撃つために出て来た。
2 主はわたしに言われた。「彼を恐れてはならない。わたしは彼と彼のすべ
ての民、そして彼の地をあなたの手に引き渡した。あなたは、ヘシュボン
に住んでいたアモリ人の王シホンにしたのと同じように、彼にもしなければな
らない。」
3 こうしてわたしたちの神、主はバシャンの王オグとそのすべての民をもわ
たしたちの手に引き渡され、わたしたちは彼を打ち、一人も残さなかった。
4 わたしたちはその時、彼のすべての町を取った。わたしたちが彼らか
ら取らなかった町は一つもなかった。すなわち、アルゴブの全地方である六
十の町、バシャンにおけるオグの王国である。
5 これらの町はすべて、高い城壁、門、かんぬきで要塞化されていた。これ
に加えて、城壁のない町が非常にたくさんあった。
6 わたしたちはヘシュボンの王シホンにしたように、すべて
の人の住む町と、女と、幼子を完全に滅ぼした。
7 しかし、すべての家畜と町々のぶんどり物は、わたしたち自身の獲物とし
て取った。
8 わたしたちはその時、ヨルダン川の向こう側にいた二人のアモ
リ人の王の手から、アルノン川の谷からヘルモン山に至るまでの地を取った。
9 （シドン人はヘルモン山をシルヨンと呼び、アモリ人はそれをセニル
と呼んでいる。）
10 すなわち、平野のすべての町、全ギルアデ、そしてバシャンにおけるオグ
の王国の町々であるサルカとエドレイに至る全バシャンである。
11 （レファイムの生き残りはバシャンの王オグだけであった。見よ、彼の寝
台は鉄の寝台であった。それはアンモンの子らのラバにないだろうか。一般
的なキュビトで、その長さは九キュビト*、その幅は四キュビトである。）
12 その時、わたしたちはこの地を所有した。アルノン川の谷のほとりにある
アロエルから、ギルアデの山地の半分とその町々を、わたしはルベン人とガ
ド人に与えた。
13 ギルアデの残りの部分と、オグの王国である全バシャンを、わたしはマナ
セの半部族に与えた。アルゴブの全地方と全バシャンである。（そこはレファ
イムの地と呼ばれている。
14 マナセの子ヤイルはアルゴブの全地方を、ゲシュル人とマアカ人の境界ま
で取り、それら、すなわちバシャンを自分の名にちなんでハボテ・ヤイル
と呼んだ。それは今日に至っている。）
15 わたしはマキルにギルアデを与えた。

---

* **3:11** 1キュビトは男性の腕の中指の先から肘までの長さで、約18インチ、または46センチメートルである。

16 わたしはルベン人とガド人に、ギルアデからアルノン川の谷まで、
谷の真ん中とその境界を与え、またアンモンの子らの境界であるヤボ
ク川に至るまでを与えた。
17 アラバとヨルダン川とその境界も、キネレトからアラバの海、すなわ
ち塩の海に至るまで、東のピスガの斜面の下を与えた。
18 その時、わたしはあなたがたに命じて言った。「あなたがた
の神、主は、あなたがたが所有するようにこの地をあなたがたに与えられ
た。あなたがたの勇敢な男たちは皆、武装してあなたがたの兄弟であるイスラ
エルの子らの先頭に立って渡って行かなければならない。
19 しかし、あなたがたの妻たち、あなたがたの幼子たち、そしてあなたがた
の家畜（あなたがたが多くの家畜を持っていることをわたしは知ってい
る）は、わたしがあなたがたに与えた町々にとどまらなければならない。
20 それは、主があなたがたに安息を与えられたように、あなたがたの兄弟た
ちにも安息を与え、彼らもまた、ヨルダン川の向こう側であなたがた
の神、主が彼らに与えられる地を所有するようになる時までである。その後、
あなたがたはそれぞれ、わたしがあなたがたに与えた所有地に帰らなければな
らない。」
21 その時、わたしはヨシュアに命じて言った。「あなたの目は、あなた
の神、主がこの二人の王になされたすべてのことを見た。主はあなたが渡っ
て行くすべての王国にも、そのようにされる。
22 彼らを恐れてはならない。あなたがたの神、主ご自身があなたがたのため
に戦われるからである。」
23 その時、わたしは主に願い求めて言った。
24 「主†なる神よ、あなたはしもべにあなたの偉大さとあなたの力強い御
手を示し始められました。天にも地にも、あなたの御業やあなたの力強い行い
のようなことができる神が、ほかにいるでしょうか。
25 どうか私を渡らせ、ヨルダン川の向こう側にある良い地、あの良い山地と
レバノンを見させてください。」
26 しかし主はあなたがたのゆえにわたしに対して怒り、わたしの願い
を聞き入れられなかった。主はわたしに言われた。「それで十分だ。このこと
については、もう二度とわたしに語ってはならない。
27 ピスガの頂に登り、西、北、南、東に目を向けて、あなたの目でそれ
を見なさい。あなたは決してこのヨルダン川を渡ることはないからである。
28 しかし、ヨシュアに命じ、彼を励まし、彼を力づけなさい。彼がこ
の民の先頭に立って渡り、彼があなたの見る地を彼らに受け継がせるからであ
る。」
29 こうしてわたしたちはベテ・ペオルの向かいの谷にとどまった。

4

1 さて、イスラエルよ。わたしがあなたがたに教える掟と法を聞き、それ
を行わなければならない。そうすれば、あなたがたは生き、あなたがたの父
祖の神、主があなたがたに与えられるその地に入って、それを所有することが
できる。
2 わたしがあなたがたに命じる言葉に付け加えてはならず、またそこか
ら減らしてはならない。わたしがあなたがたに命じるあなたがたの神、主の命
令を守るためである。
3 あなたがたの目は、主がバアル・ペオルのゆえに行われたことを見た。バ
アル・ペオルに従ったすべての者を、あなたの神、主はあなたのただ中か
ら滅ぼされた。
4 しかし、あなたがたの神、主に忠実であったあなたがたは皆、今日生きて
いる。

† **3:24 3:24** 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

5 見よ、わたしの神、主がわたしに命じられたように、わたしはあなたがたに掟と法を教えた。あなたがたが、所有するために入って行くその地のただ中で、そのように行うためである。
6 それゆえ、それらを守り行いなさい。これは、これらのすべての掟を聞いて、「確かにこの大いなる国民は、知恵と理解力のある民である」と言う国々の民の前に、あなたがたの知恵と理解力を示すものだからである。
7 わたしたちが呼ぶときはいつでも、わたしたちの神、主がわたしたちの近くにおられるように、そのように神が近くにおられる大いなる国民が、ほかにどこにあるだろうか。
8 今日わたしがあなたがたの前に置くこのすべての律法のように、義にかなった掟と法を持つ大いなる国民が、ほかにどこにあるだろうか。
9 ただ、自分自身を深く注意して守り、あなたの魂を熱心に守りなさい。あなたの目が見た事柄を忘れず、あなたの生涯のすべての日の間、それらがあなたの心から離れないようにするためである。それらをあなたの子供たちと、あなたの子供たちの子供たちに知らせなさい。
10 あなたがホレブであなたの神、主の前に立った日のこと、主がわたしに、「民をわたしの前に集めよ。わたしは彼らにわたしの言葉を聞かせよう。彼らが地上に生きるすべての日の間、わたしを恐れることを学び、またそれを彼らの子供たちに教えることができるようにするためである」と言われた。
11 あなたがたは近づき、山のふもとに立った。山は火で空の中心にまで燃え上がり、暗黒の雲と濃い暗闇に覆われていた。
12 主は火のただ中からあなたがたに語られた。あなたがたは言葉の声を聞いたが、いかなる姿も見ず、ただ声だけを聞いた。
13 主はご自身の契約、すなわちあなたがたに行うように命じられた十戒をあなたがたに告げ知らされた。そして、主はそれを二枚の石の板に書き記された。
14 その時、主はわたしに掟と法をあなたがたに教えるように命じられた。それはあなたがたが所有するために渡って行くその地で、あなたがたがそれを行うためである。
15 主がホレブで火のただ中からあなたがたに語られた日、あなたがたはいかなる姿も見なかったのであるから、自分自身を深く注意して守りなさい。
16 あなたがたが自分たちを堕落させ、いかなる形、すなわち男や女の似姿の彫像を自分たちのために造らないようにするためである。
17 また、地上のいかなる動物の似姿も、空を飛ぶいかなる翼のある鳥の似姿も、
18 地面を這ういかなるものの似姿も、地の下の水の中にいるいかなる魚の似姿も造らないようにするためである。
19 また、あなたが目を空に向け、太陽、月、星々、すなわち天のすべての万象を見たとき、あなたがたの神、主が全天の下にいるすべての民に割り当てられたそれらに引き寄せられ、それらを拝み、それに仕えないようにするためである。
20 しかし主は、今日あるように、ご自身の受け継ぐ民とするために、あなたがたを取り、鉄の炉、すなわちエジプトから導き出された。
21 さらに主はあなたがたのゆえにわたしに対して怒り、わたしがヨルダン川を渡らず、あなたの神、主があなたに所有地として与えられるあの良い地に入らないと誓われた。
22 わたしはこの地で死ななければならない。ヨルダン川を渡ることはできない。しかし、あなたがたは渡って行き、あの良い地を所有する。
23 あなたがたの神、主があなたがたと結ばれた契約を忘れ、あなたの神、主があなたに禁じられたいかなる形の彫像も、自分たちのために造らないように気をつけなさい。
24 あなたの神、主は焼き尽くす火であり、ねたむ神だからである。

25 あなたに子供が生まれ、子供たちの子供が生まれ、あなたがたがその地に長く住んで、自らを堕落させ、いかなる形の彫像を造り、あなたの神、主の御目に悪であることを行って、主を怒らせるなら、
26 今日わたしはあなたがたに対して天と地を証人に呼ぶ。あなたがたは、所有するためにヨルダン川を渡って行くその地から、すぐに完全に滅び去る。あなたがたはその地で長く日々を過ごすことはできず、完全に滅ぼされる。
27 主はあなたがたを国々の民の間に散らし、主があなたがたを追いやる国々の間で、あなたがたは少ない人数として残される。
28 そこであなたがたは、人の手の業である木や石の神々、すなわち見ることも、聞くことも、食べることも、嗅ぐこともできない神々に仕えることになる。
29 しかし、そこからあなたはあなたの神、主を探し求め、心を尽くし、魂を尽くして主を探し求めるとき、あなたは主を見出すであろう。
30 あなたが苦難の中にあり、これらのすべてのことがあなたに臨むとき、終わりの日に、あなたはあなたの神、主に立ち返り、その御声に聞き従う。
31 あなたの神、主はあわれみ深い神だからである。主はあなたを見捨てることも、あなたを滅ぼすこともなく、あなたの父祖たちに誓われた彼らとの契約を忘れることもない。
32 神が地上に人を創造された日から、また天の果てから果てに至るまで、あなたより前にあった過ぎ去った日々に、今尋ねてみなさい。このような大いなる事があっただろうか。あるいは、これに似た事が聞かれただろうか。
33 あなたが聞いたように、火のただ中から語られる神の声を聞いて、なお生きている民があっただろうか。
34 あるいは神が、あなたの神、主がエジプトにおいてあなたの目の前であなたのために行われたすべてのことのように、試み、しるし、不思議、戦い、力強い御手、伸ばされた腕、そして大いなる恐れによって、一つの国民を別の国民の中からご自分のために取り出そうとされたことがあっただろうか。
35 それがあなたに示されたのは、主こそが神であることをあなたが知るためであった。主のほかに神はいない。
36 主はあなたを教え導くために、天から主の御声をあなたに聞かせられた。地上では主の大いなる火をあなたに見せられ、あなたは火のただ中から主の言葉を聞いた。
37 主はあなたの父祖たちを愛されたので、彼らの後の子孫を選び、主の臨在と大いなる力をもって、あなたをエジプトから導き出された。
38 それは、あなたよりも大きく力強い国々をあなたの前から追い払い、今日あるように、あなたを導き入れて、彼らの地を所有地としてあなたに与えるためであった。
39 それゆえ今日、上は天において、下は地において、主こそ神であり、ほかに神はいないことを知り、心に留めなさい。
40 あなたは、わたしが今日あなたに命じる主の掟と命令を守らなければならない。それは、あなたとあなたの後の子供たちが幸いを得て、あなたの神、主があなたに永遠に与えられるその地で、あなたの日々が長く続くためである。
41 その時、モーセは日の出る方角であるヨルダン川の向こう側に、三つの町をえり分けた。
42 過去において憎しみがなく、過って隣人を殺した者がそこに逃れ、これらの町の一つに逃げ込んで生き延びることができるようにするためである。
43 すなわち、ルベン人のための平原の荒野にあるベツェル、ガド人のためのギルアデのラモト、およびマナセ人のためのバシャンのゴランである。
44 これはモーセがイスラエルの子らの前に置いた律法である。
45 これらは、イスラエルの子らがエジプトから出て来たとき、モーセがイスラエルの子らに語った証し、掟、および法である。

46 それはヨルダン川の向こう側、ベテ・ペオルの向かいの谷、ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホンの地であった。モーセとイスラエルの子らはエジプトから出て来たときに彼を打ち倒した。
47 彼らは彼の地と、バシャンの王オグの地、すなわち日の出る方角のヨルダン川の向こう側にいたアモリ人の二人の王の地を所有した。
48 それはアルノン川の谷の端にあるアロエルから、シオン山、すなわちヘルモン山に至るまで、
49 また、ヨルダン川の向こう側の東にある全アラバ、ピスガの斜面の下にあるアラバの海に至るまでであった。

5

1 モーセは全イスラエルを呼び寄せて言った。「イスラエルよ、わたしが今日あなたがたの耳に語る掟と法を聞きなさい。あなたがたはそれらを学び、注意して行いなさい。
2 わたしたちの神、主はホレブでわたしたちと契約を結ばれた。
3 主はこの契約をわたしたちの父祖たちと結ばれたのではなく、わたしたち、すなわち今日ここに生きているわたしたち全員と結ばれたのである。
4 主は山の上で、火のただ中から顔と顔を合わせてあなたがたと語られた。
5 （その時、わたしは主とあなたがたの間に立って、主の言葉をあなたがたに告げ知らせた。あなたがたは火のゆえに恐れて、山に登らなかったからである。）主は言われた。
6『わたしはあなたの神、主であり、あなたをエジプトの地から、奴隷の家から導き出した。
7『あなたには、わたしのほかに他の神々があってはならない。
8『自分のために彫像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、地の下の水の中にあるものの、いかなる似姿も造ってはならない。
9 それらを拝んではならず、それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしはねたむ神であり、わたしを憎む者には父の咎を子供たち、さらに三代、四代にまで報いるが、
10 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、幾千代にまで恵みを示すからである。
11『あなたの神、主*の御名をみだりに用いてはならない。†主は、ご自分の御名をみだりに用いる者を罰せずにはおかれないからである。
12『あなたの神、主が命じられたように、安息日を守り、それを聖なる日としなさい。
13 六日間は働き、あなたのすべての仕事をしなければならない。
14 しかし七日目はあなたの神、主の安息日である。その日にはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男奴隷も、女奴隷も、牛も、ろばも、いかなる家畜も、あなたの門のうちにいる寄留者も同様である。それは、あなたの男奴隷も女奴隷も、あなたと同じように休むためである。
15 あなたはエジプトの地で奴隷であったこと、そしてあなたの神、主が力強い御手と伸ばされた腕によって、そこからあなたを導き出されたことを思い起こさなければならない。それゆえ、あなたの神、主は安息日を守るようにあなたに命じられたのである。
16『あなたの神、主が命じられたように、あなたの父と母を敬いなさい。それはあなたの日々が長く続き、あなたの神、主があなたに与えられる地で、あなたが幸いを得るためである。
17『殺人を犯してはならない。

---

* **5:11 5:11** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה
† **5:11 5:11** または、あなたの神、主の御名をむなしく取り上げてはならない。

18 『姦淫してはならない。
19 『盗んではならない。
20 『隣人に対して偽りの証言をしてはならない。
21 『隣人の妻をむさぼってはならない。隣人の家、畑、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、また隣人のいかなるものも欲しがってはならない。』
22 これらの言葉を、主は山で、火と雲と濃い暗闇のただ中から、大いなる御声であなたがたの全集会に語られ、それ以上は付け加えられなかった。主はそれを二枚の石の板に書き記し、わたしに与えられた。
23 山が火で燃え上がっている中、あなたがたが暗闇のただ中から御声を聞いたとき、あなたがたの部族のすべての頭たち、および長老たちは皆、わたしのところに近づいて来て、
24 言った。「見よ、わたしたちの神、主は、その栄光と偉大さをわたしたちに示されました。わたしたちは火のただ中から主の御声を聞きました。神が人と語られても、人はなお生きていることを、わたしたちは今日見ました。
25 しかし今、なぜわたしたちは死ななければならないのでしょうか。この大いなる火がわたしたちを焼き尽くしてしまうからです。これ以上わたしたちの神、主の御声を聞くなら、わたしたちは死んでしまいます。
26 生ける神が火のただ中から語られる御声を聞いて、わたしたちのように生きている肉なる者が、ほかにだれかいるでしょうか。
27 あなたが近づいて、わたしたちの神、主が言われるすべてのことを聞いてください。そして、わたしたちの神、主があなたに語られるすべてのことをわたしたちに告げてください。わたしたちはそれを聞いて、実行します。」
28 あなたがたがわたしに語ったとき、主はあなたがたの言葉の声を聞かれ、主はわたしに言われた。「この民があなたに語った言葉の声を聞いた。彼らが語ったことはすべて正しい。
29 彼らにこのような心があって、常にわたしを恐れ、わたしのすべての命令を守るなら、彼らもその子供たちも永遠に幸いを得るであろうに。
30 行って彼らに、『自分の天幕に帰りなさい』と言いなさい。
31 しかしあなたはここに、わたしのそばに立っていなさい。わたしはあなたにすべての命令、掟、および法を語る。あなたはそれを彼らに教えなさい。わたしが彼らに所有地として与えるその地で、彼らがそれを行うためである。」
32 それゆえ、あなたがたの神、主が命じられたとおりに、あなたがたは注意して行わなければならない。右にも左にもそれてはならない。
33 あなたがたの神、主が命じられたすべての道を歩まなければならない。それはあなたがたが生き、幸いを得て、所有するその地であなたがたの日々が長く続くためである。

6

1 さて、あなたの神、主があなたがたに教えるように命じられた命令、掟、および法はこれである。それはあなたがたが所有するために渡って行くその地で、あなたがたがそれを行うためである。
2 あなたが、あなたの神、主を恐れ、わたしが命じるすべての主の掟と命令を、あなたも、あなたの息子も、あなたの息子の息子も、あなたの生涯のすべての日の間守るため、またあなたの日々が長く続くためである。
3 それゆえ、イスラエルよ、聞きなさい。そして注意してそれを行いなさい。それはあなたが幸いを得るため、またあなたの父祖の神、主があなたに約束されたとおり、乳と蜜の流れる地であなたが大いに増え広がるためである。
4 聞きなさい、イスラエルよ。主は私たちの神、主はただひとりである。
5 あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛さなければならない。

6 今日わたしがあなたに命じるこれらの言葉を、あなたの心に留めなければならない。
7 そして、あなたはそれを自分の子供たちに熱心に教え、あなたが家に座っているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、それについて語らなければならない。
8 あなたはそれをしるしとして自分の手に結びつけ、あなたの目の間の額飾りとしなければならない。
9 あなたはそれを自分の家の戸口の柱と門に書き記さなければならない。
10 あなたの神、主が、あなたの父祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓ってあなたに与えると言われた地、すなわち、あなたが建てたのではない大きくて良い町々、
11 あなたが満たしたのではない、すべての良いもので満ちた家々、あなたが掘ったのではない掘り井戸、あなたが植えたのではないぶどう園とオリーブの木がある地にあなたを導き入れ、あなたが食べて満ち足りるとき、
12 あなたは気をつけて、あなたをエジプトの地から、奴隷の家から導き出された主を忘れないようにしなさい。
13 あなたはあなたの神、主を恐れ、主に仕え、主の御名によって誓わなければならない。
14 あなたがたの周りにいる国々の民の神々である他の神々に従って歩んではならない。
15 あなたのただ中におられるあなたの神、主はねたむ神だからである。あなたの神、主の怒りがあなたに向かって燃え上がり、主が地の面からあなたを滅ぼすことがないためである。
16 あなたがたがマサで試みたように、あなたがたの神、主を試みてはならない。
17 あなたがたの神、主の命令と、主があなたに命じられた証しと掟を、熱心に守らなければならない。
18 あなたは主の御目にかなう、正しく良いことを行わなければならない。それはあなたが幸いを得て、主があなたの父祖たちに誓われたあの良い地に入ってそれを所有するため、
19 また、主が語られたとおりに、あなたの前からすべての敵を追い払うためである。
20 後になってあなたの息子があなたに尋ねて、「わたしたちの神、主があなたがたに命じられた証し、掟、および法はどういう意味ですか」と言うなら、
21 あなたは息子に言いなさい。「わたしたちはエジプトでファラオの奴隷であった。しかし主は力強い御手によって、わたしたちをエジプトから導き出された。
22 主はわたしたちの目の前で、エジプト、ファラオ、およびその全家に対して、大いなる恐ろしいしるしと不思議を示された。
23 主はわたしたちをそこから導き出された。わたしたちの父祖たちに誓われたあの地をわたしたちに与え、わたしたちを導き入れるためであった。
24 主はわたしたちが常に幸いを得るために、このすべての掟を行い、わたしたちの神、主を恐れるように命じられた。それは今日あるように、わたしたちを生き長らえさせるためである。
25 主がわたしたちに命じられたとおりに、わたしたちの神、主の前でこのすべての命令を注意して行うなら、それはわたしたちの義となるのである。」

7

1 あなたの神、主が、あなたが所有するために行くその地にあなたを導き入れ、あなたの前から多くの国々の民、すなわちヘト人、ギルガシ人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人という、あなたよりも大きくて強い七つの国々の民を追い払われるとき、

2 そして、あなたの神、主が彼らをあなたの前に引き渡し、あなたが彼らを打つとき、あなたは彼らを完全に滅ぼさなければならない。彼らと契約を結んではならず、彼らにあわれみを示してもならない。
3 彼らと縁組みをしてはならない。あなたの娘を彼の息子に与えてはならず、彼の娘をあなたの息子のためにめとってはならない。
4 彼らはあなたの息子をわたしに従うことから遠ざけ、彼らが他の神々に仕えるようになるからである。そうして主の怒りがあなたがたに向かって燃え上がり、主はすぐにあなたを滅ぼされるであろう。
5 むしろ、あなたがたは彼らに対してこのように行わなければならない。すなわち、彼らの祭壇を打ち壊し、その石柱を粉々に砕き、そのアシェラ柱を切り倒し、彼らの彫像を火で燃やしなさい。
6 あなたはあなたの神、主にとって聖なる民だからである。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中から、ご自身の所有の民とするためにあなたを選ばれた。
7 主があなたがたを愛し、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたがたはすべての民の中で最も少なかったからである。
8 むしろ、主があなたがたを愛し、あなたがたの父祖たちに誓われた誓いを守ろうとされたので、主は力強い御手によってあなたがたを導き出し、奴隷の家から、エジプトの王ファラオの手からあなたを贖い出されたのである。
9 それゆえ、あなたの神、主こそが神であり、真実な神であることを知りなさい。主はご自分を愛し、その命令を守る者たちには、千代に至るまで契約と慈しみを守られるが、
10 ご自分を憎む者たちには面と向かって報い、彼らを滅ぼされる。主はご自分を憎む者への報いを遅らせることなく、面と向かって彼に報いられる。
11 それゆえ、わたしが今日あなたに命じる命令、掟、および法を守り、それらを行わなければならない。
12 あなたがたがこれらの法に聞き従い、それらを守り行うなら、あなたの神、主は、あなたの父祖たちに誓われた契約と慈しみをあなたに対して守られる。
13 主はあなたを愛し、あなたを祝福し、あなたを増やされる。また、あなたに与えるとあなたの父祖たちに誓われたその地で、あなたの胎の実と、あなたの地の産物、すなわちあなたの穀物、新しいぶどう酒、油、あなたの牛の群れの増加、羊の群れの幼いものを祝福される。
14 あなたはすべての民に勝って祝福される。あなたがたの中には、男にも女にも不妊の者はなく、家畜の中にもない。
15 主はあなたからすべての病を取り除かれる。あなたが知っているエジプトのあの悪性の疫病をあなたにもたらすことはなく、あなたを憎むすべての者たちの上にそれを下される。
16 あなたは、あなたの神、主があなたに引き渡されるすべての民を滅ぼし尽くさなければならない。彼らをあわれみの目で見てはならない。彼らの神々に仕えてはならない。それはあなたにとって罠となるからである。
17 もしあなたが心の中で、「これらの国々の民は私よりも多い。どうして彼らを追い払うことができるだろうか」と言うなら、
18 彼らを恐れてはならない。あなたの神、主がファラオと全エジプトに行われたことをよく思い起こしなさい。
19 あなたの目が見たあの大いなる試み、しるし、不思議、力強い御手、伸ばされた腕によって、あなたの神、主はあなたを導き出されたのである。あなたの神、主は、あなたが恐れているすべての民に対しても同じようにされる。
20 さらに、あなたの神、主は彼らの間にスズメバチを送り込まれ、ついに、生き残ってあなたから隠れている者たちも滅び去る。

21 彼らのゆえに恐れおののいてはならない。あなたのただ中におられるあなたの神、主は大いなる恐るべき神だからである。
22 あなたの神、主はこれらの国々の民を、少しずつあなたの前から追い払われる。あなたは彼らを一度に滅ぼし尽くすことはできない。野の獣が増えて、あなたに害を及ぼすことがないためである。
23 しかし、あなたの神、主は彼らをあなたの前に引き渡し、彼らが滅ぼされるまで彼らを大いに混乱させられる。
24 主は彼らの王たちをあなたの手に引き渡される。あなたは天の下から彼らの名を消し去る。あなたが彼らを滅ぼすまで、だれ一人としてあなたの前に立つことはできない。
25 あなたがたは彼らの神々の彫像を火で燃やさなければならない。その上にある銀や金をむさぼってはならず、自分のためにそれを取ってはならない。あなたがそれによって罠にかけられないためである。それはあなたの神、主にとって忌まわしいものだからである。
26 あなたは忌まわしいものを自分の家に持ち込んで、それと同じように滅ぼし尽くされるものとなってはならない。あなたはそれを全く忌み嫌い、それを全く憎まなければならない。それは滅ぼし尽くされるものだからである。

8

1 わたしが今日あなたに命じるすべての命令を、あなたがたは注意して行わなければならない。それはあなたがたが生き、増え広がり、主があなたがたの父祖たちに誓われたその地に入って、それを所有するためである。
2 あなたは、あなたの神、主がこの四十年間、荒野であなたを導かれたすべての道を思い起こさなければならない。それは、あなたを低くして試み、あなたが主の命令を守るかどうか、あなたの心にあるものを知るためであった。
3 主はあなたを低くし、あなたを飢えさせ、あなたもあなたの父祖たちも知らなかったマナであなたを養われた。それは、人はパンだけで生きるのではなく、主の口から出るすべての言葉によって生きることをあなたに知らせるためであった。
4 この四十年間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は腫れなかった。
5 あなたは、人がその子を懲らしめるように、あなたの神、主があなたを懲らしめられることを心に留めなさい。
6 あなたはあなたの神、主の命令を守り、その道を歩み、主を恐れなさい。
7 あなたの神、主があなたを良い地へ導き入れようとしておられるからである。そこは水の流れ、泉、地下水が谷と山に流れ出る地であり、
8 小麦、大麦、ぶどうの木、いちじくの木、ざくろの地であり、オリーブの木と蜜の地である。
9 そこはあなたが乏しい思いをせずにパンを食べ、何一つ欠けることのない地である。その地の石は鉄であり、その丘からは銅を掘り出すことができる。
10 あなたが食べて満ち足りたとき、主があなたに与えられたその良い地のゆえに、あなたの神、主をほめたたえなさい。
11 わたしが今日あなたに命じる主の命令、法、および掟を守らずに、あなたの神、主を忘れることがないように気をつけなさい。
12 あなたが食べて満ち足り、良い家を建ててそこに住み、
13 あなたの牛や羊の群れが増え、あなたの銀や金が増え、あなたの持っているすべてのものが増えたとき、
14 あなたの心が高ぶり、あなたの神、主を忘れることがないようにしなさい。主はあなたをエジプトの地から、奴隷の家から導き出された方であり、
15 毒蛇やさそりがいる、水のない乾ききったあの大きくて恐ろしい荒野をあなたに歩ませ、硬い岩からあなたのために水を注ぎ出された方である。

16 主は、あなたの父祖たちが知らなかったマナで、荒野においてあなたを養われた。それはあなたを低くして試み、後になってあなたに幸いをもたらすためであった。
17 あなたは心の中で、「私の力と私の手の勢いが、この富を私に得させたのだ」と言ってはならない。
18 しかし、あなたはあなたの神、主を思い起こさなければならない。今日あるように、あなたの父祖たちに誓われたご自身の契約を確立するために、あなたに富を得る力を与えられるのは主だからである。
19 もしあなたがあなたの神、主を忘れ、他の神々に従って歩み、それらに仕え、それらを拝むなら、わたしは今日あなたがたに対して証言する。あなたがたは必ず滅びる。
20 主があなたがたの前から滅ぼされる国々のように、あなたがたも滅びるのである。あなたがたが、あなたがたの神、主の御声に聞き従おうとしなかったからである。

9

1 聞きなさい、イスラエルよ。あなたは今日ヨルダン川を渡り、あなたよりも大きくて力強い国々、天にまで届く城壁のある大きな町々を所有するために入って行く。
2 その民は大きくて背が高く、あなたが知っているアナクの子孫であり、「だれがアナクの子らの前に立つことができようか」と、あなたが聞いたことのある者たちである。
3 それゆえ今日、あなたの神、主ご自身が、焼き尽くす火としてあなたの先頭に立って渡って行かれることを知りなさい。主は彼らを滅ぼし、あなたの前に彼らを打ち倒される。こうしてあなたは、主があなたに語られたとおりに、彼らを追い払い、彼らを速やかに滅ぼす。
4 あなたの神、主があなたの前から彼らを追い払われた後、あなたは心の中で、「私の義のゆえに、主は私を導き入れてこの地を所有させてくださったのだ」と言ってはならない。これらの国々の悪のゆえに、主はあなたの前から彼らを追い払われるからである。
5 あなたが彼らの地を所有するために入って行くのは、あなたの義のゆえでも、あなたの心の正しさのゆえでもない。これらの国々の悪のゆえに、あなたの神、主はあなたの前から彼らを追い払われるのであり、あなたの父祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた言葉を主が確立されるためである。
6 それゆえ、あなたの神、主がこの良い地をあなたに与えて所有させてくださるのは、あなたの義のゆえではないことを知りなさい。あなたはうなじの強い民だからである。
7 荒野であなたがあなたの神、主を激しく怒らせたことを思い起こし、忘れてはならない。あなたがエジプトの地から出てきた日から、この場所に来るまで、あなたがたは主に対して反逆し続けてきた。
8 ホレブにおいても、あなたがたは主を激しく怒らせたので、主はあなたがたに対して怒り、あなたがたを滅ぼそうとされた。
9 わたしが山に登って石の板、すなわち主があなたがたと結ばれた契約の板を受け取ったとき、わたしは山に四十日四十夜とどまった。わたしはパンも食べず、水も飲まなかった。
10 主は神の指で書き記された二枚の石の板をわたしに渡された。その上には、集まりの日に山で火のただ中から主があなたがたに語られたすべての言葉があった。
11 四十日四十夜の終わりに、主はわたしに二枚の石の板、すなわち契約の板を与えられた。
12 そして主はわたしに言われた。「立ち上がり、ここから急いで下りなさい。あなたがエジプトから導き出したあなたの民が、自らを堕落させたからで

ある。彼らはわたしが命じた道から速やかにそれて、自分たちのために鋳造した偶像を造った。」
13 さらに主はわたしに語って言われた。「わたしはこの民を見たが、見よ、彼らはうなじの強い民である。
14 わたしに任せておきなさい。わたしは彼らを滅ぼし、天の下から彼らの名を消し去る。そして、わたしはあなたを彼らよりも力強く大きな国民とする。」
15 そこでわたしは向きを変えて山から下りた。山は火で燃え上がっており、二枚の契約の板はわたしの両手にあった。
16 わたしが見ると、見よ、あなたがたはあなたがたの神、主に対して罪を犯していた。あなたがたは自分たちのために鋳造した子牛を造っていた。あなたがたは主が命じられた道から速やかにそれていた。
17 わたしは二枚の板を握り、それを両手から投げ捨てて、あなたがたの目の前で砕いた。
18 それからわたしは、以前のように四十日四十夜、主の前にひれ伏した。わたしはパンも食べず、水も飲まなかった。それはあなたがたが主の御目に悪であることを行い、主を怒らせたすべての罪のためであった。
19 主があなたがたに対して怒り、あなたがたを滅ぼそうとされるその怒りと激しい憤りを、わたしは恐れたからである。しかし主はその時もわたしの願いを聞き入れられた。
20 主はアロンに対しても非常に怒り、彼を滅ぼそうとされた。わたしはその時、アロンのためにも祈った。
21 わたしはあなたがたが犯した罪、すなわちあの造られた子牛を取り、それを火で燃やして砕き、細かなちりのようになるまでよくすりつぶした。そしてそのちりを、山から流れ下る川に投げ捨てた。
22 タベラで、マサで、そしてキブロト・ハタアワでも、あなたがたは主を激しく怒らせた。
23 主があなたがたをカデシュ・バルネアから遣わし、「上って行き、わたしがあなたがたに与えた地を所有しなさい」と言われたとき、あなたがたはあなたがたの神、主の命令に背き、主を信じず、主の御声に聞き従わなかった。
24 わたしがあなたがたを知った日から、あなたがたは主に対して反逆し続けてきた。
25 主があなたがたを滅ぼすと言われたので、わたしは四十日四十夜、主の前にひれ伏していた。その間、わたしはひれ伏していたのである。
26 わたしは主に祈って言った。「主なる神よ、あなたの偉大さによって贖い、力強い御手によってエジプトから導き出されたあなたの民、あなたの受け継ぐ民を滅ぼさないでください。
27 あなたのしもべたち、アブラハム、イサク、ヤコブを思い起こしてください。この民の頑なさや、その悪や、その罪に目を向けないでください。
28 そうでなければ、あなたがわたしたちを導き出されたあの地の人々が、『主は彼らに約束した地へ彼らを導き入れることができず、また彼らを憎んでいたので、荒野で彼らを殺すために導き出したのだ』と言うでしょう。
29 しかし彼らはあなたの民であり、あなたの大いなる力と伸ばされた腕によって導き出された、あなたの受け継ぐ民なのです。」

10

1 その時、主はわたしに言われた。「最初のような二枚の石の板を切り出し、山に登ってわたしのところに来なさい。また、木で箱を作りなさい。
2 あなたが砕いた最初の板にあった言葉を、わたしはその板に書き記す。あなたはそれを箱の中に納めなさい。」

3 そこでわたしはアカシアの木で箱を作り、最初のような二
枚の石の板を切り出し、その二枚の板を手に持って山に登った。
4 主は最初の書き記しと同じように、集まりの日に山で火のただ中から主が
あなたがたに語られた十戒を、その板に書き記された。そして主はそれをわた
しに与えられた。
5 わたしは向きを変えて山から下り、わたしが作った箱の中にその板を納め
た。主がわたしに命じられたように、それはそこにある。
6 （イスラエルの子らはベエロト・ベネ・ヤアカンからモセラへ旅立っ
た。アロンはそこで死に、そこに葬られた。彼の子エルアザルが彼に代わっ
て祭司の務めを果たした。
7 そこから彼らはグドゴダへ旅立ち、グドゴダから水路の地であるヨトバタ
へ旅立った。
8 その時、主は主の契約の箱を担ぎ、主の前に立って主に仕え、主の御名に
よって祝福するために、レビの部族をえり分けられた。それは今日に至ってい
る。
9 それゆえ、レビには彼の兄弟たちとともに持つ割り当ても所有地もな
い。あなたの神、主が彼に語られたとおり、主が彼の所有地である。）
10 わたしは最初の時と同じように、四十日四十夜、山にとどまった。主はそ
の時もわたしの願いを聞き入れられた。主はあなたを滅ぼすことはされなかっ
た。
11 主はわたしに言われた。「立ち上がり、民の先頭に立って旅立ちなさい。
彼らが入って行き、わたしが彼らの父祖たちに与えると誓ったその地を所有す
るためである。」
12 さて、イスラエルよ。あなたの神、主があなたに求めておられること
は何か。それはただ、あなたの神、主を恐れ、主のすべての道を歩み、
主を愛し、心を尽くし、魂を尽くしてあなたの神、主に仕え、
13 あなたの幸せのために、わたしが今日あなたに命じる主の命令と掟を守る
ことではないか。
14 見よ、天と天の天、地とそこにあるすべてのものは、あなたの神、主のも
のである。
15 ただ主はあなたの父祖たちを喜んで愛された。そして今日あるように、す
べての民に勝って彼らの後の子孫*、すなわちあなたがたを選ばれた。
16 それゆえ、あなたがたの心の包皮に割礼を施し、二度とうなじを強くして
はならない。
17 あなたがたの神、主は神々の神、主の主であり、人をえこひいきせず、賄
賂を受け取らない、大いなる、力強い、恐るべき神だからである。
18 主は孤児ややもめのために裁きを行い、寄留者を愛して彼に食べ物と着
物を与えられる。
19 それゆえ、寄留者を愛しなさい。あなたがたもエジプトの地で寄留者であ
ったからである。
20 あなたはあなたの神、主を恐れなければならない。主に仕えなければなら
ない。主にすがりつき、主の御名によって誓わなければならない。
21 主はあなたの賛美であり、あなたの目が見たこれらの大いなる恐るべきこ
とをあなたのために行われた、あなたの神である。
22 あなたの父祖たちは七十人でエジプトに下ったが、今やあなた
の神、主は、あなたを天の星のように多くされた。

11

1 それゆえ、あなたはあなたの神、主を愛し、主の訓戒、掟、法、および命
令を常に守らなければならない。

---

* **10:15 10:15** または、種

2 あなたがたは今日、知らなければならない。わたしは、あなたがたの神、主の懲らしめ、その偉大さ、力強い御手、伸ばされた腕を知らず、見たこともないあなたがたの子供たちに語っているのではない。
3 また、主がエジプトのただ中で、エジプトの王ファラオとその全土に行われたしるしと御業、
4 主がエジプトの軍隊、その馬と戦車に行われたこと、彼らがあなたがたを追いかけてきたとき、主が紅海の水を彼らの上に溢れさせ、今日に至るまで主が彼らを滅ぼされたこと、
5 あなたがたがこの場所に来るまで、主が荒野であなたがたに行われたこと、
6 ルベンの子エリアブの子であるダタンとアビラムに行われたこと、すなわち全イスラエルのただ中で、地がその口を開き、彼らとその家族、天幕、そして彼らに従っていたすべての生き物を飲み込んだことを見たのは、あなたがたの子供たちではない。
7 しかし、主が行われたすべての大いなる御業を見たのは、あなたがたの目である。
8 それゆえ、あなたがたは今日わたしが命じるすべての命令を守らなければならない。それはあなたがたが強くなり、渡って行って所有しようとしているその地に入ってそれを所有するため、
9 また、主があなたがたの父祖たちに、彼らとその後の子孫に与えると誓われたその地、乳と蜜の流れる地で、あなたがたの日々が長く続くためである。
10 あなたが所有するために入って行くその地は、あなたがたが出てきたエジプトの地とは異なる。そこではあなたがたは種を蒔き、野菜畑のように足で水を引いていた。
11 しかし、あなたがたが渡って行って所有しようとしている地は、山と谷のある地であり、天の雨の水を飲む。
12 それはあなたの神、主が顧みてくださる地であり、年の初めから終わりまで、あなたの神、主の目が常にそこにある。
13 もしあなたがたが、わたしが今日命じる命令に熱心に聞き従い、あなたがたの神、主を愛し、心を尽くし、魂を尽くして主に仕えるなら、
14 わたしはあなたがたの地に季節ごとの雨、すなわち秋の雨と春の雨を与える。あなたは穀物、新しいぶどう酒、油を集めることができる。
15 わたしはあなたの家畜のために野に草を与える。あなたは食べて満ち足りる。
16 あなたがたは心を惑わされて横道にそれ、他の神々に仕えて、それらを拝むことのないように気をつけなさい。
17 さもないと、主の怒りがあなたがたに向かって燃え上がり、主が天を閉ざして雨が降らなくなり、地がその産物をもたらさなくなる。そして、主があなたがたに与えられるあの良い地から、あなたがたは速やかに滅び去る。
18 それゆえ、あなたがたはわたしのこれらの言葉を心と魂に留め、しるしとして手に結びつけ、目の間の額飾りとしなければならない。
19 あなたがたはそれを子供たちに教え、あなたが家に座っているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、それについて語らなければならない。
20 あなたはそれを自分の家の戸口の柱と門に書き記さなければならない。
21 それは、主があなたがたの父祖たちに与えると誓われたその地において、天が地の上にある限り、あなたがたの日々と、あなたがたの子供たちの日々が多くなるためである。
22 あなたがたの神、主を愛し、主のすべての道を歩み、主にすがりつくために、わたしがあなたがたに行うように命じるこのすべての命令を、あなたがたが熱心に守るなら、

23 主はこれらのすべての国々の民をあなたがたの前から追い払われる。あなたがたは、自分たちよりも大きくて力強い国々の民の地を所有する。
24 あなたがたの足の裏が踏むあらゆる場所は、あなたがたのものとなる。荒野とレバノンから、大河ユーフラテス川から西の海に至るまでが、あなたがたの境界となる。
25 だれ一人としてあなたがたの前に立つことはできない。あなたの神、主は、あなたに語られたとおり、あなたが踏む全地に、あなたに対する恐れと恐怖を置かれる。
26 見よ、わたしは今日、あなたがたの前に祝福と呪いを置く。
27 わたしが今日あなたがたに命じる、あなたの神、主の命令に聞き従うなら、祝福がある。
28 もしあなたの神、主の命令に聞き従わず、わたしが今日あなたがたに命じる道からそれて、あなたがたの知らなかった他の神々に従うなら、呪いがある。
29 あなたの神、主が、あなたが所有するために行くその地にあなたを導き入れたとき、あなたはゲリジム山には祝福を、エバル山には呪いを置かなければならない。
30 それらはヨルダン川の向こう側、日の沈む道の背後、ギルガルの近く、モレの樫の木のそばにある、アラバに住むカナン人の地にあるではないか。
31 あなたがたはヨルダン川を渡り、あなたの神、主が与えられる地に入ってそれを所有しようとしている。あなたがたはそれを所有し、そこに住む。
32 わたしが今日あなたがたの前に置く、すべての掟と法を注意して行わなければならない。

12

1 あなたがたの父祖の神、主があなたに与えて所有させてくださる地において、あなたがたが地上に生きるすべての日の間、注意して行うべき掟と法はこれである。
2 あなたがたが追い払う国々の民がその神々に仕えたすべての場所、すなわち高い山の上、丘の上、すべての青々とした木の下を、あなたがたは完全に滅ぼさなければならない。
3 あなたがたは彼らの祭壇を打ち壊し、その石柱を粉々に砕き、そのアシェラ柱を火で燃やし、彼らの神々の彫像を切り倒し、その名をその場所から消し去らなければならない。
4 あなたがたの神、主に対して、そのように行ってはならない。
5 むしろ、あなたの神、主がご自身の名を置くために、あなたのすべての部族の中から選ばれる場所、すなわち主の住まいを求めて、あなたはそこへ行かなければならない。
6 そこへ、あなたがたの全焼のささげ物、いけにえ、十分の一のささげ物、あなたがたの手の揺り動かすささげ物、誓願のささげ物、自発的なささげ物、そして牛や羊の群れの初子を持って行かなければならない。
7 そこであなたがたは、あなたの神、主の前で食べなさい。あなたとあなたの家族は、あなたの神、主があなたを祝福してくださったあなたの手のすべての働きを喜び楽しみなさい。
8 わたしたちが今日ここでしているように、それぞれが自分の目に正しいと見えることを行ってはならない。
9 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる安息の場所と所有地に、あなたがたはまだ入っていないからである。
10 しかし、あなたがたがヨルダン川を渡り、あなたの神、主が受け継がせてくださるその地に住み、主が周囲のすべての敵からあなたがたに安息を与えられ、あなたがたが安全に住むようになったとき、

11 あなたの神、主がご自身の名を住まわせるために選ばれる場所がある。そこへ、わたしがあなたに命じるすべてのもの、すなわちあなたの全焼のささげ物、いけにえ、十分の一のささげ物、あなたの手の揺り動かすささげ物、そしてあなたが主に誓うすべてのえり抜きの誓願のささげ物を持って行かなければならない。
12 あなたがたは、あなたの神、主の前で喜び楽しみなさい。あなたと、あなたの息子たち、娘たち、男奴隷、女奴隷、そしてあなたの門のうちにいるレビ人も同様である。彼にはあなたとともに持つ割り当ても所有地もないからである。
13 あなたが見るどの場所でも全焼のささげ物をささげないように気をつけなさい。
14 ただ、主があなたの部族の一つのうちに選ばれるその場所で、全焼のささげ物をささげ、そこでわたしがあなたに命じるすべてのことを行わなければならない。
15 しかし、あなたの神、主があなたに与えられた祝福に従って、あなたは自分のすべての門のうちで、心の望むままに動物を屠り、肉を食べてもよい。汚れた者もきよい者も、ガゼルや鹿を食べるようにそれを食べてもよい。
16 ただ、血を食べてはならない。それを水のように地面に注ぎ出さなければならない。
17 あなたは、あなたの穀物、新しいぶどう酒、油の十分の一、牛や羊の群れの初子、あなたが誓うすべての誓願のささげ物、自発的なささげ物、あなたの手の揺り動かすささげ物を、自分の門のうちで食べてはならない。
18 ただ、あなたの神、主が選ばれる場所で、あなたの神、主の前でそれを食べなければならない。あなたも、あなたの息子、娘、男奴隷、女奴隷、そしてあなたの門のうちにいるレビ人も同様である。あなたは、あなたの手のすべての働きについて、あなたの神、主の前で喜び楽しみなさい。
19 あなたが自分の地に生きている間、レビ人を見捨てないように気をつけなさい。
20 あなたの神、主が約束されたとおりにあなたの境界を広げられ、あなたの魂が肉を食べることを望み、「肉を食べたい」と言うとき、あなたは魂の望むままに肉を食べてよい。
21 もしあなたの神、主がご自身の名を置くために選ばれる場所があなたから遠すぎるなら、わたしがあなたに命じたように、主があなたに与えられた牛や羊を屠り、あなたの門のうちで魂の望むままにそれを食べてもよい。
22 ガゼルや鹿が食べられるように、あなたはそれを食べてもよい。汚れた者もきよい者も等しくそれを食べてもよい。
23 ただ、血を食べないように十分気をつけなさい。血は命だからである。肉と一緒に命を食べてはならない。
24 それを食べてはならない。それを水のように地面に注ぎ出さなければならない。
25 それを食べてはならない。それは、あなたが主の御目に正しいことを行い、あなたとあなたの後の子供たちが幸いを得るためである。
26 ただ、あなたの持つ聖なるもの、およびあなたの誓願のささげ物は、主が選ばれる場所へ持って行かなければならない。
27 あなたは全焼のささげ物の肉と血を、あなたの神、主の祭壇の上にささげなさい。あなたのいけにえの血はあなたの神、主の祭壇に注ぎ出さなければならないが、肉はあなたが食べてもよい。
28 あなたの神、主の御目に良くて正しいことを行い、あなたとあなたの後の子供たちが永遠に幸いを得るために、わたしがあなたに命じるこれらのすべての言葉に注意して聞き従いなさい。
29 あなたが所有するために入って行く地の国々の民を、あなたの神、主があなたの前から断ち滅ぼし、あなたが彼らを所有して彼らの地に住むとき、

30 彼らがあなたの前から滅ぼされた後で、彼らに倣って罠にかからないように、また彼らの神々を探し求めて、「これらの国々の民はどのようにしてその神々に仕えたのだろうか。私も同じようにしよう」と言わないように気をつけなさい。
31 あなたはあなたの神、主に対して、そのように行ってはならない。彼らは主が憎まれるあらゆる忌まわしいことをその神々に対して行ったからである。彼らは自分たちの神々に、息子や娘たちさえも火で燃やしてささげるのである。
32 わたしがあなたに命じるすべてのことを、あなたがたは注意して行わなければならない。それに付け加えてはならず、またそこから減らしてはならない。

13

1 もしあなたがたの中に預言者や夢見る者が現れ、しるしや不思議をあなたに示し、
2 彼があなたに語ったしるしや不思議が実現して、「あなたの知らなかった他の神々に従い、それらに仕えよう」と言うなら、
3 あなたはその預言者や夢見る者の言葉に聞き従ってはならない。あなたの神、主は、あなたがたが心を尽くし、魂を尽くしてあなたの神、主を愛しているかどうかを知るために、あなたがたを試みておられるからである。
4 あなたがたはあなたの神、主に従って歩み、主を恐れ、主の命令を守り、主の御声に聞き従い、主に仕え、主にすがりつかなければならない。
5 その預言者や夢見る者は死刑に処されなければならない。彼は、あなたがたをエジプトの地から導き出し、奴隷の家から贖い出されたあなたの神、主に対する反逆を語り、あなたの神、主があなたに歩むように命じられた道からあなたを迷い出させようとしたからである。このようにして、あなたはあなたのただ中から悪を取り除かなければならない。
6 もしあなたの母の息子であるあなたの兄弟、あなたの息子や娘、あなたの胸にいる妻、あるいはあなた自身の魂のような友人が、ひそかにあなたをそそのかして、「さあ行って、他の神々に仕えよう」と言うなら（それはあなたもあなたの父祖たちも知らなかった神々であり、
7 地の果てから果てに至るまで、あなたの近くにいるか遠くにいるかを問わず、あなたの周りにいる国々の民の神々のうちのどれかである）、
8 彼に同意してはならず、彼に聞き従ってはならない。彼をあわれみの目で見てはならず、彼を惜しんではならず、彼をかばってもならない。
9 あなたは必ず彼を殺さなければならない。彼を死刑にするために、まずあなたの手が彼の上に下され、その後すべての民の手が下されなければならない。
10 エジプトの地から、奴隷の家からあなたを導き出されたあなたの神、主からあなたを遠ざけようとしたので、あなたは彼を石で打ち殺さなければならない。
11 全イスラエルはこれを聞いて恐れ、二度とこのような悪があなたのただ中で行われることはない。
12 もし、あなたの神、主があなたに住むために与えられた町々の一つについて、あなたがこう聞くなら、
13 「あなたの中からならず者たちが出て行き、その町の住民を惑わして、『さあ行って、あなたがたの知らなかった他の神々に仕えよう』と言っている」と。
14 あなたはよく調べ、探り、念入りに尋ねなければならない。見よ、もしそれが真実であり、そのような忌まわしいことがあなたのただ中で行われたことが確実であるなら、

15 あなたは必ずその町の住民を剣の刃で打ち、町とそこにあるすべてのもの、そしてその家畜を剣の刃で完全に滅ぼさなければならない。
16 そのすべてのぶんどり物をその広場の真ん中に集め、町とそのすべてのぶんどり物をあなたの神、主のために火で完全に燃やさなければならない。それは永遠に廃墟となり、二度と建て直されてはならない。
17 完全に滅ぼされるべきものは、何一つあなたの手についていてはならない。それは、主がその激しい怒りから離れてあなたにあわれみを示し、あなたをあわれみ、あなたの父祖たちに誓われたようにあなたを増やされるためである。
18 それは、あなたがあなたの神、主の御声に聞き従い、わたしが今日あなたに命じる主のすべての命令を守り、あなたの神、主の御目に正しいことを行うからである。

14

1 あなたがたはあなたの神、主の子供である。死者のために自分の身に傷をつけたり、目の間の毛を剃り落としたりしてはならない。
2 あなたはあなたの神、主にとって聖なる民だからである。主は地の面にいるすべての民の中から、ご自身の所有の民とするためにあなたを選ばれた。
3 あなたは忌まわしいものをいっさい食べてはならない。
4 あなたがたが食べてもよい動物は次のとおりである。牛、羊、山羊、
5 鹿、ガゼル、ノロジカ、野山羊、アイベックス、アンテロープ、シャモアである。
6 動物のうち、ひづめが分かれ、ひづめが完全に二つに割れており、反すうするものはすべて食べてもよい。
7 ただし、反すうするもの、あるいは完全にひづめが分かれているもののうち、これらは食べてはならない。らくだ、野うさぎ、うさぎである。これらは反すうするがひづめが分かれていないため、あなたがたには汚れたものである。
8 豚は、ひづめが分かれているが反すうしないため、あなたがたには汚れたものである。あなたがたはこれらの肉を食べてはならず、その死骸に触れてはならない。
9 水の中にいるすべてのもののうち、これらは食べてもよい。ひれとうろこがあるものはすべて食べてもよい。
10 ひれとうろこがないものはすべて食べてはならない。それはあなたがたには汚れたものである。
11 きよい鳥はすべて食べてもよい。
12 しかし、これらは食べてはならない鳥である。鷲、はげわし、黒はげわし、
13 赤とび、隼、あらゆる種類のとび、
14 あらゆる種類のからす、
15 だちょう、ふくろう、かもめ、あらゆる種類の鷹、
16 小ふくろう、大ふくろう、みみずく、
17 ペリカン、はげ鷹、鵜、
18 こうのとり、あらゆる種類のさぎ、やつがしら、こうもりである。
19 羽のある昆虫はすべて、あなたがたには汚れたものである。それらは食べてはならない。
20 きよい鳥はすべて食べてもよい。
21 自然に死んだものは一切食べてはならない。あなたはそれを、あなたの門のうちにいる寄留者に与えて食べさせてもよいし、外国人に売ってもよい。あなたはあなたの神、主にとって聖なる民だからである。
子山羊をその母の乳で煮てはならない。

22 あなたは毎年、畑から得られるあなたの種のすべての収穫の十分の一を、
必ず取り分けなければならない。
23 あなたはあなたの神、主の前、主がご自身の名を住まわせるために選ばれ
る場所で、あなたの穀物、新しいぶどう酒、油の十分の一、およ
び牛や羊の群れの初子を食べなければならない。それは、あなたがあなた
の神、主を常に恐れることを学ぶためである。
24 あなたの神、主があなたを祝福されたとき、もしその道が遠すぎてそれ
を運ぶことができず、あなたの神、主がご自身の名を置くために選ばれる場
所があなたから遠すぎるなら、
25 あなたはそれを金に換え、その金を手に握って、あなたの神、主が選ばれ
る場所へ行きなさい。
26 その金であなたの魂が望むもの、すなわち牛、羊、ぶどう酒、強い酒、そ
の他あなたの魂が求めるどんなものでも買いなさい。そこであなた
の神、主の前で食べ、あなたもあなたの家族も喜び楽しみなさい。
27 あなたの門のうちにいるレビ人を見捨ててはならない。彼にはあなたとと
もに持つ割り当ても所有地もないからである。
28 三年の終わりに、あなたはその年の産物の十分の一をすべて持ち出し、あ
なたの門のうちに蓄えておかなければならない。
29 レビ人はあなたとともに持つ割り当ても所有地もないので、彼と、あなた
の門のうちにいる寄留者、孤児、やもめが来て、食べて満ち足りるようにしな
さい。そうすれば、あなたの神、主は、あなたの手が行うすべての業において
あなたを祝福される。

15

1 七年の終わりごとに、あなたは負債を免除しなければならない。
2 その免除の規定は次のとおりである。隣人に貸し付けをした債権者は皆、
それを免除しなければならない。彼は隣人や兄弟に取り立ててはならない。
主の免除が布告されたからである。
3 外国人からは取り立ててもよい。しかし、あなたの兄弟のもとにあるあな
たのものは、あなた自身の手で免除しなければならない。
4 ただし、あなたの間には貧しい者がいなくなるはずである。（あなた
の神、主が所有地としてあなたに与える地で、主は確かにあなたを祝福される
からである。）
5 それはただ、あなたがあなたの神、主の御声に熱心に聞き従い、わたし
が今日あなたに命じるこのすべての命令を注意して行うなら、そうなるのであ
る。
6 あなたの神、主はあなたに約束されたとおりにあなたを祝福される。あな
たは多くの国々の民に貸し与えるが、借りることはない。あなたは多くの国々
の民を治めるが、彼らがあなたを治めることはない。
7 あなたの神、主があなたに与える地のどの門のうちであれ、もし貧し
い人が、あなたの兄弟の一人があなたの間にいるなら、あなたは心を頑なにし
てはならず、貧しい兄弟に対して手を閉ざしてはならない。
8 むしろ、あなたは彼に向かって確かに手を開き、彼の必要を満たすのに十
分なものを彼に貸し与えなければならない。
9 あなたの心の中に、「第七の年、すなわち免除の年が近づいている」とい
う邪悪な考えを抱かないように気をつけなさい。あなたが貧しい兄弟に悪
意の目を向け、彼に何も与えないなら、彼はあなたを主に訴えて叫び、それは
あなたの罪となる。
10 あなたは彼に確実に与えなければならない。彼に与えるとき、あなた
の心は惜しんではならない。このことのために、あなたの神、主は、あなたの
すべての働きと、あなたの手のすべての業において、あなたを祝福されるから
である。

11 貧しい者がその地からいなくなることは決してない。それゆえ、わたしはあなたに命じて言う。「あなたの地において、あなたの兄弟、困窮している者、貧しい者に向かって、あなたは確かに手を開かなければならない。」
12 もしあなたの兄弟であるヘブル人の男や女があなたに売られ、六年間あなたに仕えたなら、七年目に、あなたは彼をあなたのもとから自由の身にして去らせなければならない。
13 あなたが彼をあなたのもとから自由の身にして去らせるとき、彼を何も持たせずに去らせてはならない。
14 あなたの羊の群れ、あなたの打ち場、あなたのぶどう搾り場から、彼に惜しみなく与えなければならない。あなたの神、主があなたを祝福されたように、あなたは彼に与えなければならない。
15 あなたはエジプトの地で奴隷であり、あなたの神、主があなたを贖い出されたことを思い起こしなさい。それゆえ、わたしは今日、このことをあなたに命じるのである。
16 しかし、もし彼があなたに「私はあなたのもとから去りません」と言うなら（彼があなたとあなたの家族を愛し、あなたのもとで幸せだからである）、
17 あなたは錐を取り、彼の耳を戸に突き刺しなさい。そうすれば彼は永遠にあなたの奴隷となる。あなたの女奴隷に対しても同じようにしなければならない。
18 あなたが彼をあなたのもとから自由の身にして去らせることは、あなたにとって耐えがたいことであってはならない。彼は雇い人の二倍の働きで、六年間あなたに仕えたからである。あなたの神、主は、あなたの行うすべてのことにおいてあなたを祝福される。
19 あなたの牛や羊の群れから生まれる初子の雄はすべて、あなたの神、主に聖別しなければならない。あなたの牛の初子で仕事をしてはならず、あなたの羊の初子の毛を刈ってはならない。
20 あなたは毎年、主が選ばれる場所で、あなたの神、主の前でそれを食べなければならない。あなたもあなたの家族も同様である。
21 しかし、もしそれに欠陥があり、足が不自由であったり、目が見えなかったり、あるいは何か重い欠陥があるなら、それをあなたの神、主にいけにえとしてささげてはならない。
22 あなたは自分の門のうちでそれを食べなければならない。ガゼルや鹿のように、汚れた者もきよい者も等しくそれを食べてもよい。
23 ただ、その血を食べてはならない。それを水のように地面に注ぎ出さなければならない。

16

1 アビブの月を守り、あなたの神、主に過越の祭りを守りなさい。アビブの月に、あなたの神、主が夜、あなたをエジプトから導き出されたからである。
2 あなたは、主がご自身の名を住まわせるために選ばれる場所で、羊と牛の群れから、あなたの神、主に過越のいけにえをささげなければならない。
3 あなたはそれにパン種を入れたパンを添えて食べてはならない。七日間、それに種なしパン、すなわち苦悩のパンを添えて食べなければならない。あなたがエジプトの地から急いで出て来たからである。それは、あなたがエジプトの地から出て来た日を、あなたの生涯のすべての日の間思い起こすためである。
4 七日間、あなたのすべての領土内でパン種が見られてはならない。また、あなたが最初の日の夕方にささげたいけにえの肉のいっさいを、朝まで夜通し残しておいてはならない。

5 あなたは、あなたの神、主があなたに与えられるどの門のうちでも、過越のいけにえをささげることはできない。
6 しかし、あなたの神、主がご自身の名を住まわせるために選ばれるその場所で、夕方、日の沈むころ、あなたがエジプトから出て来たその時期に、過越のいけにえをささげなければならない。
7 あなたは、あなたの神、主が選ばれる場所でそれを焼いて食べなさい。そして朝になったら、向きを変えてあなたの天幕へ帰りなさい。
8 六日間は種なしパンを食べなければならない。七日目はあなたの神、主への厳かな集会である。いかなる仕事もしてはならない。
9 あなたは七週間を数えなさい。立ち穂に鎌を入れ始める時から七週間を数え始めなさい。
10 そして、あなたの神、主があなたを祝福されるのに従って、あなたが自ら手でささげる自発的なささげ物の貢ぎ物をもって、あなたの神、主に七週の祭りを守りなさい。
11 あなたはあなたの神、主の前で喜び楽しみなさい。あなたも、あなたの息子、娘、男奴隷、女奴隷、あなたの門のうちにいるレビ人、そしてあなたのただ中にいる寄留者、孤児、やもめも、あなたの神、主がご自身の名を住まわせるために選ばれるその場所で喜び楽しみなさい。
12 あなたはエジプトで奴隷であったことを思い起こしなさい。あなたはこれらの掟を注意して行わなければならない。
13 あなたが自分の打ち場とぶどう搾り場から取り入れた後、七日間にわたって仮庵の祭りを守らなければならない。
14 あなたの祭りに際して、あなたも、あなたの息子、娘、男奴隷、女奴隷、レビ人、そしてあなたの門のうちにいる寄留者、孤児、やもめも喜び楽しみなさい。
15 七日間、あなたの神、主が選ばれる場所で、あなたの神、主に祭りを守りなさい。あなたの神、主があなたのすべての収穫と、あなたの手のすべての業を祝福されるので、あなたはひたすら喜び楽しみなさい。
16 一年に三度、あなたのすべての男子は、あなたの神、主が選ばれる場所で主の前に出なければならない。すなわち、種なしパンの祭り、七週の祭り、仮庵の祭りの時である。彼らは何も持たずに主の前に出てはならない。
17 それぞれの人が、あなたの神、主があなたに与えられた祝福に従って、自分の能力に応じてささげなければならない。
18 あなたの神、主があなたに与えられるすべての門のうちに、部族ごとに裁き人と役人を立てなさい。彼らは義の裁きをもって民を裁かなければならない。
19 あなたは裁きを曲げてはならない。人をえこひいきしてはならない。賄賂を受け取ってはならない。賄賂は知恵のある者の目をくらませ、正しい者の言葉をゆがめるからである。
20 あなたは義、ただ義を追い求めなければならない。それはあなたが生き、あなたの神、主があなたに与えられる地を受け継ぐためである。
21 あなたが自分のために造るあなたの神、主の祭壇のそばに、どんな木であれアシェラを植えてはならない。
22 あなたの神、主が憎まれる聖なる石柱を立ててもならない。

17

1 欠陥や何か悪いところのある牛や羊を、あなたの神、主にいけにえとしてささげてはならない。それはあなたの神、主にとって忌まわしいことだからである。

2 もしあなたのただ中、あなたの神、主があなたに与えられる門のいずれかのうちで、男であれ女であれ、あなたの神、主の御目に悪であることを行い、主の契約を破る者が見つかり、
3 その者が行って他の神々に仕え、それらを拝むか、あるいは太陽、月、または天の万象のいずれかを拝むなら（それはわたしが命じていないことである）、
4 そしてそれがあなたに告げられ、あなたがそれを聞いたなら、あなたは入念に調べなければならない。見よ、もしそれが真実であり、そのような忌まわしいことがイスラエルで行われたことが確実であるなら、
5 あなたはその悪を行った男または女をあなたの門に引き出し、その男または女を石で打ち殺さなければならない。
6 二人の証人、または三人の証人の証言によって、死ぬべき者は死刑に処されなければならない。一人の証人の証言によって死刑に処されてはならない。
7 彼を死刑にするために、まず証人たちの手が彼の上に下され、その後すべての民の手が下されなければならない。このようにして、あなたはあなたのただ中から悪を取り除かなければならない。

8 もしあなたの門のうちで、流血と流血、訴えと訴え、傷害と傷害のような争い事があり、あなたにとって裁きが難しすぎる問題が起こったなら、あなたは立ち上がり、あなたの神、主が選ばれる場所へ上って行きなさい。
9 あなたはレビ人の祭司たちや、その時代にいる裁き人のところに行きなさい。あなたが尋ねると、彼らはあなたに裁きの判決を示す。
10 あなたは、主が選ばれるその場所から彼らがあなたに示す判決の趣旨に従って行わなければならない。あなたは彼らがあなたに教えるすべてのことに従って注意して行わなければならない。
11 彼らがあなたに教える律法の趣旨に従い、彼らがあなたに告げる裁きに従って行わなければならない。彼らがあなたに示す判決から、右にも左にもそれてはならない。
12 そこであなたの神、主の前に立って仕える祭司、または裁き人に聞き従わず、不遜なふるまいをする者がいれば、その者は死ななければならない。あなたはイスラエルから悪を取り除かなければならない。
13 すべての民はこれを聞いて恐れ、もはや不遜なふるまいをすることはない。

14 あなたが、あなたの神、主があなたに与えられる地に入ってそれを所有し、そこに住むようになって、「私の周りのすべての国々のように、私の上に王を立てよう」と言うなら、
15 あなたは、あなたの神、主が選ばれる者を必ずあなたの上に王として立てなければならない。あなたは自分の兄弟たちの中から、あなたの上に王を立てなければならない。あなたの兄弟でない外国人をあなたの上に立てることはできない。
16 ただし、彼は自分のために馬を増やしてはならず、馬を増やす目的で民をエジプトに帰らせてもならない。主はあなたがたに、「二度とあの道を引き返してはならない」と言われたからである。
17 彼は自分の心がそれることのないように、自分のために妻を増やしてはならない。彼は自分のために銀や金を過度に増やしてはならない。
18 彼が自分の王国の王座に就くとき、彼はレビ人の祭司たちの前にあるものから、この律法の写しを自分のために書物に書き記さなければならない。
19 それは彼とともにあり、彼は自分の生涯のすべての日の間、それを読まなければならない。それは彼が自分の神、主を恐れることを学び、この律法のすべての言葉とこれらの掟を守り、それらを行うためである。
20 それは彼の心が兄弟たちの上に高ぶることがないため、また彼がその命令から右にも左にもそれることがないためである。そうして、彼とその子供た

ちが、イスラエルのただ中で、彼の王国においてその日々を長くするためである。

18

1 レビ人の祭司たち、すなわちレビの全部族は、イスラエルとともに持つ割り当ても所有地もない。彼らは主への火によるささげ物と、主の分を食べる。
2 彼らは兄弟たちの中で所有地を持たない。主が彼らに語られたとおり、主が彼らの所有地である。
3 民からの祭司の受ける分、すなわち牛であれ羊であれ、いけにえをささげる者からの受ける分は次のとおりである。彼らは肩、両頬、および胃袋を祭司に与えなければならない。
4 あなたの穀物、新しいぶどう酒、油の初穂と、あなたの羊の最初の羊毛を彼に与えなければならない。
5 あなたの神、主があなたのすべての部族の中から彼を選び、彼とその息子たちが永遠に主の御名によって立って仕えるようにされたからである。
6 もし一人のレビ人が、全イスラエルの中で彼が住んでいるどこかの門からやって来て、彼の魂のすべての望みをもって主が選ばれる場所に来るなら、
7 彼はそこに主の前に立っているすべての彼の兄弟であるレビ人と同じように、彼の神、主の御名によって仕えることができる。
8 彼が家族の財産を売って得たものに加えて、彼らは同じ分を食べなければならない。
9 あなたの神、主があなたに与えられる地に入ったとき、あなたはそれらの国々の忌まわしいことに従って行うことを学んではならない。
10 あなたがたの中に、自分の息子や娘に火の中を通らせる者、占いをする者、魔術を行う者、まじない師、呪術者、
11 呪文を唱える者、霊媒師に相談する者、魔法使い、死者に伺いを立てる者がいてはならない。
12 これらのことを行う者は皆、主にとって忌まわしいからである。これらの忌まわしいことのゆえに、あなたの神、主はあなたの前から彼らを追い出されるのである。
13 あなたはあなたの神、主に対して完全でなければならない。
14 あなたが追い出すこれらの国々は、魔術を行う者や占い師に聞き従うが、あなたについては、あなたの神、主はあなたがそのようにすることを許されなかった。
15 あなたの神、主はあなたのただ中、あなたの兄弟たちの中から、わたしのような一人の預言者をあなたのために起こされる。あなたがたは彼に聞き従わなければならない。
16 これは、集まりの日にホレブで、あなたがあなたの神、主に求めたすべてのことに従っている。あなたは言った。「私の神、主の御声を二度と聞かせないでください。また、私が死なないために、この大いなる火を二度と見せないでください。」
17 すると主はわたしに言われた。「彼らが語ったことはもっともである。
18 わたしは彼らの兄弟たちの中から、あなたのような一人の預言者を彼らのために起こす。わたしは彼の口にわたしの言葉を置き、彼はわたしが命じるすべてのことを彼らに語る。
19 わたしがわたしの名によって語るわたしの言葉に聞き従わない者があれば、わたし自身が彼に責任を問う。
20 しかし、わたしが語るように命じていない言葉を、わたしの名によって不遜にも語る預言者、あるいは他の神々の名によって語る預言者がいれば、その預言者は死ななければならない。」
21 あなたは心の中で、「主が語られなかった言葉を、私たちはどのようにして知ることができるだろうか」と言うかもしれない。

22 預言者が主の御名によって語っても、そのことが起こらず、実現しないなら、それは主が語られなかった言葉である。その預言者は不遜にもそれを語ったのである。あなたは彼を恐れてはならない。

19

1 あなたの神、主が、あなたの神、主の与えられる地の国々の民を断ち滅ぼし、あなたが彼らに取って代わり、その町々やその家々に住むとき、
2 あなたの神、主があなたに与えて所有させてくださるその地の真ん中に、三つの町をえり分けなければならない。
3 あなたは道を整え、あなたの神、主があなたに受け継がせる地の境界を三つの部分に分けなければならない。それはすべて人を殺した者がそこに逃れるためである。
4 人を殺した者がそこに逃れて生き延びる場合の規定は次のとおりである。過去に憎しみを抱いていなかったのに、過って隣人を殺した場合、
5 たとえば、木を伐るために隣人と一緒に森に入り、木を切り倒そうとして手にした斧を振り下ろしたとき、斧の頭が柄から抜け落ちて隣人に当たり、その人が死んだような場合である。彼はこれらの町の一つに逃れて、生き延びなければならない。
6 それは、血の復讐をする者が心を熱くして人を殺した者を追いかけ、道のりが長いために彼に追いつき、彼を打ち殺すことがないためである。その人は過去に憎しみを抱いていなかったので、死刑に値しなかったからである。
7 それゆえ、わたしはあなたに、「三つの町をえり分けなければならない」と命じるのである。
8 もしあなたの神、主があなたの父祖たちに誓われたようにあなたの境界を広げ、あなたの父祖たちに与えると約束されたすべての地をあなたに与えられるなら、
9 そして、あなたの神、主を愛し、常にその道を歩むために、わたしが今日あなたに命じるこのすべての命令を守り行うなら、あなたはこの三つのほかに、さらに三つの町を加えなければならない。
10 それは、あなたの神、主が所有地としてあなたに与えられる地の中で、罪のない者の血が流されて、あなたに血を流した罪が及ばないためである。
11 しかし、もし人が隣人を憎み、待ち伏せして彼に立ち向かい、彼を打ち殺して死なせ、これらの町の一つに逃げ込んだなら、
12 その町の長老たちは人を遣わして、そこから彼を連れ出し、血の復讐をする者の手に引き渡して、彼を死なせなければならない。
13 あなたは彼をあわれみの目で見てはならない。あなたはイスラエルから、罪のない者の血を流した罪を取り除かなければならない。それはあなたが幸いを得るためである。
14 あなたの神、主があなたに与えて所有させてくださる地、すなわちあなたが受け継ぐ所有地において、昔の人々が定めた隣人の境界標を移してはならない。
15 いかなる咎、またはいかなる罪であれ、人が犯す罪について、一人の証人が人に対して立ち上がってはならない。二人の証人の証言、または三人の証人の証言によって、事は確定されなければならない。
16 もし不当な証人が人に対して立ち上がり、悪事について彼に不利な証言をするなら、
17 争いをしている双方の者は、主の前、すなわちその時代にいる祭司たちと裁き人たちの前に立たなければならない。
18 裁き人たちは念入りに調べなければならない。そして、見よ、その証人が偽りの証人であり、自分の兄弟に対して偽りの証言をしていたなら、

19 あなたがたは、彼が兄弟にしようと企んでいたとおりに彼にしなければならない。このようにして、あなたはあなたのただ中から悪を取り除かなければならない。
20 残った者たちはこれを聞いて恐れ、それ以降、二度とそのような悪をあなたのただ中で行うことはないであろう。
21 あなたはあわれみの目で見てはならない。命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足を。

20

1 あなたが敵との戦いに出て行き、馬や戦車、そしてあなたよりも数の多い民を見ても、彼らを恐れてはならない。あなたをエジプトの地から導き上られたあなたの神、主があなたとともにおられるからである。
2 あなたがたが戦いに近づくとき、祭司は進み出て民に語りかけ、
3 彼らに言いなさい。「聞きなさい、イスラエルよ。あなたがたは今日、敵との戦いに近づいている。心を弱くしてはならない。彼らのゆえに恐れてはならず、おののいてはならず、怖気づいてはならない。
4 あなたがたの神、主はあなたがたとともに行き、敵に対してあなたがたのために戦い、あなたがたを救ってくださるからである。」
5 役人たちは民に語って言わなければならない。「新しい家を建てて、まだ奉献していない者はいるか。その人は自分の家に帰りなさい。戦いで死んで、他の者がそれを奉献することのないためである。
6 ぶどう園を植えて、まだその実を用いていない者はいるか。その人は自分の家に帰りなさい。戦いで死んで、他の者がその実を用いることのないためである。
7 妻をめとる約束をして、まだめとっていない者はいるか。その人は自分の家に帰りなさい。戦いで死んで、他の者が彼女をめとることのないためである。」
8 役人たちはさらに民に語って言わなければならない。「恐れていて、心が弱い者はいるか。その人は自分の家に帰りなさい。彼の兄弟の心が彼の心のようにくじけないためである。」
9 役人たちが民に語り終えたとき、彼らは民の先頭に軍隊の長たちを任命しなければならない。
10 あなたが戦うために町に近づくときには、まずその町に平和を呼びかけなさい。
11 もしその町が平和の返事をし、あなたに向かって門を開くなら、そこにいるすべての民はあなたのための強制労働者となり、あなたに仕えなければならない。
12 もしその町があなたと平和を結ばず、あなたと戦いを交えるなら、あなたはその町を包囲しなければならない。
13 そしてあなたの神、主がその町をあなたの手に引き渡されるとき、あなたは剣の刃でそこのすべての男子を打ち殺さなければならない。
14 しかし、女、幼子、家畜、および町にあるすべてのもの、すなわちそのすべてのぶんどり物は、あなた自身の獲物として奪い取ってもよい。あなたは、あなたの神、主があなたに与えられた敵のぶんどり物を用いることができる。
15 これらの国々の町々ではない、あなたから非常に遠く離れたすべての町々に対しては、そのようにしなければならない。
16 しかし、あなたの神、主があなたに所有地として与えられるこれらの民の町々については、息のあるものは一つも生かしておいてはならない。
17 あなたの神、主があなたに命じられたように、あなたは彼らを完全に滅ぼさなければならない。すなわちヘト人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人である。

18 それは、彼らが自分たちの神々に対して行ってきたすべての忌まわしいことに従って行うことを、彼らがあなたがたに教えないためであり、あなたがたがあなたがたの神、主に対して罪を犯さないためである。
19 あなたが町を奪うために戦い、長い間その町を包囲するときは、斧を振るってその木を滅ぼしてはならない。あなたはそこから食べることができるのだから、それを切り倒してはならない。野の木は人であって、あなたに包囲されるというのか。
20 ただし、食用の木ではないと知っている木は、滅ぼして切り倒してもよい。そして、あなたと戦う町が陥落するまで、その町に対して塁壁を築きなさい。

21

1 あなたの神、主があなたに与えて所有させてくださる地において、野原に倒れて殺されている者が見つかり、だれが彼を打ち殺したのか分からない場合、
2 あなたの長老たちと裁き人たちが出て行き、殺された者の周囲にある町々までの距離を測らなければならない。
3 そして、殺された者に最も近い町、すなわちその町の長老たちは、まだ仕事に使われたことがなく、くびきを引いたことのない牛の群れの雌牛を取りなさい。
4 その町の長老たちは、その雌牛を、耕されたことも種を蒔かれたこともない、水の流れる谷に引き下ろし、そこの谷でその雌牛の首を折らなければならない。
5 レビの子らである祭司たちは進み出なさい。あなたの神、主は彼らを選んでご自身に仕えさせ、主の御名によって祝福するようにされたからである。すべての争いとすべての傷害は、彼らの言葉に従って解決されなければならない。
6 殺された者に最も近いその町のすべての長老たちは、谷で首を折られた雌牛の上で自分たちの手を洗いなさい。
7 そして彼らは答えて言いなさい。「私たちの手はこの血を流さず、私たちの目もそれを見ませんでした。
8 主よ、あなたが贖い出されたあなたの民イスラエルを赦してください。あなたの民イスラエルのただ中に、罪のない者の血をとどめないでください。」そうすればその血は彼らに赦される。
9 こうして、あなたが主の御目に正しいことを行うとき、あなたはあなたのただ中から罪のない者の血を取り除かなければならない。
10 あなたが敵との戦いに出て行き、あなたの神、主が彼らをあなたの手に引き渡し、あなたが彼らを捕虜として連れ去るとき、
11 あなたが捕虜の中に美しい女を見て彼女に心を惹かれ、自分の妻にしたいと望むなら、
12 あなたは彼女を自分の家に連れて帰りなさい。彼女は自分の頭を剃り、爪を切りなさい。
13 彼女は捕虜となったときの衣服を脱ぎ、あなたの家にとどまり、丸一か月の間、自分の父と母のために泣き悲しみなさい。その後、あなたは彼女のところに入って行き、彼女の夫となり、彼女はあなたの妻となる。
14 もしあなたが彼女を喜ばなくなったときは、彼女の望むところへ行かせなければならない。しかし、彼女を決して金で売ってはならず、奴隷として扱ってはならない。あなたが彼女を辱めたからである。
15 もしある男に二人の妻がいて、一人は愛され、もう一人は憎まれており、愛されている妻も憎まれている妻も彼に子供を産み、その長子が憎まれている妻の息子である場合、

16 彼が自分の所有するものを息子たちに受け継がせる日に、長子である憎まれている妻の息子を差し置いて、愛されている妻の息子を長子とすることはできない。
17 彼は憎まれている妻の息子を長子として認め、自分のすべての所有物から二倍の分け前を彼に与えなければならない。彼は彼の力の初めであり、長子の権利は彼のものだからである。
18 もしある男に頑固で反抗的な息子がいて、父の声にも母の声にも聞き従わず、彼らが懲らしめても彼らに耳を傾けない場合、
19 彼の父と母は彼を捕らえ、その町の長老たちのもと、その場所の門に彼を連れ出しなさい。
20 そして彼らはその町の長老たちに言いなさい。「私たちのこの息子は頑固で反抗的であり、私たちの声に聞き従いません。彼は大食漢であり、大酒飲みです。」
21 その町のすべての男たちは彼を石で打ち殺さなければならない。このようにして、あなたはあなたのただ中から悪を取り除きなさい。全イスラエルはこれを聞いて恐れるであろう。
22 もし人が死刑に値する罪を犯し、彼が死刑に処されてあなたが彼を木にかける場合、
23 彼の死体を夜通し木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず彼を葬らなければならない。木にかけられた者は神に呪われた者だからである。あなたの神、主が所有地としてあなたに与えられる地を汚してはならない。

22

1 あなたの兄弟の牛や羊が迷い出ているのを見て、それを見ないふりをしてはならない。あなたは必ずそれらをあなたの兄弟のところに連れ戻さなければならない。
2 もしあなたの兄弟があなたの近くにおらず、あなたが彼を知らないなら、あなたはそれを自分の家に連れて帰り、あなたの兄弟がそれを捜し求めるまであなたのもとに置き、彼に返さなければならない。
3 彼のろばについても同じようにしなければならない。彼の衣服についても同じようにしなければならない。あなたの兄弟が失くし、あなたが拾ったすべての失くし物についても同じようにしなければならない。見ないふりをしてはならない。
4 あなたの兄弟のろばや牛が道で倒れているのを見て、それを見ないふりをしてはならない。あなたは彼がそれらを再び立たせるのを必ず手伝わなければならない。
5 女は男の着物を着てはならず、男は女の着物を着てはならない。これらのことを行う者は皆、あなたの神、主にとって忌まわしいからである。
6 もし道を行くとき、木の上や地面に鳥の巣があり、そこに雛や卵があって、母鳥が雛や卵を抱いているのを見つけたなら、母鳥を雛と一緒に取ってはならない。
7 あなたは必ず母鳥を逃がさなければならない。しかし、雛は自分のために取ってもよい。それはあなたが幸いを得て、あなたの日々が長く続くためである。
8 あなたが新しい家を建てるときは、屋上に欄干を作らなければならない。だれかがそこから落ちて、あなたの家に血を流した罪をもたらすことがないためである。
9 あなたのぶどう園に二種類の種を蒔いてはならない。あなたが蒔いた種とぶどう園の産物、そのすべてが汚されないためである。
10 牛とろばを一緒に組にして耕してはならない。
11 羊毛と亜麻布を一緒に混ぜて織った着物を着てはならない。

12 あなたが身を覆う上着の四つの裾に、自分のために房*を作らなければならない。

13 もしある男が妻をめとり、彼女のところに入って行った後で彼女を憎み、
14 彼女に恥ずべきことを言い立て、彼女に悪評を立てて、「私はこの女をめとったが、彼女に近づいたとき、彼女に処女の証拠を見いだせなかった」と言うなら、
15 その若い女の父と母は、その若い女の処女の証拠を取り、門にいる町の長老たちのところに持って行かなければならない。
16 そして若い女の父は長老たちに言いなさい。「私は私の娘をこの男に妻として与えましたが、彼は彼女を憎んでいます。
17 見よ、彼は彼女に恥ずべきことを言い立て、『あなたの娘に処女の証拠を見いだせなかった』と言っています。しかし、これが私の娘の処女の証拠です。」彼らはその衣を町の長老たちの前に広げなさい。
18 その町の長老たちはその男を捕らえて彼を懲らしめ、
19 イスラエルの処女に悪評を立てたので、彼から銀百シェケル†の罰金を取り、それを若い女の父に与えなければならない。彼女は彼の妻となり、彼は生涯彼女を離縁することはできない。
20 しかし、もしこの事が真実であり、若い女に処女の証拠が見いだされなかったなら、
21 彼らはその若い女を彼女の父の家の戸口に引き出し、その町の男たちは彼女を石で打ち殺さなければならない。彼女が自分の父の家で淫行を働き、イスラエルで愚かなことをしたからである。このようにして、あなたはあなたのただ中から悪を取り除かなければならない。

22 もし男が夫のいる女と寝ているところを見つけられたなら、女と寝た男も、その女も、二人とも死ななければならない。このようにして、あなたはイスラエルから悪を取り除かなければならない。

23 夫となる人と婚約している処女の若い女がいて、ある男が町の中で彼女を見つけ、彼女と寝た場合、
24 あなたがたはその二人をその町の門に引き出し、彼らを石で打ち殺さなければならない。若い女は、町の中にいながら叫ばなかったからであり、男は隣人の妻を辱めたからである。このようにして、あなたはあなたのただ中から悪を取り除かなければならない。

25 しかし、もし男が婚約している若い女を野原で見つけ、男が彼女を力ずくで捕らえて彼女と寝たなら、彼女と寝たその男だけが死ななければならない。
26 若い女には何もしてはならない。若い女には死刑に値する罪はない。これは、人が隣人に向かって立ち上がり、彼を殺すようなものだからである。
27 彼は野原で彼女を見つけ、婚約していた若い女は大声で叫んだが、彼女を救う者はだれもいなかったのである。

28 もし男が婚約していない処女の若い女を見つけ、彼女を捕まえて彼女と寝て、彼らが見つかったなら、
29 彼女と寝たその男は、若い女の父に銀五十シェケル‡を与えなければならない。彼が彼女を辱めたので、彼女は彼の妻となる。彼は生涯彼女を離縁することはできない。

30 男は自分の父の妻をめとってはならず、自分の父の衣の裾をめくってはならない。

---

* **22:12 22:12** または、房飾り † **22:19 22:19** ―シェケルは約10グラム、または約0.35オンスであるため、百シェケ
‡ **22:29 22:29** ―シェケルは約10グラム、または約0.35オンスである。

23

1 睾丸が砕かれたり、陰茎が切り取られたりした者は、主の集会に入ってはならない。
2 禁じられた結合から生まれた者は主の集会に入ってはならない。十代目に至るまで、その子孫はだれも主の集会に入ってはならない。
3 アンモン人やモアブ人は主の集会に入ってはならない。十代目に至るまで、彼らのうちの誰も、永遠に主の集会に入ってはならない。
4 あなたがたがエジプトから出て来たとき、彼らが道でパンと水をもってあなたがたを出迎えなかったからである。また、彼らがメソポタミアのペトルからベオルの子バラムを雇い、あなたを呪わせようとしたからである。
5 しかし、あなたの神、主はバラムに聞き従おうとはされなかった。あなたの神、主はあなたを愛しておられたので、あなたの神、主はその呪いをあなたへの祝福に変えられた。
6 あなたは生涯、永遠に彼らの平安や繁栄を求めてはならない。
7 エドム人を忌み嫌ってはならない。彼はあなたの兄弟だからである。エジプト人を忌み嫌ってはならない。あなたは彼の地で寄留者だったからである。
8 彼らに生まれた三代目の子供たちは、主の集会に入ることができる。
9 あなたが敵との戦いのために宿営に出るときは、あらゆる悪事から身を守らなければならない。
10 もしあなたがたの中に、夜の出来事のゆえにきよくない男がいるなら、彼は宿営の外に出なければならない。宿営の中に入ってはならない。
11 夕暮れになったら、彼は水で身を洗い、日が沈んでから宿営の中に入らなければならない。
12 また、宿営の外に場所を設け、そこに用を足しに行かなければならない。
13 武器と一緒に小さなシャベルを持っていなければならない。外で用を足すときは、それで穴を掘り、振り返って自分の排泄物を覆わなければならない。
14 あなたの神、主はあなたを救い出し、あなたの敵をあなたの前に引き渡すために、あなたの宿営のただ中を歩まれるからである。それゆえ、あなたの宿営は聖なるものでなければならない。主があなたの中に汚れたものを見て、あなたから離れ去ることがないためである。
15 主人から逃れてあなたのもとに来た奴隷を、その主人に引き渡してはならない。
16 彼はあなたとともに、あなたのただ中、彼が最も良いと思うあなたの門の一つにある、彼の選ぶ場所に住まわせなければならない。彼をしいたげてはならない。
17 イスラエルの娘の中に遊女がいてはならない。また、イスラエルの息子の中に男娼がいてはならない。
18 遊女の稼ぎや犬*の代金を、いかなる誓願のためにもあなたの神、主の家に持って来てはならない。これら二つのものは、あなたの神、主にとって忌まわしいものだからである。
19 あなたの兄弟に利息をとって貸してはならない。金の利息、食べ物の利息、その他利息をとって貸すいかなるものもである。
20 外国人には利息をとって貸してもよいが、あなたの兄弟には利息をとって貸してはならない。それは、あなたが所有するために行く地において、あなたが手をつけるすべてのことにおいて、あなたの神、主があなたを祝福されるためである。
21 あなたの神、主に誓願を立てるときは、その支払いを遅らせてはならない。あなたの神、主は必ずそれをあなたに求められ、それはあなたの罪となるからである。
22 しかし、誓願を立てることを控えるなら、それはあなたの罪にはならない。

---

* **23:18 23:18** 文字通りには「犬」。

23 自分の口から出たことは、あなたの神、主に誓ったとおりに守り行わなければならない。それはあなたが自分の口で約束した、自発的なささげ物だからである。
24 隣人のぶどう園に入ったときは、心の望むままにぶどうを飽きるまで食べてもよいが、自分の器に入れてはならない。
25 隣人の立ち穂の畑に入ったときは、手で穂を摘んでもよいが、隣人の立ち穂に鎌を入れてはならない。

24

1 男が妻をめとり、彼女と結婚した後、彼女に何か見苦しいことを見つけたため、彼女が彼の目にかなわなくなった場合、彼は離縁状を書いて彼女の手に渡し、自分の家から去らせなければならない。
2 彼女が彼の家を去った後、行って他の男の妻となってもよい。
3 もし後の夫が彼女を憎み、離縁状を書いて彼女の手に渡し、自分の家から去らせた場合、あるいは彼女を妻とした後の夫が死んだ場合、
4 彼女を去らせた最初の夫は、彼女が身を汚された後で、再び彼女を妻としてめとることはできない。それは主の前に忌まわしいことだからである。あなたの神、主が所有地としてあなたに与えられる地に、罪をもたらしてはならない。
5 新しく妻をめとった男は、軍隊に出向いてはならず、いかなる任務も負わされてはならない。彼は一年間、自分の家で自由の身となり、めとった妻を喜ばせなければならない。
6 だれも、ひき臼や上のひき臼を質にとってはならない。それは人の命を質にとることだからである。
7 イスラエルの子らである自分の兄弟の一人を誘拐し、彼を奴隷として扱うか、または彼を売った者が見つかったなら、その誘拐した者は死ななければならない。このようにして、あなたはあなたのただ中から悪を取り除かなければならない。
8 規定の病の患部については、レビ人の祭司たちがあなたがたに教えるすべてのことに注意して聞き従い、それを行わなければならない。わたしが彼らに命じたとおりに、あなたがたはそれを注意して行わなければならない。
9 あなたがたがエジプトから出て来たとき、道中であなたの神、主がミリアムになされたことを思い起こしなさい。
10 隣人にいかなる貸し付けを行うときも、あなたは質物を取るために彼の家に入って行ってはならない。
11 あなたは外に立っていなければならない。あなたが貸し付けた人が、質物を外にいるあなたのところに持って来なければならない。
12 もし彼が貧しい人なら、あなたはその質物を持ったまま寝てはならない。
13 日が沈むとき、あなたは必ずその質物を彼に返さなければならない。彼が自分の着物を着て寝て、あなたを祝福するためである。それはあなたの神、主の前であなたの義となる。
14 あなたの兄弟であれ、あなたの地、あなたの門のうちにいる寄留者であれ、貧しくて困窮している雇い人をしいたげてはならない。
15 その日のうちに、日が沈む前に、彼の賃金を支払わなければならない。彼は貧しく、それに心を寄せているからである。そうしなければ、彼はあなたを主に訴えて叫び、それはあなたの罪となる。
16 父は子供のゆえに死刑に処されてはならず、子供は父のゆえに死刑に処されてはならない。人はそれぞれ自分の罪のゆえに死刑に処されなければならない。
17 寄留者や孤児の裁きを曲げてはならない。また、やもめの着物を質にとってはならない。

18 あなたはエジプトで奴隷であったこと、そしてあなたの神、主があなたをそこから贖い出されたことを思い起こしなさい。それゆえ、わたしはこのことを行うようにあなたに命じる。
19 自分の畑で収穫を刈り入れるとき、畑に束を忘れても、それを取りに戻ってはならない。それは寄留者、孤児、およびやもめのためのものとしなければならない。あなたの神、主があなたの手のすべての業においてあなたを祝福されるためである。
20 オリーブの木の実を打ち落とすときは、後からもう一度枝を捜してはならない。それは寄留者、孤児、およびやもめのためのものとしなければならない。
21 ぶどう園のぶどうを集めるときは、後からもう一度摘み取ってはならない。それは寄留者、孤児、およびやもめのためのものとしなければならない。
22 あなたはエジプトの地で奴隷であったことを思い起こしなさい。それゆえ、わたしはこのことを行うようにあなたに命じる。

25

1 人々の間に争いがあり、彼らが裁きのために来て、裁き人が彼らを裁くときは、正しい者を義とし、悪い者を罪に定めなければならない。
2 もしその悪い者がむち打たれるべき者なら、裁き人は彼を伏せさせ、その悪事に応じて、数を定めて自分の目の前で彼をむち打たせなければならない。
3 四十回まで彼をむち打ってもよいが、それ以上はいけない。もしこれを超えて多くのむち打ちを加えるなら、あなたの兄弟があなたの目の前で卑しめられることになる。
4 穀物を踏みならしている牛に口輪をかけてはならない。
5 兄弟たちが一緒に住んでいて、そのうちの一人が死に、彼に息子がいない場合、死んだ者の妻は家族以外の見知らぬ男と結婚してはならない。彼女の夫の兄弟が彼女のところに入り、彼女を妻としてめとり、夫の兄弟としての義務を彼女に果たさなければならない。
6 彼女が産む最初の男の子は、死んだ兄弟の名を継がなければならない。それは彼の名がイスラエルから消し去られないためである。
7 もしその男が兄弟の妻をめとることを望まないなら、兄弟の妻は門にいる長老たちのところに上って行き、言いなさい。「私の夫の兄弟は、自分の兄弟の名をイスラエルの中に興すことを拒んでいます。彼は夫の兄弟としての義務を私に果たそうとはしません。」
8 すると、その町の長老たちは彼を呼び寄せて、彼に語りなさい。もし彼が立って、「私は彼女をめとりたくない」と言うなら、
9 兄弟の妻は長老たちの目の前で彼に近づき、彼の足から靴を脱がせ、彼の顔に唾を吐きかけなさい。そして彼女は答えて、「自分の兄弟の家を建てない男には、このようにされる」と言いなさい。
10 彼の名はイスラエルにおいて、「靴を脱がされた者の家」と呼ばれる。
11 男たちが互いに争っているとき、一方の妻が自分の夫を打つ者の手から救い出そうと近づき、手を伸ばしてその男の陰部をつかんだなら、
12 あなたは彼女の手を切り落とさなければならない。あなたはあわれみの目で見てはならない。
13 あなたの袋の中に、大小異なる二種類のおもりを入れておいてはならない。
14 あなたの家の中に、大小異なる二種類の升を入れておいてはならない。
15 あなたは完全で正しいおもりを持たなければならない。あなたは完全で正しい升を持たなければならない。あなたの神、主があなたに与えられる地で、あなたの日々が長く続くためである。
16 このようなことを行う者、すなわち不正を行う者は皆、あなたの神、主にとって忌まわしいからである。

17 あなたがたがエジプトから出て来たとき、道中でアマレクがあなたに行ったことを思い起こしなさい。
18 彼が道中であなたに出会い、あなたが疲れ果てて弱っているときに、あなたの後ろにいた弱った者たちをすべて後方から打ち倒し、神を恐れなかったことを。
19 それゆえ、あなたの神、主が所有地としてあなたに受け継がせるその地において、あなたの神、主が周囲のすべての敵からあなたに安息を与えられるとき、あなたはアマレクの記憶を天の下から消し去らなければならない。あなたは忘れてはならない。

26

1 あなたの神、主が所有地としてあなたに与えられる地に入り、それを所有してそこに住むようになったとき、
2 あなたは、あなたの神、主があなたに与えられる地から取り入れる、地のすべての産物の初穂の一部を取りなさい。あなたはそれを籠に入れ、あなたの神、主がご自身の名を住まわせるために選ばれる場所へ行きなさい。
3 あなたはその時代にいる祭司のところに来て、彼に言いなさい。「私は今日、あなたの神、主に宣言します。私は、主が私たちに与えると私たちの父祖たちに誓われたその地に入りました。」
4 祭司はあなたの手から籠を受け取り、あなたの神、主の祭壇の前にそれを置きなさい。
5 あなたはあなたの神、主の前で答えて言いなさい。「滅びようとしていたアラム人が私の父*でした。彼はわずかな人数でエジプトに下り、そこに寄留しました。そこで彼は大きく、力強く、数の多い国民となりました。
6 エジプト人は私たちをひどく扱い、私たちを苦しめ、過酷な奴隷労働を私たちに課しました。
7 私たちが私たちの父祖の神、主に叫び求めたとき、主は私たちの声を聞き、私たちの苦しみ、私たちの労苦、私たちのしいたげを見られました。
8 そして主は、力強い御手、伸ばされた腕、大いなる恐れ、しるし、そして不思議によって、私たちをエジプトから導き出されました。
9 主は私たちをこの場所に導き入れ、この地、乳と蜜の流れる地を私たちに与えられました。
10 主よ、見よ、今私は、あなたが私に与えてくださった地の産物の初穂を持って来ました。」あなたはそれをあなたの神、主の前に置き、あなたの神、主の前で伏し拝みなさい。
11 そして、あなたの神、主があなたとあなたの家に与えられたすべての良いものを喜び楽しみなさい。あなたも、レビ人も、あなたのただ中にいる寄留者も同様である。
12 第三の年、すなわち十分の一の年に、あなたの全収穫の十分の一を納め終えたとき、あなたはそれをレビ人、寄留者、孤児、およびやもめに与え、彼らがあなたの門のうちで食べて満ち足りるようにしなさい。
13 あなたはあなたの神、主の前で言いなさい。「私は聖なるものを家から取り出し、あなたが私に命じられたすべての命令に従って、それをレビ人、寄留者、孤児、およびやもめに与えました。私はあなたのいかなる命令にも背かず、それらを忘れませんでした。
14 私は喪に服しているときにそれを食べず、汚れているときにそれを取り出さず、死者のためにそれを提供することもありませんでした。私は私の神、主の御声に聞き従いました。私はあなたが命じられたすべてのことに従って行いました。

---

* **26:5 26:5** または、先祖

15 あなたの聖なる住まいである天から見下ろし、あなたの民イスラエル
と、あなたが私たちの父祖たちに誓われたとおりに私たちに与えてくださっ
た地、乳と蜜の流れる地を祝福してください。」
16 今日、あなたの神、主は、これらの掟と法を行うようにあなたに命じられ
る。それゆえ、あなたは心を尽くし、魂を尽くして、それらを守り行わなけれ
ばならない。
17 あなたは今日、主をあなたの神とし、主の道を歩み、主の掟、命令、およ
び法を守り、主の御声に聞き従うことを宣言した。
18 そして主は今日、約束されたとおり、あなたが主ご自身の宝の民であるこ
と、そしてあなたが主のすべての命令を守るべきことを宣言された。
19 また、主が造られたすべての国々の上に、あなたを賛美、名声、栄誉にお
いて高く上げること、そして語られたとおり、あなたがあなたの神、主にとっ
て聖なる民となることを宣言された。

27

1 モーセとイスラエルの長老たちは民に命じて言った。「わたしが今日あな
たに命じるすべての命令を守りなさい。
2 あなたがたがヨルダン川を渡って、あなたの神、主があなたに与えられ
る地に入る日に、あなたは大きな石を立て、それに漆喰を塗らなければならな
い。
3 あなたが渡ったとき、その上にこの律法のすべての言葉を書き記さなけれ
ばならない。それは、あなたの父祖の神、主があなたに約束されたとおり、あ
なたの神、主があなたに与えられる地、乳と蜜の流れる地にあなたが入るため
である。
4 あなたがたがヨルダン川を渡ったとき、わたしが今日あなたがたに命じる
とおりに、エバル山にこれらの石を立て、それに漆喰を塗らなければならな
い。
5 そこであなたは、あなたの神、主のために祭壇、すなわち石の祭壇を築か
なければならない。それに鉄の道具を用いてはならない。
6 あなたは切り出されていない石であなたの神、主の祭壇を築かなければな
らない。あなたはその上であなたの神、主に全焼のささげ物をささげなさい。
7 また、和解のいけにえをささげ、そこで食べなさい。あなたはあなた
の神、主の前で喜び楽しみなさい。
8 あなたは、これらの石の上に、この律法のすべての言葉を非常にはっきり
と書き記さなければならない。」
9 モーセとレビ人の祭司たちは全イスラエルに語って言った。「静かにし
て、聞きなさい、イスラエルよ。今日、あなたはあなたの神、主の民となっ
た。
10 それゆえ、あなたの神、主の御声に聞き従い、わたしが今日あなたに命じ
る主の命令と掟を行わなければならない。」
11 モーセは同じ日に民に命じて言った。
12 「あなたがたがヨルダン川を渡ったとき、民を祝福するためにゲリジ
ム山に立つ者は次のとおりである。シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ヨセ
フ、ベニヤミンである。
13 また、呪いのためにエバル山に立つ者は次のとおりである。ルベン、ガ
ド、アシェル、ゼブルン、ダン、ナフタリである。
14 レビ人は声を大にして、イスラエルのすべての男たちに答え、言いなさ
い。
15 『主にとって忌まわしいもの、職人の手の業である彫像や鋳造した偶
像を造り、それをひそかに安置する者は呪われる。』すべての民は答えて、
『アーメン』と言いなさい。

16 『自分の父や母を軽んじる者は呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
17 『隣人の境界標を移す者は呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
18 『目の見えない者を道から迷わせる者は呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
19 『寄留者、孤児、やもめの裁きを曲げる者は呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
20 『父の妻と寝る*者は呪われる。彼は父の寝床を辱めたからである。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
21 『いかなる動物と寝る者も呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
22 『自分の姉妹、すなわち父の娘、または母の娘と寝る者は呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
23 『自分のしゅうとめと寝る者は呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
24 『ひそかに隣人を殺す者は呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
25 『賄賂を受け取って罪のない人を殺す者は呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。
26 『この律法の言葉を行うことによってそれを堅く守らない者は呪われる。』すべての民は、『アーメン』と言いなさい。」

28

1 「もしあなたが、あなたの神、主の御声に熱心に聞き従い、わたしが今日あなたに命じる主のすべての命令を注意して行うなら、あなたの神、主は、あなたを地上のすべての国々の上に高く上げられる。
2 あなたがあなたの神、主の御声に聞き従うなら、これらのすべての祝福があなたに臨み、あなたに追いつく。
3 あなたは町でも祝福され、野でも祝福される。
4 あなたの胎の実、あなたの地の産物、あなたの動物の産物、すなわちあなたの牛の群れの増加や、あなたの羊の群れの幼いものは祝福される。
5 あなたの籠とあなたのこね鉢は祝福される。
6 あなたは入るときにも祝福され、出るときにも祝福される。
7 主は、あなたに立ち向かってくる敵を、あなたの前で打ち負かされる。彼らは一つの道からあなたに向かって攻め寄せて来るが、あなたの前から七つの道に逃げ去る。
8 主は、あなたの倉と、あなたが手をつけるすべてのことにおいて、あなたに祝福を命じられる。あなたの神、主は、主があなたに与えられる地であなたを祝福される。
9 もしあなたが、あなたの神、主の命令を守り、主の道を歩むなら、主があなたに誓われたとおり、主はあなたをご自身の聖なる民として堅く立てられる。
10 地上のすべての民は、あなたが主の御名によって呼ばれているのを見て、あなたを恐れるであろう。
11 主があなたに与えるとあなたの父祖たちに誓われたその地で、主はあなたの胎の実、あなたの家畜の産物、そしてあなたの地の産物において、あなたを大いに栄えさせられる。
12 主は天にあるその良い宝物倉を開き、季節ごとにあなたの地に雨を与え、あなたの手のすべての働きを祝福される。あなたは多くの国々に貸し与えるが、借りることはない。

---

* **27:20 27:20** すなわち、性的関係を持つ。

13 あなたの神、主はあなたを頭とし、尾とはされない。あなたが、わたしが今日あなたに命じるあなたの神、主の命令に聞き従い、それを注意して行うなら、あなたはただ上になり、下になることはない。
14 わたしが今日あなたに命じるどの言葉からも、右にも左にもそれてはならず、他の神々に従ってそれに仕えてはならない。
15 しかし、もしあなたが、あなたの神、主の御声に聞き従わず、わたしが今日あなたに命じる主のすべての命令と掟を注意して行わないなら、これらのすべての呪いがあなたに臨み、あなたに追いつく。
16 あなたは町でも呪われ、野でも呪われる。
17 あなたの籠とあなたのこね鉢は呪われる。
18 あなたの胎の実、あなたの地の産物、あなたの牛の群れの増加、あなたの羊の群れの幼いものは呪われる。
19 あなたは入るときにも呪われ、出るときにも呪われる。
20 わたしを捨てたあなたの悪行のゆえに、あなたが完全に滅ぼされ、速やかに滅び去るまで、主はあなたが手をつけるすべてのことにおいて、呪い、混乱、懲らしめをあなたに送られる。
21 あなたが所有するために入って行くその地から、主があなたを絶ち滅ぼされるまで、主は疫病をあなたにまといつかせられる。
22 主は結核、熱病、炎症、激しい熱、剣、立ち枯れ、そして胴枯れ病であなたを打たれる。これらはあなたが滅びるまであなたを追いかける。
23 あなたの頭上の空は青銅となり、あなたの下にある地は鉄となる。
24 主はあなたの地の雨を細かいちりとほこりにされる。あなたが完全に滅ぼされるまで、それは天からあなたの上に降ってくる。
25 主はあなたを敵の前で打ち負かされる。あなたは一つの道から彼らに向かって攻め寄せて行くが、彼らの前から七つの道に逃げ去る。あなたは地上のすべての王国の間を行き来して揺れ動く者となる。
26 あなたの死体は空のすべての鳥と地の動物の食べ物となる。それらを追い払う者はだれもいない。
27 主は、あなたが癒やされることのできない、エジプトの腫れ物、腫瘍、壊血病、そしてかゆみであなたを打たれる。
28 主は狂気、失明、そして心の混乱であなたを打たれる。
29 目の見えない者が暗闇の中で手探りするように、あなたは真昼に手探りする。あなたは自分の道で栄えることはない。あなたは常にしいたげられ、奪われるだけであり、あなたを救う者はだれもいない。
30 あなたが妻を婚約しても、別の男が彼女と寝る。あなたが家を建てても、そこに住むことはない。あなたがぶどう園を植えても、その実を使うことはない。
31 あなたの牛はあなたの目の前で屠られるが、あなたはそれを食べない。あなたのろばはあなたの目の前から力ずくで奪われ、あなたに返されることはない。あなたの羊は敵に与えられ、あなたを救う者はだれもいない。
32 あなたの息子たちと娘たちは他の民に与えられる。あなたの目は一日中彼らを慕って見つめ、衰え果てるが、あなたの手には何の力もない。
33 あなたの知らなかった国が、あなたの地の産物とあなたのすべての労苦の実を食べる。あなたは常にしいたげられ、打ち砕かれるだけである。
34 あなたは、自分の目が見る光景のゆえに、狂気に追いやられる。
35 主はあなたの膝と足を、足の裏から頭の頂に至るまで、あなたが癒やされることのできないひどい腫れ物で打たれる。
36 主はあなたと、あなたが自分の上に立てた王とを、あなたもあなたの父祖たちも知らなかった国へ連れて行かれる。そこであなたは、木や石の他の神々に仕えることになる。
37 主があなたを連れ去られるすべての民の中で、あなたは驚きとなり、ことわざとなり、笑いぐさとなる。

38 あなたは畑に多くの種を持って出て行くが、わずかしか取り入れない。いなごがそれを食い尽くすからである。
39 あなたはぶどう園を植えて手入れをするが、そのぶどう酒を飲むことも、集めることもない。虫がそれを食べるからである。
40 あなたのすべての境界内にオリーブの木があるようになるが、あなたは油を体に塗ることはない。あなたのオリーブは落ちてしまうからである。
41 あなたは息子や娘をもうけるが、彼らはあなたのものとはならない。彼らは捕虜として連れ去られるからである。
42 あなたのすべての木と地の産物は、いなごが所有する。
43 あなたの間にいる寄留者は、あなたの上にますます高く上り、あなたはますます低く下る。
44 彼はあなたに貸し与えるが、あなたは彼に貸し与えることはない。彼は頭となり、あなたは尾となる。
45 あなたがあなたの神、主の御声に聞き従わず、主があなたに命じられた命令と掟を守らなかったため、これらのすべての呪いがあなたに臨み、あなたを追いかけ、あなたに追いつき、ついにあなたは完全に滅ぼされる。
46 これらはあなたとあなたの子孫に対して、永遠にしるしとなり、不思議となる。
47 すべてのものが豊かであったのに、あなたが喜びと心からの喜びをもってあなたの神、主に仕えなかったため、
48 あなたは、主があなたに差し向けられる敵に、飢え、渇き、裸、そしてすべてのものに欠乏する中で仕えることになる。主はあなたが完全に滅ぼされるまで、あなたの首に鉄のくびきを置かれる。
49 主は遠くから、地の果てから、鷲が飛ぶように一つの国をあなたに差し向けられる。それはあなたが言葉を理解できない国であり、
50 老人を敬わず、若者をあわれまない、顔つきの猛烈な国である。
51 彼らは、あなたが完全に滅ぼされるまで、あなたの家畜の産物と、あなたの地の産物を食べる。また、彼らがあなたを滅ぼすまで、穀物、新しいぶどう酒、油、あなたの牛の群れの増加、羊の群れの幼いものをあなたに残さない。
52 彼らはあなたのすべての門であなたを包囲し、ついにあなたの全土において、あなたが頼みとしていた高く堅固な城壁は崩れ落ちる。彼らはあなたの神、主があなたに与えられた全土のすべての門であなたを包囲する。
53 敵があなたを苦しめる包囲と苦難の中で、あなたは自分の胎の実、すなわちあなたの神、主があなたに与えられたあなたの息子たちや娘たちの肉を食べる。
54 あなたがたの中で優しく、非常に上品な男でさえ、その目は自分の兄弟、自分の愛する妻、そして残された子供たちに対して悪意を抱く。
55 敵があなたのすべての門であなたを苦しめる包囲と苦難の中で、彼には何も残されていないため、自分が食べる子供の肉をそのだれにも与えようとはしない。
56 あなたがたの中で上品で優しく、上品さと優しさのゆえに足の裏を地面につけようともしなかった女でさえ、その目は自分の愛する夫、自分の息子、自分の娘、
57 自分の足の間から出る幼子、および自分が産む子供たちに対して悪意を抱く。敵があなたの門であなたを苦しめる包囲と苦難の中で、すべてのものが欠乏しているため、彼女は彼らをひそかに食べるのである。
58 もしあなたが、この輝かしく恐るべき御名、すなわちあなたの神、主*を恐れるために、この書物に書き記されているこの律法のすべて

* **28:58 28:58** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のה

の言葉を注意して行わないなら、
59 主はあなたの疫病とあなたの子孫の疫病を驚くべきものとされる。それは大いなる疫病で長く続き、重い病気で長く続くものである。
60 主はあなたが恐れていたエジプトのすべての病気を再びあなたにもたらし、それらはあなたにまといつく。
61 また、この律法の書に書き記されていないあらゆる病気やあらゆる疫病も、あなたが完全に滅ぼされるまで主はあなたに下される。
62 あなたがたは空の星のように数が多かったが、あなたがたの神、主の御声に聞き従わなかったため、わずかな人数しか残されない。
63 主があなたがたに良いことを行い、あなたがたを増やすことを喜ばれたように、主はあなたがたを滅ぼし、あなたがたを断ち滅ぼすことを喜ばれる。あなたがたは、所有するために入って行くその地から引き抜かれる。
64 主は地の果てから果てに至るまで、すべての民の間にあなたを散らされる。そこであなたは、あなたもあなたの父祖たちも知らなかった、木や石の他の神々に仕えることになる。
65 これらの国々の間では、あなたは安らぎを見いだせず、あなたの足の裏には休む場所がない。主はそこで、あなたに震える心、目の衰え、魂のやつれを与えられる。
66 あなたの命はあなたの前で危険にさらされる。あなたは夜も昼も恐れ、自分の命の保証がない。
67 あなたは心に抱く恐れと、あなたの目が見る光景のゆえに、朝には『夕方であればよいのに！』と言い、夕方には『朝であればよいのに！』と言う。
68 主はわたしがあなたに『二度と見ることはない』と言ったその道を、船で再びエジプトへとあなたを連れ戻される。そこであなたがたは自分たちを男奴隷や女奴隷として敵に売ろうとするが、だれもあなたがたを買う者はいない。」

29

1 これらは、主がホレブで彼らと結ばれた契約に加えて、モアブの地でイスラエルの子らと結ぶようにモーセに命じられた契約の言葉である。
2 モーセは全イスラエルを呼び寄せて、彼らに言った。「あなたがたは、主がエジプトの地であなたがたの目の前でファラオに、そのすべての家来たちに、そしてその全土に対して行われたすべてのことを見た。
3 あなたの目が見たあの大いなる試み、しるし、そしてあの大いなる不思議である。
4 しかし主は、今日に至るまで、知るための心、見るための目、聞くための耳をあなたがたに与えられなかった。
5 わたしは四十年間、あなたがたを荒野で導いた。あなたがたの着物はすり切れず、あなたがたの足の靴もすり切れなかった。
6 あなたがたはパンを食べず、ぶどう酒や強い酒も飲まなかった。それは、わたしがあなたがたの神、主であることをあなたがたが知るためであった。
7 あなたがたがこの場所に着いたとき、ヘシュボンの王シホンと、バシャンの王オグがわたしたちに立ち向かって戦いに出て来たので、わたしたちは彼らを打ち倒した。
8 わたしたちは彼らの地を取り、それをルベン人、ガド人、およびマナセの半部族に所有地として与えた。
9 それゆえ、この契約の言葉を守り、それを行わなければならない。それはあなたがたが行うすべてのことにおいて栄えるためである。
10 あなたがたは今日、皆、あなたがたの神、主の前に立っている。あなたがたの頭、あなたがたの部族、あなたがたの長老たち、あなたがたの役人たち、そしてイスラエルのすべての男たち、

11 あなたがたの幼子たち、あなたがたの妻たち、そしてあなたがたの宿営のただ中にいる寄留者、すなわち木を伐る者から水を汲む者に至るまでである。
12 これはあなたが、あなたの神、主の契約に入り、あなたの神、主が今日あなたと結ばれる主の誓いに入るためである。
13 こうして主が今日あなたをご自身の民として堅く立て、ご自身があなたの神となるためである。それは主があなたに語られたとおりであり、また主があなたの父祖たち、すなわちアブラハム、イサク、ヤコブに誓われたとおりである。
14 わたしはこの契約とこの誓いをあなたがただけと結ぶのではない。
15 今日わたしたちの神、主の前でわたしたちとともにここに立っている者とも、今日わたしたちとともにここにいない者とも結ぶのである。

16 （わたしたちがエジプトの地でどのように住んでいたか、またあなたがたが通り抜けてきた国々のただ中をどのようにして来たかを、あなたがたは知っているからである。
17 そしてあなたがたは、彼らの忌まわしいものと、彼らの間にあった木や石、銀や金の彼らの偶像を見た。）
18 あなたがたの中に男、女、家族、部族があって、今日その心がわたしたちの神、主から離れ、それらの国々の神々に仕えようとする者がいないようにするためである。あなたがたの中に苦い毒を生み出す根がないようにするためである。
19 そのような者がこの呪いの言葉を聞いたとき、自分の心の中で自らを祝福して、『私が自分の心の頑なさのままに歩んでも、私には平安がある』と言い、潤っているものを乾いているものとともに滅ぼすことがないようにするためである。
20 主はその人を赦そうとはされず、その時、主の怒りと主のねたみがその人に向かって煙を上げ、この書物に書き記されているすべての呪いが彼の上にとどまり、主は天の下から彼の名を消し去られる。
21 主はイスラエルのすべての部族の中から彼を悪に定め、この律法の書に書き記されている契約のすべての呪いに従わせられる。

22 やがて来る世代、すなわちあなたがたの後に起こるあなたがたの子供たちや、遠い国から来る外国人が、その地の疫病や、主がその地に下された病気を見る時、彼らは言うであろう。
23 また、その全土が硫黄と塩と燃える火であり、種は蒔かれず、産物ももたらさず、そこにはいかなる草も生えていないのを見て、それは主が怒りと憤りをもって滅ぼされたソドムとゴモラ、アデマとツェボイムの滅亡のようであると。
24 すべての国々も言うであろう。『なぜ主はこの地にこのようなことをなされたのか。この大いなる激しい怒りは何を意味するのか』と。
25 すると人々は言うであろう。『彼らが自分たちの父祖の神、主が彼らをエジプトの地から導き出された時に彼らと結ばれた契約を見捨てたからである。
26 彼らは行って他の神々に仕え、それらを拝んだ。それは彼らが知らなかった神々であり、主が彼らにお与えにならなかったものである。
27 それゆえ主の怒りがこの地に向かって燃え上がり、この書物に書き記されているすべての呪いをこの地にもたらされたのである。
28 主は怒り、憤り、そして大いなる激しい怒りをもって、彼らをその地から根こぎにし、今日あるように、彼らを別の地へ投げやられたのだ』と。

29 隠された事はわたしたちの神、主のものであるが、現された事は永遠にわたしたちとわたしたちの子供たちのものであり、それはわたしたちがこの律法のすべての言葉を行うためである。」

30

1 「わたしがあなたの前に置いたこれらのすべての事、すなわち祝福と呪いがあなたに臨み、あなたの神、主があなたを追いやられたすべての国々の中であなたがそれらを思い起こし、
2 あなたがあなたの神、主に立ち返り、あなたもあなたの子供たちも、心を尽くし、魂を尽くして、わたしが今日あなたに命じるすべてのことに従って主の御声に聞き従うなら、
3 その時、あなたの神、主はあなたを捕らわれの身から解放し、あなたをあわれみ、あなたの神、主があなたを散らされたすべての民の中から、再びあなたを集められる。
4 たとえあなたの追放された者たちが天の果てにいたとしても、そこからあなたの神、主はあなたを集め、そこからあなたを連れ戻される。
5 あなたの神、主はあなたの父祖たちが所有していた地へあなたを導き入れ、あなたはそれを所有する。主はあなたに良いことを行い、あなたを父祖たちよりも増やされる。
6 あなたの神、主はあなたの心とあなたの子孫の心に割礼を施し、心を尽くし、魂を尽くしてあなたの神、主を愛するようにされる。それはあなたが生きるためである。
7 あなたの神、主はこれらのすべての呪いを、あなたの敵、あなたを憎んで迫害した者たちの上に下される。
8 あなたは立ち返って主の御声に聞き従い、わたしが今日あなたに命じる主のすべての命令を行わなければならない。
9 あなたの神、主は、あなたの手のすべての働き、あなたの胎の実、あなたの家畜の産物、そしてあなたの地の産物において、あなたを豊かにして幸いを与えられる。主があなたの父祖たちを喜ばれたように、主は再びあなたを喜んで幸いを与えられるからである。
10 それはあなたが、あなたの神、主の御声に聞き従い、この律法の書に書き記されている主の命令と掟を守り、心を尽くし、魂を尽くしてあなたの神、主に立ち返るからである。
11 わたしが今日あなたに命じるこの命令は、あなたにとって難しすぎるものではなく、遠く離れたものでもない。
12 それは天にあるのではない。だから、『だれが私たちのために天に上り、それを私たちのもとに持って来て、私たちがそれを行えるように聞かせてくれるだろうか』と言う必要はない。
13 それは海の向こうにあるのでもない。だから、『だれが私たちのために海を渡り、それを私たちのもとに持って来て、私たちがそれを行えるように聞かせてくれるだろうか』と言う必要はない。
14 むしろ、その言葉はあなたのすぐ近くにあり、あなたの口の中にあり、あなたの心の中にあるので、あなたはそれを行うことができるのである。
15 見よ、わたしは今日、あなたの前に命と繁栄、そして死と災いを置いた。
16 わたしは今日、あなたの神、主を愛し、主の道を歩み、主の命令、掟、および法を守るようにあなたに命じる。それはあなたが生き、増え広がり、あなたが所有するために入って行くその地で、あなたの神、主があなたを祝福されるためである。
17 しかし、もしあなたの心がそむき、あなたが聞き従わず、引き寄せられて他の神々を拝み、それに仕えるなら、
18 今日わたしはあなたがたに宣言する。あなたがたは必ず滅びる。あなたが所有するためにヨルダン川を渡って入って行くその地で、あなたの日々が長く続くことはない。
19 わたしは今日、天と地をあなたがたに対する証人に呼ぶ。わたしはあなたの前に命と死、祝福と呪いを置いた。それゆえ、命を選びなさい。あなたもあなたの子孫も生きるためである。

20 あなたの神、主を愛し、主の御声に聞き従い、主にすがりつきなさい。主はあなたの命であり、あなたの日々の長さだからである。それは、主があなたの父祖たち、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われたその地に、あなたが住むためである。」

31

1 モーセは行って、これらの言葉を全イスラエルに語った。
2 彼は彼らに言った。「私は今日、百二十歳である。私はもはや出入りすることができない。主は私に、『あなたはこのヨルダン川を渡ることはない』と言われた。
3 あなたの神、主ご自身があなたの先頭に立って渡って行かれる。主はあなたの前からこれらの国々を滅ぼし、あなたは彼らの地を所有する。主が語られたとおりに、ヨシュアがあなたの先頭に立って渡って行く。
4 主は、アモリ人の王シホンとオグ、および彼らを滅ぼされた時に彼らの地になされたのと同じように、彼らにもなされる。
5 主は彼らをあなたがたの前に引き渡される。あなたがたは、わたしがあなたがたに命じたすべての命令に従って、彼らに行わなければならない。
6 強く、また雄々しくありなさい。彼らのゆえに恐れてはならず、おののいてはならない。あなたの神、主ご自身があなたとともに行かれるからである。主はあなたを見放すことも、あなたを見捨てることもない。」
7 モーセはヨシュアを呼び、全イスラエルの目の前で彼に言った。「強く、また雄々しくありなさい。主が彼らの父祖たちに与えると誓われた地に、あなたはこの民とともに入って行き、あなたは彼らにそれを受け継がせなければならないからである。
8 あなたの先頭に立って行かれるのは主である。主はあなたとともにおられる。主はあなたを見放すことも、あなたを見捨てることもない。恐れてはならない。また、おじけづいてはならない。」
9 モーセはこの律法を書き記し、それを主の契約の箱を担ぐレビの子らである祭司たちと、イスラエルのすべての長老たちに渡した。
10 モーセは彼らに命じて言った。「七年の終わりごとに、免除の年の定められた時に、仮庵の祭りに、
11 全イスラエルがあなたの神、主の前、主が選ばれるその場所に現れるとき、あなたはこの律法を全イスラエルの前で読み上げて聞かせなければならない。
12 民を、すなわち男、女、幼子、およびあなたの門のうちにいる寄留者を集めなさい。彼らが聞いて学び、あなたがたの神、主を恐れ、この律法のすべての言葉を注意して行うためである。
13 また、それをまだ知らない彼らの子どもたちが聞いて、あなたがたが所有するためにヨルダン川を渡って行くその地で、あなたがたが生きるすべての日の間、あなたがたの神、主を恐れることを学ぶためである。」
14 主はモーセに言われた。「見よ、あなたが死ぬ日が近づいている。ヨシュアを呼び、会見の天幕に出頭しなさい。わたしが彼に任務をゆだねるためである。」モーセとヨシュアは行って、会見の天幕に出頭した。
15 主は天幕の中で雲の柱の内に現れ、雲の柱は天幕の入口の上にとどまった。
16 主はモーセに言われた。「見よ、あなたは父祖たちとともに眠りにつく。そしてこの民は立ち上がり、彼らが入って行くその地のただ中で、その地の異国の神々に従って淫行を働き、わたしを見捨て、わたしが彼らと結んだ契約を破るであろう。
17 その日、わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がり、わたしは彼らを見捨て、彼らからわたしの顔を隠す。彼らは食い尽くされ、多くの災いと苦難が彼らに降りかかる。その日、彼らは『これらの災いが私たちに降りかかっ

たのは、私たちの神が私たちのただ中におられないからではないか』と言うであろう。
18 彼らが他の神々に向きを変え、行ってきたすべての悪のゆえに、わたしはその日、わたしの顔を完全に隠す。
19 「それゆえ今、あなたがたのためにこの歌を書き記し、それをイスラエルの子らに教えなさい。それを彼らの口に置きなさい。この歌が、イスラエルの子らに対するわたしのための証人となるためである。
20 わたしが彼らの父祖たちに誓った、乳と蜜の流れる地にわたしが彼らを導き入れ、彼らが食べて満ち足り、太ったとき、彼らは他の神々に向きを変えてそれらに仕え、わたしを侮り、わたしの契約を破るであろう。
21 そして、多くの災いと苦難が彼らに降りかかるとき、この歌が彼らの前で証人として証しをする。彼らの子孫の口からそれが忘れられることはないからである。わたしが約束した地に彼らを導き入れる前から、今日、彼らのすることを、また彼らの道を、わたしは知っているからである。」
22 そこでモーセはその日にこの歌を書き記し、それをイスラエルの子らに教えた。
23 主はヌンの子ヨシュアに任務をゆだねて、言われた。「強く、また雄々しくありなさい。わたしがイスラエルの子らに誓った地に、あなたが彼らを導き入れるからである。わたしはあなたとともにいる。」
24 モーセがこの律法の言葉を書物に書き記し、それを最後まで終わらせたとき、
25 モーセは主の契約の箱を担ぐレビ人に命じて言った。
26 「この律法の書を取り、それをあなたがたの神、主の契約の箱のそばに置きなさい。それがそこであなたに対する証人となるためである。
27 わたしはあなたの反逆とあなたのうなじの強さを知っているからである。見よ、今日わたしがまだあなたがたとともに生きている間にも、あなたがたは主に対して反逆してきた。ましてや、わたしの死後はなおさらであろう!
28 あなたがたの部族のすべての長老たちとあなたがたの役人たちを、わたしのところに集めなさい。わたしが彼らの耳にこれらの言葉を語り、彼らに対して天と地を証人に呼ぶためである。
29 わたしの死後、あなたがたが完全に自らを堕落させ、わたしがあなたがたに命じた道からそれることを、わたしは知っているからである。そして後の日に、災いがあなたがたに降りかかる。あなたがたが主の目に悪であることを行い、あなたがたの手の業によって主を怒らせるからである。」
30 そこでモーセはイスラエルの全集会の耳に、この歌の言葉を最後まで語り終えた。

32

1 天よ、耳を傾けよ。わたしは語る。
　地よ、わたしの口の言葉を聞け。
2 わたしの教えは雨のように降り注ぎ、
　わたしの語ることは露のように滴る。
　若草の上の霧雨のように、
　青草の上の夕立のように。
3 わたしは主の御名を告げ知らせる。
　わたしたちの神に偉大さを帰せよ。
4 岩なる方、その御業は完全である。
　そのすべての道は公正である。
　真実の神であり、不正はない。
　正しく、まっすぐな方である。
5 彼らは主に対して堕落したことを行った。
　彼らはその欠陥のゆえに主の子らではない。

彼らは曲がった、よこしまな世代である。
6 あなたがたは主にこのように報いるのか。
愚かで知恵のない民よ。
主はあなたを買われたあなたの父ではないか。
主はあなたを造り、あなたを堅く立てられたではないか。
7 昔の日々を思い起こせ。
代々の年月に思いを巡らせよ。
あなたの父に尋ねよ。彼はあなたに示すだろう。
あなたの長老たちに尋ねよ。彼らはあなたに告げるだろう。
8 いと高き方が国々にその受け継ぐものを与えられたとき、
人の子らを分けられたとき、
イスラエルの子らの数に従って、
諸々の民の境界を定められた。
9 主の割り当てはご自身の民であり、
ヤコブは主が受け継がれる割り当てである。
10 主は荒れ野で彼を見つけ、
荒涼とした、ほえ声の響く荒野で見つけられた。
主は彼を囲み、彼を世話された。
主の目の瞳のように彼を守られた。
11 鷲が自分の巣をかき立て、
その雛の上を舞い飛び、
その翼を広げて彼らを捕らえ、
その羽に乗せて彼らを運ぶように。
12 主おひとりが彼を導かれた。
ほかの外国の神は彼とともにいなかった。
13 主は地の高い所に彼を乗せられた。
彼は野の産物を食べた。
主は岩から彼に蜜を吸わせ、
火打ち石の岩から油を吸わせられた。
14 牛の凝乳と羊の乳、
子羊の脂肪を、
バシャン種の雄羊と雄山羊を、
最も上質な小麦とともに。
あなたはぶどうの血から、ぶどう酒を飲んだ。
15 しかしエシュルンは太ると、蹴った。
あなたは太った。
あなたは肥えた。
あなたは滑らかになった。
すると彼は自分を造られた神を見捨て、
自分の救いの岩を拒んだ。
16 彼らは異なる神々で主のねたみを引き起こし、
忌まわしいことで主を怒らせた。
17 彼らは神ではない悪霊に、
彼らの知らなかった神々にいけにえをささげた。
最近現れた新しい神々、
あなたがたの父祖たちが恐れなかった神々に。
18 あなたは自分の父となった岩を気に留めず、
自分を産んだ神を忘れた。
19 主はそれを見て、忌み嫌われた。
息子たちと娘たちが主を怒らせたからである。
20 主は言われた。「わたしは彼らからわたしの顔を隠し、
彼らの終わりがどうなるかを見る。
彼らは非常に曲がった世代であり、

忠実さのない子どもたちだからである。
21 彼らは神ではないもので、わたしのねたみを引き起こし、
彼らのむなしいもので、わたしを怒らせた。
だからわたしは、民ではない者で彼らのねたみを引き起こし、
愚かな国民で彼らを怒らせる。
22 わたしの怒りによって火が燃え上がり、
最も深いよみ* にまで燃えるからである。
それは地とその産物を食い尽くし、
山々の基を燃やす。

23 「わたしは彼らの上に災いを積み重ねる。
わたしの矢を彼らに放ち尽くす。
24 彼らは飢えで弱り果て、
燃える熱と苦い滅びによって食い尽くされる。
わたしは獣の牙を、
ちりの中を這うまむしの毒とともに彼らに送る。
25 外では剣が子を奪い、
部屋の中では恐怖が、
若い男も若い女も、
乳飲み子も白髪の老人も襲う。
26 わたしは言った。『わたしは彼らを遠くへ散らし、
人々の間から彼らの記憶を消し去る』と。
27 ただ、わたしは敵の挑発を恐れた。
彼らの敵が誤って判断して、
『私たちの手が高く上げられた。
主がこれらすべてのことをされたのではない』と言うのを恐れたのである。」

28 彼らは助言を欠いた国民であり、
彼らの中には理解力がない。
29 もし彼らに知恵があるなら、これを理解し、
自分たちの終わりを悟るだろうに!
30 どうして一人が千人を追いかけ、
二人が一万人を逃げ走らせることができただろうか。
彼らの岩が彼らを売り渡し、
主が彼らを引き渡されたのでなければ。
31 彼らの岩はわたしたちの岩のようではなく、
わたしたちの敵でさえそう認めている。
32 彼らのぶどうの木はソドムのぶどうの木から、
ゴモラの畑から来ている。
そのぶどうは毒のぶどうであり、
その房は苦い。
33 彼らのぶどう酒は蛇の毒、
コブラの恐ろしい毒である。

34 「それはわたしのもとに蓄えられ、
わたしの宝物倉に封印されているではないか。
35 復讐と報いはわたしのもの。
彼らの足が滑る時に。
彼らの災いの日は近く、
彼らに臨むべき事態が速やかにやって来るからである。」

* **32:22 32:22** よみ（シェオル）は死者の場所である。

36 主はご自身の民を裁き、
そのしもべたちをあわれまれる。
主は彼らの力が尽き果て、
閉じ込められた者も、自由にされた者も、だれも残っていないのを見られるとき。
37 主は言われる。「彼らの神々はどこにいるのか。
彼らが避け所とした岩は。
38 彼らのいけにえの脂肪を食べ、
彼らの飲み物のささげ物のぶどう酒を飲んだものはどこにいるのか。
それらに立ち上がらせて、あなたがたを助けさせよ。
それらにあなたがたの守りとならせよ。

39 「今見よ、わたし、すなわちわたしが彼であり、
わたしのほかに神はいない。
わたしが殺し、わたしが生かす。
わたしが傷つけ、わたしが癒やす。
わたしの手から救い出せる者はだれもいない。
40 わたしは天に向かって手を上げ、宣言する。
わたしは永遠に生きる。
41 もしわたしが光る剣を研ぎ澄まし、
わたしの手が裁きを握るなら、
わたしは敵に復讐し、
わたしを憎む者たちに報いる。
42 わたしはわたしの矢を血で酔わせる。
わたしの剣は肉を、殺された者と捕虜の血とともに食い尽くす。
敵の指導者たちの頭から。」

43 国々の民よ、主の民とともに喜び歌え。
主はそのしもべたちの血の復讐をし、
その敵に復讐し、
ご自身の地とご自身の民のために贖いを行われるからである。†
44 モーセは来て、ヌンの子ホセアとともに、この歌のすべての言葉を民の耳に語った。
45 モーセはこれらのすべての言葉を全イスラエルに語り終えた。
46 彼は彼らに言った。「わたしが今日あなたがたに対して証しするこのすべての言葉を、あなたがたの心に留めなさい。あなたがたは、この律法のすべての言葉を注意して行うように、あなたがたの子どもたちに命じなければならない。
47 これはあなたがたにとって空しいものではない。それはあなたがたの命だからである。このことによって、あなたがたが所有するためにヨルダン川を渡って行くその地で、あなたがたの日々は長く続くのである。」
48 その同じ日に、主はモーセに語って言われた。
49 「エリコの向かい側、モアブの地にあるこのアバリムの山、ネボ山に登り、わたしがイスラエルの子らに所有地として与えるカナンの地を見なさい。
50 あなたの兄弟アロンがホル山で死んでその民に加えられたように、あなたも登って行くその山で死に、あなたの民に加えられなさい。

† **32:43** **32:43** この節について、七十人訳はこう読んでいる。「天よ、彼とともに喜べ。神のすべての御使いたちは彼

51 あなたがたはツィンの荒野にあるカデシュのメリバの水で、イスラエル
の子らの間でわたしに対して背き、イスラエルの子らの間でわたしの聖なるこ
とを保たなかったからである。
52 あなたはその地を遠くから見るが、わたしがイスラエルの子らに与えるそ
の地に入ることはできない。」

33

1 神の人モーセが死ぬ前に、イスラエルの子らを祝福した祝福は次のとおり
である。
2 彼は言った。
「主はシナイから来られ、
セイルから彼らに昇られた。
主はパランの山から光を放ち、
幾万もの聖なる者たちの中から来られた。
その右の手には、彼らのための燃える火の律法があった。*
3 確かに、主は民を愛される。
すべての主の聖なる者たちは、あなたの手の中にある。
彼らはあなたの足元に座り、
それぞれがあなたの言葉を受け取る。
4 モーセはわたしたちに律法を命じた。
それはヤコブの集会の所有地である。
5 民の頭たちが集まり、
イスラエルの全部族が一つになったとき、
その方はエシュルンの王であられた。

6 「ルベンは生き、死なないように。
その人々が少なくならないように。」
7 ユダについてはこう言った。
「主よ、ユダの声を聞き、
彼をその民のもとに導き入れてください。
彼は自分の手で自分のために戦った。
あなたが彼の敵に対する助けとなってください。」
8 レビについてはこう言った。
「あなたのトンミムとウリムは、あなたの敬虔な者のもとにある。
あなたはマサで彼を試み、
メリバの水で彼と争われた。
9 彼は自分の父と母について、
『私は彼を見ていない』と言った。
彼は自分の兄弟たちを認めず、
自分の子どもたちも知ろうとはしなかった。
彼らはあなたの言葉を守り、
あなたの契約を保ったからである。
10 彼らはあなたのおきてをヤコブに、
あなたの律法をイスラエルに教える。
彼らはあなたの前に香を置き、
あなたの祭壇の上に全焼のささげ物を置く。
11 主よ、彼の力を祝福し、
彼の手の業を受け入れてください。
彼に立ち向かう者たちの腰を打ち砕き、
彼を憎む者たちが二度と立ち上がれないようにしてください。」
12 ベニヤミンについてはこう言った。

* 33:2 33:2 別写本では、「彼は南から、その山の斜面から、幾万もの聖なる者たちとともに来られた」と読まれる。

「主に愛されている者は、主のそばで安全に住む。
　主は一日中彼を覆い、
　主は彼の肩の間に住まわれる。」
13 ヨセフについてはこう言った。
「彼の地が主によって祝福されるように。
　天の尊いもの、露、
　下に横たわる深い淵によって。
14 太陽の実りの尊いもの、
　月が生み出す尊いものによって。
15 古の山々の最も良いもの、
　永遠の丘の尊いものによって。
16 地とそれに満ちるものの尊いもの、
　柴の中に住まわれた方† の恵みによって。
その祝福がヨセフの頭の上に、
　兄弟たちからえり分けられた者の頭の頂に臨むように。
17 彼の牛の初子には威厳がある。
　その角は野牛の角である。
　それをもって彼は国々の民を皆、地の果てまでも押し進める。
それらはエフライムの幾万であり、
　マナセの幾千である。」
18 ゼブルンについてはこう言った。
「ゼブルンよ、あなたの外出を喜べ。
　イッサカルよ、あなたの天幕の中で喜べ。
19 彼らは民を山に呼び集め、
　そこで義のいけにえをささげる。
彼らは海の豊かさをくみ出し、
　砂に隠された宝をくみ出すからである。」
20 ガドについてはこう言った。
「ガドを広げる者は祝福されるように。
　彼は雌獅子のように住み、
　腕も頭の頂も引き裂く。
21 彼は自分のために第一の部分を備えた。
　そこには立法者の割り当てが残されていたからである。
彼は民の頭たちとともに来て、
　主の義を行い、
　イスラエルとともに主のおきてを行った。」
22 ダンについてはこう言った。
「ダンは若獅子であり、
　バシャンから飛び出して来る。」
23 ナフタリについてはこう言った。
「ナフタリよ、恵みに満ち足り、
　主の祝福に満ちあふれている。
　西と南を所有せよ。」
24 アシェルについてはこう言った。
「アシェルは子どもたちによって祝福されるように。
　彼は兄弟たちに受け入れられるように。
　彼はその足を油に浸すように。
25 あなたのかんぬきは鉄と青銅となる。
　あなたの日々のように、あなたの力もそうなる。

26 「神のような者はほかにいない、エシュルンよ。

† **33:16 33:16** すなわち、出エジプト記3:3-4の燃える柴。

神はあなたを助けるために天を乗り、
その威光をもって大空を進まれる。
27 永遠の神はあなたの住まいである。
下には永遠の腕がある。
主はあなたの前から敵を追い払い、
『滅ぼせ！』と言われた。
28 イスラエルは安全に住み、
ヤコブの泉は独りで、
穀物と新しいぶどう酒の地に住む。
まことに、彼の天は露を滴らせる。
29 あなたは幸いである、イスラエルよ！
だれがあなたのようであろうか、主に救われた民よ。
主はあなたの助けの盾であり、
あなたの威光の剣である。
あなたの敵はあなたに服従する。
あなたは彼らの高き所を踏みにじる。」

34

1 モーセはモアブの平野からネボ山、すなわちエリコの向かいにあるピスガの頂に登った。主は彼に、ダンに至る全ギルアデ、
2 全ナフタリ、エフライムとマナセの地、西の海に至るユダの全土、
3 南*
、およびツォアルに至るやしの木の町エリコの谷の平野をお見せになった。
4 主は彼に言われた。「これが、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓って、『わたしはこれをあなたの子孫†に与える』と言った地である。わたしはあなたの目でそれを見させたが、あなたはそこに渡って行くことはない。」
5 こうして主のしもべモーセは、主の言葉のとおりにモアブの地で死んだ。
6 主は彼をベテ・ペオルの向かいのモアブの地の谷に葬られたが、今日に至るまでだれも彼の墓を知らない。
7 モーセは死んだとき百二十歳であった。彼の目はかすまず、その力も衰えていなかった。
8 イスラエルの子らはモアブの平野で三十日間、モーセのために泣き悲しんだ。こうしてモーセのために泣き悲しむ喪の日々は終わった。
9 ヌンの子ヨシュアは知恵の霊に満たされていた。モーセが彼の上に手を置いていたからである。イスラエルの子らは彼に聞き従い、主がモーセに命じられたとおりに行った。
10 これ以後、イスラエルにはモーセのような預言者は起こらなかった。主は顔と顔を合わせて彼を知っておられた。
11 主が彼を遣わして、エジプトの地でファラオとそのすべての家来たち、およびその全土に行わせたすべてのしるしと不思議において、
12 また、モーセが全イスラエルの目の前で行った、あのすべての力強い御手と、あのすべての恐るべき大いなるわざにおいて、彼に並ぶ者はいなかった。

---

* **34:3 34:3** または、ネゲブ。 † **34:4 34:4** または「種」。

ヨシュア記
ヨシュア

1 主のしもべモーセが死んだ後、主*
はモーセの従者であるヌンの子ヨシュアに語って言われた。
2 「わたしのしもべモーセは死んだ。今、立ち上がりなさい。あなたと、このすべての民は、このヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与える地へ行きなさい。
3 わたしがモーセに語ったように、あなたがたの足の裏が踏むすべての場所を、わたしはあなたがたに与えた。
4 荒野とこのレバノンから、大河ユーフラテス川、ヘト人の全土、そして日の沈む方の大海に至るまでが、あなたがたの境界となる。
5 あなたの生涯のすべての日の間、だれ一人としてあなたの前に立つことはできない。わたしはモーセとともにいたように、あなたとともにいる。わたしはあなたを見放さず、見捨てない。
6 強く、また雄々しくありなさい。わたしが彼らの父祖たちに与えると誓った地を、あなたがこの民に受け継がせるからである。
7 ただ強く、非常に雄々しくありなさい。わたしのしもべモーセがあなたに命じたすべての律法に注意して従いなさい。そこから右にも左にもそれてはならない。あなたがどこへ行っても幸いを得るためである。
8 この律法の書をあなたの口から離してはならない。昼も夜もそれを思い巡らし、そこに書き記されているすべてのことに注意して従わなければならない。そうすれば、あなたは自分の道を栄えさせ、幸いを得るからである。
9 わたしはあなたに命じたではないか。強く、また雄々しくありなさい。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたがどこへ行っても、あなたの神、主があなたとともにおられるからである。」
10 そこでヨシュアは民の役人たちに命じて言った。
11 「宿営の中を行き巡り、民に命じて言いなさい。『食糧を準備しなさい。三日のうちに、あなたがたはこのヨルダン川を渡り、あなたがたの神、主が所有地として与えられる地に入って行くからである。』」
12 ヨシュアはルベン人、ガド人、およびマナセの半部族に語って言った。
13 「主のしもべモーセがあなたがたに命じて、『あなたがたの神、主はあなたがたに安息を与え、この地を与えられる』と言った言葉を思い起こしなさい。
14 あなたがたの妻たち、幼子たち、家畜は、モーセがヨルダン川の向こう側であなたがたに与えた地にとどまらなければならない。しかしあなたがた、すなわちすべての勇士たちは、武装してあなたがたの兄弟たちの先頭に立って渡り、彼らを助けなければならない。
15 主があなたがたに安息を与えられたように、あなたがたの兄弟たちにも安息を与え、彼らもまた、あなたがたの神、主が彼らに与えられる地を所有するまでである。その後、あなたがたは自分たちの所有地に帰り、主のしもべモーセが日の出る方、ヨルダン川の向こう側であなたがたに与えた地を所有しなさい。」
16 彼らはヨシュアに答えて言った。「あなたが私たちに命じられたことはすべて行います。あなたが私たちを遣わされる所には、どこへでも行きます。

---

* **1:1 1:1** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（ヤ

17 私たちがすべてのことにおいてモーセに聞き従ったように、あなたにも聞き従います。ただ、あなたの神、主がモーセとともにおられたように、あなたとともにおられますように。
18 あなたの命令に逆らい、あなたが命じるすべての言葉に聞き従わない者は皆、死刑に処されます。ただ強く、また雄々しくあってください。」

2

1 ヌンの子ヨシュアは、シティムから二人の男を偵察としてひそかに遣わし、「行って、その地とエリコを見なさい」と言った。彼らは行き、ラハブという名の遊女の家に入り、そこに泊まった。
2 エリコの王は、「見よ、今夜イスラエルの人々の男たちが、この地を探るためにここに入って来た」と告げられた。
3 エリコの王はラハブに使いを遣わして言った。「あなたのもとに来て、あなたの家に入った男たちを連れ出しなさい。彼らは全土を探るために来たからだ。」
4 しかし、その女は二人の男を連れて行き、彼らを隠した。そして言った。「はい、その男たちは私のところに来ました。しかし、彼らがどこから来たのか、私は知りませんでした。
5 暗くなって門が閉まるころ、その男たちは出て行きました。彼らがどこへ行ったのか、私は知りません。急いで彼らを追いかけてください。そうすれば追いつくでしょう。」
6 しかし彼女は二人を屋上に連れて上がり、屋上に並べておいた亜麻の茎の中に隠していた。
7 追っ手はヨルダン川の浅瀬へ向かう道を彼らの後を追って行った。追っ手が出て行くとすぐに、門は閉ざされた。
8 二人が寝る前に、彼女は屋上の彼らのところに上がって来て、
9 男たちに言った。「主がこの地をあなたがたに与えられたこと、あなたがたへの恐れが私たちに降りかかっていること、そしてこの地のすべての住民があなたがたの前に震え上がっていることを、私は知っています。
10 あなたがたがエジプトから出て来たとき、主があなたがたの前で紅海の水を枯らされたこと、また、あなたがたがヨルダン川の向こう側にいたアモリ人の二人の王、シホンとオグを完全に滅ぼしたことを、私たちは聞いているからです。
11 私たちがそれを聞いたとき、私たちの心はくじけ、あなたがたのゆえに、もはやだれにも気力が残っていません。あなたがたの神、主は、上は天において、下は地において神であられるからです。
12 ですから今、どうか主にかけて私に誓ってください。私はあなたがたに親切にしましたから、あなたがたも私の父の家に親切にし、確かなしるしを私に与えてください。
13 そして、私の父、母、兄弟、姉妹、および彼らに属するすべての者を生かし、私たちの命を死から救い出してください。」
14 男たちは彼女に言った。「もしあなたが、私たちのこの事について何も話さないなら、あなたがたの命の代わりに、私たちの命を差し出そう。主が私たちにこの地を与えられるとき、私たちはあなたに親切に、誠実に行う。」
15 そこで彼女は窓から綱で彼らを降ろした。彼女の家は城壁の側面にあり、彼女は城壁の中に住んでいたからである。
16 彼女は彼らに言った。「追っ手に見つからないように、山へ行きなさい。追っ手が戻って来るまで三日間そこに隠れていなさい。その後、自分たちの道を行きなさい。」
17 男たちは彼女に言った。「あなたが私たちに誓わせたこの誓いについて、私たちが責任を免れるのは次の場合である。

18 見よ、私たちがこの地に入って来たとき、あなたは私たちを降ろした窓に、この赤い糸のひもを結びつけておかなければならない。そしてあなたの父、母、兄弟、およびあなたの父の全家族をあなたの家に集めておかなければならない。
19 あなたの家の戸口から通りへ出る者はだれでも、その血は彼自身の頭に帰し、私たちは責任を免れる。しかし、あなたと一緒に家の中にいる者にだれかが手を下すなら、その血は私たちの頭に帰する。
20 だが、もしあなたが私たちのこの事について話すなら、あなたが私たちに誓わせたこの誓いについて、私たちは責任を免れる。」
21 彼女は言った。「あなたがたの言葉どおりにしましょう。」彼女は彼らを送り出し、彼らは去って行った。そして彼女は窓に赤いひもを結びつけた。
22 彼らは行き、山に着き、追っ手が戻るまで三日間そこにとどまった。追っ手はその道中くまなく捜したが、彼らを見つけられなかった。
23 それから二人の男は戻り、山を下って川を渡り、ヌンの子ヨシュアのところに来た。そして彼らに起こったすべてのことを彼に告げた。
24 彼らはヨシュアに言った。「本当に、主はその全土を私たちの手に引き渡されました。その地のすべての住民は、私たちの前に震え上がっています。」

3

1 ヨシュアは朝早く起き、彼とイスラエルのすべての人々はシティムを出発してヨルダン川に来た。彼らは川を渡る前にそこに宿営した。
2 三日後、役人たちが宿営の中を行き巡り、
3 民に命じて言った。「あなたがたの神、主の契約の箱と、それを担ぐレビ人の祭司たちを見たなら、あなたがたの場所を離れてその後に従わなければならない。
4 ただし、あなたがたと箱との間には、距離にして約二千キュビト*の間隔を空けなければならない。それに近づいてはならない。それはあなたがたが行くべき道を知るためである。あなたがたはこれまで、この道を通ったことがないからである。」
5 ヨシュアは民に言った。「自らを聖別しなさい。明日、主があなたがたのただ中で不思議を行われるからである。」
6 ヨシュアは祭司たちに語って言った。「契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って渡りなさい。」彼らは契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って進んだ。
7 主はヨシュアに言われた。「今日、わたしは全イスラエルの目の前であなたを大いなる者とし始める。それは、わたしがモーセとともにいたように、あなたともともにいることを彼らが知るためである。
8 あなたは契約の箱を担ぐ祭司たちに命じて言いなさい。『ヨルダン川の水際まで来たら、あなたがたはヨルダン川の中に立ち止まらなければならない。』」
9 ヨシュアはイスラエルの人々に言った。「ここに来て、あなたがたの神、主の言葉を聞きなさい。」
10 ヨシュアは言った。「これによって、生ける神があなたがたのただ中におられること、そして神があなたがたの前からカナン人、ヘト人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、アモリ人、エブス人を必ず追い払われることを、あなたがたは知るであろう。
11 見よ、全地の主†の契約の箱が、あなたがたの先頭に立ってヨルダン川を渡って行く。

---

* **3:4 3:4** ―キュビトは男性の中指の先から肘までの長さで、約46センチメートル、または約18インチである。したが
† **3:11 3:11** 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

12 それゆえ今、イスラエルの部族から、各部族につき一人ずつ、十二
人の男たちを取りなさい。
13 全地の主である主の箱を担ぐ祭司たちの足の裏がヨルダン川の水の中にと
どまるとき、ヨルダン川の水、すなわち川上から流れ下る水はせき止められ、
一つの水の塊となって立つであろう。」
14 民がヨルダン川を渡るために天幕をたたんで出発したとき、契
約の箱を担ぐ祭司たちは民の先頭にいた。
15 箱を担ぐ者たちがヨルダン川に達し、箱を担ぐ祭司たちの足が水際に浸っ
たとき、ヨルダン川は収穫の全期間を通してその両岸に溢れていたが、
16 川上から流れ下る水は立ち止まり、ツァレタンのそばにある町アダムのあ
たりではるか遠くに、一つの水の塊となって立ち上がった。アラバの海、すな
わち塩の海に向かって流れ下る水は完全にせき止められた。そして民はエリコ
の近くで渡った。
17 主の契約の箱を担ぐ祭司たちがヨルダン川の真ん中の乾いた地面にしっか
りと立っている間に、全イスラエルは乾いた地面を渡り、ついに全国民がヨル
ダン川を完全に渡り終えた。

4

1 全国民がヨルダン川を完全に渡り終えたとき、主はヨシュアに語って言わ
れた。
2 「民の中から、各部族から一人ずつ、十二人の男たちを取り、
3 彼らに命じて言いなさい。『ヨルダン川の真ん中から、すなわち祭司たち
の足がしっかりと立った場所から、十二個の石を取りなさい。それらをあなた
がたと一緒に運び、今夜あなたがたが宿営する宿営地に置きなさい。』」
4 そこでヨシュアは、イスラエルの人々の中から用意していた十二人の男た
ちを、各部族から一人ずつ呼び寄せた。
5 ヨシュアは彼らに言った。「あなたがたの神、主の箱の前に進み出てヨル
ダン川の真ん中に行き、イスラエルの人々の部族の数に従って、それぞ
れ石を一つずつ肩に担ぎ上げなさい。
6 それはあなたがたの間でしるしとなる。後になってあなたがたの子供たち
が尋ねて、『これらの石にはどんな意味があるのですか』と言うとき、
7 あなたがたは彼らに告げなさい。『主の契約の箱の前で、ヨルダ
ン川の水がせき止められたからである。箱がヨルダン川を渡ったとき、ヨルダ
ン川の水はせき止められた。これらの石は、永遠にイスラエルの人々への記
念となる。』」
8 イスラエルの人々はヨシュアが命じたとおりに行った。主がヨシュア
に語られたように、イスラエルの人々の部族の数に従って、ヨルダ
ン川の真ん中から十二個の石を取り上げた。彼らはそれを自分たちと一緒に宿
営地に運び、そこに置いた。
9 ヨシュアはヨルダン川の真ん中、すなわち契約の箱を担いだ祭司たち
の足が立った場所に十二個の石を立てた。それらは今日に至るまでそこにあ
る。
10 モーセがヨシュアに命じたすべてのことに従って、主が民に告げるように
ヨシュアに命じられたすべてのことが終わるまで、箱を担ぐ祭司たちはヨルダ
ン川の真ん中に立っていた。そして民は急いで渡った。
11 すべての民が完全に渡り終えたとき、主の箱は祭司たちとともに民の目の前で渡った。
12 モーセが彼らに語ったように、ルベン人、ガド人、マナセの半部族は武
装してイスラエルの人々の先頭に立って渡った。
13 戦いのために武装した約四万人の男たちが、戦うために主の御前でエリコ
の平野へ渡って行った。

14 その日、主は全イスラエルの目の前でヨシュアを大いなる者とされた。彼らはモーセの生涯のすべての日の間彼を恐れたように、ヨシュアを恐れた。
15 主はヨシュアに語って言われた。
16 「契約の箱を担ぐ祭司たちに、ヨルダン川から上がって来るように命じなさい。」
17 そこでヨシュアは祭司たちに命じて言った。「ヨルダン川から上がって来なさい。」
18 主の契約の箱を担ぐ祭司たちがヨルダン川の真ん中から上がって来て、祭司たちの足の裏が乾いた地面に上がったとき、ヨルダン川の水は元の場所に戻り、以前のようにそのすべての岸に溢れた。
19 民は第一の月の十日にヨルダン川から上がり、エリコの東の境界にあるギルガルに宿営した。
20 ヨシュアは、彼らがヨルダン川から取ったそれら十二個の石をギルガルに立てた。
21 彼はイスラエルの人々に語って言った。「後になってあなたがたの子供たちがその父たちに尋ねて、『これらの石にはどんな意味があるのですか』と言うとき、
22 あなたがたは子供たちに知らせて言いなさい。『イスラエルは乾いた地面を歩いてこのヨルダン川を渡った。
23 あなたがたの神、主が、わたしたちが渡り終えるまで紅海をわたしたちの前で枯らされたように、あなたがたの神、主は、あなたがたが渡り終えるまでヨルダン川の水をあなたがたの前で枯らされたからである。
24 それは、主の御手が力強いことを地上のすべての民が知り、あなたがたが永遠にあなたがたの神、主を恐れるためである。』」

5

1 ヨルダン川の西側にいたアモリ人のすべての王たちと、海辺にいたカナン人のすべての王たちは、イスラエルの人々が渡り終えるまで、主が彼らの前でヨルダン川の水を枯らされたことを聞いた。そのとき彼らの心はくじけ、イスラエルの人々のゆえに、もはや彼らの中に気力は残っていなかった。
2 その時、主はヨシュアに言われた。「火打ち石の小刀を作り、もう一度、二度目として、イスラエルの人々に割礼を施しなさい。」
3 ヨシュアは火打ち石の小刀を作り、ギベアト・ハアラロトでイスラエルの人々に割礼を施した。
4 ヨシュアが割礼を施した理由は次のとおりである。エジプトから出て来た民のうち、すべての男子、すなわちすべての戦士たちは、エジプトから出た後、道中の荒野で死んだ。
5 出て来た民はみな割礼を受けていた。しかし、エジプトから出た後、道中の荒野で生まれた民はみな、割礼を受けていなかったのである。
6 エジプトから出て来たすべての民、すなわち戦士たちが死に絶えるまで、イスラエルの人々は四十年間荒野を歩んだからである。彼らが主の声に聞き従わなかったため、主がわたしたちに与えると彼らの父祖たちに誓われた地、すなわち乳と蜜の流れる地を、彼らには決して見せないと主は彼らに誓われたのである。
7 主が彼らに代わって起こされた彼らの子供たちに、ヨシュアは割礼を施した。道中で割礼を施されていなかったので、彼らは無割礼であったからである。
8 全国民に割礼を施し終えたとき、彼らは傷が癒えるまで宿営の自分たちの場所にとどまった。
9 主はヨシュアに言われた。「今日、わたしはエジプトのそしりをあなたがたから転がし去った。」それゆえ、その場所の名は今日に至るまでギルガルと呼ばれている。

10 イスラエルの人々はギルガルに宿営した。彼らはその月の十四日の夕方、
エリコの平野で過越の祭りを守った。
11 過越の祭りの翌日、その同じ日に、彼らはその地の産物である種なしパン
と炒った穀物を食べた。
12 彼らがその地の産物を食べた翌日、マナは降らなくなった。イスラエル
の人々にはもはやマナはなかった。彼らはその年、カナンの地の収穫物を食べ
た。
13 ヨシュアがエリコの近くにいたとき、目を上げて見ると、見よ、一
人の人が抜き身の剣を手に持って彼の前に立っていた。ヨシュアはその人のと
ころへ行き、彼に言った。「あなたは私たちの味方ですか、それとも敵の味
方ですか。」
14 彼は言った。「いや。私は今、主の軍勢の将として来たのだ。」
ヨシュアは顔を地につけてひれ伏して拝み、彼に言った。「わが主は、しも
べに何を語られるのですか。」
15 主の軍勢の将はヨシュアに言った。「あなたの足から履き物を脱ぎなさ
い。あなたが立っている場所は聖なる所だからである。」ヨシュアはそのとお
りにした。

6

1 さて、エリコはイスラエルの人々のために城門を固く閉ざしていた。だれ
も出て行く者はなく、だれも入って来る者はなかった。
2 主はヨシュアに言われた。「見よ、わたしはエリコとその王、そして勇
士たちをあなたの手に引き渡した。
3 すべての戦士たちは町を回り、町を一周しなさい。あなたはこれを六日間
行わなければならない。
4 七人の祭司たちは、箱の前で七つの雄羊の角笛を持ちなさい。七日目に
は、あなたがたは町を七周し、祭司たちは角笛を吹き鳴らさなければならな
い。
5 彼らが雄羊の角笛を長く吹き鳴らし、あなたがたが角笛の音を聞いたと
き、すべての民は大声で叫ばなければならない。そうすれば、町の城壁はそ
の場に崩れ落ち、民は皆、それぞれまっすぐに上って行くことができる。」
6 ヌンの子ヨシュアは祭司たちを呼び、彼らに言った。「契約の箱を担ぎな
さい。そして七人の祭司たちに、主の箱の前で七つの雄羊の角笛を持たせなさ
い。」
7 彼は民に言った。「進め。町を回りなさい。武装した者たち
に主の箱の前を進ませなさい。」
8 ヨシュアが民に語り終えたとき、主の前で七つの雄羊の角笛を持つ七
人の祭司たちは進み出て、角笛を吹き鳴らした。そして主の契約の箱が彼ら
に続いた。
9 武装した者たちは、角笛を吹き鳴らす祭司たちの前を進んだ。しんがり
は箱の後に従った。彼らは進みながら角笛を吹き鳴らした。
10 ヨシュアは民に命じて言った。「あなたがたは叫んではならず、声を聞か
せてはならない。私が『叫べ』と言う日まで、口から言葉を出してはならな
い。その時、あなたがたは叫ばなければならない。」
11 こうして彼は主の箱を町の周りに進ませ、町を一周させた。彼らは宿
営に帰り、宿営に泊まった。
12 ヨシュアは朝早く起き、祭司たちは主の箱を担いだ。
13 主の箱の前で七つの雄羊の角笛を持つ七人の祭司たちは進み続け、角
笛を吹き鳴らした。武装した者たちは彼らの前を進んだ。しんがり
は主の箱の後に続いた。彼らは進みながら角笛を吹き鳴らした。
14 二日目にも彼らは町を一周し、宿営に帰った。彼らはこれを六日間行っ
た。

15 七日目になると、彼らは夜明けとともに早く起き、同じように町を七周した。この日だけ、彼らは町を七周したのである。
16 七周目に祭司たちが角笛を吹き鳴らしたとき、ヨシュアは民に言った。「叫べ。主があなたがたに町を与えられたからだ。
17 この町と、その中にあるすべてのものは、主のために完全に滅ぼし尽くされるものとなる。ただ、遊女ラハブと、家の中で彼女と一緒にいるすべての者だけは生かしておかなければならない。彼女は私たちが遣わした使者たちを隠したからである。
18 しかしあなたがたは、完全に滅ぼし尽くされるものから身を守りなさい。あなたがたがそれを完全に滅ぼし尽くされるものとした後で、その一部を取って、イスラエルの宿営を完全に滅ぼし尽くされるものとし、災いを招くことがないためである。
19 しかし、銀、金、青銅の器、鉄の器はすべて主にとって聖なるものである。それらは主の宝物倉に納められなければならない。」
20 そこで民は叫び、祭司たちは角笛を吹き鳴らした。民が角笛の音を聞いて大声で叫んだとき、城壁はその場に崩れ落ちた。こうして民は町に上って行き、皆それぞれまっすぐに進んで町を占領した。
21 彼らは町にあるすべてのものを、男も女も、若者も老人も、牛、羊、ろばに至るまで、剣の刃で完全に滅ぼした。
22 ヨシュアはその地を偵察した二人の男に言った。「あの遊女の家に入り、あなたがたが彼女に誓ったとおり、そこから彼女と彼女のすべてのものを連れ出しなさい。」
23 偵察していたその若者たちは入り、ラハブ、その父、母、兄弟、および彼女のすべてのものを連れ出した。彼らはまた、彼女のすべての親族を連れ出し、イスラエルの宿営の外に置いた。
24 彼らは町と、その中にあるすべてのものを火で燃やした。ただ、銀、金、青銅の器、鉄の器だけは主の家の宝物倉に納めた。
25 しかし、遊女ラハブと、その父の家族と、彼女のすべてのものを、ヨシュアは生かしておいた。ヨシュアがエリコを偵察するために遣わした使者たちを彼女が隠したため、彼女は今日に至るまでイスラエルのただ中に住んでいる。
26 その時、ヨシュアは誓いをもって彼らに命じて言った。「立ち上がってこのエリコの町を建てる者は、主の御前で呪われる。その基礎を据えるときには長子を失い、その門を建てるときには末の子を失うであろう。」
27 こうして主はヨシュアとともにおられ、彼の名声は全土に広まった。

7

1 しかし、イスラエルの人々は完全に滅ぼし尽くされるものについて罪を犯した。ユダの部族のゼラのひ孫、ザブディの孫、カルミの子であるアカンが、完全に滅ぼし尽くされるものの一部を取ったからである。それゆえ、主の怒りがイスラエルの人々に向かって燃え上がった。
2 ヨシュアはエリコから、ベテルの東、ベテ・アベンのそばにあるアイに男たちを遣わし、彼らに語って言った。「上って行って、その地を偵察しなさい。」
男たちは上って行き、アイを偵察した。
3 彼らはヨシュアのもとに帰り、彼に言った。「すべての民を上らせる必要はありません。二、三千人の男たちを上らせて、アイを打たせればよいのです。すべての民をあそこで苦労させることはありません。彼らはわずかしかいないからです。」
4 そこで、民のうち約三千人の男たちがそこへ上って行ったが、彼らはアイの男たちの前から逃げ出した。

5 アイの男たちは彼らのうちの約三十六人を打ち倒し、門の前からシェバリムまで彼らを追いかけ、下り坂で彼らを打った。そのため民の心はくじけ、水のようになった。
6 ヨシュアは自分の衣服を引き裂き、イスラエルの長老たちとともに、夕方まで主の箱の前にひれ伏し、自分たちの頭にちりをかぶった。
7 ヨシュアは言った。「ああ、主なる神よ。なぜあなたはこの民にヨルダン川を渡らせ、私たちをアモリ人の手に引き渡して滅ぼそうとされるのですか。私たちはヨルダン川の向こう側にとどまることで満足していればよかったのです。
8 ああ、主よ。イスラエルが敵の前で背を向けて逃げ出した後、私は何を言えばよいのでしょうか。
9 カナン人やこの地のすべての住民がこれを聞き、私たちを包囲し、私たちの名を地上から断ち切るでしょう。あなたの大いなる御名のために、あなたは何をなさるのですか。」
10 主はヨシュアに言われた。「立ち上がりなさい。なぜあなたはそのようにひれ伏しているのか。
11 イスラエルは罪を犯した。彼らはわたしが命じた契約を破った。完全に滅ぼし尽くされるものを取り、盗み、欺き、それを自分たちの持ち物の中に紛れ込ませた。
12 それゆえ、イスラエルの人々は敵の前に立つことができない。彼らが敵の前に背を向けるのは、彼ら自身が完全に滅ぼし尽くされるものとなったからである。あなたがたの中から完全に滅ぼし尽くされるものを滅ぼさない限り、わたしはもはやあなたがたとともにいない。
13 立ち上がりなさい。民を聖別して言いなさい。『明日のために自らを聖別しなさい。イスラエルの神、主はこう言われる。「イスラエルよ、あなたのただ中に完全に滅ぼし尽くされるものがある。あなたがたの中から完全に滅ぼし尽くされるものを取り除くまでは、敵の前に立つことはできない。」
14 それゆえ、朝になったら、部族ごとに進み出なさい。主が選び出す部族は氏族ごとに進み出なさい。主が選び出す氏族は家族ごとに進み出なさい。主が選び出す家族は男一人ずつ進み出なさい。
15 完全に滅ぼし尽くされるものを持っていることが判明した者は、彼とそのすべての持ち物とともに火で燃やされなければならない。彼が主の契約を破り、イスラエルで恥ずべきことを行ったからである。』」
16 そこでヨシュアは朝早く起き、イスラエルを部族ごとに進み出させた。そしてユダの部族が選び出された。
17 彼はユダの氏族を進み出させ、ゼラ人の氏族が選び出された。彼はゼラ人の氏族を男一人ずつ進み出させ、ザブディが選び出された。
18 彼はその家族を男一人ずつ進み出させ、ユダの部族のゼラのひ孫、ザブディの孫、カルミの子であるアカンが選び出された。
19 ヨシュアはアカンに言った。「私の子よ、どうかイスラエルの神、主に栄光を帰し、主に告白しなさい。あなたが何をしたのか、今、私に話しなさい。私に隠してはならない。」
20 アカンはヨシュアに答えて言った。「私は本当にイスラエルの神、主に対して罪を犯しました。私がしたことは次のとおりです。
21 私はぶんどり物の中に、美しいバビロニアの外套、銀二百シェケル*と、重さ五十シェケルの金の延べ棒を見つけました。私はそれらが欲しくなり、取りました。見よ、それらは私の天幕の真ん中の地面の中に隠してあり、銀はその下にあります。」

---

* **7:21 7:21** ―シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。二百シェケルは約2キログラム、金五十シェケ

22 そこでヨシュアは使者たちを遣わし、彼らは天幕へ走って行った。
見よ、それは彼の天幕の中に隠されており、銀はその下にあった。
23 彼らは天幕の真ん中からそれらを取り出し、ヨシュアとイスラエルのすべての人々のもとに持って来た。彼らはそれを主の御前に置いた。
24 ヨシュアは全イスラエルとともに、ゼラの子アカン、銀、外套、金の延べ棒、彼の息子たち、彼の娘たち、彼の牛、彼のろば、彼の羊、彼の天幕、そして彼のすべてのものをアコルの谷へ持って上った。
25 ヨシュアは言った。「なぜあなたは私たちに災いをもたらしたのか。今日、主があなたに災いをもたらされる。」全イスラエルは彼を石で打ち、その一同を火で焼き、石で打った。
26 彼らは彼の上に大きな石塚を積み上げた。それは今日に至るまで残っている。主は激しい怒りを収められた。それゆえ、その場所の名は今日に至るまで「アコルの谷」と呼ばれている。

8

1 主はヨシュアに言われた。「恐れてはならない。おののいてはならない。すべての戦士たちを連れ、立ち上がってアイへ上りなさい。見よ、わたしはアイの王を、その民、その町、その地とともにあなたの手に引き渡した。
2 あなたはエリコとその王にしたように、アイとその王にもしなければならない。ただ、そのぶんどり物と家畜はあなたがた自身の獲物として取ってもよい。町の後ろに伏兵を置きなさい。」
3 そこでヨシュアはすべての戦士たちとともに立ち上がり、アイへ上った。ヨシュアは三万人の勇士たちを選び出し、夜の間に彼らを送り出した。
4 彼は彼らに命じて言った。「見よ、あなたがたは町の後ろに隠れて、町に対して伏兵となりなさい。町からあまり遠く離れず、全員が備えていなさい。
5 私と、私と一緒にいるすべての民は町に近づく。彼らが最初のように私たちに向かって出て来たら、私たちは彼らの前から逃げる。
6 彼らは私たちの後を追って出て来るので、私たちは彼らを町から誘い出す。『彼らは最初のように私たちの前から逃げている』と彼らは言うからである。こうして私たちは彼らの前から逃げる。
7 そのとき、あなたがたは伏せている場所から立ち上がり、町を占領しなさい。あなたがたの神、主がそれをあなたがたの手に引き渡されるからである。
8 町を奪ったら、町に火を放ちなさい。主の言葉のとおりに行わなければならない。見よ、私はあなたがたに命じた。」
9 ヨシュアが彼らを送り出すと、彼らは伏兵の場所へ行き、ベテルとアイの間、アイの西側にとどまった。しかしヨシュアはその夜、民の中にとどまった。
10 ヨシュアは朝早く起き、民を召集し、イスラエルの長老たちとともに民の先頭に立ってアイへ上った。
11 すべての民、すなわち彼と一緒にいた戦士たちは上って近づき、町の前まで来て、アイの北側に宿営した。彼とアイの間には谷があった。
12 彼は約五千人の男たちを取り、彼らをベテルとアイの間、町の西側に伏兵として配置した。
13 こうして彼らは民を配置した。すなわち、町の北に全軍を、町の西に伏兵を置いた。ヨシュアはその夜、谷の真ん中へ行った。
14 アイの王はそれを見ると、彼とそのすべての民、すなわち町の男たちは、急いで朝早く起き、定められた時にイスラエルと戦うため、アラバの前に出て来た。しかし彼は、町の後ろに自分に対する伏兵がいることを知らなかった。
15 ヨシュアと全イスラエルは彼らの前で打ち負かされたふりをして、荒野の道へ逃げた。

16 町にいたすべての民は、彼らを追撃するために呼び集められた。彼らはヨシュアを追いかけ、町から誘い出された。
17 アイとベテルには、イスラエルの後を追って出て行かない男は一人も残っていなかった。彼らは町を開け放したまま、イスラエルを追いかけた。
18 主はヨシュアに言われた。「あなたの手にある投げ槍をアイに向けて伸ばしなさい。わたしがそれをあなたの手に引き渡すからである。」
ヨシュアは手にある投げ槍を町に向けて伸ばした。
19 伏兵は自分たちの場所から素早く立ち上がり、彼が手を伸ばしたとたんに走り出し、町に入ってそれを占領した。彼らは急いで町に火を放った。
20 アイの男たちが後ろを振り返って見ると、見よ、町の煙が天に上っていた。彼らにはこちらにもあちらにも逃げる力がなかった。荒野へ逃げていた民は、追撃する者たちに向き直った。
21 伏兵が町を占領し、町の煙が上ったのを見たとき、ヨシュアと全イスラエルは向き直ってアイの男たちを打った。
22 伏兵たちも町から彼らに向かって出て来たので、彼らはイスラエルの真ん中に挟まれた。一部はこちら側に、一部はあちら側にいた。イスラエルは彼らを打ち、生き残る者も逃れる者も一人もいないようにした。
23 彼らはアイの王を生け捕りにし、ヨシュアのところに連れて来た。
24 イスラエルが野原で、すなわち彼らを追いかけた荒野で、アイのすべての住民を殺し尽くし、彼らが皆剣の刃に倒れて滅び去ったとき、全イスラエルはアイに戻り、剣の刃で町を打った。
25 その日に倒れた者は、男も女も合わせて一万二千人、すなわちアイのすべての民であった。
26 ヨシュアはアイのすべての住民を完全に滅ぼし尽くすまで、投げ槍を伸ばした手を引っ込めなかったからである。
27 ただ、その町の家畜とぶんどり物は、主がヨシュアに命じられた主の言葉に従って、イスラエルが自分たちの獲物として取った。
28 そこでヨシュアはアイを焼き、それを永遠の廃墟、今日に至るまでの荒れ地とした。
29 彼はアイの王を夕方まで木に掛けた。日の沈むころ、ヨシュアが命じると、彼らはその死体を木から下ろし、町の門の入り口に投げ捨て、その上に大きな石塚を積み上げた。それは今日に至るまで残っている。
30 その後、ヨシュアはエバル山にイスラエルの神、主のための祭壇を築いた。
31 それは、主のしもべモーセがイスラエルの人々に命じたとおりであり、モーセの律法の書に書き記されているように、だれも鉄の道具を振り上げたことのない切り出されていない石の祭壇であった。彼らはその上で主に全焼のささげ物をささげ、和解のいけにえをささげた。
32 彼はそこで、イスラエルの人々の前で、モーセが書き記した律法の写しを石の上に書き記した。
33 全イスラエルと、その長老たち、役人たち、および裁き人たちは、寄留者も、生まれながらのイスラエル人も、主の契約の箱を担ぐレビ人の祭司たちの前で、箱の両側に立った。半分はゲリジム山の前に、半分はエバル山の前に立った。それは、主のしもべモーセがかつて、イスラエルの民を祝福するように命じたとおりであった。
34 その後、彼は律法の書に書き記されているすべてのことに従って、律法のすべての言葉、すなわち祝福と呪いを読み上げた。
35 モーセが命じたすべてのことの中で、ヨシュアがイスラエルの全集会、および女たち、幼子たち、彼らの間にいる寄留者の前で読み上げなかった言葉は一つもなかった。

9

1 ヨルダン川の向こう側、山地、低地、そしてレバノンの前にある大海の全沿岸にいたすべての王たち、すなわちヘト人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人がこれを聞いたとき、
2 彼らはヨシュアおよびイスラエルと戦うために、一つになって集まった。
3 しかし、ギベオンの住民は、ヨシュアがエリコとアイにしたことを聞いたとき、
4 彼らもまた策略を巡らし、使者のふりをして出かけた。彼らはろばに古い袋と、古くて破れ、繕ったぶどう酒の革袋を載せ、
5 足には古くて継ぎ当てをした履き物を履き、古い衣服を着ていた。彼らの食糧のパンはすべて乾いて、カビが生えていた。
6 彼らはギルガルの宿営にいるヨシュアのところに行き、彼とイスラエルの人々に言った。「私たちは遠い国から来ました。ですから今、私たちと契約を結んでください。」
7 イスラエルの人々はヒビ人に言った。「もしかすると、あなたがたは私たちの間に住んでいるのかもしれません。どうして私たちがあなたがたと契約を結べるでしょうか。」
8 彼らはヨシュアに言った。「私たちはあなたのしもべです。」
ヨシュアは彼らに言った。「あなたがたはだれですか。どこから来たのですか。」
9 彼らは彼に言った。「あなたのしもべたちは、あなたの神、主の御名のために、非常に遠い国から来ました。私たちは主のうわさと、主がエジプトで行われたすべてのこと、
10 また、ヨルダン川の向こう側にいたアモリ人の二人の王、すなわちヘシュボンの王シホンと、アシュタロトにいたバシャンの王オグに行われたすべてのことを聞いたからです。
11 私たちの長老たちと私たちの国のすべての住民は、私たちにこう言いました。『旅の食糧を手に取り、彼らを迎えに行き、彼らに言いなさい。「私たちはあなたがたのしもべです。ですから今、私たちと契約を結んでください。」』
12 あなたがたのところに来るために私たちが家を出た日、この私たちのパンは、まだ温かいものを家から食糧として持って来ました。しかし今、見よ、それは乾いて、カビが生えています。
13 私たちがぶどう酒を満たしたこれらの革袋は新しいものでした。しかし見よ、それらは破れています。私たちのこれらの衣服と履き物は、旅が非常に長かったために古くなりました。」
14 人々は彼らの食糧の一部を取ったが、主の口から指示を仰がなかった。
15 ヨシュアは彼らと平和を結び、彼らを生かしておくという契約を彼らと結んだ。会衆の指導者たちは彼らに誓った。
16 彼らと契約を結んでから三日後、彼らが自分たちの隣人であり、自分たちの間に住んでいることを彼らは聞いた。
17 イスラエルの人々は旅立ち、三日目に彼らの町々に着いた。彼らの町々はギベオン、ケフィラ、ベエロト、およびキルヤテ・ヤアリムであった。
18 会衆の指導者たちがイスラエルの神、主にかけて彼らに誓っていたため、イスラエルの人々は彼らを打たなかった。全会衆は指導者たちに対してつぶやいた。
19 しかし、すべての指導者たちは全会衆に言った。「私たちはイスラエルの神、主にかけて彼らに誓った。だから今、私たちは彼らに手出しすることはできない。
20 私たちは彼らにこのように行い、彼らを生かしておこう。私たちが彼らに誓った誓いのゆえに、怒りが私たちに下らないためである。」

21 指導者たちは彼らに言った。「彼らを生かしておきなさい。」こうして、指導者たちが彼らに語ったように、彼らは全会衆のために木を伐る者、水を汲む者となった。
22 ヨシュアは彼らを呼び寄せ、彼らに語って言った。「あなたがたは私たちの間に住んでいながら、なぜ『私たちはあなたがたから非常に遠く離れている』と言って、私たちを欺いたのか。
23 それゆえ今、あなたがたは呪われている。私の神の家のために、奴隷、すなわち木を伐る者、水を汲む者となることから、あなたがたが免れることは決してない。」
24 彼らはヨシュアに答えて言った。「あなたの神、主がそのしもべモーセに、この全土をあなたがたに与え、この地のすべての住民をあなたがたの前から滅ぼすように命じられたことが、あなたのしもべたちに確かに告げられていたからです。それゆえ、私たちはあなたがたのゆえに自分たちの命を非常に恐れ、このことを行いました。
25 今、見よ、私たちはあなたの手の中にあります。あなたの目に良いこと、正しいことと思われることを、私たちにしてください。」
26 ヨシュアは彼らにそのように行い、イスラエルの人々の手から彼らを救い出し、彼らが殺されないようにした。
27 その日、ヨシュアは彼らを、会衆のため、また主が選ばれる場所で主の祭壇のために、木を伐る者、水を汲む者とした。それは今日に至るまでそうである。

10

1 エルサレムの王アドニ・ツェデクは、ヨシュアがアイを占領し、それを完全に滅ぼしたこと、すなわち彼がエリコとその王にしたように、アイとその王にもしたこと、またギベオンの住民がイスラエルと平和を結び、彼らの間にいることを聞いた。
2 彼らは非常に恐れた。ギベオンは王の町の一つのように大きな町であり、アイよりも大きく、その男たちは皆勇士だったからである。
3 そこでエルサレムの王アドニ・ツェデクは、ヘブロンの王ホハム、ヤルムトの王ピラム、ラキシュの王ヤフィア、エグロンの王デビルに使いを遣わして、言った。
4 「私のところに上って来て、私を助けてください。ギベオンを打ちましょう。彼らがヨシュアおよびイスラエルの人々と平和を結んだからです。」
5 そこでアモリ人の五人の王、すなわちエルサレムの王、ヘブロンの王、ヤルムトの王、ラキシュの王、エグロンの王は集まり、彼らとその全軍隊は上って行って、ギベオンに対して宿営し、その町と戦った。
6 ギベオンの男たちは、ギルガルの宿営にいるヨシュアに使いを遣わして言った。「あなたのしもべたちから手を引かないでください。急いで私たちのところに上って来て、私たちを救い、助けてください。山地に住むアモリ人のすべての王たちが、私たちに向かって集まっているからです。」
7 そこでヨシュアは、彼と一緒にいるすべての戦士たち、すべての勇士たちとともにギルガルから上って行った。
8 主はヨシュアに言われた。「彼らを恐れてはならない。わたしは彼らをあなたの手に引き渡したからである。彼らのうち、だれ一人としてあなたの前に立つ者はいない。」
9 それゆえ、ヨシュアは夜通しギルガルから上って行き、突然彼らを襲った。
10 主はイスラエルの前で彼らを混乱させられた。主はギベオンで大殺戮をもって彼らを打ち、ベテ・ホロンへ上る道沿いに彼らを追いかけ、アゼカとマケダに至るまで彼らを打たれた。

11 彼らがイスラエルの前から逃げ、ベテ・ホロンの下り坂にいたとき、
主は天からアゼカに至るまで、彼らの上に大きな石を降らせ、彼らは死ん
だ。イスラエルの人々が剣で殺した者よりも、雹の石で死んだ者の方が多かっ
た。
12 主がアモリ人をイスラエルの人々の前に引き渡された日、ヨシュア
は主に語り、イスラエルの見ている前で言った。「太陽よ、ギベオン
の上で止まれ。月よ、アヤロンの谷の上でとどまれ。」
13 民がその敵に復讐するまで、太陽は止まり、月はとどまった。これがヤシ
ャルの書に書き記されていないだろうか。太陽は天の真ん中にとどまり、ほ
ぼ丸一日沈もうとしなかった。
14 主が人の声に聞き入れられたこのような日は、後にも先にもなかった。
主がイスラエルのために戦われたからである。
15 ヨシュアは全イスラエルとともに、ギルガルの宿営に帰った。
16 これら五人の王たちは逃げ、マケダの洞穴に隠れた。
17 ヨシュアは、「五人の王たちがマケダの洞穴に隠れているのが見つかっ
た」と告げられた。
18 ヨシュアは言った。「大きな石を洞穴の口に転がし、そのそばに男たち
を配置して彼らを見張らせなさい。
19 しかしあなたがたはとどまってはならない。あなたがたの敵を追いか
け、その後方を打ちなさい。彼らが自分たちの町々に入るのを許してはならな
い。あなたがたの神、主が彼らをあなたがたの手に引き渡されたからであ
る。」
20 ヨシュアとイスラエルの人々が非常に大きな殺戮をもって彼らを打ち、つ
いに彼らを滅ぼし尽くしたとき、彼らのうちで生き残った者たちは要塞化され
た町々に入った。
21 その後、すべての民はマケダの宿営にいるヨシュアのもとに無事に帰っ
て来た。イスラエルの人々に向かって舌を動かす者はだれもいなかった。
22 その時ヨシュアは言った。「洞穴の口を開け、あの五人の王たちを洞穴か
ら私のところに引き出しなさい。」
23 彼らはそのように行い、エルサレムの王、ヘブロンの王、ヤルムトの王、
ラキシュの王、エグロンの王というあの五人の王たちを、洞穴から彼のところ
に引き出した。
24 彼らがこれらの王たちをヨシュアのところに引き出したとき、ヨシュアは
イスラエルのすべての男たちを呼び寄せ、彼と一緒に行った戦士たちの指揮
官たちに言った。「近づいて、この王たちの首の上に足を置きなさい。」
彼らは近づき、その首の上に足を置いた。
25 ヨシュアは彼らに言った。「恐れてはならない。おののいてはならない。
強く、また雄々しくありなさい。主はあなたがたが戦うすべての敵に、このよ
うになされるからである。」
26 その後、ヨシュアは彼らを打って殺し、五本の木に掛けた。彼らは夕方ま
で木に掛けられていた。
27 日の沈むころ、ヨシュアが命じると、彼らは彼らを木から下ろし、彼ら
が隠れていた洞穴に投げ込み、洞穴の口に大きな石を置いた。それは今
日に至るまで残っている。
28 その日、ヨシュアはマケダを占領し、剣の刃でそれを打ち、その王と、そ
の中にいるすべての人を完全に滅ぼした。彼は一人も残さなかった。彼はエリ
コの王にしたように、マケダの王にもした。
29 ヨシュアは全イスラエルとともにマケダからリブナへ進み、リブナと戦っ
た。
30 主はまた、リブナとその王をもイスラエルの手に引き渡された。
彼は剣の刃でそれと、その中にいるすべての人を打った。彼はそこに一
人も残さなかった。彼はエリコの王にしたように、その王にもした。

31 ヨシュアは全イスラエルとともにリブナからラキシュへ進み、それに対して宿営し、それと戦った。
32 主はラキシュをイスラエルの手に引き渡された。彼は二日目にそれを占領し、リブナにしたすべてのことと同じように、剣の刃でそれと、その中にいるすべての人を打った。
33 その時、ゲゼルの王ホラムがラキシュを助けるために上って来たが、ヨシュアは彼とその民を打ち、彼に一人も残さなかった。
34 ヨシュアは全イスラエルとともにラキシュからエグロンへ進んだ。彼らはそれに対して宿営し、それと戦った。
35 彼らはその日にそれを占領し、剣の刃で打った。彼はラキシュにしたすべてのことと同じように、その中にいるすべての人をその日に完全に滅ぼした。
36 ヨシュアは全イスラエルとともにエグロンからヘブロンへ上って行き、それと戦った。
37 彼らはそれを占領し、エグロンにしたすべてのことと同じように、剣の刃でそれと、その王、そのすべての町々、およびその中にいるすべての人を打った。彼は一人も残さなかった。彼はそれと、その中にいるすべての人を完全に滅ぼした。
38 ヨシュアは全イスラエルとともにデビルへ引き返し、それと戦った。
39 彼はそれと、その王と、そのすべての町々を占領した。彼らは剣の刃で彼らを打ち、すべての人を完全に滅ぼした。彼は一人も残さなかった。彼がヘブロンにし、またリブナとその王にしたように、デビルとその王にもした。
40 こうしてヨシュアは、山地、ネゲブ、低地、傾斜地の全土と、そのすべての王たちを打った。彼は一人も残さなかったが、イスラエルの神、主が命じられたように、息のあるものをすべて完全に滅ぼした。
41 ヨシュアはカデシュ・バルネアからガザに至るまで、またゴシェンの全地方をギベオンに至るまで打った。
42 イスラエルの神、主がイスラエルのために戦われたので、ヨシュアはこれらすべての王たちとその地を一度に占領した。
43 ヨシュアは全イスラエルとともに、ギルガルの宿営に帰った。

11

1 ハツォルの王ヤビンはこれを聞いたとき、マドンの王ヨバブ、シムロンの王、アクシャフの王、
2 北の山地、キネレテの南のアラバ、低地、西のドルの高地にいた王たち、
3 東と西のカナン人、山地のアモリ人、ヘト人、ペリジ人、エブス人、そしてミツパの地のヘルモン山のふもとにいたヒビ人に使いを遣わした。
4 彼らは、そのすべての軍隊を率いて出て来た。民は海辺の砂のように多く、馬と戦車も非常に多かった。
5 これらのすべての王たちは集まって会い、イスラエルと戦うために進んで来て、メロムの水のほとりに一緒に宿営した。
6 主はヨシュアに言われた。「彼らのゆえに恐れてはならない。明日の今ごろ、わたしは彼らすべてを、イスラエルの前に打ち殺された者として引き渡すからである。あなたは彼らの馬の足の筋を切り、その戦車を火で燃やさなければならない。」
7 そこでヨシュアとすべての戦士たちは、メロムの水のほとりで突然彼らに襲いかかった。
8 主は彼らをイスラエルの手に引き渡された。イスラエルは彼らを打ち、大シドン、ミスレフォト・マイム、東のミツパの谷に至るまで彼らを追いかけた。イスラエルは彼らを打ち、一人も残さなかった。

9 ヨシュアは主が彼に命じられたとおりに彼らに対して行った。彼は彼らの馬の足の筋を切り、その戦車を火で燃やした。
10 その時ヨシュアは引き返してハツォルを占領し、その王を剣で打った。ハツォルは以前、それらすべての王国の首都であったからである。
11 彼らはその中にいるすべての人を剣の刃で打ち、完全に滅ぼした。息のあるものは一つも残されなかった。彼はハツォルを火で燃やした。
12 これらすべての王たちのすべての町々とそのすべての王たちを、ヨシュアは占領し、主のしもべモーセが命じたように、剣の刃で彼らを打ち、完全に滅ぼした。
13 ただし、丘の上に立っていた町々のうち、イスラエルはハツォルを除いて一つも燃やさなかった。ハツォルだけはヨシュアが燃やした。
14 これらの町々のすべてのぶんどり物と家畜は、イスラエルの人々が自分たちの獲物として取った。しかしすべての人は、彼らを滅ぼし尽くすまで剣の刃で打ち、息のあるものは一つも残さなかった。
15 主がそのしもべモーセに命じられたように、モーセはヨシュアに命じ、ヨシュアはそのように行った。主がモーセに命じられたことのうち、彼が行わなかったことは何一つなかった。
16 こうしてヨシュアはこの全土、すなわち山地、ネゲブ全土、ゴシェンの全土、低地、アラバ、イスラエルの山地とその低地を占領した。
17 セイルへ上って行くハラク山から、ヘルモン山のふもとのレバノンの谷にあるバアル・ガドに至るまでである。彼は彼らのすべての王を捕らえ、打って殺した。
18 ヨシュアはこれらすべての王たちと長い間戦った。
19 ギベオンの住民であるヒビ人を除いて、イスラエルの人々と平和を結んだ町は一つもなかった。彼らは他をすべて戦いによって占領した。
20 彼らの心を頑なにし、戦いをもってイスラエルに向かって来させたのは、主から出たことであった。それは主が彼らを完全に滅ぼし、彼らにあわれみが示されず、主がモーセに命じられたように彼らを滅ぼし尽くすためであった。
21 その時ヨシュアは行き、山地から、ヘブロンから、デビルから、アナブから、ユダのすべての山地から、そしてイスラエルのすべての山地からアナク人を絶ち滅ぼした。ヨシュアは彼らをその町々とともに完全に滅ぼした。
22 イスラエルの人々の地にアナク人は一人も残っていなかった。ただガザ、ガト、アシュドデにだけ残っていた。
23 こうしてヨシュアは、主がモーセに語られたすべてに従って全土を占領した。ヨシュアはイスラエルの部族の割り当てに従って、それを所有地としてイスラエルに与えた。そしてその地には戦いがやんで安息があった。

12

1 イスラエルの人々が打ったその地の王たち、すなわち日の出る方のヨルダン川の向こう側、アルノン川の谷からヘルモン山に至るまで、また東側の全アラバを治めていた王たちは次のとおりである。
2 ヘシュボンに住んでいたアモリ人の王シホン。彼はアルノン川の谷の端にあるアロエルから、谷の真ん中、ギルアデの半分を治め、アンモン人の境界であるヤボク川に至るまで、
3 また東のアラバをキネレテの海に至るまで、東のアラバの海、すなわち塩の海に至るまで、ベテ・エシモトの道を通って、南のピスガの斜面の下まで治めていた。
4 また、バシャンの王オグの領地。彼はアシュタロトとエドレイに住んでいたレファイムの生き残りであり、

5 ヘルモン山、サルカ、全バシャンを治め、ゲシュル人およびマアカ人の境
界に至るまで、またヘシュボンの王シホンの境界に至るギルアデの半分を治め
ていた。
6 主のしもべモーセとイスラエルの人々は彼らを打った。主のしもべモーセ
はそれをルベン人、ガド人、マナセの半部族に所有地として与えた。
7 ヨシュアとイスラエルの人々が、ヨルダン川の向こう側、西のほうで、レ
バノンの谷にあるバアル・ガドからセイルへ上って行くハラク山に至るま
で打った、その地の王たちは次のとおりである。ヨシュアはそれをイスラエル
の部族に、その割り当てに従って所有地として与えた。
8 それは山地、低地、アラバ、傾斜地、荒野、ネゲブにいたヘト人、アモ
リ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、およびエブス人の地であった。
9 エリコの王が一人、
ベテルのそばにあるアイの王が一人、
10 エルサレムの王が一人、
ヘブロンの王が一人、
11 ヤルムトの王が一人、
ラキシュの王が一人、
12 エグロンの王が一人、
ゲゼルの王が一人、
13 デビルの王が一人、
ゲデルの王が一人、
14 ホルマの王が一人、
アラドの王が一人、
15 リブナの王が一人、
アドラムの王が一人、
16 マケダの王が一人、
ベテルの王が一人、
17 タプアの王が一人、
ヘフェルの王が一人、
18 アフェクの王が一人、
ラシャロンの王が一人、
19 マドンの王が一人、
ハツォルの王が一人、
20 シムロン・メロンの王が一人、
アクシャフの王が一人、
21 タアナクの王が一人、
メギドの王が一人、
22 ケデシュの王が一人、
カルメルのヨクネアムの王が一人、
23 ドルの高地にいるドルの王が一人、
ギルガルのゴイムの王が一人、
24 テルツァの王が一人であった。
王たちは皆で三十一人であった。

13

1 さて、ヨシュアは年を重ねて老人となっていた。主は彼に言われた。「あ
なたは年を重ねて老人となったが、所有すべき地はまだ非常に多く残ってい
る。
2 残っている地は次のとおりである。ペリシテ人のすべての地方、およびゲ
シュル人のすべての地方。
3 エジプトの手前にあるシホルから、北はカナン人のものとみなされている
エクロンの境界まで。またペリシテ人の五人の領主、すなわちガザ人、アシュ
ドデ人、アシュケロン人、ガト人、エクロン人、そしてアビム人。

4 南のほうでは、カナン人の全土、およびシドン人に属するメアラから、アフェクを経てアモリ人の境界まで。
5 またゲバル人の地と、日の出る方のレバノン全土、すなわちヘルモン山のふもとのバアル・ガドからハマトの入り口まで。
6 レバノンからミスレフォト・マイムまでの山地のすべての住民、すなわちすべてのシドン人を、わたしはイスラエルの人々の前から追い払う。ただ、わたしがあなたに命じたとおり、それをイスラエルのための所有地として割り当てなさい。
7 それゆえ今、この地を九つの部族とマナセの半部族に所有地として分けなさい。」
8 マナセのもう半分の部族とともに、ルベン人とガド人は彼らの所有地を受け取った。それは主のしもべモーセが彼らに与えたとおり、
9 日の出る方のヨルダン川の向こう側でモーセが彼らに与えたものであった。すなわち、アルノン川の谷の端にあるアロエルと、谷の真ん中にある町、およびメデバからディボンに至るすべての平原、
10 ヘシュボンで治めていたアモリ人の王シホンのすべての町々で、アンモン人の境界に至るまで。
11 またギルアデ、ゲシュル人およびマアカ人の境界、ヘルモン山全域、サルカに至るバシャン全域、
12 バシャンでアシュタロトとエドレイにおいて治めていたオグの王国全域であった。彼はレファイムの生き残りであった。モーセはこれらの者を打ち、彼らを追い払った。
13 しかしイスラエルの人々は、ゲシュル人やマアカ人を追い払わなかった。ゲシュルとマアカは今日に至るまでイスラエルのただ中に住んでいる。
14 ただし、レビの部族にだけは、彼は所有地を与えなかった。イスラエルの神、主への火によるささげ物が、主が彼に語られたとおりに、彼らの受け継ぐものだからである。
15 モーセはルベンの子らの部族に、その氏族に従って与えた。
16 彼らの境界は、アルノン川の谷の端にあるアロエルと、谷の真ん中にある町、およびメデバのそばのすべての平原、
17 ヘシュボンと平原にあるそのすべての町々、すなわちディボン、バモテ・バアル、ベテ・バアル・メオン、
18 ヤハツ、ケデモト、メファアト、
19 キルヤタイム、シブマ、谷の山にあるツェレト・シャハル、
20 ベテ・ペオル、ピスガの斜面、ベテ・エシモト、
21 および平原のすべての町々、ヘシュボンで治めていたアモリ人の王シホンの王国全域であった。モーセはシホンと、その地に住んでいたミディアンの指導者エヴィ、レケム、ツル、フル、レバを打った。彼らはシホンに属する君主たちであった。
22 イスラエルの人々は、殺された他の者たちとともに、占い師であるベオルの子バラムを剣で殺した。
23 ルベンの子らの境界はヨルダン川の岸であった。これがその氏族に従ったルベンの子らの所有地であり、その町々と村々であった。
24 モーセはガドの部族、すなわちガドの子らに、その氏族に従って与えた。
25 彼らの境界はヤゼルとギルアデのすべての町々、およびラバの東にあるアロエルに至るアンモン人の地の半分、
26 またヘシュボンからラマト・ミツペおよびベトニムまで、そしてマハナイムからデビルの境界までであった。
27 また谷間では、ヘシュボンの王シホンの王国の残りの地であるベテ・ハラム、ベテ・ニムラ、スコテ、ツァフォンを与えた。ヨルダン川の岸が境界となり、日の出る方のヨルダン川の向こう側にあるキネレテの海の端に至る。

28 これがその氏族に従ったガドの子らの所有地であり、その町々と村々であった。
29 モーセはマナセの半部族に所有地を与えた。それはマナセの子らの半部族のためのもので、その氏族に従って与えられた。
30 彼らの境界はマハナイムから始まり、バシャン全域、バシャンの王オグの王国全域、バシャンにあるヤイルのすべての町である六十の町、
31 またギルアデの半分、およびバシャンにおけるオグの王国の町であるアシュタロトとエドレイであった。これらはマナセの子マキルの子らのためのもので、すなわちマキルの子らの半分のためのもので、その氏族に従って与えられた。
32 これらはモーセが、エリコの東にあるヨルダン川の向こう側のモアブの平原で割り当てた所有地である。
33 しかし、レビの部族にはモーセは所有地を与えなかった。イスラエルの神、主が、彼らに語られたとおりに彼らの受け継ぐものだからである。

14

1 これらはイスラエルの人々がカナンの地で受け取った所有地であり、祭司エルアザルとヌンの子ヨシュア、およびイスラエルの人々の部族の父の家々の頭たちが、彼らに割り当てたものである。
2 主がモーセを通して命じられたとおりに、九つの部族と半部族のために、くじによって彼らの所有地が割り当てられた。
3 モーセはヨルダン川の向こう側で、二つの部族と半部族に所有地を与えていた。しかしレビ人には、彼らの間に所有地を与えなかった。
4 ヨセフの子らはマナセとエフライムの二つの部族であった。彼らはその地にレビ人のための分け前を与えず、ただ住むための町々と、彼らの家畜と所有物のための放牧地だけを与えた。
5 主がモーセに命じられたとおりに、イスラエルの人々は行い、その地を分けた。
6 その時、ユダの子らはギルガルでヨシュアに近づいた。そしてケナズ人エフネの子カレブが彼に言った。「主がカデシュ・バルネアで、私とあなたについて、神の人モーセに語られた言葉をあなたは知っています。
7 主のしもべモーセがその地を偵察させるために、カデシュ・バルネアから私を遣わしたとき、私は四十歳でした。私は心にあるとおりに彼に報告しました。
8 しかし、私と一緒に上って行った私の兄弟たちは、民の心をくじかせました。それでも私は、私の神、主に従い通しました。
9 その日、モーセは誓って言いました。『あなたが私の神、主に従い通したので、あなたの足が踏んだ地は、必ずあなたとあなたの子供たちの永遠の所有地となる。』
10 今、見よ、主がこの言葉をモーセに語られてから、イスラエルが荒野を歩んだこの四十五年間、主は言われたとおりに私を生きながらえさせてくださいました。今、見よ、私は今日八十五歳です。
11 モーセが私を遣わした日のように、私は今日もまだ力に満ちています。戦いのためにも、出て行き、帰って来るためにも、私の今の力はあの時の力のままです。
12 ですから今、主があの日に語られたこの山地を私に与えてください。あの日あなたも聞いたように、そこにはアナク人がおり、大きくて城壁のある町々があります。もしかすると主が私とともにおられ、主が語られたように、私は彼らを追い払うことができるかもしれません。」
13 そこでヨシュアは彼を祝福し、エフネの子カレブにヘブロンを所有地として与えた。

14 そのため、ヘブロンは今日に至るまで、ケナズ人エフネの子カレブの所有
地となっている。彼がイスラエルの神、主に従い通したからである。
15 ヘブロンの以前の名はキルヤテ・アルバであった。アルバはアナ
ク人の中で最も偉大な人物であった。そしてその地には戦いがやんで安息があ
った。

15

1 ユダの子らの部族のために、その氏族に従ってくじで割り当てられ
た地は、エドムの境界に至り、さらに南の果てにあるツィンの荒野の南端にま
で及んだ。
2 彼らの南の境界は塩の海の端、南に向いている入り江から始まり、
3 アクラビムの坂の南へ出てツィンを通り、カデシュ・バルネア
の南へ上り、ヘツロンを過ぎてアダルへ上り、カルカへと曲がり、
4 さらにアツモンを過ぎてエジプトの川へと出て、その境界の終わりは海で
あった。これがあなたがたの南の境界となる。
5 東の境界は塩の海であり、ヨルダン川の河口までであった。北側の境
界は、ヨルダン川の河口にある海の入り江から始まり、
6 境界はベテ・ホグラに上り、ベテ・アラバの北を通り、ルベンの子ボハン
の石に上り、
7 アコルの谷からデビルに上り、川の南側にあるアドミムの坂の向かいのギ
ルガルに向かって北へ進み、エン・シェメシュの水を通ってエン・ロゲル
で終わる。
8 境界はベン・ヒノムの谷を上って、エブス人の町の南側、すなわちエルサ
レムに至り、さらに境界は西側のヒノムの谷の前にある山の頂に上る。そこは
レファイムの谷の北の果てである。
9 境界は山の頂からネフトアの水の泉に引かれ、エフロン山の町々
へ出る。さらに境界はバアラ、すなわちキルヤテ・ヤアリムへと引かれ、
10 境界はバアラから西へ曲がってセイル山に向かい、北側にあるヤアリ
ム山、すなわちケサロンの側面に沿って進み、ベテ・シェメシュに下り、ティ
ムナを過ぎる。
11 境界はエクロンの側面の北側へ出て、シケロンに引かれ、バアラ山を過ぎ
てヤブネエルに出る。その境界の終わりは海であった。
12 西の境界は大海とその海岸であった。これがその氏族に従ったユダの子ら
の周囲の境界である。
13 ヨシュアに対する主の命令に従って、彼はエフネの子カレブにユダの子ら
の間で割り当てを与えた。すなわち、アナクの父にちなんで名づけられたキル
ヤテ・アルバ、すなわちヘブロンである。
14 カレブはそこから、アナクの三人の子、すなわちアナクの子孫であるシェ
シャイ、アヒマン、タルマイを追い払った。
15 彼はそこからデビルの住民を攻めるために上って行った。デビルの以
前の名はキルヤテ・セフェルであった。
16 カレブは言った。「キルヤテ・セフェルを打ってそれを占領する者には、
私の娘アクサを妻として与えよう。」
17 カレブの兄弟であるケナズの子オトニエルがそれを占領したので、
彼は娘アクサを彼に妻として与えた。
18 彼女が嫁いで来たとき、彼女は自分の父に畑を求めるよう彼を促した。彼
女がろばから降りると、カレブは「何が欲しいのか」と彼女に言った。
19 彼女は言った。「私に祝福を与えてください。あなたは私をネゲブ
の地に置かれたのですから、水の泉も私に与えてください。」
そこで彼は上の泉と下の泉を彼女に与えた。
20 これがその氏族に従ったユダの子らの部族の所有地である。

21 エドムの境界に向かうネゲブにある、ユダの子らの部族の最果ての町々は、カブツェエル、エデル、ヤグル、
22 キナ、ディモナ、アダダ、
23 ケデシュ、ハツォル、イトナン、
24 ジフ、テレム、ベアロト、
25 ハツォル・ハダタ、ケリオト・ヘツロン、すなわちハツォル、
26 アマム、シェマ、モラダ、
27 ハツァル・ガダ、ヘシュモン、ベテ・ペレト、
28 ハツァル・シュアル、ベエル・シェバ、ビズヨテヤ、
29 バアラ、イイム、エツェム、
30 エルトラド、ケシル、ホルマ、
31 ツィクラグ、マドマナ、サンサナ、
32 レバオト、シルヒム、アイン、およびリモンであった。その町々はすべて合わせて二十九の町と、その村々であった。
33 低地には、エシュタオル、ツォルア、アシュナ、
34 ザノア、エン・ガニム、タプア、エナム、
35 ヤルムト、アドラム、ソコ、アゼカ、
36 シャアライム、アディタイム、ゲデラ、またはゲデロタイム。十四の町と、その村々。
37 ツェナン、ハダシャ、ミグダル・ガド、
38 ディルアン、ミツペ、ヨクテエル、
39 ラキシュ、ボツカト、エグロン、
40 カボン、ラフマム、キトリシュ、
41 ゲデロト、ベテ・ダゴン、ナアマ、マケダ。十六の町と、その村々。
42 リブナ、エテル、アシャン、
43 イフタ、アシュナ、ネツィブ、
44 ケイラ、アクジブ、マレシャ。九つの町と、その村々。
45 エクロンとその町々、およびその村々。
46 エクロンから海に至るまで、アシュドデのそばにあるすべてのものと、その村々。
47 アシュドデ、その町々、その村々。ガザ、その町々、その村々。エジプトの川および大海とその海岸に至るまで。
48 山地には、シャミル、ヤティル、ソコ、
49 ダナ、キルヤテ・サナ、すなわちデビル、
50 アナブ、エシュテモ、アニム、
51 ゴシェン、ホロン、ギロ。十一の町と、その村々。
52 アラブ、ドゥマ、エシャン、
53 ヤニム、ベテ・タプア、アフェカ、
54 フムタ、キルヤテ・アルバ、すなわちヘブロン、およびツィオル。九つの町と、その村々。
55 マオン、カルメル、ジフ、ユタ、
56 イズレエル、ヨクデアム、ザノア、
57 カイン、ギベア、ティムナ。十の町と、その村々。
58 ハルフル、ベテ・ツル、ゲドル、
59 マアラト、ベテ・アノト、エルテコン。六つの町と、その村々。
60 キルヤテ・バアル、すなわちキルヤテ・ヤアリム、およびラバ。二つの町と、その村々。
61 荒野には、ベテ・アラバ、ミディン、セカカ、
62 ニブシャン、塩の町、エン・ゲディ。六つの町と、その村々。
63 エルサレムの住民であるエブス人について、ユダの子らは彼らを追い払うことができなかった。それでエブス人は今日に至るまで、エルサレムでユダの子らとともに住んでいる。

16

1 ヨセフの子らのためにくじで当たった地は、エリコのそばのヨルダン川、エリコの水の東から始まり、エリコから山地を通ってベテルへ上って行く荒野であった。
2 その境界はベテルからルズへ出て、アルキ人の境界を通ってアタロトへ進み、
3 西のほう、ヤフレテ人の境界に下って、下ベテ・ホロンの境界、さらにゲゼルに至り、その終わりは海であった。
4 ヨセフの子らであるマナセとエフライムは、彼らの所有地を受け取った。
5 エフライムの子らの、その氏族に従った境界は次のとおりであった。彼らの所有地の東の境界はアタロト・アダルから上ベテ・ホロンに至り、
6 その境界は北側のミクメタトで西へ出る。境界は東に曲がってタアナト・シロに向かい、その東側を通ってヤノアに進む。
7 ヤノアからアタロト、ナアラへと下り、エリコに達し、ヨルダン川に出る。
8 タプアから境界は西のほうカナの川に進み、その終わりは海であった。これがその氏族に従ったエフライムの子らの部族の所有地である。
9 これに加えて、マナセの子らの所有地のただ中にあるエフライムの子らのために取り分けられた町々、すなわちすべての町々とその村々があった。
10 彼らはゲゼルに住んでいたカナン人を追い払わなかった。それでカナン人は今日に至るまでエフライムのただ中に住んでおり、強制労働をする奴隷となっている。

17

1 マナセの部族のためにくじが当たった。マナセはヨセフの長子だったからである。マナセの長子でギルアデの父であるマキルは戦士であったため、ギルアデとバシャンを得た。
2 マナセの残りの子らにも、その氏族に従ってくじが当たった。すなわち、アビエゼルの子ら、ヘレクの子ら、アスリエルの子ら、シェケムの子ら、ヘフェルの子ら、シェミダの子らである。これらはヨセフの子マナセの男子たちであり、その氏族に従っていた。
3 しかし、マナセの子マキルの子、ギルアデの子、ヘフェルの子であるゼロフェハデには、息子がおらず、娘だけがいた。その娘たちの名は、マフラ、ノア、ホグラ、ミルカ、ティルツァであった。
4 彼女たちは祭司エルアザル、ヌンの子ヨシュア、および指導者たちの前に進み出て言った。「主はモーセに、私たちの兄弟たちの間で私たちに所有地を与えるように命じられました。」そこで主の命令に従って、ヨシュアは彼女たちの父の兄弟たちの間で彼女たちに所有地を与えた。
5 ヨルダン川の向こう側にあるギルアデとバシャンの地のほかに、マナセには十の分け前が当たった。
6 マナセの娘たちが、その息子たちの間で所有地を受け継いだからである。ギルアデの地はマナセの残りの子らのものとなった。
7 マナセの境界はアシェルから、シェケムの前にあるミクメタトに至る。境界は右手のほうに進み、エン・タプアの住民のところへ行く。
8 タプアの地はマナセのものとなったが、マナセの境界にあるタプアの町はエフライムの子らのものとなった。
9 境界はカナの川に下り、川の南側を通る。マナセの町々の中にあるこれらの町々はエフライムのものである。マナセの境界は川の北側であり、その終わりは海であった。
10 南側はエフライムのもの、北側はマナセのものであり、海がその境界であった。彼らは北ではアシェルに、東ではイッサカルに接していた。

11 マナセはイッサカルとアシェルの中に、ベテ・シェアンとその町々、イブレアムとその町々、ドルの住民とその町々、エン・ドルの住民とその町々、タアナクの住民とその町々、メギドの住民とその町々、すなわち三つの高地を持っていた。
12 しかし、マナセの子らはこれらの町々の住民を追い払うことができなかった。カナン人はその地に住み続けようとしたのである。
13 イスラエルの人々が強くなったとき、彼らはカナン人に強制労働を課したが、彼らを完全に追い払うことはしなかった。
14 ヨセフの子らはヨシュアに語って言った。「主がこれまで私を祝福してくださり、私たちは人数の多い民であるのに、なぜあなたは私に所有地として一つのくじ、一つの分け前しか与えなかったのですか。」
15 ヨシュアは彼らに言った。「もしあなたが人数の多い民で、エフライムの山地があなたにとって狭すぎるなら、森へ上って行き、そこでペリジ人とレファイム人の地に、自分のための場所を切り開きなさい。」
16 ヨセフの子らは言った。「山地は私たちには十分ではありません。また、谷の地に住むすべてのカナン人、すなわちベテ・シェアンとその町々にいる者たちも、イズレエルの谷にいる者たちも、みな鉄の戦車を持っています。」
17 ヨシュアはヨセフの家、すなわちエフライムとマナセに語って言った。「あなたは人数の多い民であり、大きな力を持っている。あなたは一つのくじだけを持つのではない。
18 山地もあなたのものとなるからである。そこは森であるが、あなたはそれを切り開きなさい。その最も遠い果てまであなたのものとなる。カナン人が鉄の戦車を持っており、強いとしても、あなたは彼らを追い払うことができるからである。」

18

1 イスラエルの人々の全会衆はシロに集まり、そこに会見の天幕を張った。その地は彼らの前に服していた。
2 イスラエルの人々の中には、自分たちの所有地をまだ分けられていない七つの部族が残っていた。
3 ヨシュアはイスラエルの人々に言った。「あなたがたの父祖の神、主があなたがたに与えられた地を所有するために入って行くのを、あなたがたはいつまで怠っているのか。
4 各部族から三人ずつの男たちを出しなさい。私は彼らを遣わす。彼らは立ち上がってその地を行き巡り、自分たちの所有地に従ってそれを図に書き記し、私のところに帰って来なければならない。
5 彼らはそれを七つの分け前に分ける。ユダは南の自分の境界内にとどまり、ヨセフの家は北の自分の境界内にとどまる。
6 あなたがたはその地を七つの分け前に分けて図に書き記し、それをここにいる私のところに持って来なさい。私はここで、私たちの神、主の御前であなたがたのためにくじを引く。
7 しかし、レビ人にはあなたがたの間に分け前はない。主の祭司の務めが彼らの受け継ぐものだからである。ガド、ルベン、およびマナセの半部族は、主のしもべモーセが彼らに与えた、日の出る方のヨルダン川の向こう側ですでに所有地を受け取っている。」
8 その男たちは立ち上がって出て行った。ヨシュアは、その地を図に書き記しに行く者たちに命じて言った。「行ってその地を行き巡り、それを図に書き記して、私のところに帰って来なさい。私はここシロで、主の御前であなたがたのためにくじを引く。」

9 男たちは行ってその地を通り巡り、町ごとに七つの分け前に分けて書
物に図を書き記した。そしてシロの宿営にいるヨシュアのところに帰っ
て来た。
10 ヨシュアはシロで、主の御前で彼らのためにくじを引いた。そこでヨシュ
アはその地をイスラエルの人々に、それぞれの分け前に従って分けた。
11 ベニヤミンの子らの部族のくじが、その氏族に従って引かれた。彼らのく
じの境界は、ユダの子らとヨセフの子らの間に出た。
12 北側の彼らの境界はヨルダン川から始まる。境界は北側のエリコの側
面に上り、西のほうの山地を通って上り、ベテ・アベンの荒野で終わる。
13 境界はそこからルズへ、南側にあるルズの側面、すなわちベテル
へ進む。さらに境界は、下ベテ・ホロンの南にある山を通って、アタロト・ア
ダルに下る。
14 境界はそこから延びて、ベテ・ホロンの前にある山の南側から西のほう
へ曲がり、ユダの子らの町であるキルヤテ・バアル、すなわちキルヤテ・ヤア
リムで終わる。これが西側である。
15 南側はキルヤテ・ヤアリムの果てから始まる。境界は西へ向かい、ネフト
アの水の泉へ出る。
16 境界は、レファイムの谷の北にあり、ベン・ヒノムの谷の前にあ
る山の果てに下る。さらに南側にあるエブス人の側面に沿ってヒノム
の谷に下り、エン・ロゲルに下る。
17 それは北へ延びてエン・シェメシュへ出て、アドミムの坂の向かいにある
ゲリロトへ出て、ルベンの子ボハンの石に下る。
18 さらに北側のアラバの向かい側へ進み、アラバに下る。
19 境界は北側のベテ・ホグラの側面に進み、境界の終わりはヨルダン川の南
端にある塩の海の北の入り江となる。これが南の境界である。
20 東側の境界はヨルダン川であった。これがその周囲の境界に従った、ベニ
ヤミンの子らの氏族による所有地である。
21 その氏族に従ったベニヤミンの子らの部族の町々は、エリコ、ベテ・ホグ
ラ、エメク・ケツィツ、
22 ベテ・アラバ、ツェマライム、ベテル、
23 アビム、パラ、オフラ、
24 ケファル・アモニ、オフニ、ゲバ。十二の町と、その村々。
25 ギベオン、ラマ、ベエロト、
26 ミツペ、ケフィラ、モツァ、
27 レケム、イルペエル、タララ、
28 ツェラ、エレフ、エブス人の町、すなわちエルサレム、ギベア、キルヤ
テ。十四の町と、その村々。これがその氏族に従ったベニヤミンの子らの所有
地である。

19

1 第二のくじはシメオン、すなわちシメオンの子らの部族のために、その氏
族に従って引かれた。彼らの所有地はユダの子らの所有地の中にあった。
2 彼らは所有地として、ベエル・シェバ、すなわちシェバ、モラダ、
3 ハツァル・シュアル、バラ、エツェム、
4 エルトラド、ベトゥル、ホルマ、
5 ツィクラグ、ベテ・マルカボト、ハツァル・スサ、
6 ベテ・レバオト、シャルヘン。十三の町と、その村々を持った。
7 アイン、リモン、エテル、アシャン。四つの町と、その村々。
8 また、南のラマであるバアラト・ベエルに至るまで、これらの町々の周
囲にあるすべての村々。これがその氏族に従ったシメオンの子らの部族の所有
地である。

9 シメオンの子らの所有地は、ユダの子らの分け前から取られた。ユダの子らの分け前は彼らにとって多すぎたからである。それゆえ、シメオンの子らはユダの所有地の中に所有地を持った。
10 第三のくじはゼブルンの子らのために、その氏族に従って引かれた。彼らの所有地の境界はサリドに至る。
11 彼らの境界は西へ、すなわちマララへ上り、ダベシェトに達する。さらにヨクネアムの前にある川に達する。
12 サリドから東のほう、日の出る方へ曲がり、キスロト・タボルの境界に向かう。そしてダベラトへ出て、ヤフィアへ上る。
13 そこから東のほうへ進んでガテ・ヘフェル、エト・カツィンに至り、ネアへと延びるリモンへ出る。
14 境界は北のほうハナトンへ回り込み、イフタ・エルの谷で終わる。
15 また、カタト、ナハラル、シムロン、イダラ、ベツレヘム。十二の町と、その村々。
16 これがその氏族に従ったゼブルンの子らの所有地であり、これらの町々とその村々である。
17 第四のくじはイッサカル、すなわちイッサカルの子らのために、その氏族に従って引かれた。
18 彼らの境界はイズレエル、ケスロト、シュネム、
19 ハファライム、シオン、アナハラト、
20 ラビト、キシュヨン、エベツ、
21 レメト、エン・ガニム、エン・ハダ、ベテ・パツェツに至る。
22 境界はタボル、シャハツマ、ベテ・シェメシュに達する。彼らの境界はヨルダン川で終わる。十六の町と、その村々。
23 これがその氏族に従ったイッサカルの子らの部族の所有地であり、町々とその村々である。
24 第五のくじはアシェルの子らの部族のために、その氏族に従って引かれた。
25 彼らの境界はヘルカト、ハリ、ベテン、アクシャフ、
26 アラメレク、アマド、ミシャルであった。それは西のほうではカルメルに達し、シホル・リブナトに達する。
27 境界は日の出る方へ曲がってベテ・ダゴンに向かい、ゼブルンと、北のほうのイフタ・エルの谷に達し、ベテ・エメクとネイエルに至る。そして左手のほうのカブルへ出る。
28 さらにエブロン、レホブ、ハモン、カナを経て、大シドンに至る。
29 境界はラマへ曲がり、要塞の町ツロに向かう。さらに境界はホサへ曲がり、アクジブの地方を通って海で終わる。
30 またウンマ、アフェク、レホブ。二十二の町と、その村々。
31 これがその氏族に従ったアシェルの子らの部族の所有地であり、これらの町々とその村々である。
32 第六のくじはナフタリの子らのために、その氏族に従って引かれた。
33 彼らの境界はヘレフ、ツァアナニムの樫の木、アダミ・ネケブ、ヤブネエルから始まり、ラクムに至る。そしてヨルダン川で終わる。
34 境界は西へ曲がってアズノト・タボルに向かい、そこからフコクへ出る。南はゼブルンに達し、西はアシェルに達し、日の出る方のヨルダン川ではユダに達する。
35 その要塞の町々は、ツィディム、ツェル、ハマト、ラカト、キネレト、
36 アダマ、ラマ、ハツォル、
37 ケデシュ、エドレイ、エン・ハツォル、
38 イロン、ミグダル・エル、ホレム、ベテ・アナト、ベテ・シェメシュ。十九の町と、その村々。

39 これがその氏族に従ったナフタリの子らの部族の所有地であり、町々とその村々である。
40 第七のくじはダンの子らの部族のために、その氏族に従って引かれた。
41 彼らの所有地の境界はツォルア、エシュタオル、イル・シェメシュ、
42 シャアラビン、アヤロン、イトラ、
43 エロン、ティムナ、エクロン、
44 エルテケ、ギベトン、バアラト、
45 エフド、ベネ・ベラク、ガテ・リモン、
46 メ・ヤルコン、ラコンであり、ヨッパの向かいの境界も含んでいた。
47 ダンの子らの境界は彼らのところからさらに延びた。ダンの子らは上って行ってレシェムと戦い、それを占領し、剣の刃で打ち、それを所有してそこに住んだからである。彼らはレシェムを、自分たちの父祖ダンの名にちなんでダンと呼んだ。
48 これがその氏族に従ったダンの子らの部族の所有地であり、これらの町々とその村々である。
49 こうして彼らは、その境界による土地の分配を終えた。イスラエルの人々は、自分たちの間でヌンの子ヨシュアに所有地を与えた。
50 主の命令に従って、彼らは彼が求めた町、すなわちエフライムの山地にあるティムナト・セラを彼に与えた。彼はその町を建て、そこに住んだ。
51 これらは祭司エルアザル、ヌンの子ヨシュア、およびイスラエルの人々の部族の父祖の家のかしらたちが、シロで会見の天幕の入口において、主の御前でくじによって分配した所有地である。こうして彼らは地の分配を終えた。

20

1 主はヨシュアに語って言われた。
2 「イスラエルの人々に語って言いなさい。『わたしがモーセを通してあなたがたに語った逃れの町を定めなさい。
3 誤って、または知らずに人を殺した者がそこに逃れるためである。それらの町はあなたがたにとって、血の復讐をする者からの逃れ場となる。
4 その人はそれらの町の一つに逃れ、町の門の入口に立ち、その町の長老たちに自分の事情を説明しなければならない。彼らは彼を自分たちと一緒に町に受け入れ、彼に場所を与え、彼が彼らの間に住めるようにしなければならない。
5 もし血の復讐をする者が彼を追って来ても、彼らは人を殺した者をその手に引き渡してはならない。彼は知らずに隣人を打ったのであり、以前から彼を憎んでいたのではないからである。
6 彼は裁きのために会衆の前に立つまで、すなわちその時の大祭司が死ぬまで、その町に住まなければならない。その後、人を殺した者は自分が逃げて来た自分の町、自分の家に帰って行くことができる。』」
7 彼らはナフタリの山地にあるガリラヤのケデシュ、エフライムの山地にあるシェケム、およびユダの山地にあるキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンを取り分けた。
8 また、東側のエリコの向かいにあるヨルダン川の向こう側で、ルベンの部族の中から平原の荒野にあるベツェルを、ガドの部族の中からギルアデのラモトを、マナセの部族の中からバシャンのゴランを定めた。
9 これらはイスラエルのすべての人々、および彼らの間に住む寄留者のために定められた町々であった。誤って人を殺した者が皆そこに逃れ、会衆の前に立つまでは、血の復讐をする者の手によって死ぬことがないためである。

21

1 その時、レビ人の父祖の家のかしらたちは、祭司エルアザル、ヌンの子ヨシュア、およびイスラエルの人々の部族の父祖の家のかしらたちのところに近づき、
2 カナンの地シロで彼らに語って言った。「主はモーセを通して、私たちに住む町々と、家畜のための放牧地を与えるように命じられました。」
3 そこでイスラエルの人々は、主の命令に従い、自分たちの所有地の中から、これらの町々とその放牧地をレビ人に与えた。
4 くじはケハテ人の氏族のために出た。レビ人のうち祭司アロンの子らには、ユダの部族、シメオン人の部族、ベニヤミンの部族の中から、くじによって十三の町が与えられた。
5 ケハテの残りの子らには、エフライムの部族の氏族、ダンの部族、マナセの半部族の中から、くじによって十の町が与えられた。
6 ゲルションの子らには、イッサカルの部族の氏族、アシェルの部族、ナフタリの部族、バシャンにあるマナセの半部族の中から、くじによって十三の町が与えられた。
7 メラリの子らには、その氏族に従って、ルベンの部族、ガドの部族、ゼブルンの部族の中から十二の町が与えられた。
8 イスラエルの人々は、モーセを通して主が命じられたように、これらの町々とその放牧地をくじによってレビ人に与えた。
9 彼らはユダの子らの部族とシメオンの子らの部族の中から、名を挙げて記されるこれらの町々を与えた。
10 それらはレビの子らのうちケハテ人の氏族に属するアロンの子らのものとなった。最初のくじは彼らのものだったからである。
11 彼らはユダの山地にある、アナクの父アルバにちなんで名付けられたキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンと、その周囲の放牧地を彼らに与えた。
12 しかし、その町の畑とその村々は、エフネの子カレブに彼の所有地として与えられた。
13 彼らは祭司アロンの子らに、人を殺した者のための逃れの町であるヘブロンとその放牧地を与え、またリブナとその放牧地、
14 ヤティルとその放牧地、エシュテモアとその放牧地、
15 ホロンとその放牧地、デビルとその放牧地、
16 アインとその放牧地、ユタとその放牧地、ベテ・シェメシュとその放牧地を与えた。これら二つの部族から九つの町である。
17 ベニヤミンの部族からは、ギベオンとその放牧地、ゲバとその放牧地、
18 アナトテとその放牧地、アルモンとその放牧地。四つの町である。
19 祭司であるアロンの子らの町は、すべてで十三の町とその放牧地であった。
20 レビ人であるケハテの子らの諸氏族、すなわち残りのケハテの子らは、くじによってエフライムの部族から町々を得た。
21 彼らはエフライムの山地にある、人を殺した者のための逃れの町であるシェケムとその放牧地を彼らに与え、またゲゼルとその放牧地、
22 キブツァイムとその放牧地、ベテ・ホロンとその放牧地。四つの町である。
23 ダンの部族からは、エルテケとその放牧地、ギベトンとその放牧地、
24 アヤロンとその放牧地、ガテ・リモンとその放牧地。四つの町である。
25 マナセの半部族からは、タアナクとその放牧地、ガテ・リモンとその放牧地。二つの町である。
26 残りのケハテの子らの諸氏族の町は、すべてで十の町とその放牧地であった。
27 彼らはレビ人の諸氏族のうちゲルションの子らに、マナセの半部族から、人を殺した者のための逃れの町であるバシャンのゴランとその放牧地を与え、またベエシュテラとその放牧地を与えた。二つの町である。

28 イッサカルの部族からは、キシュヨンとその放牧地、ダベラテとその放牧地、
29 ヤルムテとその放牧地、エン・ガニムとその放牧地。四つの町である。
30 アシェルの部族からは、ミシャルとその放牧地、アブドンとその放牧地、
31 ヘルカテとその放牧地、レホブとその放牧地。四つの町である。
32 ナフタリの部族からは、人を殺した者のための逃れの町であるガリラヤのケデシュとその放牧地、ハモテ・ドルとその放牧地、カルタンとその放牧地。三つの町である。
33 ゲルション人のすべての町は、その氏族に従って十三の町とその放牧地であった。
34 レビ人の残りであるメラリの子らの氏族には、ゼブルンの部族から、ヨクネアムとその放牧地、カルタとその放牧地、
35 ディムナとその放牧地、ナハラルとその放牧地。四つの町である。
36 ルベンの部族からは、ベツェルとその放牧地、ヤハツとその放牧地、
37 ケデモトとその放牧地、メファアトとその放牧地。四つの町である。
38 ガドの部族からは、人を殺した者のための逃れの町であるギルアデのラモトとその放牧地、マハナイムとその放牧地、
39 ヘシュボンとその放牧地、ヤゼルとその放牧地。全部で四つの町である。
40 メラリの子ら、すなわちレビ人の氏族の残りの者たちの町は、その氏族に従って、くじにより十二の町であった。
41 イスラエルの人々の所有地の中にあるレビ人の町は、全部で四十八の町とその放牧地であった。
42 これらの町には、それぞれの周囲に放牧地があった。これらすべての町がそうであった。
43 こうして主は、イスラエルに、彼らの父祖たちに与えると誓われたすべての地を与えられた。彼らはそれを所有し、そこに住んだ。
44 主は、彼らの父祖たちに誓われたすべてのことのとおりに、彼らの周囲に安息を与えられた。彼らのすべての敵のうち、彼らの前に立ちはだかる者は一人もいなかった。主はすべての敵を彼らの手に渡された。
45 主がイスラエルの家に語られたすべての良いことのうち、一つとして果たされなかったものはなく、すべてが実現した。

22

1 その時、ヨシュアはルベン人、ガド人、およびマナセの半部族を呼び寄せて、
2 彼らに言った。「あなたがたは、主のしもべモーセがあなたがたに命じたことをすべて守り、また私があなたがたに命じたすべてのことにおいて、私の声に聞き従った。
3 あなたがたは今日に至るまで、この長い間兄弟たちを見捨てることなく、あなたがたの神、主の命令の務めを果たしてきた。
4 今、あなたがたの神、主は、彼らに語られたとおりに、あなたがたの兄弟たちに安息を与えられた。それゆえ今、主のしもべモーセがヨルダン川の向こう側であなたがたに与えた、あなたがたの所有地である天幕へ帰って行きなさい。
5 ただ、主のしもべモーセがあなたがたに命じた命令と律法を行うように、熱心に心を配りなさい。あなたがたの神、主を愛し、そのすべての道を歩み、その戒めを守り、主に堅くすがり、心を尽くし、魂を尽くして主に仕えなさい。」
6 こうしてヨシュアは彼らを祝福して送り出し、彼らは自分たちの天幕へ帰って行った。
7 さて、マナセの一方の半部族には、モーセがバシャンに所有地を与えていた。しかしもう一方の半部族には、ヨシュアがヨルダン川の西側で彼らの兄

弟たちの間に所有地を与えた。さらにヨシュアは彼らをその天幕へ送り出す際にも彼らを祝福し、
8 彼らに語って言った。「多くの富と非常に多くの家畜、銀、金、青銅、鉄、そして非常に多くの衣服を持って、あなたがたの天幕に帰りなさい。敵からのぶんどり物をあなたがたの兄弟たちと分け合いなさい。」
9 ルベン人、ガド人、およびマナセの半部族は帰って行った。彼らはカナンの地にあるシロでイスラエルの人々を離れ、ギルアデの地、すなわちモーセを通して主が命じられたとおりに彼らが所有していた地へ行った。
10 彼らがカナンの地にあるヨルダン川沿いの地方に来たとき、ルベン人、ガド人、およびマナセの半部族は、そこでヨルダン川のそばに祭壇を築いた。それは見て大きな祭壇であった。
11 イスラエルの人々はこう聞いた。「見よ、ルベン人、ガド人、およびマナセの半部族が、カナンの地の境、ヨルダン川沿いの地方で、イスラエルの人々に属する側に祭壇を築いた。」
12 イスラエルの人々がこれを聞いた時、イスラエルの人々の全会衆は、彼らに対して戦いに上るため、シロに集まった。
13 イスラエルの人々は、ギルアデの地にいるルベン人、ガド人、およびマナセの半部族のところへ、祭司エルアザルの子ピネハスを遣わした。
14 彼とともに十人の族長たちもいた。イスラエルの各部族の父祖の家から族長一人ずつであり、彼らはそれぞれ、イスラエルの千人隊の父祖の家のかしらであった。
15 彼らはギルアデの地にあるルベン人、ガド人、およびマナセの半部族のところに来て、彼らに語って言った。
16 「主の全会衆はこう言う。『あなたがたがイスラエルの神に対して犯したこの不信の罪は何か。今日、主に従うことから背き去り、自分たちのために祭壇を築いて、今日、主に逆らうとは。
17 ペオルの咎は私たちにとって小さすぎるというのか。主の会衆に災いが下ったというのに、私たちは今日に至るまで、その咎から自分たちを清めきれていないのだ。
18 それなのにあなたがたは今日、主に従うことから背き去ろうとするのか。あなたがたが今日、主に逆らうなら、明日には主がイスラエルの全会衆に対して怒られることになる。
19 もし、あなたがたの所有地が汚れているというのであれば、主の幕屋がある主の所有地に渡って来て、私たちの間で所有地を得なさい。しかし、私たちの神、主の祭壇のほかに別の祭壇を築いて、主に逆らってはならない。また私たちにも逆らってはならない。
20 ゼラの子アカンが完全に滅ぼし尽くされるものについて不信の罪を犯した時、イスラエルの全会衆の上に怒りが下ったではないか。その不義によって滅びたのは彼一人ではなかった。』」
21 するとルベン人、ガド人、およびマナセの半部族は答えて、イスラエルの千人隊のかしらたちに言った。
22 「力ある方、神、主。力ある方、神、主。その方はご存じです。そしてイスラエルも知ることになりますように。もしそれが主への反逆であったり、不信の罪であったりするなら、今日、私たちをお救いにならないでください。
23 私たちが、主に従うことから背き去るために祭壇を築いたのだとしたら、あるいは全焼のささげ物や穀物のささげ物をささげるため、あるいは和解のいけにえをささげるためであったのなら、主ご自身がそれを追及されますように。
24 むしろ私たちは、あることを心配してこれを行ったのです。すなわち、後になって、あなたがたの子らが私たちの子らに、『あなたがたはイスラエルの神、主と何のかかわりがあるのか。

25 主は、私たちとあなたがた、すなわちルベン人とガド人との間の境界として、ヨルダン川を定められた。あなたがたには主における受ける分はない』と言うかもしれない、ということです。こうしてあなたがたの子らは、私たちの子らが主を恐れることをやめさせるかもしれないのです。
26 それゆえ私たちは言いました。『今、自分たちのために祭壇を築く備えをしよう。ただし、全焼のささげ物のためでも、いけにえのためでもない。
27 むしろ、私たちとあなたがたとの間、また後の世代の間で、私たちが主の前で全焼のささげ物、いけにえ、和解のいけにえをもって主への務めを行うためのあかしとなるためである。』それは、後になってあなたがたの子らが私たちの子らに、『あなたがたには主における受ける分はない』と言わないためです。
28 それで私たちは言いました。『後になって、彼らが私たち、また私たちの後の世代にそう言うなら、私たちはこう言おう。見よ、私たちの父たちが造った主の祭壇のひな型を。これは全焼のささげ物のためでも、いけにえのためでもなく、私たちとあなたがたとの間のあかしである。』
29 私たちが主に逆らい、今日、主に従うことから背き去って、主の幕屋の前にある私たちの神、主の祭壇のほかに、全焼のささげ物、穀物のささげ物、いけにえのための祭壇を築くことは、決してありません。」
30 祭司ピネハスと会衆の族長たち、すなわち彼とともにいたイスラエルの千人隊のかしらたちは、ルベン人、ガド人、マナセの子らが語った言葉を聞き、それを良いことと思った。
31 祭司エルアザルの子ピネハスは、ルベン人、ガド人、そしてマナセの子らに言った。「あなたがたが主に対してこの不信の罪を犯していなかったことにより、今日、私たちは主が私たちの間におられることを知った。今、あなたがたはイスラエルの人々を主の御手から救い出したのだ。」
32 祭司エルアザルの子ピネハスと族長たちは、ギルアデの地を出て、ルベン人とガド人のところからカナンの地のイスラエルの人々のもとへ帰り、彼らに報告した。
33 その事はイスラエルの人々を喜ばせた。イスラエルの人々は神をほめたたえ、ルベン人とガド人が住んでいる地を滅ぼすために、彼らに対して戦いに上ることをもはや語らなかった。
34 ルベン人とガド人は、その祭壇を「主が神であるという、私たちの間のあかし」と呼んだ。

23

1 それから多くの日が経ち、主が周囲のすべての敵からイスラエルに安息を与えられ、ヨシュアも年を重ねて老人となった時、
2 ヨシュアは全イスラエル、その長老、そのかしら、その裁き人、およびその役人たちを呼び寄せて、彼らに言った。「私は年を重ねて老人となった。
3 あなたがたは、あなたがたの神、主があなたがたのために、これらすべての国々にされたすべてのことを見た。あなたがたの神、主ご自身が、あなたがたのために戦われたのである。
4 見よ。私は残っているこれらの国々を、くじによってあなたがたの部族の所有地として割り当てた。ヨルダン川から、私が断ち滅ぼしたすべての国々とともに、日の沈む方にある大海に至るまでである。
5 あなたがたの神、主ご自身が、あなたがたの前から彼らを追い払い、あなたがたの目の前から彼らを追い出される。あなたがたの神、主があなたがたに語られたとおりに、あなたがたは彼らの地を所有するであろう。
6 したがって、モーセの律法の書に記されているすべてのことを守り行うために、非常に強くありなさい。そこから右にも左にもそれてはならない。

7 それは、あなたがたの間に残っているこれらの国々の中にあなたがたが入り込まず、彼らの神々の名を唱えず、それによって誓わせず、それに仕えず、またそれにひれ伏さないためである。
8 あなたがたが今日までしてきたように、あなたがたの神、主に堅くすがりなさい。
9 主は、強大で力ある国々をあなたがたの前から追い出されたからである。しかしあなたがたについては、今日までだれ一人あなたがたの前に立ちはだかる者はなかった。
10 あなたがたの一人は千人を追うであろう。あなたがたの神、主ご自身が、あなたがたに語られたとおりにあなたがたのために戦われるからである。
11 したがって、あなたがたの神、主を愛するように、あなたがた自身に十分気をつけなさい。
12 もしあなたがたが少しでも背を向け、あなたがたの間に残っているこれらの国々の残りの者に堅くすがり、彼らと婚姻の結びつきを持ち、彼らの中に入り込み、彼らもあなたがたの中に入り込むなら、
13 あなたがたの神、主が、これらの国々をあなたがたの目の前から、もはや追い出されないことを確かに知りなさい。むしろ彼らは、あなたがたにとって網となり罠となり、あなたがたのわき腹のむちとなり、あなたがたの目のとげとなって、ついにはあなたがたの神、主があなたがたに与えられたこの良い地から、あなたがたは滅び去ることになる。
14 見よ、私は今日、すべての世の人々が行く道を歩もうとしている。あなたがたの神、主があなたがたについて語られたすべての良いことのうち、一つとして果たされなかったものはないことを、あなたがたは心を尽くし、魂を尽くして知っている。そのすべてはあなたがたに起こった。その一つとして果たされなかったものはない。
15 あなたがたの神、主があなたがたに語られたすべての良いことがあなたがたに臨んだように、主はすべての災いをあなたがたに臨ませ、ついにはあなたがたの神、主があなたがたに与えられたこの良い地からあなたがたを滅ぼし尽くされる。
16 あなたがたの神、主があなたがたに命じられた契約をあなたがたが破り、行って他の神々に仕え、それにひれ伏す時である。その時、主の怒りはあなたがたに向かって燃え上がり、あなたがたは、主があなたがたに与えられた良い地から速やかに滅び去るであろう。」

24

1 ヨシュアはイスラエルのすべての部族をシェケムに集め、イスラエルの長老、そのかしら、その裁き人、およびその役人たちを呼び寄せた。そして彼らは神の前に進み出た。
2 ヨシュアはすべての民に言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『昔、あなたがたの父祖たち、すなわちアブラハムの父でありナホルの父であるテラは、大河の向こうに住んでいた。彼らは他の神々に仕えていた。
3 わたしはあなたがたの父アブラハムを大河の向こうから連れ出し、カナンの地全体を歩ませ、その子孫を増やし*、彼にイサクを与えた。
4 わたしはイサクにヤコブとエサウを与えた。わたしはエサウにセイル山を与えてそれを所有させた。ヤコブとその子らはエジプトへ下って行った。
5 わたしはモーセとアロンを遣わし、また彼らの間で行ったことによってエジプトに災いを下した。その後、わたしはあなたがたを導き出した。

* **24:3 24:3** または「種」。

6 わたしがあなたがたの父祖たちをエジプトから導き出すと、あなたがたは海に来た。エジプト人は戦車と騎兵をもって、あなたがたの父祖たちを紅海まで追跡した。
7 彼らが主に向かって叫び求めると、主はあなたがたとエジプト人との間に暗闇を置き、海を彼らの上に引き寄せて彼らを覆われた。あなたがたの目は、わたしがエジプトで行ったことを見た。あなたがたは長い間、荒野に住んだ。
8 わたしは、ヨルダン川の向こうに住んでいたアモリ人の地にあなたがたを導き入れた。彼らはあなたがたと戦ったが、わたしは彼らをあなたがたの手に渡した。あなたがたは彼らの地を所有し、わたしは彼らをあなたがたの前から滅ぼした。
9 それから、モアブの王、ツィポルの子バラクが立ち上がり、イスラエルと戦った。彼は人を遣わしてベオルの子バラムを呼び、あなたがたをのろわせようとした。
10 しかし、わたしはバラムの声に聞こうとはしなかった。それゆえ、彼はかえってあなたがたを祝福し続けた。こうしてわたしは、あなたがたを彼の手から救い出した。
11 あなたがたはヨルダン川を渡り、エリコに来た。エリコの人々、すなわちアモリ人、ペリジ人、カナン人、ヘト人、ギルガシ人、ヒビ人、およびエブス人はあなたがたと戦ったが、わたしは彼らをあなたがたの手に渡した。
12 わたしはあなたがたの前にスズメバチを送り、それが彼らを、すなわちアモリ人の二人の王をあなたがたの前から追い出したのであり、あなたがたの剣や弓によるのではなかった。
13 わたしは、あなたがたが労しなかった地をあなたがたに与え、あなたがたが建てなかった町々を与えた。あなたがたはそこに住んでいる。あなたがたは、自分が植えなかったぶどう畑とオリーブ畑から食べている。』
14 それゆえ今、主を恐れ、誠実と真実をもって主に仕えなさい。あなたがたの父祖たちが大河の向こうやエジプトで仕えていた神々を除き去り、主に仕えなさい。
15 もし主に仕えることがあなたがたにとって悪いことと思われるなら、あなたがたの父祖たちが大河の向こうで仕えていた神々であれ、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々であれ、あなたがたが仕える者を今日選びなさい。しかし、私と私の家とは主に仕える。」
16 民は答えて言った。「私たちが主を捨てて他の神々に仕えることは、断じてありえません。
17 私たちの神、主ご自身が、私たちや私たちの父祖たちを、エジプトの地、奴隷の家から導き上り、私たちの目の前でこれらの大きなしるしを行い、私たちの歩んだすべての道において、また私たちが通り抜けたすべての国々の民の中で、私たちを守ってくださったからです。
18 主は、すべての国々の民、すなわちこの地に住んでいたアモリ人を私たちの前から追い出されました。それゆえ、私たちもまた主に仕えます。主が私たちの神だからです。」
19 ヨシュアは民に言った。「あなたがたは主に仕えることはできない。主は聖なる神だからである。主はねたむ神である。主はあなたがたの背きや罪を赦されない。
20 もしあなたがたが主を捨てて外国の神々に仕えるなら、主があなたがたに良いことをしてくださった後であっても、主は身を翻してあなたがたに災いを下し、あなたがたを滅ぼし尽くされるであろう。」
21 民はヨシュアに言った。「いいえ、私たちは主に仕えます。」
22 ヨシュアは民に言った。「あなたがたは、自分たちで主を選んで主に仕えることについて、自分たちに対するあかし人である。」
彼らは言った。「私たちはあかし人です。」

23 「それゆえ今、あなたがたの中にある外国の神々を除き去り、イスラエルの神、主にあなたがたの心を向けなさい。」
24 民はヨシュアに言った。「私たちは私たちの神、主に仕え、その御声に聞き従います。」
25 こうしてヨシュアはその日、シェケムで民と契約を結び、彼らのために掟と定めを設けた。
26 ヨシュアはこれらの言葉を神の律法の書に書き記した。そして大きな石を取り、主の聖所のかたわらにある樫の木の下にそれを立てた。
27 ヨシュアはすべての民に言った。「見よ、この石が私たちに対してあかしとなる。主が私たちに語られたすべての言葉を、この石が聞いているからである。したがって、あなたがたが自分の神を否むことがないように、これがあなたがたに対するあかしとなる。」
28 こうしてヨシュアは民を、それぞれ自分の所有地へと去らせた。
29 これらのことの後、主のしもべ、ヌンの子ヨシュアは死んだ。百十歳であった。
30 人々は、エフライムの山地、ガアシュ山の北にあるティムナト・セラにある彼の所有地の境に彼を葬った。
31 イスラエルは、ヨシュアの生きている間、また、ヨシュアより長生きし、主がイスラエルのために行われたすべてのみわざを知っていた長老たちの生きている間、主に仕えた。
32 イスラエルの人々がエジプトから携え上って来たヨセフの骨は、シェケムに葬られた。そこは、ヤコブがシェケムの父ハモルの子らから銀百枚[†]で買い取った野の一部である。そこはヨセフの子らの所有地となった。
33 アロンの子エルアザルも死んだ。人々は、エフライムの山地で彼の子ピネハスに与えられていた、ピネハスの丘に彼を葬った。

† **24:32 24:32** ヘブル語：ケシタ。ケシタは一種の銀貨であった。

士師の書
士師記

1 ヨシュアの死後、イスラエルの人々は主* に尋ねて言った。「私たちのために、だれが最初にカナン人のところに上り、彼らと戦うべきでしょうか。」
2 主は言われた。「ユダが上るべきである。見よ、わたしはその地を彼の手に渡した。」
3 ユダは兄弟のシメオンに言った。「私と一緒に私のくじで割り当てられた地に上り、カナン人と戦おう。そうすれば、私もあなたのくじで割り当てられた地に一緒に行こう。」そこでシメオンは彼と一緒に行った。
4 ユダは上って行った。主はカナン人とペリジ人を彼らの手に渡された。彼らはベゼクで一万人を打ち倒した。
5 彼らはベゼクでアドニ・ベゼクを見つけ、彼と戦い、カナン人とペリジ人を打ち倒した。
6 アドニ・ベゼクは逃げたが、彼らはその後を追って彼を捕らえ、その手の親指と足の親指を切り落とした。
7 アドニ・ベゼクは言った。「手の親指と足の親指を切り落とされた七十人の王たちが、私の食卓の下で食べ物を拾っていた。私がしたとおりに、神は私に報いられたのだ。」人々は彼をエルサレムに連れて行き、彼はそこで死んだ。
8 ユダの子らはエルサレムと戦ってこれを攻め取り、剣の刃でそれを打ち、町に火を放った。
9 その後、ユダの子らは山地、南の地、および低地に住むカナン人と戦うために下って行った。
10 ユダはヘブロンに住むカナン人に向かって行った。（なお、ヘブロンの以前の名はキルヤテ・アルバであった。）そして彼らはシェシャイ、アヒマン、タルマイを打ち倒した。
11 そこから彼はデビルの住民に向かって行った。（なお、デビルの以前の名はキルヤテ・セフェルであった。）
12 カレブは言った。「キルヤテ・セフェルを打ってこれを攻め取る者には、私の娘アクサを妻として与えよう。」
13 カレブの弟であるケナズの子オトニエルがそれを攻め取ったので、カレブは彼に娘アクサを妻として与えた。
14 彼女が彼のもとに来たとき、彼女は父に畑を求めるよう彼に促した。彼女がろばから降りると、カレブは彼女に言った。「何が欲しいのか。」
15 彼女は彼に言った。「私に祝福を与えてください。あなたは私を南の地に置かれたのですから、水わき出る泉もわたしに与えてください。」そこでカレブは、上の泉と下の泉を彼女に与えた。
16 モーセの義理の兄弟であるケニ人の子らは、ユダの子らと一緒に、なつめやしの町からアラドの南にあるユダの荒野に上って行った。そして彼らは行って、その民とともに住んだ。
17 ユダは兄弟のシメオンと一緒に行き、ゼファテに住むカナン人を打ち倒し、そこを完全に滅ぼした。その町の名はホルマと呼ばれた。
18 またユダは、その領域とともにガザを、その領域とともにアシュケロンを、その領域とともにエクロンを攻め取った。

---

* **1:1 1:1** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（ヤ

19 主はユダとともにおられ、彼は山地の住民を追い出した。しかし彼は谷の住民を追い出すことができなかった。彼らが鉄の戦車を持っていたからである。
20 モーセが語っていたとおりに、人々はカレブにヘブロンを与えた。彼はそこからアナクの三人の息子を追い出した。
21 ベニヤミンの子らはエルサレムに住んでいたエブス人を追い出さなかった。そのため、エブス人は今日に至るまでエルサレムでベニヤミンの子らとともに住んでいる。
22 ヨセフの家もまた、ベテルに向かって上って行った。主は彼らとともにおられた。
23 ヨセフの家はベテルを偵察させた。（なお、その町の以前の名はルズであった。）
24 見張り人たちは、一人の男が町から出て来るのを見て、彼に言った。「どうか、町の入り口を私たちに教えてほしい。そうすれば、私たちはあなたに親切にしよう。」
25 彼が町の入り口を教えたので、彼らは剣の刃で町を打ち倒したが、その男と彼のすべての家族は逃がした。
26 その男はヘト人の地に行き、町を建ててその名をルズと呼んだ。それが今日に至るまでその名である。
27 マナセは、ベテ・シャンとその周辺の町々、タアナクとその周辺の町々、ドルとその周辺の町々の住民、イブレアムとその周辺の町々の住民、メギドとその周辺の町々の住民を追い出さなかった。カナン人はその地に住み続けた。
28 イスラエルが強くなったとき、彼らはカナン人を強制労働に就かせたが、彼らを完全に追い出すことはしなかった。
29 エフライムはゲゼルに住んでいたカナン人を追い出さなかった。そのため、カナン人はゲゼルで彼らの間に住んだ。
30 ゼブルンはキトロンの住民もナハラルの住民も追い出さなかった。そのため、カナン人は彼らの間に住み、強制労働に服するようになった。
31 アシェルはアッコの住民、シドンの住民、アフラブ、アクジブ、ヘルバ、アフィク、およびレホブの住民を追い出さなかった。
32 アシェル人はその地の住民であるカナン人の間に住んだ。彼らを追い出さなかったからである。
33 ナフタリはベテ・シェメシュの住民もベテ・アナテの住民も追い出さず、その地の住民であるカナン人の間に住んだ。それでも、ベテ・シェメシュとベテ・アナテの住民は彼らのために強制労働に服するようになった。
34 アモリ人はダンの子らを山地に押し込めた。彼らが谷に下りて来るのを許さなかったからである。
35 アモリ人はヘレス山、アヤロン、およびシャアルビムに住み続けた。しかしヨセフの家の手が力を持ったため、彼らは強制労働に服するようになった。
36 アモリ人の境界は、アクラビムの坂、すなわち岩から上であった。

2

1 主の使いがギルガルからボキムに上って来て言った。「わたしはあなたがたをエジプトから上らせ、あなたがたの父祖たちに誓った地に導き入れた。そしてわたしは言った。『わたしはあなたがたとの契約を決して破らない。
2 あなたがたはこの地の住民と契約を結んではならない。あなたがたは彼らの祭壇を打ち壊さなければならない。』しかし、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。なぜこのようなことをしたのか。
3 それゆえ、わたしもまた言った。『わたしは彼らをあなたがたの前から追い出さない。彼らはあなたがたのわき腹のとげとなり、彼らの神々はあなたがたにとって罠となるであろう。』」

4 主の使いがこれらの言葉をイスラエルのすべての人々に語ったとき、
民は声を上げて泣いた。
5 彼らはその場所の名をボキム* と呼び、そこで主にいけにえをささげた。
6 さて、ヨシュアが民を去らせたとき、イスラエルの人々はその地を所有す
るために、それぞれ自分の所有地へと行った。
7 民はヨシュアの生きている間、また、ヨシュアより長生きし、主がイスラ
エルのために行われたすべての偉大なみわざを見た長老たちの生きてい
る間、主に仕えた。
8 主のしもべ、ヌンの子ヨシュアは、百十歳で死んだ。
9 人々は、エフライムの山地、ガアシュ山の北にあるティムナテ・ヘレスに
ある彼の所有地の境に彼を葬った。
10 また、その世代の者たちも皆その父祖たちのところに集められ、彼ら
の後に、主を知らず、主がイスラエルのために行われたみわざも知らな
い別の世代が起こった。
11 イスラエルの人々は主の目に悪であることを行い、バアルに仕え、
12 彼らをエジプトの地から導き出された彼らの父祖たちの神、主を捨て、周
囲にいる国々の民の神々である他の神々に従い、それにひれ伏した。こうし
て彼らは主を怒らせた。
13 彼らは主を捨て、バアルとアシュタロテに仕えた。
14 主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、彼らを略奪する略奪者たち
の手に渡し、また周囲の敵の手に彼らを売り渡された。そのため、彼らはもは
や敵の前に立つことができなかった。
15 彼らが出て行くところはどこでも、主が語られたとおり、また主が彼ら
に誓われたとおりに、主の手が彼らに逆らってわざわいを下した。そして彼ら
は激しく苦しめられた。
16 主は士師たちを起こし、略奪する者たちの手から彼らを救い出された。
17 しかし彼らは、自分たちの士師たちにも聞き従わず、他の神々を慕って淫
行を行い、それにひれ伏した。彼らは、父祖たちが主の戒めに聞き従って歩ん
だ道から速やかにそれて行き、父祖たちのようには行わなかった。
18 主が彼らのために士師たちを起こされたとき、主はその士師とともにおら
れ、その士師の生きている間、彼らを敵の手から救い出された。彼らをしいた
げ、苦しめる者たちのゆえに彼らがうめいたため、主が心を痛められたからで
ある。
19 しかし士師が死ぬと、彼らは戻って行き、他の神々に従ってそれ
に仕え、ひれ伏すことによって、自分たちの父祖たちよりもさらに堕落し
た振る舞いをした。彼らは自分たちの行いや、かたくなな歩みから離れなかっ
た。
20 主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は言われた。「こ
の民は、わたしが彼らの父祖たちに命じたわたしの契約を破り、わたし
の声に聞き従わなかった。
21 ゆえに私もまた、ヨシュアが死んだときに残しておいた国々のうちのど
れ一つとして、もはや彼らの前から追い出さない。
22 それは、彼らの父祖たちが主の道を守って歩んだように、彼らもそれ
を守って歩むかどうか、彼らによってイスラエルを試みるためである。」
23 それゆえ主は、それらの国々をすぐに追い出すことなく残しておかれた。
主は彼らをヨシュアの手に渡されなかったのである。

3

1 カナンのすべての戦いを知らなかったすべての者を彼らによって試みるた
めに、主が残しておかれた国々は次のとおりである。

---

* **2:5 2:5** 「ボキム」は「泣く者たち」を意味する。

2 それはただ、以前には戦いを知らなかったイスラエルの人々の世代に、
戦いを教えてそれを知らせるためであった。
3 ペリシテ人の五人の君主、すべてのカナン人、シドン人、およびバアル・
ヘルモン山からハマテの入り口に至るまでのレバノン山に住むヒビ人である。
4 彼らが残されたのは、彼らによってイスラエルを試み、主がモーセを通し
て彼らの父祖たちに命じられた主の戒めに、彼らが聞き従うかどうかを知るた
めであった。
5 イスラエルの人々はカナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、お
よびエブス人の間に住んだ。
6 彼らはその娘たちを自分たちの妻としてめとり、自分たちの娘たちを彼ら
の息子たちに与え、彼らの神々に仕えた。
7 イスラエルの人々は主の目に悪であることを行い、自分たち
の神、主を忘れ、バアルとアシェラに仕えた。
8 それゆえ、主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをメソ
ポタミアの王クシャン・リシュアタイムの手に売り渡された。イスラエル
の人々は八年の間、クシャン・リシュアタイムに仕えた。
9 イスラエルの人々が主に向かって叫び求めると、主はイスラエルの人々の
ために一人の救い主を起こし、彼らを救い出された。すなわちカレブの弟であ
るケナズの子オトニエルである。
10 主の霊が彼の上に臨み、彼はイスラエルをさばいた。彼が戦いに出て行く
と、主はメソポタミアの王クシャン・リシュアタイムを彼の手の内に渡され
た。彼の手はクシャン・リシュアタイムに対して力を持った。
11 その地は四十年の間、安息を得た。そしてケナズの子オトニエルは死ん
だ。
12 イスラエルの人々は再び主の目に悪であることを行った。彼ら
が主の目に悪であることを行ったため、主はモアブの王エグロンをイスラエル
に対して強くされた。
13 エグロンはアンモンの子らとアマレクを自分のところに集め、行ってイス
ラエルを打ち、なつめやしの町を所有した。
14 イスラエルの人々は十八年の間、モアブの王エグロンに仕えた。
15 しかしイスラエルの人々が主に向かって叫び求めたとき、主は彼らのため
に一人の救い主を起こされた。ベニヤミン人であるゲラの子で、左利きの男エ
フドである。イスラエルの人々は彼を通してモアブの王エグロン
に貢ぎ物を送った。
16 エフドは自分のために、長さ一キュビト*
の諸刃の剣を作り、それを自分の右の太ももの服の下に帯びた。
17 彼はモアブの王エグロンに貢ぎ物をささげた。エグロンは非常に太っ
た人であった。
18 彼が貢ぎ物をささげ終えたとき、彼は貢ぎ物を運んできた人々を去らせ
た。
19 しかし彼自身はギルガルのそばにある石の偶像のところから引き返し、
「王よ、あなたに秘密の用件があります」と言った。
王は「静かにせよ」と言った。彼のそばに立っていた者たちは皆、彼の前か
ら出て行った。
20 エフドが彼のもとに近づいて行くと、王は涼しい階上の部屋に一人で座っ
ていた。エフドは「あなたに神からの言葉があります」と言った。王は座か
ら立ち上がった。
21 エフドは左手を伸ばし、右の太ももから剣を抜き取って、
彼の腹に突き刺した。

---

* **3:16 3:16** 一キュビトは男性の中指の先から肘までの長さで、約46センチメートル、または約18インチである。

22 柄も刃に続いて入り込み、脂肪が刃を閉ざした。彼がその剣を腹から引き抜かなかったため、それは背中のほうへと突き出た。
23 それからエフドは玄関の間に出て行き、自分の後ろで階上の部屋の戸を閉めて鍵をかけた。
24 彼が出て行くと、王のしもべたちがやって来た。彼らが見ると、見よ、階上の部屋の戸には鍵がかけられていた。そこで彼らは、「きっとあの方は階上の涼しい部屋で用を足しておられる† のだ」と言った。
25 彼らは恥じ入るまで待ったが、見よ、王は階上の部屋の戸を開けなかった。それゆえ彼らは鍵を取ってそれを開けた。すると見よ、彼らの主君は床に倒れて死んでいた。
26 エフドは彼らが待っている間に逃げ、石の偶像をとおり過ぎてセイラへ逃れた。
27 彼がそこに着いたとき、彼はエフライムの山地で角笛を吹き鳴らした。そしてイスラエルの人々は彼と一緒に山地から下って行き、彼は彼らを率いた。
28 彼は彼らに言った。「私に付いて来なさい。主があなたがたの敵であるモアブ人をあなたがたの手に渡されたからである。」彼らは彼の後に付いて下って行き、モアブ人に向かってヨルダン川の浅瀬を攻め取り、一人も渡らせなかった。
29 そのとき、彼らはモアブ人を約一万人打ち倒した。みな強靭な者、みな勇士であった。逃げ延びた者は一人もいなかった。
30 こうしてその日、モアブはイスラエルの手の下に服従した。そしてその地は八十年の間、安息を得た。
31 彼の後にはアナテの子シャムガルがいた。彼は牛追い棒でペリシテ人を六百人打ち倒した。彼もまたイスラエルを救った。

4

1 エフドが死ぬと、イスラエルの人々は再び主の目に悪であることを行った。
2 そこで主は彼らを、ハツォルで治めていたカナンの王ヤビンの手に売り渡された。彼の軍の長はシセラであり、彼は異邦人のハロシェテに住んでいた。
3 イスラエルの人々は主に向かって叫び求めた。彼が鉄の戦車九百両を持っており、二十年の間、イスラエルの人々を激しくしいたげたからである。
4 そのとき、女預言者でラピドテの妻であるデボラがイスラエルをさばいていた。
5 彼女はエフライムの山地にあるラマとベテルの間のデボラのなつめやしの木の下に住んでいた。そしてイスラエルの人々はさばきのために彼女のところに上って来た。
6 彼女は人を遣わして、ナフタリのケデシュからアビノアムの子バラクを呼び寄せ、彼に言った。「イスラエルの神、主はこう命じられたではないか。『行き、ナフタリの子らとゼブルンの子らの中から一万人を率いて、タボル山へ進軍せよ。
7 わたしはヤビンの軍の長シセラと、その戦車およびその大軍を、キション川のあなたのもとに引き寄せ、彼をあなたの手に渡す。』」
8 バラクは彼女に言った。「もしあなたが私と一緒に行くなら、わたしは行きます。しかし、もしあなたが私と一緒に行かないなら、わたしは行きません。」
9 彼女は言った。「わたしは必ずあなたと一緒に行きます。しかし、あなたがこれから行く道は、あなたの名誉とはなりません。主がシセラを一人の女の手に売り渡されるからです。」こうしてデボラは立ち上がり、バラクと一緒にケデシュへ行った。

† **3:24 3:24** 直訳では「足を覆っている」。

10 バラクはゼブルンとナフタリをケデシュに呼び集めた。一万
人が彼の後に従って行き、デボラも彼と一緒に上って行った。
11 さて、ケニ人ヘベルは、モーセの義理の兄弟であるホバブの子孫であるケ
ニ人から離れ、ケデシュのそばにあるツァアナニムの樫の木の傍らに天
幕を張っていた。
12 人々は、アビノアムの子バラクがタボル山に上ったことをシセラに告げ
た。
13 シセラは、すべての戦車、すなわち九百両の鉄の戦車と、自分と一緒にい
るすべての民を、異邦人のハロシェテからキション川へと呼び集めた。
14 デボラはバラクに言った。「立ち上がりなさい。今日こそ、主がシセラを
あなたの手に渡される日です。主はあなたの前に出て行かれたではありません
か。」そこでバラクはタボル山から下り、一万人が彼に従った。
15 主はシセラと、そのすべての戦車とすべての軍勢を、バラク
の前で剣の刃によって混乱に陥れられた。シセラは戦車から降り、徒
歩で逃げ去った。
16 しかしバラクは戦車と軍勢を追って異邦人のハロシェテまで行き、シセラ
の全軍勢は剣の刃に倒れた。一人も残る者はなかった。
17 しかしシセラは徒歩でケニ人ヘベルの妻ヤエルの天幕へ逃げ去った。ハツ
ォルの王ヤビンとケニ人ヘベルの家との間には平和があったからである。
18 ヤエルはシセラを迎えに出て、彼に言った。「お入りください、ご主人
様。私のところにお入りください。恐れることはありません。」そこで彼が彼
女の天幕に入ると、彼女は彼を敷物で覆った。
19 彼は彼女に言った。「どうか、わたしに少し水を飲ませてほしい。
喉が渇いているのだ。」
彼女は乳の皮袋を開けて彼に飲ませ、彼を覆った。
20 彼は彼女に言った。「天幕の入り口に立っていてほしい。もしだれか
が来てあなたに、『ここにだれかいるか』と尋ねたら、あなたは『いな
い』と言わなければならない。」
21 それからヘベルの妻ヤエルは天幕の杭を取り、手に槌を持ち、彼に気付か
れないように近づいて、その杭を彼のこめかみに打ち込み、地面にま
で突き刺した。彼は疲れ果てて深い眠りに落ちていた。こうして彼は死んだ。
22 見よ、バラクがシセラを追って来たとき、ヤエルは彼を迎えに出て、
彼に言った。「来なさい。あなたが探している男を見せましょう。」彼が彼
女のところに入ると、見よ、シセラは死んで倒れており、そのこめかみには天
幕の杭があった。
23 こうして神はその日、イスラエルの人々の前でカナンの王ヤビンを服従さ
せられた。
24 イスラエルの人々の手はカナンの王ヤビンに対してますます力を持つよう
になり、ついにはカナンの王ヤビンを滅ぼした。

5

1 その日、デボラとアビノアムの子バラクは歌って言った。
2 「イスラエルで指導者たちが先頭に立ち、
民が進んで身をささげたゆえに。
主をほめたたえよ。

3 「聞け、王たちよ。
耳を傾けよ、君主たちよ。
わたしは、このわたしは、主に向かって歌う。
わたしはイスラエルの神、主をほめ歌う。

4 主よ。あなたがセイルから出て行かれたとき、

エドムの野から進軍されたとき、
地は揺れ動き、天もまた滴った。
そうだ、雲は水を滴らせた。
5 山々は主の御前に揺れ動き、
あのシナイも、イスラエルの神、主の御前に揺れ動いた。

6 アナテの子シャムガルの時代、
ヤエルの時代に、大とおりは途絶え、
旅人はわき道を歩んだ。
7 イスラエルにおいて指導者は絶え、
わたし、デボラが立ち上がるまで絶えていた。
わたしがイスラエルの母として立ち上がるまで。
8 彼らは新しい神々を選んだ。
そのとき、戦いは門のところにあった。
イスラエルの四万人のうちで、盾や槍が見られただろうか。
9 わたしの心はイスラエルの指揮官たちに向けられている。
彼らは民の中で進んで身をささげた。
主をほめたたえよ。

10 語れ。白い小ろばに乗る者たちよ。
豪華な敷物に座る者たちよ。
道を歩む者たちよ。
11 弓を射る者たちの騒音から遠く離れた、水を汲む場所で、
彼らはそこで主の正しい行いを、
イスラエルにおけるその支配における正しい行いを語り伝える。

そのとき、主の民は門に下って行った。
12『起きよ、起きよ、デボラ。
起きよ、起きよ、歌を歌え。
立ち上がれ、バラクよ。アビノアムの子よ、あなたの捕虜を引き連れて行け。』

13 そのとき、貴族たちと民の残りの者が下って来た。
主は力ある者たちに立ち向かうため、わたしのために下って来られた。
14 その根をアマレクに持つ者たちが、エフライムから出て来た。
ベニヤミンよ、あなたの民に混じって、あなたの後を追った。
マキルからは指揮官たちが下って来た。
ゼブルンからは司令官の杖を握る者たちが出て来た。
15 イッサカルの君主たちはデボラとともにいた。
イッサカルと同様に、バラクもそうであった。
彼らは彼の足跡に従って谷へ駆け下りた。
ルベンの水路のほとりでは、
心に大きな決断があった。
16 あなたはなぜ羊の囲いの中に座っていたのか。
羊の群れを呼ぶ笛の音を聞くためか。
ルベンの水路のほとりでは、
心に大きな探求があった。
17 ギルアデはヨルダン川の向こうに留まった。
ダンはなぜ船に留まっていたのか。
アシェルは海辺に座したまま、
その入り江に留まった。
18 ゼブルンは死を顧みず命を死にさらした民である。
ナフタリもまた、野の高台でそうであった。

19 王たちが来て戦った。
そのとき、カナンの王たちはメギドの水辺にあるタアナクで戦った。
彼らは銀の分捕り品を得なかった。
20 天からは星々が戦った。
その軌道から、シセラに対して戦った。
21 キション川が彼らを押し流した。
あの古の川、キション川が。
わが魂よ、力強く進み行け。
22 そのとき、馬のひづめは踏み鳴らされた。
その力強い馬たちが躍り上がったからである。
23 『メロズをのろえ』と主の使いは言った。
『その住民を激しくのろえ。
彼らは主を助けるために、
力ある者たちに立ち向かう主を助けるために来なかったからだ。』

24 ケニ人ヘベルの妻ヤエルは、
女たちの中で最も幸いである。
天幕に住む女たちの中で最も幸いである。
25 彼は水を求めた。
彼女は乳を与えた。
彼女は高貴な器で凝乳を持って来た。
26 彼女は天幕の杭に手を伸ばし、
右手を職人の槌に伸ばした。
彼女は槌でシセラを打った。
彼女は彼の頭を打ち抜いた。
そうだ、彼女はそのこめかみを刺し貫いて打ち砕いた。
27 彼女の足元に彼はうずくまり、倒れ、横たわった。
彼女の足元に彼はうずくまり、倒れた。
うずくまったその場所で、彼は倒れて死んだ。

28 窓から彼女は見つめ、叫んだ。
シセラの母は格子窓から見つめた。
『彼の戦車は来るのがなぜこれほど遅いのか。
なぜ彼の戦車の車輪は遅れているのか。』
29 賢い侍女たちは彼女に答え、
そうだ、彼女も自らに返答した。
30 『彼らは分捕り品を見つけて、分けているのではないか。
男一人につき、一人か二人の女を。
シセラには色染めの衣の分捕り品を。
刺繍された色染めの衣の分捕り品を。
分捕り品として首に掛ける、両面刺繍された色染めの衣を。』

31 「主よ、あなたのすべての敵がこのように滅びますように。
しかし、主を愛する者たちが、力強く昇る太陽のようになりますように。」

その後、その地は四十年の間、安息を得た。

6

1 イスラエルの人々は主の目に悪であることを行い、それゆえ主は彼らを七年の間ミディアンの手に渡された。

2 ミディアンの手はイスラエルに対して力を持った。ミディアンのゆえに、イスラエルの人々は山にあるほら穴、洞窟、そして要害を自分たちのために作った。
3 イスラエルが種を蒔いたとき、ミディアン人、アマレク人、そして東の人々が彼らに対して上って来た。
4 彼らは陣を敷いて、ガザに至るまでの地の産物を滅ぼした。彼らはイスラエルに命の糧を残さず、羊も、牛も、ろばも残さなかった。
5 彼らは自分たちの家畜と天幕を持って上って来たからである。彼らは群れをなすいなごのように入って来た。彼らもそのらくだも数えきれないほどであり、彼らはその地を滅ぼすために入って来た。
6 イスラエルはミディアンのゆえに非常に低くされた。そこでイスラエルの人々は主に向かって叫び求めた。
7 イスラエルの人々がミディアンのゆえに主に向かって叫び求めたとき、
8 主はイスラエルの人々に一人の預言者を遣わされた。彼は彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしはあなたがたをエジプトから上らせ、奴隷の家から導き出した。
9 わたしはあなたがたをエジプト人の手と、あなたがたをしいたげるすべての者の手から救い出し、あなたがたの前から彼らを追い払い、彼らの地をあなたがたに与えた。
10 わたしはあなたがたに言った。「わたしはあなたがたの神、主である。あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々を恐れてはならない。」しかし、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。』」
11 主の使いが来て、アビエゼル人ヨアシュに属する、オフラにある樫の木の下に座った。そのとき、彼の子ギデオンはミディアン人から隠すために、酒ぶねで小麦を打っていた。
12 主の使いが彼に現れて言った。「勇士よ、主はあなたとともにおられる。」
13 ギデオンは彼に言った。「ああ、わが主よ。もし主が私たちとともにおられるなら、なぜこれらすべてのことが私たちに降りかかったのでしょうか。私たちの父祖たちが、『主は私たちをエジプトから導き上られたではないか』と言って私たちに語り伝えた、あのすべての驚くべきみわざはどこにあるのでしょうか。しかし今、主は私たちを見捨て、ミディアンの手に渡されました。」
14 主は彼に目を向けて言われた。「あなたのその力をもって行き、イスラエルをミディアンの手から救い出しなさい。わたしがあなたを遣わしたではないか。」
15 彼は彼に言った。「主よ、*私はどうやってイスラエルを救うことができるでしょうか。見よ、私の氏族はマナセの中で最も貧しく、私は父の家で最も取るに足りない者です。」
16 主は彼に言われた。「わたしは必ずあなたとともにおる。あなたは一人の人を打つように、ミディアン人を打つであろう。」
17 彼は言った。「もし今、私があなたの目に恵みを得たのであれば、私と語っているのがあなたであるというしるしを私に見せてください。
18 どうか、私があなたのもとに戻り、私の贈り物を持って来てあなたの前に供えるまで、ここから立ち去らないでください。」
主は言われた。「あなたが戻って来るまで、わたしは待とう。」
19 ギデオンは家に入り、子やぎ一匹と一エパ†の粉で種なしパンを用意した。彼はその肉をかごに入れ、吸い物を鉢に入れ、それを樫の木の下の彼のもとに持って来て、供えた。

---

* 6:15 6:15 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。
† 6:19 6:19 一エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

20 神の使いは彼に言った。「その肉と種なしパンを取り、この岩の上に置き、吸い物を注ぎなさい。」
彼はそのようにした。
21 すると主の使いは、手に持っていた杖の先を伸ばし、肉と種なしパンに触れた。すると岩から火が燃え上がり、肉と種なしパンを焼き尽くした。そして主の使いは彼の目の前から見えなくなった。
22 ギデオンは彼が主の使いであったことに気づき、ギデオンは言った。「ああ、主なる神よ。わたしは顔と顔を合わせて主の使いを見てしまいました。」
23 主は彼に言われた。「あなたに平安があるように。恐れるな。あなたは死ぬことはない。」
24 そこでギデオンはその場所に主のための祭壇を築き、それを「主は平安」‡と名付けた。今日に至るまで、それはアビエゼル人のオフラにまだある。
25 その同じ夜、主は彼に言われた。「あなたの父の雄牛、すなわち七歳の二番目の雄牛を取り、あなたの父の持つバアルの祭壇を打ち壊し、そのそばにあるアシェラ像を切り倒しなさい。
26 それから、この要害の頂に、定められた方法であなたの神、主のための祭壇を築きなさい。そしてあの二番目の雄牛を取り、あなたが切り倒すアシェラ像の木を使って全焼のささげ物をささげなさい。」
27 そこでギデオンはしもべたちの中から十人の者を取り、主が彼に語られたとおりに行った。彼は父の家の者たちや町の人々を恐れたため、昼にそれを行うことができず、夜にそれを行った。
28 町の人々が朝早く起きると、見よ、バアルの祭壇は打ち壊され、そのそばのアシェラ像は切り倒され、築かれた祭壇の上には二番目の雄牛がささげられていた。
29 彼らは互いに言った。「だれがこんなことをしたのか。」
彼らが調べて尋ねると、人々は言った。「ヨアシュの子ギデオンがこのことをしたのだ。」
30 そこで町の人々はヨアシュに言った。「あなたの息子を引き出しなさい。彼は死ななければならない。彼がバアルの祭壇を打ち壊し、そのそばにあったアシェラ像を切り倒したからだ。」
31 ヨアシュは彼に立ち向かうすべての者に言った。「あなたがたはバアルのために争うのか。あるいは彼を救おうとするのか。彼のために争う者は、朝までに死刑に処せられるべきである。もし彼が神であるなら、自分の祭壇が打ち壊されたのだから、彼自身に争わせればよい。」
32 それゆえその日、彼はギデオンをエルバアル§と名付けて言った。「彼が祭壇を打ち壊したのだから、バアル自身に彼と争わせよ。」
33 その後、すべてのミディアン人、アマレク人、そして東の人々がともに集まり、川を渡ってエズレルの谷に陣を敷いた。
34 しかし主の霊がギデオンの上に臨み、彼が角笛を吹き鳴らすと、アビエゼルが召集されて彼に従った。
35 彼はマナセの全域に使者を遣わし、彼らもまた召集されて彼に従った。彼はアシェル、ゼブルン、そしてナフタリにも使者を遣わし、彼らも迎えに上って来た。
36 ギデオンは神に言った。「あなたが語られたとおりに、もし私の手によってイスラエルをお救いになるのであれば、
37 見よ、私は打ち場に羊の毛一束を置きます。もしその羊の毛の上にだけ露が降り、他のすべての地面が乾いていれば、あなたが語られたとおり、私の手によってイスラエルをお救いになることが私に分かります。」

---

‡ **6:24** **6:24** または「シャローム」。 § **6:32** **6:32** 「エルバアル」は「バアルに争わせよ」という意味である。

38 するとそのようになった。彼が翌朝早く起きてその羊の毛を押し絞ると、羊の毛から露が絞り出され、鉢に一杯の水となった。
39 ギデオンは神に言った。「どうか、私に向かって怒りを燃やさないでください。この一度だけ言わせてください。どうか、この羊の毛でもう一度だけ試させてください。今度は羊の毛だけが乾いていて、他のすべての地面には露が降りますように。」
40 神はその夜、そのようにされた。すなわち、羊の毛だけが乾いていて、他のすべての地面には露が降りていた。

7

1 そのとき、エルバアルすなわちギデオンと、彼と一緒にいたすべての民は朝早く起き、ハロデの泉のそばに陣を敷いた。ミディアンの陣営は彼らの北側、谷にあるモレの丘のそばにあった。
2 主はギデオンに言われた。「あなたと一緒にいる民は多すぎるため、私はミディアン人を彼らの手に渡さない。イスラエルがわたしに対して誇り、『自分の手が自分を救ったのだ』と言うといけないからである。
3 それゆえ今、民の耳に宣言して、『恐れおののいている者は皆、帰ってギルアデ山から去りなさい』と言いなさい。」そこで民のうち二万二千人が帰り、一万人が残った。
4 主はギデオンに言われた。「民はまだ多すぎる。彼らを水辺に連れて下りなさい。わたしはそこであなたのために彼らを試みる。私があなたに『この者はあなたと一緒に行くべきである』と言う者は、あなたと一緒に行く。また私があなたに『この者はあなたと一緒に行くべきではない』と言う者は、行ってはならない。」
5 そこで彼は民を水辺に連れて下った。主はギデオンに言われた。「犬がなめるように、舌で水をなめる者は皆、別にしておきなさい。ひざまずいて水を飲む者も皆、同様にせよ。」
6 手を口に当てて水をなめた者の数は三百人であった。しかし、民の残りの者は皆、ひざまずいて水を飲んだ。
7 主はギデオンに言われた。「わたしは、水をなめた三百人によってあなたがたを救い、ミディアン人をあなたの手に渡す。残りの民は皆、それぞれ自分の所に帰らせなさい。」
8 そこで民は手に食料と角笛を持った。彼はイスラエルの他のすべての者をそれぞれの天幕へ帰らせたが、その三百人はとどまらせた。ミディアンの陣営は彼の下の谷にあった。
9 その同じ夜、主は彼に言われた。「立ち上がって、陣営へ下って行きなさい。わたしはそれをあなたの手に渡したからである。
10 しかし、もし下って行くのを恐れるなら、あなたのしもべプラと一緒に陣営へ下って行きなさい。
11 あなたは彼らが何を言っているかを聞くであろう。その後、あなたの手は強められて陣営へ下って行くことができる。」そこで彼はしもべプラと一緒に、陣営にいる武装した者たちの最も外側の場所へ下って行った。
12 ミディアン人、アマレク人、そしてすべての東の人々は、いなごのように大群をなして谷に横たわっていた。彼らのらくだも数えきれないほどであり、海辺にある砂のように大群であった。
13 ギデオンが来たとき、見よ、一人の男が仲間に夢を語っていた。彼は言った。「見よ、わたしは夢を見た。見よ、大麦のパンのかたまりがミディアンの陣営に転がって来て、天幕にぶつかるとそれは倒れ、ひっくり返って天幕は平らになってしまった。」

14 その仲間は答えて言った。「これはイスラエルの人、ヨアシュの子ギデオンの剣以外の何ものでもない。神はミディアンとその全軍を彼の手に渡されたのだ。」
15 ギデオンはその夢の話とその解き明かしを聞いたとき、ひれ伏して礼拝した。それから彼はイスラエルの陣営に戻って言った。「立ち上がりなさい。主はミディアンの陣営をあなたがたの手に渡された。」
16 彼は三百人を三つの部隊に分け、彼ら全員の手に角笛と空の壺、そして壺の中にたいまつを持たせた。
17 彼は彼らに言った。「私を見て、そのとおりにしなさい。見よ、私が陣営の最も外側の場所に着いたとき、私がするように、あなたがたもそのとおりにしなければならない。
18 わたしと、私と一緒にいるすべての者が角笛を吹き鳴らしたとき、あなたがたもまた全陣営の周囲で角笛を吹き鳴らし、『主のため、ギデオンのため』と叫びなさい。」
19 ギデオンと、彼と一緒にいた百人の者たちは、真夜中の見張りの初めに陣営の最も外側の場所に来た。彼らがちょうど見張りを交替した時であった。彼らは角笛を吹き鳴らし、手に持っていた壺を打ち砕いた。
20 三つの部隊は角笛を吹き鳴らして壺を打ち砕き、左手にたいまつを、右手に吹き鳴らす角笛を持って、「主の剣、ギデオンの剣」と叫んだ。
21 彼らは陣営の周囲でそれぞれ自分の持ち場に立った。すると全軍は走り回り、叫び声を上げて逃げ去った。
22 彼らが三百の角笛を吹き鳴らすと、主は全軍において、おのおのの剣をその仲間に向けさせられた。軍勢はツェレラに向かってベテ・シタまで、タバテのそばのアベル・メホラの境界まで逃げた。
23 イスラエルの人々は、ナフタリ、アシェル、および全マナセから呼び集められ、ミディアンを追撃した。
24 ギデオンはエフライムの山地全体に使者を遣わして言った。「下って来てミディアン人を迎え撃ち、ベテ・バラに至るまでの水場とヨルダン川を彼らより先に押さえなさい。」そこでエフライムのすべての人々が呼び集められ、ベテ・バラに至るまでの水場とヨルダン川を押さえた。
25 彼らはミディアンの二人の君主、オレブとゼエブを捕らえた。そしてオレブをオレブの岩で殺し、ゼエブをゼエブの酒ぶねで殺した。彼らはミディアンを追撃し、ヨルダン川の向こうにいるギデオンのところにオレブとゼエブの首を持って来た。

8

1 エフライムの人々は彼に言った。「ミディアンと戦いに行くとき、私たちを呼ばなかったとは、なぜ私たちにこのような扱いをしたのか。」そして彼らは彼を激しく責め立てた。
2 彼は彼らに言った。「今私がしたことは、あなたがたに比べれば何だろうか。エフライムのぶどうの落ち穂拾いは、アビエゼルのぶどうの収穫にまさるではないか。
3 神はミディアンの君主たち、オレブとゼエブをあなたがたの手に渡された。私がしたことは、あなたがたに比べれば何ができただろうか。」彼がそう言ったとき、彼に対する彼らの怒りは和らいだ。
4 ギデオンはヨルダン川に来てそれを渡った。彼と、彼と一緒にいた三百人の者たちは疲れ果てていたが、なおも追撃していた。
5 彼はスコテの人々に言った。「どうか、私について来ている民にパンのかたまりを与えてほしい。彼らは疲れ果てており、私はミディアンの王たち、ゼバとツァルムナの後を追撃しているからだ。」

6 スコテの君主たちは言った。「ゼバとツァルムナの手がすでにあなたの手の中にあるとでもいうのか。私たちがあなたの軍勢にパンを与えなければならないとは。」
7 ギデオンは言った。「それゆえ、主がゼバとツァルムナを私の手に渡されたとき、私は荒野のいばらと野ばらであなたがたの肉を裂く。」
8 彼はそこからペヌエルへ上って行き、彼らにも同じように語った。ペヌエルの人々も、スコテの人々が答えたのと同じように彼に答えた。
9 彼はペヌエルの人々にも語って、「私が無事に帰って来るとき、この塔を打ち壊す」と言った。

10 さて、ゼバとツァルムナはカルコルにおり、彼らの軍勢も彼らと一緒にいた。それは約一万五千人で、東の人々の全軍勢のうち残ったすべての者であった。剣を抜くことのできる者十二万人が倒れていたからである。
11 ギデオンはノバとヨグベハの東にある、天幕に住む者たちの道を通って上って行き、その軍勢を打った。軍勢が安心しきっていたからである。
12 ゼバとツァルムナは逃げたが、彼は彼らを追撃した。彼はミディアンの二人の王、ゼバとツァルムナを捕らえ、全軍勢を混乱に陥れた。

13 ヨアシュの子ギデオンは、ヘレスの坂道を通って戦いから帰って来た。
14 彼はスコテの人々のうちの一人の若者を捕らえて尋問した。その若者は彼のために、スコテの君主たちと長老たち、七十七人の名を書き記した。
15 彼はスコテの人々のところに来て言った。「見よ。あなたがたが私をののしって、『ゼバとツァルムナの手がすでにあなたの手の中にあるとでもいうのか。私たちがあなたの疲れた者たちにパンを与えなければならないとは』と言った、そのゼバとツァルムナである。」
16 彼はその町の長老たちを取り、荒野のいばらと野ばらを取って、それでスコテの人々を懲らしめた。
17 また彼はペヌエルの塔を打ち壊し、その町の人々を殺した。

18 それから彼はゼバとツァルムナに言った。「おまえたちがタボルで殺した者たちは、どのような男たちであったか。」
彼らは答えた。「彼らはあなたのようでした。一人一人が王の子のようでした。」
19 彼は言った。「彼らは私の兄弟であり、私の母の息子たちであった。主は生きておられる。もしおまえたちが彼らを生かしておいてくれたなら、私はおまえたちを殺しはしない。」
20 彼は長子エテルに「立って、彼らを殺せ」と言った。しかし若者は剣を抜かなかった。彼はまだ若かったため、恐れたのである。
21 するとゼバとツァルムナは言った。「あなたが立って、私たちを撃ちなさい。人の力は、その人自身に応じるものだからである。」ギデオンは立ち上がってゼバとツァルムナを殺し、彼らのらくだの首にあった三日月形の飾りを取った。

22 その後、イスラエルの人々はギデオンに言った。「あなたも、あなたの子も、あなたの孫も私たちを治めてください。あなたが私たちをミディアンの手から救い出してくださったからです。」
23 ギデオンは彼らに言った。「私はあなたがたを治めない。私の子もあなたがたを治めない。主があなたがたを治められる。」
24 ギデオンはさらに彼らに言った。「あなたがたに一つ願いがある。あなたがたはそれぞれ、分捕り品の中から耳輪をわたしに与えてほしい。」（彼らはイシュマエル人であったため、金の耳輪を持っていたのである。）
25 彼らは答えた。「喜んで差し上げます。」彼らが上着を広げると、それぞれが分捕り品の中から耳輪をそこに投げ入れた。

26 彼が求めた金の耳輪の重さは、金一千七百シェケル*
であった。そのほかに、三日月形の飾り、首飾り、ミディアンの王たちが着て
いた紫色の衣、またそのらくだの首にあった鎖があった。
27 ギデオンはそれからエポデを作り、自分の町オフラにそれを置いた。すると全イスラエルがそこでそれに慕って淫行を行い、それはギデオンとその家の罠となった。
28 こうしてミディアンはイスラエルの人々の前で服従させられ、彼らはもはや頭を上げなかった。ギデオンの時代、その地は四十年の間、安息を得た。
29 ヨアシュの子エルバアルは行って、自分の家に住んだ。
30 ギデオンにはその身から生まれた七十人の息子がいた。彼には多くの妻がいたからである。
31 シェケムにいた彼のそばめも彼に男の子を産み、彼はその子をアビメレクと名付けた。
32 ヨアシュの子ギデオンは長寿を全うして死に、アビエゼル人のオフラにある、彼の父ヨアシュの墓に葬られた。
33 ギデオンが死ぬとすぐに、イスラエルの人々は再び背いてバアルを慕って淫行を行い、バアル・ベリテを自分たちの神とした。
34 イスラエルの人々は、周囲のすべての敵の手から自分たちを救い出してくださった自分たちの神、主を思い出さなかった。
35 また彼らは、ギデオンすなわちエルバアルの家に対し、彼がイスラエルに示したすべての良いことに応じて慈しみを示すこともなかった。

9

1 エルバアルの子アビメレクはシェケムにいる母の兄弟たちのところに行き、彼らや彼の母の父の家の全氏族に語って言った。
2 「どうか、シェケムのすべての人々の耳に語ってほしい。『あなたがたにとって、エルバアルの息子たち七十人全員があなたがたを治めるのと、一人の人が治めるのとでは、どちらが良いか。』また私が、あなたがたの骨であり、肉であることを思い起こしなさい。」
3 そこで彼の母の兄弟たちは、彼についてこれらすべての言葉をシェケムのすべての人々の耳に語った。彼らの心はアビメレクに従うことに傾いた。彼らが、「彼は私たちの兄弟だ」と言ったからである。
4 彼らはバアル・ベリテの宮から彼に銀七十枚を与えた。アビメレクはそれで、軽薄で無頼な者たちを雇い、彼らは彼に従った。
5 彼はオフラにある彼の父の家へ行き、エルバアルの息子たちである彼の兄弟七十人を一つの石の上で殺した。ただ、エルバアルの末の息子ヨタムだけは残った。彼が身を隠したからである。
6 シェケムのすべての人々とミロの全家はともに集まり、行って、シェケムにある柱の樫の木のそばでアビメレクを王とした。
7 人々がヨタムにそれを告げると、彼は行ってゲリジム山の頂に立ち、声を上げて叫び、彼らに言った。「わたしに聞き従いなさい、シェケムの人々よ。そうすれば神があなたがたに聞き従ってくださる。
8 木々が自分たちの上に王を油注いで立てるために出かけて行った。彼らはオリーブの木に言った。『私たちを治めてくれ。』
9 しかしオリーブの木は彼らに言った。『神と人をあがめるために用いる私の油を捨てて、木々の上で揺れ動くために行かなければならないのだろうか。』
10 木々はいちじくの木に言った。『来て、私たちを治めてくれ。』
11 しかしいちじくの木は彼らに言った。『私の甘さとその良い実を捨てて、木々の上で揺れ動くために行かなければならないのだろうか。』

* **8:26 8:26** ―シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。一千七百シェケルは約17キログラムである。

12 木々はぶどうの木に言った。『来て、私たちを治めてくれ。』
13 ぶどうの木は彼らに言った。『神と人を喜ばせる私の新しいぶどう酒を捨てて、木々の上で揺れ動くために行かなければならないのだろうか。』
14 そこで、すべての木々はいばらに言った。『来て、私たちを治めてくれ。』
15 いばらは木々に言った。『もし本当に、あなたがたがわたしを油注いであなたがたの王とするなら、来て、私の陰に身を避けなさい。そうでないなら、火がいばらから出て、レバノンの杉を焼き尽くすように。』
16 それゆえ今、あなたがたがアビメレクを王としたことにおいて、誠実と真実をもって事を行ったのであれば、また、あなたがたがエルバアルとその家に対して良くし、彼の手の働きにふさわしく彼にしたのであれば
17 （私の父はあなたがたのために戦い、命を懸けて、ミディアンの手からあなたがたを救い出した。
18 なのにあなたがたは今日、私の父の家に逆らって立ち上がり、その息子たち七十人を一つの石の上で殺し、彼の女奴隷の息子であるアビメレクがあなたがたの兄弟であるという理由で、彼をシェケムの人々の王とした）、
19 もしあなたがたが今日、エルバアルとその家に対して誠実と真実をもって事を行ったのであれば、アビメレクを喜びなさい。彼もまた、あなたがたを喜ぶように。
20 しかしそうでないなら、アビメレクから火が出て、シェケムの人々とミロの家を焼き尽くし、またシェケムの人々とミロの家から火が出て、アビメレクを焼き尽くすように。」
21 兄弟アビメレクを恐れたため、ヨタムは逃げ去り、ベエル*へ行ってそこに住んだ。
22 アビメレクは三年の間、イスラエルを治めた。
23 神はアビメレクとシェケムの人々との間に悪霊を送られた。シェケムの人々はアビメレクを裏切った。
24 それは、エルバアルの七十人の息子たちに加えられた暴力が報いを受け、彼らを殺した兄弟アビメレクと、兄弟たちを殺すよう彼の手を強めたシェケムの人々の上に、彼らの血の報いが下るためであった。
25 シェケムの人々は彼のために、山々の頂に伏兵を置いた。彼らはその道をとおり過ぎるすべての者を略奪した。そしてそれはアビメレクに告げられた。
26 エベデの子ガアルが彼の兄弟たちとともに来て、シェケムへ渡って行った。シェケムの人々は彼を信頼した。
27 彼らは野に出て自分たちのぶどう畑のぶどうを収穫し、それを踏んで祭りを催した。そして彼らの神の宮に入り、飲み食いしてアビメレクをのろった。
28 エベデの子ガアルは言った。「私たちが彼に仕えなければならないとは、アビメレクとは何者か。またシェケムとは何者か。彼はエルバアルの息子ではないか。そしてゼブルは彼の役人ではないか。シェケムの父ハモルの人々に仕えなさい。なぜ私たちが彼に仕えなければならないのか。
29 ああ、この民が私の手の下にあったなら。そうすればわたしはアビメレクを除き去るのに。」彼はアビメレクに言った。「あなたの軍勢を増やして、出て来い。」
30 町の長官であるゼブルは、エベデの子ガアルの言葉を聞いて怒りを燃やした。
31 彼はひそかに使者たちをアビメレクに遣わして言った。「見よ。エベデの子ガアルとその兄弟たちがシェケムに来ました。そして見よ、彼らはあなたに逆らうよう町を扇動しています。
32 それゆえ今、あなたと、あなたと一緒にいる民は夜の間に起き上がり、野で待ち伏せしなさい。

---

* **9:21 9:21** 「ベエル」は「井戸」を意味する。

33 そして朝、日が昇るとすぐに早く起き、町に向かって突進しなさい。見よ。彼と彼と一緒にいる民があなたに向かって出て来るとき、あなたは機会を見つけて彼らにそのように行いなさい。」
34 そこでアビメレクと、彼と一緒にいたすべての民は夜の間に起き上がり、四つの部隊に分かれてシェケムに向かって待ち伏せした。
35 エベデの子ガアルが出て来て、町の門の入り口に立った。アビメレクと、彼と一緒にいた民は待ち伏せから起き上がった。
36 ガアルがその民を見たとき、彼はゼブルに言った。「見よ。民が山々の頂から下って来る。」
ゼブルは彼に言った。「あなたは山々の影を人だと思っているのだ。」
37 ガアルは再び語って言った。「見よ。民が地の中央から下って来る。また一つの部隊がメオネニムの樫の木の道を通って来る。」
38 するとゼブルは彼に言った。「『私たちが彼に仕えなければならないとは、アビメレクとは何者か』と言ったあなたの口は、今どこにあるのか。これが、あなたの軽蔑した民ではないか。さあ、今出て行って彼らと戦え。」
39 そこでガアルはシェケムの人々の前に立って出て行き、アビメレクと戦った。
40 アビメレクは彼を追撃し、彼は彼から逃げた。そして多くの者が傷ついて倒れ、門の入り口にまで及んだ。
41 アビメレクはアルマに留まった。ゼブルはガアルとその兄弟たちを追い出し、シェケムに住むことができないようにした。
42 翌日になって、民は野に出て行った。人々はそれをアビメレクに告げた。
43 彼は民を連れて三つの部隊に分け、野で待ち伏せした。彼が見ると、見よ、民が町から出て来たので、彼は彼らに向かって立ち上がり、彼らを打ち倒した。
44 アビメレクと、彼と一緒にいた部隊は突進し、町の門の入り口に立った。他の二つの部隊は野にいるすべての者に向かって突進し、彼らを打ち倒した。
45 アビメレクはその日一日中、町と戦った。彼は町を攻め取り、その中にいた民を殺した。彼は町を打ち壊し、そこに塩を蒔いた。
46 シェケムの塔のすべての人々がそれを聞いたとき、彼らはエル・ベリテの宮の要害に入った。
47 シェケムの塔のすべての人々が集まっていることが、アビメレクに告げられた。
48 アビメレクは、彼と彼と一緒にいたすべての民とともにツァルモン山に上った。アビメレクは手に斧を取り、木の枝を切り落としてそれを取り上げ、自分の肩に載せた。そして彼は自分と一緒にいる民に言った。「私がするのを見たとおりに、急いでわたしと同じようにせよ。」
49 そこで民も皆、おのおの自分の枝を切り落とし、アビメレクに従い、それらを要害の上に置き、彼らの上の要害に火を放った。こうしてシェケムの塔のすべての人々もまた死んだ。男女約千人であった。
50 その後、アビメレクはテベツへ行き、テベツに向かって陣を敷き、これを攻め取った。
51 しかし町の中には強固な塔があり、町のすべての男女がそこへ逃げ込み、内側から鍵をかけ、塔の屋根に上った。
52 アビメレクは塔に来てそれと戦い、火でそれを燃やそうと塔の戸に近づいた。
53 すると一人の女がアビメレクの頭の上にひき臼の上石を投げ落とし、彼の頭蓋骨を砕いた。
54 そこで彼は急いで自分の武具を持つ若者を呼び、彼に言った。「おまえの剣を抜き、わたしを殺せ。人々が私について、『女が彼を殺した』と言わないようにするためだ。」その若者が彼を刺し貫いたので、彼は死んだ。

55 イスラエルの人々はアビメレクが死んだのを見て、それぞれ自分の場所へ去って行った。
56 このように神は、アビメレクが七十人の兄弟を殺して自分の父に対して行った悪に報いられた。
57 神はまた、シェケムの人々のすべての悪を彼らの頭上に報いられた。そして、エルバアルの子ヨタムののろいが彼らに臨んだ。

10

1 アビメレクの後、イッサカルの人で、ドドの子プアの息子であるトラが、イスラエルを救うために立ち上がった。彼はエフライムの山地にあるシャミルに住んでいた。
2 彼は二十三年の間イスラエルをさばき、死んでシャミルに葬られた。
3 彼に続いて、ギルアデ人ヤイルが立ち上がり、二十二年の間イスラエルをさばいた。
4 彼には三十頭のろばの子に乗る三十人の息子がおり、彼らは三十の町を持っていた。それらは今日に至るまでハボテ・ヤイルと呼ばれ、ギルアデの地にある。
5 ヤイルは死んでカモンに葬られた。
6 イスラエルの人々は再び主の目に悪であることを行い、バアルやアシュタロテ、またアラムの神々、シドンの神々、モアブの神々、アンモンの子らの神々、およびペリシテ人の神々に仕えた。彼らは主を捨て、主に仕えなかった。
7 主の怒りはイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをペリシテ人の手とアンモンの子らの手に売り渡された。
8 彼らはその年、イスラエルの人々を苦しめ、しいたげた。彼らは十八年の間、ヨルダン川の向こう側、ギルアデにあるアモリ人の地にいたイスラエルのすべての人々をしいたげた。
9 またアンモンの子らはユダ、ベニヤミン、およびエフライムの家と戦うためにヨルダン川を渡ったため、イスラエルは激しく苦しめられた。
10 イスラエルの人々は主に向かって叫び求めて言った。「私たちはあなたに対して罪を犯しました。私たちの神を捨て、バアルに仕えたからです。」
11 主はイスラエルの人々に言われた。「わたしはあなたがたをエジプト人から、またアモリ人、アンモンの子ら、およびペリシテ人から救い出したではないか。
12 またシドン人、アマレク人、およびマオン人もあなたがたをしいたげたが、あなたがたがわたしに向かって叫び求めたとき、わたしはあなたがたを彼らの手から救い出した。
13 それでもあなたがたはわたしを捨て、他の神々に仕えた。それゆえ、わたしはもはやあなたがたを救わない。
14 行って、あなたがたが選んだ神々に向かって叫び求めるがよい。あなたがたの苦難のときには、彼らにあなたがたを救わせるがよい。」
15 イスラエルの人々は主に言った。「私たちは罪を犯しました。あなたが良いと思われることを、何でも私たちに行ってください。ただどうか、今日私たちを救い出してください。」
16 彼らが自分たちの間から外国の神々を除き去り、主に仕えたので、主はイスラエルの悲惨さに胸を痛められた。
17 そのとき、アンモンの子らは呼び集められ、ギルアデに陣を敷いた。イスラエルの人々もともに集まり、ミツパに陣を敷いた。
18 民すなわちギルアデの君長たちは互いに言った。「アンモンの子らとの戦いを始める者はだれか。その者がギルアデの全住民のかしらとなる。」

11

1 さて、ギレアデ人エフタは力ある勇士であったが、彼は遊女の息子であった。ギレアデがエフタの父であった。
2 ギレアデの妻は彼に息子たちを産んだ。妻の息子たちが成長すると、彼らはエフタを追い出して言った。「あなたは私たちの父の家で所有地を受けてはならない。あなたは別の女の息子だからである。」
3 そこでエフタは自分の兄弟たちから逃れ、トブの地に住んだ。ならず者たちがエフタの周りに集まり、彼とともに出て行った。

4 しばらくして、アンモンの子らがイスラエルに対して戦いを仕掛けた。
5 アンモンの子らがイスラエルに対して戦いを仕掛けたとき、ギレアデの長老たちはエフタをトブの地から連れ戻そうと出かけた。
6 彼らはエフタに言った。「来て、私たちの指揮官になってほしい。そうすれば、私たちはアンモンの子らと戦うことができる。」
7 エフタはギレアデの長老たちに言った。「あなたがたは私を憎み、父の家から私を追い出したではないか。あなたがたが苦難にある今になって、なぜ私のところに来たのか。」
8 ギレアデの長老たちはエフタに言った。「それゆえ、私たちは今、再びあなたのもとに帰って来たのだ。あなたが私たちとともに行き、アンモンの子らと戦ってくれるためである。そうすれば、あなたはギレアデの全住民の上に立つ私たちの頭となる。」
9 エフタはギレアデの長老たちに言った。「もしあなたがたが、アンモンの子らと戦うために私を連れ帰り、主が彼らを私の前に引き渡してくださるなら、私はあなたがたの頭となるのか。」
10 ギレアデの長老たちはエフタに言った。「主が私たちの間の証人となられる。私たちは必ずあなたの言葉どおりに行う。」
11 そこでエフタはギレアデの長老たちとともに行き、民は彼を自分たちの上の頭とし、指揮官とした。エフタはミツパにおいて、主の前で自分のすべての言葉を語った。

12 エフタはアンモンの子らの王に使者たちを遣わして言った。「あなたと私との間に何のかかわりがあって、あなたは私の地に対して戦うために、私のところに来たのか。」
13 アンモンの子らの王はエフタの使者たちに答えた。「イスラエルがエジプトから上って来たとき、アルノンからヤボク、そしてヨルダン川に至るまで、私の地を奪い取ったからだ。それゆえ今、それらの地を平和のうちに返しなさい。」
14 エフタは再びアンモンの子らの王に使者たちを遣わした。
15 彼は彼に言った。「エフタはこう言う。イスラエルはモアブの地も、アンモンの子らの地も奪い取ってはいない。
16 イスラエルがエジプトから上って来たとき、イスラエルは荒野を通って紅海に行き、カデシュに来た。
17 そのとき、イスラエルはエドムの王に使者たちを遣わして、『どうか、あなたの地を通らせてほしい』と言ったが、エドムの王は聞き入れなかった。同じようにモアブの王にも遣わしたが、彼も承知しなかった。それでイスラエルはカデシュに留まった。
18 それから彼らは荒野を通り、エドムの地とモアブの地を迂回し、モアブの地の東側に来て、アルノンの向こう側に陣を敷いた。しかし彼らはモアブの領土の内には入らなかった。アルノンはモアブの境界だったからである。
19 イスラエルはアモリ人の王、ヘシュボンの王シホンに使者たちを遣わした。イスラエルは彼に言った。『どうか、あなたの地を通って、私の場所へ行かせてほしい。』

20 しかしシホンは、イスラエルが自分の境界を通ることを信用しなかった。それどころか、シホンは自分のすべての民を呼び集め、ヤハツに陣を敷いてイスラエルと戦った。
21 イスラエルの神、主は、シホンとそのすべての民をイスラエルの手に引き渡されたため、彼らはこれを打ち倒した。こうしてイスラエルは、その地方の住民であるアモリ人の全地を所有した。
22 彼らはアルノンからヤボクに至るまで、また荒野からヨルダン川に至るまで、アモリ人の全境界を所有した。
23 それゆえ今、イスラエルの神、主がその民イスラエルの前からアモリ人を追い出されたのに、あなたがその地を所有しようとするのか。
24 あなたの神ケモシュがあなたに所有させるものを、あなたは所有しないのか。そのように、私たちの神、主が私たちの前から追い出された者を、私たちは所有する。
25 今、あなたはモアブの王ツィポルの子バラクにまさっているというのか。彼はかつてイスラエルと争っただろうか。あるいは彼らと戦っただろうか。
26 イスラエルがヘシュボンとその町々、アロエルとその町々、またアルノン沿いのすべての町々に三百年の間住んでいたのに、なぜあなたがたはその間にそれらを取り戻さなかったのか。
27 それゆえ、私はあなたに対して罪を犯していないが、あなたは私に対して戦いを仕掛けて悪を行っている。さばき主である主が今日、イスラエルの人々とアンモンの子らとの間をさばかれますように。」
28 しかし、アンモンの子らの王は、エフタが遣わした言葉に聞き入れなかった。

29 そのとき、主の霊がエフタの上に臨み、彼はギレアデとマナセを通り過ぎ、ギレアデのミツパを通り過ぎ、ギレアデのミツパからアンモンの子らのところへ渡って行った。
30 エフタは主に誓願を立てて言った。「もしあなたが本当に、アンモンの子らを私の手に渡してくださるなら、
31 私がアンモンの子らのところから平安のうちに帰るとき、私を迎えに家の戸口から出て来るものは主のものとなります。私はそれを全焼のささげ物としてささげます。」

32 そこでエフタはアンモンの子らと戦うために彼らのところへ渡って行った。主は彼らを彼の手の内に渡された。
33 彼はアロエルからミニテに至るまで、二十の町を打ち、さらにアベル・ケラミムに至るまで、非常に大きな殺戮をもって彼らを打ち倒した。こうしてアンモンの子らはイスラエルの人々の前で服従させられた。

34 エフタがミツパにある自分の家に帰って来ると、見よ、彼の娘がタンバリンを鳴らし、踊りながら彼を迎えに出て来た。彼女は彼の一人娘であった。彼女のほかに彼には息子も娘もいなかった。
35 彼は彼女を見たとき、自分の衣を引き裂いて言った。「ああ、私の娘よ。あなたは私をひどく打ちのめした。あなたは私を苦しめる者の一人だ。私は主に向かって口を開いてしまったので、もう取り消すことはできない。」
36 彼女は彼に言った。「私の父よ。あなたは主に口を開かれたのですから、あなたの口から出たとおりに私にしてください。主があなたの敵であるアンモンの子らに、あなたのために復讐してくださったからです。」
37 彼女は父に言った。「このことを私にさせてください。二か月の間、私をそのままにしてください。私が出かけて山々へ行き、私の処女であることを友たちとともに嘆き悲しむためです。」

38 彼は「行きなさい」と言った。彼は彼女を二か月の間送り出し、彼
女は友たちとともに去って行き、山々で自分の処女であることを嘆き悲しん
だ。
39 二か月の終わりに、彼女は父のもとに帰り、父は自分が立てた誓願のとお
りに彼女に行った。彼女は処女であった。これがイスラエルの慣習となった。
40 すなわち、イスラエルの娘たちは、ギレアデ人エフタの娘を記念するため
に、毎年、年に四日間出かけて行くというものであった。

12

1 エフライムの人々は呼び集められ、北へ渡ってエフタに言った。「なぜあ
なたはアンモンの子らと戦うために渡って行ったとき、あなたとともに行くよ
うに私たちを呼ばなかったのか。私たちはあなたの家を、あなたもろと
も火で燃やしてやる。」
2 エフタは彼らに言った。「私と私の民は、アンモンの子らと激しい争いを
していた。私があなたがたを呼んだとき、あなたがたは彼らの手から私を救わ
なかった。
3 あなたがたが救ってくれないのを見たとき、私は命を懸けてアンモン
の子らのところへ渡って行った。そして主は彼らを私の手に渡された。それな
のに、なぜあなたがたは今日、私と戦うために上って来たのか。」
4 そこでエフタはギレアデのすべての人々を呼び集め、エフライムと戦っ
た。ギレアデの人々はエフライムを打ち倒した。彼らが、「あなたがたギレア
デ人は、エフライムとマナセの真ん中にいる、エフライムからの逃亡
者だ」と言ったからである。
5 ギレアデ人はエフライム人に対してヨルダン川の浅瀬を押さえた。エフラ
イムの逃亡者のだれかが「渡らせてくれ」と言ったとき、ギレアデの人々はそ
の者に「あなたはエフライム人か」と尋ねた。彼が「違う」と言えば、
6 彼らはその者に言った。「さあ、『シッボレト』と言え。」すると彼は「シボレト」と言った。それを正しく発音することができなかったからである。そのとき、彼らはその者を捕らえ、ヨルダン川の浅瀬で殺した。そのときエフライムの四万二千人が倒れた。
7 エフタは六年の間イスラエルをさばいた。そしてギレアデ人エフタ
は死に、ギレアデの町々の一つに葬られた。
8 彼の後、ベツレヘムのイブツァンがイスラエルをさばいた。
9 彼には三十人の息子がいた。また彼は三十人の娘を家の外へ嫁がせ、三十
人の娘を外から息子たちのために迎え入れた。彼は七年の間イスラエルをさば
いた。
10 イブツァンは死んでベツレヘムに葬られた。
11 彼の後、ゼブルン人エロンがイスラエルをさばいた。彼は十年の間イスラ
エルをさばいた。
12 ゼブルン人エロンは死んで、ゼブルンの地のアヤロンに葬られた。
13 彼の後、ピルアトン人ヒレルの子アブドンがイスラエルをさばいた。
14 彼には四十人の息子と三十人の孫がおり、七十頭のろばの子に乗ってい
た。彼は八年の間イスラエルをさばいた。
15 ピルアトン人ヒレルの子アブドンは死んで、エフライムの地にあるアマレ
ク人の山地のピルアトンに葬られた。

13

1 イスラエルの人々は再び主の目に悪であることを行い、主は彼らを四十
年の間ペリシテ人の手に渡された。
2 ツォルアのダン人の氏族に、マノアという名の一人の男がいた。
彼の妻は不妊の女であり、子がなかった。

3 主の使いがその女に現れて言った。「見よ、あなたは不妊の女であり、
子がない。しかし、あなたは身ごもって男の子を産む。
4 それゆえ今、どうか気をつけて、ぶどう酒や強い酒を飲まないように
し、どんな汚れたものも食べないようにしなさい。
5 見よ、あなたは身ごもって男の子を産むからである。彼の頭に剃刀を当て
てはならない。その子は胎内にいるときから神へのナジル人となるからであ
る。彼はペリシテ人の手からイスラエルを救い始めるであろう。」
6 そこで女は夫のところに来て、彼に告げて言った。「神の人が私のところ
に来られました。そのお姿は神の使いのお姿のように、非常に恐ろしいものでし
た。私は彼がどこから来られたのかお尋ねせず、彼もご自分の名を私に教えて
はくださいませんでした。
7 しかし、彼は私に言われました。『見よ、あなたは身ごもって
男の子を産む。それゆえ今、ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。どん
な汚れたものも食べてはならない。その子は胎内にいるときから死ぬ日まで、
神へのナジル人となるからである。』」
8 そこでマノアは主に懇願して言った。「ああ、主よ。どうか、あなた
が遣わされた神の人を、もう一度私たちのところに来させ、生まれ
て来る子に私たちが何をすべきかを私たちに教えさせてください。」
9 神はマノアの声に聞き入れられた。神の使いは、女が野に座っていたとき、再び女のところに来た。しかし彼女の夫マノアは彼女とともにいなかった。
10 女は急いで走り、夫に告げて言った。「見よ。あの日私のところに来られた方が、私に現れました。」
11 マノアは立ち上がって妻の後について行き、その人のところ
に来て彼に言った。「あなたはあの女と話した方ですか。」
彼は言った。「私である。」
12 マノアは言った。「今、あなたの言葉が実現しますように。そ
の子の生き方と務めはどのようなものでしょうか。」
13 主の使いはマノアに言った。「私が女に言ったすべてのことについて、彼女は気をつけなければならない。
14 彼女はぶどうの木から生じるものを一切食べてはならず、ぶど
う酒や強い酒を飲んでもならず、またどんな汚れたものも食べてはならない。私が彼女に命じたすべてのことを、彼女は守らなければならない。」
15 マノアは主の使いに言った。「どうか、私たちがあなたを引き留めて、あなたのために子やぎ一匹を用意させてください。」
16 主の使いはマノアに言った。「あなたが私を引き留めても、私はあなたのパンを食べない。もしあなたが全焼のささげ物を用意するなら、あなたはそれを主にささげなければならない。」彼が主の使いであることをマノアは知らなかったからである。
17 マノアは主の使いに言った。「あなたの名は何といいますか。あなたの言葉が実現したとき、私たちがあなたをあがめるためです。」
18 主の使いは彼に言った。「なぜあなたは私の名について尋ねるのか。それは理解を超えているからである。*」
19 そこでマノアは子やぎと穀物のささげ物を取り、それを岩の上で主にささげた。すると、マノアとその妻が見ている間に、使いは不思議なことを行った。
20 祭壇から天に向かって炎が上ったとき、主の使いが祭壇の炎の中を上って行ったのである。マノアとその妻はそれを見て、地にひれ伏した。
21 しかし主の使いは、マノアやその妻に二度と現れなかった。そのときマノアは、彼が主の使いであったことを知った。

---

* **13:18 13:18** あるいは、「不思議である」。

22 マノアは妻に言った。「私たちは神を見てしまったので、間違いなく死ぬだろう。」
23 しかし彼の妻は彼に言った。「もし主が私たちを殺すことを喜ばれたのなら、私たちの手から全焼のささげ物と穀物のささげ物を受け取られなかったでしょうし、これらすべてのことを私たちに見せられなかったでしょう。また、このようなときに、このような事柄を私たちに告げられなかったでしょう。」
24 女は男の子を産み、彼をサムソンと名付けた。その子は成長し、
主は彼を祝福された。
25 ツォルアとエシュタオルとの間にあるマハネ・ダンで、主の霊が彼を動かし始めた。

14

1 サムソンはティムナへ下って行き、ティムナでペリシテ人の娘たちのうちの一人の女を見た。
2 彼は上って来て、父と母に告げて言った。「私はティムナでペリシテ人の娘たちのうちの一人の女を見ました。それゆえ今、彼女を私の妻として迎えてください。」
3 すると彼の父と母は彼に言った。「あなたの兄弟たちの娘たちの中にも、私のすべての民の中にも女はいないのか。あなたが割礼を受けていないペリシテ人のところへ行き、妻をめとろうとするとは。」サムソンは父に言った。「彼女を私のために迎えてください。彼女は私の目にかなっているからです。」
4 しかし、彼の父と母は、それが主から出たことであるのを知らなかった。主はペリシテ人に対して機会を求めておられたからである。その頃、ペリシテ人がイスラエルを支配していた。
5 それからサムソンは父と母とともにティムナへ下って行き、ティムナのぶどう畑に来た。すると見よ、若い雄獅子が彼に向かってほえた。
6 主の霊が彼の上に激しく臨み、彼は手に何も持っていなかったが、子やぎを引き裂くようにその獅子を引き裂いた。しかし彼は、自分がしたことを父にも母にも告げなかった。
7 彼は下って行ってその女と話し、彼女はサムソンの気に入った。
8 しばらくして、彼は彼女をめとるために戻って来た。彼は道をそれてその獅子の死骸を見た。すると見よ、その獅子の体の中には蜂の群れと蜜があった。
9 彼はそれを手に取り、食べながら歩いて行った。彼は父と母のところに来て、彼らにそれを与え、彼らはそれを食べた。しかし彼は、その蜜を獅子の体から取ったことを彼らに告げなかった。
10 彼の父はその女のところへ下って行った。サムソンはそこで宴会を催した。若者たちはそのようにする習慣だったからである。
11 彼らが彼を見たとき、三十人の仲間を連れて来て、彼とともにいさせた。
12 サムソンは彼らに言った。「さあ、私があなたがたになぞなぞを出そう。もしこの宴会の七日間にそれを私に解き明かし、それを当てることができたなら、私はあなたがたに亜麻布の衣三十着と、着替えの衣三十着を与えよう。
13 しかし、もし私に解き明かすことができないなら、あなたがたが私に亜麻布の衣三十着と、着替えの衣三十着を与えなければならない。」彼らは彼に言った。「あなたのなぞなぞを出しなさい。それを聞こう。」
14 彼は彼らに言った。
「食べる者から食べ物が出た。
　強い者から甘いものが出た。」
彼らは三日の間、そのなぞなぞを解き明かすことができなかった。

15 七日目になって、彼らはサムソンの妻に言った。「あなたの夫を説き伏せ、そのなぞなぞを私たちに解き明かすようにさせなさい。そうしなければ、私たちはあなたとあなたの父の家を火で燃やす。私たちを貧しくするために私たちを呼んだのか。そうではないか。」
16 サムソンの妻は彼の前で泣いて言った。「あなたはただ私を憎んでいるだけで、愛してはいない。あなたは私の民の子らになぞなぞを出したのに、私にはそれを教えてくれない。」彼は彼女に言った。「見よ。私は父にも母にも教えていないのに、あなたに教えようか。」
17 彼女は彼らの宴会が続く七日間、彼の前で泣き続けた。七日目に彼女が彼に激しく迫ったので、彼は彼女に教えた。そして彼女はそのなぞなぞを彼女の民の子らに教えた。
18 七日目の日が沈む前に、その町の人々は彼に言った。「蜜よりも甘いものは何か。獅子よりも強いものは何か。」彼は彼らに言った。
「もしあなたがたが私の雌牛で耕していなかったなら、
私のなぞなぞを当てることはできなかっただろう。」
19 主の霊が彼の上に激しく臨み、彼はアシュケロンへ下って行って、彼らのうち三十人を打ち倒し、その分捕り品を取り、着替えの衣をなぞなぞを解き明かした者たちに与えた。彼の怒りは燃え上がり、彼は父の家に上って行った。
20 しかしサムソンの妻は、彼の友人であった彼の仲間に与えられた。

15

1 しかししばらくして、小麦の収穫の時期に、サムソンは子やぎ一匹を持って妻を訪ねた。彼は「私の妻のところ、彼女の部屋に入ろう」と言った。しかし彼女の父は彼が入るのを許さなかった。
2 彼女の父は言った。「あなたが彼女をひどく憎んでいるのだと、私は確信していた。それゆえ、私は彼女をあなたの仲間に与えたのだ。彼女の妹のほうが彼女より美しいではないか。どうか、彼女の代わりにその妹をめとってくれ。」
3 サムソンは彼らに言った。「今度私がペリシテ人に危害を加えても、私は彼らに対して責めを負わない。」
4 サムソンは行って三百匹のきつねを捕らえ、たいまつを取り、尾と尾を向かい合わせ、二つの尾の間に一本のたいまつを置いた。
5 たいまつに火を放つと、彼はそれをペリシテ人の立っている穀物の中に放ち、束ねた麦も、立っている穀物も、またオリーブの林も焼き尽くした。
6 するとペリシテ人は「だれがこんなことをしたのか」と言った。人々は言った。「ティムナ人の婿サムソンだ。ティムナ人が彼の妻を取り、彼の仲間に与えたからだ。」ペリシテ人は上って来て、彼女と彼女の父を火で燃やした。
7 サムソンは彼らに言った。「あなたがたがこのようなことをするなら、私は必ずあなたがたに復讐する。その後で私は終わりにしよう。」
8 彼は大いなる殺戮をもって彼らを徹底的に打ち倒した。そして彼は下って行き、エタムの岩の裂け目に住んだ。
9 その後、ペリシテ人は上って来てユダに陣を敷き、レヒに広がった。
10 ユダの人々は言った。「なぜあなたがたは私たちに向かって上って来たのか。」彼らは言った。「私たちはサムソンを縛り、彼が私たちにしたのと同じように彼にするために上って来た。」
11 そこでユダの人々三千人がエタムの岩の裂け目に下って行き、サムソンに言った。「ペリシテ人が私たちを支配していることを知らないのか。あなたは私たちに何ということをしてくれたのか。」彼は彼らに言った。「彼らが私にしたように、私も彼らにしたのだ。」

12 彼らは彼に言った。「私たちはあなたを縛り、ペリシテ人の手に渡すために下って来た。」サムソンは彼らに言った。「あなたがた自身は私を攻撃しないと、私に誓ってくれ。」
13 彼らは彼に語って言った。「いいえ、私たちはあなたをしっかりと縛り、彼らの手に渡すだけである。決してあなたを殺しはしない。」彼らは二本の新しい綱で彼を縛り、岩から彼を連れ上った。
14 彼がレヒに来ると、ペリシテ人は彼に会い、大声を上げた。そのとき、主の霊が彼の上に激しく臨み、彼の腕にあった綱は火で燃やされた亜麻糸のようになり、彼を縛っていたものはその手から落ちた。
15 彼はろばの新しいあご骨を見つけ、手を伸ばしてそれを取り、それで千人を打ち倒した。
16 サムソンは言った。
「ろばのあご骨で、山また山。
　ろばのあご骨で、私は千人を打ち倒した。」
17 彼が語り終えたとき、彼は手からあご骨を投げ捨てた。その場所はラマテ・レヒ* と呼ばれた。
18 彼は非常に喉が渇き、主に叫び求めて言った。「あなたはしもべの手によってこの大きな救いを与えられました。今、私は喉が渇いて死に、割礼を受けていない者たちの手に落ちなければならないのでしょうか。」
19 しかし神はレヒにあるくぼみを裂かれ、そこから水が出た。彼がそれを飲むと、彼の霊は戻り、彼は生き返った。それゆえその名はエン・ハコレと呼ばれた。それは今日に至るまでレヒにある。
20 彼はペリシテ人の時代に二十年の間、イスラエルをさばいた。

16

1 サムソンはガザへ行き、そこで一人の遊女を見て、彼女のところに入った。
2 ガザの人々は、「サムソンがここに来た」と告げられた。彼らは彼を囲み、町の門で一晩中彼を待ち伏せした。彼らは一晩中静かにして、「朝の光がさすまで待とう。そのとき、彼を殺そう」と言った。
3 サムソンは真夜中まで寝ていたが、真夜中に起き上がり、町の門の扉と二本の門柱をつかみ、かんぬきごと引き抜き、それを自分の肩に載せ、ヘブロンの前にある山の頂に運んで行った。
4 その後、彼はソレクの谷にいるデリラという名の女を愛するようになった。
5 ペリシテ人の君主たちが彼女のところに上って来て、彼女に言った。「彼を誘惑し、彼の大きな力がどこにあるのか、またどうすれば私たちが彼に勝てるのかを見極めなさい。そうすれば、私たちは彼を縛って苦しめることができる。私たちはそれぞれ、あなたに銀千百枚を与えよう。」
6 デリラはサムソンに言った。「どうか、あなたの大きな力がどこにあるのか、またあなたを縛って苦しめるには何で縛ればよいのか、私に教えてください。」
7 サムソンは彼女に言った。「もし乾かしたことのない七本の新しい弓弦で私を縛るなら、私は弱くなり、他の人のようになるだろう。」
8 そこでペリシテ人の君主たちは、乾かしたことのない七本の新しい弓弦を彼女のところに持って上り、彼女はそれで彼を縛った。
9 そのとき、彼女は奥の部屋に伏兵を待機させていた。彼女は彼に言った。「ペリシテ人があなたに向かって来ています、サムソン！」彼は火に触れた麻糸が切れるように弓弦を切った。こうして彼の力の秘密は知られなかった。

* **15:17 15:17** 「ラマテ」は「丘」、「レヒ」は「あご骨」を意味する。

10 デリラはサムソンに言った。「見よ、あなたは私をからかい、うそをつきました。今どうか、あなたを縛るには何で縛ればよいのか、私に教えてください。」
11 彼は彼女に言った。「もし仕事に使ったことのない新しい綱で私を縛るなら、私は弱くなり、他の人のようになるだろう。」
12 そこでデリラは新しい綱を取り、それで彼を縛って、彼に言った。「ペリシテ人があなたに向かって来ています、サムソン！」伏兵は奥の部屋で待機していた。彼は腕からそれを糸のように切った。
13 デリラはサムソンに言った。「今まであなたは私をからかい、うそをつきました。あなたを縛るには何で縛ればよいのか教えてください。」彼は彼女に言った。「もし私の頭の七つの髪の房を機織りの縦糸とともに織り込むなら。」
14 彼女はそれを留め釘で固定し、彼に言った。「ペリシテ人があなたに向かって来ています、サムソン！」彼は眠りから目を覚まし、機織り機の留め釘と縦糸を引き抜いた。
15 彼女は彼に言った。「あなたの心が私とともにないのに、どうして『あなたを愛している』と言えるのですか。あなたはこの三度も私をからかい、あなたの大きな力がどこにあるのかを教えてくれませんでした。」
16 彼女が毎日自分の言葉で彼に激しく迫り、彼を促したため、彼の魂は死ぬほどに苦しんだ。
17 彼は自分の心のすべてを彼女に打ち明けて言った。「私の頭には一度も剃刀が当てられたことがない。私は母の胎にいるときから神へのナジル人だからである。もし私が髪を剃られるなら、私の力は私から去り、私は弱くなって他のどの人のようにもなるだろう。」
18 デリラは彼が自分の心のすべてを打ち明けたのを見たとき、人を遣わしてペリシテ人の君主たちを呼び、「今度だけは上って来てください。彼は自分の心のすべてを私に打ち明けました」と言った。するとペリシテ人の君主たちは彼女のところに上って来て、手にその金を持って来た。
19 彼女は彼を自分のひざの上で眠らせ、一人の男を呼んで、彼の頭の七つの髪の房を剃り落とさせた。彼女は彼を苦しめ始め、彼の力は彼から去った。
20 彼女は言った。「ペリシテ人があなたに向かって来ています、サムソン！」彼は眠りから目を覚まし、「私は他のときのように出て行き、身を振りほどいて自由になろう」と言った。しかし彼は主が自分から去られたことを知らなかった。
21 ペリシテ人は彼を捕らえ、その目をえぐり出した。そして彼をガザへ連れて下り、青銅の足かせで彼を縛った。彼は牢獄で臼をひいていた。
22 しかし、彼の頭の髪は剃られた後、再び伸び始めた。
23 ペリシテ人の君主たちは、自分たちの神ダゴンに大いなるいけにえをささげ、喜ぶためにともに集まった。彼らは、「私たちの神が、私たちの敵サムソンを私たちの手に渡された」と言ったからである。
24 民は彼を見たとき、自分たちの神をほめたたえた。彼らが、「私たちの神が、私たちの敵、私たちの国を滅ぼす者、私たちの多くを殺した者を、私たちの手に渡された」と言ったからである。
25 彼らの心が陽気になったとき、彼らは言った。「サムソンを呼べ。彼に私たちを楽しませよう。」彼らは牢獄からサムソンを呼び出し、彼は彼らの前で見せ物にされた。彼らは彼を柱の間に立たせた。
26 サムソンは彼の手を引いていた若者に言った。「この家を支えている柱に触らせてくれ。私がそれに寄りかかるためだ。」
27 その家は男女で満ちており、ペリシテ人のすべての君主たちがそこにいた。屋根の上には約三千人の男女がいて、サムソンが見せ物にされているのを見ていた。

28 サムソンは主に叫び求めて言った。「ああ、主なる神よ。どうか私を思い出してください。ああ、神よ。どうかこの一度だけ私を強くし、私の二つの目のために、私がペリシテ人に一挙に復讐できるようにしてください。」
29 サムソンはその家を支えている中央の二本の柱をつかみ、一本には右手で、もう一本には左手で寄りかかった。
30 サムソンは言った。「ペリシテ人とともに私を死なせてくれ！」彼はありったけの力を振り絞って身をかがめ、その家は君主たちと、その中にいたすべての民の上に倒れ落ちた。こうして彼がその死によって殺した死者は、彼が生きている間に殺した者たちよりも多かった。
31 それから彼の兄弟たちと彼の父の全家が下って来て、彼を引き取り、連れ上って、ツォルアとエシュタオルとの間にある彼の父マノアの墓に彼を葬った。彼は二十年の間イスラエルをさばいた。

17

1 エフライムの山地に、名をミカという一人の男がいた。
2 彼は母に言った。「あなたから取られたあの銀千百枚ですが、あなたはそれについてのろいの言葉を口にし、私の耳にも語りました。見よ、その銀は私のところにあります。私がそれを取ったのです。」
彼の母は言った。「私の子が主に祝福されますように。」
3 彼が銀千百枚を母に返すと、彼の母は言った。「私は自分の手からこの銀を、私の子のために彫像と鋳像を造るため、確かに主に聖別する。それゆえ今、私はそれをあなたに返そう。」
4 そこで彼がその銀を母に返すと、彼の母は銀二百枚を取り、それを銀細工人のところに渡し、彼がそれで彫像と鋳像を造った。それはミカの家に置かれた。
5 この男ミカは神々の宮を持っており、エポデとテラフィム*を作り、自分の息子たちの一人を聖別し、彼を自分の祭司とした。
6 その頃、イスラエルには王がなかった。それぞれが自分の目に正しいと見えることを行っていた。
7 ユダの氏族の出である、ユダのベツレヘムから来た一人の若者がいた。彼はレビ人であり、そこに住んでいた。
8 その人は、住むことができる場所を見つけるために、ユダのベツレヘムの町を出て旅立った。そして旅を続けるうちに、エフライムの山地にあるミカの家に来た。
9 ミカは彼に言った。「あなたはどこから来たのか。」
彼は彼に言った。「私はユダのベツレヘムのレビ人です。住むことができる場所を探して旅をしているところです。」
10 ミカは彼に言った。「私とともに住み、私のために父となり、祭司となってほしい。そうすれば、私は一年に銀十枚と、着替えの衣と、あなたの食料を与えよう。」そこでレビ人は中に入った。
11 レビ人はその男とともに住むことに満足し、その若者は彼にとって息子たちの一人のようになった。
12 ミカはそのレビ人を聖別し、その若者は彼の祭司となってミカの家にいた。
13 それからミカは言った。「今、私は主が私に良くしてくださることが分かった。レビ人が私の祭司となったからだ。」

* **17:5 17:5** テラフィムは家の神々で、家の財産の相続権と関係していた可能性がある。

18

1 その頃、イスラエルには王がなかった。またその頃、ダン人の部族は自
分たちが住むための所有地を探していた。その日まで、イスラエルの部
族の中で彼らに所有地が割り当てられていなかったからである。
2 ダンの子らは、その地を偵察して探るために、全数の中から自分たちの氏
族の五人の男、すなわちツォルアとエシュタオルから勇士たちを遣わした。
彼らは彼らに、「行ってその地を探れ」と言った。
彼らはエフライムの山地にあるミカの家に来て、そこに泊まった。
3 彼らがミカの家のそばにいたとき、彼らはそのレビ人の若者の声に気づ
き、そこへ立ち寄って彼に言った。「だれがあなたをここに連れて来たの
か。あなたはこの場所で何をしているのか。あなたはここで何を持っているの
か。」
4 彼は彼らに言った。「ミカは私にこれこれの事をしてくれました。
彼は私を雇い、私は彼の祭司なのです。」
5 彼らは彼に言った。「どうか神に伺って、私たちが歩んでいる道が栄える
かどうか、私たちに知らせてほしい。」
6 祭司は彼らに言った。「平安のうちに行きなさい。あなたがたの歩んでい
る道は主の前にある。」
7 そこで五人の男は出発してライシュに来て、そこにいる民が、シドン人の
ように静かで安心し、安全に住んでいるのを見た。その地には、彼らを何事に
おいても辱めるような権威を持つ支配者はおらず、彼らはシドン人か
ら遠く離れ、だれとも交わりを持っていなかった。
8 彼らがツォルアとエシュタオルにいる兄弟たちのところに帰って来ると、
兄弟たちは彼らに言った。「あなたがたは何と報告するのか。」
9 彼らは言った。「立ち上がって、彼らに対して上って行こう。私たちはそ
の地を見たが、見よ、それは非常に良い。あなたがたは座したままでいるの
か。ためらわずにその地に入って行き、そこを所有しなさい。
10 あなたがたが行くとき、安心しきっている民と広い地に来ることになる。
神がそれをあなたがたの手に渡されたからである。そこは地にあるものが何
一つ不足していない場所である。」
11 そこでダン人の氏族のうち六百人の男が、戦いの武器を身に帯びて、ツォ
ルアとエシュタオルから出発した。
12 彼らは上って行き、ユダのキルヤテ・ヤアリムに陣を敷いた。それゆえ、
彼らはその場所を今日に至るまでマハネ・ダンと呼んでいる。見よ、それはキ
ルヤテ・ヤアリムの後ろにある。
13 彼らはそこからエフライムの山地に進み、ミカの家に来た。
14 そのとき、ライシュの地方を偵察に行った五人の男が、兄弟たちに答え
て言った。「これらの家の中にエポデ、テラフィム*、彫像、鋳像があるのを
あなたがたは知っているか。それゆえ今、あなたがたは何をすべきか考えなさ
い。」
15 彼らはそこへ立ち寄り、レビ人の若者の家、すなわちミカの家に来て、
彼に安否を尋ねた。
16 ダンの子らである、戦いの武器を身に帯びた六百人の男たちは、町の門の
そばに立っていた。
17 その地を偵察に行った五人の男が上って来て中に入り、彫像、エポデ、テ
ラフィム、および鋳像を取った。その間、祭司は戦いの武器を身に帯びた六百
人の男たちとともに町の門のそばに立っていた。
18 これらがミカの家に入り、彫像、エポデ、テラフィム、および鋳
像を取り出したとき、祭司は彼らに言った。「あなたがたは何をしているの
か。」

---

* **18:14 18:14** テラフィムは家の神々で、家の財産の相続権と関係していた可能性がある。

19 彼らは彼に言った。「黙れ。口に手を当てて、私たちとともに行き、私たちのために父となり、祭司となれ。あなたにとって、一人の男の家の祭司となるのと、イスラエルの部族と氏族の祭司となるのとでは、どちらが良いか。」
20 祭司の心は喜び、彼はエポデ、テラフィム、および彫像を取り、民の中に入って行った。
21 こうして彼らは向きを変えて出発し、子供たち、家畜、および財産を自分たちの前に置いた。
22 彼らがミカの家からかなり遠ざかったとき、ミカの家の近くにある家々の男たちが呼び集められ、ダンの子らに追いついた。
23 彼らがダンの子らに向かって叫ぶと、ダンの子らは振り向き、ミカに言った。「一体どうしたというのか。こんな大勢を連れて来るとは。」
24 彼は言った。「あなたがたは私が造った私の神々と、祭司を奪って去って行った。私に何が残っているのか。それなのに、あなたがたはどうして私に『一体どうしたというのか』と言えるのか。」
25 ダンの子らは彼に言った。「私たちの中であなたの声を聞かせてはならない。怒りっぽい者たちがあなたがたを襲い、あなたが自分の命と家族の命を失うことにならないためだ。」
26 ダンの子らは自分たちの道を行き、ミカは彼らが自分より強すぎるのを見て、向きを変えて自分の家に帰って行った。
27 彼らはミカが造ったものと、彼が抱えていた祭司を奪い、ライシュへ、静かで安心しきっている民のところに来て、剣の刃で彼らを打ち倒し、町を火で燃やした。
28 そこがシドンから遠く離れ、彼らがだれとも交わりを持っていなかったため、救い出す者はいなかった。それはベテ・レホブのそばにある谷にあった。彼らは町を建ててそこに住んだ。
29 彼らはその町の名を、イスラエルに生まれた自分たちの父ダンの名にちなんでダンと呼んだ。ただし、その町の最初の名はライシュであった。
30 ダンの子らは自分たちのためにその彫像を立てた。そしてモーセの子ゲルショムの子ヨナタン、彼とその子らは、その地が捕囚となる日までダン人の部族の祭司であった。
31 こうして彼らは、神の宮がシロにあったすべての期間、ミカが造った彼の彫像を自分たちのために立てていた。

19

1 その頃、イスラエルに王がなかったとき、エフライムの山地の奥に住んでいた一人のレビ人がおり、彼はユダのベツレヘムから自分に一人のそばめを迎えた。
2 彼のそばめは彼に背いて淫行を行い、彼から離れてユダのベツレヘムにある彼女の父の家に行き、そこで四か月の間過ごした。
3 彼女の夫は立ち上がり、彼女に優しく語りかけて連れ戻すために、しもべ一人と二頭のろばを連れて彼女の後を追って行った。彼女が彼を父の家に連れて入ると、若い女の父は彼を見て、喜んで彼を迎えた。
4 彼のしゅうと、すなわち若い女の父は彼を引き留めたので、彼はそこで三日間滞在した。こうして彼らは飲み食いし、そこに泊まった。
5 四日目になって、彼らは朝早く起き、彼は旅立つために立ち上がった。すると若い女の父は婿に言った。「パンの一切れであなたの心を力づけなさい。それからあなたの道を行きなさい。」
6 そこで彼らは座り、二人はともに飲み食いした。若い女の父はその男に言った。「どうか、喜んで一晩中滞在し、あなたの心を喜ばせなさい。」
7 男は旅立つために立ち上がったが、しゅうとが彼に強く勧めたので、彼は再びそこに泊まった。

8 五日目、彼は旅立つために朝早く起きた。すると若い女の父は、「どうかあなたの心を力づけ、日が傾くまで留まりなさい」と言った。そして二人は食事をした。
9 男が彼のそばめ、およびしもべとともに旅立つために立ち上がると、彼のしゅうと、すなわち若い女の父は彼に言った。「見よ、今は日が暮れかかっている。どうか一晩中滞在しなさい。見よ、日は終わりに近づいている。ここに泊まってあなたの心を喜ばせなさい。そして明日、早く道を行き、あなたの家に帰りなさい。」
10 しかし男はその夜滞在しようとはせず、立ち上がって旅立ち、エブス（すなわちエルサレム）の向かいに来た。彼とともに鞍を置いた二頭のろばがおり、彼のそばめも彼とともにいた。
11 彼らがエブスのそばに来たとき、日はかなり暮れていた。しもべは主人に言った。「どうか、来て、このエブス人の町に立ち寄り、そこに泊まりましょう。」
12 彼の主人は彼に言った。「イスラエルの人々ではない、外国人の町には立ち寄らない。私たちはギベアまで渡って行く。」
13 彼はしもべに言った。「来て、これらの場所のどれかに近づき、ギベアかラマに泊まろう。」
14 そこで彼らは通り過ぎ、自分たちの道を行き、ベニヤミンに属するギベアの近くで彼らの上に日が沈んだ。
15 彼らはそこへ立ち寄り、ギベアに入って泊まった。彼が入って行き、町の通りに座ったのは、彼らを家に連れて入って泊まらせる者がだれもいなかったからである。
16 見よ。夕暮れに、一人の老人が野での仕事から帰って来た。その男はエフライムの山地の出で、ギベアに住んでいた。しかしその場所の人々はベニヤミン人であった。
17 彼は目を上げ、町の通りにいる旅の男を見た。老人は言った。「あなたはどこへ行くのか。あなたはどこから来たのか。」
18 彼は彼に言った。「私たちはユダのベツレヘムからエフライムの山地の奥へと渡って行くところです。私はそこからユダのベツレヘムへ行きました。今、私は主の家へ行くところですが、私を家に連れて入ってくれる者がだれもいません。
19 私たちのろばのためのわらも飼葉もあります。また、私のためにも、あなたのはしためのためにも、あなたのしもべたちとともにいる若者のためにも、パンとぶどう酒があります。何一つ不足しているものはありません。」
20 老人は言った。「あなたに平安があるように。ただし、あなたのすべての必要は私に任せなさい。ただ通りで泊まってはならない。」
21 そこで彼は彼を自分の家に連れて入り、ろばに飼葉を与えた。彼らは足を洗い、飲み食いした。
22 彼らが自分たちの心を陽気にしていたとき、見よ、その町の人々、すなわち何人かのならず者たちがその家を囲み、戸をたたいて、その家の主人である老人に語って言った。「あなたの家に入って来た男を引き出せ。私たちが彼を犯すためだ。」
23 その男、すなわち家の主人は彼らのところに出て行って、彼らに言った。「いや、私の兄弟たちよ。どうかそんな悪事を行わないでくれ。この男は私の家に入って来たのだから、この愚かな行いをしてはならない。
24 見よ、ここに処女である私の娘と、彼のそばめがいる。私は今、彼女らを引き出そう。彼女らを辱め、あなたがたの目に良いと思われることを彼女らにしなさい。しかしこの男には、そのような愚かな行いをしてはならない。」
25 しかし人々は彼に聞き入れようとしなかった。そこでその男は自分のそばめを捕らえ、彼らのところに引き出した。彼らは彼女を犯し、夜通し朝まで彼女を凌辱した。そして夜が明け始めたとき、彼らは彼女を去らせた。

26 それからその女は夜明けに来て、明るくなるまで、自分の主人がいる男の家の戸口に倒れ伏していた。
27 彼女の主人は朝起きて、家の戸を開け、自分の道を行くために出て来た。すると見よ、彼のそばめである女が家の戸口に倒れ伏しており、その両手は敷居の上にあった。
28 彼は彼女に言った。「起きなさい、行こう。」しかしだれも答えなかった。そこで彼は彼女をろばの上に乗せ、その男は立ち上がって自分の場所へと行った。
29 彼は自分の家に入ると、刃物を取り、自分のそばめをつかんで、手足ごとに十二の切れ切れに切り分け、それをイスラエルの全境界に送った。
30 それを見た者は皆言った。「イスラエルの人々がエジプトの地から上って来た日から今日に至るまで、このような事は行われたことも、見られたこともない。これについて考え、相談し、語りなさい。」

20

1 その時、イスラエルの人々は皆、ダンからベエル・シェバに至るまで、またギルアデの地からも出て来た。会衆は一人の人のように、ミツパで主の御前に集まった。
2 民全体のかしらたち、すなわちイスラエルの全部族のかしらたちは、神の民の集会に立った。剣を抜くことのできる歩兵は四十万人であった。
3 ベニヤミンの人々は、イスラエルの人々がミツパへ上ったことを聞いた。イスラエルの人々は言った。「この悪事がどのようにして起こったのか、私たちに話しなさい。」
4 殺された女の夫であるレビ人は答えて言った。「私と私のそばめは、泊まるためにベニヤミンに属するギベアに入りました。
5 するとギベアの人々が私に逆らって立ち上がり、夜、私のいる家を取り囲みました。彼らは私を殺そうとし、私のそばめを凌辱したので、彼女は死にました。
6 私は自分のそばめを取り、彼女を切り分けて、イスラエルの所有地のすべての地方に送りました。彼らがイスラエルの中で、みだらで愚かな行いをしたからです。
7 見よ。イスラエルの人々よ、あなたがたは皆、ここで自分たちの意見と助言を出しなさい。」
8 民は皆、一人の人のように立ち上がって言った。「私たちはだれ一人、自分の天幕へ行かない。だれ一人、自分の家へ帰らない。
9 今、私たちがギベアに対して行うことはこれである。私たちはくじによってそこへ上って行く。
10 私たちはイスラエルの全部族の中から、百人ごとに十人、千人ごとに百人、一万人ごとに千人を取って、民のために食料を調達させる。民がベニヤミンのギベアに着いたとき、ギベアの者たちがイスラエルで行ったすべての愚かな行いに応じて行えるようにするためである。」
11 こうしてイスラエルの男たちは皆、一人の人のように結び合わされ、その町に向かって集まった。
12 イスラエルの部族は、ベニヤミンの部族全体に使者を遣わして言った。「あなたがたの間で起こったこの悪事は何なのか。
13 それゆえ今、ギベアにいるならず者たちを引き渡しなさい。私たちは彼らを殺し、イスラエルから悪を除き去るためである。」しかしベニヤミンの人々は、兄弟であるイスラエルの人々の声に聞き入れようとしなかった。
14 ベニヤミンの人々は、イスラエルの人々と戦うため、町々からギベアに集まった。

15 その日、町々から集まったベニヤミンの人々のうち、剣を抜くことのできる者は二万六千人と数えられた。これに加えて、ギベアの住民から七百人のえり抜きの者たちが数えられた。
16 このすべての民の中には、左利きの七百人のえり抜きの者たちがいた。彼らは皆、髪の毛一本を狙って石を投げても、外すことがなかった。
17 ベニヤミン以外のイスラエルの男たちは、剣を抜くことのできる者が四十万人と数えられた。これらは皆、戦士であった。
18 イスラエルの人々は立ち上がってベテルへ上り、神に伺って言った。「私たちのために、だれが最初にベニヤミンの人々との戦いに上るべきでしょうか。」主は言われた。「ユダが最初である。」
19 イスラエルの人々は朝早く起き、ギベアに向かって陣を敷いた。
20 イスラエルの男たちはベニヤミンと戦うために出て行き、ギベアで彼らに向かって陣形を整えた。
21 ベニヤミンの人々はギベアから出て来て、その日、イスラエル人二万二千人を地に打ち倒した。
22 しかし民、すなわちイスラエルの男たちは自らを奮い立たせ、最初の日に陣形を整えた場所で、再び陣形を整えた。
23 イスラエルの人々は上って行き、夕暮れまで主の御前で泣いた。彼らが主に伺って、「私たちの兄弟であるベニヤミンの人々との戦いに、再び近づくべきでしょうか」と言うと、主は言われた。「彼らに向かって上って行け。」
24 イスラエルの人々は二日目に、ベニヤミンの人々に近づいた。
25 ベニヤミンは二日目にギベアから彼らに向かって出て行き、イスラエルの人々のうち、さらに一万八千人を地に打ち倒した。これらは皆、剣を抜くことのできる者たちであった。
26 その時、イスラエルの人々と民は皆上って行き、ベテルに来て泣き、主の御前に座り、その日は夕暮れまで断食し、主の御前に全焼のささげ物と和解のいけにえを献げた。
27 イスラエルの人々は主に尋ねた。その頃、神の契約の箱がそこにあり、
28 アロンの子エルアザルの子ピネハスが、その頃その前に立っていた。彼らは言った。「私たちの兄弟であるベニヤミンの人々との戦いに、再び出て行くべきでしょうか。それともやめるべきでしょうか。」主は言われた。「上って行け。明日、わたしは彼らをあなたの手に渡す。」
29 イスラエルはギベアの周囲に伏兵を置いた。
30 イスラエルの人々は三日目にベニヤミンの人々に向かって上って行き、前の時と同じようにギベアに向かって陣形を整えた。
31 ベニヤミンの人々は民に向かって出て行き、町から引き離された。彼らは前の時と同じように、野にある大通りでイスラエルの人々およそ三十人を打って殺し始めた。一方の大通りはベテルへ、もう一方はギベアへ上る道であった。
32 ベニヤミンの人々は、「彼らは最初の時と同じように、私たちの前で打ち倒されている」と言った。しかしイスラエルの人々は、「私たちは逃げて、彼らを町から大通りへ引き離そう」と言った。
33 イスラエルの男たちは皆その場所から立ち上がり、バアル・タマルで陣形を整えた。イスラエルの伏兵たちは、その場所、すなわちマアレ・ゲバから突進した。
34 全イスラエルから選ばれた一万人がギベアの前に来て、戦いは激しくなった。しかしベニヤミンの人々は、わざわいが自分たちに迫っていることを知らなかった。
35 主はイスラエルの前でベニヤミンを打たれた。その日、イスラエルの人々はベニヤミンのうち二万五千百人を滅ぼした。これらは皆、剣を抜くことのできる者たちであった。

36 こうしてベニヤミンの人々は、自分たちが打ち破られたのを見た。イスラエルの男たちがベニヤミンに場所を譲ったのは、ギベアに向かって置いた伏兵を信頼していたからである。
37 伏兵は急いでギベアに突進した。伏兵は広がり、剣の刃で町全体を打った。
38 さて、イスラエルの男たちと伏兵との間の合図は、町から大きな煙の雲を立ち上らせることであった。
39 イスラエルの男たちが戦いで向きを変えると、ベニヤミンはイスラエルの男たちおよそ三十人を打って殺し始めた。彼らが、「確かに彼らは最初の戦いのように、私たちの前で打ち倒されている」と言ったからである。
40 しかし、その雲が煙の柱となって町から立ち上り始めた時、ベニヤミン人が後ろを振り返ると、見よ、町全体が天に向かって煙となっていた。
41 イスラエルの男たちが向きを変えたため、ベニヤミンの男たちはおののいた。わざわいが自分たちに臨んだのを見たからである。
42 それで彼らはイスラエルの男たちの前で背を向け、荒野への道に向かった。しかし戦いは彼らに激しく迫り、町々から出て来た者たちは、そのただ中で彼らを滅ぼした。
43 彼らはベニヤミン人を囲み、彼らを追い、休む間もなく踏みにじって、日の出る方、ギベアの近くにまで迫った。
44 ベニヤミンのうち一万八千人が倒れた。これらは皆、勇士たちであった。
45 彼らは向きを変えて、荒野に向かってリモンの岩へ逃げた。イスラエル人は大通りで彼らのうち五千人を拾い討ちにし、さらにギドムまで激しく追撃して、そのうち二千人を打った。
46 こうしてその日、ベニヤミンのうち倒れた者は皆で二万五千人であり、剣を抜くことのできる者たちであった。これらは皆、勇士たちであった。
47 しかし六百人は向きを変え、荒野に向かってリモンの岩へ逃げ、四か月の間、リモンの岩に留まった。
48 イスラエルの男たちは再びベニヤミンの人々のところに向きを変え、町全体も、家畜も、彼らが見つけたすべてのものも、剣の刃で打った。さらに、見つけたすべての町に火を放った。

21

1 さて、イスラエルの男たちはミツパで誓って言った。「私たちのうち、だれ一人として自分の娘をベニヤミンに妻として与えてはならない。」
2 民はベテルに来て、そこで夕暮れまで神の前に座り、声を上げて激しく泣いた。
3 彼らは言った。「ああ、イスラエルの神、主よ。なぜイスラエルにこのようなことが起こり、今日イスラエルにおいて一つの部族が欠けることになってしまったのでしょうか。」
4 翌日、民は朝早く起き、そこに祭壇を築いて、全焼のささげ物と和解のいけにえを献げた。
5 イスラエルの人々は言った。「イスラエルのすべての部族の中で、主の集会に上って来なかった者はだれか。」彼らは、ミツパで主のもとに上って来なかった者について、「その者は必ず死刑に処せられる」と大きな誓いを立てていたからである。
6 イスラエルの人々は兄弟であるベニヤミンのために悲しんで言った。「今日、イスラエルから一つの部族が断ち切られてしまった。
7 私たちは主にかけて、私たちの娘たちを彼らに妻として与えないと誓ったのだから、残っている者たちに妻を備えるにはどうすればよいのか。」
8 彼らは言った。「イスラエルの部族の中で、ミツパで主のもとに上って来なかった者はだれか。」すると見よ、ヤベシュ・ギレアデからはだれ一人として集会の陣営に来ていなかった。

9 民が数えられた時、見よ、そこにヤベシュ・ギレアデの住民はだれもいなかった。
10 会衆は最も勇敢な一万二千人をそこへ遣わし、彼らに命じて言った。「行って、ヤベシュ・ギレアデの住民を、女や子どもたちもろとも剣の刃で打ちなさい。
11 あなたがたが行うべきことはこれである。すべての男子と、男と寝たことのあるすべての女を完全に滅ぼし尽くしなさい。」
12 彼らはヤベシュ・ギレアデの住民の中に、男と寝て男を知ったことのない四百人の若い処女を見つけた。そして彼女たちを、カナンの地にあるシロの陣営に連れて来た。
13 全会衆はリモンの岩にいるベニヤミンの人々に使者を遣わして語り、彼らに平和を告げた。
14 ベニヤミン人はその時、戻って来たので、彼らはヤベシュ・ギレアデの女たちの中で生かしておいた女たちを彼らに与えた。それでも彼らには十分ではなかった。
15 主がイスラエルの部族に破れ目を作られたため、民はベニヤミンのために悲しんだ。
16 その時、会衆の長老たちは言った。「ベニヤミンの女たちは滅ぼされてしまったので、残っている者たちに妻を備えるにはどうすればよいのか。」
17 彼らは言った。「イスラエルから一つの部族が消し去られないように、ベニヤミンから逃げ延びた者たちには所有地が残らなければならない。
18 しかし、私たちは自分たちの娘を彼らに妻として与えることはできない。イスラエルの人々は、『ベニヤミンに妻を与える者はのろわれる』と言って誓ったからである。」
19 彼らは言った。「見よ。ベテルの北、ベテルからシェケムへ上る大通りの東側、レボナの南にあるシロでは、年ごとに主の祭りがある。」
20 彼らはベニヤミンの人々に命じて言った。「行って、ぶどう畑で待ち伏せしなさい。
21 そして見なさい。シロの娘たちが踊りを踊るために出て来たら、あなたがたはぶどう畑から出て来て、シロの娘たちの中からそれぞれ自分の妻を捕らえ、ベニヤミンの地へ行きなさい。
22 彼女たちの父たち、または兄弟たちが私たちに不平を言いに来た時、私たちは彼らにこう言う。『どうか、私たちのために彼らに好意を示してやってほしい。私たちは戦いで彼ら一人一人に妻を取ってやることができなかった。また、あなたがたが自分で娘を彼らに与えたのでもないから、今あなたがたが罪に問われることはない。』」
23 ベニヤミンの人々はそのように行い、踊っていた者たちの中から、自分たちの数に合わせて妻を連れ去った。彼らは行って自分たちの所有地に帰り、町々を建ててそこに住んだ。
24 イスラエルの人々はその時、それぞれ自分の部族、自分の氏族のところへ去って行った。彼らはそこから出て、それぞれ自分の所有地へ行った。
25 その頃、イスラエルには王がなかった。それぞれが自分の目に正しいと見えることを行っていた。

ルツの書
ルツ記

1 士師たちがさばいていた時代、その地に飢きんがあった。ユダのベツレヘムの一人の人が、妻と二人の息子を連れてモアブの国へ行き、そこに住んだ。
2 その人の名はエリメレク、妻の名はナオミであった。二人の息子の名はマフロンとキルヨンで、ユダのベツレヘムのエフラテ人であった。彼らはモアブの国へ行き、そこに住んだ。
3 ナオミの夫エリメレクは死に、彼女は二人の息子とともに残された。
4 息子たちはモアブの女たちを妻としてめとった。一人の名はオルパ、もう一人の名はルツであった。彼らは約十年の間そこに住んだ。
5 やがてマフロンとキルヨンも二人とも死に、その女は二人の子どもと夫を失って残された。
6 その後、ナオミはモアブの国から帰るために、嫁たちとともに立ち上がった。主* がご自分の民を顧み、彼らにパンを与えられたことを、モアブの国で聞いたからである。
7 彼女は自分のいた場所を出て行き、二人の嫁も彼女と一緒にいた。彼女たちはユダの地に帰るため、その道を進んで行った。
8 ナオミは二人の嫁に言った。「行きなさい。それぞれ自分の母の家に帰りなさい。あなたがたが亡き夫たちや私に慈しみを示してくれたように、主があなたがたに慈しみを示してくださいますように。
9 主があなたがたに恵みを与え、それぞれ夫の家で安息を見いだすことができますように。」それから彼女が二人に口づけすると、彼女たちは声を上げて泣いた。
10 彼女たちはナオミに言った。「いいえ、私たちはあなたと一緒に、あなたの民のところへ帰ります。」
11 ナオミは言った。「帰りなさい、私の娘たちよ。なぜ私と一緒に行こうとするのですか。あなたがたの夫となる息子たちが、私の胎内にまだいるとでもいうのですか。
12 帰りなさい、私の娘たちよ。自分の道を行きなさい。私は年老いていて、夫を持つことはできません。たとえ私が『まだ望みがある』と言い、今夜夫を持ち、さらに息子たちを産んだとしても、
13 あなたがたはその子たちが成長するまで待つというのですか。夫を持たずに控えているというのですか。いいえ、私の娘たちよ。主の手が私に逆らって下ったので、私はあなたがたのために非常に心を痛めています。」
14 彼女たちは声を上げて再び泣いた。オルパはしゅうとめに口づけしたが、ルツは彼女にすがりついて離れなかった。
15 ナオミは言った。「見なさい。あなたの義理の姉は自分の民と自分の神のところへ帰って行きました。あなたも義理の姉の後について帰りなさい。」
16 ルツは言った。「あなたを捨て、あなたに従わずに帰るよう、私に強く言わないでください。あなたが行く所へ私も行き、あなたが泊まる所に私も泊まります。あなたの民は私の民、あなたの神† は私の神です。
17 あなたが死ぬ所で私も死に、そこに葬られます。もし死以外の何かがあなたと私を引き離すなら、主が私にそのようにされ、さらにそれ以上のことをされますように。」

---

* **1:6 1:6** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（
† **1:16 1:16** 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

18 ナオミは、ルツが自分と一緒に行くことを固く決心しているのを見て、彼
女を説得するのをやめた。
19 こうして二人は歩み続け、ついにベツレヘムに来た。彼女たちがベツレヘ
ムに来ると、町中が彼女たちのことで騒ぎ立ち、女たちは「これはナオミです
か」と言った。
20 ナオミは彼女たちに言った。「私をナオミ‡
と呼ばないでください。私をマラ§
と呼んでください。全能者が私を非常に苦しい目に遭わせられたからです。
21 私は満ち足りて出て行きましたが、主は私を空のままで連れ戻されまし
た。主が私に逆らって証言し、全能者が私を苦しめられたというのに、なぜあ
なたがたは私をナオミと呼ぶのですか。」
22 このようにしてナオミは帰って来た。モアブの国から帰って来たモアブ
の女である嫁のルツも、彼女と一緒であった。彼女たちは大麦の収穫の初めに
ベツレヘムに来た。

2

1 ナオミには夫の親族で、エリメレクの家系に属する有力な資産家がい
た。その名はボアズであった。
2 モアブの女ルツはナオミに言った。「どうか、畑へ行かせてください。そ
して、私がその方の目に恵みを得るなら、その方の後について、落ち穂を拾わ
せてください。」
ナオミは彼女に言った。「行きなさい、私の娘よ。」
3 彼女は行って、刈り取る者たちの後について畑で落ち穂を拾った。すると、彼女はたまたま、エリメレクの家系に属するボアズの畑の一画に来ていた。
4 見よ、ボアズがベツレヘムからやって来て、刈り取る者たちに言った。
「主があなたがたとともにおられますように。」
彼らは答えた。「主があなたを祝福されますように。」
5 ボアズは、刈り取る者たちを監督していた若者に言った。「この若い女はだれの者か。」
6 刈り取る者たちを監督していた若者は答えた。「あれは、ナオミと一緒にモアブの国から帰って来たモアブの若い女です。
7 彼女は、『どうか、刈り取る者たちの後について、束のあいだ
で落ち穂を拾い集めさせてください』と言いました。こうして彼女は来て、朝から今まで働き続けています。家で少し休んだだけです。」
8 そこでボアズはルツに言った。「聞きなさい、私の娘よ。落ち穂を拾うために、ほかの畑へ行ってはならない。ここから離れず、私のところの若い女たちのそばにいなさい。
9 彼らが刈り取っている畑から目を離さず、彼女たちの後について行きなさい。私は若者たちに、あなたに手を出してはならないと命じておいたではないか。喉が渇いたなら、水がめのところへ行き、若者たちが汲んだ水を飲みなさい。」
10 すると彼女は地にひれ伏して礼をし、彼に言った。「私は外国人であるのに、どうしてあなたの目に恵みを得て、私を顧みてくださるのですか。」
11 ボアズは彼女に答えた。「あなたの夫の死後、あなたがしゅうとめにしたこと、また、あなたが父と母と生まれ故郷を離れ、以前には知らなかった民のところへ来たことについて、私はすべて聞いています。

---

‡ **1:20** **1:20** 「ナオミ」は「快い」という意味である。 § **1:20** **1:20** 「マラ」は「苦い」という意味である。

12 主があなたの行いに報いてくださいますように。そして、あなたがその御翼の下に身を避けるためにやって来たイスラエルの神、主から、あなたに十分な報いが与えられますように。」
13 彼女は言った。「わが主よ。私があなたの目に恵みを得ますように。私はあなたのはしための一人にも及びませんのに、あなたは私を慰め、このはしためにに優しく語りかけてくださいました。」
14 食事の時、ボアズは彼女に言った。「ここへ来てパンを食べ、あなたのパン切れを酢に浸しなさい。」
彼女は刈り取る者たちのそばに座り、人々は彼女に炒り麦を渡した。彼女は食べて満ち足り、残りを取っておいた。
15 彼女が落ち穂を拾うために立ち上がった時、ボアズは自分の若者たちに命じて言った。「彼女には束のあいだでも落ち穂を拾わせ、彼女を責めてはならない。
16 また、彼女のために束から少し抜き出して残しておきなさい。彼女に拾わせ、叱りつけてはならない。」
17 こうして彼女は夕暮れまで畑で落ち穂を拾った。彼女が拾ったものを打つと、大麦約一エパ* になった。
18 彼女はそれを担いで町に入った。しゅうとめは彼女が拾い集めたものを見た。ルツは、自分が満ち足りた後に残しておいたものを取り出して、しゅうとめに渡した。
19 しゅうとめは彼女に言った。「あなたは今日どこで落ち穂を拾ったのですか。どこで働いたのですか。あなたを顧みてくれた人に祝福がありますように。」
ルツは自分がだれのところで働いたかをしゅうとめに告げ、「私が今日一緒に働いた人の名はボアズです」と言った。
20 ナオミは嫁に言った。「生きている者たちにも死んだ者たちにも慈しみを捨てられなかった主から、その人が祝福されますように。」さらにナオミは言った。「その人は私たちの近い親族であり、私たちの贖いの権利を持つ親族の一人です。」
21 モアブの女ルツは言った。「それだけではありません。彼は私に、『私の収穫をすべて終えるまで、私の若者たちのそばにいなさい』と言われました。」
22 ナオミは嫁のルツに言った。「私の娘よ、あなたが彼の若い女たちと一緒に出かけるのは良いことです。そうすれば、ほかの畑でだれかに害を受けずに済むでしょう。」
23 こうして彼女はボアズの若い女たちのそばにいて、大麦の収穫と小麦の収穫が終わるまで落ち穂を拾った。そして、しゅうとめと一緒に住んだ。

3

1 しゅうとめナオミは彼女に言った。「私の娘よ。私はあなたのために、あなたが安息を得て幸せになれる場所を探すべきではないでしょうか。
2 さて、あなたが一緒にいた若い女たちの主人であるボアズは、私たちの親族ではありませんか。見なさい、彼は今夜、打ち場で大麦をあおぎ分けます。
3 ですから、身を洗い、油を塗り、衣を着て、打ち場へ下って行きなさい。ただし、彼が飲み食いを終えるまで、その人に気づかれてはなりません。
4 彼が横たわる時、あなたは彼が横たわる場所を見定め、そこへ行って、彼の足の覆いをめくり、横たわりなさい。そうすれば、あなたが何をすべきかを彼が教えてくれるでしょう。」
5 ルツはナオミに言った。「あなたが言われることはすべて行います。」

* **2:17 2:17** 一エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

6 彼女は打ち場へ下って行き、しゅうとめが命じたすべてのとおりに行った。
7 ボアズは飲み食いし、その心が陽気になると、穀物の山の端に横たわるために行った。彼女はそっと近づき、彼の足の覆いをめくって横たわった。
8 真夜中になって、その人は驚いて身を起こした。すると見よ、一人の女が彼の足元に横たわっていた。
9 彼は言った。「あなたはだれですか。」
彼女は答えた。「私はあなたのはしためルツです。どうか、あなたの衣の裾をこのはしための上に広げてください。あなたは近い親族だからです。」
10 彼は言った。「私の娘よ、あなたが主に祝福されますように。あなたは後の慈しみを、初めの慈しみにまさって示しました。貧しい者であれ富む者であれ、若者たちの後を追わなかったからです。
11 さあ、私の娘よ。恐れることはありません。あなたが言うことはすべて、私はあなたのためにしましょう。私の民の町全体が、あなたが立派な女であることを知っているからです。
12 確かに、私が近い親族であるのは事実です。しかし、私よりも近い親族がいます。
13 今夜はここに留まりなさい。朝になって、もしその人があなたのために親族の務めを果たすなら、それでよいのです。その人に親族の務めを果たさせましょう。しかし、もしその人があなたのために親族の務めを果たそうとしないなら、主が生きておられるように、私があなたのために親族の務めを果たします。朝まで横たわっていなさい。」
14 彼女は朝まで彼の足元に横たわり、人が互いに見分けられる前に起き上がった。ボアズが「この女が打ち場に来たことが知られてはならない」と言ったからである。
15 彼は言った。「あなたが着ている上着を持って来て、広げなさい。」彼女がそれを広げると、彼は大麦を六杯分量って彼女に負わせた。それから彼は町へ入って行った。
16 彼女がしゅうとめのもとに帰って来ると、しゅうとめは言った。「どうでしたか、私の娘よ。」
ルツは、その人が自分にしてくれたすべてのことをしゅうとめに告げた。
17 また彼女は言った。「『しゅうとめのところへ手ぶらで帰ってはならない』と言って、この大麦六杯を私にくださいました。」
18 するとナオミは言った。「待っていなさい、私の娘よ。この事がどうなるかが分かるまで。あの人は今日この事を決着させなければ、決して休まないでしょう。」

4

1 さて、ボアズは門へ上って行き、そこに座った。見よ、ボアズが語っていたあの近い親族が通りかかった。ボアズは彼に言った。「友よ、こちらへ来て座ってください。」その人は近寄って座った。
2 ボアズは町の長老たちの中から十人の男を選び、「ここに座ってください」と言った。そこで彼らは座った。
3 ボアズはその近い親族に言った。「モアブの国から帰って来たナオミが、私たちの兄弟エリメレクのものであった畑の一部を売ろうとしています。
4 私はあなたに知らせて、『ここに座っている人々の前で、また私の民の長老たちの前で、それを買い取ってください』と言うべきだと考えました。もしあなたがそれを贖うなら、贖ってください。しかし、もしあなたが贖わないなら、私に告げて知らせてください。あなたのほかにそれを贖う者はなく、私はあなたの次だからです。」
彼は言った。「私がそれを贖いましょう。」

5 するとボアズは言った。「あなたがナオミの手からその畑を買う日には、死んだ者の名をその所有地の上に起こすために、死んだ者の妻であるモアブの女ルツからもそれを買わなければなりません。」
6 すると近い親族は言った。「私は自分のためにそれを贖うことはできません。自分の所有地を損なうことになるといけないからです。私の贖いの権利をあなたが自分のために引き受けてください。私はそれを贖うことができません。」
7 かつてイスラエルでは、贖うことや交換することについて、すべての事柄を確定するために、このような慣習があった。すなわち、人が自分の履き物を脱いで隣人に渡したのである。これがイスラエルにおける証明の方法であった。
8 それで、その近い親族はボアズに、「自分のためにそれを買ってください」と言って、自分の履き物を脱いだ。
9 ボアズは長老たちとすべての民に言った。「私が、エリメレクのすべてのもの、またキルヨンとマフロンのすべてのものをナオミの手から買い取ったことについて、あなたがたは今日あかし人です。
10 さらに私は、死んだ者の名がその兄弟たちの間から、またその場所の門から断ち切られないように、その所有地の上に死んだ者の名を起こすため、マフロンの妻であったモアブの女ルツを妻として得ました。あなたがたは今日あかし人です。」
11 門にいたすべての民と長老たちは言った。「私たちはあかし人です。主が、あなたの家に入って来るその女を、二人でイスラエルの家を建て上げたラケルとレアのようにしてくださいますように。あなたがエフラタで立派に振る舞い、ベツレヘムで名を上げますように。
12 また、主がこの若い女を通してあなたに与えられる子孫* によって、あなたの家が、タマルがユダに産んだペレツの家のようになりますように。」
13 こうしてボアズはルツをめとり、彼女は彼の妻となった。彼が彼女のところに入ると、主は彼女を身ごもらせ、彼女は男の子を産んだ。
14 女たちはナオミに言った。「主がほめたたえられますように。主は今日、あなたを近い親族のいないままにしておかれませんでした。その子の名がイスラエルの中で高められますように。
15 その子はあなたにとって命を回復させる者となり、老年を支える者となるでしょう。あなたを愛し、七人の息子にもまさるあなたの嫁が、その子を産んだからです。」
16 ナオミはその子を取り、自分の胸に抱き、その子を養い育てる者となった。
17 近所の女たちは、「ナオミに男の子が生まれた」と言って、その子に名を与えた。彼女たちは彼をオベデと名付けた。彼はダビデの父であるエッサイの父である。
18 さて、ペレツの系図は次のとおりである。ペレツはヘツロンの父となり、
19 ヘツロンはラムの父となり、ラムはアミナダブの父となり、
20 アミナダブはナフションの父となり、ナフションはサルモンの父となり、
21 サルモンはボアズの父となり、ボアズはオベデの父となり、
22 オベデはエッサイの父となり、エッサイはダビデの父となった。

* **4:12 4:12** または「種」。

サムエル記第一

1 エフライムの山地にあるラマタイム・ツォフィムに、一人の男がいた。その名はエルカナといい、エロハムの子、エリフの子、トフの子、ツフの子で、エフライム人であった。
2 彼には二人の妻がいた。一人の名はハンナ、もう一人の名はペニンナであった。ペニンナには子どもたちがいたが、ハンナには子どもがいなかった。
3 この男は年ごとに自分の町から上って行き、シロで万軍の主*を礼拝し、いけにえを献げた。そこには主の祭司であるエリの二人の息子、ホフニとピネハスがいた。
4 エルカナがいけにえを献げる日が来た時、彼は妻ペニンナと、彼女のすべての息子、娘たちにそれぞれ分を与えた。
5 しかしハンナには二倍の分を与えた。彼がハンナを愛していたからである。しかし主は彼女の胎を閉ざしておられた。
6 彼女の敵は、主が彼女の胎を閉ざしておられることで、彼女を激しくいらだたせ、苦しめた。
7 ハンナが主の宮に上って行く年ごとに、ペニンナはそのようにして彼女をいらだたせた。そのため、ハンナは泣いて、何も食べなかった。
8 夫エルカナは彼女に言った。「ハンナよ、なぜ泣いているのか。なぜ食べないのか。なぜ心を痛めているのか。わたしはあなたにとって、十人の息子よりも良い者ではないか。」
9 こうして彼らがシロで飲み食いした後、ハンナは立ち上がった。その時、祭司エリは主の神殿の戸柱のそばの席に座っていた。
10 彼女は魂に苦しみを抱き、激しく泣きながら主に祈った。
11 彼女は誓願を立てて言った。「万軍の主よ。もしあなたが、はしためのの苦しみを確かにご覧になり、わたしを思い出し、はしためを忘れず、はしためのに男の子を与えてくださるなら、わたしはその子を一生涯、主に献げ、その頭に剃刀を当てることはしません。」
12 彼女が主の御前で長く祈っていた時、エリは彼女の口元を見つめていた。
13 ハンナは心の中で語っており、唇が動いているだけで声は聞こえなかった。そのため、エリは彼女が酔っているのだと思った。
14 エリは彼女に言った。「いつまで酔っているつもりか。ぶどう酒をやめなさい。」
15 ハンナは答えて言った。「いいえ、わが主よ。わたしは霊の沈んだ女です。ぶどう酒も強い酒も飲んでいません。ただ主の御前に、自分の魂を注ぎ出していたのです。
16 はしためを、よこしまな女と思わないでください。大きな嘆きと苦しみのゆえに、今まで語っていたのです。」
17 するとエリは答えて言った。「平安のうちに行きなさい。イスラエルの神†が、あなたの求めた願いをかなえてくださるように。」
18 彼女は言った。「はしためがあなたの目に恵みを得られますように。」こうしてその女は自分の道を行き、食事をした。彼女の顔はもはや悲しげではなくなった。
19 彼らは朝早く起き、主の御前で礼拝し、ラマにある自分の家に帰って行った。エルカナが妻ハンナを知ると、主は彼女を思い出された。

---

* **1:3 1:3** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（ヤ
† **1:17 1:17** 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

20 時が巡ってハンナは身ごもり、男の子を産んだ。彼女は「わたしが主からこの子を求めたからです」と言って、その子をサムエル‡と名付けた。
21 その男エルカナは、家族のすべての者とともに、年ごとのいけにえと自分の誓願のささげ物を主に献げるために上って行った。
22 しかしハンナは上って行かなかった。彼女が夫に、「子どもが乳離れするまでは上りません。その後、わたしが彼を連れて行き、彼が主の御前に現れ、いつまでもそこに留まるようにします」と言ったからである。
23 夫エルカナは彼女に言った。「あなたの目に良いと思われることをしなさい。その子が乳離れするまで留まりなさい。ただ、主がその言葉を成し遂げてくださるように。」こうして女は留まり、息子が乳離れするまで乳を飲ませた。
24 彼女はその子が乳離れした時、三頭の雄牛、一エパ§の粉、ぶどう酒の皮袋一つを携えて彼を連れ上り、シロにある主の宮へ連れて行った。その子はまだ幼かった。
25 彼らは雄牛を屠り、その子をエリのもとに連れて来た。
26 彼女は言った。「ああ、わが主よ。あなたの魂が生きておられるように、わが主よ。わたしはここであなたのそばに立って、主に祈っていた女です。
27 わたしはこの子のために祈りました。すると主は、わたしが求めた願いをかなえてくださいました。
28 それゆえ、わたしも彼を主に委ねます。彼が生きている限り、彼は主に委ねられた者です。」彼はそこで主を礼拝した。

2

1 ハンナは祈って言った。
「わたしの心は主にあって喜び踊る。
　わたしの角は主にあって高く上げられる。
わたしの口は敵に向かって大きく開かれる。
　わたしはあなたの救いを喜ぶからである。

2 主のように聖なる方はおられない。
　あなたのほかに神はなく、
　私たちの神のような岩はない。

3 これ以上、高ぶって語ってはならない。
　あなたがたの口から傲慢な言葉を出してはならない。
主は知識の神であり、
　すべての行いは主によって量られるからである。

4 勇士たちの弓は折られ、
　つまずく者たちは力を帯びる。

5 満ち足りていた者たちはパンのために身を雇い、
　飢えていた者たちはもはや飢えることがない。
そうだ、不妊の女は七人の子を産み、
　多くの子を持つ女は弱り果てる。

6 主は殺し、また生かされる。
　主はよみ* に下らせ、また上らせられる。

---

‡ **1:20** **1:20** 「サムエル」はヘブル語で「神に聞かれた」に似た響きを持つ。
§ **1:24** **1:24** 一エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。
* **2:6** **2:6** 「よみ」は死者の場所を指す。

7 主は貧しくし、また富ませられる。
　主は低くし、また高く上げられる。

8 主は貧しい者をちりから起き上がらせ、
　助けを必要とする者を灰の山から引き上げられる。
彼らを君主たちとともに座らせ、
　栄光の座を受け継がせるためである。
地の柱は主のものであり、
　主はその上に世界を据えられたからである。

9 主はご自身の聖なる者たちの足を守られる。
　しかし悪者たちは暗闇の中で沈黙させられる。
　人は力によって勝つのではないからである。

10 主と争う者たちは打ち砕かれる。
　主は天から彼らに向かって雷を鳴らされる。

主は地の果てをさばかれる。
　主はその王に力を与え、
　ご自身が油注がれた者の角を高く上げられる。」
11 エルカナはラマにある自分の家へ行った。その子どもは祭司エリの前で主に仕えた。
12 さて、エリの息子たちはならず者であった。彼らは主を知らなかった。
13 祭司たちが民に対して行っていた慣習はこうであった。だれかがいけにえを献げ、肉を煮ている時、祭司のしもべが三つ又の肉刺しを手に持って来て、
14 それを鉢、釜、大釜、鍋に突き入れた。肉刺しが引き上げたものはすべて、祭司が自分のために取った。彼らはシロに来るすべてのイスラエル人にそのように行った。
15 それだけでなく、彼らが脂肪を焼く前にも、祭司のしもべが来て、いけにえを献げる人に言った。「祭司に焼くための肉を渡しなさい。祭司はあなたから煮た肉ではなく、生の肉を受け取るからだ。」
16 もしその人が彼に、「まず脂肪を焼かせてください。その後で、あなたの魂が望むままに取りなさい」と言えば、彼は「いや、今すぐ渡さなければならない。もしそうしないなら、力ずくで奪い取る」と言った。
17 それゆえ、その若者たちの罪は主の御前で非常に大きかった。人々が主のささげ物を侮ったからである。
18 しかしサムエルは、まだ子どもであったが、亜麻布のエポデを身に着けて主の御前で仕えていた。
19 彼の母は彼のために小さな上着を作り、年ごとのいけにえを献げるために夫とともに上って行くたびに、それを彼に持って行った。
20 エリはエルカナとその妻を祝福して言った。「この女が主に求めた願いの代わりに、主がこの女によってあなたに子孫†を与えてくださるように。」そして彼らは自分の家に帰って行った。
21 主がハンナを顧みられたので、彼女は身ごもり、三人の息子と二人の娘を産んだ。子どものサムエルは主の御前で成長した。
22 さて、エリは非常に年をとっていた。彼は自分の息子たちが全イスラエルに対して行っているすべてのことや、会見の天幕の入り口で奉仕する女たちと寝ていることを聞いた。
23 彼は彼らに言った。「なぜおまえたちはこのようなことをするのか。わたしはこれらすべての民から、おまえたちの悪行を聞いている。

† **2:20 2:20** または「種」。

24 わたしの息子たちよ、それはいけない。わたしが聞くうわさは良いものではない。おまえたちは主の民に背かせている。
25 もし人が人に対して罪を犯したなら、神がその人をさばかれるだろう。しかし、もし人が主に対して罪を犯したなら、だれがその人のために執り成しをするだろうか。」それにもかかわらず、彼らは父の声に聞き入れなかった。主が彼らを殺そうと望まれたからである。
26 子どものサムエルはますます成長し、主にも人々にもますます恵みを得ていった。
27 ある神の人がエリのもとに来て彼に言った。「主はこう言われる。『あなたの父の家がエジプトでファラオの家の奴隷であった時、わたしは確かに彼らに自分を現したではないか。
28 わたしは彼をイスラエルのすべての部族の中から選んでわたしの祭司とし、わたしの祭壇に上り、香をたき、わたしの前でエポデを身に着けるようにしたではないか。わたしはあなたの父の家に、イスラエルの人々が火で献げるすべてのささげ物を与えたではないか。
29 なぜおまえたちは、わたしがわたしの住まいで命じたいけにえとささげ物を足で踏みつけ、わたしよりも自分の息子たちを重んじて、わたしの民イスラエルのすべてのささげ物のうち最も良い部分で自分たちを肥え太らせるのか。』
30 それゆえ、イスラエルの神、主は言われる。『わたしは確かに、あなたの家とあなたの父の家が、いつまでもわたしの前を歩むと言った。』しかし今、主は言われる。『それはわたしから遠く離れている。わたしをあがめる者をわたしはあがめ、わたしを侮る者は軽んじられるからである。
31 見よ、わたしがあなたの腕とあなたの父の家の腕を切り落とし、あなたの家には老人がいなくなる日が来る。
32 あなたは、神がイスラエルに与えられるすべての幸いの中で、わたしの住まいの苦難を見るであろう。あなたの家にはいつまでも老人がいないであろう。
33 わたしがわたしの祭壇から断ち切らずに残すあなたの家の者は、あなたの目を衰えさせ‡、あなたの魂を悲しませるためである。あなたの家に生まれる者は皆、若い壮年の時に死ぬであろう。
34 あなたの二人の息子、ホフニとピネハスに臨むことが、あなたに対するしるしとなる。彼らは一日のうちに二人とも死ぬであろう。
35 わたしは自分のために忠実な祭司を起こす。彼はわたしの心と魂にあるとおりに行う。わたしは彼のために確かな家を建て、彼はわたしが油注いだ者の前をいつまでも歩む。
36 あなたの家に残された者は皆、来て銀の一枚とパンの一塊のために彼にひれ伏し、「どうか、わたしがパンの一切れを食べられるように、わたしを祭司の職務の一つに就かせてください」と言うであろう。』」

3

1 子どものサムエルはエリの前で主に仕えていた。その頃、主の言葉はまれであり、幻は多くなかった。
2 その頃、エリは自分の場所で横になっていた。彼の目はかすみ始め、見ることができなかった。
3 神のともしびはまだ消えておらず、サムエルは神の箱がある主の神殿で横になっていた。
4 その時、主はサムエルを呼ばれた。彼は「はい、ここにおります」と言った。
5 彼はエリのところに走って行き、「はい、ここにおります。あなたがわたしを呼ばれたからです」と言った。

‡ **2:33 2:33** または「あなたの目を涙で見えなくさせ」

エリは「わたしは呼んでいない。戻って寝なさい」と言った。そこで彼は行って横になった。
6 主は再び「サムエルよ」と呼ばれた。
サムエルは起きてエリのところに行き、「はい、ここにおります。あなたがわたしを呼ばれたからです」と言った。
彼は答えた。「わたしは呼んでいない、わたしの子よ。戻って寝なさい。」
7 サムエルはまだ主を知らず、主の言葉もまだ彼に啓示されていなかった。
8 主は三度目に再びサムエルを呼ばれた。彼は起きてエリのところに行き、「はい、ここにおります。あなたがわたしを呼ばれたからです」と言った。
エリはその時、主がその子を呼んでおられることを悟った。
9 そこでエリはサムエルに言った。「行って横になりなさい。もしあの方があなたを呼ばれたら、あなたは『主よ、お話しください。しもべは聞いております』と言いなさい。」こうしてサムエルは行って自分の場所で横になった。
10 主が来て立たれ、他の時のように「サムエルよ、サムエルよ」と呼ばれた。
するとサムエルは言った。「お話しください。しもべは聞いております。」
11 主はサムエルに言われた。「見よ、わたしはイスラエルにおいて一つのことを行う。それを聞く者は皆、両耳が鳴るであろう。
12 その日、わたしはエリの家についてわたしが語ったすべてのことを、初めから終わりまでエリに対して実行する。
13 わたしは彼に、彼の家を永遠にさばくことを告げた。それは彼が知っている咎のためである。彼の息子たちが自分たちの上にのろいを招いたのに、彼が彼らを戒めなかったからである。
14 それゆえ、わたしはエリの家について誓った。エリの家の咎は、いけにえやささげ物によって永遠に取り除かれることはない。」
15 サムエルは朝まで横たわり、主の家の戸を開けた。サムエルはその幻をエリに告げることを恐れた。
16 しかしエリはサムエルを呼んで言った。「サムエル、わたしの子よ。」
彼は「はい、ここにおります」と言った。
17 エリは言った。「あの方があなたに語られた言葉は何であったか。どうか、わたしに隠さないでほしい。もしあの方があなたに語られたすべての言葉のうち、一つでもわたしに隠すなら、神があなたにそうされ、さらにそれ以上のことをされるように。」
18 サムエルは彼にすべてを告げ、彼に何も隠さなかった。
彼は言った。「その方は主である。その方の目に良いと思われることを、その方が行われるように。」
19 サムエルは成長し、主は彼とともにおられ、彼のどの言葉も地に落ちることはなかった。
20 ダンからベエル・シェバに至るまでの全イスラエルは、サムエルが主の預言者として立てられたことを知った。
21 主は再びシロに現れられた。主がシロにおいて主の言葉によってご自身をサムエルに啓示されたからである。

4

1 サムエルの言葉は全イスラエルに臨んだ。さて、イスラエルはペリシテ人と戦うために出て行き、エベン・エゼルのそばに陣を敷いた。ペリシテ人はアフェクに陣を敷いた。
2 ペリシテ人はイスラエルに向かって陣形を整えた。戦いが始まると、イスラエルはペリシテ人の前に打ち負かされ、野の陣営で約四千人が殺された。
3 民が陣営に帰って来た時、イスラエルの長老たちは言った。「なぜ主は今日、ペリシテ人の前で私たちを打ち負かされたのか。シロから主の契

約の箱を私たちのところに持って来よう。それが私たちの間に来て、私たちを敵の手から救い出すように。」
4 そこで民はシロに人を遣わし、そこからケルビムの上に座しておられる万軍の主の契約の箱を持って来た。神の契約の箱とともに、エリの二人の息子ホフニとピネハスがそこにいた。
5 主の契約の箱が陣営に入って来た時、全イスラエルが大声で叫んだので、地は鳴り響いた。
6 ペリシテ人がその叫び声を聞いた時、彼らは言った。「ヘブル人の陣営におけるこの大きな叫び声は何の意味か。」彼らは、主の箱が陣営に入って来たことを悟った。
7 ペリシテ人は恐れた。彼らが、「神が陣営に入って来た」と言ったからである。彼らは言った。「私たちにわざわいが下る。今までこのようなことはなかったからだ。
8 私たちにわざわいが下る。だれがこの力ある神々の手から私たちを救い出せるだろうか。これらは、荒野であらゆる災害をもってエジプト人を打った神々である。
9 ペリシテ人よ、強くあり、男らしく振る舞え。彼らがあなたがたに仕えたように、ヘブル人に仕えることがないように。男らしく振る舞って戦え。」
10 ペリシテ人は戦い、イスラエルは打ち負かされ、それぞれ自分の天幕へ逃げ去った。そこには非常に大きな殺戮があり、イスラエルの歩兵三万人が倒れた。
11 神の箱は奪われ、エリの二人の息子ホフニとピネハスは殺された。
12 ベニヤミンのある男が陣営から走り出し、その日のうちにシロに来た。彼の衣は引き裂かれ、頭には土をかぶっていた。
13 彼が来た時、見よ、エリは道端の自分の席に座って見守っていた。彼の心は神の箱のことで震えていたからである。その男が町に入って来て報告すると、町全体が叫び声を上げた。
14 エリはその叫び声を聞いた時、「この騒ぎの声は何の意味か」と言った。その男は急いで来て、エリに告げた。
15 さて、エリは九十八歳であった。彼の目は見えなくなり、見ることはできなかった。
16 男はエリに言った。「わたしは陣営から出て来た者です。今日、わたしは陣営から逃げて来ました。」彼が「わたしの息子よ、事の次第はどうであったか」と言うと、
17 報告をもたらした者は答えて、「イスラエルはペリシテ人の前で逃げ去り、民の中には大きな殺戮もありました。あなたの二人の息子、ホフニとピネハスも死に、神の箱は奪われました」と言った。
18 彼が神の箱について言及した時、エリは門のそばで席から後ろに倒れ、首を折って死んだ。彼は年老いており、体が重かったからである。彼は四十年の間イスラエルをさばいた。
19 彼の嫁であるピネハスの妻は身ごもっており、出産が近づいていた。彼女は神の箱が奪われたこと、そしてしゅうとと夫が死んだという知らせを聞いた時、身をかがめて出産した。産みの苦しみが彼女を襲ったからである。
20 彼女が死のうとしていた時、そばに立っていた女たちが彼女に「恐れることはない。あなたは男の子を産んだのだから」と言った。しかし彼女は答えず、気にも留めなかった。
21 彼女はその子をイカボデ*と名付け、「栄光はイスラエルから去った」と言った。神の箱が奪われたためであり、また彼女のしゅうとと夫のためであった。

* **4:21 4:21** 「イカボデ」は「栄光はない」という意味である。

22 彼女は言った。「栄光はイスラエルから去った。神の箱が奪われたからである。」

5

1 さて、ペリシテ人は神の箱を奪い、それをエベン・エゼルからアシュドドへ持って来た。
2 ペリシテ人は神の箱を取り、それをダゴンの宮に運び入れ、ダゴンのそばに置いた。
3 翌日、アシュドドの人々が朝早く起きると、見よ、ダゴンは主の箱の前で顔を地に向けて倒れていた。彼らはダゴンを取り、再び元の場所に置いた。
4 彼らが翌朝早く起きると、見よ、ダゴンは主の箱の前で顔を地に向けて倒れており、ダゴンの頭と両手の手のひらは敷居の上で切り落とされていた。ダゴンの胴体だけが無傷であった。
5 それゆえ、ダゴンの祭司たちも、ダゴンの宮に入る者も皆、今日に至るまでアシュドドにあるダゴンの敷居を踏まない。
6 しかし主の手はアシュドドの人々の上に重くのしかかり、主は彼らを滅ぼし、アシュドドとその地域を腫れ物で打たれた。
7 アシュドドの人々はそうなったのを見て言った。「イスラエルの神の箱を私たちのところに留めておいてはならない。その手が私たちと私たちの神ダゴンの上に厳しいからである。」
8 そこで彼らは人を遣わし、ペリシテ人のすべての君主たちを自分たちのところに集めて言った。「私たちはイスラエルの神の箱をどうすべきか。」彼らは答えた。「イスラエルの神の箱をガテへ移すようにせよ。」彼らはイスラエルの神の箱をそこへ移した。
9 彼らがそれをそこへ移した後、主の手はその町に臨み、非常に大きな混乱をもたらされた。主はその町の男たちを、小さい者から大きい者まで打たれたため、腫れ物が彼らの上に吹き出た。
10 そこで彼らは神の箱をエクロンに送った。神の箱がエクロンに来た時、エクロン人は叫んで言った。「彼らは私たちと私たちの民を殺すために、イスラエルの神の箱を私たちのところに移したのだ。」
11 そこで彼らは人を遣わし、ペリシテ人のすべての君主たちをともに集めて言った。「イスラエルの神の箱を送り出し、元の場所へ帰らせてくれ。それが私たちと私たちの民を殺すことがないように。」全町を通じて死の混乱があったからである。神の手はそこで非常に重かった。
12 死ななかった男たちは腫れ物で打たれ、町の叫び声は天に上った。

6

1 主の箱は七か月の間、ペリシテ人の国にあった。
2 ペリシテ人は祭司たちと占い師たちを呼んで言った。「私たちは主の箱をどうすべきか。それをどのようにして元の場所に送るべきか、私たちに教えてくれ。」
3 彼らは言った。「もしイスラエルの神の箱を送り出すなら、空のままで送ってはならない。必ずその方に償いのささげ物を返しなさい。そうすればあなたがたは癒やされ、なぜその方の手があなたがたから除かれないのかが分かるだろう。」
4 すると彼らは言った。「私たちがその方に返す償いのささげ物は何であるべきか。」彼らは言った。「ペリシテ人の君主たちの数に従って、五つの金の腫れ物と五つの金のねずみである。あなたがたすべての上にも、あなたがたの君主たちの上にも、同じ災害が下ったからだ。

5 それゆえ、あなたがたの腫れ物の像と、地を荒らすねずみの像を作り、イスラエルの神に栄光を帰しなさい。もしかすると、彼の手があなたがたから、あなたがたの神々から、またあなたがたの地から軽くなるかもしれない。
6 なぜあなたがたは、エジプト人とファラオが心をかたくなにしたように、心をかたくなにするのか。彼が彼らの間で不思議なみわざを行われた時、彼らは民を去らせ、民は出て行ったではないか。

7 それゆえ今、新しい荷車一つと、まだくびきを負ったことのない乳を飲ませている雌牛二頭を取り、用意しなさい。そして雌牛を荷車につなぎ、その子牛を彼らから引き離して家に連れ帰りなさい。
8 主の箱を取り、それを荷車の上に載せなさい。償いのささげ物としてその方に返す金の品々を、その傍らの小箱に入れなさい。そしてそれを送り出し、行かせなさい。
9 そして見なさい。もしそれが自分の国境への道を上ってベテ・シェメシュへ行くなら、その方がこの大きなわざわいを私たちに下したのである。しかしそうでないなら、私たちを打ったのはその方の手ではないことが分かる。それは私たちに起こった偶然である。」
10 人々はそのように行い、乳を飲ませている雌牛二頭を取り、それを荷車につなぎ、その子牛を家に閉じ込めた。
11 彼らは主の箱と、金のねずみと彼らの腫れ物の像が入った箱を荷車の上に置いた。
12 雌牛はベテ・シェメシュへの道をまっすぐに進んだ。それらは大通りを歩み、鳴きながら進み、右にも左にも逸れなかった。ペリシテ人の君主たちはベテ・シェメシュの境界までその後について行った。

13 ベテ・シェメシュの人々は谷で小麦の収穫をしていた。彼らが目を上げて箱を見ると、それを見て喜んだ。
14 荷車はベテ・シェメシュのヨシュアの畑に入り、そこに大きな石があるところに止まった。彼らは荷車の木を割り、雌牛を全焼のささげ物として主に献げた。
15 レビ人たちは主の箱と、それとともにあった金の品々が入っている箱を下ろし、それらを大きな石の上に置いた。ベテ・シェメシュの人々はその日、全焼のささげ物を献げ、いけにえを主に屠った。
16 ペリシテ人の五人の君主たちはそれを見た時、その日のうちにエクロンへ帰って行った。

17 ペリシテ人が償いのささげ物として主に返した金の腫れ物は次のとおりである。アシュドドのために一つ、ガザのために一つ、アシュケロンのために一つ、ガテのために一つ、エクロンのために一つ。
18 そして金のねずみは、城壁のある町々と田舎の村々を含め、五人の君主に属するペリシテ人のすべての町々の数に従っていた。彼らが主の箱を置いた大きな石に至るまでである。その石は今日に至るまで、ベテ・シェメシュのヨシュアの畑に残っている。

19 主はベテ・シェメシュの人々を打たれた。彼らが主の箱の中を見たため、民のうち五万七十人を打たれた。主が大きな殺戮をもって民を打たれたので、民は嘆き悲しんだ。
20 ベテ・シェメシュの人々は言った。「この聖なる神、主の前にだれが立つことができるだろうか。主は私たちから離れて、だれのところに上って行かれるのか。」
21 彼らはキルヤテ・エアリムの住民に使者たちを遣わして言った。「ペリシテ人が主の箱を返して来た。下って来て、それをあなたがたのところに持って上がりなさい。」

7

1 キルヤテ・エアリムの人々は来て、主の箱を運び上げ、丘にあるアビナダブの家に運び入れた。そして彼の子エルアザルを聖別し、主の箱を守らせた。
2 箱がキルヤテ・エアリムに留まった日から長い時が経ち、二十年になった。イスラエルの全家は主を慕い求めて嘆き悲しんだ。
3 サムエルはイスラエルの全家に語って言った。「もしあなたがたが心を尽くして主に立ち返るなら、異国の神々とアシュタロテをあなたがたの中から除き去り、心を主に向けて主にのみ仕えなさい。そうすれば、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出してくださる。」
4 そこでイスラエルの人々はバアルとアシュタロテを除き去り、主にのみ仕えた。
5 サムエルは言った。「全イスラエルをミツパに集めなさい。わたしがあなたがたのために主に祈ろう。」
6 彼らはミツパにともに集まり、水を汲んで主の御前に注ぎ出し、その日は断食して、そこで「私たちは主に対して罪を犯した」と言った。サムエルはミツパでイスラエルの人々をさばいた。
7 イスラエルの人々がミツパにともに集まったことをペリシテ人が聞いた時、ペリシテ人の君主たちはイスラエルに対して上って来た。イスラエルの人々がそれを聞いた時、彼らはペリシテ人を恐れた。
8 イスラエルの人々はサムエルに言った。「私たちがペリシテ人の手から救われるように、私たちのために、私たちの神、主に向かって叫び求めるのをやめないでほしい。」
9 サムエルは乳飲み羊を一匹取り、それを全焼のささげ物として主に献げた。サムエルがイスラエルのために主に向かって叫び求めると、主は彼に答えられた。
10 サムエルが全焼のささげ物を献げていた時、ペリシテ人はイスラエルと戦うために近づいて来た。しかし主はその日、ペリシテ人の上に大きな雷鳴をとどろかせて彼らを混乱に陥れられたため、彼らはイスラエルの前で打ち倒された。
11 イスラエルの男たちはミツパから出て行き、ペリシテ人を追撃して彼らを打ち、ベテ・カルの下まで至った。
12 それからサムエルは一つの石を取り、ミツパとシェンの間にそれを立てて、その名をエベン・エゼル*と呼び、「ここまで主が私たちを助けてくださった」と言った。
13 こうしてペリシテ人は服従させられ、イスラエルの境界内に二度と入って来なかった。サムエルの生きている間、主の手はペリシテ人に逆らっていた。
14 ペリシテ人がイスラエルから奪った町々は、エクロンからガテに至るまでイスラエルに返還され、イスラエルはその境界をペリシテ人の手から取り戻した。イスラエルとアモリ人との間には平和があった。
15 サムエルは一生の間、イスラエルをさばいた。
16 彼は年ごとにベテル、ギルガル、およびミツパを巡回し、これらすべての場所でイスラエルをさばいた。
17 彼が帰る所はラマであった。そこに彼の家があったからである。彼はそこでもイスラエルをさばき、そこに主のための祭壇を築いた。

8

1 サムエルが年老いた時、彼は自分の息子たちをイスラエルをさばく者とした。

---

* **7:12 7:12** 「エベン・エゼル」は「助けの石」という意味である。

2 彼の長子の名はヨエル、次子の名はアビヤといった。彼らはベエル・シェバでさばいていた。
3 彼の息子たちは彼の道を歩まず、不正な利益を求めてそれて行き、賄賂を取り、さばきを曲げた。
4 そこでイスラエルの長老たちは皆集まり、ラマにいるサムエルのところに来た。
5 彼らは彼に言った。「見よ、あなたは年老い、あなたの息子たちはあなたの道を歩んでいない。今、すべての国々のように、私たちをさばく王を私たちのために立ててほしい。」
6 しかし彼らが、「私たちをさばく王を与えよ」と言った時、そのことはサムエルの目に悪く映った。サムエルは主に祈った。
7 主はサムエルに言われた。「民があなたに言うすべてのことについて、彼らの声に聞き従いなさい。彼らが退けたのはあなたではない。わたしが彼らの上に王として治めることを退けたのである。
8 わたしが彼らをエジプトから導き上げた日から今日に至るまで、彼らが行ってきたすべての行いのとおりである。彼らはわたしを捨てて他の神々に仕えたように、あなたにもそのようにしている。
9 それゆえ今、彼らの声に聞き従いなさい。しかし、彼らに厳しく警告し、彼らを治める王のやり方を彼らに示しなさい。」
10 サムエルは、王を求めた民に主のすべての言葉を語った。
11 彼は言った。「あなたがたを治める王のやり方はこうである。彼はあなたがたの息子たちを取り、自分のために任命して、自分の戦車に乗せ、自分の騎兵とする。彼らは王の戦車の前を走るであろう。
12 また彼は自分に千人隊の長、五十人隊の長を任命する。また一部の者を、自分の地を耕させ、自分の収穫を刈り取らせ、自分の戦いの武器や戦車の装備を作らせるために置く。
13 彼はあなたがたの娘たちを取り、香料を作る者、料理人、パンを焼く者とする。
14 彼はあなたがたの畑、ぶどう畑、オリーブ畑の最も良いものを取り、自分の家来たちに与える。
15 彼はあなたがたの種とぶどう畑の収穫の十分の一を取り、自分の役人や家来たちに与える。
16 彼はあなたがたの男奴隷、女奴隷、あなたがたの最も良い若者たち、またあなたがたのろばを取り、自分の仕事に使わせる。
17 彼はあなたがたの羊の群れの十分の一を取り、あなたがたは彼の奴隷となる。
18 その日、あなたがたは自分たちのために選んだ王のゆえに叫び求めるであろうが、主はその日、あなたがたに答えられないであろう。」
19 しかし民はサムエルの声に聞き入れることを拒み、こう言った。「いいえ、どうしても私たちの上に王がいなければならない。
20 私たちも他のすべての国々のようになり、私たちの王が私たちをさばき、私たちの前に出て行って私たちの戦いを戦うためだ。」
21 サムエルは民のすべての言葉を聞き、それを主の耳に入れた。
22 主はサムエルに言われた。「彼らの声に聞き従い、彼らのために王を立てよ。」サムエルはイスラエルの男たちに言った。「それぞれ自分の町に帰りなさい。」

9

1 ベニヤミン人の中にキシュという名の男がいた。彼はアビエルの子、ツェロルの子、ベコラテの子、アフィアの子で、ベニヤミン人であり、力ある勇士であった。

2 彼にはサウルという名の息子がおり、若くて見栄えのする人であった。イスラエルの人々の中で、彼以上に見栄えのする者はいなかった。彼の肩から上は、どの民よりも背が高かった。
3 サウルの父キシュのろばが迷い出た。キシュは息子のサウルに言った。「今、若者の一人を連れて立ち上がり、行ってろばを探しなさい。」
4 サウルはエフライムの山地を通り抜け、シャリシャの地を通り抜けたが、彼らはろばを見つけられなかった。それからシャアリムの地を通り抜けたが、そこにもいなかった。さらにベニヤミン人の地を通り抜けたが、彼らは見つけられなかった。
5 彼らがツフの地に来た時、サウルはともにいた若者に言った。「さあ、引き返そう。父がろばのことよりも私たちのことを心配し始めないように。」
6 若者は彼に言った。「見よ、この町には神の人がいます。彼は誉れ高い人で、彼の言うことはすべて必ずその通りになります。今、そこへ行きましょう。もしかすると、彼が私たちの行くべき道について教えてくれるかもしれません。」
7 そこでサウルは若者に言った。「しかし、見よ、もし私たちが行くなら、その人に何を持って行こうか。私たちの袋のパンは尽きており、神の人に持って行く贈り物はない。私たちには何があるだろうか。」
8 若者は再びサウルに答えて言った。「見よ、わたしの手に銀一シェケルの四分の一* があります。わたしはこれを神の人に与え、私たちの道を教えてもらいましょう。」
9 （昔、イスラエルで人が神に伺うために行く時、このように言った。「さあ、先見者のところへ行こう。」今日預言者と呼ばれている者は、以前は先見者と呼ばれていたからである。）
10 サウルは若者に言った。「良い考えだ。さあ、行こう。」こうして彼らは神の人がいる町へ行った。
11 彼らが町へ上る坂道を上って行くと、水を汲みに出て来る若い娘たちに出会い、彼女たちに「先見者はここにいますか」と尋ねた。
12 彼女たちは答えて言った。「います。見よ、あの方はあなたがたの前におられます。急ぎなさい。民が今日高き所でいけにえを献げるため、あの方は今日町に来られたからです。
13 あなたがたが町に入るとすぐに、食事のために高き所へ上る前に、あの方を見つけるでしょう。あの方がいけにえを祝福するので、あの方が来られるまで民は食事をしないからです。その後で、招かれた者たちが食事をします。それゆえ今、上って行きなさい。ちょうど今、あの方を見つけるでしょうから。」
14 彼らは町に上って行った。彼らが町の中に入ると、見よ、サムエルが高き所へ上るために、彼らに向かって出て来た。
15 サウルが来る前日、主はサムエルに啓示して言われていた。
16 「明日の今ごろ、わたしはベニヤミンの地から一人の男をあなたのところに遣わす。あなたは彼に油を注いで、わたしの民イスラエルの君主としなさい。彼はわたしの民をペリシテ人の手から救い出すであろう。彼らの叫びがわたしに届き、わたしがわたしの民を顧みたからである。」
17 サムエルがサウルを見た時、主は彼に言われた。「見よ、わたしがあなたに話した男だ。この者がわたしの民を治める。」
18 その時サウルは門の中でサムエルに近づいて言った。「どうか、先見者の家がどこにあるか教えてください。」

* 9:8 9:8 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。四分の一シェケルは約2.5グラムである。

19 サムエルはサウルに答えて言った。「わたしが先見者である。わたしの先に高き所へ上りなさい。あなたがたは今日わたしとともに食事をするからである。朝にはあなたを送り出し、あなたの心にあることをすべて教えよう。
20 三日前に迷い出たあなたのろばについては、気にかけるな。すでに見つかっているからだ。イスラエルの望みはすべて、だれに向かっているのか。それはあなたと、あなたの父の家全体に向かっているのではないか。」
21 サウルは答えた。「わたしはイスラエルの部族の中で最も小さいベニヤミン人ではありませんか。わたしの氏族はベニヤミン部族のすべての氏族の中で最も小さなものではありませんか。それなのに、なぜあなたはそのようなことをわたしに言われるのですか。」
22 サムエルはサウルとその若者を連れて客間に入り、招かれたおよそ三十人の人々のうちの最も良い席に彼らを座らせた。
23 サムエルは料理人に言った。「わたしがあなたに渡し、『取っておくように』と言ったあの分を持って来なさい。」
24 料理人はもも肉とその上の部分を持ち上げ、サウルの前に置いた。サムエルは言った。「見よ、取り分けておいたものがあなたの前に置かれている。食べなさい。わたしが『民を招いた』と言った時から、この時のためにあなたのために取っておかれたものだからだ。」こうしてサウルはその日、サムエルとともに食事をした。
25 彼らが高き所から町に下って来た時、サムエルは屋上でサウルと語り合った。
26 彼らは朝早く起きた。夜明けごろ、サムエルは屋上でサウルを呼んで、「起きなさい、あなたを送り出そう」と言った。サウルは起き上がり、彼とサムエルの二人は外へ出て行った。
27 彼らが町の外れまで下って行った時、サムエルはサウルに言った。「若者に、私たちの先を行くように言いなさい。」若者は先に行った。「しかし、あなたはしばらく立ち止まりなさい。わたしがあなたに神の言葉を聞かせるためである。」

10

1 その時、サムエルは油の壺を取り、それを彼の頭に注ぎ、彼に口づけして言った。「主が、ご自身の所有の民を治める君主としてあなたに油を注がれたではないか。
2 今日、あなたがわたしから去って行く時、あなたはゼルツァのベニヤミンの領域にあるラケルの墓のそばで二人の男に出会う。彼らはあなたに言うであろう。『あなたが探しに行ったろばは見つかった。そして見よ、あなたの父はろばのことを気にかけるのをやめ、「わたしの息子のためにどうしようか」と言って、あなたのために思い煩っている。』
3 それからあなたはそこからさらに先へ進み、タボルの樫の木に来る。そこで、神のもとへ行くためにベテルへ上って行く三人の男があなたに出会う。一人は三匹の子やぎを運び、一人は三つのパンを運び、もう一人はぶどう酒の皮袋を一つ運んでいる。
4 彼らはあなたに挨拶し、二つのパンをあなたに与える。あなたはそれを彼らの手から受け取りなさい。
5 その後、あなたはペリシテ人の守備隊がある神の丘に来る。あなたがそこ、すなわちその町に来た時、琴、タンバリン、笛、および竪琴を自分たちの前にして、高き所から下って来る預言者たちの一団に出会う。彼らは預言している。
6 その時、主の霊があなたの上に激しく臨み、あなたも彼らと一緒に預言し、変えられて別の人のようになる。
7 これらのしるしがあなたに臨んだなら、その機会にふさわしいことを行いなさい。神があなたとともにおられるからである。

8 あなたはわたしより先にギルガルへ下って行きなさい。そして見よ、わたしは全焼のささげ物を献げ、和解のいけにえを献げるために、あなたのところに下って行く。わたしがあなたのところに行き、あなたが何をすべきかをあなたに示すまで、あなたは七日の間待たなければならない。」
9 彼がサムエルのもとから去ろうとして背を向けた時、神は彼に別の心を与えられた。そしてこれらすべてのしるしがその日のうちに起こった。
10 彼らがそこの丘に来た時、見よ、預言者たちの一団が彼に出会った。そして神の霊が彼の上に激しく臨み、彼は彼らの中で預言した。
11 以前から彼を知っていたすべての者が、見よ、彼が預言者たちと一緒に預言しているのを見た時、民は互いに言った。「キシュの息子に何が起こったのか。サウルもまた預言者たちの仲間なのか。」
12 その同じ場所の一人が答えた。「では、彼らの父はだれか。」それゆえ、「サウルもまた預言者たちの仲間なのか」ということが、ことわざとなった。
13 彼が預言し終えた時、彼は高き所へ来た。
14 サウルのおじは彼とその若者に言った。「あなたがたはどこへ行っていたのか。」
彼は言った。「ろばを探しにです。見つからないのを見て、私たちはサムエルのところへ行きました。」
15 サウルのおじは言った。「どうか、サムエルがあなたがたに何と言ったか、わたしに教えてくれ。」
16 サウルはおじに言った。「ろばが見つかったと、彼は私たちにはっきりと教えてくれました。」しかし、サムエルが語った王国の事柄については、彼は彼に告げなかった。
17 サムエルはミツパで、主の御前に民を呼び集めた。
18 そして彼はイスラエルの人々に言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしがイスラエルをエジプトから導き上り、エジプト人の手と、あなたがたを虐げたすべての王国の手から、あなたがたを救い出した。』
19 しかしあなたがたは今日、すべての災難と苦難からご自身であなたがたを救い出されるあなたがたの神を退け、彼に向かって『いいえ。私たちの上に王を立てよ』と言った。それゆえ今、あなたがたの部族ごとに、また千人隊ごとに、主の御前に進み出なさい。」
20 こうしてサムエルがイスラエルのすべての部族を近づけると、ベニヤミン部族が選ばれた。
21 彼がベニヤミン部族をその氏族ごとに近づけると、マトリの氏族が選ばれた。そしてキシュの息子サウルが選ばれたが、人々が彼を探した時、彼は見つからなかった。
22 それゆえ、彼らはさらに主に尋ねた。「まだここに人が来るのでしょうか。」
主は答えられた。「見よ、彼は荷物の間に身を隠している。」
23 彼らは走って行き、そこから彼を連れて来た。彼が民の間に立った時、彼は肩から上はどの民よりも背が高かった。
24 サムエルはすべての民に言った。「主が選ばれた者を見ているか。すべての民の中に彼のような者はいない。」
すべての民は叫んで、「王よ、万歳」と言った。
25 その時サムエルは民に王権の規定を語り、それを書に書き記し、主の御前にそれを置いた。サムエルはすべての民を、それぞれ自分の家に去らせた。
26 サウルもまた、ギベアにある自分の家へ行った。そして神がその心に触れられた軍勢が、彼と一緒に行った。

27 しかし、何人かのならず者たちが、「どうしてこの男が私たちを救うことができようか」と言った。彼らは彼を軽蔑し、彼に贈り物を持って来なかった。しかし彼は黙っていた。

11

1 その時、アンモン人ナハシュが上って来て、ヤベシュ・ギレアデに対して陣を敷いた。ヤベシュのすべての男たちはナハシュに言った。「私たちと契約を結んでくれ。そうすれば私たちはあなたに仕えよう。」
2 アンモン人ナハシュは彼らに言った。「あなたがたの右の目をすべてえぐり出すというこの条件で、わたしはあなたがたとそれを結ぼう。そしてわたしは、それを全イスラエルの上の恥辱とする。」
3 ヤベシュの長老たちは彼に言った。「私たちに七日の猶予を与え、イスラエルの全境界に使者たちを遣わさせてくれ。そしてもし、私たちを救う者がだれもいなければ、私たちはあなたのところに出て行こう。」
4 それから使者たちはサウルのいるギベアに来て、民の耳にこれらの言葉を語った。するとすべての民は声を上げて泣いた。
5 見よ、サウルが牛の後について野からやって来た。そしてサウルは、「民はどうして泣いているのか」と言った。彼らは彼に、ヤベシュの人々の言葉を告げた。
6 彼がこれらの言葉を聞いた時、神の霊がサウルの上に激しく臨み、彼の怒りは激しく燃え上がった。
7 彼は一くびきの牛を取り、それを切り分け、使者たちの手によってイスラエルの全境界に送って言った。「サウルとサムエルの後について出て来ない者はだれでも、その牛はこのようにされる。」主の恐れが民に臨み、彼らは一人の人のように出て来た。
8 彼はベゼクで彼らを数えた。イスラエルの人々は三十万人、ユダの男たちは三万人であった。
9 彼らはやって来た使者たちに言った。「あなたがたはヤベシュ・ギレアデの人々にこう言いなさい。『明日、太陽が熱くなるころ、あなたがたは救いを得るであろう。』」使者たちは来て、ヤベシュの人々に告げたので、彼らは喜んだ。
10 それゆえ、ヤベシュの人々は言った。「明日、私たちはあなたがたのところに出て行こう。あなたがたは、あなたがたの目に良いと思われることをすべて私たちに行うがよい。」
11 翌日、サウルは民を三つの部隊に分けた。彼らは朝の見張りの時に陣営の真ん中に入り込み、その日の暑くなるころまでアンモン人を打った。残った者たちは散らされ、彼らのうち二人として一緒に残る者はなかった。
12 民はサムエルに言った。「『サウルが私たちを治めるのか』と言った者はだれか。その男たちを連れて来なさい。私たちが彼らを死刑に処すためである。」
13 サウルは言った。「今日、だれも死刑に処せられてはならない。今日、主がイスラエルに救いを行われたからである。」
14 その時、サムエルは民に言った。「来なさい。私たちはギルガルへ行き、そこで王国を新しくしよう。」
15 すべての民はギルガルへ行った。そして彼らはそこで、ギルガルの主の御前でサウルを王とした。彼らはそこで主の御前に和解のいけにえを献げた。サウルとイスラエルのすべての男たちはそこで大いに喜んだ。

12

1 サムエルは全イスラエルに言った。「見よ、わたしはあなたがたがわたしに言ったすべてのことにおいて、あなたがたの声に聞き従い、あなたがたの上に王を立てた。
2 今、見よ、王はあなたがたの前を歩んでいる。わたしは年老いて白髪になった。見よ、わたしの息子たちはあなたがたとともにいる。わたしは若い時から今日に至るまで、あなたがたの前を歩んできた。
3 わたしはここにいる。主の御前で、またその油注がれた者の前で、わたしに対してあかしをしなさい。わたしがだれの牛を取ったか。だれのろばを取ったか。だれをだましたか。だれをしいたげたか。だれの手から賄賂を取って自分の目をくらませたか。わたしはそれをあなたがたに返そう。」
4 彼らは言った。「あなたは私たちをだましたことも、しいたげたこともなく、まただれの手からも何も取ったことはありません。」
5 彼は彼らに言った。「あなたがたがわたしの手に何も見つけなかったことについて、主はあなたがたに対するあかし人であり、その油注がれた者も今日あかし人である。」
彼らは言った。「主はあかし人です。」
6 サムエルは民に言った。「モーセとアロンを任命し、あなたがたの父祖たちをエジプトの地から導き上ったのは主である。
7 それゆえ今、立ち止まりなさい。主があなたがたとあなたがたの父祖たちに行われた、主のすべての義のわざについて、わたしが、主の御前であなたがたと論じ合うためである。
8 ヤコブがエジプトに入った時、あなたがたの父祖たちは主に向かって叫び求めた。すると主はモーセとアロンを遣わされ、彼らはあなたがたの父祖たちをエジプトから導き出し、彼らをこの場所に住まわせた。
9 しかし彼らは自分たちの神、主を忘れた。そこで主は彼らを、ハツォルの軍の長シセラの手に、またペリシテ人の手に、またモアブの王の手に売り渡された。そして彼らは彼らと戦った。
10 彼らは主に向かって叫び求めて言った。『私たちは罪を犯しました。主を捨てて、バアルやアシュタロテに仕えたからです。しかし今、私たちを敵の手から救い出してください。そうすれば私たちはあなたに仕えます。』
11 主はエルバアル、ベダン、エフタ、およびサムエルを遣わし、周囲の敵の手からあなたがたを救い出されたので、あなたがたは安全に住んだ。
12 アンモンの子らの王ナハシュがあなたがたに逆らって来るのを見た時、主であるあなたがたの神があなたがたの王であったにもかかわらず、あなたがたはわたしに『いいえ。どうしても王が私たちを治めなければならない』と言った。
13 それゆえ今、あなたがたが選び、あなたがたが求めた王を見よ。見よ、主はあなたがたの上に王を立てられた。
14 もしあなたがたが主を恐れ、主に仕え、その御声に聞き従い、主の命令に逆らわず、あなたがたも、あなたがたを治める王も、あなたがたの神、主に従い続けるなら、それでよい。
15 しかし、もしあなたがたが主の御声に聞き従わず、主の命令に逆らうなら、主の手はあなたがたの父祖たちに逆らったように、あなたがたに逆らうであろう。
16 それゆえ今、立ち止まって、主があなたがたの目の前で行われるこの大きなことを見なさい。
17 今日は小麦の収穫ではないか。わたしは主に呼び求め、主が雷と雨を送られるようにしよう。そうすれば、あなたがたは王を求めて主の目に行った自分たちの悪が、いかに大きいかを知り、また見るであろう。」
18 そこでサムエルが主に呼び求めると、主はその日、雷と雨を送られた。すべての民は主とサムエルを大いに恐れた。

19 すべての民はサムエルに言った。「私たちが死なないように、あなたの神、主に向かってあなたのしもべたちのために祈ってください。私たちは王を求めるというこの悪を、すべての罪に加えたからです。」
20 サムエルは民に言った。「恐れることはない。あなたがたは確かにこのすべての悪を行った。それでも、主に従うことからそれず、心を尽くして主に仕えなさい。
21 それてはならない。もしそれるなら、有益でもなく救い出すこともできない、むなしいものに従って行くことになる。それらはむなしいからである。
22 主は、ご自身の大いなる名のゆえに、ご自身の民を捨てられないからである。主はあなたがたをご自身の民とすることを喜ばれたからである。
23 さらにわたしについても、あなたがたのために祈ることをやめて主に対して罪を犯すことは、断じてありえない。わたしはあなたがたに、良い正しい道を教えよう。
24 ただ主を恐れ、心を尽くし真実をもって主に仕えなさい。主があなたがたのために、いかに大きなことを行われたかをよく考えなさい。
25 しかし、もしあなたがたがなおも悪を行うなら、あなたがたもあなたがたの王も滅ぼし去られるであろう。」

13

1 サウルは王となった時、三十歳であり、イスラエルを四十二年治めた。*
2 サウルは自分のためにイスラエルのうちから三千人を選んだ。そのうち二千人はミクマスとベテルの山地でサウルとともにおり、一千人はベニヤミンのギベアでヨナタンとともにおり、残りの民はそれぞれ自分の天幕に帰らせた。
3 ヨナタンはゲバにいたペリシテ人の守備隊を打ったので、ペリシテ人はそれを聞いた。サウルは全地に角笛を吹き鳴らして、「ヘブル人よ、聞け」と言った。
4 全イスラエルは、サウルがペリシテ人の守備隊を打ったこと、またイスラエルがペリシテ人に憎まれるようになったことを聞いた。民はサウルの後に従ってギルガルに集められた。
5 ペリシテ人はイスラエルと戦うために集まった。戦車三万両、騎兵六千人、また民は海辺にある砂のように大群であった。彼らは上って来て、ベテ・アベンの東にあるミクマスに陣を敷いた。
6 イスラエルの男たちは自分たちが窮地に陥り（民が苦しめられたからである）、民はほら穴、やぶ、岩、墓、そして穴の中に隠れた。
7 また何人かのヘブル人はヨルダン川を渡ってガドとギレアデの地へ行った。しかしサウルはまだギルガルにおり、すべての民は震えながら彼の後に従った。
8 彼はサムエルが定めた日時に従って七日の間待ったが、サムエルはギルガルに来なかった。そして民は彼から離れて散って行った。
9 サウルは言った。「全焼のささげ物と和解のいけにえをわたしのところに持って来なさい。」そして彼は全焼のささげ物を献げた。
10 彼が全焼のささげ物を献げ終えるとすぐに、見よ、サムエルが来た。サウルは彼を迎えに出て、彼に挨拶した。
11 サムエルは言った。「あなたは何ということをしたのか。」
サウルは言った。「民がわたしから離れて散って行き、あなたが定められた日時のうちに来ず、ペリシテ人がミクマスに集まっていたのを見たので、
12 わたしは『今、ペリシテ人はギルガルのわたしのところに下って来るのに、わたしはまだ主の恵みを求めていない』と考えたからです。それゆえ、わたしは自らを強いて、全焼のささげ物を献げました。」

* **13:1 13:1** 伝統的なヘブル語本文では「三十」と「四十」が欠けている。ここでは七十人訳のいくつかの写本に基

13 サムエルはサウルに言った。「あなたは愚かなことをした。あなたはあなたの神、主があなたに命じられた命令を守らなかった。もし守っていたなら、主は今、イスラエルにおけるあなたの王国を永遠に堅く立てられたであろうに。
14 しかし今、あなたの王国は続かない。主はご自分の心にかなう人を自分のために求められ、主は彼をその民の君主として立てられた。あなたが主が命じられたことを守らなかったからである。」
15 サムエルは立ち上がり、ギルガルからベニヤミンのギベアへ上って行った。サウルは自分と一緒にいる民を数えたところ、約六百人であった。
16 サウルと、その子ヨナタンと、彼らと一緒にいる民はベニヤミンのゲバに留まっていたが、ペリシテ人はミクマスに陣を敷いていた。
17 略奪隊がペリシテ人の陣営から三つの部隊に分かれて出て来た。一つの部隊はシュアルの地にあるオフラへの道に向かい、
18 一つの部隊はベテ・ホロンへの道に向かい、もう一つの部隊は荒野に向かうツェボイムの谷を見下ろす境界への道に向かった。
19 その頃、イスラエルの全地には鍛冶屋がいなかった。ペリシテ人が「ヘブル人が剣や槍を作るかもしれない」と言ったからである。
20 すべてのイスラエル人は、それぞれのすき先の刃、くわ、斧、およびかまを研ぐためにペリシテ人のところへ下って行った。
21 すき先、くわ、三つ又の農具、斧を研ぎ、牛追い棒を直す料金は、それぞれ一パイム† であった。
22 それゆえ、戦いの日には、サウルおよびヨナタンと一緒にいるすべての民の手には剣も槍も見当たらず、ただサウルとその子ヨナタンにのみ見られた。
23 ペリシテ人の守備隊はミクマスの道へ出て行った。

14

1 ある日、サウルの子ヨナタンは、自分の武器を持つ若者に言った。「さあ、向こう側にあるペリシテ人の守備隊のところへ渡って行こう。」しかし彼は父には告げなかった。
2 サウルはギベアの境界、ミグロンにあるざくろの木の下に留まっていた。彼と一緒にいる民は約六百人であった。
3 シロで主の祭司であったエリの子ピネハスの子で、イカボデの兄弟であるアヒトブの子アヒヤが、エポデを着けていた。民はヨナタンが行ったことを知らなかった。
4 ヨナタンがペリシテ人の守備隊のところへ渡って行こうとした道の間に、こちら側に一つの険しい岩があり、あちら側に一つの険しい岩があった。一つの名はボツェツ、もう一つの名はセネといった。
5 一つの岩は北の方でミクマスに面して立っており、もう一つの岩は南の方でゲバに面していた。
6 ヨナタンは自分の武器を持つ若者に言った。「さあ、あの割礼を受けていない者たちの守備隊のところへ渡って行こう。もしかすると、主が私たちのために働いてくださるかもしれない。主が多くの人によって救うか、少ない人によって救うかは、主にとって何らの妨げともならないからである。」
7 彼の武器を持つ者は彼に言った。「あなたの心にあるすべてのことをしなさい。進んでください。見よ、わたしはあなたの心に従い、あなたとともにおります。」
8 そこでヨナタンは言った。「見よ、私たちはあの男たちのところへ渡って行き、彼らに私たちの姿を見せよう。

† **13:21 13:21** 一パイムは銀三分の二シェケルで、約7.6グラム、または0.26オンスである。

9 もし彼らが私たちに『私たちがそちらへ行くまで待て』と言うなら、私たちは自分の場所に立ち止まり、彼らのところへ上って行かない。
10 しかし、もし彼らが『私たちのところへ上って来い』と言うなら、私たちは上って行こう。主が彼らを私たちの手に渡されたからである。これが私たちへのしるしとなる。」
11 二人はペリシテ人の守備隊に自分たちの姿を見せた。ペリシテ人は言った。「見よ、ヘブル人たちが隠れていた穴から出て来る。」
12 守備隊の男たちはヨナタンと彼の武器を持つ者に答えて、「私たちのところへ上って来い。おまえたちに一つ教えてやろう」と言った。
ヨナタンは自分の武器を持つ者に言った。「わたしの後に付いて上って来なさい。主が彼らをイスラエルの手に渡されたからである。」
13 ヨナタンは手と足でよじ登り、彼の武器を持つ者もその後を追った。彼らはヨナタンの前に倒れ、彼の武器を持つ者が彼の後ろで彼らを殺した。
14 ヨナタンと彼の武器を持つ者が行ったこの最初の殺戮は、一エーカーの畑の半分ほどの場所で、約二十人であった。
15 陣営、野、およびすべての民の間に恐怖があった。守備隊と略奪隊も恐れ、地は揺れ動いた。それは非常に大きな恐怖となった。
16 ベニヤミンのギベアにいたサウルの見張り人たちが見ると、見よ、群衆は溶け去り、あちこちへ散って行った。
17 サウルは自分と一緒にいる民に言った。「今、点呼を取り、だれが私たちのもとから出て行ったかを見なさい。」彼らが点呼を取ると、見よ、ヨナタンと彼の武器を持つ者がいなかった。
18 サウルはアヒヤに言った。「神の箱を持って来なさい。」その頃、神の箱はイスラエルの人々とともにあったからである。
19 サウルが祭司と語っている間に、ペリシテ人の陣営の騒ぎはますます大きくなった。サウルは祭司に言った。「あなたの手を引っ込めなさい。」
20 サウルと、彼と一緒にいたすべての民はともに集まり、戦いへ行った。すると見よ、彼らは非常に大きな混乱の中で、互いに剣で打ち合っていた。
21 これまでペリシテ人とともにいて、彼らとともに陣営に上って来ていたヘブル人たちも、サウルとヨナタンとともにいるイスラエル人の側についた。
22 また、エフライムの山地に隠れていたイスラエルのすべての男たちも、ペリシテ人が逃げたことを聞いた時、彼らもまた戦いにおいて彼らを激しく追撃した。
23 こうして主はその日、イスラエルを救い出された。戦いはベテ・アベンの向こうまで及んだ。
24 イスラエルの男たちはその日、窮地に陥っていた。サウルが民に誓いを立てさせて、「わたしが敵に復讐する夕暮れまでに食べ物を食べる者はのろわれる」と言ったからである。そのため、民はだれも食べ物を口にしなかった。
25 すべての民が森に入ると、地面に蜜があった。
26 民が森に入った時、見よ、蜜が滴っていたが、だれも手を口に当てなかった。民はその誓いを恐れたからである。
27 しかしヨナタンは、父が民に誓いを立てさせた時に聞いていなかった。それゆえ彼は手に持っていた杖の先を伸ばし、それを蜂の巣に浸し、手を口に持って行った。すると彼の目は明るくなった。
28 その時、民の一人が答えて言った。「あなたの父は民に厳しく誓いを立てさせて、『今日、食べ物を食べる者はのろわれる』と言いました。」民は疲れ果てていた。
29 するとヨナタンは言った。「わたしの父はこの国を苦しめた。わたしがこの蜜を少し味わっただけで、いかにわたしの目が明るくなったかを見なさい。

30 まして今日、民が敵から見つけた分捕り品を自由に食べていたなら、なおさらではないか。今、ペリシテ人に対する殺戮はもっと大きかったのではないか。」
31 彼らはその日、ミクマスからアヤロンまでペリシテ人を打った。民は非常に疲れ果てていた。
32 民は分捕り品に飛びかかり、羊、牛、および子牛を取り、それらを地面で屠った。そして民はそれを血のまま食べた。
33 その時、人々がサウルに告げて、「見よ、民が血のまま食べて、主に対して罪を犯しています」と言った。
彼は言った。「あなたがたは裏切りを行った。今、わたしのところに大きな石を転がして来なさい。」
34 サウルは言った。「民の間に散らばって行き、彼らに言いなさい。『それぞれ自分の牛や羊をわたしのところに持って来て、ここで屠って食べなさい。血のまま食べて主に対して罪を犯してはならない。』」そこで民は皆、その夜、それぞれ自分の牛を携えて来て、そこで屠った。
35 サウルは主のための祭壇を築いた。これが彼が築いた最初の主のための祭壇であった。
36 サウルは言った。「夜のうちにペリシテ人を追って下って行き、朝の光がさすまで彼らを略奪し、彼らの一人も残さないようにしよう。」
彼らは言った。「あなたの目に良いと思われることをすべて行ってください。」
その時、祭司は言った。「ここで神に近づきましょう。」
37 サウルは神に伺った。「わたしはペリシテ人を追って下って行くべきでしょうか。あなたは彼らをイスラエルの手に渡されますか。」しかし、神はその日、彼に答えられなかった。
38 サウルは言った。「民のすべてのかしらたちよ、ここへ近づきなさい。今日、この罪がだれにあるかを知り、見なさい。
39 イスラエルを救われる主は生きておられる。たとえそれがわたしの子ヨナタンにあるとしても、彼は必ず死ななければならない。」しかし、すべての民のうちだれ一人として彼に答える者はなかった。
40 彼は全イスラエルに言った。「あなたがたは一方の側に立ち、わたしとわたしの子ヨナタンはもう一方の側に立とう。」
民はサウルに言った。「あなたの目に良いと思われることを行ってください。」
41 そこでサウルはイスラエルの神、主に言った。「正しいあかしを与えてください。」するとヨナタンとサウルが選ばれ、民は逃れた。
42 サウルは言った。「わたしとわたしの子ヨナタンとの間にくじを引きなさい。」するとヨナタンが選ばれた。
43 サウルはヨナタンに言った。「あなたが何をしたのか、わたしに告げなさい。」
ヨナタンは彼に告げて言った。「わたしは確かに、手に持っていた杖の先で少しの蜜を味わいました。そして見よ、わたしは死ななければなりません。」
44 サウルは言った。「神がわたしにそうされ、さらにそれ以上のことをされるように。ヨナタン、あなたは必ず死ななければならない。」
45 民はサウルに言った。「イスラエルにこの大きな救いをもたらしたヨナタンが死ななければならないのでしょうか。断じてありえません。主は生きておられます。彼の頭の髪の毛一本も地に落ちてはなりません。今日、彼は神とともに働いたからです。」こうして民はヨナタンを救い出し、彼は死ななかった。
46 それからサウルはペリシテ人を追うことから引き上げ、ペリシテ人は自分たちの場所へ行った。

47 サウルがイスラエルに対する王権を握った時、彼は周囲のすべての敵、すなわちモアブ、アンモンの子ら、エドム、ツォバの王たち、およびペリシテ人と戦った。彼がどこへ向かっても、彼は彼らを打ち負かした。
48 彼は力強く戦い、アマレク人を打ち、イスラエルを彼らを略奪する者たちの手から救い出した。
49 サウルの息子たちはヨナタン、イシュビ、およびマルキ・シュアであった。彼の二人の娘の名は、姉の名がメラブ、妹の名がミカルといった。
50 サウルの妻の名は、アヒマアツの娘アヒノアムであった。
彼の軍の長の名は、サウルのおじネルの子アブネルであった。
51 サウルの父はキシュであり、アブネルの父ネルはアビエルの子であった。
52 サウルの生きている間、ペリシテ人との激しい戦いがあった。サウルは力ある勇士や勇敢な者を見ると、その者を自分のところに召し抱えた。

15

1 サムエルはサウルに言った。「主はわたしを遣わし、あなたに油を注いでご自分の民イスラエルの王とされた。それゆえ今、主の言葉に聞き従いなさい。
2 万軍の主はこう言われる。『わたしはアマレクがイスラエルにしたこと、すなわちイスラエルがエジプトから上って来た時、彼が道でイスラエルに敵対したことを覚えている。
3 今、行ってアマレクを打ち、彼らが持っているすべてのものを完全に滅ぼし尽くしなさい。彼らを惜しんではならない。男も女も、幼子も乳飲み子も、牛も羊も、らくだもろばも殺しなさい。』」
4 サウルは民を呼び集め、テライムで彼らを数えた。歩兵二十万人とユダの男一万人であった。
5 サウルはアマレクの町に来て、谷で待ち伏せした。
6 サウルはケニ人に言った。「行け、立ち去れ、アマレク人の中から下って行け。わたしがあなたがたを彼らと一緒に滅ぼさないためだ。あなたがたは、イスラエルのすべての子らがエジプトから上って来た時、彼らに慈しみを示したからである。」そこでケニ人はアマレク人の中から立ち去った。
7 サウルはハビラからエジプトの前にあるシュルに至るまで、アマレク人を打った。
8 彼はアマレクの王アガグを生け捕りにし、すべての民を剣の刃で完全に滅ぼし尽くした。
9 しかしサウルと民は、アガグ、および羊と牛の最も良いもの、肥えた子牛、子羊、そしてすべての良いものを惜しみ、それらを完全に滅ぼし尽くそうとはせず、ただ価値のないつまらないものだけを完全に滅ぼし尽くした。
10 その時、主の言葉がサムエルに臨んで言われた。
11 「わたしはサウルを王としたことを悔いる。彼はわたしに付いて行くことから背き去り、わたしの命令を実行しなかったからである。」サムエルは怒り、夜通し主に向かって叫び求めた。
12 サムエルはサウルに会うために朝早く起きた。するとサムエルに、「サウルはカルメルに行き、見よ、自分のために記念碑を立て、向きを変えて下って行き、ギルガルに行った」という知らせがあった。
13 サムエルがサウルのところに来ると、サウルは彼に言った。「あなたが主に祝福されますように。わたしは主の命令を実行しました。」
14 サムエルは言った。「では、わたしの耳に入るこの羊の鳴き声と、わたしに聞こえる牛の鳴き声は何なのか。」
15 サウルは言った。「彼らがアマレク人から持って来たのです。民が羊と牛の最も良いものをあなたの神、主にいけにえとして献げるために惜しみ、残りのものは私たちが完全に滅ぼし尽くしました。」

16 サムエルはサウルに言った。「待ちなさい。わたしが今夜、主がわたしに語られたことをあなたに告げよう。」
サウルは彼に言った。「お話しください。」
17 サムエルは言った。「あなたは自分の目には取るに足りない者であったのに、イスラエルの部族のかしらとされたのではないか。主はあなたに油を注いでイスラエルの王とされた。
18 主はあなたを旅に遣わして、『行き、あの罪人たち、アマレク人を完全に滅ぼし尽くし、彼らが滅びるまで彼らと戦え』と言われた。
19 それなのに、なぜあなたは主の声に聞き従わなかったのか。なぜ分捕り品に飛びかかり、主の目に悪であるとされることを行ったのか。」
20 サウルはサムエルに言った。「わたしは確かに主の声に聞き従い、主がわたしを遣わされた道を行き、アマレクの王アガグを連れて来て、アマレク人を完全に滅ぼし尽くしました。
21 しかし民は、完全に滅ぼし尽くすべきものの中で最も良い羊と牛を、ギルガルであなたの神、主にいけにえとして献げるために、分捕り品の中から取りました。」
22 サムエルは言った。
「主は全焼のささげ物やいけにえを、主の声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。
見よ、聞き従うことはいけにえにまさり、耳を傾けることは雄羊の脂肪にまさる。
23 逆らうことは魔術の罪と同じであり、
強情は偶像礼拝やテラフィム* と同じである。
あなたが主の言葉を退けたので、
主もまた、あなたが王であることを退けられた。」
24 サウルはサムエルに言った。「わたしは罪を犯しました。民を恐れ、彼らの声に聞き従ったため、主の命令とあなたの言葉を破りました。
25 それゆえ今、どうかわたしの罪を赦し、わたしと一緒に帰って、わたしが主を礼拝できるようにしてください。」
26 サムエルはサウルに言った。「わたしはあなたと一緒に帰らない。あなたが主の言葉を退けたので、主もまた、あなたがイスラエルを治める王であることを退けられたからだ。」
27 サムエルが去ろうとして背を向けた時、サウルはサムエルの上着の裾をつかみ、それは引き裂かれた。
28 サムエルは彼に言った。「主は今日、イスラエルの王国をあなたから引き裂き、それをあなたより優れたあなたの隣人に与えられた。
29 イスラエルの力である方は偽ることもなく、悔いることもない。その方は人間ではなく、悔いることはないからである。」
30 サウルは言った。「わたしは罪を犯しました。しかし今、どうかわたしの民の長老たちの前で、またイスラエルの前でわたしを重んじ、わたしと一緒に帰って、わたしがあなたの神、主を礼拝できるようにしてください。」
31 そこでサムエルはサウルの後に付いて帰り、サウルは主を礼拝した。
32 それからサムエルは言った。「アマレクの王アガグをわたしのところに連れて来なさい。」アガグは快活に彼のもとにやって来た。アガグは言った。「確かに死の苦しみは過ぎ去った。」
33 サムエルは言った。「おまえの剣が女たちを子なしにしたように、おまえの母も女たちの中で子なしとなる。」そしてサムエルはギルガルで、主の御前でアガグを切り刻んだ。
34 それからサムエルはラマへ行き、サウルはサウルのギベアにある自分の家へ上って行った。

---

* **15:23 15:23** テラフィムは家の偶像であり、家の財産を受け継ぐ権利と関係していた可能性がある。

35 サムエルは死ぬ日まで二度とサウルに会わなかったが、サムエルはサウルのために悲しんだ。主はサウルをイスラエルの王としたことを悔いられた。

16

1 主はサムエルに言われた。「わたしがサウルをイスラエルの王から退けたのに、あなたはいつまで彼のために悲しむのか。角に油を満たして行きなさい。わたしはあなたをベツレヘム人エッサイのところへ遣わす。わたしは彼の子らの中に、自分のための王を見つけたからである。」
2 サムエルは言った。「どうしてわたしが行けましょうか。サウルが聞けば、わたしを殺すでしょう。」
主は言われた。「若い雌牛を一頭連れて行き、『わたしは主にいけにえを献げるために来た』と言いなさい。
3 そしてエッサイをいけにえに招きなさい。あなたが何をすべきかをわたしが教える。わたしがあなたに指し示す者に、あなたはわたしのために油を注がなければならない。」
4 サムエルは主が語られたとおりに行い、ベツレヘムに来た。町の長老たちは震えながら彼を出迎え、「平和のために来られたのですか」と言った。
5 彼は言った。「平和のためである。わたしは主にいけにえを献げるために来た。身を清めて、わたしと一緒にいけにえの場に来なさい。」彼はエッサイとその子らを清め、彼らをいけにえに招いた。
6 彼らが来た時、彼はエリアブを見て、「確かに主の油注がれた者が、主の御前にいる」と考えた。
7 しかし主はサムエルに言われた。「彼の容姿や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けたからである。主は人が見るようには見ない。人は外見を見るが、主は心を見るからである。」
8 それからエッサイはアビナダブを呼び、サムエルの前を通らせた。サムエルは「主はこの者をも選んでおられない」と言った。
9 それからエッサイはシャンマを通らせた。サムエルは「主はこの者をも選んでおられない」と言った。
10 エッサイは七人の息子をサムエルの前を通らせた。サムエルはエッサイに「主はこれらの者を選んでおられない」と言った。
11 サムエルはエッサイに言った。「あなたの息子たちはこれで全員か。」
彼は言った。「まだ末の子が残っています。見よ、彼は羊を飼っています。」
サムエルはエッサイに言った。「人を遣わして彼を連れて来なさい。彼がここに来るまで、私たちは座らないからだ。」
12 そこで彼は人を遣わし、彼を連れて来た。彼は血色が良く、美しい目を持ち、見栄えも良かった。主は言われた。「立って彼に油を注げ。この者がそれだからである。」
13 そこでサムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中で彼に油を注いだ。その日以来、主の霊がダビデの上に激しく臨んだ。こうしてサムエルは立ち上がり、ラマへ行った。
14 さて、主の霊はサウルから去り、主からの悪霊が彼を悩ませた。
15 サウルの家来たちは彼に言った。「見よ、今、神からの悪霊があなたを悩ませています。
16 どうか、わが主よ、あなたの前にいるあなたの家来たちに命じて、竪琴を上手に弾く者を探させてください。神からの悪霊があなたに臨む時、彼が手でそれを弾けば、あなたは良くなるでしょう。」
17 サウルは家来たちに言った。「今、わたしのために上手に弾くことのできる者を見つけて、わたしのところに連れて来なさい。」

18 すると若者の一人が答えて言った。「見よ、わたしはベツレヘム人エッサイの息子を見ました。彼は演奏が上手で、力ある勇士であり、戦士であり、言葉に分別があり、見栄えの良い人で、主が彼とともにおられます。」
19 そこでサウルはエッサイのところに使者たちを遣わして言った。「羊と一緒にいるあなたの息子ダビデを、わたしのところに送りなさい。」
20 エッサイはパンを載せたろばと、ぶどう酒の皮袋一つと、子やぎ一匹を取り、それらを息子のダビデに託してサウルに送った。
21 ダビデはサウルのところに来て、彼の前に立った。サウルは彼を大いに愛し、彼はサウルの武器を持つ者となった。
22 サウルはエッサイのもとに人を遣わして言った。「どうか、ダビデをわたしの前に立たせておいてほしい。彼はわたしの目に恵みを得たからだ。」
23 神からの霊がサウルに臨むと、ダビデは竪琴を取り、自分の手で弾いた。するとサウルはさわやかになり、良くなって、悪霊は彼から離れ去った。

17

1 ペリシテ人は戦いのために軍勢を集めた。彼らはユダに属するソコに集まり、ソコとアゼカの間にあるエフェス・ダミムに陣を敷いた。
2 サウルとイスラエルの男たちは集まり、エラの谷に陣を敷き、ペリシテ人に向かって陣形を整えた。
3 ペリシテ人は向こう側の山に立ち、イスラエルはこちら側の山に立っていた。彼らの間には谷があった。
4 ペリシテ人の陣営から、ガテ出身のゴリアテという名の代表闘士が出て来た。彼の背の高さは六キュビトと一スパン* であった。
5 彼は頭に青銅の兜をかぶり、うろこ綴りの鎧を着ていた。その鎧の重さは青銅五千シェケル† であった。
6 彼の足には青銅のすね当てがあり、肩の間には青銅の投げ槍があった。
7 彼の槍の柄は機織り機の巻き棒のようであり、その槍の穂先は鉄六百シェケルであった。彼の前には盾を持つ者が歩いていた。
8 彼は立ってイスラエルの軍勢に向かって叫び、彼らに言った。「なぜおまえたちは戦いの陣形を整えて出て来たのか。わたしはペリシテ人であり、おまえたちはサウルの家来ではないか。おまえたちのために一人を選び、わたしのところに下って来させよ。
9 もし彼がわたしと戦ってわたしを殺すことができるなら、私たちはあなたがたの奴隷となろう。しかし、もしわたしが彼に勝って彼を殺したなら、あなたがたは私たちの奴隷となって私たちに仕えよ。」
10 そのペリシテ人は言った。「わたしは今日、イスラエルの軍勢に挑む。わたしに一人の男を出せ。そうすれば私たちはともに戦おう。」
11 サウルと全イスラエルがそのペリシテ人のこれらの言葉を聞いた時、彼らはおびえ、非常に恐れた。
12 さて、ダビデはユダのベツレヘム出身の、あのエフラテ人の息子であった。その名をエッサイといい、彼には八人の息子がいた。その男はサウルの時代には年老いており、人々の中でも高齢であった。
13 エッサイの年上の三人の息子たちはサウルに従って戦いに行っていた。戦いに行った三人の息子たちの名は、長子がエリアブ、次子がアビナダブ、三番目がシャンマであった。

---

* **17:4** 一キュビトは男性の中指の先から肘までの長さで、約46センチメートル、または約18インチである。一ス
† **17:5** 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。五千シェケルは約50キログラム、または110ポン

14 ダビデは末っ子であり、年上の三人はサウルに従って行っていた。
15 ダビデはベツレヘムで父の羊を飼うため、サウルのもとから行ったり来たりしていた。
16 そのペリシテ人は朝と夕方に近づき、四十日の間その姿を見せた。
17 エッサイは息子のダビデに言った。「今、兄弟たちのために、この炒り麦一エパ‡とこれら十個のパンを取り、陣営にいる兄弟たちのところへ急いで持って行きなさい。
18 そして、この十個のチーズを彼らの千人隊の長に持って行き、兄弟たちの安否を尋ね、彼らからしるしを受け取って来なさい。」
19 さて、サウルと彼らとイスラエルのすべての男たちは、エラの谷でペリシテ人と戦っていた。
20 ダビデは朝早く起き、羊を番人に任せ、エッサイが命じたように持ち物を取って出かけた。彼が陣営の囲いに着いた時、軍勢はときの声を上げて戦場に出て行くところであった。
21 イスラエルとペリシテ人は、互いに軍勢と軍勢を向かい合わせて陣形を整えた。
22 ダビデは自分の荷物を荷物係の手に残し、戦場へ走り、行って兄弟たちの安否を尋ねた。
23 彼が彼らと話していると、見よ、ペリシテ人の陣営から、ガテのペリシテ人でゴリアテという名のあの代表闘士が上って来て、以前と同じ言葉を語ったので、ダビデはそれを聞いた。
24 イスラエルのすべての男たちは、その男を見ると彼の前から逃げ出し、非常に恐れた。
25 イスラエルの人々は言った。「あなたがたは、上って来たこの男を見たか。彼は確かにイスラエルに挑むために上って来た。彼を殺す者がいれば、王はその人を大いなる富で富ませ、自分の娘を彼に与え、イスラエルにおいて彼の父の家を免税にする。」
26 ダビデは自分のそばに立っている人々に向かって言った。「このペリシテ人を殺し、イスラエルから非難を取り除く者には、何がなされるのですか。生ける神の軍勢に挑むとは、この割礼を受けていないペリシテ人は一体何者ですか。」
27 民は彼に、「彼を殺す者には、このようになされる」と同じように答えた。
28 彼の長兄エリアブは、彼が人々と話しているのを聞いた。エリアブの怒りはダビデに向かって燃え上がり、彼は言った。「なぜおまえは下って来たのか。荒野にいるあのわずかな羊を、おまえはだれに任せてきたのか。わたしはおまえの高慢とおまえの心の悪さを知っている。おまえは戦いを見るために下って来たのだ。」
29 ダビデは言った。「今、わたしが何をしたというのですか。理由があるではありませんか。」
30 彼は彼から離れて別の人のところへ向きを変え、同じように語りかけた。すると民は彼に以前と同じように答えた。
31 ダビデの語った言葉が聞かれると、人々はそれをサウルの前で告げたので、サウルは彼を呼び寄せた。
32 ダビデはサウルに言った。「彼のためにだれの心も挫けてはなりません。あなたのしもべが行って、このペリシテ人と戦います。」
33 サウルはダビデに言った。「あなたはこのペリシテ人に向かって行き、彼と戦うことはできない。あなたはただの若者であり、彼は若い時から戦士だからだ。」

---

‡ **17:17 17:17** —エパは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

34 ダビデはサウルに言った。「あなたのしもべは父の羊を飼っていました。
獅子や熊が来て群れから子羊を取って行くと、
35 わたしはその後に付いて出て行き、それを打ち、その口から子
羊を救い出しました。それがわたしに向かって立ち上がった時は、その顎ひげ
をつかんでそれを打ち、殺しました。
36 あなたのしもべは獅子も熊も打ったのです。この割礼を受けていないペリ
シテ人も、彼らの一匹のようになるでしょう。彼が生ける神の軍勢に挑んだか
らです。」
37 ダビデは言った。「わたしを獅子の爪、熊の爪から救い出された主は、こ
のペリシテ人の手からもわたしを救い出されるでしょう。」

サウルはダビデに言った。「行きなさい。主があなたとともにおられるよう
に。」
38 サウルはダビデに自分の衣服を着せ、その頭に青銅の兜をかぶせ、
彼に鎧を着せた。
39 ダビデは自分の衣服の上に彼の剣を帯び、試しに歩いてみた。彼はそれら
に慣れていなかったからである。ダビデはサウルに言った。「これらを着けた
ままでは歩けません。慣れていないからです。」ダビデはそれを脱いだ。
40 彼は自分の杖を手に取り、谷から五つの滑らかな石を選んで、自分が持っ
ていた羊飼いの袋に入れ、手に石投げひもを持った。そして彼はそのペリシ
テ人に近づいた。

41 ペリシテ人は歩みを進めてダビデに近づき、盾を持つ男が彼の前を進ん
だ。
42 ペリシテ人が見渡してダビデを見た時、彼は彼を軽蔑した。彼は血
色の良い若者であり、見栄えが良かったからである。
43 ペリシテ人はダビデに言った。「わたしは犬か。おまえが杖を持ってわた
しのところへ来るとは。」ペリシテ人は自分の神々にかけてダビデをのろっ
た。
44 ペリシテ人はダビデに言った。「わたしのところへ来い。おまえ
の肉を空の鳥と野の獣にくれてやろう。」

45 するとダビデはそのペリシテ人に言った。「あなた
は剣と槍と投げ槍を持ってわたしに向かって来るが、わたしはあなたが挑んだ
イスラエルの軍勢の神、万軍の主の名によってあなたに向かって行く。
46 今日、主はあなたをわたしの手に渡される。わたしはあなたを打ち、あな
たの頭を切り落とす。わたしは今日、ペリシテ人の軍勢の死
骸を空の鳥と地の野獣に与える。それは全地が、イスラエルに神がおられるこ
とを知るためであり、
47 また、この全会衆が、主が剣や槍によって救われるのではないことを知る
ためである。戦いは主のものだからである。主はあなたがたを私たち
の手に渡される。」

48 そのペリシテ人が起き上がり、ダビデに会うために近づいて来た時、ダビ
デは急いで戦場に向かい、そのペリシテ人に会うために走った。
49 ダビデは袋に手を入れ、そこから石を一つ取り、石投げひもで投げて、そ
のペリシテ人の額を打った。石は彼の額に食い込み、彼は顔を地に向けて倒れ
た。
50 こうしてダビデは石投げひもと石でそのペリシテ人に勝り、そのペリシ
テ人を打って殺した。しかしダビデの手に剣はなかった。
51 それからダビデは走り、そのペリシテ人の上に立ち、彼の剣を取って鞘か
ら抜き、彼を殺し、それで彼の頭を切り落とした。ペリシテ人たちは自分たち
の代表闘士が死んだのを見て、逃げ去った。

52 イスラエルとユダの男たちは立ち上がって叫び、ガイとエクロン
の門に至るまでペリシテ人を追撃した。ペリシテ人の傷ついた者たちは、シャ
アライムの道に沿ってガテやエクロンに至るまで倒れた。
53 イスラエルの人々はペリシテ人の追撃から戻り、彼らの陣営を略奪した。
54 ダビデはそのペリシテ人の頭を取り、エルサレムへ持って行ったが、
彼の武具は自分の天幕に置いた。
55 サウルがダビデがペリシテ人に向かって出て行くの
を見た時、彼は軍の長アブネルに言った。「アブネル、この若者はだれの息
子か。」
アブネルは言った。「王よ、あなたの魂が生きておられるように、わたし
は知りません。」
56 王は言った。「この若者がだれの息子か尋ねてみよ。」
57 ダビデがそのペリシテ人を殺して戻って来た時、アブネルは彼を連れ
て、ペリシテ人の頭を手にしたままの彼をサウルの前に連れて来た。
58 サウルは彼に言った。「若者よ、あなたはだれの息子か。」
ダビデは答えた。「わたしはあなたのしもべ、ベツレヘム人エッサイの息
子です。」

18

1 ダビデがサウルに語り終えた時、ヨナタンの魂はダビデの魂と結びつ
き、ヨナタンは自分の魂のように彼を愛した。
2 サウルはその日彼を召し抱え、もはや父の家に帰ることを許さなかった。
3 ヨナタンはダビデを自分の魂のように愛したため、彼と契約を結んだ。
4 ヨナタンは自分の着ていた上着を脱いでダビデに与え、また自分の衣服、
さらには自分の剣、弓、および帯までも彼に与えた。
5 ダビデはサウルが彼を遣わすところはどこへでも出て行き、賢く振る舞っ
た。サウルは彼を戦士たちの上に立てた。それはすべての民の目に、またサウ
ルの家来たちの目にも良いことであった。
6 彼らが帰って来た時、すなわちダビデがそのペリシテ人を殺して戻っ
て来た時、女たちはイスラエルのすべての町々から、タンバリンを鳴らし、
喜びをもって、またさまざまな楽器を携えて、サウル王を迎えるため
に歌い踊りながら出て来た。
7 女たちは遊び戯れながら互いに歌い交わして言った。
「サウルは千を打ち、
ダビデは万を打った。」
8 サウルは非常に怒り、この言葉は彼の心を悪くさせた。彼は言った。
「彼らはダビデに万を割り当てたが、わたしには千しか割り当てなかった。王
国のほかに、彼に何があるだろうか。」
9 その日以来、サウルはダビデに疑いの目を向けた。
10 翌日、神からの悪霊がサウルの上に激しく臨み、彼は家の中で預言し
た。ダビデは他の時のように彼の手で竪琴を弾いた。サウルの手には槍があっ
た。
11 サウルは「ダビデを壁に突き刺してやる」と言って槍を投げた。ダビデ
は彼の前から二度身をかわした。
12 主がダビデとともにおられ、サウルから去られたため、サウルはダビデ
を恐れた。
13 それゆえサウルは彼を自分のそばから遠ざけ、彼を自分の千人隊の長とし
た。彼は民の前を出入りした。
14 ダビデはそのすべての道において賢く振る舞い、主は彼とともにおられ
た。
15 サウルは彼が非常に賢く振る舞うのを見た時、彼を恐れおののいた。

16 しかし、彼が彼らの前を出入りしていたので、全イスラエルとユダはダビデを愛した。
17 サウルはダビデに言った。「見よ、わたしの上の娘メラブを、あなたに妻として与えよう。ただ、わたしのために勇敢に働き、主の戦いを戦いなさい。」サウルは「わたしの手が彼に下るのではなく、ペリシテ人の手が彼に下るようにしよう」と考えていたからである。
18 ダビデはサウルに言った。「わたしは何者でしょうか。わたしの命、あるいはイスラエルにおけるわたしの父の家系が何だというので、わたしが王の婿になれるのでしょうか。」
19 しかし、サウルの娘メラブがダビデに与えられる時になって、彼女はメホラ人アドリエルに妻として与えられた。
20 サウルの娘ミカルはダビデを愛していた。人々がそれをサウルに告げると、その事は彼を喜ばせた。
21 サウルは言った。「わたしは彼女を彼に与えよう。彼女が彼にとって罠となり、ペリシテ人の手が彼に下るためである。」それゆえサウルはダビデに「今日、あなたはもう一度、わたしの婿となるのだ」と言った。
22 サウルは家来たちに命じた。「ダビデにひそかに語って、『見よ、王はあなたを喜んでおり、その家来たちも皆あなたを愛している。それゆえ今、王の婿になりなさい』と言いなさい。」
23 サウルの家来たちはこれらの言葉をダビデの耳に語った。ダビデは「わたしが貧しく、軽く見られている者であるのに、王の婿になることがあなたがたにとって軽いことと思われるのですか」と言った。
24 サウルの家来たちは彼に告げて、「ダビデはこれこれの事を語りました」と言った。
25 サウルは言った。「あなたがたはダビデにこう言いなさい。『王は、王の敵に復讐するために、百人のペリシテ人の包皮のほかには、花嫁の結納金を望んでおられない。』」しかしサウルは、ダビデをペリシテ人の手によって倒そうとたくらんでいたのである。
26 家来たちがこれらの言葉をダビデに告げると、ダビデは王の婿になることを大いに喜んだ。その期日がまだ満ちないうちに、
27 ダビデは立ち上がり、彼と彼の人々とともに行って、ペリシテ人のうち二百人の男を殺した。そしてダビデは彼らの包皮を持って来て、彼が王の婿となるために、それらを不足なく王に渡した。そこでサウルは娘ミカルを彼に妻として与えた。
28 サウルは、主がダビデとともにおられるのを見、また知った。そしてサウルの娘ミカルは彼を愛していた。
29 サウルはダビデをますます恐れ、サウルは生涯ダビデの敵となった。
30 それからペリシテ人の君主たちが出て来て戦った。彼らが出て来るたびに、ダビデはサウルのすべての家来たちよりも賢く振る舞ったので、彼の名は高く尊ばれた。

19

1 サウルは自分の息子ヨナタンと自分のすべての家来たちに、ダビデを殺すようにと語った。しかし、サウルの息子ヨナタンはダビデを大いに喜んでいた。
2 ヨナタンはダビデに告げて言った。「わたしの父サウルがあなたを殺そうとしています。それゆえ今、どうか明日の朝には自分自身に気をつけ、ひそかな場所に留まり、身を隠してください。
3 わたしは出て行き、あなたがいる野で父のそばに立ち、あなたについて父と話し合います。そして何かが分かれば、あなたに教えましょう。」

4 ヨナタンは父サウルにダビデのために良いことを語り、彼に言った。
「王がそのしもべダビデに対して罪を犯されませんように。彼はあなたに対して罪を犯しておらず、彼の行いはあなたに対して非常に良いものだったからです。
5 彼は命を懸けてあのペリシテ人を打ち倒し、主は全イスラエルのために大きな勝利をもたらされました。あなたはそれを見て喜ばれました。それなのに、なぜあなたは理由もなくダビデを殺し、罪のない血に対して罪を犯そうとされるのですか。」
6 サウルはヨナタンの声に聞き入れた。そしてサウルは、「主は生きておられる。彼は死刑に処せられることはない」と誓った。
7 ヨナタンはダビデを呼び、ヨナタンはこれらのすべての事を彼に知らせた。ヨナタンはダビデをサウルのもとに連れて行き、彼は以前のように彼の前にいた。
8 再び戦いがあった。ダビデは出て行ってペリシテ人と戦い、大きな殺戮をもって彼らを打ち倒した。そして彼らは彼の前から逃げ去った。
9 サウルが手に槍を持って家の中で座っていた時、主からの悪霊が彼の上に臨んだ。ダビデは手で竪琴を弾いていた。
10 サウルは槍でダビデを壁に突き刺そうとしたが、彼はサウルの前から身をかわしたため、サウルは槍を壁に突き刺した。ダビデはその夜、逃げて難を逃れた。
11 サウルはダビデの家に使者たちを遣わし、彼を見張らせ、朝には彼を殺そうとした。ダビデの妻ミカルは彼に告げて言った。「もしあなたが今夜自分の命を救わないなら、明日には殺されるでしょう。」
12 そこでミカルは窓からダビデを降ろした。彼は行って逃げ、難を逃れた。
13 ミカルはテラフィム* を取り、それを寝台に横たえ、その頭のところにやぎの毛の枕を置き、それを衣服で覆った。
14 サウルがダビデを捕らえるために使者たちを遣わすと、彼女は「彼は病気です」と言った。
15 サウルはダビデを見るために使者たちを遣わして言った。「彼を寝台ごとわたしのところに運んで来い。わたしが彼を殺すためだ。」
16 使者たちが入って来ると、見よ、寝台にはテラフィムがあり、その頭のところにはやぎの毛の枕があった。
17 サウルはミカルに言った。「なぜあなたはこのようにわたしをだまし、わたしの敵を去らせて逃がしたのか。」ミカルはサウルに答えた。「彼がわたしに『行かせてくれ。なぜわたしがあなたを殺さなければならないのか』と言ったのです。」
18 こうしてダビデは逃げて難を逃れ、ラマのサムエルのところに来て、サウルが自分にしたすべてのことを彼に告げた。彼とサムエルは行ってナヨテに住んだ。
19 人々はサウルに告げて、「見よ、ダビデはラマのナヨテにいます」と言った。
20 サウルはダビデを捕らえるために使者たちを遣わした。彼らが預言する預言者たちの一団と、彼らの長として立っているサムエルを見た時、神の霊がサウルの使者たちの上に臨み、彼らもまた預言した。
21 それがサウルに告げられると、彼は別の使者たちを遣わしたが、彼らもまた預言した。サウルは再び三度目の使者たちを遣わしたが、彼らもまた預言した。

---

* **19:13 19:13** テラフィムは、家の財産の相続権と関係していた可能性のある家庭の偶像である。

22 そこで彼は自らもラマへ行き、セクにある大きな井戸のところに来て尋ねて言った。「サムエルとダビデはどこにいるか。」一人の人が「見よ、ラマのナヨテにいます」と言った。
23 彼はそこからラマのナヨテへ行った。すると神の霊が彼の上にも臨み、彼は進み行き、ラマのナヨテに着くまで預言した。
24 彼はまた自分の衣服を脱ぎ捨て、サムエルの前で彼もまた預言し、その日一日中、またその夜一晩中、裸で横たわった。それゆえ人々は、「サウルもまた預言者の一人なのか」と言った。

20

1 ダビデはラマのナヨテから逃げ、ヨナタンの前へ来て言った。「わたしが何をしたというのですか。わたしの咎は何ですか。あなたの父の前にわたしのどんな罪があって、彼はわたしの命を狙うのですか。」
2 彼は彼に言った。「断じてそんなことはありません。あなたは死にません。見よ、わたしの父は大きいことも小さいことも、わたしに知らせずには何もしません。なぜ父がこの事をわたしに隠すでしょうか。そのようなことはありません。」
3 ダビデはさらに誓って言った。「あなたの父は、わたしがあなたの目に恵みを得ていることをよく知っています。それで彼は、『ヨナタンが悲しまないように、彼にこれを知らせないようにしよう』と言っているのです。しかし、主が生きておられ、あなたの魂が生きているように、確かにわたしと死との間には一歩しかありません。」
4 するとヨナタンはダビデに言った。「あなたの魂が望むことは何でも、わたしはあなたのために行いましょう。」
5 ダビデはヨナタンに言った。「見よ、明日は新月祭であり、わたしは必ず王と食事をともにしなければなりません。しかし、わたしを行かせて、三日目の夕暮れまで野に身を隠させてください。
6 もしあなたの父が少しでもわたしがいないことに気づくなら、その時はこう言ってください。『ダビデが自分の町ベツレヘムへ走って行くことを、わたしに熱心に願い出ました。そこでは全家のための年ごとのいけにえがあるからです。』
7 もし彼が『それは良い』と言えば、あなたのしもべには平安があります。しかし、もし彼が怒るなら、その時は彼によって悪が定められていると知ってください。
8 したがって、あなたのしもべに慈しみを示してください。あなたはあなたのしもべと主の契約を結んだからです。しかし、もしわたしに咎があるなら、あなたが自らわたしを殺してください。なぜわたしをあなたの父のところに連れて行く必要があるでしょうか。」
9 ヨナタンは言った。「あなたには断じてそんなことはありません。もしわたしの父によってあなたに臨む悪が定められているとわたしが少しでも知ったなら、わたしはあなたにそれを告げないでしょうか。」
10 するとダビデはヨナタンに言った。「もしあなたの父があなたに荒々しく答えた場合、だれがそれをわたしに告げてくれるのですか。」
11 ヨナタンはダビデに言った。「来なさい、野へ出て行こう。」そして二人は野へ出て行った。
12 ヨナタンはダビデに言った。「イスラエルの神、主があかし人となられますように。明日の今ごろ、あるいは三日目に、わたしが父の意向を探ります。見よ、もしダビデに対して良いことであれば、必ずあなたに人を遣わして知らせます。
13 もし父があなたに悪を行うことを望んでいるのに、わたしがそれを知らせず、あなたを平安のうちに去らせないなら、主がヨナタンにそうされ、さらに

それ以上のことをされますように。主がわたしの父とともにおられたように、あなたとともにおられますように。
14 わたしがまだ生きている間は、わたしが死なないように、主の慈しみをわたしに示してください。
15 さらに、主がダビデの敵たちを地の面から一人残らず断ち切られる時にも、あなたの慈しみをわたしの家から永遠に断ち切らないでください。」
16 こうしてヨナタンはダビデの家と契約を結んで言った。「主はダビデの敵たちの手にそれを要求されるであろう。」
17 ヨナタンはダビデに対する愛のゆえに、ダビデに再び誓わせた。彼は自分の魂を愛するように彼を愛していたからである。

18 それからヨナタンは彼に言った。「明日は新月祭であり、あなたの席が空くため、あなたがいないことに気づかれるでしょう。
19 三日間とどまった後、あなたは急いで下って行き、あの事が始まった時にあなたが身を隠した場所へ来て、エゼルの石のそばに留まっていなさい。
20 わたしは的を射るように、その石の横に三本の矢を射ます。
21 見よ、わたしは若者を遣わし、『行って、矢を見つけて来い』と言います。もしわたしがその若者に、『見よ、矢はおまえのこちら側にある。それを取って来い』とはっきり言うなら、あなたは来なさい。主は生きておられる。あなたには平安があり、危険はないからです。
22 しかし、もしわたしがその若者にこう言うなら、『見よ、矢はおまえの向こう側にある』。その時は自分の道を行きなさい。主があなたを去らせたからです。
23 あなたとわたしが語り合った事柄については、見よ、主があなたとわたしとの間に永遠におられます。」

24 こうしてダビデは野に身を隠した。新月祭が来て、王は食べ物を食べるために座った。
25 王は他の時のように自分の席、すなわち壁のそばの席に座り、ヨナタンは立ち上がり、アブネルはサウルのそばに座ったが、ダビデの場所は空いていた。
26 それでもサウルはその日何も言わなかった。彼は「彼に何かが起こったのだ。彼は清くない。確かに彼は清くないのだ」と考えたからである。
27 新月祭の翌日、すなわち二日目にも、ダビデの場所は空いていた。サウルは息子ヨナタンに言った。「なぜエッサイの息子は昨日も今日も食事に来ないのか。」
28 ヨナタンはサウルに答えた。「ダビデはベツレヘムへ行くことをわたしに熱心に願い出ました。
29 彼は言いました。『どうかわたしを行かせてください。わたしたちの氏族が町でいけにえを献げるからです。わたしの兄弟がわたしにそこに来るように命じました。今、もしわたしがあなたの目に恵みを得ているなら、どうか抜け出して、兄弟たちに会わせてください。』そのため、彼は王の食卓に来なかったのです。」

30 するとサウルの怒りはヨナタンに向かって燃え上がり、彼は彼に言った。「このひねくれた反逆の女の息子よ。おまえが自分の恥となり、おまえの母の裸の恥となるために、エッサイの息子を選んだことを、わたしが知らないとでも思うのか。
31 エッサイの息子が地上で生きている限り、おまえもおまえの王国も堅く立てられることはないからだ。それゆえ今、人を遣わして彼をわたしのところに連れて来い。彼は必ず死ななければならない。」
32 ヨナタンは父サウルに答えて彼に言った。「なぜ彼は死刑に処せられなければならないのですか。彼は何をしたというのですか。」

33 サウルは彼を突き刺そうとして彼に槍を投げた。これによってヨナタンは、父がダビデを死刑に処すことを決意していることを知った。
34 そこでヨナタンは激怒して食卓から立ち上がり、その月の二日目には何の食べ物も食べなかった。父がダビデを辱めたため、彼のために悲しんだからである。
35 朝になって、ヨナタンはダビデと約束した時間に野へ出て行った。一人の幼い若者が彼と一緒だった。
36 彼は若者に言った。「走って、わたしが射る矢を今すぐ見つけて来い。」若者が走っている間に、彼は若者の向こう側へ矢を射た。
37 若者がヨナタンの射た矢の場所に来た時、ヨナタンは若者の後ろから叫んで、「矢はおまえの向こう側ではないか」と言った。
38 ヨナタンは若者の後ろから叫んだ。「早く行け。急げ。ためらうな。」ヨナタンの若者は矢を拾い集め、主人のところに来た。
39 しかし若者は何も知らなかった。ヨナタンとダビデだけがその事柄を知っていた。
40 ヨナタンは自分の武器を若者に渡し、彼に言った。「行って、これを町に運んで行け。」
41 若者が去るとすぐに、ダビデは南の方向にある場所から立ち上がり、顔を地に向けてひれ伏し、三度伏し拝んだ。彼らは互いに口づけし、互いに泣き、ついにはダビデのほうが激しく泣いた。
42 ヨナタンはダビデに言った。「平安のうちに行きなさい。私たちは二人とも主の御名によって誓って、『主がわたしとあなたとの間に、またわたしの子孫とあなたの子孫との間に、永遠におられるように』と言ったからです。」彼は立ち上がって去り、ヨナタンは町へ入って行った。

21

1 それからダビデはノブの祭司アヒメレクのところに来た。アヒメレクは震えながらダビデを迎えに出て、彼に言った。「なぜあなたは一人で、だれもあなたと一緒にいないのですか。」
2 ダビデは祭司アヒメレクに言った。「王がわたしに一つの用件を命じ、わたしにこう言われました。『わたしがあなたを遣わす用件、またわたしがあなたに命じたことについて、だれにも何も知らせてはならない。そしてわたしは若者たちを、これこれの場所に指定しておいた。』
3 それゆえ今、あなたの手元に何がありますか。五つのパンの塊、あるいは今あるものをわたしの手にください。」
4 祭司はダビデに答えて言った。「わたしの手元に普通のパンはありません。ただ聖なるパンがあります。若者たちが女から遠ざかっているのであればですが。」
5 ダビデは祭司に答えて彼に言った。「確かにこの三日ほど、女は私たちから遠ざけられています。わたしが出発した時、たとえそれが普通の旅であったとしても、若者たちの器は聖なるものでした。まして今日は、彼らの器はなおさら聖なるものではないでしょうか。」
6 そこで祭司は彼に聖なるパンを与えた。そこには、熱いパンを置く日に主の前から取り除かれた供えのパンのほかに、パンがなかったからである。
7 さて、その日、サウルの家来たちの中のある男がそこにいて、主の前に留め置かれていた。その名はエドム人ドエグといい、サウルに属する牧者たちの長であった。
8 ダビデはアヒメレクに言った。「ここ、あなたの手元に槍か剣はありませんか。王の用件が急を要したため、わたしは自分の剣も武器も持って来なかったからです。」

9 祭司は言った。「あなたがエラの谷で殺したペリシテ人ゴリアテの剣なら、見よ、それはここ、エポデの後ろに布に包まれています。もしあなたがそれを取るなら、それを取りなさい。ここにはそれ以外にないからです。」ダビデは言った。「それのようなものはありません。それをわたしにください。」
10 ダビデは立ち上がり、その日サウルを恐れて逃げ、ガテの王アキシュのところへ行った。
11 アキシュの家来たちは彼に言った。「これはその地の王ダビデではありませんか。人々は踊りながら、彼について互いに歌い交わして、こう言っていたではありませんか。
『サウルは千を打ち、
ダビデは万を打った』と。」
12 ダビデはこれらの言葉を心に留め、ガテの王アキシュを非常に恐れた。
13 彼は彼らの前で自分の振る舞いを変え、彼らの手の中で気が狂ったふりをし、門の扉に書きなぐり、ひげによだれを流した。
14 するとアキシュは家来たちに言った。「見よ、おまえたちはこの男が狂っているのを見ている。それなのに、なぜ彼をわたしのところに連れて来たのか。
15 わたしには狂人が不足しているとでもいうのか。わたしの前で狂人のように振る舞うために、この男を連れて来たのか。この男がわたしの家に入って来るというのか。」

22

1 それゆえダビデはそこを去り、アドラムのほら穴へ逃れた。彼の兄弟たちと、彼の父の全家がそれを聞いた時、彼らはそこへ下って彼のもとへ行った。
2 苦難にある者、負債のある者、不満を抱く者は皆、彼のもとに集まり、彼は彼らの指揮官となった。彼と一緒にいたのは約四百人であった。
3 ダビデはそこからモアブのミツペへ行った。彼はモアブの王に言った。「どうか、神がわたしのために何をしてくださるかが分かるまで、わたしの父と母をあなたのところに来させてください。」
4 彼は彼らをモアブの王の前に連れて行き、彼らはダビデが要害にいる間ずっと、王とともに住んだ。
5 預言者ガドはダビデに言った。「要害に留まってはならない。出発して、ユダの地へ行きなさい。」そこでダビデは出発し、ヘレテの森へ来た。
6 サウルは、ダビデと彼と一緒にいる者たちが見つかったと聞いた。さて、サウルはギベアにいて、ラマにあるぎょりゅうの木の下に座り、手に槍を持ち、すべての家来たちが彼の周りに立っていた。
7 サウルは自分の周りに立っている家来たちに言った。「さあ聞け、ベニヤミン人たちよ。エッサイの息子が、あなたがた全員に畑やぶどう畑を与え、あなたがた全員を千人隊の長や百人隊の長にするというのか。
8 あなたがたは皆わたしに逆らって共謀し、わたしの息子がエッサイの息子と契約を結んだ時、わたしにそれを知らせる者はだれもいない。また、あなたがたの中にはわたしのために心を痛める者も、わたしの息子が今日のように、待ち伏せするためにわたしのしもべをわたしに逆らって立ち上がらせたことを、わたしに知らせる者もいない。」
9 その時、サウルの家来たちのそばに立っていたエドム人ドエグが答えて言った。「わたしはエッサイの息子がノブに来て、アヒトブの子アヒメレクのところへ行くのを見ました。
10 彼は彼のために主に尋ね、彼に食料を与え、ペリシテ人ゴリアテの剣を与えました。」
11 そこで王は人を遣わし、アヒトブの子である祭司アヒメレクと、ノブにいた祭司たちである彼の父の全家を呼び寄せた。彼らは皆、王のもとへ来た。

12 サウルは言った。「さあ聞け、アヒトブの息子よ。」
彼は答えた。「はい、ここにおります、わが主よ。」
13 サウルは彼に言った。「なぜおまえは、エッサイの息子とともにわたしに逆らって共謀し、彼にパンと剣を与え、彼のために神に尋ねて、今日のように彼がわたしに逆らって立ち上がり、待ち伏せするようにしたのか。」
14 するとアヒメレクは王に答えて言った。「あなたのすべての家来の中で、王の婿であり、あなたの護衛隊の長であり、あなたの家で尊ばれているダビデほど、忠実な者がだれかいるでしょうか。
15 わたしが今日、彼のために神に尋ね始めたとでも言うのですか。断じてそうではありません。王が、しもべにも、わたしの父の全家にも、何の責任も負わせられませんように。あなたのしもべは、このすべてのことについて、大小にかかわらず何も知らないからです。」
16 王は言った。「アヒメレクよ、おまえは必ず死ななければならない。おまえも、おまえの父の全家もだ。」
17 王は自分の周りに立っている近衛兵に言った。「向きを変えて、主の祭司たちを殺せ。彼らの手もダビデとともにあり、また彼が逃げたことを知っていながら、それをわたしに知らせなかったからだ。」しかし王の家来たちは、主の祭司たちを殺すために手を伸ばそうとはしなかった。
18 王はドエグに言った。「おまえが向きを変えて、祭司たちを殺せ。」エドム人ドエグが向きを変え、祭司たちを殺し、彼はその日、亜麻布のエポデを着ている八十五人を殺した。
19 彼は祭司たちの町ノブを剣の刃で打ち、男も女も、子どもも乳飲み子も、牛、ろば、羊も、剣の刃で打った。
20 アヒトブの子アヒメレクの息子たちの一人で、名をアビアタルという者が逃れ、ダビデの後を追って逃げた。
21 アビアタルはダビデに、サウルが主の祭司たちを殺したことを告げた。
22 ダビデはアビアタルに言った。「あの日、エドム人ドエグがそこにいた時、彼が必ずサウルに告げるであろうと、わたしは知っていた。あなたの父の家のすべての人の死は、わたしに責任がある。
23 わたしと一緒に留まり、恐れることはない。わたしの命を狙う者はあなたの命を狙う者だからだ。あなたはわたしと一緒なら安全に守られる。」

23

1 人々がダビデに告げて言った。「見よ、ペリシテ人がケイラと戦い、打ち場を略奪しています。」
2 それゆえダビデは主に尋ねて、「わたしは行って、これらペリシテ人を打つべきでしょうか」と言った。
主はダビデに言われた。「行ってペリシテ人を打ち、ケイラを救いなさい。」
3 ダビデの人々は彼に言った。「見よ、私たちはここユダで恐れています。ましてケイラへ行き、ペリシテ人の軍勢に向かうなら、なおさらではありませんか。」
4 そこでダビデは再び主に尋ねた。主は彼に答えて言われた。「立ち上がり、ケイラへ下って行きなさい。わたしはペリシテ人をあなたの手に渡すからである。」
5 ダビデと彼の人々はケイラへ行ってペリシテ人と戦い、彼らの家畜を奪い取り、大いなる殺戮をもって彼らを打ち倒した。こうしてダビデはケイラの住民を救った。
6 アヒメレクの子アビアタルがケイラにいるダビデのもとへ逃げて来た時、彼は手にエポデを持って下って来た。

7 サウルは、ダビデがケイラに来たことを告げられた。サウルは言った。「神が彼をわたしの手に渡されたのだ。彼は扉と門の貫の木がある町に入って、閉じ込められたからだ。」
8 サウルは戦いのためにすべての民を呼び集め、ダビデと彼の人々を包囲するためにケイラへ下って行こうとした。
9 ダビデは、サウルが自分に対して悪をたくらんでいるのを知り、祭司アビアタルに言った。「ここにエポデを持って来なさい。」
10 それからダビデは言った。「ああ、イスラエルの神、主よ。サウルがわたしのゆえに町を滅ぼそうと、ケイラに来ようとしていることを、あなたのしもべは確かに聞きました。
11 ケイラの人々は、わたしを彼の手の内に引き渡すでしょうか。あなたのしもべが聞いたように、サウルは下って来るでしょうか。ああ、イスラエルの神、主よ。どうか、あなたのしもべに教えてください。」
主は言われた。「彼は下って来る。」
12 それからダビデは言った。「ケイラの人々は、わたしとわたしの人々をサウルの手の内に引き渡すでしょうか。」
主は言われた。「彼らはあなたがたを引き渡すであろう。」
13 そこでダビデと彼の人々、約六百人は立ち上がり、ケイラを出発し、行ける所へ行った。サウルはダビデがケイラから逃げたことを告げられ、そこへ行くのをやめた。
14 ダビデは荒野の要害に留まり、ジフの荒野の山地に留まった。サウルは毎日彼を探したが、神は彼をサウルの手に渡されなかった。
15 ダビデは、サウルが自分の命を狙って出て来たのを見た。ダビデはジフの荒野の森にいた。
16 サウルの子ヨナタンは立ち上がり、森にいるダビデのところへ行き、神にあって彼の手を強めた。
17 彼は彼に言った。「恐れることはない。わたしの父サウルの手があなたを見つけることはない。あなたはイスラエルの王となり、わたしはあなたの次に立つ。わたしの父サウルもまた、そのことを知っている。」
18 二人は主の御前で契約を結んだ。ダビデは森に留まり、ヨナタンは自分の家へ帰った。
19 その時、ジフ人たちがギベアのサウルのところに上って来て言った。「ダビデは荒野の南にあるハキラの丘の森の要害で、私たちと一緒に身を隠しているではありませんか。
20 それゆえ今、王よ。あなたの魂のすべての願いに従って下って来てください。彼を王の手に引き渡すのは私たちの務めです。」
21 サウルは言った。「あなたがたが主に祝福されるように。あなたがたはわたしをあわれんでくれたからだ。
22 どうか行って、さらに確かめ、彼のいる場所と、そこで彼を見た者を知り、見定めなさい。彼は非常に狡猾であると聞いているからだ。
23 したがって、彼が身を隠しているすべての潜伏場所を見定めて、確かな情報を持ってわたしのところに戻って来なさい。そうすればわたしはあなたがたと一緒に行く。もし彼がその地にいるなら、わたしはユダのすべての氏族の中から彼を探し出すであろう。」
24 彼らは立ち上がり、サウルより先にジフへ行った。しかしダビデと彼の人々は、荒野の南の、アラバにあるマオンの荒野にいた。
25 サウルと彼の人々は彼を探しに行った。それがダビデに告げられると、彼は岩へ下って行き、マオンの荒野に留まった。サウルはそれを聞くと、マオンの荒野でダビデを追撃した。

26 サウルは山のこちら側を行き、ダビデと彼の人々は山のあちら側を行った。ダビデはサウルを恐れて急いで逃げようとした。サウルと彼の人々が、ダビデと彼の人々を捕らえようと包囲していたからである。
27 しかし、使者がサウルのところに来て言った。「急いで来てください。ペリシテ人がこの地に襲撃をかけました。」
28 そこでサウルはダビデの追撃から引き返し、ペリシテ人を迎え撃ちに行った。それゆえ人々はその場所をセラ・ハマレコテ* と呼んだ。
29 ダビデはそこから上って行き、エン・ゲディの要害に住んだ。

24

1 サウルがペリシテ人を追うことから帰って来た時、「見よ、ダビデはエン・ゲディの荒野にいる」と彼に告げられた。
2 そこでサウルは全イスラエルから三千人のえり抜きの者たちを取り、野やぎの岩々にダビデと彼の人々を探しに行った。
3 彼は道沿いにある羊の囲いに来た。そこにはほら穴があり、サウルは用を足すために入って行った。さて、ダビデと彼の人々は、そのほら穴の奥に座っていた。
4 ダビデの人々は彼に言った。「見よ、主があなたに、『見よ、わたしはあなたの敵をあなたの手に渡す。あなたは自分の目に良いと思われることを彼に行うがよい』と言われた日です。」それからダビデは立ち上がり、ひそかにサウルの上着の裾を切り取った。
5 その後、ダビデの心は、自分がサウルの裾を切り取ったために、自分を責めた。
6 彼は自分の人々に言った。「わたしが、主の油注がれた者であるわが主に対してこのようなことをし、彼に対して手を伸ばすことは、主にかけて断じてありえない。彼は主の油注がれた者だからである。」
7 こうしてダビデはこれらの言葉で自分の人々を制止し、彼らがサウルに逆らって立ち上がることを許さなかった。サウルはほら穴から起き上がり、自分の道を行った。
8 ダビデもその後起き上がってほら穴から出て行き、サウルの後ろから叫んで、「わが主、王よ」と言った。サウルが後ろを振り返ると、ダビデは顔を地に向けてひれ伏し、敬意を示した。
9 ダビデはサウルに言った。「なぜあなたは、『見よ、ダビデはあなたに危害を加えようとしている』と言う人々の言葉に聞き入るのですか。
10 見よ、今日、あなたの目は、主が今日ほら穴の中であなたをわたしの手に渡されたのを見たはずです。ある者たちはあなたを殺すようわたしに勧めましたが、わたしはあなたを惜しみました。そして、『わたしはわが主に対して手を伸ばさない。彼は主の油注がれた者だからである』と言いました。
11 さらに、わたしの父よ、見なさい。そうです、わたしの手にあるあなたの上着の裾を見なさい。わたしはあなたの上着の裾を切り取りながらも、あなたを殺しませんでした。わたしの手に悪も背きもなく、わたしはあなたに対して罪を犯していないことを知り、そして見なさい。あなたはわたしの命を取ろうと追い求めていますが。
12 主がわたしとあなたとの間をさばき、主があなたからわたしのために復讐してくださいますように。しかし、わたしの手はあなたの上に下ることはありません。
13 古の人々のことわざに、『悪者からは悪が出る』と言われている通りです。しかし、わたしの手はあなたの上に下ることはありません。

---

* **23:28 23:28** 「セラ・ハマレコテ」は「分かれの岩」を意味する。

14 イスラエルの王はだれに向かって出て来たのですか。あなたはだれを追
撃しているのですか。死んだ犬ですか。一匹ののみですか。
15 それゆえ、主がさばき主となり、わたしとあなたとの間をさばき、
見て、わたしの訴えを弁護し、わたしをあなたの手から救い出してくださいま
すように。」
16 ダビデがこれらの言葉をサウルに語り終えた時、サウルは、「わが子ダビ
デよ、これはおまえの声か」と言った。サウルは声を上げて泣いた。
17 彼はダビデに言った。「おまえはわたしよりも正しい。おまえはわたし
に良くしてくれたが、わたしはおまえに悪を行ったからだ。
18 主がわたしをおまえの手に渡されたのに、おまえはわたしを殺さなかっ
た。今日、おまえはおまえがわたしに良くしてくれたことを明らかにした。
19 人が自分の敵を見つけた時、彼を無事に去らせるだろうか。それゆえ、今
日おまえがわたしにしてくれたことのために、主がおまえに良い報いを与えて
くださるように。
20 今、見よ、おまえが必ず王となり、イスラエルの王国がおまえ
の手に堅く立てられることを、わたしは知っている。
21 それゆえ今、おまえがわたしの後の子孫を断ち切らず、わたしの父の家か
らわたしの名を滅ぼさないことを、主にかけてわたしに誓ってくれ。」
22 ダビデはサウルに誓った。サウルは家へ帰ったが、ダビデと彼の人々は要
害へ上って行った。

25

1 サムエルが死んだ。全イスラエルはともに集まって彼のために嘆き悲し
み、ラマにある彼の家に彼を葬った。ダビデは立ち上がり、パランの荒
野へ下って行った。
2 マオンに一人の男がいた。その財産はカルメルにあり、その男は非常に裕
福であった。彼には三千匹の羊と一千頭のやぎがおり、彼はカルメル
で羊の毛を刈っていた。
3 さて、その男の名はナバル、その妻の名はアビガイルといった。そ
の女は分別があり、顔立ちも美しかった。しかしその男は、彼が行うことにお
いて荒くれ者で悪かった。彼はカレブの家系の者であった。
4 ダビデは、ナバルが羊の毛を刈っていると荒野で聞いた。
5 ダビデは十人の若者たちを遣わし、ダビデは若者たちに言った。「カルメ
ルへ上って行き、ナバルのところへ行き、わたしの名で彼に挨拶しなさい。
6 彼にこう言いなさい。『長く生きられますように。あなたに平安があるよ
うに。あなたの家に平安があるように。あなたのすべての持ち物に平安があるよ
うに。
7 今、あなたが毛を刈る者たちを抱えていると聞きました。あなたの羊飼い
たちは今まで私たちと一緒にいましたが、私たちは彼らに何の害も加えず、
彼らがカルメルにいた間ずっと、彼らから何かがなくなることもありませんで
した。
8 あなたの若者たちに尋ねてみてください。そうすれば彼らがあなたに教え
てくれるでしょう。それゆえ、この若者たちがあなたの目に恵みを得ますよう
に。私たちは良い日に来たからです。どうか、あなたの手にあるものを何で
も、あなたのしもべたちと、あなたの息子ダビデに与えてください。』」
9 ダビデの若者たちが来て、ダビデの名でこれらすべての言葉をナバル
に告げ、そして待った。
10 ナバルはダビデのしもべたちに答えて言った。「ダビデとは何者か。エッ
サイの息子とは何者か。近頃、それぞれの主人から逃げ出す奴隷が多くなって
いる。

11 それなのに、わたしがわたしのパンとわたしの水と、わたしの毛を刈る者たちのために屠った肉を取って、どこから来たのか分からないような者たちに与えなければならないのか。」
12 そこでダビデの若者たちは道を引き返し、戻って来て、これらすべての言葉を彼に告げた。
13 ダビデは自分の人々に言った。「それぞれ自分の剣を帯びよ。」彼らはそれぞれ自分の剣を帯び、ダビデも自分の剣を帯びた。約四百人がダビデの後について上って行き、二百人は荷物のところに留まった。
14 しかし若者たちの一人がナバルの妻アビガイルに告げて言った。「見よ、ダビデが荒野から私たちの主人に挨拶するために使者たちを送ったのに、彼は彼らをののしりました。
15 しかしその人たちは、私たちに対して非常に良くしてくれました。私たちが野にいて彼らと一緒にいた間ずっと、私たちは害を受けることもなく、何かがなくなることもありませんでした。
16 私たちが羊を飼いながら彼らと一緒にいた間ずっと、彼らは夜も昼も私たちにとって城壁となってくれました。
17 それゆえ今、あなたが何をすべきかを知り、よく考えなさい。私たちの主人と彼の全家に対して悪が定められているからです。彼はどうしようもないならず者なので、だれも彼に話しかけることができません。」
18 そこでアビガイルは急いで、二百個のパンの塊、二つのぶどう酒の皮袋、調理された五匹の羊、五セア* の炒り麦、百房の干しぶどう、および二百個のいちじくの塊を取り、それらをろばに載せた。
19 彼女は若者たちに言った。「わたしの先に行きなさい。見よ、わたしはあなたがたの後について行く。」しかし彼女は夫のナバルには告げなかった。
20 彼女がろばに乗って山の隠れた所を下って来た時、見よ、ダビデと彼の人々が彼女の方へ下って来たので、彼女は彼らに出会った。
21 さて、ダビデは言っていた。「わたしが荒野でこの男に属するすべてのものを守り、彼に属するものが何一つなくならないようにしたのは、全くの無駄であった。彼は善の代わりに悪をわたしに報いた。
22 もしわたしが朝の光がさすまでに、彼に属するすべての者のうち、男† を一人でも残しておくなら、神がダビデの敵たちにそうされ、さらにそれ以上のことをされるように。」
23 アビガイルがダビデを見た時、彼女は急いでろばから降り、ダビデの前に顔を伏せ、地にひれ伏した。
24 彼女は彼の足元にひれ伏して言った。「わが主よ。この咎はわたしの上にあります。どうかあなたのはしためにあなたの耳に語らせ、あなたのはしための言葉を聞いてください。
25 どうか、わが主がこのならず者であるナバルを気に留められませんように。彼はその名の通りの者だからです。彼がナバル‡ という名であるように、愚かさが彼とともにあります。しかし、あなたのはしためであるわたしは、わが主が遣わされた若者たちを見ませんでした。
26 それゆえ今、わが主よ、主が生きておられ、あなたの魂が生きているように、主はあなたが血を流す罪を犯し、自らの手で復讐することを思いとどまらせてくださったのですから、今、あなたの敵たちとわが主に悪をたくらむ者たちがナバルのようになりますように。
27 今、あなたのはしためがわが主のもとに持って来たこの贈り物を、わが主の後について行く若者たちに与えてください。

---

* **25:18** **25:18** 一セアは約7リットル、または1.9ガロン、あるいは0.8ペックである。
† **25:22** **25:22** 直訳「壁に向かって放尿する者」。男性を指す表現。
‡ **25:25** **25:25** 「ナバル」は「愚か者」を意味する。

28 どうか、あなたのはしための背きをお赦しください。主は必ずわが主のために確かな家を建てられるからです。わが主が主の戦いを戦っておられ、あなたの生涯にわたってあなたに悪が見出されないからです。
29 人があなたを追撃し、あなたの命を狙って立ち上がっても、わが主の命はあなたの神、主とともに命の包みの中にしっかりと包まれています。そしてあなたの敵たちの命は、石投げひものくぼみから投げるように、主が投げ捨てられるでしょう。
30 主がわが主について語られたすべての良いことに従って、あなたに行い、あなたをイスラエルの君主として任命された時、
31 わが主が理由なく血を流したことや、わが主が自ら復讐したことが、わが主にとって悲しみとなったり、心のつまずきとなったりしませんように。主がわが主に良くしてくださった時、あなたのはしためを思い出してください。」

32 ダビデはアビガイルに言った。「今日あなたを遣わしてわたしに会わせてくださったイスラエルの神、主がほめたたえられるように。
33 あなたの分別の良さが祝福されるように。そして、わたしが今日血を流す罪を犯し、自分の手で復讐することを思いとどまらせてくれたあなたが祝福されるように。
34 しかし、わたしがあなたに害を加えることを思いとどまらせてくださったイスラエルの神、生ける主にかけて、もしあなたが急いでわたしに会いに来なかったなら、朝の光がさすまでに、ナバルには確かに男§が一人も残されていなかったであろう。」
35 こうしてダビデは、彼女が彼のために持って来たものを彼女の手から受け取り、彼女に言った。「平安のうちにあなたの家へ上って行きなさい。見よ、わたしはあなたの声に聞き入れ、あなたの願いをかなえた。」

36 アビガイルがナバルのところに来ると、見よ、彼は王の宴会のような宴会を家で催していた。ナバルはひどく酔っており、その心は陽気であった。それゆえ、彼女は朝の光がさすまで、大小にかかわらず彼に何も告げなかった。
37 朝になって、ナバルの酔いが覚めた時、彼の妻は彼にこれらの事柄を告げた。すると彼の中で心が死に、彼は石のようになった。
38 そして約十日後、主がナバルを打たれたため、彼は死んだ。

39 ナバルが死んだと聞いた時、ダビデは言った。「ナバルの手によるわたしの非難の訴えを弁護し、そのしもべを悪から引き止めてくださった主がほめたたえられるように。主はナバルの悪行を彼自身の頭上に返された。」そしてダビデは、アビガイルを自分の妻に迎えるため、彼女に人を遣わして申し入れた。
40 ダビデのしもべたちがカルメルのアビガイルのところに来て、彼女に語って言った。「ダビデはあなたを自分の妻とするために、私たちをあなたのところに遣わしました。」
41 彼女は立ち上がり、顔を地に向けてひれ伏し、「見よ、あなたのはしためは、わが主のしもべたちの足を洗うための女奴隷です」と言った。
42 アビガイルは急いで立ち上がり、五人の侍女を連れてろばに乗り、ダビデの使者たちの後について行き、彼の妻となった。

43 ダビデはまたエズレルのアヒノアムをめとり、彼女たち二人は彼の妻となった。
44 サウルは、自分の娘でありダビデの妻であるミカルを、ガリムの出身であるライシュの子パルティに与えていた。

---

§ **25:34 25:34** 直訳「壁に向かって放尿する者」。男性を指す表現。

26

1 ジフ人たちがギベアのサウルのところに来て言った。「ダビデは荒
野の前にあるハキラの丘に身を隠しているではありませんか。」
2 そこでサウルは立ち上がり、ジフの荒野でダビデを探すため、イスラエル
の三千人のえり抜きの者たちを連れてジフの荒野へ下って行った。
3 サウルは荒野の前にある道沿いのハキラの丘に陣を敷いたが、ダビデは荒
野に留まっていた。彼はサウルが自分の後を追って荒野へ来たのを見た。
4 それゆえダビデは斥候たちを遣わし、サウルが確かに来たことを知った。
5 ダビデは立ち上がり、サウルが陣を敷いた場所に来た。ダビデはサウル
と、ネルの息子である彼の軍の長アブネルが横たわっている場所を見た。サウ
ルは陣営の真ん中で横たわり、民はその周りに陣を敷いていた。
6 そこでダビデはヘト人アヒメレクと、ツェルヤの息子でヨアブの兄弟であ
るアビシャイに答えて言った。「わたしと一緒に陣営のサウルのところへ下っ
て行く者はだれか。」アビシャイは言った。「わたしがあなたと一緒に下っ
て行きます。」
7 こうしてダビデとアビシャイは夜、民のところに来た。すると見よ、サウ
ルは陣営の真ん中で横たわって眠っており、彼の槍はその頭のところの地
面に突き刺してあった。アブネルと民は彼の周りに横たわっていた。
8 アビシャイはダビデに言った。「神は今日、あなたの敵をあなた
の手の内に引き渡されました。それゆえ今、どうかわたしに、槍で彼を一
度で地面に突き刺させてください。二度刺す必要はありません。」
9 ダビデはアビシャイに言った。「彼を殺してはならない。主の油注がれ
た者に向かって手を伸ばし、罪に問われない者がいるだろうか。」
10 ダビデは言った。「主は生きておられる。主が彼を打たれるか、あるい
は彼の死ぬ日が来るか、あるいは彼が戦いに下って行って滅びるかである。
11 わたしが主の油注がれた者に向かって手を伸ばすことは、主にかけて断じ
てありえない。しかし今、彼の頭のところにある槍と水の壺を取って、行こ
う。」
12 そこでダビデは槍と水の壺をサウルの頭のところから取り、彼らは去っ
て行った。それを見た者も、それに気づいた者も、目を覚ました者もいなかっ
た。主からの深い眠りが彼らの上に落ちたため、彼らは皆眠っていたからであ
る。
13 それからダビデは向こう側へ渡り、遠く離れた山の頂に立った。彼ら
の間には大きな隔たりがあった。
14 ダビデは民と、ネルの子アブネルに向かって叫んで言った。「アブネ
ル、おまえは答えないのか。」
アブネルは答えて言った。「王に向かって叫んでいるおまえはだれか。」
15 ダビデはアブネルに言った。「おまえは男ではないか。イスラエルの中に
おまえのような者がだれかいるだろうか。それなのになぜ、おまえは主君であ
る王を守らなかったのか。民の一人が、おまえの主君である王を殺そうとし
て入って行ったからだ。
16 おまえの行ったこの事は良くない。主は生きておられる。おまえたち
は死に値する。おまえたちが主君、すなわち主の油注がれた者を守らなかった
からだ。今、王の槍と、彼の頭のところにあった水の壺がどこにあるか見てみ
よ。」
17 サウルはダビデの声を知り、言った。「わが子ダビデよ、これはおまえ
の声か。」ダビデは言った。「わが主、王よ、わたしの声です。」
18 彼は言った。「なぜわが主はそのしもべをこのように追撃されるのです
か。わたしが何をしたというのですか。わたしの手にどんな悪があるというの
ですか。

19 それゆえ今、わが主、王よ。どうか、あなたのしもべの言葉を聞いてください。もしわたしに逆らってあなたを駆り立てたのが主であるなら、主にささげ物を受け入れていただきますように。しかし、もしそれが人の子らであるなら、彼らが主の御前でのろわれますように。彼らは今日、『行って他の神々に仕えよ』と言って、主の所有の地に連なることから、わたしを追い出したからです。
20 それゆえ今、主の御前から遠く離れた地に、わたしの血が落ちませんように。イスラエルの王は、人が山でしゃこを狩るように、一匹ののみを探しに出て来られたのですから。」
21 するとサウルは言った。「わたしは罪を犯した。帰って来なさい、わが子ダビデよ。今日、わたしの命があなたの目に貴いものであったから、わたしはもはやあなたに害を加えない。見よ、わたしは愚かなことをし、ひどく間違っていた。」
22 ダビデは答えて言った。「見よ、王の槍です。若者の一人に渡って来させて、それを取らせてください。
23 主はすべての人に、その人の義と真実の報いを与えられます。今日、主があなたをわたしの手に渡されましたが、わたしは主の油注がれた者に向かって手を伸ばそうとはしなかったからです。
24 見よ、今日あなたの命がわたしの目に大いに重んじられたように、わたしの命も主の目に大いに重んじられ、主がすべての苦難からわたしを救い出してくださいますように。」
25 するとサウルはダビデに言った。「わが子ダビデよ。あなたは祝福されるように。あなたは大きなことを行い、また必ず勝つであろう。」こうしてダビデは自分の道を行き、サウルは自分の場所へ帰った。

27

1 ダビデは心の中で言った。「今、わたしはいつかサウルの手によって滅ぼされるだろう。わたしがペリシテ人の地に逃れるより良いことは何もない。そうすればサウルは、イスラエルの全境界でわたしを探すことに絶望し、わたしは彼の手から逃れることができる。」
2 ダビデは立ち上がり、彼と一緒にいた六百人の人々とともに、マオクの息子であるガテの王アキシュのところへ渡って行った。
3 ダビデはガテのアキシュのもとで、彼と彼の人々、それぞれ自分の家族とともに住んだ。ダビデとその二人の妻、エズレル人アヒノアムと、ナバルの妻であったカルメル人アビガイルも一緒であった。
4 ダビデがガテへ逃げたことがサウルに告げられると、彼はもはやダビデを探さなかった。
5 ダビデはアキシュに言った。「もしわたしがあなたの目に恵みを得ているなら、地方の町の一つをわたしに与え、そこに住ませてください。あなたのしもべが王の町にあなたとともに住むべき理由があるでしょうか。」
6 そこでアキシュはその日、彼にツィクラグを与えた。それゆえツィクラグは今日に至るまでユダの王たちに属している。
7 ダビデがペリシテ人の地方に住んだ日数は一年と四か月であった。
8 ダビデと彼の人々は上って行って、ゲシュル人、ギルズ人、およびアマレク人を襲撃した。これらの国々は昔からその地に住んでおり、シュルへ行く道を通ってエジプトの地に至るまで住んでいた。
9 ダビデはその地を打ち、男も女も一人も生かしておかず、羊、牛、ろば、らくだ、および衣服を奪い取って帰り、アキシュのところへ来た。
10 アキシュは言った。「今日、あなたがたはどこへ襲撃をかけたのか。」
ダビデは言った。「ユダの南、エラフメル人の南、およびケニ人の南です。」

11 ダビデは男も女も一人も生かしてガテへ連れて来なかった。「彼らが私たちについて告げて、『ダビデはこのように行い、彼がペリシテ人の地方に住んでいる間中ずっと、これが彼のやり方であった』と言うといけない」と考えたからである。
12 アキシュはダビデを信じて言った。「彼は自分の民イスラエルにすっかり忌み嫌われるようになった。それゆえ、彼はいつまでもわたしのしもべとなるであろう。」

28

1 そのころ、ペリシテ人はイスラエルと戦うために軍勢を集めた。アキシュはダビデに言った。「あなたとあなたの人々が、わたしとともに軍勢に加わって出て行くことを、よく承知しておきなさい。」
2 ダビデはアキシュに言った。「それなら、あなたはしもべが何をするかをご覧になるでしょう。」
アキシュはダビデに言った。「それなら、わたしはあなたをいつまでもわたしの護衛としよう。」
3 さて、サムエルは死んでおり、全イスラエルは彼のために嘆き悲しみ、彼の町ラマに彼を葬っていた。サウルは霊媒や口寄せをする者をその地から追放していた。
4 ペリシテ人は集まり、シュネムに来て陣を敷いた。サウルは全イスラエルを集め、彼らはギルボアに陣を敷いた。
5 サウルはペリシテ人の軍勢を見た時、恐れ、その心は激しく震えた。
6 サウルが主に尋ねても、主は夢によっても、ウリムによっても、預言者たちによっても彼にお答えにならなかった。
7 そこでサウルは家来たちに言った。「霊媒の女を探しなさい。わたしが彼女のところへ行って尋ねるためだ。」
家来たちは彼に言った。「見よ、エン・ドルに霊媒の女がいます。」
8 サウルは変装して別の衣服を着、二人の男を連れて、夜、その女のところへ行った。彼は言った。「どうか霊媒によってわたしのために占い、わたしが名を挙げる者を呼び上げてください。」
9 女は彼に言った。「見よ、あなたはサウルがしたことを知っています。彼が霊媒や口寄せをする者をこの地から断ち切ったことを。それなのに、なぜあなたはわたしの命に罠を仕掛け、わたしを死なせようとするのですか。」
10 サウルは主にかけて彼女に誓って言った。「主は生きておられる。この事であなたに罰が下ることはない。」
11 そこで女は言った。「だれを呼び上げましょうか。」
彼は言った。「サムエルを呼び上げてください。」
12 女がサムエルを見た時、彼女は大声で叫んだ。女はサウルに言った。「なぜあなたはわたしをだましたのですか。あなたはサウルではありませんか。」
13 王は彼女に言った。「恐れることはない。何が見えるのか。」
女はサウルに言った。「神のような方が地から上って来るのが見えます。」
14 彼は彼女に言った。「どのような姿か。」
彼女は言った。「老人が上って来ます。上着をまとっています。」サウルはそれがサムエルであることを知り、顔を地に向けてひれ伏し、敬意を示した。
15 サムエルはサウルに言った。「なぜわたしを呼び上げて、わたしを煩わせるのか。」
サウルは答えた。「わたしは非常に苦しんでいます。ペリシテ人がわたしに戦いを仕掛け、神はわたしから去られ、預言者たちによっても、夢によっても、もはやわたしにお答えにならないからです。それで、わたしが何をすべきかを教えていただくために、あなたをお呼びしました。」
16 サムエルは言った。「主があなたから去り、あなたの敵となられたのに、なぜあなたはわたしに尋ねるのか。

17 主は、わたしを通して語られたとおりに、あなたに行われた。主は王国をあなたの手から引き裂き、それをあなたの隣人ダビデに与えられた。
18 あなたが主の声に聞き従わず、アマレクに対する主の激しい怒りを実行しなかったので、主は今日、この事をあなたに行われた。
19 さらに主は、あなたとともにイスラエルをもペリシテ人の手に渡される。明日、あなたとあなたの息子たちはわたしとともにいるであろう。主はイスラエルの軍勢をもペリシテ人の手に渡される。」
20 その時、サウルはサムエルの言葉のために非常に恐れ、すぐに全身を地に投げ出して倒れた。彼には力がなかった。その日一日中、またその夜一晩中、パンを食べていなかったからである。
21 女はサウルのところに来て、彼がひどく取り乱しているのを見て言った。「見よ、あなたのはしためはあなたの声に聞き従いました。わたしは自分の命を手に置き、あなたがわたしに語られた言葉を聞き入れました。
22 それゆえ今、どうかあなたもはしための声に聞き従い、わたしにパンの一切れをあなたの前に置かせてください。それを食べて、道を行くための力をつけてください。」
23 しかし彼は拒んで、「わたしは食べない」と言った。それでも家来たちと女が強く勧めたので、彼は彼らの声に聞き従った。そこで彼は地から起き上がり、寝台の上に座った。
24 女は家に肥えた子牛を持っていたので、急いでそれを屠った。また粉を取り、それをこねて、種なしパンを焼いた。
25 彼女はそれをサウルとその家来たちの前に出し、彼らは食べた。それから彼らは立ち上がり、その夜のうちに去って行った。

29

1 ペリシテ人は全軍勢をアフェクに集めた。イスラエル人はエズレルにある泉のそばに陣を敷いた。
2 ペリシテ人の君主たちは、百人隊、千人隊を率いて進んで行き、ダビデとその人々もアキシュとともに最後尾を進んで行った。
3 するとペリシテ人の君主たちは言った。「このヘブル人たちは何なのか。」
アキシュはペリシテ人の君主たちに言った。「これはイスラエルの王サウルの家来ダビデではないか。彼はこの日々、いやこの年々、わたしとともにいたが、彼がわたしのところに逃げて来た日から今日に至るまで、わたしは彼に何の落ち度も見つけていない。」
4 しかしペリシテ人の君主たちは彼に向かって怒り、彼に言った。「この男を送り返し、あなたが彼に指定した場所へ帰らせなさい。私たちとともに戦いに下って行かせてはならない。戦いの中で私たちの敵となるかもしれないからだ。この男がどうやって自分の主君と和解するというのか。ここにいる者たちの首によってではないか。
5 このダビデは、人々が踊りながら互いに歌い交わして、
『サウルは千を打ち、
ダビデは万を打った』
と言った者ではないか。」
6 そこでアキシュはダビデを呼んで言った。「主は生きておられる。あなたは誠実な者だ。あなたが軍勢の中でわたしとともに出入りすることは、わたしの目に良い。あなたがわたしのところに来た日から今日に至るまで、わたしはあなたに悪を見つけていない。しかし、君主たちはあなたを好ましく思っていない。
7 それゆえ今、帰りなさい。ペリシテ人の君主たちを怒らせないように、平安のうちに行きなさい。」

8 ダビデはアキシュに言った。「しかし、わたしが何をしたというのですか。わたしがあなたの前にいるようになった日から今日に至るまで、あなたはしもべに何を見つけたというのですか。わたしが行って、わが主、王の敵と戦ってはならないとは。」
9 アキシュはダビデに答えて言った。「分かっている。あなたはわたしの目には神の使いのように良い者だ。それでもペリシテ人の君主たちは、『彼を私たちとともに戦いに上らせてはならない』と言ったのだ。
10 それゆえ今、あなたとともに来たあなたの主君の家来たちと一緒に、朝早く起きなさい。朝早く起き、明るくなったらすぐに出発しなさい。」
11 そこでダビデとその人々は、朝早く出発するために早く起き、ペリシテ人の地へ帰って行った。ペリシテ人はエズレルへ上って行った。

30

1 三日目に、ダビデとその人々がツィクラグに来た時、アマレク人は南とツィクラグに襲撃をかけていた。彼らはツィクラグを打ち、火で燃やし、
2 その中にいた女たちと、小さい者から大きい者まで、すべての人を捕虜にしていた。彼らは一人も殺さず、人々を連れ去って自分たちの道を行っていた。
3 ダビデとその人々が町に来ると、見よ、町は火で燃やされ、彼らの妻、息子、娘たちは捕虜となっていた。
4 そこでダビデと彼とともにいた民は、もはや泣く力がなくなるまで声を上げて泣いた。
5 ダビデの二人の妻、エズレル人アヒノアムと、カルメル人ナバルの妻であったアビガイルも捕虜となっていた。
6 民が皆、それぞれ自分の息子と娘のことで心を痛め、ダビデを石で打とうと言ったため、ダビデは非常に苦しんだ。しかしダビデは、彼の神、主にあって自らを強めた。
7 ダビデはアヒメレクの子である祭司アビアタルに言った。「どうか、エポデをわたしのところに持って来てください。」アビアタルはエポデをダビデのところに持って来た。
8 ダビデは主に尋ねて言った。「わたしはこの略奪隊を追撃すべきでしょうか。彼らに追いつけるでしょうか。」
主は彼に答えられた。「追撃せよ。あなたは必ず彼らに追いつき、間違いなくすべてを取り戻す。」
9 そこでダビデは、彼とともにいた六百人とともに出発し、ベソル川に来た。そして後に残された者たちはそこに留まった。
10 しかしダビデは、彼と四百人で追撃を続けた。二百人は、疲れ果ててベソル川を渡ることができず、後に留まったからである。
11 彼らは野で一人のエジプト人を見つけ、彼をダビデのところに連れて来た。彼らがパンを与えると、彼は食べ、彼らは彼に水を飲ませた。
12 また、いちじくの菓子の一切れと、干しぶどう二房を与えた。彼がそれを食べると、彼の霊は戻った。彼は三日三晩、パンも食べず、水も飲んでいなかったからである。
13 ダビデは彼に言った。「あなたはだれのものか。どこから来たのか。」
彼は言った。「わたしはエジプト人の若者で、アマレク人の奴隷です。三日前に病気になったため、主人はわたしを置き去りにしました。
14 私たちはケレテ人の南と、ユダに属する地と、カレブの南に襲撃をかけ、ツィクラグを火で燃やしました。」
15 ダビデは彼に言った。「わたしをその略奪隊のところへ連れて下ってくれるか。」

彼は言った。「わたしを殺さず、また主人の手に引き渡さないと、神にかけてわたしに誓ってください。そうすれば、あなたをこの略奪隊のところへ連れて下りましょう。」
16 彼がダビデを連れて下ると、見よ、彼らは地一面に広がって、飲み食いし、踊っていた。ペリシテ人の地とユダの地から奪い取った非常に多くの分捕り品のためであった。
17 ダビデは夕暮れから翌日の夕方まで彼らを打った。彼らのうち、らくだに乗って逃げた四百人の若者たちのほかには、一人も逃れなかった。
18 ダビデはアマレク人が奪い去ったすべてのものを取り戻した。ダビデは二人の妻も救い出した。
19 小さい者から大きい者まで、息子も娘も、分捕り品も、彼らが奪い去ったものも、何一つ欠けるものはなかった。ダビデはすべてを取り戻した。
20 ダビデはすべての羊と牛を取った。人々はそれらの家畜をほかの家畜の前で追い立て、「これはダビデの分捕り品だ」と言った。
21 ダビデは、疲れ果ててダビデについて行くことができず、ベソル川に留まらせておいた二百人のところに来た。彼らはダビデを迎え、また彼とともにいる民を迎えるために出て来た。ダビデが彼らに近づくと、彼らに挨拶した。
22 すると、ダビデとともに行った者たちのうちのすべての悪者やならず者たちが答えて言った。「彼らは私たちとともに行かなかったのだから、私たちが取り戻した分捕り品は彼らに与えない。ただ、それぞれが自分の妻と子どもたちを連れて去るのはよい。」
23 しかしダビデは言った。「わたしの兄弟たちよ、主が私たちに与えてくださったものについて、あなたがたはそのようにしてはならない。主は私たちを守り、私たちに向かって来た略奪隊を私たちの手に渡されたのだ。
24 この事について、だれがあなたがたの言うことに聞き従うだろうか。戦いに下って行った者の分は、荷物のそばに留まった者の分と同じである。彼らは同じように分け合わなければならない。」
25 その日以来、ダビデはそれをイスラエルのための掟と定めとしたので、今日に至るまでそうなっている。
26 ダビデはツィクラグに来ると、分捕り品の一部を彼の友人であるユダの長老たちに送って言った。「見よ、主の敵からの分捕り品の一部を、あなたがたへの贈り物とします。」
27 それは、ベテルにいる人々、南のラモテにいる人々、ヤティルにいる人々、
28 アロエルにいる人々、シフモテにいる人々、エシュテモアにいる人々、
29 ラカルにいる人々、エラフメル人の町々にいる人々、ケニ人の町々にいる人々、
30 ホルマにいる人々、ボラシャンにいる人々、アタクにいる人々、
31 ヘブロンにいる人々、そしてダビデとその人々がかつて留まっていたすべての場所にいる人々に送られた。

31

1 さて、ペリシテ人はイスラエルと戦った。イスラエルの男たちはペリシテ人の前から逃げ去り、ギルボア山で殺されて倒れた。
2 ペリシテ人はサウルとその息子たちに追いつき、サウルの息子たちであるヨナタン、アビナダブ、マルキ・シュアを殺した。
3 戦いはサウルに激しく迫り、弓を射る者たちが彼に追いついた。彼は弓を射る者たちのために激しく苦しんだ。
4 その時、サウルは自分の武器を持つ者に言った。「おまえの剣を抜き、それでわたしを刺し貫け。あの割礼を受けていない者たちが来て、わたしを刺し貫き、わたしを辱めることがないためだ。」しかし、武器を持つ者はひ

どく恐れて、そうしようとはしなかった。それでサウルは自分の剣を取り、その上に倒れ込んだ。
5 武器を持つ者はサウルが死んだのを見て、自分も剣の上に倒れ込み、彼とともに死んだ。
6 こうしてサウルと、その三人の息子、武器を持つ者、そして彼のすべての部下は、その同じ日にともに死んだ。
7 谷の向こう側、またヨルダン川の向こう側にいたイスラエルの男たちは、イスラエルの男たちが逃げたこと、またサウルとその息子たちが死んだことを見ると、町々を捨てて逃げ去った。そしてペリシテ人が来てそこに住んだ。
8 翌日、ペリシテ人が殺された者たちから身ぐるみをはぐために来た時、サウルとその三人の息子がギルボア山に倒れているのを見つけた。
9 彼らはサウルの首を切り落とし、その武具をはぎ取り、ペリシテ人の地の周囲に使者を送り、偶像の宮と民にその知らせを伝えた。
10 彼らはサウルの武具をアシュタロテの宮に置き、その体をベテ・シャンの城壁に打ち付けた。
11 ヤベシュ・ギレアデの住民は、ペリシテ人がサウルにしたことを聞いた。
12 すべての勇士たちは立ち上がり、夜通し歩いて、サウルの体とその息子たちの体をベテ・シャンの城壁から取り下ろした。彼らはヤベシュに来て、そこで彼らを火で燃やした。
13 彼らはその骨を取り、ヤベシュにあるぎょりゅう *
の木の下に葬り、七日の間断食した。

* **31:13 31:13** または「塩杉」。

サムエル記第二

1 サウルの死後、ダビデはアマレク人を打ち破って帰り、ツィクラグに二日間とどまっていた。
2 三日目に、見よ、サウルの陣営から一人の男がやって来た。その服は裂け、頭には土をかぶっていた。彼はダビデのところに来ると、地に伏して敬意を表した。
3 ダビデが彼に、「あなたはどこから来たのか」と言うと、
彼は、「イスラエルの陣営から逃れて来ました」と答えた。
4 ダビデは彼に言った。「どうなったのか。どうか、わたしに告げなさい。」
彼は答えた。「民は戦いから逃げ去り、民の多くが倒れて死にました。サウルとその息子ヨナタンも死にました。」
5 ダビデは、その知らせを告げた若者に言った。「サウルとその息子ヨナタンが死んだと、どうして分かるのか。」
6 その知らせを告げた若者は言った。「わたしがたまたまギルボア山にいたとき、見よ、サウルは自分の槍に寄りかかっており、見よ、戦車と騎兵が彼に迫っていました。
7 彼が後ろを振り向いてわたしを見つけ、わたしを呼びました。わたしは『ここにおります』と答えました。
8 彼が『あなたは何者か』と言うので、わたしは『アマレク人です』と答えました。
9 すると彼はわたしに、『どうか、わたしのそばに立って、わたしを殺してくれ。命はまだあるが、苦痛がわたしを捕らえているからだ』と言いました。
10 そこでわたしは彼のそばに立ち、彼を殺しました。彼が倒れた後は生き延びられないと確信したからです。わたしは彼の頭にあった王冠と、腕にあった腕輪を取り、ここに、わが君のもとに持って来ました。」
11 するとダビデは自分の服をつかんで引き裂いた。彼とともにいたすべての男たちも同じようにした。
12 彼らは、サウルとその息子ヨナタンのため、主*の民のため、そしてイスラエルの家のために、夕暮れまで悼み、泣き、断食した。彼らが剣に倒れたからである。
13 ダビデは、その知らせを告げた若者に言った。「あなたはどこの出身か。」
彼は答えた。「わたしは在留外国人の息子、アマレク人です。」
14 ダビデは彼に言った。「なぜあなたは、主が油注がれた者を滅ぼすために手を伸ばすことを恐れなかったのか。」
15 ダビデは若者の一人を呼んで言った。「近寄って、彼を切り倒せ。」その若者が彼を打つと、彼は死んだ。
16 ダビデは彼に言った。「あなたの血はあなたの頭に帰るように。あなたの口が、『わたしは主が油注がれた者を殺した』と言って、あなた自身に不利な証言をしたからである。」
17 ダビデは、サウルとその息子ヨナタンについて、この哀歌を歌って悼んだ。
18 彼はユダの子らに弓の歌を教えるように命じた。見よ、それはヤシャルの書に記されている。
19 「イスラエルよ、あなたの栄光は、あなたの高い所で殺された。

* **1:12** **1:12** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה

勇士たちはなんと倒れてしまったことか。
20 ガテでそれを告げてはならない。
アシュケロンの通りでそれを広めてはならない。
ペリシテ人の娘たちが喜ばないように、
無割礼の者たちの娘たちが勝ち誇らないように。
21 ギルボアの山々よ、
あなたがたの上に露も雨も降るな。ささげ物の畑もあるな。
そこで勇士たちの盾が汚され、投げ捨てられたからだ。
サウルの盾は油を塗られていなかった。
22 殺された者たちの血から、
勇士たちの脂肪から、
ヨナタンの弓は退かず、
サウルの剣はむなしく帰ることがなかった。
23 サウルとヨナタンは、生きている間、愛され、喜ばしい者であった。
死ぬ時にも、彼らは離されなかった。
彼らは鷲よりも速く、
獅子よりも強かった。
24 イスラエルの娘たちよ、サウルのために泣け。
彼はあなたがたに鮮やかな紅の服を着せ、
あなたがたの服に金の飾りを着けさせた。
25 戦いのただ中で、勇士たちはなんと倒れてしまったことか。
ヨナタンはあなたの高い所で殺された。
26 わたしの兄弟ヨナタンよ、わたしはあなたのことで深く悲しんでいる。
あなたはわたしにとって、非常に喜ばしい者であった。
あなたのわたしへの愛はすばらしく、
女たちの愛に勝るものであった。
27 勇士たちはなんと倒れてしまったことか。
そして戦いの武器は滅び失せた。」

2

1 この後、ダビデは主に伺って言った。「ユダの町々のどれかに上って行くべきでしょうか。」主は彼に言われた。「上って行きなさい。」ダビデは言った。「どこへ上って行くべきでしょうか。」主は言われた。「ヘブロンへ。」
2 そこでダビデはそこへ上って行った。彼の二人の妻、エズレル人アヒノアムと、カルメル人ナバルの妻であったアビガイルも一緒であった。
3 ダビデは自分とともにいた部下たちも、それぞれの家族とともに連れ上った。彼らはヘブロンの町々に住んだ。
4 ユダの人々が来て、そこでダビデに油を注ぎ、ユダの家の王とした。人々はダビデに、「サウルを葬ったのはヤベシュ・ギレアデの人々です」と告げた。
5 ダビデはヤベシュ・ギレアデの人々に使者を遣わして言った。「あなたがたは、自分たちの主君サウルにこの慈しみを示し、彼を葬りました。あなたがたが主によって祝福されますように。
6 今、主があなたがたに慈しみと真実を示してくださいますように。あなたがたがこのことを行ったので、わたしもまた、この慈しみに報います。
7 だから今、あなたがたの手を強くし、勇敢でありなさい。あなたがたの主君サウルは死に、ユダの家はわたしに油を注いで彼らの王としたからです。」
8 さて、サウルの軍の長であるネルの息子アブネルは、サウルの息子イシュボシェテを連れてマハナイムへ渡っていた。
9 彼はイシュボシェテを、ギレアデ、アシュル人、エズレル、エフライム、ベニヤミン、そして全イスラエルの王とした。

10 サウルの息子イシュボシェテがイスラエルを治め始めたとき、彼は四十
歳で、二年間統治した。しかし、ユダの家はダビデに従った。
11 ダビデがヘブロンでユダの家を治めた期間は、七年六か月であった。
12 ネルの息子アブネルと、サウルの息子イシュボシェテのしもべたちは、マ
ハナイムからギベオンへ出て行った。
13 ツェルヤの息子ヨアブとダビデのしもべたちも出て行き、ギベオンの池の
そばで彼らと出会った。一方は池のこちら側に、他方は池の向こう側に座っ
た。
14 アブネルはヨアブに言った。「どうか、若者たちを立たせて、われわれ
の前で競わせようではないか。」ヨアブは言った。「立たせよう。」
15 そこで彼らは立ち上がり、数にしたがって進み出た。ベニヤミンとサウル
の息子イシュボシェテのために十二人、ダビデのしもべたちから十二人であっ
た。
16 彼らはそれぞれ相手の頭をつかみ、剣を相手のわき腹に突き刺したの
で、ともに倒れた。それゆえ、ギベオンにあるその場所はヘルカテ・ハツリ
ム* と呼ばれた。
17 その日の戦いは非常に激しく、アブネルとイスラエルの人々はダビデのし
もべたちの前に打ち負かされた。
18 そこにはツェルヤの三人の息子、ヨアブ、アビシャイ、アサエルがい
た。アサエルは野のガゼルのように足が速かった。
19 アサエルはアブネルの後を追い、アブネルを追うことから右にも左にもそ
れなかった。
20 するとアブネルは後ろを振り向いて言った。「それはあなたか、アサエ
ル。」彼は答えた。「わたしです。」
21 アブネルは彼に言った。「右か左にそれて、若者の一人を捕らえ、その武
具を奪え。」しかし、アサエルは彼を追うことからそれようとはしなかった。
22 アブネルは再びアサエルに言った。「わたしを追うのをやめて、
引き返せ。なぜ、わたしがあなたを地面に打ち倒さなければならないのか。そ
うなれば、どうしてあなたの兄弟ヨアブに顔向けできようか。」
23 しかし、彼はそれることを拒んだ。そのため、アブネルは槍の石突き
で彼の腹を刺し、槍は背中に突き抜けた。彼はそこで倒れ、その場で死ん
だ。アサエルが倒れて死んだ場所に来た者は皆、立ち止まった。
24 しかし、ヨアブとアビシャイはアブネルを追った。彼らがギベオンの荒
野へ向かう道沿いの、ギアの前にあるアンマの丘に来たとき、太陽が沈んだ。
25 ベニヤミンの子らはアブネルの後ろに集まって一つの隊となり、
丘の頂に立った。
26 その時、アブネルはヨアブに呼びかけて言った。「剣はいつまで
も食い尽くすのか。最後には苦い結末になることを、あなたは知らないのか。
民に、自分たちの兄弟を追うのをやめて戻るよう命じるまで、どれほどかかる
のか。」
27 ヨアブは言った。「神† は生きておられる。もしあなたが語っていなかっ
たなら、民は朝には去って、それぞれ兄弟を追うことはなかっただろう。」
28 そこでヨアブは角笛を吹き鳴らした。すると民は皆立ち止まり、もはやイ
スラエルを追わず、戦うこともしなかった。
29 アブネルとその部下たちはその夜通しアラバを進み、ヨルダ
ン川を渡り、ビトロン全域を通ってマハナイムに着いた。
30 ヨアブはアブネルを追うことから戻った。彼が民をすべて集めると、ダビ
デの部下十九人とアサエルが欠けていた。

---

* **2:16** **2:16** 「ヘルカテ・ハツリム」は「短剣の野」を意味する。 † **2:27** **2:27** 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

31 しかし、ダビデのしもべたちはベニヤミン人とアブネルの部下たちを打ったので、三百六十人が死んだ。
32 彼らはアサエルを引き取り、ベツレヘムにある彼の父の墓に葬った。ヨアブとその部下たちは夜通し歩き、夜明けにヘブロンに着いた。

3

1 サウルの家とダビデの家の間には長い戦いがあった。ダビデはますます強くなり、サウルの家はますます弱くなっていった。
2 ヘブロンでダビデに息子たちが生まれた。長男はエズレル人アヒノアムによるアムノン、
3 次男はカルメル人ナバルの妻アビガイルによるキルアブ、三男はゲシュルの王タルマイの娘マアカの息子アブサロム、
4 四男はハギテの息子アドニヤ、五男はアビタルの息子シェファテヤ、
5 六男はダビデの妻エグラによるイトレアムであった。これらがヘブロンでダビデに生まれた。
6 サウルの家とダビデの家の間に戦いがあった間、アブネルはサウルの家で自らを強くしていた。
7 さて、サウルには一人のそばめがおり、その名はアヤの娘リツパといった。イシュボシェテはアブネルに言った。「なぜ、あなたはわたしの父のそばめのところに入ったのか。」
8 するとアブネルは、イシュボシェテの言葉に激しく怒って言った。「わたしはユダに属する犬の頭なのか。今日までわたしは、あなたの父サウルの家、その兄弟たち、その友人たちに慈しみを示し、あなたをダビデの手に渡さなかった。それなのに今日、あなたはこの女に関する過ちでわたしを責めるのか。
9 主がダビデに誓われたとおりのことを、わたしが彼のために行わないなら、神がアブネルにこのように行い、さらに重ねて罰せられるように。
10 すなわち、サウルの家から王国を移し、ダンからベエルシェバに至るまで、イスラエルとユダの上にダビデの王座を据えることである。」
11 イシュボシェテはアブネルを恐れたので、彼にひと言も言い返すことができなかった。
12 アブネルは自分の代わりにダビデへ使者を遣わして言った。「この地は誰のものでしょうか。わたしと契約を結んでください。見よ、わたしの手はあなたとともにあり、全イスラエルをあなたのもとに向かわせます。」
13 ダビデは言った。「良いだろう。わたしはあなたと契約を結ぶ。ただし、一つだけあなたに求めることがある。あなたがわたしの顔を見に来るときには、まずサウルの娘ミカルを連れて来なければ、わたしの顔を見ることはできない。」
14 そしてダビデはサウルの息子イシュボシェテへ使者を遣わして言った。「わたしがペリシテ人の百の包皮をもってめとった、わたしの妻ミカルをわたしに渡しなさい。」
15 そこでイシュボシェテは人を遣わし、ライシュの息子パルティエルである夫から彼女を取った。
16 彼女の夫は泣きながら彼女とともに歩き、バフリムまで彼女について行った。するとアブネルが彼に、「行け、帰れ」と言ったので、彼は帰って行った。
17 アブネルはイスラエルの長老たちと話し合って言った。「以前、あなたがたはダビデがあなたがたの王になることを求めていた。
18 それなら今、それを実行しなさい。主がダビデについて、『わたしのしもべダビデの手によって、わたしはわたしの民イスラエルをペリシテ人の手から、またすべての敵の手から救い出す』と語られたからである。」

19 アブネルはまたベニヤミン人の耳にも語った。そしてアブネルは、イスラエルとベニヤミンの全家にとって良いとされたことすべてを、ヘブロンにいるダビデの耳にも語るために行った。
20 こうしてアブネルは二十人の者を連れて、ヘブロンのダビデのところに来た。ダビデはアブネルと、彼とともにいた者たちのために宴会を催した。
21 アブネルはダビデに言った。「わたしは立ち上がって行き、全イスラエルをわが君、王のもとに集めます。彼らがあなたと契約を結び、あなたが魂の望むとおりにすべてを治めるためです。」ダビデはアブネルを送り出し、彼は無事に去って行った。
22 見よ、ダビデのしもべたちとヨアブが略奪から帰り、多くの戦利品を持ち帰った。しかしアブネルは、ヘブロンのダビデのもとにはいなかった。ダビデが彼を送り出し、彼が無事に去って行ったからである。
23 ヨアブと、彼とともにいたすべての軍勢が帰って来たとき、人々はヨアブに告げて言った。「ネルの息子アブネルが王のところに来ましたが、王は彼を送り出し、彼は無事に去って行きました。」
24 そこでヨアブは王のところに来て言った。「あなたは何ということをされたのですか。見よ、アブネルがあなたのところに来たのに、なぜ彼を送り出し、そのまま去らせてしまったのですか。
25 あなたはネルの息子アブネルをご存じです。彼はあなたを欺き、あなたの出入りを知り、あなたのすることすべてを探るために来たのです。」
26 ヨアブはダビデのところから出て行くと、アブネルの後に使者を送り、シラの井戸から彼を連れ戻した。しかし、ダビデはそれを知らなかった。
27 アブネルがヘブロンに戻って来たとき、ヨアブは静かに話すために、彼を門の中ほどへ連れ出し、そこで彼の腹を刺して死なせた。これは彼の兄弟アサエルの血のためであった。
28 後になって、ダビデはそれを聞いて言った。「わたしとわたしの王国は、ネルの息子アブネルの血について、主の御前でとこしえに無罪である。
29 それがヨアブの頭と、彼の父の全家に降りかかるように。ヨアブの家から、漏出を患う者、規定の病の者、杖にすがる者、剣に倒れる者、パンに乏しい者が絶えることのないように。」
30 こうしてヨアブとその兄弟アビシャイはアブネルを殺した。彼がギベオンでの戦いで、彼らの兄弟アサエルを殺したからである。
31 ダビデはヨアブと、彼とともにいたすべての民に言った。「あなたがたの服を引き裂き、粗布を腰にまとい、アブネルの前で泣き悲しめ。」ダビデ王は棺の後ろを歩いた。
32 彼らはアブネルをヘブロンに葬った。王はアブネルの墓で声を上げて泣き、民も皆泣いた。
33 王はアブネルのために哀歌を歌って言った。
「アブネルは愚か者が死ぬように死ななければならなかったのか。
34 あなたの手は縛られず、あなたの足は足枷をはめられなかった。
不義の子らの前に倒れるように、あなたは倒れた。」
民は皆、彼のために再び泣いた。
35 まだ日のあるうちに、民は皆やって来てダビデにパンを食べるよう勧めた。しかしダビデは誓って言った。「太陽が沈む前に、わたしがパンやほかの何かを味わうようなことがあれば、神がわたしにこのように行い、さらに重ねて罰せられるように。」
36 民は皆これに気づき、それを良いとした。王がしたことはすべて、すべての民に良いとされたのである。
37 その日、すべての民と全イスラエルは、ネルの息子アブネルを殺したのが王によるものではなかったことを理解した。

38 王は家来たちに言った。「今日、イスラエルにおいて、一人の君主であり、偉大な人物が倒れたことを、あなたがたは知らないのか。
39 わたしは油注がれた王であるとはいえ、今日は弱い。ツェルヤの息子たちであるこれらの者は、わたしには手に負えない。主が悪を行う者に、その悪にしたがって報いてくださるように。」

4

1 サウルの息子は、アブネルがヘブロンで死んだことを聞くと、その手は弱り、イスラエル人は皆動揺した。
2 サウルの息子には、略奪隊の隊長である二人の者がいた。一人の名はバアナ、もう一人の名はレカブといい、ベニヤミンの子らであるベエロテ人リンモンの息子たちであった。ベエロテもベニヤミンの一部とみなされていたからである。
3 またベエロテ人はギタイムに逃げ、今日に至るまでそこで寄留者として住んでいる。
4 さて、サウルの息子ヨナタンには、両足の不自由な息子が一人いた。サウルとヨナタンについての知らせがエズレルから届いたとき、彼は五歳であった。彼の乳母は彼を抱き上げて逃げた。急いで逃げる際に彼は落ち、足が不自由になった。彼の名はメフィボシェテであった。
5 ベエロテ人リンモンの息子レカブとバアナは出かけて行き、日中の一番暑いころ、イシュボシェテが昼寝をしているときに彼の家に来た。
6 彼らは小麦を取りに来たかのようにして家の中ほどに入り、彼の腹を刺した。それからレカブと彼の兄弟バアナは逃げた。
7 彼らが家に入ったとき、イシュボシェテは寝室の寝台で横になっていた。彼らは彼を打って殺し、その首をはね、その首を取って、夜通しアラバの道を通って行った。
8 彼らはイシュボシェテの首をヘブロンのダビデのところに持って来て、王に言った。「見よ、あなたの命を狙っていたあなたの敵サウルの息子、イシュボシェテの首です。主は今日、わが君、王のために、サウルとその子孫* に復讐されました。」
9 ダビデは、ベエロテ人リンモンの息子レカブとその兄弟バアナに答えて言った。「すべての逆境からわたしの魂を贖ってくださった主は生きておられる。
10 かつて『見よ、サウルは死んだ』とわたしに告げ、自分が良い知らせを持って来たと思った者を、わたしは捕らえてツィクラグで殺した。それが、その知らせに対してわたしが与えた報いであった。
11 まして、悪者どもが義人をその人自身の家の寝台の上で殺したのだから、なおさらのこと、今、わたしはあなたがたの手から彼の血の責任を問い、あなたがたを地から取り除くべきではないか。」
12 ダビデは若者たちに命じ、彼らはその二人を殺し、彼らの手と足を切り落とし、ヘブロンの池のそばに吊るした。しかし、イシュボシェテの首は取って、ヘブロンにあるアブネルの墓に葬った。

5

1 その後、イスラエルのすべての部族がヘブロンのダビデのもとに来て、言った。「見よ、われわれはあなたの骨であり、あなたの肉です。
2 昔、サウルがわれわれの王であったとき、イスラエルを率いて出入りしたのはあなたでした。主はあなたに、『あなたがわたしの民イスラエルの牧者となり、あなたがイスラエルの君主となる』と言われました。」

---

* **4:8 4:8** または「種」。

3 こうして、イスラエルのすべての長老たちがヘブロンの王のもとに来た。ダビデ王はヘブロンで、主の御前に彼らと契約を結び、彼らはダビデに油を注いでイスラエルの王とした。
4 ダビデは治め始めたとき三十歳で、四十年間統治した。
5 彼はヘブロンで七年六か月の間ユダを治め、エルサレムで三十三年の間、全イスラエルとユダを治めた。
6 王とその部下たちは、この地の住民であるエブス人を攻めるためにエルサレムへ行った。彼らはダビデに、「目の見えない者や足の不自由な者でも、あなたをここから締め出せる」と言った。彼らは「ダビデはここに入ることはできない」と考えたからである。
7 それでも、ダビデはシオンの要害を攻め取った。これがダビデの町である。
8 ダビデはその日、「エブス人を打つ者はだれでも、水路に上って行き、ダビデの魂が憎む、あの足の不自由な者や目の見えない者たちを打て」と言った。そのため人々は、「目の見えない者や足の不自由な者は、家に入ってはならない」と言う。
9 ダビデはその要害に住み、そこをダビデの町と呼んだ。ダビデはミロから内側にかけて、周囲に建て増していった。
10 ダビデはますます大いなる者となった。万軍の神である主が彼とともにおられたからである。
11 ツロの王ヒラムは、ダビデのもとに使者たちと、杉の木、大工、石工を送った。彼らはダビデのために家を建てた。
12 ダビデは、主が彼をイスラエルの王として確立し、ご自分の民イスラエルのために彼の王国を高められたことを悟った。
13 ダビデはヘブロンから来た後、エルサレムでさらに多くのそばめや妻をめとった。そして、ダビデにはさらに多くの息子と娘が生まれた。
14 エルサレムで彼に生まれた者たちの名は次のとおりである。シャムア、ショバブ、ナタン、ソロモン、
15 イブハル、エリシュア、ネフェグ、ヤフィア、
16 エリシャマ、エリアダ、エリフェレテ。
17 ペリシテ人は、人々がダビデに油を注いでイスラエルの王としたことを聞くと、皆ダビデを捜しに上って来た。ダビデはそれを聞いて、要害へ下って行った。
18 さて、ペリシテ人はやって来て、レファイムの谷に広がった。
19 ダビデが主に伺って、「ペリシテ人を攻めに上るべきでしょうか。あなたは彼らをわたしの手に引き渡してくださるでしょうか」と言うと、主はダビデに言われた。「上って行け。わたしは必ずペリシテ人をあなたの手に引き渡すからだ。」
20 ダビデはバアル・ペラツィムに行き、そこで彼らを打ち破った。そして彼は言った。「水が突き破るように、主はわたしの前で敵を突き破られた。」そのため、彼はその場所の名をバアル・ペラツィム* と呼んだ。
21 彼らがそこに自分たちの偶像を置き去りにしたので、ダビデとその部下たちはそれらを持ち去った。
22 ペリシテ人はまたもや上って来て、レファイムの谷に広がった。
23 ダビデが主に伺うと、主は言われた。「上って行ってはならない。彼らの背後に回り込み、桑の木の前から彼らを攻めよ。
24 桑の木の梢に行進の音が聞こえたなら、奮い立て。そのとき、主がペリシテ人の軍勢を打つために、あなたの前に出て行かれるからである。」

* **5:20 5:20** 「バアル・ペラツィム」は「打ち破って出る主」を意味する。

25 ダビデは主が命じられたとおりに行い、ゲバからゲゼルに至るまでペリシテ人を打ち破った。

6

1 ダビデは再びイスラエルの精鋭三万人をすべて集めた。
2 ダビデは立ち上がり、自分とともにいたすべての民を連れてユダのバアレから出発した。そこから、ケルビムの上に座しておられる万軍の主の御名、すなわちその御名によって呼ばれる神の箱を運び上るためであった。
3 彼らは神の箱を新しい車に載せ、丘の上にあるアビナダブの家から運び出した。アビナダブの息子であるウザとアヒオが、その新しい車を御していた。
4 彼らが丘の上にあるアビナダブの家から、神の箱とともにそれを運び出したとき、アヒオは箱の前を歩いていた。
5 ダビデとイスラエルの全家は、糸杉の木で作られたあらゆる楽器、竪琴、弦楽器、タンバリン、カスタネット、シンバルを鳴らして、主の御前で演奏していた。
6 彼らがナコンの打ち場に着いたとき、牛がつまずいたので、ウザは神の箱に手を伸ばし、それをつかんだ。
7 するとウザに対して主の怒りが燃え上がり、神はその過ちのゆえに、その場で彼を打たれた。彼はそこで神の箱の傍らで死んだ。
8 主がウザに対して激しく怒りを発せられたため、ダビデは不快に思った。そして彼はその場所をペレツ・ウザ* と呼び、今日に至っている。
9 その日、ダビデは主を恐れて言った。「どうして主の箱がわたしのところに来ることができようか。」
10 そのためダビデは、主の箱をダビデの町にある自分のところへ移そうとはせず、それをガテ人オベデ・エドムの家に運び入れた。
11 主の箱はガテ人オベデ・エドムの家に三か月とどまった。主はオベデ・エドムとその全家を祝福された。
12 「主は神の箱のゆえに、オベデ・エドムの家と彼に属するすべてのものを祝福された」とダビデ王に告げられた。ダビデは行って、神の箱をオベデ・エドムの家からダビデの町へ、喜びをもって運び上った。
13 主の箱を担ぐ者たちが六歩進んだとき、彼は牛と肥えた子牛をいけにえとしてささげた。
14 ダビデは力の限り主の御前で踊った。ダビデは亜麻布のエポデを身に着けていた。
15 こうしてダビデとイスラエルの全家は、歓声を上げ、角笛を吹き鳴らして、主の箱を運び上った。
16 主の箱がダビデの町に入って来たとき、サウルの娘ミカルは窓から見下ろし、ダビデ王が主の御前で跳ねたり踊ったりしているのを見て、心の中で彼をさげすんだ。
17 彼らは主の箱を運び入れ、ダビデがそのために張った天幕の中の定めの場所に安置した。ダビデは主の御前に全焼のささげ物と和解のいけにえをささげた。
18 ダビデは全焼のささげ物と和解のいけにえをささげ終えると、万軍の主の御名によって民を祝福した。
19 彼はすべての民、すなわちイスラエルの全群衆の男女一人ひとりに、パン一切れ、なつめやし、干しぶどうを分け与えた。そして民は皆、それぞれ自分の家に帰って行った。
20 それからダビデは自分の家族を祝福するために戻って来た。サウルの娘ミカルはダビデを出迎えに出て来て言った。「今日のイスラエルの王は、なん

* **6:8 6:8** 「ペレツ・ウザ」は「ウザに対する打ち破り」を意味する。

と輝かしかったことでしょう。ならず者が恥じることもなく自分をさらけ出すように、ご自分の家来たちのはしためたちの目の前で、今日ご自分をさらけ出されるとは。」
21 ダビデはミカルに言った。「それは主の御前でのことだ。主はあなたの父よりも、またその全家よりもわたしを選び、主の民イスラエルの君主に任命してくださった。それゆえ、わたしは主の御前で喜び祝う。
22 わたしはこれよりもさらに卑しめられ、自分の目にも取るに足りない者となるだろう。しかし、あなたが話したそのはしためたちからは、わたしは敬われるだろう。」
23 サウルの娘ミカルには、死ぬ日まで子どもがなかった。

7

1 王が自分の家に住み、主が周囲のすべての敵から彼を休ませられたとき、
2 王は預言者ナタンに言った。「見よ、わたしは杉の家に住んでいるが、神の箱は幕の内にある。」
3 ナタンは王に言った。「行って、あなたの心にあることをすべて行いなさい。主があなたとともにおられるからです。」
4 その夜、主のことばがナタンに臨んで言った。
5 「行って、わたしのしもべダビデに言え。『主はこう言われる。「わたしが住むための家を、あなたが建てるというのか。
6 わたしはイスラエルの子らをエジプトから導き上った日から今日に至るまで、家に住んだことはなく、天幕や幕屋の中を移動してきた。
7 わたしがイスラエルのすべての子らとともに歩んできたすべての場所で、わたしの民イスラエルの牧者となるよう命じたイスラエルの部族のだれかに、『なぜわたしのために杉の家を建てなかったのか』と、ひと言でも言ったことがあるだろうか。」』
8 今、わたしのしもべダビデにこう言え。『万軍の主はこう言われる。「わたしはあなたを羊の囲いから、羊の群れの後ろから取って、わたしの民イスラエルの上の君主とした。
9 あなたがどこへ行くにも、わたしはあなたとともにおり、あなたの前からすべての敵を断ち切った。わたしは地上の偉大な者たちの名のような、大いなる名をあなたに与える。
10 わたしはわたしの民イスラエルのために一つの場所を定め、彼らを植え付ける。彼らは自分たちの場所に住み、もはや動かされることはない。不義の子らが、初めのころや、わたしがわたしの民イスラエルの上に士師たちを命じた日以来のように、彼らを苦しめることはもはやない。
11 わたしはあなたをすべての敵から休ませる。さらに主は、主があなたのために家を造るということを、あなたに告げる。
12 あなたの日々が満ち、あなたが父祖たちとともに眠りにつくとき、わたしはあなたの体から出るあなたの子孫を、あなたの後に立て、彼の王国を確立する。
13 彼はわたしの名のために家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえに確立する。
14 わたしは彼の父となり、彼はわたしの息子となる。彼が不義を犯すなら、わたしは人の杖と人の子らの鞭をもって彼を懲らしめる。
15 しかし、わたしの慈しみは彼から離れ去ることはない。わたしがあなたの前から退けたサウルから、それを取り去ったようにはならない。
16 あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえに確かなものとされる。あなたの王座はとこしえに確立される。」』」
17 ナタンはこれらのすべての言葉を、またこのすべての幻のとおりに、ダビデに語った。

18 そこでダビデ王は中に入って主の御前に座り、こう言った。「主*
なる神よ。わたしが何者であり、わたしの家が何であるからといって、あなた
はわたしをここまで導いてくださったのでしょうか。
19 主なる神よ、これはあなたの御目にはまだ小さなことでした。あなたはし
もべの家について、はるか先のことまで語ってくださいました。主な
る神よ、これが人に対するあなたの御心なのでしょうか。
20 ダビデはこれ以上、あなたに何を言えるでしょうか。主なる神よ、あなた
はあなたのしもべをご存じだからです。
21 あなたの言葉のゆえに、またあなた自身の御心にしたがって、あなたはあ
なたのしもべに知らせるために、このすべての偉大なことを行われました。
22 それゆえ、主なる神よ、あなたは大いなる方です。わたしたちの耳で聞い
たすべてのことによれば、あなたのような方はほかになく、あなたのほか
に神はいないからです。
23 あなたがエジプトから贖い出してご自分の民とされたイスラエル、この地
上の一つの国民のような者が、ほかにあるでしょうか。あなたはご自身のため
に名を上げ、彼らのために偉大なことを行い、あなたの地のために恐るべきこ
とを行われました。これは、あなたがエジプトから、その国々とその神々か
ら贖い出してご自分のものとされた、あなたの民の前で行われたのです。
24 あなたはご自分の民イスラエルを、とこしえにあなたの民として確立され
ました。そして主よ、あなたが彼らの神となられました。
25 今、主なる神よ。あなたがしもべとその家について語られた言葉を、とこ
しえに確かなものとし、あなたが語られたとおりに行ってください。
26 そうして、『万軍の主はイスラエルを治める神である』と言われて、あな
たの御名があとこしえにあがめられますように。そして、あなたのしもべダビデ
の家が、あなたの御前に確立されますように。
27 万軍の主、イスラエルの神であるあなたは、あなたのしもべに『わたしは
あなたのために家を建てる』と言って啓示されました。それゆえ、あなたのし
もべは心にこの祈りをあなたにささげる思いを抱いたのです。
28 今、主なる神よ、あなたこそ神であり、あなたの言葉は真理です。そし
て、あなたはこの良いことをしもべに約束してくださいました。
29 ですから今、あなたのしもべの家を祝福し、それがあなたの御前にとこし
えに続くようにしてください。主なる神よ、あなたがそう語られたからで
す。あなたの祝福によって、あなたのしもべの家がとこしえに祝福されますよ
うに。」

8

1 この後、ダビデはペリシテ人を打って彼らを従わせた。そしてダビデ
は、ペリシテ人の手から母なる町の手綱を奪い取った。
2 彼はモアブを打ち破り、彼らを地面に寝かせて縄で測った。すなわち、二
本の縄で測った者たちを死に渡し、一本の縄いっぱいで測った者たちを生かし
ておいた。モアブ人はダビデのしもべとなり、貢ぎ物を持って来た。
3 ダビデはまた、レホブの息子であるツォバの王ハダデゼルが、川のほとり
で自らの支配を取り戻そうとして行ったとき、彼を打ち破った。
4 ダビデは彼から騎兵千七百人、歩兵二万人を奪い取った。ダビデは戦車
用の馬の足の筋をすべて切ったが、百台の戦車に足りる馬は残しておいた。
5 ダマスコのアラム人たちがツォバの王ハダデゼルを助けに来たとき、ダビ
デはアラム人二万二千人を打った。
6 それからダビデはダマスコのアラムに守備隊を置いた。アラム人はダビデ
のしもべとなり、貢ぎ物を持って来た。主はダビデが行くところどこででも、
彼に勝利をお与えになった。

---

* **7:18 7:18** 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

7 ダビデはハダデゼルのしもべたちが持っていた金の盾を奪い、それらをエルサレムに持って来た。
8 またダビデ王は、ハダデゼルの町々であるベタとベロタイから、非常に多くの青銅を奪い取った。
9 ハマテの王トイは、ダビデがハダデゼルの全軍勢を打ち破ったことを聞いた。
10 そこでトイは、息子ヨラムをダビデ王のもとに遣わし、あいさつさせ、祝福させた。ダビデがハダデゼルと戦い、彼を打ち破ったからである。ハダデゼルはトイと何度も戦っていた。ヨラムは銀の器、金の器、青銅の器を持って来た。
11 ダビデ王はこれらをも、彼が従わせたすべての国々から得てささげた銀や金とともに、主にささげた。
12 すなわちアラム、モアブ、アンモンの子ら、ペリシテ人、アマレク、またレホブの息子であるツォバの王ハダデゼルからの戦利品である。
13 ダビデが塩の谷でアラム人一万八千人を打って帰って来たとき、彼は名を上げた。
14 彼はエドムに守備隊を置き、エドム全土に守備隊を置いた。すべてのエドム人はダビデのしもべとなった。主はダビデが行くところどこででも、彼に勝利をお与えになった。
15 ダビデは全イスラエルを治めた。ダビデは自分のすべての民に対して公正と義を行った。
16 ツェルヤの息子ヨアブが軍の長であり、アヒルデの息子ヨシャファテが記録官であった。
17 アヒトブの息子ツァドクとアビアタルの息子アヒメレクが祭司であり、セラヤが書記官であった。
18 エホヤダの息子ベナヤはケレテ人とペレテ人の長であり、ダビデの息子たちは主要な大臣であった。

9

1 ダビデは言った。「サウルの家には、まだ誰か残っていないか。わたしはヨナタンのために、その人に慈しみを示したい。」
2 サウルの家にはツィバという名のしもべがいたので、人々は彼をダビデのところに呼んだ。王が彼に、「あなたがツィバか」と言うと、
彼は言った。「はい、あなたのしもべです。」
3 王は言った。「サウルの家には、もう誰もいないのか。わたしはその人に神の慈しみを示したいのだが。」
ツィバは王に言った。「ヨナタンにはまだ一人の息子がいます。彼は両足が不自由です。」
4 王は彼に言った。「彼はどこにいるのか。」
ツィバは王に言った。「見よ、彼はロ・デバルにある、アミエルの息子マキルの家にいます。」
5 そこでダビデ王は人を遣わし、ロ・デバルにあるアミエルの息子マキルの家から彼を連れて来させた。
6 サウルの息子ヨナタンの息子メフィボシェテはダビデのところに来ると、顔を地につけて伏し、敬意を表した。ダビデが「メフィボシェテよ」と言うと、
彼は答えた。「見よ、あなたのしもべです。」
7 ダビデは彼に言った。「恐れることはない。わたしはあなたの父ヨナタンのために、必ずあなたに慈しみを示し、あなたの父サウルの土地をすべてあなたに返す。あなたは常にわたしの食卓でパンを食べるようになる。」

8 彼は身をかがめて言った。「あなたのしもべは何者でしょうか。わたしのような死んだ犬に、あなたが目を留めてくださるとは。」
9 それから王はサウルのしもべツィバを呼んで、彼に言った。「サウルとその全家に属していたものをすべて、わたしはあなたの主人の息子に与えた。
10 あなたとあなたの息子たち、それにあなたのしもべたちは、彼のために土地を耕し、収穫物を取り入れなさい。あなたの主人の息子が食べるパンを得るためである。しかし、あなたの主人の息子メフィボシェテは、常にわたしの食卓でパンを食べる。」
さて、ツィバには十五人の息子と二十人のしもべがいた。
11 ツィバは王に言った。「わが君、王がそのしもべに命じられるすべてのことにしたがって、あなたのしもべはそのように行います。」こうしてメフィボシェテは、王の息子たちの一人のように、ダビデの食卓で食事をした。
12 メフィボシェテには一人の幼い息子がおり、その名はミカといった。ツィバの家に住む者は皆、メフィボシェテのしもべとなった。
13 こうしてメフィボシェテはエルサレムに住んだ。彼が常に王の食卓で食事をしたからである。彼は両足が不自由であった。

10

1 この後、アンモンの子らの王が死に、その息子ハヌンが彼に代わって王となった。
2 ダビデは言った。「ナハシュの息子ハヌンに慈しみを示そう。彼の父がわたしに慈しみを示してくれたように。」そこでダビデは、彼の父のことで彼を慰めるために、自分のしもべたちを遣わした。ダビデのしもべたちがアンモンの子らの地に入って来たとき、
3 アンモンの子らの君主たちは、彼らの主君ハヌンに言った。「ダビデがあなたに慰めの使者を遣わしたからといって、彼があなたの父を敬っているとお考えですか。ダビデが自分のしもべたちをあなたのところに遣わしたのは、この町を調べ、探り出し、これを覆すためではありませんか。」
4 そこでハヌンはダビデのしもべたちを捕らえ、彼らのひげの半分を剃り落とし、彼らの服を半分に、すなわち尻のところまで切り取って、彼らを送り帰した。
5 人々がこのことをダビデに告げると、彼は彼らを迎えるために人を遣わした。この男たちがひどく恥をかいていたからである。王は言った。「あなたがたのひげが伸びるまでエリコにとどまり、それから帰りなさい。」
6 アンモンの子らは、自分たちがダビデに忌み嫌われるようになったのを見ると、人を遣わして、ベテ・レホブのアラム人とツォバのアラム人の歩兵二万人、マアカの王と千人の男たち、それにトブの男たち一万二千人を雇った。
7 ダビデはそれを聞くと、ヨアブと勇士たちの全軍勢を遣わした。
8 アンモンの子らは出て来て、門の入り口で戦いの陣を敷いた。ツォバとレホブのアラム人、またトブとマアカの男たちは、別に野にいた。
9 ヨアブは、戦いの陣が自分の前と後ろに敷かれているのを見ると、イスラエルのすべての精鋭から人を選び、アラム人に向かって陣を敷いた。
10 残りの民は自分の兄弟アビシャイの手に委ねた。そして彼はアンモンの子らに対して陣を敷いた。
11 ヨアブは言った。「もしアラム人がわたしにとって強すぎるなら、あなたがわたしを助けなさい。しかし、もしアンモンの子らがあなたにとって強すぎるなら、わたしが行ってあなたを助けよう。
12 勇敢でありなさい。われわれの民のため、またわれわれの神の町々のために、われわれは強くあろう。主がご自身の目に良いとされることを行われるように。」

13 そこでヨアブと、彼とともにいた民がアラム人との戦いに近づくと、彼らはヨアブの前から逃げ去った。
14 アンモンの子らはアラム人が逃げたのを見ると、自分たちもアビシャイの前から逃げ去り、町の中に入った。それからヨアブはアンモンの子らから引き上げて、エルサレムに帰った。
15 アラム人は自分たちがイスラエルに打ち負かされたのを見ると、一堂に集まった。
16 ハダデゼルは人を遣わし、川の向こうにいるアラム人を呼び出した。彼らはヘラムに来た。ハダデゼルの軍の長であるショバクが彼らの先頭に立っていた。
17 これがダビデに告げられると、彼は全イスラエルを集め、ヨルダン川を渡って、ヘラムに来た。アラム人はダビデに対して陣を敷き、彼と戦った。
18 アラム人はイスラエルの前から逃げ去った。ダビデはアラム人の戦車隊七百人と騎兵四万人を殺し、彼らの軍の長であるショバクを打ったので、彼はそこで死んだ。
19 ハダデゼルのしもべであったすべての王たちは、自分たちがイスラエルに打ち負かされたのを見ると、イスラエルと和睦し、彼らに仕えた。こうしてアラム人はもはやアンモンの子らを助けることを恐れた。

11

1 年が巡り、王たちが出陣する時期になると、ダビデはヨアブとその部下たち、および全イスラエルを遣わした。彼らはアンモンの子らを滅ぼし、ラバを包囲した。しかしダビデはエルサレムにとどまっていた。
2 夕暮れ時、ダビデは寝台から起き上がり、王の家の屋上を歩いていた。屋上から一人の女が水浴びをしているのが見えた。その女は非常に美しかった。
3 ダビデは人を遣わして、その女について尋ねさせた。ある者が、「あれはエリアムの娘で、ヘテ人ウリヤの妻バテ・シェバではありませんか」と言った。
4 ダビデは使者たちを遣わして彼女を連れて来させた。彼女が彼のもとに来ると、彼は彼女と寝た（彼女は汚れから身をきよめていたからである）。その後、彼女は自分の家に帰った。
5 女は身ごもったので、人を遣わしてダビデに告げて、「わたしは身ごもりました」と言った。
6 ダビデはヨアブに、「ヘテ人ウリヤをわたしのもとに遣わしなさい」と言って人を遣わした。そこでヨアブはウリヤをダビデのもとに遣わした。
7 ウリヤが彼のもとに来たとき、ダビデはヨアブの様子や民の様子、そして戦いの状況がどうであるかを尋ねた。
8 ダビデはウリヤに言った。「自分の家に下って行き、足を洗いなさい。」ウリヤが王の家から出て行くと、王からの贈り物が彼の後から届けられた。
9 しかしウリヤは、自分の家に下って行かず、主君のすべてのしもべたちとともに王の家の入り口で寝た。
10 人々がダビデに、「ウリヤは自分の家に下って行きませんでした」と告げたとき、ダビデはウリヤに言った。「あなたは旅から帰って来たのではないか。なぜ自分の家に下って行かなかったのか。」
11 ウリヤはダビデに言った。「箱も、イスラエルも、ユダも天幕にとどまり、わたしの主君ヨアブも、わたしの主君のしもべたちも野に宿営しています。それなのに、わたしだけが自分の家に行って食べたり飲んだりし、妻と寝ることができるでしょうか。あなたが生き、あなたの魂が生きているにかけて誓います。わたしはそのようなことはいたしません。」

12 ダビデはウリヤに言った。「今日もここにとどまりなさい。明日、あなたを送り出そう。」こうしてウリヤは、その日と次の日、エルサレムにとどまった。
13 ダビデが彼を招いたので、彼はダビデの前で飲み食いし、ダビデは彼を酔わせた。しかし夕暮れになると、彼は出て行って主君のしもべたちとともに寝台で寝て、自分の家には下って行かなかった。
14 朝になると、ダビデはヨアブに手紙を書き、ウリヤの手に託して送った。
15 彼は手紙にこう書いた。「ウリヤを最も激しい戦いの最前線に出し、彼が打たれて死ぬように、彼から退け。」
16 ヨアブは町を包囲して見張っていたとき、勇敢な者たちがいると知っていた場所にウリヤを配置した。
17 町の者たちが出て来てヨアブと戦った。ダビデのしもべである民のうちの数人が倒れ、ヘテ人ウリヤもまた死んだ。
18 そこでヨアブは人を遣わし、戦いに関するすべての事をダビデに告げさせた。
19 彼は使者に命じて言った。「戦いに関するすべての事を王に話し終えたとき、
20 もし王の怒りが燃え上がり、あなたにこう言ったなら。『なぜ戦うために、それほど町に近づいたのか。彼らが城壁の上から射かけてくることを知らなかったのか。
21 エルベシェテの息子アビメレクを打ったのは誰か。一人の女が城壁の上から彼の上にひき臼の上石を投げ落とし、彼がテベツで死んだのではなかったか。なぜそれほど城壁に近づいたのか。』そのとき、あなたは、『あなたのしもべであるヘテ人ウリヤも死にました』と言いなさい。」
22 そこで使者は行き、ダビデのもとに来て、ヨアブが彼を遣わして伝えさせたすべてのことを報告した。
23 使者はダビデに言った。「あの者たちはわれわれに対して優勢になり、野にいるわれわれのところへ出て来ました。そこでわれわれは門の入り口まで彼らを追い詰めました。
24 射手たちが城壁の上からあなたのしもべたちに向かって射かけ、王のしもべたちのうち数人が死にました。あなたのしもべであるヘテ人ウリヤもまた死にました。」
25 するとダビデは使者に言った。「あなたはヨアブにこう言いなさい。『この事を悪く思ってはならない。剣はこの者もあの者も同じように食い尽くすからだ。町に対する戦いをさらに強め、それを打ち倒せ。』彼を励ましなさい。」
26 ウリヤの妻は、夫ウリヤが死んだことを聞くと、夫のために泣き悲しんだ。
27 喪の期間が過ぎると、ダビデは人を遣わして彼女を自分の家に引き取った。彼女は彼の妻となり、彼に男の子を産んだ。しかし、ダビデが行ったこの事は、主の御目には悪であった。

12

1 主はナタンをダビデのもとに遣わされた。彼はダビデのところに来て、彼に言った。「ある町に二人の男がいました。一人は富んでおり、もう一人は貧しい者でした。
2 富んでいる男には、非常に多くの羊や牛の群れがいましたが、
3 貧しい男には、自分で買って育てていた一匹の小さな雌の小羊のほかには、何もありませんでした。その小羊は彼と彼の子らと一緒に育ち、彼の食べ物を食べ、彼の杯から飲み、彼の胸で眠り、彼にとっては娘のようでした。
4 一人の旅人が富んでいる男のところにやって来ました。彼は自分のもとに来た旅人のために食事を用意するのに、自分の羊や牛の群れから取ること

を惜しみ、その貧しい男の小羊を取って、自分のところに来た男のために調理しました。」
5 ダビデの怒りはその男に対して激しく燃え上がり、ナタンに言った。「主は生きておられる。このようなことをした男は死に値する。
6 彼はこのようなことを行い、あわれみを持たなかったので、その小羊を四倍にして償わなければならない。」
7 ナタンはダビデに言った。「あなたがその男です。イスラエルの神、主はこう言われます。『わたしはあなたに油を注いでイスラエルの王とし、サウルの手からあなたを救い出した。
8 わたしはあなたの主君の家をあなたに与え、あなたの主君の妻たちをあなたの胸に与え、イスラエルとユダの家をあなたに与えた。もしそれが少なすぎたのなら、わたしはあなたにさらに多くのものを加えたであろう。
9 なぜ、あなたは主の言葉を軽んじ、その御目に悪であることを行ったのか。あなたはヘテ人ウリヤを剣で打ち、彼の妻を奪って自分の妻とし、アンモンの子らの剣で彼を殺した。
10 あなたがわたしを軽んじ、ヘテ人ウリヤの妻を奪って自分の妻としたので、今や剣はとこしえにあなたの家から離れない。』
11 主はこう言われます。『見よ、わたしはあなた自身の家から、あなたに対して悪を起こす。わたしはあなたの目の前であなたの妻たちを取り、あなたの隣人に与える。彼はこの太陽の光の中で、あなたの妻たちと寝るであろう。
12 あなたはそれを密かに行ったが、わたしはこの事を全イスラエルの前で、そして太陽の前で行う。』」
13 ダビデはナタンに言った。「わたしは主に対して罪を犯しました。」
ナタンはダビデに言った。「主もまた、あなたの罪を取り除かれました。あなたは死ぬことはありません。
14 しかし、あなたはこの事によって主の敵に大いに冒涜する機会を与えたので、あなたに生まれるその子は必ず死ぬことになります。」
15 ナタンは自分の家に帰って行った。
主は、ウリヤの妻がダビデに産んだ子を打たれたので、その子は重い病気になった。
16 それゆえ、ダビデはその子のために神に懇願した。ダビデは断食し、中に入って、夜通し地面に横たわっていた。
17 彼の家の長老たちは、彼を地面から起き上がらせようとして彼のそばに立ったが、彼はそうしようとはせず、彼らと一緒にパンを食べることもしなかった。
18 七日目に、その子は死んだ。ダビデのしもべたちは、子が死んだことを彼に告げるのを恐れた。彼らはこう言ったからである。「見よ、子がまだ生きていたとき、われわれが彼に話しかけても、彼はわれわれの声に耳を傾けなかった。子が死んだと告げたら、彼はどれほど自分を傷つけることだろう。」
19 しかしダビデは、しもべたちがささやき合っているのを見て、子が死んだことを悟った。ダビデはしもべたちに言った。「子は死んだのか。」
彼らは言った。「死にました。」
20 そこでダビデは地面から起き上がり、体を洗い、油を塗り、衣服を着替えた。そして主の家に入って礼拝した。それから自分の家に帰り、彼が求めると、彼らは彼の前にパンを出し、彼は食べた。
21 すると、しもべたちは彼に言った。「あなたがされたこの事は何ですか。子が生きている間は、あなたはその子のために断食して泣かれましたが、子が死ぬと、あなたは起き上がってパンを食べられました。」

22 彼は言った。「子がまだ生きていた間、わたしが断食して泣いたのは、『もしかすると主がわたしをあわれみ、子を生かしてくださるかもしれない』と思ったからだ。
23 しかし今、子は死んでしまった。なぜわたしは断食しなければならないのか。わたしはあの子を再び連れ戻すことができるだろうか。わたしはあの子のところへ行くが、あの子がわたしのところに戻って来ることはない。」
24 ダビデは妻バテ・シェバを慰め、彼女のところに入って、彼女と寝た。彼女は男の子を産み、彼はその名をソロモンと呼んだ。主は彼を愛され、
25 主は預言者ナタンを遣わし、主のゆえにその子をエディデヤ*と名付けられた。
26 さて、ヨアブはアンモンの子らのラバと戦い、王の町を攻め取った。
27 ヨアブはダビデに使者たちを遣わして言った。「わたしはラバと戦いました。はい、わたしは水の町を攻め取りました。
28 ですから今、残りの民を集めて町の向かいに陣を敷き、そこを攻め取ってください。そうしなければ、わたしが町を攻め取り、わたしの名で呼ばれることになってしまいます。」
29 ダビデはすべての民を集め、ラバへ行ってそれと戦い、そこを攻め取った。
30 彼は彼らの王の頭から王冠を奪い取った。その重さは一タラント†の金であり、そこには宝石がはめ込まれていた。それはダビデの頭に置かれた。彼は町から非常に多くの戦利品を持ち出した。
31 彼はその中にいた民を引き出し、彼らをのこぎり、鉄の鶴嘴、鉄の斧を用いる労働に就かせ、れんが窯で働かせた。彼はアンモンの子らのすべての町々にこのようにした。それからダビデとすべての民はエルサレムに帰った。

13

1 この後、ダビデの息子アブサロムにはタマルという名の美しい妹がいた。ダビデの息子アムノンは彼女を愛するようになった。
2 アムノンは妹タマルのゆえに思い悩み、病気になるほどであった。彼女は処女であり、アムノンには彼女に手を出すことが難しく思えたからである。
3 しかしアムノンには一人の友人がおり、その名はヨナダブといった。彼はダビデの兄弟シメアの息子であった。ヨナダブは非常に悪賢い男であった。
4 彼はアムノンに言った。「王の息子よ、なぜあなたは日ごとにそのように沈んでいるのか。わたしに話してくれないか。」
アムノンは彼に言った。「わたしは兄弟アブサロムの妹タマルを愛している。」
5 ヨナダブは彼に言った。「寝台に横になり、病気のふりをしなさい。あなたの父があなたを見舞いに来たなら、彼に言いなさい。『どうか、妹のタマルを来させて、わたしに食べ物を与え、わたしの目の前で料理をさせてください。わたしがそれを見て、彼女の手から食べられるように。』」
6 そこでアムノンは横になり、病気のふりをした。王が彼を見舞いに来たとき、アムノンは王に言った。「どうか、妹のタマルを来させて、わたしの目の前で二つの菓子を作らせてください。わたしが彼女の手から食べられるように。」
7 そこでダビデはタマルの家に人を遣わして言った。「今すぐあなたの兄弟アムノンの家に行き、彼のために食べ物を用意しなさい。」

---

* **12:25** **12:25** 「エディデヤ」は「主に愛された者」を意味する。 † **12:30** **12:30** 一タラントは約30キログラム、または約66ポンドである。

8 そこでタマルは兄弟アムノンの家に行った。彼は横になっていた。彼女はパン生地を取り、それをこねて、彼の目の前で菓子を作り、その菓子を焼いた。
9 彼女は鍋を取り、彼の前にそれを取り出したが、彼は食べることを拒んだ。アムノンは言った。「すべての者をわたしのところから退出させよ。」すると、すべての者が彼から退出した。
10 アムノンはタマルに言った。「その食べ物を寝室に持ってきなさい。わたしがあなたの手から食べるように。」タマルは自分が作った菓子を取り、兄弟アムノンのいる寝室に持って行った。
11 彼女が彼に食べさせようとそれを近づけたとき、彼は彼女を捕らえて言った。「妹よ、来てわたしと寝なさい。」
12 彼女は彼に答えた。「いいえ、兄弟よ、わたしに無理強いしないでください。イスラエルにおいてそのようなことは行われるべきではありません。この愚行をしてはなりません。
13 わたしは、自分の恥をどこへ持って行けばよいのでしょうか。それにあなたも、イスラエルにおける愚か者の一人のようになってしまいます。ですから今、どうか王に話してください。王はわたしをあなたに与えることを惜しまれないでしょう。」
14 しかし、彼は彼女の声に耳を傾けようとはしなかった。彼は彼女よりも力が強かったので、彼女に無理強いし、彼女と寝た。
15 その後、アムノンは彼女を極めて激しい憎しみをもって憎んだ。彼が彼女を憎むその憎しみは、彼が彼女を愛していた愛よりも大きかった。アムノンは彼女に言った。「起きて、出て行け。」
16 彼女は彼に言った。「いけません。わたしを追い出すというこの大きな悪は、あなたがわたしにした先のことよりもさらに悪いことです。」
しかし、彼は彼女に耳を傾けようとはしなかった。
17 それから彼は自分に仕えている若者を呼んで言った。「今すぐこの女をわたしのところから外に出し、彼女のうしろで戸のかんぬきをかけよ。」
18 彼女はいろいろな色の長衣を着ていた。王の処女である娘たちは、そのような上着を着ていたからである。そこで彼のしもべは彼女を外に出し、彼女のうしろで戸のかんぬきをかけた。
19 タマルは頭に灰をかぶり、着ていたいろいろな色の長衣を引き裂き、頭に手を当てて、大声で泣きながら歩いて行った。
20 彼女の兄弟アブサロムは彼女に言った。「あなたの兄弟アムノンがあなたと一緒にいたのか。しかし妹よ、今は黙っていなさい。彼はあなたの兄弟だ。この事を思い詰めてはならない。」こうしてタマルは、兄弟アブサロムの家で荒れ果てたように過ごした。
21 ダビデ王はこれらすべての事を聞くと、非常に怒った。
22 アブサロムはアムノンに、良いことも悪いことも何も言わなかった。アブサロムは、アムノンが自分の妹タマルに無理強いしたため、彼を憎んでいたからである。
23 丸二年が経った後、アブサロムはエフライムのそばにあるバアル・ハツォルで羊の毛刈りを行い、王の息子たちをすべて招いた。
24 アブサロムは王のところに来て言った。「今ご覧のように、あなたのしもべは羊の毛刈りを行っております。どうか、王とそのしもべたちも、あなたのしもべと一緒に行ってください。」
25 王はアブサロムに言った。「いや、わが息子よ、われわれ全員が行くのはやめておこう。あなたに負担をかけてはならないから。」アブサロムは王に強く勧めたが、王は行こうとはせず、彼を祝福した。
26 そこでアブサロムは言った。「それなら、どうか兄弟のアムノンをわれわれと一緒に行かせてください。」

王は彼に言った。「なぜ彼があなたと一緒に行く必要があるのか。」
27 しかしアブサロムが強く勧めたので、王はアムノンとすべての王の息子たちを彼とともに行かせた。
28 アブサロムは自分のしもべたちに命じて言った。「よく見ておけ。アムノンの心がぶどう酒で陽気になったとき、わたしが『アムノンを打て』とあなたがたに言ったら、彼を殺せ。恐れてはならない。わたしがあなたがたに命じたのではないか。勇気を出し、勇敢であれ。」
29 アブサロムのしもべたちは、アブサロムが命じたとおりにアムノンに対して行った。すると王の息子たちは皆起き上がり、それぞれ自分の騾馬に乗って逃げた。
30 彼らが道中にいたとき、ダビデに知らせが届き、「アブサロムが王の息子たちをすべて殺し、一人も残っていません」と告げられた。
31 すると王は立ち上がり、自分の服を引き裂いて、地面に横たわった。彼のしもべたちも皆、服を引き裂いてそばに立っていた。
32 ダビデの兄弟シメアの息子ヨナダブは答えた。「わが主君が、王の息子である若者たちが皆殺されたと考えてはなりません。死んだのはアムノンだけです。彼が妹のタマルに無理強いした日から、アブサロムの決定により、このことが定められていたからです。
33 ですから今、わが主君、王は、王の息子たちが皆死んだと考えて、この事を心に留められないようにしてください。死んだのはアムノンだけなのですから。」
34 しかしアブサロムは逃げた。見張りをしていた若者が目を上げて見ると、見よ、多くの人々が、彼の背後の丘の中腹の道からやって来るのが見えた。
35 ヨナダブは王に言った。「見よ、王の息子たちが来ます。あなたのしもべが言ったとおりです。」
36 彼が話し終えるやいなや、見よ、王の息子たちがやって来て、声を上げて泣いた。王もそのしもべたちも皆、激しく泣いた。
37 しかしアブサロムは逃げて、ゲシュルの王、アミフドの息子タルマイのところへ行った。ダビデは毎日、自分の息子のために悲しんだ。
38 アブサロムはゲシュルに逃げて行き、そこで三年間を過ごした。
39 ダビデ王はアブサロムのところに出て行きたいと切に願うようになった。アムノンについては、彼が死んだことで慰めを得ていたからである。

14

1 さて、ツェルヤの息子ヨアブは、王の心がアブサロムに向いていることに気づいた。
2 ヨアブはテコアに人を遣わし、そこから一人の知恵のある女を連れて来て、彼女に言った。「どうか、喪に服しているふりをして、喪服を着てください。油を塗らず、死者のために長く喪に服している女のようになってください。
3 そして王のところに行き、このように話しなさい。」こうしてヨアブは彼女の口に言葉を入れた。
4 テコアの女が王に話しかけたとき、彼女は地にひれ伏して敬意を表し、「王よ、お助けください」と言った。
5 王は彼女に言った。「どうしたのか。」
彼女は答えた。「本当にわたしはやもめで、夫は死にました。
6 あなたのはしためには二人の息子がいましたが、彼らは野で争いました。彼らを引き離す者は誰もいなかったので、一人がもう一人を打って殺してしまいました。
7 見よ、一族全体があなたのはしために立ち向かって、こう言っています。『兄弟を打った者を引き渡せ。彼が殺した兄弟の命の代わりに、われわれが彼を殺し、跡継ぎをも滅ぼすためだ。』こうして彼らは、残されているわた

しの炭火を消し、わたしの夫の名も跡継ぎも、この地上に残さないようにしようとしているのです。」
8 王は女に言った。「あなたの家に帰りなさい。わたしがあなたについて命令を出そう。」
9 テコアの女は王に言った。「わが君、王よ。その咎はわたしと、わたしの父の家にありますように。王とその王座は無罪です。」
10 王は言った。「だれでもあなたに何かを言う者がいれば、その者をわたしのところに連れて来なさい。彼が二度とあなたを煩わせることはない。」
11 すると彼女は言った。「どうか王が、あなたの神、主を覚えていてくださいますように。血の復讐をする者がこれ以上滅びをもたらし、彼らがわたしの息子を滅ぼすことのないようにしてください。」
彼は言った。「主は生きておられる。あなたの息子の髪の毛一本も地に落ちることはない。」
12 それから女は言った。「どうか、あなたのはしために、わが君、王へひと言話させてください。」
彼は言った。「話しなさい。」
13 女は言った。「ではなぜ、あなたは神の民に対してこのようなことを企てられたのですか。王はこの言葉を語ることで、ご自分が追放した者を再び連れ戻そうとしない点において、有罪の者のようです。
14 われわれは必ず死ぬ者であり、地にこぼれて再び集めることのできない水のようです。神は命を取り去られるのではなく、追放された者がご自身から見捨てられた者とならないように、手段を備えられます。
15 ですから今、わたしがわが君、王にこの言葉を話すために来たのは、民がわたしを恐れさせたからです。あなたのはしためは言いました。『わたしは今、王に話そう。もしかすると、王はしもべの願いをかなえてくださるかもしれない。
16 王は聞いてくださり、神の相続地から、わたしと息子をともに滅ぼそうとする男の手から、しもべを救い出してくださるだろう。』
17 それであなたのはしためは言いました。『どうか、わが君、王の言葉が安らぎをもたらしますように。わが君、王は神の使いのように、善と悪を見分けることができるからです。あなたの神、主があなたとともにおられますように。』」
18 そこで王は女に答えて言った。「わたしが尋ねることを、どうか隠さないでくれ。」
女は言った。「わが君、王よ、今お話しください。」
19 王は言った。「このすべてのことにおいて、ヨアブの手があなたとともにあったのか。」
女は答えた。「わが君、王よ、あなたの魂が生きているにかけて誓います。わが君、王が語られたことから、だれも右にも左にも逸れることはできません。あなたのしもべヨアブがわたしに求め、彼がこのすべての言葉をあなたのはしための口に入れたからです。
20 事の様相を変えるために、あなたのしもべヨアブはこの事を行いました。わが君は、地にあるすべてのことを知る神の使いの知恵のように賢くあられます。」
21 王はヨアブに言った。「見よ、今わたしはこの事を行おう。だから行って、若者アブサロムを連れ戻しなさい。」
22 ヨアブは地にひれ伏して敬意を表し、王を祝福した。ヨアブは言った。「今日、あなたのしもべは、わたしがわが君、王の御目に恵みを得たことを知りました。王がしもべの願いをかなえてくださったからです。」
23 そこでヨアブは立ち上がってゲシュルへ行き、アブサロムをエルサレムに連れて来た。

24 王は言った。「彼を自分の家へ帰らせよ。だが、わたしの顔を見てはならない。」こうしてアブサロムは自分の家へ帰り、王の顔を見ることはなかった。
25 さて、全イスラエルの中で、アブサロムほどその美しさを大いにほめたたえられた者はいなかった。足の裏から頭の頂まで、彼には欠点がなかった。
26 彼が頭の毛を刈る時（それが重くなったので、彼は毎年、年末にそれを刈っていた）、王の重り石にしたがって、その頭の毛を量ると二百シェケル* あった。
27 アブサロムには三人の息子と一人の娘が生まれた。娘の名はタマルといい、美しい顔立ちの女であった。
28 アブサロムはエルサレムに丸二年間住んだが、王の顔を見ることはなかった。
29 それでアブサロムは王のもとに遣わそうとして、ヨアブを呼んだが、彼は来ようとはしなかった。彼が再び二度目に人を遣わしたが、それでも彼は来ようとはしなかった。
30 そこで彼は自分のしもべたちに言った。「見よ、ヨアブの畑がわたしの畑の近くにあり、そこに大麦がある。行ってそれに火を放て。」アブサロムのしもべたちはその畑に火を放った。
31 そこでヨアブは立ち上がって、アブサロムの家に来て、彼に言った。「なぜあなたのしもべたちは、わたしの畑に火を放ったのか。」
32 アブサロムはヨアブに答えた。「見よ、わたしはあなたのところに人を遣わして言った。『ここに来てくれ。あなたを王のもとに遣わし、「なぜわたしはゲシュルから帰って来たのですか。まだあそこにいた方が、わたしにとっては良かったのです。ですから今、わたしに王の顔を見せてください。もしわたしに咎があるなら、わたしを殺させてください」と言わせるためだ。』」
33 そこでヨアブは王のところに来て、彼に告げた。王がアブサロムを呼ぶと、彼は王のところに来て、王の御前で地にひれ伏した。そして王はアブサロムに口づけした。

15

1 この後、アブサロムは自分のために戦車と馬、そして自分の前を走る五十人の男たちを用意した。
2 アブサロムは朝早く起き、門の道のそばに立った。さばきのために王のところに持っていく訴えのある者がいると、アブサロムはその者を呼んで、「あなたはどの町の者か」と言った。彼が、「あなたのしもべはイスラエルの部族の一つの者です」と答えると、
3 アブサロムは彼に言った。「見よ、あなたの言い分は良くて正しい。しかし、王から任命されてあなたの話を聞く者はだれもいない。」
4 アブサロムはさらに言った。「ああ、わたしがこの地で裁く者に任命されたなら。そうすれば、訴えや事件を持つ者はだれでもわたしのところに来て、わたしが彼に正義を行ってやるのに。」
5 また、だれかが彼に身をかがめようと近づくと、彼は手を伸ばしてその者をつかみ、口づけした。
6 アブサロムは、さばきを求めて王のところに来るすべてのイスラエルに対して、このようなことをした。こうしてアブサロムはイスラエルの人々の心を盗んだ。
7 四十年の終わりに、アブサロムは王に言った。「どうか、わたしが主にお誓いした誓願を果たすために、ヘブロンへ行かせてください。

---

* **14:26 14:26** ―シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。二百シェケルは約2キログラム、または約4.4

8 あなたのしもべはアラムのゲシュルに住んでいた間、誓願を立てて、『もし主が本当にわたしをエルサレムに連れ戻してくださるなら、わたしは主に仕えます』と言ったからです。」
9 王は彼に言った。「安心して行きなさい。」そこで彼は立ち上がり、ヘブロンへ行った。
10 しかしアブサロムは、イスラエルのすべての部族の至る所に密偵を送って言った。「角笛の音を聞いたなら、そのときあなたがたは『アブサロムがヘブロンで王となった』と言え。」
11 招かれた二百人の男たちがエルサレムからアブサロムとともに行った。彼らは無邪気に行き、何も知らなかった。
12 アブサロムがいけにえをささげていたとき、彼はダビデの助言者であるギロ人アヒトフェルを、その町ギロから呼び寄せた。陰謀は強固なものとなった。民が絶えずアブサロムのもとに増え続けたからである。
13 使者がダビデのところに来て、「イスラエルの人々の心はアブサロムに従っています」と告げた。
14 ダビデはエルサレムで自分とともにいたすべてのしもべたちに言った。「立ち上がって逃げよう。そうしなければ、われわれのだれもアブサロムから逃れることはできない。急いで出発せよ。彼がすぐにわれわれに追いつき、われわれに悪をもたらし、剣の刃で町を打つことのないように。」
15 王のしもべたちは王に言った。「見よ、あなたのしもべたちは、わが君、王が選ばれることなら何でも行う用意ができています。」
16 王は出て行き、その家族も皆、彼のあとに続いた。王は家を守らせるために、そばめである十人の女を残した。
17 王は出て行き、すべての民も彼のあとに続いた。彼らはベテ・メルハクにとどまった。
18 彼のしもべたちは皆、彼のそばを通り過ぎた。すべてのケレテ人と、すべてのペレテ人と、すべてのガテ人、すなわちガテから彼に従って来た六百人の男たちは、王の前を通り過ぎた。
19 そのとき王はガテ人イタイに言った。「なぜあなたもわれわれと一緒に行くのか。帰って、王とともにとどまりなさい。あなたは外国人であり、また追放された者なのだから。自分の場所に帰りなさい。
20 あなたは昨日来たばかりなのに、わたしは今日、あなたをわれわれとともにさまよわせるべきだろうか。わたしはどこへ行くかも分からないのに。帰って、あなたの兄弟たちを連れて帰りなさい。慈しみと真実があなたとともにありますように。」
21 イタイは王に答えて言った。「主は生きておられ、わが君、王も生きておられます。わが君、王がおられる場所には、死ぬためであれ生きるためであれ、必ずあなたのしもべもそこにおります。」
22 ダビデはイタイに言った。「行って、通り過ぎなさい。」ガテ人イタイは、彼のすべての部下と、彼とともにいたすべての幼い子どもたちとともに通り過ぎた。
23 全地方の者が大声を上げて泣き、すべての民は通り過ぎた。王自身もキデロンの川を渡り、すべての民は荒野への道に向かって通り過ぎた。
24 見よ、ツァドクもまた、彼とともにいるすべてのレビ人を連れて、神の契約の箱を担いで来た。彼らが神の箱を下に置くと、アビアタルはすべての民が町から通り過ぎるまで上って行った。
25 王はツァドクに言った。「神の箱を町へ運び戻しなさい。もしわたしが主の御目に恵みを得るなら、主はわたしを再び連れ戻し、それとその住まいとをわたしに見せてくださるだろう。

26 しかし、もし主が『わたしはあなたを喜ばない』と言われるなら、
見よ、わたしはここにいる。主が良いと思われることを、わたしになさるように。」
27 王はまた祭司ツァドクに言った。「あなたは先見者ではないか。安心して町へ帰りなさい。あなたの二人の息子、あなたの息子アヒマアツと、アビアタルの息子ヨナタンも一緒に。
28 見よ、わたしはあなたがたから知らせの言葉が来るまで、荒野の浅瀬にとどまる。」
29 そこでツァドクとアビアタルは、神の箱を再びエルサレムに運び戻し、そこにとどまった。
30 ダビデはオリーブ山の坂を上って行き、上りながら泣いた。
彼は頭を覆い、裸足で歩いた。彼とともにいたすべての民もそれぞれ自
分の頭を覆い、泣きながら上って行った。
31 ある者がダビデに、「アヒトフェルはアブサロムと結託して陰謀を企てている者たちの中にいます」と告げた。ダビデは言った。「主よ、どうかアヒトフェルの助言を愚かなものにしてください。」
32 ダビデが神が礼拝される坂の頂に来たとき、見よ、アルキ人フシャイが上着を引き裂き、頭に土をかぶって彼を迎えに来た。
33 ダビデは彼に言った。「もしあなたがわたしと一緒に進んで行くなら、あなたはわたしの重荷になる。
34 しかし、もしあなたが町へ帰り、アブサロムに『王よ、わたしはあなたのしもべになります。昔、わたしはあなたの父のしもべであったように、今はあなたのしもべになります』と言うなら、あなたはわたしのためにアヒトフェルの助言を打ち破ることになる。
35 そこには祭司ツァドクとアビアタルが、あなたとともにいるではないか。だから、王の家から聞くことは何でも、祭司ツァドクとアビアタルに告げなさい。
36 見よ、彼らにはそこに、彼らの二人の息子、ツァドクの息子アヒマアツとアビアタルの息子ヨナタンが一緒にいる。あなたがたは聞いたことすべてを、彼らを通してわたしに知らせなさい。」
37 こうしてダビデの友人フシャイは町に入り、アブサロムはエルサレム
に入った。

16

1 ダビデが坂の頂を少し過ぎたとき、見よ、メフィボシェテのしもべツィバが、鞍を置いた一対のろばと、その上に二百個のパン、干しぶどうの房百
個、夏の果物百個、そして皮袋一つのぶどう酒を載せて、彼を出迎えた。
2 王はツィバに言った。「これらは何のためか。」ツィバは言った。「ろばは王の家族が乗るため、パンと夏の果物は若者たちが食べるため、ぶどう酒は荒野で気を失いそうな者が飲むためです。」
3 王は言った。「そして、あなたの主人の息子はどこにいるのか。」ツィバは王に言った。「見よ、彼はエルサレムにとどまっています。彼は『今日、イスラエルの家はわたしの父の王国をわたしに回復してくれるだろう』と言ったからです。」
4 そこで王はツィバに言った。「見よ、メフィボシェテに属するものはすべてあなたのものだ。」ツィバは言った。「わたしはひれ伏します。わ
が君、王よ、あなたの目に恵みを得られますように。」
5 ダビデ王がバフリムに来たとき、見よ、サウルの家の氏
族の男が出て来た。その名はゲラの息子シメイといった。彼は出て来て、ずっと呪いの言葉を吐きながらやって来た。
6 彼はダビデと、ダビデ王のすべてのしもべたちに石を投げつけた。すべての民とすべての勇士たちは、王の右と左にいた。

7 シメイは呪いながら言った。「出て行け、出て行け。血を流す男、ならず者よ。
8 主はサウルの家のすべての血をあなたに報いられた。あなたはその代わりとして王となったのだ。主は王国をあなたの息子アブサロムの手に渡された。見よ、あなたは自分の悪事によって捕らえられた。あなたが血を流す男だからだ。」
9 するとツェルヤの息子アビシャイは王に言った。「なぜこの死んだ犬が、わが君、王を呪うのでしょうか。どうか、わたしを向こうへ行かせて、彼の首をはねさせてください。」
10 王は言った。「ツェルヤの息子たちよ、わたしがあなたがたと何のかかわりがあるだろうか。彼が呪っているのは、主が彼に『ダビデを呪え』と言われたからだ。それならだれが『なぜあなたはそのようにしたのか』と言えるだろうか。」
11 ダビデはアビシャイとすべてのしもべたちに言った。「見よ、わたしの体から出たわたしの息子でさえ、わたしの命を狙っている。まして、このベニヤミン人はなおさらだ。彼をそのままにしておき、彼に呪わせよ。主が彼にお命じになったのだから。
12 もしかすると、主がわたしの受ける不当な扱いをご覧になり、今日のわたしの呪いの代わりに、主がわたしに良いことを報いてくださるかもしれない。」
13 こうしてダビデとその部下たちは道を進んだ。シメイは彼の向かいの山腹を歩きながら呪い続け、彼に向かって石を投げ、ちりを投げつけた。
14 王と彼とともにいたすべての民は疲れ果てて着き、そこで息を休めた。
15 アブサロムとすべての民、イスラエルの男たちはエルサレムに到着し、アヒトフェルも彼とともにいた。
16 ダビデの友人であるアルキ人フシャイがアブサロムのところに来たとき、フシャイはアブサロムに言った。「王よ、長く生きられますように。王よ、長く生きられますように。」
17 アブサロムはフシャイに言った。「これがあなたの友人への慈しみなのか。なぜあなたは友人とともにいかなかったのか。」
18 フシャイはアブサロムに言った。「いいえ、主と、この民と、すべてのイスラエルの男たちが選んだ方、わたしはその方のものとなり、その方とともにとどまります。
19 さらに、わたしはだれに仕えるべきでしょうか。その息子さんの御前で仕えるべきではないでしょうか。わたしがあなたのお父上の御前で仕えたように、あなたの御前でもそのようにいたします。」
20 それからアブサロムはアヒトフェルに言った。「われわれは何をすべきか、あなたの助言を与えよ。」
21 アヒトフェルはアブサロムに言った。「あなたの父が家を守らせるために残した、彼のそばめたちのところに入りなさい。そうすれば、全イスラエルはあなたが父に忌み嫌われていることを聞くでしょう。そして、あなたとともにいるすべての者の手は強くなるでしょう。」
22 そこで人々は、家の屋上にアブサロムのために天幕を張り、アブサロムは全イスラエルの目の前で父のそばめたちのところに入った。
23 その当時にアヒトフェルが与えた助言は、人が神の言葉を伺うかのようであった。アヒトフェルのすべての助言は、ダビデにとってもアブサロムにとってもそのようであった。

17

1 さらに、アヒトフェルはアブサロムに言った。「どうか、わたしに一万二千人の男たちを選ばせてください。わたしは立ち上がり、今夜ダビデを追跡します。

2 彼が疲れて弱っているときに、わたしは彼を襲い、彼を恐れさせます。
彼とともにいるすべての民は逃げ去るでしょう。わたしは王だけを打ちます。
3 そして、すべての民をあなたのもとに連れ戻します。あなたが求めている一人の男に、すべての者が戻るかどうかはかかっています。そうして、すべての民は平和になるでしょう。」
4 この言葉はアブサロムと、イスラエルのすべての長老たちに良いとされた。
5 そこでアブサロムは言った。「今、アルキ人フシャイも呼びなさい。
彼も何と言うか聞いてみよう。」
6 フシャイがアブサロムのもとに来ると、アブサロムは彼に語って言った。「アヒトフェルはこのように語った。われわれは彼の言うとおりにすべきか。そうでないなら、話しなさい。」
7 フシャイはアブサロムに言った。「アヒトフェルが今回与えた助言は良くありません。」
8 フシャイはさらに言った。「あなたは自分の父とその部下たちをご存じです。彼らは勇士であり、野で子を奪われた熊のように激しく怒っています。あなたの父は戦いの熟練者であり、民と一緒に夜を過ごすことはありません。
9 見よ、彼は今、どこかの穴か、あるいはどこか別の場所に隠れています。初めに彼らのうちの何人かが倒れたとき、それを聞く者はだれでも、『アブサロムに従う民の間に殺戮があった』と言うでしょう。
10 たとえ獅子の心のような心を持つ勇敢な者であっても、完全に溶け去ってしまいます。全イスラエルは、あなたの父が勇士であり、彼とともにいる者たちが勇敢な男たちであることを知っているからです。
11 ですから、わたしはこう助言します。ダンからベエルシェバに至るまで、海辺の砂のように数多い全イスラエルをあなたのもとに集め、あなたご自身が戦いに出て行くのです。
12 そうして、われわれは彼が見つかるどこかの場所で彼を襲い、地に降りる露のように彼の上に降りかかります。彼も、彼とともにいるすべての男たちも、われわれは一人も残しません。
13 さらに、もし彼が町に退き込んだなら、全イスラエルはその町に縄をかけ、われわれはそこを川へ引きずり込み、一つの小石も見つからないようにします。」
14 アブサロムとイスラエルのすべての男たちは言った。「アルキ人フシャイの助言は、アヒトフェルの助言よりも良い。」主がアブサロムに悪をもたらすために、アヒトフェルの良い助言を打ち破るように主が定められていたからである。
15 それからフシャイは、祭司ツァドクとアビアタルに言った。「アヒトフェルはアブサロムとイスラエルの長老たちにこのように助言し、わたしはこのように助言しました。
16 ですから今すぐ人を遣わして、ダビデに告げて言いなさい。『今夜は荒野の浅瀬で夜を過ごしてはなりません。どうしても渡らなければなりません。王と、彼とともにいるすべての民が飲み込まれてしまわないようにするためです。』」
17 さて、ヨナタンとアヒマアツはエン・ロゲルのそばにとどまっていた。はしためが行って彼らに告げ、彼らは行ってダビデ王に告げることになっていた。彼らは町に入るのを見られてはならなかったからである。
18 しかし一人の若者が彼らを見て、アブサロムに告げた。そこで二人は急いで立ち去り、バフリムのある男の家に来た。その男の庭には井戸があり、彼らはそこに下って行った。
19 その女は覆いを取って井戸の口の上に広げ、その上に砕いた穀物を広げたので、何も知られなかった。

20 アブサロムのしもべたちがその家へ女のところに来て、「アヒマアツとヨナタンはどこにいるのか」と言った。
女は彼らに言った。「彼らは水の流れを渡って行きました。」
彼らは捜したが、見つけることができなかったので、エルサレムに帰った。
21 彼らが去った後、二人は井戸から上がり、行ってダビデ王に告げた。彼らはダビデに言った。「起きて、急いで水を渡ってください。アヒトフェルがあなたに対してこのように助言したからです。」
22 そこでダビデと、彼とともにいたすべての民は起き上がり、ヨルダン川を渡った。朝の光が射すころには、ヨルダン川を渡っていない者は一人も残っていなかった。
23 アヒトフェルは自分の助言が受け入れられなかったのを見ると、自分のろばに鞍を置き、立ち上がって自分の町にある自分の家に帰り、家を整え、首を吊って死んだ。そして彼は自分の父の墓に葬られた。
24 それからダビデはマハナイムに来た。アブサロムは、彼と、彼とともにいたイスラエルのすべての男たちと一緒にヨルダン川を渡った。
25 アブサロムはヨアブの代わりにアマサを軍の長とした。さて、アマサはイスラエル人イトラという名の男の息子であり、イトラはナハシュの娘でヨアブの母ツェルヤの姉妹であるアビガイルのところに入った者であった。
26 イスラエルとアブサロムはギレアデの地に陣を敷いた。
27 ダビデがマハナイムに来たとき、アンモンの子らのラバから来たナハシュの息子ショビと、ロ・デバルから来たアミエルの息子マキルと、ロゲリムから来たギレアデ人バルジライが、
28 寝台、鉢、土の器、小麦、大麦、麦粉、炒り麦、豆、レンズ豆、炒り豆、
29 はちみつ、凝乳、羊、牛のチーズを、ダビデと彼とともにいた民が食べるために持って来た。彼らが、「民は荒野で飢え、疲れ、渇いている」と言ったからである。

18

1 ダビデは自分とともにいる民を数え、彼らの上に千人の長と百人の長を任命した。
2 ダビデは民を送り出した。三分の一はヨアブの手に、三分の一はツェルヤの息子でヨアブの兄弟であるアビシャイの手に、三分の一はガテ人イタイの手に委ねた。王は民に言った。「わたしも必ず、あなたがたとともに出て行く。」
3 しかし民は言った。「あなたは出て行ってはなりません。もしわれわれが逃げ去っても、彼らはわれわれを気に留めないからです。もしわれわれの半分が死んでも、彼らはわれわれを気に留めません。しかし、あなたはわれわれの一万人分の価値があります。ですから今、あなたは町の中からわれわれを助ける備えをしてくださる方が良いのです。」
4 王は彼らに言った。「わたしはあなたがたに最も良いと思われることをしよう。」王は門のそばに立ち、すべての民は百人ずつ、千人ずつ出て行った。
5 王はヨアブとアビシャイとイタイに命じて言った。「わたしのために、あの若者アブサロムを優しく扱ってくれ。」王がアブサロムについてすべての長たちに命じたとき、すべての民はそれを聞いていた。
6 こうして民はイスラエルに立ち向かうために野に出て行き、戦いはエフライムの森で行われた。
7 イスラエルの民はそこでダビデのしもべたちの前で打たれ、その日、そこで二万人という大殺戮があった。
8 戦いはそこからその全地方の面に広がり、その日、剣が食い尽くした以上の民を森が食い尽くした。

9 アブサロムはたまたまダビデのしもべたちに出くわした。アブサロムは自分の騾馬に乗っていたが、その騾馬が大きな樫の木の太い枝の下に入り込んだとき、彼の頭がその樫の木に引っかかり、彼は天と地の間に宙づりになった。そして彼の下にいた騾馬は通り過ぎて行った。
10 ある男がそれを見て、ヨアブに告げて言った。「見よ、わたしはアブサロムが樫の木にぶら下がっているのを見ました。」
11 ヨアブは自分に告げた男に言った。「見よ、あなたはそれを見たのに、なぜそこで彼を地面に打ち倒さなかったのか。わたしはあなたに銀十枚と帯一つを与えただろうに。」
12 男はヨアブに言った。「たとえ千枚の銀をわたしの手に受け取ったとしても、わたしは王の息子に向かって手を伸ばしたりはしません。われわれの聞いているところで、王があなたとアビシャイとイタイに、『だれもあの若者アブサロムに手を下さないように注意せよ』と命じられたからです。
13 もしわたしが彼の命に対して偽りを行っていたなら（王に隠されている事はありませんから）、あなた自身がわたしに敵対していたでしょう。」
14 するとヨアブは、「わたしはあなたと一緒にこのように待っているわけにはいかない」と言った。彼は手に三本の槍を取り、アブサロムがまだ樫の木の中ほどで生きている間に、それらをアブサロムの心臓に突き刺した。
15 ヨアブの武器を持つ十人の若者がアブサロムを囲んで打ち、彼を殺した。
16 ヨアブは角笛を吹き鳴らした。すると民はイスラエルを追うのから戻って来た。ヨアブが民を引き止めたからである。
17 彼らはアブサロムを取り、森の中の大きな穴に投げ込み、彼の上に非常に大きな石の塚を積み上げた。それから全イスラエルは逃げ、それぞれ自分の天幕に帰った。
18 さて、アブサロムは生きている間に、王の谷にある柱を取って自分のために立てていた。「わたしの名を記憶にとどめる息子がわたしにはいない」と言ったからである。彼はその柱を自分の名にちなんで呼んだ。それは今日に至るまで、アブサロムの記念碑と呼ばれている。
19 それからツァドクの息子アヒマアツは言った。「どうか今、わたしを走らせて、主が王の敵に復讐してくださったという知らせを王に伝えさせてください。」
20 ヨアブは彼に言った。「あなたは今日、知らせを運ぶ者となってはならない。知らせは別の日に運びなさい。しかし今日、あなたは知らせを運んではならない。王の息子が死んだからだ。」
21 それからヨアブはクシュ人に言った。「行って、あなたの見たことを王に告げよ！」クシュ人はヨアブに身をかがめ、走って行った。
22 それからツァドクの息子アヒマアツは、再びヨアブに言った。「しかし何が起ころうとも、どうかわたしにも、クシュ人の後を走らせてください。」
ヨアブは言った。「わが息子よ、なぜあなたは走りたいのか。その知らせのために報いを受けることはないのだぞ。」
23 「しかし何が起ころうとも、わたしは走ります」と彼は言った。
彼は「走れ！」と言った。そこでアヒマアツは平原の道を走り、クシュ人を追い越した。
24 さて、ダビデは二つの門の間に座っていた。見張りは城壁の上の門の屋上に上り、目を上げて見ると、見よ、一人の男が一人で走って来た。
25 見張りは大声で叫び、王に告げた。
王は言った。「もし彼が一人なら、彼の口に知らせがある。」
彼はますます近づいて来た。

26 見張りはもう一人の男が走って来るのを見た。そして見張りは門番に叫んで、「見よ、一人の男が一人で走って来る！」と言った。
王は言った。「彼も知らせを持って来る。」
27 見張りは言った。「一番目の者の走りは、ツァドクの息子アヒマアツの走りのように思われます。」
王は言った。「彼は良い男だから、良い知らせを持って来る。」
28 アヒマアツは王に呼びかけて、「すべて平安です」と言った。彼は王の御前で地に顔をすりつけて身をかがめ、「あなたの神、主は幸いである。わが君、王に向かって手を上げた者たちを引き渡してくださった」と言った。
29 王は言った。「あの若者アブサロムは無事か。」
アヒマアツは答えた。「ヨアブが王のしもべ、すなわちあなたのしもべであるわたしを遣わしたとき、わたしは大きな騒ぎを見ましたが、それが何であるかは知りません。」
30 王は言った。「わきに退いて、ここに立っていなさい。」彼はわきに退き、そこに立っていた。
31 見よ、クシュ人が来た。クシュ人は言った。「わが君、王に良い知らせがあります。主が今日、あなたに立ち向かって起きたすべての者に復讐してくださったからです。」
32 王はクシュ人に言った。「あの若者アブサロムは無事か。」
クシュ人は答えた。「わが君、王の敵たち、またあなたに悪を行うために立ち向かって起きるすべての者たちが、あの若者のようになりますように。」
33 王は激しく心を動かされ、門の上の部屋に上って行って泣いた。彼は歩きながらこう言った。「わが息子アブサロムよ！わが息子、わが息子アブサロムよ！わたしがあなたの代わりに死ねばよかったものを。アブサロム、わが息子、わが息子よ！」

19

1 人々はヨアブに、「見よ、王はアブサロムのために泣き悲しんでいる」と告げた。
2 その日の勝利は、すべての民にとって喪に変わった。その日、「王は自分の息子のために悲しんでおられる」と人々が聞いたからである。
3 戦いで逃げるときに恥じ入る人々がこっそり逃げるように、民はその日、こっそりと町に入った。
4 王は自分の顔を覆い、王は大声で叫んだ。「わが息子アブサロムよ、アブサロム、わが息子、わが息子よ！」
5 ヨアブは家に入って王のところに来て、言った。「あなたは今日、あなたのすべてのしもべたちの顔を恥じさせました。彼らは今日、あなたの命と、あなたの息子や娘の命、あなたの妻たちの命、そしてあなたのそばめたちの命を救ったのです。
6 それなのに、あなたは自分を憎む者を愛し、自分を愛する者を憎んでおられます。君主たちもしもべたちも、あなたには何でもないことを、あなたは今日宣言されました。もしアブサロムが生きていて、今日われわれがみな死んでいたなら、あなたはそれを大いに喜ばれたであろうと、今日わたしにはわかります。
7 ですから今、起きて外に出、あなたのしもべたちを慰める言葉を語ってください。主にかけて誓います。もしあなたが外に出ないなら、今夜は一人もあなたとともにとどまる者はいません。それは、あなたの若いころから今日まであなたに降りかかったすべての悪よりも、あなたにとって悪いこととなります。」

8 そこで王は立ち上がり、門に座った。人々はすべての民に、「見よ、
王が門に座っておられる」と告げた。
すべての民は王の前に来た。さて、イスラエルはそれぞれ自分の天
幕に逃げ帰っていた。
9 イスラエルのすべての部族の至る所で、すべての民が争って言った。
「王はわれわれを敵の手から救い出し、ペリシテ人の手からわれわれ
を救い出してくださったが、今、アブサロムのゆえにこの地から逃げ去ってし
まわれた。
10 われわれがわれわれの上に油を注いだアブサロムは、戦いで死んだ。それ
なら今、なぜ王を連れ戻すことについて、あなたがたはひと言も語らないの
か。」
11 ダビデ王は祭司ツァドクとアビアタルに人を遣わして言った。「ユダの長
老たちに語って言いなさい。『なぜ、あなたがたは王をその家に連れ戻すの
が一番最後になっているのか。全イスラエルの言葉が王のところに、彼をそ
の家に帰らせるために届いているのに。
12 あなたがたはわたしの兄弟であり、わたしの骨、わたしの肉である。それ
なのに、なぜ王を連れ戻すのが一番最後になっているのか。』
13 またアマサに言いなさい。『あなたはわたしの骨、わたしの肉ではない
か。もしあなたが、ヨアブに代わって常にわたしの前で軍の長とならないな
ら、神がわたしにそのように行い、さらに増し加えられるように。』」
14 彼がユダのすべての男たちの心を一つの心のように傾けさせたので、彼ら
は人を王に遣わして、「あなたと、あなたのすべてのしもべたちとともに
お帰りください」と言った。
15 こうして王は帰途につき、ヨルダン川に着いた。ユダは王を迎えに行き、
王にヨルダン川を渡らせるためにギルガルに来ていた。
16 バフリム出身のベニヤミン人でゲラの息子シメイは急ぎ、ユダの男たちと
ともにダビデ王を迎えるために下って来た。
17 彼とともに一千人のベニヤミンの男たちがおり、サウルの家のしもべツィ
バも、その十五人の息子と二十人のしもべとともに彼と一緒にいた。彼ら
は王の前を通り、ヨルダン川を渡った。
18 王の家族を渡らせ、王が良いと思うことを行うために、渡し舟が渡っ
た。ゲラの息子シメイは、王がヨルダン川を渡ったとき、王の前にひれ伏し
た。
19 彼は王に言った。「わが君が、わたしに咎を負わせられませんように。わ
が君、王がエルサレムから出て行かれた日に、あなたのしもべがよこしま
に行ったことを、どうか思い出されませんように。王がそれを心に留められま
せんように。
20 あなたのしもべは自分が罪を犯したことを知っているからです。それゆ
え、見よ、わたしは今日、わが君、王を迎えに下るために、ヨセフの全
家の中で一番に来ました。」
21 しかしツェルヤの息子アビシャイは答えた。「主が油注がれた者を呪った
のだから、この事でシメイは殺されるべきではないか。」
22 ダビデは言った。「ツェルヤの息子たちよ、わたしがあなたがたと何のか
かわりがあるだろうか。あなたがたは今日、わたしの敵となるのか。今日、イ
スラエルにおいてだれか殺される者があってよいだろうか。今日わたしは、自
分がイスラエルの上の王であることを知っているではないか。」
23 王はシメイに、「あなたは死なない」と言った。王は彼に誓った。
24 サウルの息子メフィボシェテは王を迎えるために下って来た。王が去っ
た日から彼が平安のうちに家に帰る日まで、彼は足の手入れもせず、ひげ
も整えず、服も洗っていなかった。

25 彼が王を迎えるためにエルサレムに来たとき、王は彼に言った。「メフィボシェテよ、なぜわたしと一緒に行かなかったのか。」
26 彼は答えた。「わが君、王よ、わたしのしもべがわたしを欺いたのです。あなたのしもべは足が不自由なので、『自分のためにろばに鞍を置き、それに乗って王とともに行こう』とあなたのしもべは言ったからです。
27 彼はわが君、王にあなたのしもべを中傷しました。しかし、わが君、王は神の使いのようであられます。ですから、あなたの御目に良いと思うことを行ってください。
28 わたしの父の家は皆、わが君、王の前では死んだ者にすぎなかったのに、あなたはご自分の食卓で食べる者たちの中にあなたのしもべを置かれたからです。ですから、わたしにこれ以上王に叫び求めるどんな権利がまだあるでしょうか。」
29 王は彼に言った。「なぜあなたは自分のことをこれ以上話すのか。わたしは、あなたとツィバで土地を分けよと言っている。」
30 メフィボシェテは王に言った。「はい、彼にすべてを取らせてください。わが君、王が平安のうちにご自分の家に帰って来られたからです。」
31 ギレアデ人バルジライはロゲリムから下って来た。彼は王にヨルダン川を渡らせるために、王とともにヨルダン川を渡った。
32 さて、バルジライは非常に年老いた男で、八十歳であった。王がマハナイムにとどまっていた間、彼は王に食物を提供した。彼は非常に偉大な男であったからである。
33 王はバルジライに言った。「わたしと一緒に渡って来なさい。エルサレムで、わたしのもとであなたを養おう。」
34 バルジライは王に言った。「わたしの生涯の日々はあとどれほどでしょうか。王とともにエルサレムに上って行くことが、どうしてできるでしょうか。
35 わたしは今日八十歳です。良いことと悪いことを見分けることができるでしょうか。あなたのしもべは、自分の食べるものや飲むものの味がわかるでしょうか。歌う男や歌う女の声がまだ聞こえるでしょうか。それなのに、なぜあなたのしもべが、これ以上わが君、王の重荷にならなければならないのでしょうか。
36 あなたのしもべは、ただ王とともにヨルダン川を渡ろうとしているだけです。王はなぜ、そのような報いでわたしに報いられるのでしょうか。
37 どうか、あなたのしもべを再び引き返させてください。わたしが自分の町で、父と母の墓のそばで死ねるように。しかし見よ、あなたのしもべキムハムがいます。彼をわが君、王とともに渡らせてください。そして、あなたに良いと思われることを彼に行ってください。」
38 王は答えた。「キムハムはわたしとともに渡って行く。わたしはあなたに良いと思われることを彼に行おう。あなたがわたしに求めることは何でも、あなたのためにそれを行おう。」
39 すべての民はヨルダン川を渡り、王も渡った。それから王はバルジライに口づけし、彼を祝福した。そして彼は自分の場所へ帰って行った。
40 こうして王はギルガルへ渡り、キムハムも彼とともに渡った。ユダのすべての民、またイスラエルの民の半分も王を渡らせた。
41 見よ、イスラエルのすべての男たちが王のところに来て、王に言った。「なぜわれわれの兄弟であるユダの男たちがあなたを盗み去り、王とその家族、また王とともにいるダビデのすべての部下たちにヨルダン川を渡らせたのですか。」
42 ユダのすべての男たちはイスラエルの男たちに答えた。「王がわれわれの近親の者だからだ。それなのに、なぜあなたがたはこの事について怒るのか。われわれは少しでも王の費用で食べただろうか。あるいは、彼がわれわれに何か贈り物を与えただろうか。」

43 イスラエルの男たちはユダの男たちに答えて言った。「われわれは王に十の分け前を持っている。また、われわれはあなたがたよりもダビデに多くの権利を持っている。それなのに、なぜあなたがたはわれわれを軽んじたのか。われわれの王を連れ戻すことについて、われわれの助言が最初に求められるべきではなかったのか。」
ユダの男たちの言葉は、イスラエルの男たちの言葉よりも激しかった。

20

1 そこにたまたま一人のならず者がおり、その名はベニヤミン人ビクリの息子シェバといった。彼は角笛を吹き鳴らして言った。「われわれはダビデの中に何の分け前も持っていない。またエッサイの息子の中に何の相続地も持っていない。イスラエルよ、それぞれ自分の天幕へ帰れ！」
2 そこでイスラエルのすべての男たちはダビデに従うのをやめて上り、ビクリの息子シェバに従った。しかしユダの男たちは、ヨルダン川からエルサレムに至るまで、自分たちの王にしっかりとついて行った。
3 ダビデはエルサレムの自分の家に来た。王は家を守らせるために残しておいた自分のそばめである十人の女を取り、彼女たちを監禁して養ったが、彼女たちのところには入らなかった。こうして彼女たちは死ぬ日まで閉じ込められ、やもめとして生きた。
4 それから王はアマサに言った。「三日以内にユダの男たちをわたしのところに呼び集め、あなた自身もここにいなさい。」
5 そこでアマサはユダの男たちを呼び集めるために出かけて行った。しかし、王が彼に定めた期限よりも遅れた。
6 ダビデはアビシャイに言った。「今やビクリの息子シェバは、アブサロムよりもわれわれに多くの悪を行うだろう。あなたの主君のしもべたちを連れて、彼を追跡せよ。彼が防備の町々を得て、われわれの目から逃れ去ることのないように。」
7 ヨアブの部下たちは、ケレテ人、ペレテ人、そしてすべての勇士たちとともに彼の後を追って出て行った。彼らはビクリの息子シェバを追跡するために、エルサレムから出て行った。
8 彼らがギベオンにある大きな石のところに来たとき、アマサが彼らを迎えに来た。ヨアブは身に着けた戦いの服を着ており、その上には鞘に収めた剣を腰に結びつけた帯があった。彼が進み出たとき、その剣が抜け落ちた。
9 ヨアブはアマサに、「わたしの兄弟よ、平安か」と言った。ヨアブは右手でアマサのひげをつかみ、彼に口づけしようとした。
10 しかしアマサは、ヨアブの手にある剣に注意を払わなかった。そこでヨアブはそれで彼の腹を打ち、彼のはらわたを地面に流し出させた。彼を二度打つことはなかった。そして彼は死んだ。
ヨアブとその兄弟アビシャイは、ビクリの息子シェバを追跡した。
11 ヨアブの若者の一人が彼のそばに立って言った。「ヨアブに好意を持つ者、ダビデに味方する者は、ヨアブに従え！」
12 アマサは大路の真ん中で血の中に転がっていた。その男は、すべての民が立ち止まるのを見ると、アマサを大路から野へ運び出し、彼の上に服を投げかけた。彼のそばを通る者が皆、立ち止まるのを見たからである。
13 彼が大路から除かれると、すべての民はヨアブの後に続いて進み、ビクリの息子シェバを追跡した。
14 シェバはイスラエルのすべての部族を通って、アベル、ベテ・マアカ、そしてすべてのベリ人のところへ行った。彼らは呼び集められ、彼らもまた彼の後について行った。

15 彼らはやって来て、ベテ・マアカのアベルで彼を包囲し、町に向かって土塁を築き上げた。それは外塁に達して立った。そしてヨアブとともにいたすべての民は、城壁を打ち倒そうと攻撃した。
16 そのとき、町の中から一人の知恵のある女が大声で叫んだ。「聞いてください、聞いてください！ どうかヨアブに、『ここに近づいてください。わたしがあなたとお話しできるよう』と言ってください。」
17 彼は彼女に近づいた。女は、「あなたはヨアブですか」と言った。
彼は「そうだ」と答えた。
それから彼女は彼に言った。「あなたのはしための言葉を聞いてください。」
彼は「聞いている」と答えた。
18 それから彼女は語って言った。「昔、人々は『必ずアベルで助言を求めよ』と言ったものでした。そのようにして彼らは事を収めたのです。
19 わたしはイスラエルにおいて平和で忠実な者の一人です。あなたはイスラエルの母なる町を滅ぼそうとしておられます。なぜあなたは主の相続地を飲み込もうとされるのですか。」
20 ヨアブは答えた。「決して、そのようなことはない。わたしが飲み込んだり滅ぼしたりすることは、決してない。
21 事はそうではない。エフライムの山地出身の、ビクリの息子シェバという名の男が、王に対して、すなわちダビデに対して手を上げたのだ。彼だけを引き渡せ。そうすればわたしは町から去ろう。」
女はヨアブに言った。「見よ、彼の首は城壁越しにあなたに投げられるでしょう。」
22 それから女は自分の知恵をもってすべての民のところへ行った。彼らはビクリの息子シェバの首をはね、それを外のヨアブに投げた。彼は角笛を吹き鳴らし、彼らは町から散って、それぞれ自分の天幕へ帰った。それからヨアブはエルサレムの王のもとに帰った。
23 さて、ヨアブはイスラエルの全軍の長であった。エホヤダの息子ベナヤはケレテ人とペレテ人の長であり、
24 アドラムは強制労働に服する者たちの長であり、アヒルデの息子ヨシャファテは記録官であった。
25 シェワは書記官であり、ツァドクとアビアタルは祭司であった。
26 そしてヤイル人イラもまたダビデの主要な大臣であった。

21

1 ダビデの時代に、三年続きのききんがあった。ダビデが主の御顔を求めると、主は言われた。「これはサウルのため、また彼がギベオン人を殺したので、血を流した彼の家のためである。」
2 王はギベオン人を呼び寄せて彼らに言った（ギベオン人はイスラエルの子らではなく、アモリ人の残りの者であった。イスラエルの子らは彼らに誓っていたが、サウルはイスラエルとユダの子らへの熱心から、彼らを殺そうとしていたのである）。
3 ダビデはギベオン人に言った。「わたしはあなたがたのために何をすればよいのか。何をもって贖罪をすれば、あなたがたは主のゆずりの地を祝福してくれるのか。」
4 ギベオン人は彼に言った。「われわれとサウル、またその家との間の問題は、銀や金のことではありません。また、われわれがイスラエルの中でだれかを死なせることでもありません。」
彼は言った。「あなたがたの言うことなら、何でもあなたがたのために行おう。」

5 彼らは王に言った。「われわれを滅ぼし尽くし、イスラエルのどの領土にも残れないようにと企てたあの人、
6 その息子たちのうち七人を、われわれに引き渡してください。主に選ばれた者サウルのギブアで、われわれは主の御前に彼らを吊るします。」
王は言った。「わたしは彼らを引き渡そう。」
7 しかし王は、ダビデとサウルの息子ヨナタンとの間にあった主への誓いのゆえに、サウルの息子ヨナタンの息子メフィボシェテを惜しんだ。
8 王は、アヤの娘リツパがサウルに産んだ二人の息子アルモニとメフィボシェテ、またサウルの娘メラブがメホラ人バルジライの息子アドリエルに産んだ五人の息子を捕らえた。
9 彼は彼らをギベオン人の手に引き渡し、ギベオン人は主の御前の山で彼らを吊るした。こうして彼ら七人はともに倒れた。彼らは収穫の時期、すなわち大麦の収穫が始まる最初の日々に死に渡された。
10 アヤの娘リツパは粗布を取り、収穫の初めから空から彼らの上に水が注がれるまで、それを自分のために岩の上に広げた。彼女は昼には空の鳥が、夜には野の獣が彼らの上に下りることを許さなかった。
11 サウルのそばめであったアヤの娘リツパがしたことが、ダビデに告げられた。
12 ダビデは行って、サウルの骨とその息子ヨナタンの骨を、ヤベシュ・ギレアデの人々から受け取った。彼らは、ペリシテ人がギルボアでサウルを殺した日に、ペリシテ人が二人を吊るしたベテ・シャンの広場から、それらを盗み出していたのである。
13 彼はそこからサウルの骨とその息子ヨナタンの骨を運び上った。人々は吊るされた者たちの骨も集めた。
14 彼らはサウルとその息子ヨナタンの骨を、ベニヤミンの地ツェラにある、サウルの父キシュの墓に葬った。彼らは王が命じたすべてのことを行った。その後、神はその地のための祈りに答えられた。
15 ペリシテ人は再びイスラエルと戦った。ダビデは自分のしもべたちとともに下って行き、ペリシテ人と戦ったが、疲れ果てた。
16 巨人の息子たちの一人であるイシュビ・ベノブは、ダビデを殺そうとした。彼の槍の重さは青銅三百シェケル*であり、彼は新しい剣で武装していた。
17 しかし、ツェルヤの息子アビシャイがダビデを助け、そのペリシテ人を打って殺した。そのとき、ダビデの部下たちは彼に誓って言った。「あなたはもう、われわれとともに戦いに出て行ってはなりません。イスラエルのともしびを消さないためです。」
18 この後、ゴブで再びペリシテ人との戦いがあった。そのとき、フシャ人シベカイが、巨人の息子たちの一人であるサフを殺した。
19 さらにゴブでペリシテ人との戦いがあった。ベツレヘム人ヤアレ・オレギムの息子エルハナンが、ガテ人ゴリアテの兄弟を殺した。その槍の柄は機織りの巻き棒のようであった。
20 さらにガテでも戦いがあった。そこには非常に背の高い男がいた。彼にはそれぞれの手に六本の指、それぞれの足に六本の指があり、その数は二十四本であった。彼もまた巨人の子孫であった。
21 彼がイスラエルをそしったので、ダビデの兄弟シメイの息子ヨナタンが彼を殺した。
22 これら四人はガテで巨人の子孫として生まれた者たちであり、ダビデの手とそのしもべたちの手によって倒れた。

---

* **21:16 21:16** ―シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。三百シェケルは約3キログラム、または6.6ポ

22

1 ダビデは、主が彼をすべての敵の手から、またサウルの手から救い出された日に、この歌の言葉を主に向けて語った。
2 彼は言った。
「主はわたしの岩、
わたしの要害、
わたしの救い主、まさにわたしの方です。
3 神は、わたしが避け所とするわたしの岩、
わたしの盾、わたしの救いの角、
わたしの高いやぐら、わたしの避け所です。
わたしの救い主よ、あなたはわたしを暴力から救われます。
4 ほめたたえられるべき方、主に、わたしは呼ばわります。
こうして、わたしは敵から救われます。

5 死の波がわたしを取り囲み、
不敬虔の洪水がわたしを恐れさせました。
6 よみ* の綱がわたしを取り巻き、
死の罠がわたしを捕らえました。
7 苦しみの中で、わたしは主に呼ばわりました。
まことに、わたしはわたしの神に呼ばわりました。
彼はご自分の宮からわたしの声を聞かれ、
わたしの叫びは彼の耳に届きました。

8 そのとき、地は揺れ動いて震え、
天の基も震えて揺れ動きました。
彼が怒られたからです。
9 彼の鼻から煙が立ち上り、
彼の口から食い尽くす火が出ました。
それによって炭火が燃え上がりました。
10 彼はまた、天を垂れて下って来られました。
彼の足の下には暗やみがありました。
11 彼はケルブに乗って飛び、
風の翼の上に現れました。
12 彼はご自分の周りの闇を隠れ場とされました。
水の集まりと、空の厚い雲とを。
13 彼の御前の輝きによって、
炭火が燃え上がりました。

14 主は天から雷を鳴らされ、
いと高き方は御声を発せられました。
15 彼は矢を放って、彼らを散らし、
稲妻を放って、彼らをかき乱されました。
16 そのとき、海の底が現れ、
世界の基があらわになりました。
主の叱責により、
彼の鼻の息の吹きつけによって。

17 彼は高い所から手を伸ばして、わたしを取られました。
わたしを多くの水から引き上げられました。
18 彼はわたしの強い敵から、
わたしを憎む者たちから、わたしを救い出されました。

---

* **22:6 22:6** よみ（シェオル）は死者の場所である。

彼らはわたしには強すぎたからです。
19 彼らはわたしのわざわいの日にわたしに襲いかかりましたが、
主はわたしの支えでした。
20 彼はまた、わたしを広い所に連れ出されました。
彼はわたしを喜ばれたので、わたしを救い出されました。

21 主はわたしの義にしたがってわたしに報い、
わたしの手の清さにしたがってわたしに報われました。
22 わたしは主の道を守り、
悪を行ってわたしの神から離れることはなかったからです。
23 彼のすべての定めはわたしの前にあり、
彼のおきてについて言えば、わたしはそれらから離れませんでした。
24 わたしは彼に対して全き者であり、
自分の咎から身を守りました。
25 それゆえ、主はわたしの義にしたがって、
彼の御目の前でのわたしの清さにしたがって、わたしに報われました。

26 あわれみ深い者には、あなたはあわれみ深くあられ、
全き人には、あなたは全くあられます。
27 清い者には、あなたは清くあられ、
曲がった者には、あなたは賢く立ち向かわれます。
28 あなたは苦しむ民を救われますが、
高ぶる者には目を留め、彼らを低くされます。
29 主よ、あなたはわたしのともしびです。
主はわたしの闇を照らされます。
30 あなたによって、わたしは軍勢に向かって走り、
わたしの神によって、城壁を飛び越えます。

31 神について言えば、その道は完全です。
主のことばは試されています。
彼は、ご自分に避け所を求めるすべての者の盾です。
32 主のほかに、だれが神でしょうか。
われわれの神のほかに、だれが岩でしょうか。
33 神はわたしの強い要害です。
彼はわたしの道を完全なものとされます。
34 彼はわたしの足を雌鹿の足のようにし、
わたしを高い所に立たせられます。
35 彼は戦いのためにわたしの手を鍛え、
わたしの腕が青銅の弓を引けるようにされます。
36 あなたはまた、あなたの救いの盾をわたしに与えられました。
あなたの優しさが、わたしを大いなる者としました。
37 あなたはわたしの足もとの歩みを広くされ、
わたしの足は滑りませんでした。

38 わたしは敵を追いかけ、彼らを滅ぼしました。
彼らが滅び尽くすまで、引き返しませんでした。
39 わたしは彼らを滅ぼし、
彼らを打ち砕きました。
彼らは起き上がることができず、
わたしの足の下に倒れました。
40 あなたは戦いのためにわたしに力を帯びさせ、
わたしに立ち向かう者たちを、わたしの下に従わせられました。

41 あなたはまた、敵がわたしに背を向けるようにされ、
わたしを憎む者たちを、わたしが断ち切るようにされました。
42 彼らは救いを求めて見回しましたが、救う者はだれもいませんでした。
主に向かって叫んでも、主は彼らに答えられませんでした。
43 そのとき、わたしは彼らを地のちりのように細かく打ち砕き、
通りの泥のように彼らを踏み砕いて、まき散らしました。

44 あなたはまた、わたしの民の争いからわたしを救い出されました。
あなたはわたしを守り、国々の頭とされました。
わたしの知らなかった民がわたしに仕えます。
45 外国人たちはわたしに服従し、
わたしのことを聞くとすぐに、わたしに従います。
46 外国人たちは力を失い、
震えながら自分たちの閉じこもった所から出て来ます。

47 主は生きておられます。
わたしの岩がほめたたえられますように。
わたしの救いの岩である神があがめられますように。
48 神はわたしのために復讐を行い、
諸国の民をわたしの下に従わせられる方です。
49 彼はわたしを敵から連れ出してくださいます。
まことに、あなたはわたしに立ち向かう者たちよりも、わたしを高く上げられます。
あなたはわたしを暴力の人から救い出されます。
50 それゆえ、主よ、わたしは国々の間であなたに感謝し、
あなたの御名に賛美を歌います。
51 彼はご自分の王に大いなる救いを与え、
ご自分が油を注がれた者に慈しみを示されます。
ダビデとその子孫に、とこしえに。」

23

1 さて、これらはダビデの最後の言葉である。
エッサイの息子ダビデのことば。
高く上げられた人のことば。
ヤコブの神に油を注がれた者、
イスラエルの麗しい歌い手のことば。
2 「主の霊はわたしによって語られた。
その言葉はわたしの舌の上にあった。
3 イスラエルの神は言われた。
イスラエルの岩はわたしに語られた。
『人を義をもって治める者、
神を恐れて治める者は、
4 太陽が昇る時の朝の光のようであり、
雲のない朝のようであり、
雨の後の澄み切った輝きによって、
地から若草が萌え出る時のようである。』

5 わたしの家も神とともにそのようではないか。
神はわたしと永遠の契約を結び、
すべての点で整えられた、確かなものとされたからである。
それはわたしのすべての救い、すべての願いである。
神はそれを育ててくださらないだろうか。

6 しかし、不敬虔な者たちは皆、投げ捨てられる茨のようである。
手でつかむことができないからである。
7 それらに触れる者は、鉄や槍の柄で武装しなければならない。
彼らはその場所で火によって完全に焼かれる。」
8 これらはダビデが抱えていた勇士たちの名である。隊長たちのかしら、タフケモン人ヨシェブ・バシェベテ。彼はエツェン人アディノと呼ばれ、一度に八百人を殺した。
9 彼の次は、アホア人の息子ドダイの息子エレアザルであり、ダビデとともにいた三人の勇士の一人であった。彼らが、戦いのためそこに集まっていたペリシテ人に立ち向かい、イスラエルの人々が退いて行ったとき、
10 彼は立ち上がり、手が疲れ果て、手が剣に張りつくまでペリシテ人を打った。主はその日、大いなる勝利をもたらされた。民はただ戦利品を奪うためだけに、彼の後に戻って来た。
11 彼の次は、ハラル人アゲの息子シャマであった。ペリシテ人が一つの群れとなって集まったところには、レンズ豆が満ちた畑があった。民はペリシテ人の前から逃げた。
12 しかし彼はその畑の真ん中に立ち、そこを守ってペリシテ人を殺した。そして主は大いなる勝利をもたらされた。
13 三十人の長たちのうち三人が下って行き、収穫の時期にアドラムのほら穴にいるダビデのところに来た。ペリシテ人の一隊はレファイムの谷に陣を敷いていた。
14 その時、ダビデは要害におり、ペリシテ人の守備隊はベツレヘムにあった。
15 ダビデは切望して言った。「ああ、だれか門のそばにあるベツレヘムの井戸の水を飲ませてくれないか。」
16 すると、その三人の勇士はペリシテ人の陣営を突き破り、門のそばにあるベツレヘムの井戸から水を汲み、それをダビデのところに持って来た。しかし彼はそれを飲もうとはせず、主の御前に注ぎ出した。
17 彼は言った。「主よ、わたしがこのようなことをすることは、決してあり得ません。これは、命をかけて行った男たちの血ではありませんか。」それゆえ、彼はそれを飲もうとはしなかった。三人の勇士はこれらのことを行ったのである。
18 ツェルヤの息子ヨアブの兄弟アビシャイは、その三人の長であった。彼は自分の槍を三百人に向けて振るい、彼らを殺し、三人の間で名を上げた。
19 彼は三人のうちで最も誉れ高い者ではなかったか。それゆえ、彼は彼らの隊長となった。しかし、彼は最初の三人には及ばなかった。
20 カブツェエルの勇士の子、エホヤダの息子ベナヤは、力あるわざを行った人であった。彼はモアブのアリエルの二人の息子を殺した。また、雪の日に下って行き、穴の中で一頭の獅子を殺した。
21 彼は大柄なエジプト人を殺した。そのエジプト人の手には槍があったが、ベナヤは杖を持って彼のもとに下って行き、エジプト人の手から槍を奪い取り、その槍で彼を殺した。
22 エホヤダの息子ベナヤはこれらのことを行い、三人の勇士の間で名を上げた。
23 彼は三十人よりも誉れ高かったが、最初の三人には及ばなかった。ダビデは彼を自分の護衛の長とした。
24 ヨアブの兄弟アサエルは三十人の一人であった。ベツレヘムのドドの息子エルハナン、
25 ハロデ人シャマ、ハロデ人エリカ、
26 パルティ人ヘレツ、テコア人イケシュの息子イラ、
27 アナトテ人アビエゼル、フシャ人メブナイ、
28 アホア人ツァルモン、ネトファ人マハライ、

29 ネトファ人バアナの息子ヘレブ、ベニヤミンの子らのギブア出身のリバイの息子イタイ、
30 ピルアトン人ベナヤ、ガアシュの谷のヒダイ、
31 アラバ人アビ・アルボン、バフルム人アズマベテ、
32 シャアルボン人エリアバ、ヤシェンの息子たち、ヨナタン、
33 ハラル人シャマ、アラル人シャラルの息子アヒアム、
34 マアカ人の息子アハスバイの息子エリフェレテ、ギロ人アヒトフェルの息子エリアム、
35 カルメル人ヘツロ、アルブ人パアライ、
36 ツォバのナタンの息子イガル、ガド人バニ、
37 アンモン人ツェレク、ベエロテ人ナハライ。これらはツェルヤの息子ヨアブの武器を持つ者たちであった。
38 イテル人イラ、イテル人ガレブ、
39 ヘテ人ウリヤ。合わせて三十七人。

24

1 主の怒りが再びイスラエルに対して燃え上がり、主は彼らに向かってダビデを動かし、「行って、イスラエルとユダを数えよ」と言われた。
2 王は、自分とともにいた軍の長ヨアブに言った。「さあ、ダンからベエルシェバに至るまで、イスラエルのすべての部族を行き巡り、民を数えなさい。わたしが民の総数を知るためである。」
3 ヨアブは王に言った。「あなたの神、主が、民がどれほど多くても、その数を百倍に増し加えてくださいますように。そして、わが君、王の目がそれをご覧になりますように。しかし、なぜわが君、王はこの事を喜ばれるのですか。」
4 それにもかかわらず、王の言葉はヨアブと軍の長たちに打ち勝った。ヨアブと軍の長たちは、イスラエルの民を数えるために王の前から出て行った。
5 彼らはヨルダン川を渡り、アロエル、すなわちガドの谷の中ほどにある町の右側に陣を敷き、ヤゼルへ向かった。
6 それから彼らはギレアデに行き、タフティム・ホデシの地へ行った。また、ダン・ヤアンへ行き、シドンの周りを巡り、
7 ツロの要害へ行き、ヒビ人とカナン人のすべての町々へ行った。そしてユダの南、ベエルシェバへ出て行った。
8 こうして彼らは全土を行き巡り、九か月と二十日の終わりにエルサレムに来た。
9 ヨアブは人口調査で数えた民の総数を王に報告した。イスラエルには剣を抜く勇敢な男たちが八十万人おり、ユダの男たちは五十万人であった。
10 民を数えた後、ダビデの心は彼を責めた。ダビデは主に言った。「わたしは自分のしたことで大きな罪を犯しました。しかし今、主よ、どうか、あなたのしもべの咎を取り除いてください。わたしは非常に愚かなことをしたからです。」
11 朝、ダビデが起き上がったとき、主のことばが、ダビデの先見者である預言者ガドに臨んで言った。
12 「行ってダビデに語れ。『主はこう言われる。「わたしはあなたに三つのことを示す。そのうちの一つを選びなさい。わたしがそれをあなたに行うためである。」』」
13 そこでガドはダビデのところに来て、彼に告げて言った。「あなたの地に七年間のききんが来るのがよいでしょうか。それとも、敵があなたを追う間、あなたが敵の前から三か月間逃げるのがよいでしょうか。それとも、あなたの地に三日間の疫病があるのがよいでしょうか。今、考えて、わたしを遣わされた方にどのような返事を返すべきか答えてください。」

14 ダビデはガドに言った。「わたしは非常に苦しんでいる。どうか、われわれを主の手に陥らせてほしい。主のあわれみは大きいからだ。わたしを人の手に陥らせないでほしい。」
15 そこで主は、朝から定められた時までイスラエルに疫病を送られた。ダンからベエルシェバに至るまで、民のうち七万人が死んだ。
16 御使いがエルサレムに向かって手を伸ばし、それを滅ぼそうとしたとき、主はそのわざわいを思い直し、民を滅ぼしていた御使いに言われた。「もう十分だ。今、あなたの手を引け。」主の御使いは、エブス人アラウナの打ち場のそばにいた。
17 ダビデは民を打った御使いを見たとき、主に語って言った。「見よ、罪を犯し、悪を行ったのはわたしです。しかし、この羊たちが何をしたというのでしょうか。どうか、あなたの手をわたしと、わたしの父の家に向けてください。」
18 その日、ガドはダビデのところに来て、彼に言った。「上って行き、エブス人アラウナの打ち場に、主のための祭壇を築きなさい。」
19 ダビデは、主が命じられたとおりに、ガドの言葉にしたがって上って行った。
20 アラウナが見渡すと、王とそのしもべたちが彼の方へやって来るのが見えた。そこでアラウナは出て行き、顔を地に伏せて王の前にひれ伏した。
21 アラウナは言った。「なぜ、わが君、王はしもべのところに来られたのですか。」
ダビデは言った。「あなたの打ち場を買い取り、主のために祭壇を築くためだ。そうすれば、この疫病が民を苦しめるのを止められる。」
22 アラウナはダビデに言った。「わが君、王が良いと思われるものを取って、ささげてください。見よ、全焼のささげ物のための牛、薪のための打穀機と牛のくびきがあります。
23 王よ、アラウナはこれらすべてを王に差し上げます。」アラウナは王に言った。「あなたの神、主があなたを受け入れてくださいますように。」
24 王はアラウナに言った。「いや、わたしは必ず代価を払って、あなたからそれを買い取る。費用のかからない全焼のささげ物を、わたしの神、主にささげることはしない。」こうしてダビデは、その打ち場と牛を銀五十シェケル* で買い取った。
25 ダビデはそこに主のための祭壇を築き、全焼のささげ物と和解のいけにえをささげた。こうして主はその地のための願いを聞き入れられ、疫病はイスラエルから取り除かれた。

* **24:24 24:24** ―シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。五十シェケルは約0.5キログラム、または1.1

列王記第一

1 ダビデ王は年を重ね、非常に老いていた。人々は彼に衣を掛けたが、
王は温まらなかった。
2 それゆえ、彼のしもべたちは彼に言った。「わが君、王のために若い処
女を探させましょう。彼女を王の前に立たせ、王の世話をさせます。そし
て、わが君、王が温まるように、王のふところで寝させましょう。」
3 そこで彼らはイスラエルの全土で美しい若い女を探し、シュネム人アビシ
ャグを見つけて、彼女を王のもとに連れて来た。
4 その若い女は非常に美しかった。彼女は王の世話をし、彼に仕えた。しか
し、王は彼女と床を共にすることはなかった。
5 その時、ハギテの息子アドニヤは高ぶって、「わたしが王になる」と言っ
た。彼は自分のために戦車と騎兵、そして自分の前を走る五十人の男たちを用
意した。
6 彼の父はこれまで一度も、「なぜこのようなことをしたのか」と言っ
て彼を戒めたことがなかった。彼は非常に容姿の良い男で、アブサロム
の後に生まれた者であった。
7 彼はツェルヤの息子ヨアブ、および祭司アビアタルと協議した。彼らはア
ドニヤに従い、彼を支持した。
8 しかし祭司ツァドク、エホヤダの息子ベナヤ、預言者ナタン、シメイ、レ
イ、そしてダビデに属する勇士たちは、アドニヤに味方しなかった。
9 アドニヤはエン・ロゲルのそばにあるツォヘレテの石の傍らで、
羊、牛、肥えた家畜をいけにえとしてささげ、王の息子たちであるすべての兄
弟たちと、王のしもべであるユダのすべての男たちを招いた。
10 しかし彼は、預言者ナタン、ベナヤ、勇士たち、そして兄弟のソロモン
は招かなかった。
11 そこでナタンはソロモンの母バテ・シェバに語って言った。「ハギテの息
子アドニヤが王となり、われわれの主君ダビデはそれを知らないということ
を、あなたは聞いていないのですか。
12 ですから今、来てください。どうか、わたしに助言させてください。あな
たが自分の命と、息子ソロモンの命を救うためです。
13 ダビデ王のところに入って行き、彼に言いなさい。『わが君、王よ。あな
たはしもべに誓って、「確かにあなたの息子ソロモンがわたしの後に王とな
り、わたしの王座に座る」と言われたではありませんか。それなら、なぜアド
ニヤが王となっているのですか。』
14 見よ、あなたがそこで王と話している間に、わたしもあなたの後から入っ
て行き、あなたの言葉を確かなものとします。」
15 バテ・シェバは部屋にいる王のところに入って行った。王は非常に年老い
ており、シュネム人アビシャグが王に仕えていた。
16 バテ・シェバは身をかがめ、王に敬意を表した。
王は、「何が望みか」と言った。
17 彼女は彼に言った。「わが君。あなたはあなたの神、主*
にかけて、あなたのしもべに『確かにあなたの息子ソロモンがわたし
の後に王となり、彼はわたしの王座に座る』と誓われました。
18 今、見よ、アドニヤが王となっています。そして、わが君、王はそれ
を知っておられません。

---

* **1:17 1:17** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה

19 彼は牛、肥えた家畜、羊を豊かにいけにえとしてささげ、王のすべての息
子たち、祭司アビアタル、軍の長ヨアブを招きました。しかし、あなたのしも
べソロモンは招いていません。
20 わが君、王よ。全イスラエルの目はあなたに向けられています。わ
が君、王の後にだれがその王座に座るかを、あなたが彼らに告げるためです。
21 そうでなければ、わが君、王が父祖たちとともに眠りにつくとき、わたし
とわたしの息子ソロモンは罪人たちとみなされることになります。」
22 見よ、彼女がまだ王と話している間に、預言者ナタンが入って来た。
23 人々は王に告げて、「見よ、預言者ナタンです」と言った。
彼が王の前に入って来たとき、彼は地に顔を伏せて王の前に身をかがめた。
24 ナタンは言った。「わが君、王よ。あなたは『アドニヤがわたし
の後に王となり、わたしの王座に座る』と言われたのですか。
25 彼は今日下って行き、牛、肥えた家畜、羊を豊かにいけにえとしてささ
げ、王のすべての息子たち、軍の長たち、祭司アビアタルを招きました。
見よ、彼らは彼の前で食べたり飲んだりし、『アドニヤ王、万歳！』と言って
います。
26 しかし彼は、あなたのしもべであるわたし、祭司ツァドク、エホヤダの息
子ベナヤ、そしてあなたのしもべソロモンを招きませんでした。
27 これはわが君、王によってなされたことですか。そしてあなたは、わ
が君、王の後にだれがその王座に座るかを、あなたのしもべたちに示されなか
ったのですか。」
28 そこでダビデ王は答えて、「バテ・シェバをわたしのところ
に呼べ」と言った。彼女は王の御前に来て、王の前に立った。
29 王は誓って言った。「あらゆる逆境からわたしの魂を贖い出してくださっ
た主は生きておられる。
30『確かにあなたの息子ソロモンがわたしの後に王となり、彼はわたし
に代わってわたしの王座に座る』と言って、わたしがイスラエルの神、主にか
けてあなたに誓ったとおりに、わたしは今日そのように行う。」
31 そこでバテ・シェバは地に顔を伏せて身をかがめ、王に敬意を表して、
「わが君、ダビデ王がとこしえに生きられますように」と言った。
32 ダビデ王は、「祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの息子ベナヤをわ
たしのところに呼べ」と言った。彼らは王の前に来た。
33 王は彼らに言った。「あなたがたの主君のしもべたちを連れて行き、わた
しの息子ソロモンをわたし自身の騾馬に乗せ、彼をギホンへ連れて下りなさ
い。
34 そこで祭司ツァドクと預言者ナタンは、彼に油を注いでイスラエルの王と
しなさい。角笛を吹き鳴らし、『ソロモン王、万歳！』と言いなさい。
35 それからあなたがたは彼の後について上って来なさい。彼は来て、わたし
の王座に座らなければならない。彼がわたしに代わって王となるからであ
る。わたしは彼を、イスラエルとユダの上の君主となるよう任命した。」
36 エホヤダの息子ベナヤは王に答えて言った。「アーメン。わ
が君、王の神である主が、そのように言われますように。
37 主がわが君、王とともにおられたように、ソロモンとともにおられ、
彼の王座を、わが君ダビデ王の王座よりも大いなるものとされますように。」
38 そこで祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの息子ベナヤ、およびケレ
テ人とペレテ人は下って行き、ソロモンをダビデ王の騾馬に乗せ、彼をギホン
へ連れて行った。
39 祭司ツァドクは天幕から油の角を取り出し、ソロモンに油を注いだ。彼ら
は角笛を吹き鳴らし、すべての民は「ソロモン王、万歳！」と言った。
40 すべての民は彼の後について上って来た。民は笛を吹き鳴らし、大き
な喜びをもって喜んだので、地は彼らの音で揺れ動いた。

41 アドニヤと彼とともにいたすべての客は、食事を終えたときにこれを聞いた。ヨアブは角笛の音を聞くと、「なぜ町はあのように騒がしいのか」と言った。
42 彼がまだ話している間に、見よ、祭司アビアタルの息子ヨナタンがやって来た。アドニヤは、「入れ。あなたは立派な人だから、良い知らせを持って来たのだ」と言った。
43 ヨナタンはアドニヤに答えた。「いいえ。それどころか、われわれの主君ダビデ王はソロモンを王とされました。
44 王は祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの息子ベナヤ、それにケレテ人とペレテ人を彼とともに遣わされました。彼らは彼を王の騾馬に乗せました。
45 祭司ツァドクと預言者ナタンは、ギホンで彼に油を注いで王としました。彼らはそこから喜びながら上って来たので、町は響き渡りました。あなたがたが聞いたのはその音です。
46 さらに、ソロモンは王国の王座に座っています。
47 その上、王のしもべたちはわれわれの主君ダビデ王を祝福しに来て、『あなたの神が、ソロモンの名をあなたの名よりも良くし、彼の王座をあなたの王座よりも大いなるものとされますように』と言いました。すると王は寝台の上で身をかがめられました。
48 さらに王はこう言われました。『イスラエルの神、主はほめたたえられるように。主は今日、わたしの王座に座る者を与えられ、わたしの目もそれを見ている。』」
49 アドニヤの客たちは皆恐れ、立ち上がって、それぞれ自分の道へ行った。
50 アドニヤはソロモンを恐れ、立ち上がって行き、祭壇の角をつかんだ。
51 ソロモンに告げる者がいた。「見よ、アドニヤはソロモン王を恐れています。見よ、彼は祭壇の角をつかんで、『ソロモン王がそのしもべを剣で殺さないと、まずわたしに誓ってくださるように』と言っています。」
52 ソロモンは言った。「もし彼が誠実な者であることを示すなら、彼の髪の毛一本も地に落ちることはない。しかし、もし彼に悪が見つかれば、彼は死ぬ。」
53 こうしてソロモン王は人を遣わし、彼らは彼を祭壇から連れて下った。彼は来てソロモン王に身をかがめた。ソロモンは彼に、「あなたの家へ帰りなさい」と言った。

2

1 さて、ダビデが死ぬ日が近づいたとき、彼は息子のソロモンに命じて言った。
2 「わたしは地上のすべての者が行く道を行こうとしている。それゆえ、あなたは強くあり、男らしくありなさい。
3 そして、あなたの神、主の教えを守り、主の道に歩み、モーセの律法に書かれているとおりに、主の掟、戒め、定め、あかしを守りなさい。あなたが何を行うにしても、どこへ向かうにしても、あなたが栄えるためである。
4 それは、主がわたしについて語られた言葉を確立されるためである。主は『もしあなたの子らがその道に注意を払い、心を尽くし魂を尽くして真実をもってわたしの前を歩むなら、イスラエルの王座から人が絶えることはない』と言われた。」
5 「さらに、あなたはツェルヤの息子ヨアブがわたしにしたこと、すなわち彼がイスラエルの軍の二人の長、ネルの息子アブネルとエテルの息子アマサにしたことも知っている。彼は彼らを殺し、平和な時に戦いの血を流し、その戦いの血を自分の腰の帯と、足のサンダルに塗った。

6 それゆえ、あなたの知恵にしたがって行い、彼の白髪頭を安らかによみ*へ下らせてはならない。
7 しかし、ギレアデ人バルジライの息子たちには慈しみを示し、彼らをあなたの食卓で食べる者たちの仲間に入れなさい。あなたの兄弟アブサロムからわたしが逃げたとき、彼らはそのようにしてわたしのところへ来てくれたからである。
8 見よ、バフリム出身のベニヤミン人、ゲラの息子シメイがあなたとともにいる。わたしがマハナイムへ行った日、彼はひどい呪いでわたしを呪った。しかし彼はヨルダン川でわたしを迎えに下って来たので、わたしは主にかけて彼に誓い、『わたしはあなたを剣で殺すことはしない』と言った。
9 ですから今、彼を無罪のままでいさせてはならない。あなたは知恵のある男だから、彼に何をすべきかを知っているはずだ。あなたは彼の白髪頭を血とともによみへ下らせなさい。」
10 ダビデは父祖たちとともに眠りにつき、ダビデの町に葬られた。
11 ダビデがイスラエルを治めた日数は四十年であった。彼はヘブロンで七年治め、エルサレムで三十三年治めた。
12 ソロモンは父ダビデの王座に座り、彼の王国は確かなものとして確立された。
13 その後、ハギテの息子アドニヤはソロモンの母バテ・シェバのところに来た。彼女は「穏やかな用件で来たのですか」と言った。
彼は「穏やかな用件です」と言った。
14 彼はさらに、「あなたにお話ししたいことがあります」と言った。
彼女は「話しなさい」と言った。
15 彼は言った。「王国がわたしのものであり、全イスラエルがわたしを王とするためにわたしに顔を向けていたことを、あなたはご存じです。しかし王国は転じて、わたしの兄弟のものとなりました。それが主によって彼のものとなったからです。
16 今、わたしはあなたに一つの願い事があります。わたしの願いを退けないでください。」
彼女は彼に、「話しなさい」と言った。
17 彼は言った。「どうか、ソロモン王に話して――彼はあなたの願いを退けないでしょうから――シュネム人アビシャグをわたしの妻として与えるようにしてください。」
18 バテ・シェバは、「わかりました。あなたのために王に話しましょう」と言った。
19 そこでバテ・シェバはアドニヤのために話をするために、ソロモン王のところへ行った。王は彼女を迎えるために立ち上がり、彼女に身をかがめた。それから自分の王座に座り、王の母のために王座を置かせたので、彼女は王の右に座った。
20 すると彼女は、「あなたに一つ小さな願い事があります。わたしを拒まないでください」と言った。
王は彼女に、「母上、願ってください。わたしはあなたを拒みません」と言った。
21 彼女は言った。「シュネム人アビシャグを、あなたの兄弟アドニヤに妻として与えてください。」
22 ソロモン王は母に答えた。「なぜあなたは、アドニヤのためにシュネム人アビシャグを願うのですか。彼のために王国をも願ってください。彼はわたしの兄だからです。彼のため、また祭司アビアタルのため、そしてツェルヤの息子ヨアブのためにも。」

---

* **2:6 2:6** よみ（シェオル）は死者の場所である。

23 そこでソロモン王は主にかけて誓って言った。「アドニヤが自
分の命に逆らってこの言葉を語ったのでないなら、神がわたしにそのよう
に行い、さらに増し加えられるように。
24 ですから今、わたしを確立し、父ダビデの王座にわたしを座らせ、約束さ
れたとおりにわたしのために家を造ってくださった主は生きておられる。確か
にアドニヤは今日殺される。」
25 ソロモン王はエホヤダの息子ベナヤを遣わし、彼がアドニヤに打ちかかっ
たので、彼は死んだ。
26 王は祭司アビアタルに言った。「アナトテにある自分の畑へ行きなさ
い。あなたは死に値する者である。しかし、今日はあなたを殺さない。あなた
はわたしの父ダビデの前で主† なる神の箱を担ぎ、またわたしの父が苦しめら
れたすべてのことにおいて、あなたも苦しめられたからだ。」
27 こうしてソロモンは、アビアタルを主の祭司から追放した。これは主がシ
ロでエリの家について語られた言葉を成就するためであった。
28 その知らせはヨアブに届いた。ヨアブはアブサロムには従わなかった
が、アドニヤには従っていたからである。ヨアブは主の天幕に逃げ込み、祭
壇の角をつかんだ。
29 ソロモン王に、「ヨアブは主の天幕に逃げ込み、見よ、祭壇のそばにいま
す」と告げられた。そこでソロモンはエホヤダの息子ベナヤを遣わして、
「行って、彼に打ちかかれ」と言った。
30 ベナヤは主の天幕に来て彼に、「王が『出て来い！』と言っておられ
る」と言った。
彼は「いや、わたしはここで死ぬ」と言った。
ベナヤは、「ヨアブはこのように言い、わたしにこのように答えた」と言っ
て王に再び言葉を持ち帰った。
31 王は彼に言った。「彼が言ったとおりにし、彼に打ちかかり、彼を葬りな
さい。そうして、ヨアブが流した罪のない血を、わたしとわたしの父の家か
ら取り除きなさい。
32 主は彼自身の血を彼自身の頭に帰らせるであろう。彼が、自分よりも義で
あり善良である二人の男に打ちかかり、剣で彼らを殺し、わたしの父ダビデが
それを知らなかったからである。すなわち、イスラエルの軍の長であるネル
の息子アブネルと、ユダの軍の長であるエテルの息子アマサである。
33 このようにして彼らの血はヨアブの頭と、彼の子孫‡
の頭にとこしえに帰るであろう。しかし、ダビデとその子孫、彼の家、そし
て彼の王座には、主からの平和がとこしえにあるであろう。」
34 そこでエホヤダの息子ベナヤは上って行き、彼に打ちかかって彼を殺し
た。そして彼は荒野にある自分の家に葬られた。
35 王は軍においてエホヤダの息子ベナヤを彼の代わりに就かせ、王はアビア
タルの代わりに祭司ツァドクを就かせた。
36 王は人を遣わしてシメイを呼び、彼に言った。「エルサレムに自分のため
の家を建ててそこに住み、そこからどこへも出て行ってはならない。
37 あなたが出て行き、キデロンの川を渡る日には、あなたが必ず死ぬこと
を確かに知っておけ。あなたの血はあなた自身の頭に帰る。」
38 シメイは王に言った。「その言葉は良いものです。わが君、王が言われた
とおりに、あなたのしもべは行います。」シメイは多くの日々をエルサレム
に住んだ。
39 三年の終わりに、シメイの二人の奴隷がガテの王、マアカの息子アキシュ
のところへ逃げた。人々がシメイに告げて、「見よ、あなたの奴隷たちはガテ
にいます」と言った。

† **2:26 2:26** 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。 ‡ **2:33 2:33** または、種

40 シメイは起き上がり、自分のろばに鞍を置き、自分の奴隷たちを探すためにガテのアキシュのところへ行った。そしてシメイは行き、自分の奴隷たちをガテから連れ帰った。
41 シメイがエルサレムからガテに行き、また帰って来たことがソロモンに告げられた。
42 王は人を遣わしてシメイを呼び、彼に言った。「わたしはあなたに主にかけて誓わせ、『あなたが出て行き、どこかほかのところへ歩いて行く日には、必ず死ぬことを確かに知っておけ』と言って、厳しく警告したではないか。あなたはわたしに『わたしが聞いた言葉は良いものです』と言った。
43 それならなぜ、あなたは主の誓いと、わたしがあなたに命じた戒めを守らなかったのか。」
44 王はさらにシメイに言った。「あなたは、自分がわたしの父ダビデにしたすべての悪を心で知っている。それゆえ、主はあなたの悪をあなた自身の頭に帰らせるであろう。
45 しかし、ソロモン王は祝福され、ダビデの王座は主の御前でとこしえに確立される。」
46 そこで王はエホヤダの息子ベナヤに命じ、彼は出て行って彼に打ちかかったので、彼は死んだ。王国はソロモンの手によって確立された。

3

1 ソロモンはエジプトの王ファラオと縁組みし、ファラオの娘をめとった。そして、彼自身の家、主の家、およびエルサレムの周囲の城壁を建て終えるまで、彼女をダビデの町に住まわせた。
2 そのころまで、主の御名のために建てられた家がなかったので、民はただ高き所でいけにえをささげていた。
3 ソロモンは父ダビデの定めに歩み、主を愛した。ただ、彼は高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。
4 王はいけにえをささげるためにギベオンへ行った。それが偉大な高き所であったからである。ソロモンはその祭壇に一千の全焼のささげ物をささげた。
5 ギベオンで主は夜の夢の中でソロモンに現れ、神は言われた。「わたしがあなたに何を与えるべきか求めよ。」
6 ソロモンは言った。「あなたのしもべであるわたしの父ダビデが、真実と義と、あなたに対する心のまっすぐさをもってあなたの御前を歩んだので、あなたは彼に大いなる慈しみを示されました。あなたは彼のためにこの大いなる慈しみを保ち、今日あるように、彼の王座に座る息子を彼にお与えになりました。
7 今、わたしの神、主よ、あなたは父ダビデの代わりに、あなたのしもべを王とされました。しかしわたしは小さな子どもにすぎず、どのように出入りすればよいのかを知りません。
8 あなたのしもべは、あなたが選ばれた、あなたの民の中にいます。彼らは大いなる民で、数が多すぎて数えることも量ることもできません。
9 ですから、あなたの民をさばくための、聞き分ける心をあなたのしもべに与え、善と悪をわきまえることができるようにしてください。そうしなければ、だれがあなたのこの大いなる民をさばくことができるでしょうか。」
10 ソロモンがこの事を求めたので、この言葉は主の御目に良いとされた。
11 神は彼に言われた。「あなたがこの事を求め、自分のために長寿を求めず、自分のために富を求めず、またあなたの敵の命を求めることもせず、むしろさばきを聞き分ける理解力を自分のために求めたので、
12 見よ、わたしはあなたの言葉のとおりにした。見よ、わたしはあなたに知恵と理解のある心を与えた。そのため、あなたの前にあなたのような者はなく、あなたの後にもあなたのような者は起こらないであろう。

13 わたしはまた、あなたが求めなかったもの、すなわち富と誉れをもあなたに与えた。そのため、あなたの生涯にわたり、王たちの中にあなたのような者はいないであろう。
14 もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、わたしの掟と戒めを守ってわたしの道を歩むなら、わたしはあなたの日々を長くする。」
15 ソロモンが目を覚ますと、見よ、それは夢であった。彼はエルサレムに来て、主の契約の箱の前に立ち、全焼のささげ物をささげ、和解のいけにえをささげ、すべてのしもべたちのために宴会を催した。
16 その後、二人の遊女が王のところに来て、彼の前に立った。
17 一人の女は言った。「ああ、わが君、わたしとこの女は一つの家に住んでいます。わたしは家で彼女と一緒にいる間に子どもを産みました。
18 わたしが産んでから三日目に、この女も子どもを産みました。われわれは一緒にいました。われわれ二人のほかに、家の中には見知らぬ人はだれもいませんでした。
19 この女の子どもは夜に死にました。彼女がその子の上に寝てしまったからです。
20 彼女は真夜中に起き上がり、このはしためが眠っている間に、わたしのそばからわたしの息子を取り、自分のふところに寝かせ、自分の死んだ子どもをわたしのふところに寝かせました。
21 わたしが自分の子どもに乳を飲ませようと朝起きてみると、見よ、子どもは死んでいました。しかし、朝になってわたしがよく見ると、見よ、それはわたしが産んだ息子ではありませんでした。」
22 もう一人の女は言った。「いいえ、生きているのがわたしの息子で、死んでいるのがあなたの息子です。」
この女は言った。「いいえ、死んでいるのがあなたの息子で、生きているのがわたしの息子です。」このように、二人は王の前で言い争った。
23 そこで王は言った。「一人は『生きているのがわたしの息子で、あなたの息子は死んでいる者だ』と言い、もう一人は『いいえ、あなたの息子が死んでいる者で、わたしの息子が生きている者だ』と言っている。」
24 王は言った。「わたしに剣を持って来なさい。」彼らは王の前に剣を持って来た。
25 王は言った。「生きている子どもを二つに切り分け、半分を一方に、残りの半分をもう一方に与えよ。」
26 すると、生きている子どもの母親である女が王に言った。自分の息子のために心が激しく動いたからである。「ああ、わが君、生きている子どもを彼女に与えてください。決してその子を殺さないでください！」
しかし、もう一人は言った。「それはわたしのものでもあなたのものでもない。それを切り分けよ。」
27 すると王は答えて言った。「生きている子どもを彼女に与えよ。決してその子を殺してはならない。彼女がその母親である。」
28 全イスラエルは王が下したさばきを聞いて、王を恐れた。さばきを行うための神の知恵が彼の中にあるのを見たからである。

4

1 ソロモン王は全イスラエルの上の王であった。
2 彼の高官たちは次のとおりである。祭司、ツァドクの息子アザルヤ、
3 書記官、シシャの息子たちであるエリホレフとアヒヤ、記録官、アヒルデの息子ヨシャファテ、
4 軍の長、エホヤダの息子ベナヤ、祭司、ツァドクとアビアタル、
5 代官たちの長、ナタンの息子アザルヤ、主要な大臣であり、王の友である、ナタンの息子ザブデ、

6 宮内長、アヒシャル、強制労働に服する者たちの長、アブダの息子アドニラム。
7 ソロモンは全イスラエルの上に十二人の役人を置いており、彼らが王とその家族のために食糧を供給した。それぞれが年に一か月、食糧を供給することになっていた。
8 彼らの名は次のとおりである。エフライムの山地のベン・フル、
9 マカツ、シャアルビム、ベテ・シェメシュ、エロン・ベテ・ハナンのベン・デケル、
10 アルボテのベン・ヘセド（彼にはソコとヘフェルの全地が属していた）、
11 ドルの全高地のベン・アビナダブ（彼はソロモンの娘タファテを妻としていた）、
12 タアナク、メギド、そしてエズレルの下にあるツァレタンのそばの全ベテ・シャン、すなわちベテ・シャンからアベル・メホラ、さらにヨクメアムの向こうに至るまでのアヒルデの息子バアナ、
13 ラモテ・ギレアデのベン・ゲベル（彼にはギレアデにあるマナセの息子ヤイルの町々が属していた。また彼には、城壁と青銅のかんぬきを持つ六十の大きな町々があるバシャンのアルゴブの地方が属していた）、
14 マハナイムのイドの息子アヒナダブ、
15 ナフタリのアヒマアツ（彼もソロモンの娘バセマトを妻としてめとっていた）、
16 アシェルとベアロテのフシャイの息子バアナ、
17 イッサカルのパルアの息子ヨシャファテ、
18 ベニヤミンのエラの息子シメイ、
19 ギレアデの地、すなわちアモリ人の王シホンの国とバシャンの王オグの国における、ウリの息子ゲベル。彼はその地にいる唯一の役人であった。
20 ユダとイスラエルは海辺の砂のように数が多く、食べたり飲んだりして喜んでいた。
21 ソロモンは、川からペリシテ人の地、またエジプトの境界に至るまでのすべての王国を治めた。彼らは貢ぎ物を持って来て、ソロモンの生涯にわたり彼に仕えた。
22 ソロモンの一日分の食糧は、上等の小麦粉三十コル*、粗挽きの小麦粉六十コル、
23 肥えた牛十頭、牧草地の牛二十頭、羊百頭であり、このほかに鹿、ガゼル、ノロジカ、肥えた鳥もあった。
24 彼は川のこちら側の全地方、すなわちティフサからガザに至るまで、川のこちら側のすべての王たちを支配していた。彼には周囲の四方に平和があった。
25 ユダとイスラエルは、ソロモンの生涯にわたり、ダンからベエルシェバに至るまで、それぞれ自分のぶどうの木の下と、いちじくの木の下で安全に住んでいた。
26 ソロモンには戦車用の馬の厩舎が四万と、騎兵が一万二千人いた。
27 それらの役人たちは、それぞれ自分の担当の月に、ソロモン王とソロモン王の食卓に来るすべての者のために食糧を供給した。彼らは何一つ不足させなかった。
28 彼らはまた、それぞれが命じられたとおりに、馬や早馬のための大麦とわらを役人たちがいる場所に持って来た。
29 神はソロモンに、海辺の砂のように非常に豊かな知恵と理解、広い心を与えられた。
30 ソロモンの知恵は、東のすべての子らの知恵と、エジプトのすべての知恵に勝っていた。

* **4:22 4:22** ―コルは一ホメルと同じで、約211リットル、または6ブッシェルである。

31 彼はすべての人よりも賢く、エズラ人エタン、マホルの息子たちであるヘマン、カルコル、ダルダよりも賢かった。彼の名声は周囲のすべての国々に広まった。
32 彼は三千の箴言を語り、彼の歌は千五であった。
33 彼はレバノンにある杉から、城壁に生えるヒソプに至るまで、木々について語った。彼はまた、獣、鳥、這うもの、魚についても語った。
34 ソロモンの知恵を聞くために、すべての民の中から、また彼の知恵について聞いた地上のすべての王たちのもとから人々がやって来た。

5

1 ツロの王ヒラムは自分のしもべたちをソロモンのもとに遣わした。彼が父に代わって油を注がれ、王となったことを聞いたからである。ヒラムは常にダビデを愛する者であったからだ。
2 ソロモンはヒラムのもとに人を遣わして言った。
3 「わたしの父ダビデが、その周囲の四方にあった戦いのために、彼の神、主の御名のために家を建てることができなかったことをあなたはご存じです。主が彼らを彼の足の裏の下に置かれるまで。
4 しかし今、わたしの神、主は四方でわたしに安息を与えてくださいました。敵対する者はおらず、わざわいも起こりません。
5 見よ、わたしはわたしの神、主の御名のために家を建てようと考えています。主がわたしの父ダビデに語って、『あなたの代わりに、わたしがあなたの王座に就かせるあなたの息子が、わたしの名のためにその家を建てる』と言われたとおりです。
6 ですから今、わたしのためにレバノンから杉の木を切り出すよう命じてください。わたしのしもべたちはあなたのしもべたちとともにおります。わたしはあなたが言われるとおりに、あなたのしもべたちへの賃金をあなたに払います。われわれの中には、シドン人のように木を切り出すことを知っている者がいないことを、あなたがご存じだからです。」
7 ヒラムはソロモンの言葉を聞くと大いに喜び、そして言った。「今日、主はほめたたえられるように。主はダビデに、この大いなる民を治める知恵のある息子を与えられた。」
8 ヒラムはソロモンのもとに人を遣わして言った。「あなたがわたしに遣わされた伝言を聞きました。わたしは杉の木材と糸杉の木材に関するあなたのすべての願いを行います。
9 わたしのしもべたちがレバノンから海へそれらを下ろします。わたしはそれらをいかだに組んで、あなたがわたしに指定する場所まで海路で送り、そこでそれらを解かせますので、あなたはそれらを受け取ってください。あなたはわたしの家族に食糧を与えて、わたしの願いをかなえてください。」
10 こうしてヒラムはソロモンに、彼のすべての願いのとおりに杉の木材と糸杉の木材を与えた。
11 ソロモンはヒラムの家族の食糧として、小麦二万コル*と、純粋な油二十コル†をヒラムに与えた。ソロモンは年々、このようにしてヒラムに与えた。
12 主は約束されたとおりにソロモンに知恵を与えられた。ヒラムとソロモンの間には平和があり、この二人はともに契約を結んだ。
13 ソロモン王は全イスラエルから徴用者を召集した。その徴用者は三万人であった。

---

* **5:11** **5:11** 二万コルは約4,220キロリットルで、小麦の重さでは約3,270メートルトンに相当する。
† **5:11** **5:11** 二十コルは約4,220リットルである。

14 彼は彼らを月ごとに一万人ずつ、交代でレバノンへ遣わした。彼らは一か月はレバノンに、二か月は家にいた。アドニラムが強制労働に服する者たちの長であった。
15 ソロモンには荷を担ぐ者が七万人、山で石を切り出す者が八万人いた。
16 そのほかに、仕事の指揮を執るソロモンの主な役人たちが三千三百人おり、彼らは仕事に服する民を監督した。
17 王が命じると、彼らは切り石で家の基を据えるために、大きな石、高価な石を切り出した。
18 ソロモンの建築者たちとヒラムの建築者たち、それにゲバル人たちは、それらを切り出し、家を建てるための木材と石を準備した。

6

1 イスラエルの子らがエジプトの地を出てから四百八十年目、ソロモンがイスラエルを治めて四年目のジブの月、すなわち第二の月に、
彼は主の家を建て始めた。
2 ソロモン王が主のために建てた家は、長さが六十キュビト*
、幅が二十キュビト、高さが三十キュビトであった。
3 家の神殿の前にある玄関は、長さが家の幅と同じく二十キュビト、
家の前にあるその幅は十キュビトであった。
4 彼は家のために、格子のはめ込まれた窓を造った。
5 彼は家の壁、すなわち神殿と内側の聖所の周囲にある家の壁に沿って、その周囲に階を建てた。そして周囲に脇部屋を造った。
6 一番下の階は幅が五キュビト、中間の階は幅が六キュビト、三番
目の階は幅が七キュビトであった。彼が梁を家の壁に差し込まなくてもよいように、家の壁の周囲の外側に段を設けたからである。
7 家は建てられていたとき、石切り場で準備された石で建てられたので、建てられている間、家の中ではハンマーも斧も、いかなる鉄の道具の音も聞こえなかった。
8 中間の脇部屋への入り口は、家の右側にあった。人々はらせん階段で中間の階へ上り、中間の階から三番目の階へ上った。
9 こうして彼は家を建て、それを完成させた。そして杉の梁と板で家を覆った。
10 彼は家全体に沿って、高さ五キュビトの階を建てた。それらは杉の木材で家に接していた。
11 主のことばがソロモンに臨んで言った。
12 「あなたが建てているこの家について言うなら、もしあなたがわたしの定めに歩み、わたしの掟を行い、わたしのすべての戒めを守ってその通りに歩むなら、わたしはあなたの父ダビデに語ったわたしの言葉を、あなたに対して確立する。
13 わたしはイスラエルの子らの間に住み、わたしの民イスラエルを見捨てることはない。」
14 こうしてソロモンは家を建て、それを完成させた。
15 彼は家の内側の壁を杉の板で造った。家の床から天井に至るまで、内側を木で覆い、家の床を糸杉の板で覆った。
16 彼は家の奥に、床から天井まで杉の板で二十キュビトを造った。彼はそれを内側の聖所、すなわち至聖所として内側に造った。
17 その前の家、すなわち神殿は四十キュビトであった。
18 内側の家の杉の木には、つぼみと開いた花の彫刻が施されていた。すべてが杉であり、石は一つも見えなかった。

---

* **6:2 6:2** 一キュビトは肘から中指の先までの長さで、約46センチメートル、または18インチである。

19 彼は主の契約の箱をそこに置くために、家の内側の奥に内側の聖所を準
備した。
20 内側の聖所の内部は、長さが二十キュビト、幅が二十キュビト、高さが二
十キュビトであった。彼はそれを純金で覆い、祭壇を杉で覆った。
21 こうしてソロモンは家の内側を純金で覆った。彼は内側の聖
所の前に金の鎖を渡し、それを金で覆った。
22 彼は家全体が完成するまで、家全体を金で覆った。彼はまた、内側の聖
所に属する祭壇の全体を金で覆った。
23 彼は内側の聖所に、高さ十キュビトのオリーブの木で二つのケルビム†
を造った。
24 ケルブの一つの翼は五キュビト、ケルブのもう一つの翼も五キュビトで、
一方の翼の端からもう一方の翼の端までは十キュビトであった。
25 もう一つのケルブも十キュビトであった。両方のケルビムは同じ寸
法、同じ形であった。
26 一つのケルブの高さは十キュビトであり、もう一つのケルブも同様であっ
た。
27 彼は内側の家の中にケルビムを置いた。ケルビムの翼は広げられていたの
で、一方の翼は一方の壁に届き、もう一方のケルブの翼はもう一方の壁に届い
ていた。そしてそれらの翼は、家の中央で互いに届いていた。
28 彼はケルビムを金で覆った。
29 彼は家の周囲のすべての壁に、内側も外側も、ケルビム、なつめやし
の木、開いた花の彫刻を施した。
30 彼は家の床を、内側も外側も金で覆った。
31 彼は内側の聖所の入り口に、オリーブの木で扉を造った。まぐさと門
柱は壁の五分の一であった。
32 彼はオリーブの木で二つの扉を造り、そこにケルビム、なつめやし
の木、開いた花の彫刻を施し、それらを金で覆った。彼はケルビムとなつめや
しの木の上に金を延べた。
33 また彼は神殿の入り口のために、壁の四分の一のオリーブの木で門
柱を造り、
34 糸杉の木で二つの扉を造った。一方の扉の二つの戸板は折りたたみ式であ
り、もう一方の扉の二つの戸板も折りたたみ式であった。
35 彼はケルビム、なつめやしの木、開いた花を彫り、彫刻された細工にぴっ
たりと合うように金を覆った。
36 彼は内庭を、切り石の三つの層と、杉の梁の一つの層で造った。
37 四年目のジブの月に主の家の基が据えられた。
38 そして十一年目のブルの月、すなわち第八の月に、そのすべての部
分に至るまで、すべての仕様どおりに家は完成した。こうして彼は七年かけて
それを建てた。

7

1 ソロモンは自分の家を十三年かけて建て、その家のすべてを完成させた。
2 彼はレバノンの森の家を建てた。その長さは百キュビト*
、幅は五十キュビト、高さは三十キュビトで、四列の杉の柱の上にあり、
柱の上には杉の梁があった。
3 それは柱の上にある四十五本の梁の上を杉で覆われており、一列に十五
本ずつあった。
4 梁は三列あり、窓は三つの層で互いに向かい合っていた。

---

† **6:23** **6:23** 「ケルビム」は「ケルブ」の複数形で、御使いのような存在である。

* **7:2** **7:2** 一キュビトは肘から中指の先までの長さで、約46センチメートル、または18インチである。

5 すべての入り口と門柱は梁で四角く造られていた。そして窓は三つ
の層で互いに向かい合っていた。
6 彼は柱の玄関を造った。その長さは五十キュビト、幅は三十キュビト
で、それらの前に玄関があり、それらの前に柱と敷居があった。
7 彼はまた、さばきを行うための王座の玄関、すなわちさばきの玄関を造っ
た。それは床から床まで杉で覆われていた。
8 玄関の内側のもう一つの庭にある、彼が住むための家も、同じような造り
であった。ソロモンはまた、（彼が妻としてめとった）ファラオの娘のために
も、この玄関のような家を造った。
9 これらはすべて、内側も外側も、基から笠石に至るまで、また外側から大
庭に至るまで、寸法に従ってのこぎりで切られた、高価な石、すなわ
ち切り石でできていた。
10 その基は高価な石、すなわち大きな石であった。十キュビトの石と、八キ
ュビトの石である。
11 その上には、寸法に従って切られた高価な切り石と、杉があった。
12 大庭の周囲には、主の家の内庭と家の玄関のように、切り石の三つ
の層と杉の梁の一つの層があった。
13 ソロモン王は人を遣わして、ツロからヒラムを呼び寄せた。
14 彼はナフタリの部族のやもめの息子であり、彼の父はツロの人で青銅の細
工師であった。彼は青銅のあらゆる仕事を行うための知恵と理解と技術に満ち
ていた。彼はソロモン王のもとに来て、そのすべての仕事を行った。
15 彼は青銅の二本の柱を鋳造した。一本の柱の高さは十八キュビトであ
り、もう一本の柱は十二キュビトの糸で周囲を測ることができた。
16 彼は柱の頂に置くために、青銅を溶かして二つの柱頭を造った。一つの柱
頭の高さは五キュビト、もう一つの柱頭の高さも五キュビトであった。
17 柱の頂にある柱頭のために、編み目細工の網、鎖の細工の花綱があった。
一つの柱頭に七つ、もう一つの柱頭に七つであった。
18 こうして彼は柱を造った。柱の頂にある柱頭を覆うために、一つ
の網の上に二列のざくろが周囲にあった。もう一つの柱頭にもそのようにし
た。
19 玄関の柱の頂にある柱頭は、ゆりの花の形をしており、四キュビトであっ
た。
20 二本の柱の上にある柱頭には、網のそばのふくらみの上にざくろがあっ
た。そのざくろは二百個あり、もう一つの柱頭の周囲にも列をなしていた。
21 彼は神殿の玄関に柱を立てた。彼は右の柱を立ててその名をヤキン
と呼び、左の柱を立ててその名をボアズと呼んだ。
22 柱の頂にはゆりの花の細工があった。こうして柱の仕事は完了した。
23 彼は鋳造の海を造った。端から端まで十キュビトの円形で、高さは五キュ
ビト、周囲は三十キュビトの糸で測ることができた。
24 その端の下には周囲にひょうたんの飾りがそれを取り囲んでおり、一キュ
ビトにつき十個ずつ、海の周囲を取り囲んでいた。そのひょうたんの飾り
は、それが鋳造されたときに二列に鋳造されたものであった。
25 それは十二頭の牛の上に載っていた。三頭は北を向き、三頭は西を向き、
三頭は南を向き、三頭は東を向いていた。海はそれらの上に載っており、それ
らの後ろの体はすべて内側に向いていた。
26 その厚さは手幅であり、その縁は杯の縁のように、ゆりの花のように造ら
れていた。それには二千バテが入った。
27 彼は青銅の十個の台座を造った。一つの台座の長さは四キュビト、
幅は四キュビト、高さは三キュビトであった。
28 台座の造りは次のとおりである。それらには鏡板があり、鏡板は枠の間に
あった。

29 枠の間にある鏡板の上には、獅子、牛、ケルビムがあった。枠の上には台
座があり、獅子と牛の下には垂れ下がった花綱の細工があった。
30 一つの台座には青銅の四つの車輪と青銅の軸があり、その四つの足に
は肩があった。洗盤の下の肩は鋳造されたもので、それぞれの花綱のそばにあ
った。
31 その口は柱頭の内側から上へ一キュビトであった。その口は台座の細工の
ように円形で、一キュビト半であった。またその口の上には彫刻があり、そ
の鏡板は丸くなく四角であった。
32 鏡板の下には四つの車輪があり、車輪の軸は台座にあった。一つの車
輪の高さは一キュビト半であった。
33 車輪の造りは戦車の車輪の造りのようであった。その軸、縁、輻、こしき
は、すべて鋳造されたものであった。
34 一つの台座の四隅には四つの肩があった。その肩は台座の一部であった。
35 台座の頂には高さ半キュビトの丸い帯があった。台座の頂にあるその支え
と鏡板は、それと一体であった。
36 彼はその支えの板と鏡板の上に、それぞれの空間の広さに応じて、ケルビ
ム、獅子、なつめやしの木を彫り、その周囲に花綱を彫った。
37 彼はこのようにして十個の台座を造った。それらはみな同じ鋳型、同じ寸
法、同じ形であった。
38 彼は青銅の十個の洗盤を造った。一つの洗盤には四十バテ†
が入り、一つの洗盤は四キュビトであった。十個の台座のそれぞれの上に一つ
の洗盤があった。
39 彼は台座の五つを家の右側に、五つを家の左側に置いた。彼は海を家の右
側、東の方、南に向かって置いた。
40 ヒラムは鍋、十能、鉢を造った。こうしてヒラムは、ソロモン王のため
に主の家で行うすべての仕事を終えた。
41 すなわち、二本の柱と、柱の頂にある柱頭の二つの鉢と、柱の頂にある柱
頭の二つの鉢を覆う二つの網と、
42 二つの網のための四百個のざくろ（一つの網につき二列のざくろがあり、
柱の上にある柱頭の二つの鉢を覆っていた）と、
43 十個の台座と台座の上の十個の洗盤と、
44 一つの海と海の下の十二頭の牛と、
45 鍋、十能、鉢である。ヒラムが主の家のためにソロモン王のために造った
これらのすべての器は、磨かれた青銅であった。
46 王はヨルダンの平野で、スコテとツァレタンの間の粘土の地でこれらを鋳
造した。
47 器は非常に多かったので、ソロモンはそれらをすべて量らないでおいた。
青銅の重さは量りきれなかった。
48 ソロモンは主の家にあるすべての器を造った。金の祭壇と、供えのパン
を載せる金の机と、
49 純金の燭台（内側の聖所の前に右に五つ、左に五つ）と、金の花、ともし
び、芯切りばさみと、
50 純金の杯、芯切りばさみ、鉢、さじ、火皿と、内側の家、すなわち至聖
所の扉と、神殿の家の扉のための金の蝶番である。
51 こうして、ソロモン王が主の家のために行ったすべての仕事は終わっ
た。ソロモンは父ダビデが聖別したもの、すなわち銀、金、器を運び入れ、そ
れらを主の家の宝物庫に納めた。

† **7:38 7:38** 一バテは一コルの十分の一で、約21リットルである。したがって四十バテは約840リットルである。

8

1 その時、ソロモンはイスラエルの長老たち、部族のすべての頭たち、すなわちイスラエルの子らの父の家の君主たちを、エルサレムのソロモン王のもとに集めた。主の契約の箱をダビデの町、すなわちシオンから運び上るためであった。
2 エタニムの月、すなわち第七の月の祭りに、イスラエルのすべての男たちがソロモン王のもとに集まった。
3 イスラエルのすべての長老たちが来て、祭司たちは箱を担ぎ上げた。
4 彼らは主の箱、会見の天幕、および天幕の中にあったすべての聖なる器を運び上った。祭司たちとレビ人たちがこれらを運び上った。
5 ソロモン王と、彼のもとに集まったイスラエルの全会衆は、箱の前にいて、数えることも量ることもできないほど多くの羊や牛をいけにえとしてささげた。
6 祭司たちは主の契約の箱をその定めの場所、すなわち家の内側の聖所である至聖所に、ケルビムの翼の下に運び入れた。
7 ケルビムは箱の置かれた場所の上に両翼を広げ、上から箱とその担ぎ棒を覆っていた。
8 担ぎ棒は長かったので、その端は内側の聖所の前の聖所から見えたが、外からは見えなかった。それらは今日に至るまでそこにある。
9 イスラエルの子らがエジプトの地を出たとき、主が彼らと契約を結ばれたホレブで、モーセがそこに置いた二枚の石の板のほかには、箱の中には何もなかった。
10 祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が主の家に満ちた。
11 そのため、祭司たちは雲のゆえに立って仕えることができなかった。主の栄光が主の家に満ちたからである。
12 その時、ソロモンは言った。「主は、ご自分が暗やみの中に住むと言われました。
13 わたしは確かにあなたのために住まいの家を、あなたがとこしえに住むための場所を建てました。」
14 王は振り向いて、イスラエルの全会衆を祝福した。イスラエルの全会衆は立っていた。
15 彼は言った。「イスラエルの神、主はほめたたえられるように。主はご自分の口でわたしの父ダビデに語られ、ご自分の手でそれを成し遂げて言われました。
16 『わたしがわたしの民イスラエルをエジプトから導き出した日から、わたしの名がそこにあるようにと、家を建てるためにイスラエルのすべての部族の中からどの町も選ばなかった。しかしわたしは、わたしの民イスラエルの上に立つようにダビデを選んだ。』
17 わたしの父ダビデの心には、イスラエルの神、主の御名のために家を建てる思いがありました。
18 しかし主はわたしの父ダビデに言われました。『あなたの心にはわたしの名のために家を建てる思いがあったが、その思いを心に抱いたことは良いことであった。
19 それでも、あなたがその家を建ててはならない。あなたの腰から出るあなたの息子が、わたしの名のためにその家を建てる。』
20 主はご自分が語られた言葉を果たされました。主が約束されたとおりに、わたしは父ダビデに代わって立ち、イスラエルの王座に座り、イスラエルの神、主の御名のために家を建てました。
21 わたしはそこに、主がわれわれの父祖たちをエジプトの地から導き出されたときに彼らと結ばれた、主の契約を納めた箱のための場所を設けました。」
22 ソロモンはイスラエルの全会衆の前で主の祭壇の前に立ち、天に向かって両手を広げて、

23 言った。「イスラエルの神、主よ。上は天にも、下は地にも、あなたのような神はいません。あなたは、心を尽くしてあなたの前を歩むあなたのしもべたちに対して、契約と慈しみを守られます。
24 あなたはご自分のしもべであるわたしの父ダビデに約束したことを守られました。はい、あなたはご自分の口で語り、今日あるように、ご自分の手でそれを成し遂げられました。
25 ですから今、イスラエルの神、主よ、ご自分のしもべであるわたしの父ダビデに約束して、『あなたの子らが自分の道に注意を払い、あなたがわたしの前を歩んだようにわたしの前を歩むなら、イスラエルの王座に座る者があなたのうちからわたしの前で絶えることはない』と言われたことを彼のために守ってください。
26 今、イスラエルの神よ、どうか、ご自分のしもべであるわたしの父ダビデにお語りになった言葉を、確かなものとしてください。
27 しかし、神は本当に地上に住まわれるでしょうか。見よ、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして、わたしが建てたこの家があなたをお入れすることは、なおさらできません。
28 しかし、あなたのしもべの祈りと願いに顔を向け、わたしの神、主よ、あなたのしもべが今日あなたの前で祈る叫びと祈りを聞き入れてください。
29 あなたが『わたしの名がそこにある』と言われた場所、この家に向けて、昼も夜もあなたの目が開かれていますように。あなたのしもべがこの場所に向けてささげる祈りを、あなたが聞き入れてくださるためです。
30 あなたのしもべと、あなたの民イスラエルがこの場所に向けてささげる願いを聞き入れてください。はい、あなたの住まいである天で聞いてください。そして聞いて、お赦しください。
31 もし人が隣人に罪を犯し、彼に誓いを立てさせるために誓いが課せられ、彼が来てこの家にあるあなたの祭壇の前で誓うなら、
32 あなたは天で聞いて行い、あなたのしもべたちをさばいてください。悪者には有罪を宣告してその行いを彼の頭に帰らせ、義人には義を宣告してその義にしたがって彼に報いてください。
33 あなたの民イスラエルがあなたに対して罪を犯したため、敵の前で打ち負かされたとき、彼らがあなたに立ち返ってあなたの御名を告白し、この家であなたに祈り求めるなら、
34 あなたは天で聞いて、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らの父祖たちに与えた地へ彼らを連れ戻してください。
35 彼らがあなたに対して罪を犯したため、天が閉ざされて雨が降らないとき、もし彼らがこの場所に向けて祈り、あなたの御名を告白し、あなたが彼らを苦しめられたときにその罪から立ち返るなら、
36 あなたは天で聞いて、あなたのしもべたちとあなたの民イスラエルの罪を赦してください。あなたが彼らに歩むべき良い道を教えられ、あなたの民にゆずりの地として与えられたあなたの地に雨を降らせてください。
37 もしこの地にききんが起きたとき、疫病が起こったとき、胴枯れ病、黒穂病、いなご、青虫が発生したとき、敵が彼らの地の町々で彼らを包囲したとき、どんな災厄、どんな病気であっても、
38 どんな祈り、どんな願いでも、どんな人によっても、あるいはあなたの民イスラエル全体によってもささげられ、各自が自分の心の疫病を知り、この家に向けて両手を広げるなら、
39 あなたはあなたの住まいである天で聞いて赦し、行い、各人のすべての道にしたがって報いてください。あなたはその人の心をご存じだからです。人の子らのすべての心をご存じなのは、あなただけだからです。
40 それは、あなたがわれわれの父祖たちに与えられた地の面で彼らが生きるすべての日々、彼らがあなたを恐れるためです。

41 さらに、あなたの民イスラエルに属さない外国人についても、彼があなたの御名のために遠い国から来たとき
42 （彼らはあなたの大いなる御名と、力強い御手と、伸ばされた腕について聞くからです）、彼が来てこの家に向けて祈るなら、
43 あなたはあなたの住まいである天で聞いて、その外国人があなたに呼び求めるすべてのことにしたがって行ってください。地上のすべての民があなたの御名を知り、あなたの民イスラエルと同じようにあなたを恐れ、わたしが建てたこの家があなたの御名によって呼ばれていることを知るためです。
44 あなたが遣わされる道で、あなたの民が敵と戦うために出て行くとき、彼らが主のお選びになった町と、わたしがあなたの御名のために建てた家に向けて主に祈るなら、
45 あなたは天で彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えを取り上げてください。
46 彼らがあなたに対して罪を犯し（罪を犯さない人はいないからです）、あなたが彼らに向かって怒り、彼らを敵に引き渡し、彼らが遠くであれ近くであれ、敵の地に捕らえられて行ったとき、
47 もし彼らが捕らえられて行った地で自分自身に立ち返り、悔い改めて、捕らえられた地であなたに願い、『われわれは罪を犯し、よこしまなことを行い、悪を行いました』と言い、
48 彼らを捕らえて行った敵の地で、心を尽くし魂を尽くしてあなたに立ち返り、あなたが彼らの父祖たちに与えられた彼らの地、あなたがお選びになった町、そしてわたしがあなたの御名のために建てた家に向けてあなたに祈るなら、
49 あなたはあなたの住まいである天で彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えを取り上げ、
50 あなたに対して罪を犯したあなたの民を赦し、彼らがあなたに対して犯したすべての背きを赦し、彼らを捕らえて行った者たちが彼らをあわれむように、彼らの前にあわれみを与えてください。
51 彼らはエジプトから、鉄の炉の中からあなたが導き出されたあなたの民、あなたのゆずりの地だからです。
52 あなたの目があなたのしもべの願いと、あなたの民イスラエルの願いに向かって開かれ、彼らがあなたに呼び求めるときにはいつでも、彼らの声を聞いてくださいますように。
53 主なる神よ、あなたがわれわれの父祖たちをエジプトから導き出されたとき、あなたのしもべモーセを通して語られたように、あなたは彼らを、地上のすべての民の中からご自分のゆずりの地として取り分けられたからです。」
54 ソロモンは、天に向かって両手を広げてひざまずいていた主の祭壇の前から立ち上がり、主へのこのすべての祈りと願いをささげ終えた。
55 彼は立ち上がり、大声でイスラエルの全会衆を祝福して言った。
56 「約束されたすべてのことにしたがって、ご自分の民イスラエルに安息を与えられた主はほめたたえられるように。主がそのしもべモーセを通して語られたすべての良い約束の言葉のうち、一言も果たされなかったものはない。
57 われわれの神、主が、われわれの父祖たちとともにおられたように、われわれとともにおられますように。主がわれわれを見放すことも、見捨てることもありませんように。
58 主がわれわれの心をご自分に向けさせ、われわれが主のすべての道を歩み、主がわれわれの父祖たちに命じられた戒め、定め、掟を守るようにしてくださいますように。
59 わたしが主の御前でささげたこれらのわたしの願いの言葉が、昼も夜もわれわれの神、主の近くにあり、主がご自分のしもべの訴えと、ご自分の民イスラエルの訴えを、日ごとに必要に応じて取り上げてくださいますように。

60 地上のすべての民が、主こそ神であり、ほかに神はいないことを知るためです。
61 ですから、あなたがたの心をわれわれの神、主に対して完全なものとし、今日しているように、主の定めに歩み、主の戒めを守りなさい。」
62 王と、彼とともにいた全イスラエルは、主の御前にいけにえをささげた。
63 ソロモンは主にささげる和解のいけにえとして、牛二万二千頭と羊十二万頭をささげた。こうして王とイスラエルのすべての子らは主の家を奉献した。
64 その日、王は主の家の前にある庭の中央を聖別した。そこに全焼のささげ物、穀物のささげ物、和解のいけにえの脂肪をささげたからである。主の御前にあった青銅の祭壇は小さすぎて、全焼のささげ物、穀物のささげ物、和解のいけにえの脂肪を載せきれなかったからである。
65 その時、ソロモンは祭りを祝い、彼とともに全イスラエル、すなわちハマテの入り口からエジプトの川に至るまでの大いなる会衆が、われわれの神、主の御前で七日間とさらに七日間の十四日間にわたって祝った。
66 八日目に、彼は民を去らせた。彼らは王を祝福し、主がそのしもべダビデと、その民イスラエルに示されたすべての良いことを心に喜び、楽しみながら自分たちの天幕へ帰って行った。

9

1 ソロモンが主の家と王の家、また自分が喜んで行おうとしたすべてのことを建て終えたとき、
2 主はかつてギベオンで彼に現れたように、二度目にソロモンに現れられた。
3 主は彼に言われた。「わたしは、あなたがわたしの前にささげた祈りと願いを聞いた。わたしはあなたが建てたこの家を聖別し、わたしの名をそこにとこしえに置く。わたしの目とわたしの心は、常にそこにある。
4 あなたについて言えば、もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、全き心とまっすぐな心をもってわたしの前を歩み、わたしがあなたに命じたすべてのことにしたがって行い、わたしの定めとわたしの掟を守るなら、
5 わたしはあなたの父ダビデに約束して、『イスラエルの王座から人があなたの前で絶えることはない』と言ったとおりに、イスラエルの上にあるあなたの王国の王座をとこしえに確立する。
6 しかし、もしあなたがた、あるいはあなたがたの子らがわたしに従うことから背き去り、わたしがあなたがたの前に置いたわたしの戒めとわたしの定めを守らず、行って他の神々に仕え、それらを拝むなら、
7 わたしは、わたしが彼らに与えた地からイスラエルを断ち切る。そして、わたしがわたしの名のために聖別したこの家を、わたしの目の前から投げ捨てる。こうしてイスラエルは、すべての民の間でことわざとなり、笑いぐさとなる。
8 この家は高くそびえていても、そこを通り過ぎる者は皆驚き、あざけって言うであろう。『なぜ主はこの地と、この家に対してこのようなことをされたのか。』
9 そして彼らは答えるであろう。『彼らが自分たちの父祖たちをエジプトの地から導き出された彼らの神、主を捨てて、他の神々を堅く握り、それらを拝み、それらに仕えたからだ。それゆえ、主はこのすべての悪を彼らの上にもたらされたのである。』」
10 ソロモンが二つの家、すなわち主の家と王の家を建てた二十年の終わりに、
11 （ツロの王ヒラムはソロモンに、杉の木、糸杉の木、および金を、彼のすべての願いにしたがって提供していたので）、ソロモン王はガリラヤの地にある二十の町をヒラムに与えた。

12 ヒラムはソロモンが彼に与えた町々を見るためにツロから出て来たが、それらは彼の気に入らなかった。
13 彼は言った。「わたしの兄弟よ、あなたがわたしに与えたこれらの町々は何なのですか。」彼はそれらをカブル* の地と呼び、今日に至っている。
14 ヒラムは百二十タラント† の金を王に送っていた。
15 ソロモン王が強制労働を徴用した理由はこれである。主の家、自分の家、ミロ、エルサレムの城壁、ハツォル、メギド、そしてゲゼルを建てるためであった。
16 エジプトの王ファラオは上って来てゲゼルを攻め取り、それを火で焼き、その町に住んでいたカナン人を殺し、それをソロモンの妻である自分の娘への結婚の贈り物として与えていた。
17 ソロモンはゲゼル、下ベテ・ホロン、
18 バアラテ、およびその地の荒野にあるタマルを建てた。
19 また、ソロモンが持っていたすべての倉庫の町々、戦車のための町々、騎兵のための町々、そしてソロモンがエルサレム、レバノン、および彼の支配する全地で自分の楽しみのために建てたいと願ったものを建てた。
20 イスラエルの子らではない、アモリ人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の残りのすべての民について言えば、
21 イスラエルの子らが完全に滅ぼし尽くすことができなかった、その地に彼らの後に残された彼らの子らを、ソロモンは奴隷の徴用者とし、今日に至っている。
22 しかし、イスラエルの子らの中からは、ソロモンはだれも奴隷にしなかった。彼らは戦士、彼のしもべ、彼の君主、彼の隊長、また彼の戦車と騎兵の長たちであった。
23 これらはソロモンの仕事を監督する主な役人たちで、五百五十人おり、仕事で働く民を支配していた。
24 しかし、ファラオの娘がダビデの町から、ソロモンが彼女のために建てた彼女の家に上って来た。その後、彼はミロを建てた。
25 ソロモンは年に三度、彼が主のために築いた祭壇で全焼のささげ物と和解のいけにえをささげ、主の前にあった祭壇でそれらとともに香をたいた。こうして彼は家を完成させた。
26 ソロモン王は、エドムの地にあり、紅海の岸辺のエロテのそばにあるエツヨン・ゲベルで船団を造った。
27 ヒラムはその船団に、海を知っている水夫である自分のしもべたちを、ソロモンのしもべたちと一緒に遣わした。
28 彼らはオフィルへ行き、そこから四百二十タラントの金を取り、それをソロモン王のもとに持って来た。

10

1 シェバの女王は主の御名に関するソロモンの名声を聞き、難問をもって彼を試すためにやって来た。
2 彼女は非常に大きな随員を伴い、香料と非常に多くの金と宝石を積んだらくだを連れてエルサレムに来た。彼女はソロモンのところに来ると、自分の心にあるすべてのことを彼に話した。
3 ソロモンは彼女のすべての質問に答えた。王にとって隠されていて、彼が彼女に告げなかったことは一つもなかった。
4 シェバの女王はソロモンのすべての知恵と、彼が建てた家、

---

* **9:13** **9:13** 「カブル」は、ヘブル語で「無価値」を意味する言葉に似ている。 † **9:14** **9:14** 一タラントは約30キログラム、または66ポンドである。百二十タラントは約3.6メートルトンである。

5 彼の食卓の食べ物、彼のしもべたちの席、彼の大臣たちの給仕とその衣
服、彼の献酌官たち、そして彼が主の家へ上って行く上り段を見たとき、彼
女は息をのむほどであった。
6 彼女は王に言った。「わたしが自分の国で、あなたの事績とあなたの知
恵について聞いたうわさは本当でした。
7 しかし、わたしが来て、自分の目で見るまでは、その言葉を信じませんで
した。見よ、その半分もわたしに告げられてはいませんでした。あなたの知
恵と繁栄は、わたしが聞いた名声に勝っています。
8 あなたの部下たちは幸いである。常にあなたの前に立ち、あなたの知
恵を聞くこれらのあなたのしもべたちは幸いである。
9 あなたを喜び、あなたをイスラエルの王座に就かせられたあなた
の神、主はほめたたえられるように。主はイスラエルをとこしえに愛されたの
で、公正と義を行わせるために、あなたを王とされたのです。」
10 彼女は王に百二十タラント*
の金と、非常に多くの香料と宝石を与えた。シェバの女王がソロモン王に与え
たような多くの香料は、二度と入って来ることはなかった。
11 オフィルから金を運んで来たヒラムの船団もまた、オフィルから非
常に多くのアルムグの木† と宝石を運んで来た。
12 王はアルムグの木で主の家と王の家のための柱を造り、また歌う者たちの
ために竪琴と弦楽器を造った。今日に至るまで、そのようなアルムグ
の木が入って来たことも、見られたこともなかった。
13 ソロモン王は、王の寛大さから彼女に与えたもののほかに、シェバの女
王のすべての願い、彼女が求めたすべてのものを彼女に与えた。こうして彼
女は引き返し、自分のしもべたちとともに自分の国へ帰って行った。
14 一年の間にソロモンのところに入って来た金の重さは、六百六十六タラン
トの金であった。
15 このほかに、貿易商たちが持って来たもの、商人たちの取引によるも
の、さまざまな民のすべての王たち、およびその国の総督たちからのものがあ
った。
16 ソロモン王は打ち延ばした金で二百の大盾を造った。一つの大盾には六
百シェケル‡ の金が使われた。
17 また彼は打ち延ばした金で三百の盾を造った。一つの盾には三ミナ§
の金が使われた。王はそれらをレバノンの森の家に置いた。
18 さらに王は象牙の大きな王座を造り、それを最高級の金で覆った。
19 王座には六つの段があり、王座の頂は後ろが丸くなっていた。座席の場
所の両側にはひじ掛けがあり、ひじ掛けのそばには二頭の獅子が立っていた。
20 六つの段の上には、一方の側ともう一方の側に十二頭の獅子が立っていた。どの王国でも、これに似たものは造られたことがなかった。
21 ソロモン王の飲むための器はすべて金であり、レバノンの森の家の器もす
べて純金であった。銀のものは一つもなかった。ソロモンの時代には、
銀は全く価値のないものとみなされていたからである。
22 王は海に、ヒラムの船団とともにタルシシュの船団を持っていたからであ
る。三年ごとに一度、タルシシュの船団は金、銀、象牙、猿、くじゃくを運ん
で来た。
23 こうしてソロモン王は、富においても知恵においても、地上のすべて
の王たちに勝っていた。

---

* **10:10** **10:10** ―タラントは約30キログラム、または66ポンドである。百二十タラントは約3.6メートルトンである。
† **10:11** **10:11** おそらくインド産の白檀で、美しい木目と心地よい香りがあり、木工に適している。
‡ **10:16** **10:16** ―シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。六百シェケルは約6キログラム、または13.2
§ **10:17** **10:17** ―ミナは約600グラム、または1.3ポンドである。

24 全地は、神が彼の心に授けられた知恵を聞くために、ソロモンに謁
見を求めた。
25 彼らは皆、年ごとに定められた分として、それぞれ自分の貢ぎ物、すなわ
ち銀の器、金の器、衣服、武具、香料、馬、騾馬を持って来た。
26 ソロモンは戦車と騎兵を集めた。彼は千四百の戦車と、一万二千の騎
兵を持っており、それらを戦車のための町々に、またエルサレムの王のもと
に配置した。
27 王はエルサレムで銀を石のようにし、杉の木を低地にあるいちじ
く桑の木のように豊富にした。
28 ソロモンが持っていた馬はエジプトから運ばれたものであり、王の商人たち
が群れごとに、それぞれ定価で買い取った。
29 エジプトから輸入される戦車は一台につき銀六百シェケル、馬は一頭につ
き百五十シェケルであった。このようにして、ヘテ人のすべての王たち、およ
びアラムの王たちのためにも、王の商人たちの手によって輸出された。

11

1 さて、ソロモン王はファラオの娘とともに、モアブ人、アンモン人、エド
ム人、シドン人、ヘテ人の多くの外国の女たちを愛した。
2 これらの国々について、主はかつてイスラエルの子らに、「あなたがた
は彼らの中に入って行ってはならない。彼らもあなたがたの中に入って来ては
ならない。彼らは必ずあなたがたの心を自分たちの神々に従わせるようにそら
すからである」と言われていたが、ソロモンは彼女たちを愛して固く結びつい
た。
3 彼には妻である七百人の王女と、三百人のそばめがいた。そして彼の妻た
ちは彼の心をそらした。
4 ソロモンが年老いたとき、彼の妻たちが彼の心をそらして他の神々に従わ
せた。そのため、彼の心は父ダビデの心のようには、彼の神、主に対して全き
ものではなかった。
5 ソロモンはシドン人の女神アシュトレテと、アンモン人の忌むべきものミ
ルコムに従って行った。
6 ソロモンは主の御目に悪であることを行い、父ダビデのようには完
全に主に従って行かなかった。
7 その時、ソロモンはエルサレムの前にある山に、モアブの忌むべきものケ
モシュのため、そしてアンモンの子らの忌むべきものモレクのため
に高き所を建てた。
8 彼は自分たちの神々に香をたき、いけにえをささげるすべての外国の妻た
ちのためにも、そのように行った。
9 主はソロモンに向かって怒られた。彼の心が、二度も彼に現れられたイス
ラエルの神、主からそらされたからである。
10 主はこの事について、他の神々に従って行ってはならないと彼に命じられ
ていたが、彼は主が命じられたことを守らなかった。
11 それゆえ、主はソロモンに言われた。「あなたがこのように行い、わたし
があなたに命じたわたしの契約とわたしの定めを守らなかったので、わたし
は必ずあなたから王国を裂き、それをあなたのしもべに与える。
12 しかし、あなたの父ダビデのゆえに、あなたの生きている間はそれを行わ
ない。あなたの息子の手からそれを裂くのである。
13 とはいえ、王国全体を裂くことはしない。わたしのしもべダビデのゆえ
に、またわたしが選んだエルサレムのゆえに、一つの部族をあなたの息
子に与える。」
14 主はソロモンに対して敵を起こされた。エドム人ハダドである。彼はエド
ムにいる王の子孫であった。
15 ダビデがエドムにいたときのことである。軍の長ヨアブが、殺された者た
ちを葬るために上って行き、エドムのすべての男子を打ち殺した。

16 （ヨアブと全イスラエルは、エドムのすべての男子を断ち切るまで、そこに六か月間とどまっていたからである）。
17 ハダドはまだ幼い子どもであったが、彼の父のしもべたちである何人かのエドム人とともに逃げて、エジプトへ行こうとした。
18 彼らはミディアンから旅立ってパランに来た。彼らはパランから男たちを連れてエジプトへ行き、エジプトの王ファラオのところへ来た。ファラオは彼に家を与え、食物をあてがい、土地を与えた。
19 ハダドはファラオの御目に大いに恵みを得たので、ファラオは自分の妻の姉妹、すなわち王妃タフペネスの姉妹を彼の妻として与えた。
20 タフペネスの姉妹は彼に息子ゲヌバテを産み、タフペネスはファラオの家で彼を乳離れさせた。ゲヌバテはファラオの家でファラオの息子たちの中にいた。
21 ハダドはエジプトで、ダビデが父祖たちとともに眠りにつき、軍の長ヨアブが死んだことを聞くと、ファラオに「わたしを去らせて、自分の国へ行かせてください」と言った。
22 するとファラオは彼に、「見よ、あなたは自分の国へ行こうとしているが、わたしのもとで何が不足しているのか」と言った。彼は答えた。「何もありません。しかし、ただわたしを去らせてください。」
23 神は彼に対しても、もう一人の敵、エリアダの息子レゾンを起こされた。彼はその主君であるツォバの王ハダデゼルから逃げてきた者であった。
24 ダビデがツォバの者たちを殺したとき、彼は自分のところに男たちを集め、部隊の長となった。彼らはダマスコへ行ってそこに住み、ダマスコで治めた。
25 彼はソロモンの生涯の間、ハダドのわざわいに加えてイスラエルの敵であった。彼はイスラエルを忌み嫌い、アラムを治めた。

26 ツェレダ出身のエフライム人でソロモンのしもべである、ネバテの息子ヤロブアムも王に対して手を上げた。彼の母の名はツェルアといい、やもめであった。
27 彼が王に対して手を上げた理由はこれである。ソロモンはミロを建て、父ダビデの町の破れを修復していた。
28 このヤロブアムという男は有能な勇士であった。ソロモンはこの若者が勤勉であるのを見て、彼をヨセフの家のすべての労働の監督に任じた。
29 そのころ、ヤロブアムがエルサレムから出て行ったとき、シロ人である預言者アヒヤが道で彼に出会った。アヒヤは新しい外套を身にまとっており、野には二人だけであった。
30 アヒヤは自分が着ていた新しい外套をつかみ、それを十二切れに引き裂いた。
31 彼はヤロブアムに言った。「あなたは十切れを取りなさい。イスラエルの神、主はこう言われるからである。『見よ、わたしはソロモンの手から王国を裂き、十部族をあなたに与える。
32 （しかし、わたしのしもべダビデのゆえに、またわたしがイスラエルのすべての部族の中から選んだ町エルサレムのゆえに、彼には一つの部族が残る）。
33 これは彼らがわたしを捨て、シドン人の女神アシュトレテ、モアブの神ケモシュ、アンモンの子らの神ミルコムを拝んだからである。彼らは父ダビデがしたように、わたしの道を歩んでわたしの目に正しいことを行わず、わたしの定めとわたしの掟を守らなかった。

34 しかし、わたしは彼の手から王国全体を取り上げることはしない。わたしが選び、わたしの戒めとわたしの定めを守ったわたしのしもべダビデのゆえに、彼が生きている間は彼を君主とする。

35 しかし、わたしは彼の息子の手から王国を取り上げ、それをあなたに、すなわち十部族を与える。
36 彼の息子には一つの部族を与える。それは、わたしの名を置くためにわたしが選んだ町エルサレムにおいて、わたしのしもべダビデのともしびがわたしの前にいつまでもあるためである。
37 わたしはあなたを取る。あなたは自分の魂が望むすべてのことにしたがって治め、イスラエルの上の王となる。
38 もしわたしがあなたに命じるすべてのことにあなたが聞き従い、わたしの道を歩み、わたしのしもべダビデがしたようにわたしの定めとわたしの戒めを守ってわたしの目に正しいことを行うなら、わたしはあなたとともにおり、ダビデのために建てたようにあなたのために確かな家を建て、イスラエルをあなたに与える。
39 わたしはこの事のためにダビデの子孫を苦しめるが、とこしえにではない。』」
40 それゆえソロモンはヤロブアムを殺そうと求めたが、ヤロブアムは立ち上がってエジプトへ逃げ、エジプトの王シシャクのところへ行き、ソロモンが死ぬまでエジプトにいた。
41 ソロモンのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、および彼の知恵は、ソロモンの事績の書に記されているではないか。
42 ソロモンがエルサレムで全イスラエルを治めた期間は四十年であった。
43 ソロモンは父祖たちとともに眠りにつき、父ダビデの町に葬られた。そして彼の息子レハブアムが彼に代わって王となった。

12

1 レハブアムはシケムへ行った。全イスラエルが彼を王とするためにシケムに来ていたからである。
2 ネバテの息子ヤロブアムがこれを聞いたとき（彼はソロモン王の前から逃げてまだエジプトにおり、エジプトに住んでいたが、
3 人々は人を遣わして彼を呼んだ）、ヤロブアムとイスラエルの全会衆はレハブアムのもとに来て、彼に語って言った。
4 「あなたの父はわれわれのくびきを重くしました。ですから今、あなたの父の過酷な奉仕と、彼がわれわれに負わせた重いくびきを軽くしてください。そうすれば、われわれはあなたに仕えます。」
5 彼は彼らに言った。「三日の間去って行き、それからわたしのところに戻って来なさい。」こうして民は去って行った。
6 レハブアム王は、父ソロモンが生きている間に彼の前に立っていた長老たちと協議して、「この民にどう答えるべきか、あなたがたはどのように助言するのか」と言った。
7 彼らは彼に語って言った。「もしあなたが今日この民のしもべとなり、彼らに仕え、彼らに答えて良い言葉を語るなら、彼らはとこしえにあなたのしもべとなるでしょう。」
8 しかし、彼は長老たちが与えた助言を退け、彼とともに育ち、彼の前に立っている若者たちと協議した。
9 彼は彼らに言った。「『あなたの父がわれわれに負わせたくびきを軽くしてくれ』とわたしに語ったこの民に答えるために、あなたがたはどのような助言を与えるのか。」
10 彼とともに育った若者たちは彼に語って言った。「『あなたの父はわれわれのくびきを重くしたが、あなたはわれわれのためにそれを軽くしてくれ』とあなたに語ったこの民には、このように言うべきです。あなたは彼らにこう言いなさい。『わたしの小指は、わたしの父の腰よりも太い。

11 今、わたしの父はあなたがたに重いくびきを負わせたが、わたしはあなたがたのくびきをさらに重くする。わたしの父は鞭であなたがたを懲らしめたが、わたしはさそりであなたがたを懲らしめる。』」
12 王が「三日目にわたしのところに戻って来なさい」と命じたとおりに、ヤロブアムとすべての民は三日目にレハブアムのところに来た。
13 王は長老たちが与えた助言を退け、民に荒々しく答えた。
14 若者たちの助言にしたがって彼らに語って言った。「わたしの父はあなたがたのくびきを重くしたが、わたしはあなたがたのくびきをさらに重くする。わたしの父は鞭であなたがたを懲らしめたが、わたしはさそりであなたがたを懲らしめる。」
15 こうして王は民の言葉に耳を傾けなかった。主がシロ人アヒヤを通してネバテの息子ヤロブアムに語られた言葉を確立されるために、これは主から出た事であったからである。
16 全イスラエルは、王が自分たちの言葉に耳を傾けなかったのを見た。民は王に答えて言った。「われわれはダビデの中に何の分け前を持っているだろうか。エッサイの息子の中に何のゆずりの地も持っていない。イスラエルよ、あなたの天幕へ帰れ！ ダビデよ、今、自分の家を見よ。」こうしてイスラエルは自分たちの天幕へ去って行った。
17 しかし、ユダの町々に住んでいたイスラエルの子らについて言えば、レハブアムが彼らを治めた。
18 レハブアム王は強制労働に服する者たちの長であるアドラムを遣わしたが、全イスラエルは彼を石で打ったので、彼は死んだ。レハブアム王は急いで戦車に乗り、エルサレムへ逃げた。
19 こうしてイスラエルはダビデの家に背き、今日に至っている。
20 全イスラエルはヤロブアムが帰って来たことを聞き、人を遣わして彼を会衆に呼び寄せ、彼を全イスラエルの上の王とした。ユダの部族のほかには、ダビデの家に従う者はなかった。
21 レハブアムがエルサレムに着いたとき、彼はユダの全家とベニヤミンの部族の、選り抜きの戦士十八万人を集めた。ソロモンの息子レハブアムに王国を回復するために、イスラエルの家と戦うためであった。
22 しかし、神の言葉が神の人シェマヤに臨んで言った。
23 「ユダの王、ソロモンの息子レハブアム、およびユダとベニヤミンの全家、また残りの民に語って言え。
24 『主はこう言われる。「上って行ってはならない。あなたがたの兄弟であるイスラエルの子らと戦ってはならない。それぞれ自分の家へ帰れ。この事はわたしによるものだからである。」』」そこで彼らは主の言葉に聞き従い、主の言葉にしたがって帰って行った。
25 それからヤロブアムはエフライムの山地にシケムを建ててそこに住んだ。彼はそこから出て行き、ペヌエルを建てた。
26 ヤロブアムは心の中で言った。「今、王国はダビデの家に帰るかもしれない。
27 もしこの民がエルサレムにある主の家でいけにえをささげるために上って行くなら、この民の心は彼らの主君、ユダの王レハブアムに再び向くであろう。彼らはわたしを殺し、ユダの王レハブアムのところに帰るであろう。」
28 そこで王は協議し、金の二頭の子牛を造って、彼らに言った。「あなたがたがエルサレムに上って行くのはもう十分だ。イスラエルよ、見よ、あなたがたをエジプトの地から導き上ったあなたがたの神々を。」
29 彼は一頭をベテルに置き、もう一頭をダンに置いた。
30 この事は罪となった。民がその一頭を礼拝するために、遠くダンまで行ったからである。
31 彼は高き所に家々を造り、レビの子らではない、すべての民の中から祭司を任命した。

32 ヤロブアムは、第八の月の十五日に、ユダでの祭りのような祭りを定め、
祭壇に上った。彼はベテルでそのように行い、自分が造った子牛にいけにえを
ささげ、自分が造った高き所の祭司たちをベテルに置いた。
33 彼は、第八の月の十五日、彼が自分自身の心で考え出した月に、彼がベテ
ルで造った祭壇に上った。彼はイスラエルの子らのために祭りを定め、香をた
くために祭壇に上った。

13

1 見よ、ヤロブアムが香をたくために祭壇のそばに立っていたとき、
神の人が主の言葉によってユダからベテルにやって来た。
2 彼は祭壇に向かって主の言葉によって叫んで言った。「祭壇よ、祭壇よ、
主はこう言われる。『見よ、ダビデの家にヨシヤという名の子が生まれる。
彼はあなたの上で香をたく高き所の祭司たちをあなたの上でいけにえとし、
人の骨があなたの上で焼かれる。』」
3 彼はその日、一つのしるしを与えて言った。「これは主が語られたしるし
である。見よ、祭壇は裂け、その上の灰は注ぎ出される。」
4 ヤロブアム王は、神の人がベテルにある祭壇に向かって叫んだ言葉を聞い
たとき、祭壇から手を伸ばして、「彼を捕らえよ！」と言った。彼に向かっ
て伸ばした彼の手は干からびて、彼はそれを自分のほうへ引き戻すことができ
なかった。
5 神の人が主の言葉によって与えたしるしにしたがって、祭壇は裂け、
灰は祭壇から注ぎ出された。
6 王は答えて神の人に言った。「どうか、あなたの神、主の恵みを求め、わ
たしの手が再び元通りになるように、わたしのために祈ってくれ。」
神の人が主に恵みを求めると、王の手は元通りになり、以前のようになった。
7 王は神の人に言った。「わたしと一緒に家に来て、休んで力をつけてく
れ。そうすれば、わたしはあなたに贈り物を与えよう。」
8 神の人は王に言った。「たとえあなたがあなたの家の半分をわたしに与え
ても、わたしはあなたと一緒には行きません。わたしはこの場所でパンを食べ
ず、水を飲むこともしません。
9 『パンを食べず、水を飲まず、来た道を帰ってはならない』と、主の言
葉によってわたしに命じられたからです。」
10 そこで彼は別の道から行き、ベテルに来た道を帰らなかった。
11 さて、ベテルには一人の年老いた預言者が住んでいた。その息子たちの一
人が来て、神の人がその日ベテルで行ったすべてのことを彼に告げた。
神の人が王に語った言葉も、彼らは父に告げた。
12 彼らの父は彼らに言った。「彼はどの道を行ってしまったのか。」彼の息
子たちは、ユダから来た神の人が行った道を見ていたからである。
13 彼は息子たちに言った。「わたしのためにろばに鞍を置いてくれ。」彼ら
が彼のためにろばに鞍を置くと、彼はそれに乗り、
14 神の人の後を追って行き、彼が樫の木の下に座っているのを見つけた。
彼は彼に言った。「あなたがユダから来た神の人ですか。」
彼は「わたしです」と言った。
15 そこで彼は彼に言った。「わたしと一緒に家に来て、パンを食べてくださ
い。」
16 彼は言った。「わたしはあなたとともに引き返し、あなたと一緒に行くこ
とはできません。またわたしはこの場所であなたとともにパンを食べず、
水を飲むこともしません。
17 主の言葉によってわたしに言われたからです。『あなたはそこでパン
を食べず、水を飲んではならない。来た道を引き返してはならない。』」

18 彼は言った。「わたしもあなたと同じ預言者です。そして御使いが主の言
葉によってわたしに語り、『彼をあなたの家に連れ帰り、パンを食べ、
水を飲ませよ』と言いました。」しかし、彼はその人に嘘をついていた。
19 そこで彼は彼とともに引き返し、彼の家でパンを食べ、水を飲んだ。
20 彼らが食卓に座っていたとき、彼を連れ帰った預言者に主の言葉が臨ん
だ。
21 彼はユダから来た神の人に向かって叫んで言った。「主はこう言われる。
『あなたは主の口の言葉に背き、あなたの神、主があなたに命じられた戒め
を守らず、
22 引き返して、「パンを食べず、水を飲んではならない」と彼があなた
に言われた場所でパンを食べ、水を飲んだので、あなたの死体はあなたの父
祖たちの墓に入らない。』」
23 彼がパンを食べ、水を飲んだ後、彼を連れ帰った預言者は、その人のため
にろばに鞍を置いた。
24 彼は去って行ったが、道で一頭の獅子に出くわし、殺された。彼の死
体は道に投げ捨てられ、ろばはそのそばに立っており、獅子も死体のそば
に立っていた。
25 見よ、人々が通りかかり、道に投げ捨てられた死体と、死体のそばに立っ
ている獅子を見た。彼らは来て、年老いた預言者が住んでいる町でそれを告げ
た。
26 彼を道から連れ帰った預言者がそれを聞いたとき、彼は言った。「それ
は、主の口の言葉に背いたあの神の人だ。それゆえ、主は彼を獅子に引き渡さ
れ、主が彼に語られた言葉のとおりに、獅子は彼を引き裂き、殺したのだ。」
27 彼は息子たちに語って、「わたしのためにろばに鞍を置いてくれ」と言っ
た。彼らは鞍を置いた。
28 彼は行って、その死体が道に投げ捨てられ、ろばと獅子が死体のそば
に立っているのを見つけた。獅子は死体を食べず、ろばを引き裂いてはいなか
った。
29 預言者は神の人の死体を取り上げ、それをろばに載せて持ち帰った。年
老いた預言者は彼のために泣き悲しみ、彼を葬るために町に来た。
30 彼はその死体を自分の墓に納めた。人々は彼のために、「ああ、わたし
の兄弟よ！」と言って泣き悲しんだ。
31 彼を葬った後、彼は息子たちに語って言った。「わたしが死んだら、
神の人が葬られた墓にわたしを葬り、わたしの骨を彼の骨のそばに置いてく
れ。
32 彼が主の言葉によって、ベテルにある祭壇に向かって、またサマリア
の町々にある高き所のすべての家々に向かって叫んだ言葉は、必ず成就するか
らだ。」
33 この事の後にも、ヤロブアムはその悪い道から立ち返らず、再びすべて
の民の中から高き所の祭司たちを任命した。彼はだれでも望む者を聖別し、そ
の者が高き所の祭司たちの一人となるようにした。
34 この事はヤロブアムの家にとって罪となり、それを地の面から絶ち、滅ぼ
すことになった。

14

1 そのころ、ヤロブアムの息子アビヤが病気になった。
2 ヤロブアムは妻に言った。「起きて変装し、ヤロブアムの妻だと知られな
いようにして、シロへ行きなさい。見よ、そこには預言者アヒヤがいる。
彼は、わたしがこの民の王になると語った者だ。
3 パン十個と、菓子と、はちみつの入った壺を手に持って、彼のところ
に行きなさい。彼はこの子どもに何が起こるかをあなたに告げるだろう。」

4 ヤロブアムの妻はそのようにして、立ち上がってシロへ行き、アヒヤ
の家に来た。さてアヒヤは、年老いて目がかすんでいたため、見ることができ
なかった。
5 主はアヒヤに言われた。「見よ、ヤロブアムの妻が、自分の息子について
あなたに尋ねるためにやって来る。彼は病気だからである。あなたは彼女にこ
れこれこのように言いなさい。彼女は入って来るとき、別の女のふりをするか
らである。」
6 彼女が戸口から入る足音をアヒヤが聞いたとき、彼は言った。「入りなさ
い、ヤロブアムの妻よ。なぜ別の女のふりをするのか。わたしは厳しい知らせ
を持ってあなたに遣わされた。
7 行って、ヤロブアムに告げよ。『イスラエルの神、主はこう言われる。
「わたしはあなたを民の中から引き上げ、わたしの民イスラエルの上の君主と
した。
8 わたしはダビデの家から王国を裂いてあなたに与えたが、あなたは、わた
しの戒めを守り、心を尽くしてわたしに従い、わたしの目に正しいことだけ
を行ったわたしのしもべダビデのようではなかった。
9 あなたは自分よりも前にいたすべての者よりも悪いことを行った。あなた
は自分のために他の神々や鋳造の像を造って、わたしを怒らせ、わたしをあな
たの背後に投げ捨てた。
10 それゆえ、見よ、わたしはヤロブアムの家にわざわいをもたらし、ヤロブ
アムから、イスラエルで壁に放尿する者*
をすべて断ち切る。奴隷であれ自由の身であれ断ち切る。糞が片づけられるよ
うに、すべてなくなるまでヤロブアムの家を完全に一掃する。
11 ヤロブアムに属する者で町で死ぬ者は犬が食い、
野で死ぬ者は空の鳥が食う。主がそう語られたからである。」』
12 だから、起きて自分の家へ帰りなさい。あなたの足が町に入るとき、そ
の子は死ぬ。
13 全イスラエルは彼のために泣き悲しみ、彼を葬る。ヤロブアム
の家の中で彼だけが墓に入る。ヤロブアムの家の中で、イスラエル
の神、主に向けて何か良いものが彼の中に見いだされたからである。
14 さらに、主はご自身のためにイスラエルを治める王を起こされる。そ
の王は、その日にヤロブアムの家を断ち切る。いや、今すでに！
15 主は水の中で葦が揺れるようにイスラエルを打ち、主が彼らの父祖たち
に与えられたこの良い地からイスラエルを根こぎにし、彼らを川†
の向こうに散らされる。彼らがアシェラ像を造って主を怒らせたからである。
16 彼はヤロブアムが犯した罪、またイスラエルに犯させた罪のゆえにイスラ
エルを引き渡される。」
17 ヤロブアムの妻は立ち上がって去り、ティルツァに来た。彼女が家の敷
居をまたぐと、子どもは死んだ。
18 全イスラエルは、主がそのしもべである預言者アヒヤを通して語られた言
葉のとおりに、彼を葬り、彼のために泣き悲しんだ。
19 ヤロブアムのその他の事績、彼がどのように戦い、どのように治めたか
は、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。
20 ヤロブアムが治めた日数は二十二年であった。彼は父祖たちとともに眠り
につき、その息子ナダブが彼に代わって王となった。
21 ソロモンの息子レハブアムはユダで王であった。レハブアムは王にな
り始めたとき四十一歳で、主がご自分の御名を置くためにイスラエルのすべて
の部族の中から選ばれた町エルサレムで、十七年間統治した。彼の母の名はナ
アマといい、アンモン人であった。

---

* **14:10 14:10** または、男子　† **14:15 14:15** すなわち、ユーフラテス川。

22 ユダは主の御目に悪であることを行い、彼らが犯した罪によって、父祖たちがしたすべてのこと以上に、主をねたませた。
23 彼らもまた、すべての高い丘の上と、すべての青々とした木の下に、自分たちのために高き所、石の柱、アシェラ像を建てたからである。
24 また、その地には神殿男娼もいた。人々は、主がイスラエルの子らの前から追い払われた国々の忌むべきことのすべてにしたがって行った。
25 レハブアム王の第五年に、エジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上って来た。
26 彼は主の家の財宝と、王の家の財宝を奪い去った。彼はすべてを奪い去り、ソロモンが造った金の盾もすべて奪い去った。
27 レハブアム王はその代わりに青銅の盾を造り、王の家の戸口を守る護衛兵の長たちの手に委ねた。
28 王が主の家へ行くたびに、護衛兵がそれらを持ち、その後、彼らはそれらを護衛兵の部屋に戻した。
29 レハブアムのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
30 レハブアムとヤロブアムの間には常に戦いがあった。
31 レハブアムは父祖たちとともに眠りにつき、ダビデの町で父祖たちとともに葬られた。彼の母の名はナアマといい、アンモン人であった。その息子アビヤムが彼に代わって王となった。

15

1 ネバテの息子ヤロブアム王の第十八年に、アビヤムはユダを治め始めた。
2 彼はエルサレムで三年間統治した。彼の母の名はマアカといい、アビシャロムの娘であった。
3 彼は自分の前に父が行ったすべての罪の中を歩んだ。彼の心は、彼の父ダビデの心のようには、彼の神、主に対して全きものではなかった。
4 それにもかかわらず、ダビデのゆえに、彼の神、主はエルサレムで彼にともしびを与え、彼の後にその息子を立ててエルサレムを確立された。
5 ダビデは主の御目に正しいことを行い、その生涯のすべての日々において、ヘテ人ウリヤの事のほかは、主が彼に命じられたすべてのことから逸れなかったからである。
6 レハブアムとヤロブアムの間には、彼の生涯のすべての日々において戦いがあった。
7 アビヤムのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。アビヤムとヤロブアムの間には戦いがあった。
8 アビヤムは父祖たちとともに眠りにつき、彼らは彼をダビデの町に葬った。そしてその息子アサが彼に代わって王となった。
9 イスラエルの王ヤロブアムの第二十年に、アサはユダを治め始めた。
10 彼はエルサレムで四十一年間統治した。彼の母の名はマアカといい、アビシャロムの娘であった。
11 アサは、彼の父ダビデが行ったように、主の御目に正しいことを行った。
12 彼はその地から神殿男娼を取り除き、父祖たちが造ったすべての偶像を取り除いた。
13 彼はまた、彼の母マアカがアシェラのために忌むべき像を造ったので、彼女を王母の位から退けた。アサは彼女の像を切り倒し、キデロンの川でそれを焼いた。
14 しかし高き所は取り除かれなかった。それにもかかわらず、アサの心はその生涯の間、主に対して全きものであった。

15 彼は彼の父が聖別したものと、彼自身が聖別したもの、すなわち銀、金、器を主の家に運び入れた。
16 アサとイスラエルの王バシャの間には、彼らの日々のすべてにおいて戦いがあった。
17 イスラエルの王バシャはユダに攻め上り、ユダの王アサのもとへ誰も出入りできないようにラマを建てた。
18 そこでアサは、主の家の宝物庫と王の家の宝物庫に残されていたすべての銀と金を取り、それらを自分のしもべたちの手に委ねた。そしてアサ王は彼らを、ダマスコに住むアラムの王、ヘジオンの息子タブリモンの息子ベン・ハダドに遣わして言った。
19 「わたしとあなた、わたしの父とあなたの父の間には契約があります。見よ、わたしはあなたに銀と金の贈り物をお送りします。行って、イスラエルの王バシャとの契約を破棄してください。彼がわたしから去って行くためです。」
20 ベン・ハダドはアサ王に聞き従い、自分の軍の長たちをイスラエルの町々に遣わした。彼らはイヨン、ダン、アベル・ベテ・マアカ、およびナフタリの全地とともにキネロテのすべてを打った。
21 バシャはそれを聞くと、ラマを建てるのをやめて、ティルツァに住んだ。
22 そこでアサ王は全ユダに布告を出した。免除される者は誰もいなかった。彼らはバシャが建てていたラマの石と木材を運び去り、アサ王はそれらでベニヤミンのゲバとミツパを建てた。
23 アサのその他のすべての事績、彼のすべての力、彼が行ったすべてのこと、彼が建てた町々は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。しかし彼は年老いたとき、足に病気を持った。
24 アサは父祖たちとともに眠りにつき、父ダビデの町に父祖たちとともに葬られた。そしてその息子ヨシャファテが彼に代わって王となった。
25 ユダの王アサの第二年に、ヤロブアムの息子ナダブがイスラエルを治め始めた。彼は二年間イスラエルを治めた。
26 彼は主の御目に悪であることを行い、彼の父の道と、イスラエルに罪を犯させた彼の罪の中を歩んだ。
27 イッサカルの家の、アヒヤの息子バシャは彼に対して陰謀を企てた。ナダブと全イスラエルはギベトンを包囲していたので、バシャはペリシテ人に属するギベトンで彼を打った。
28 ユダの王アサの第三年に、バシャは彼を殺し、彼に代わって王となった。
29 彼が王となるやいなや、彼はヤロブアムの全家を打った。主がそのしもべであるシロ人アヒヤを通して語られた言葉のとおりに、彼はヤロブアムに息のある者を一人も残さず、ついに彼を滅ぼした。
30 これはヤロブアムが犯した罪と、彼がイスラエルに犯させた罪のためであり、彼がイスラエルの神、主を怒らせたその挑発のためであった。
31 ナダブのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。
32 アサとイスラエルの王バシャの間には、彼らの日々のすべてにおいて戦いがあった。
33 ユダの王アサの第三年に、アヒヤの息子バシャはティルツァで全イスラエルを治め始め、二十四年間統治した。
34 彼は主の御目に悪であることを行い、ヤロブアムの道と、彼がイスラエルに罪を犯させた彼の罪の中を歩んだ。

16

1 主の言葉がハナニの息子イエフに、バシャに対して臨んで言った。

2 「わたしはあなたをちりの中から引き上げ、わたしの民イスラエル
の上の君主としたが、あなたはヤロブアムの道を歩み、わたしの民イスラエル
に罪を犯させ、彼らの罪によってわたしを怒らせた。
3 見よ、わたしはバシャとその家を完全に一掃し、あなたの家をネバテの息
子ヤロブアムの家のようにする。
4 バシャに属する者で町で死ぬ者は犬が食い、
野で死ぬ者は空の鳥が食う。」
5 バシャのその他の事績、彼が行ったこと、および彼の力は、イスラエル
の王たちの年代記の書に記されているではないか。
6 バシャは父祖たちとともに眠りにつき、ティルツァに葬られた。そしてそ
の息子エラが彼に代わって王となった。
7 さらに、預言者ハナニの息子イエフを通して、主の言葉がバシャとそ
の家に対して臨んだ。それは、彼がヤロブアムの家のようになり、自分の手の
わざによって主を怒らせた、主の御目でのすべての悪のためであり、また彼が
その家を打ったためであった。
8 ユダの王アサの第二十六年に、バシャの息子エラがティルツァでイスラエ
ルを治め始め、二年間統治した。
9 彼の戦車の半分の長である、彼のしもべジムリは彼に対して陰謀を企て
た。さて、エラはティルツァにおり、ティルツァの家を管理するアルツァ
の家で飲んで酔っていた。
10 ユダの王アサの第二十七年に、ジムリは入って来て彼を打ち殺し、
彼に代わって王となった。
11 彼が治め始め、その王座に座るやいなや、彼はバシャの全家を打った。
彼は壁に放尿する者* を一人も残さず、親族も友人も残さなかった。
12 このようにして、主が預言者イエフを通してバシャに対して語られた言
葉のとおりに、ジムリはバシャの全家を滅ぼした。
13 これはバシャのすべての罪と、その息子エラの罪のためであり、彼ら
が罪を犯し、彼らがイスラエルに罪を犯させ、彼らのむなしい偶像によってイ
スラエルの神、主を怒らせたためであった。
14 エラのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、イスラエルの王たち
の年代記の書に記されているではないか。
15 ユダの王アサの第二十七年に、ジムリはティルツァで七日間統治した。さ
て、民はペリシテ人に属するギベトンに対して陣を敷いていた。
16 陣を敷いていた民は、「ジムリが陰謀を企て、また王を打った」ということ
を聞いた。それゆえ、全イスラエルはその日、陣営の中で軍の長オムリをイ
スラエルの上の王とした。
17 オムリと彼とともにいた全イスラエルはギベトンから上って行き、ティル
ツァを包囲した。
18 ジムリは町が攻め取られたのを見ると、王の家の城郭に入り、自分ご
と王の家を火で焼いて死んだ。
19 これは、彼が主の御目に悪であることを行い、ヤロブアムの道を歩み、
彼が行った罪によってイスラエルに罪を犯させた、彼の罪のためであった。
20 ジムリのその他の事績と、彼が企てた反逆は、イスラエルの王たちの年代
記の書に記されているではないか。
21 その時、イスラエルの民は二つに分かれた。民の半分はギナテの息子ティ
ブニに従って彼を王としようとし、半分はオムリに従った。
22 しかし、オムリに従った民は、ギナテの息子ティブニに従っ
た民に打ち勝った。こうしてティブニは死に、オムリが王となった。

* **16:11 16:11** または、男子

23 ユダの王アサの第三十一年に、オムリはイスラエルを治め始め、十二年間
統治した。彼はティルツァで六年間治めた。
24 彼はシェメルからサマリアの丘を銀二タラント†
で買い取った。彼はその丘の上に町を建て、丘の所有者シェメルの名にちなん
で、その建てた町の名をサマリアと呼んだ。
25 オムリは主の御目に悪であることを行い、彼より前にいたすべての者より
も悪を行って彼らをしのいだ。
26 彼はネバテの息子ヤロブアムのすべての道と、彼がイスラエルに罪を犯さ
せた彼の罪の中を歩み、彼らのむなしい偶像によってイスラエル
の神、主を怒らせたからである。
27 オムリが行ったその他の事績と、彼が示した力は、イスラエルの王たち
の年代記の書に記されているではないか。
28 オムリは父祖たちとともに眠りにつき、サマリアに葬られた。そしてそ
の息子アハブが彼に代わって王となった。
29 ユダの王アサの第三十八年に、オムリの息子アハブがイスラエル
を治め始めた。オムリの息子アハブはサマリアで二十二年間イスラエルを治め
た。
30 オムリの息子アハブは、彼より前にいたすべての者よりも主の御目に悪で
あることを行って彼らをしのいだ。
31 彼にとってネバテの息子ヤロブアムの罪の中を歩むことが軽いことである
かのように、彼はシドン人の王エトバアルの娘イゼベルを妻としてめとり、
行ってバアルに仕え、彼を拝んだ。
32 彼はサマリアに建てたバアルの家の中に、バアルのための祭壇を築いた。
33 アハブはアシェラ像を造った。アハブは、彼より前にいたイスラエルのす
べての王たちにも増して、イスラエルの神、主を怒らせることを行った。
34 彼の時代に、ベテル人ヒエルがエリコを建てた。彼は長子アビラムを失っ
てその基を据え、末の子セグブを失ってその門を立てた。これは主がヌン
の子ヨシュアを通して語られた言葉のとおりであった。

17

1 ギレアデに住むティシュベ人エリヤはアハブに言った。「わたしがその御
前に立っているイスラエルの神、主は生きておられる。わたしの言葉によらな
ければ、これからの数年間、露も雨も降らないであろう。」
2 主の言葉が彼に臨んで言った。
3 「ここから去り、東へ向かい、ヨルダンの前にあるケリテの川のそば
に身を隠しなさい。
4 あなたはその川から飲むであろう。わたしはからすたちに、そこであなた
を養うように命じた。」
5 そこで彼は行って、主の言葉にしたがった。彼はヨルダンの前にあるケリ
テの川のそばに行って住んだ。
6 からすたちが朝にパンと肉を彼に運び、夕にもパンと肉を運び、彼は川か
ら飲んだ。
7 その地に雨が降らなかったため、しばらくしてその川は干上がった。
8 主の言葉が彼に臨んで言った。
9 「起きて、シドンに属するツァレファテへ行き、そこにとどまりなさい。
見よ、わたしはそこの一人のやもめに命じて、あなたを養うようにした。」
10 そこで彼は起きてツァレファテへ行った。彼が町の門に来ると、見よ、一
人のやもめがそこで薪を拾い集めていた。彼は彼女を呼んで言った。「どう
か、わたしが飲めるように、水差しに少し水を持ってきてください。」

† **16:24 16:24** ―タラントは約30キログラム、または66ポンドである。

11 彼女がそれを取りに行こうとすると、彼は彼女を呼んで言った。「どうか、あなたの手に一片のパンを持ってきてください。」
12 彼女は言った。「あなたの神、主は生きておられます。わたしには焼いたパンはなく、かめの中に一握りの粉と、壺の中に少しの油があるだけです。見よ、わたしは二本の薪を拾い集め、家に入って、わたしと息子のためにそれを調理しようとしています。それを食べて、死ぬためです。」
13 エリヤは彼女に言った。「恐れることはない。行って、あなたの言ったとおりにしなさい。しかし、まずその粉でわたしのために小さなパンを作り、それをわたしのところに持ってきなさい。その後で、あなたとあなたの息子のために作りなさい。
14 イスラエルの神、主はこう言われるからである。『主が地の面に雨を降らせる日まで、かめの粉は尽きず、壺の油はなくならない。』」
15 彼女は行って、エリヤの言葉のとおりにした。彼女とエリヤと彼女の家族は、幾日も食べた。
16 主がエリヤを通して語られた言葉のとおりに、かめの粉は尽きず、壺の油はなくならなかった。
17 これらのことの後、その家の女主人である女の息子が病気になった。その病気は非常に重く、彼の中に息が残らなくなった。
18 彼女はエリヤに言った。「神の人よ、わたしはあなたと何のかかわりがあるのでしょうか。あなたはわたしの罪を思い出させ、わたしの息子を殺すためにわたしのところに来たのですか！」
19 彼は彼女に言った。「あなたの息子をわたしに渡しなさい。」彼は彼女のふところから息子を受け取り、自分が滞在していた屋上の部屋に運び上げ、自分の寝台に寝かせた。
20 彼は主に叫んで言った。「わたしの神、主よ。あなたは、わたしが滞在しているこのやもめにまで、彼女の息子を殺すというわざわいをもたらされたのですか。」
21 彼はその子どもの上に三度身を伸ばし、主に叫んで言った。「わたしの神、主よ、どうか、この子どもの魂が再び彼の中に戻ってきますように。」
22 主はエリヤの声に聞き従われ、子どもの魂は再び彼の中に戻り、彼は生き返った。
23 エリヤは子どもを取り、部屋から家の中へ連れ下りて、彼をその母に引き渡した。そしてエリヤは、「見よ、あなたの息子は生きている」と言った。
24 女はエリヤに言った。「今、わたしはあなたが神の人であり、あなたの口にある主の言葉が真理であることを知りました。」

18

1 多くの日々の後、三年目に、主の言葉がエリヤに臨んで言った。「行って、アハブに姿を見せなさい。わたしは地の面に雨を降らせる。」
2 エリヤはアハブに姿を見せるために行った。

サマリアでは、ききんが激しかった。

3 アハブは宮廷を管理していたオバデヤを呼んだ（さて、オバデヤは主を大いに恐れていた。
4 イゼベルが主の預言者たちを断ち切ったとき、オバデヤは百人の預言者たちを取り、彼らを五十人ずつほら穴に隠し、パンと水で彼らを養ったのである）。
5 アハブはオバデヤに言った。「この地のすべての水の泉と、すべての谷川を巡りなさい。もしかすると草が見つかり、馬と騾馬を生き延びさせ、動物を失わずにすむかもしれない。」

6 そこで彼らは、巡る地域を二人で分けた。アハブは一人で一つ
の道を行き、オバデヤは一人でもう一つの道を行った。
7 オバデヤが道にいたとき、見よ、エリヤが彼に出会った。彼はエリヤだと
わかると、地に顔を伏せて言った。「あなたは、わが主君エリヤではありませ
んか。」
8 彼は答えた。「わたしだ。行って、あなたの主君に『見よ、エリヤがここ
にいる』と告げなさい。」
9 彼は言った。「わたしがどんな罪を犯したというので、あなたはあなたの
しもべをアハブの手に引き渡して、わたしを殺そうとされるのですか。
10 あなたの神、主は生きておられます。わたしの主君があなたを探すため
に人を遣わさなかった国や王国はありません。彼らが『彼はここにいな
い』と言うと、彼はその王国や国に、あなたが見つからなかったという誓い
を立てさせました。
11 今、あなたは『行って、あなたの主君に「見よ、エリヤがここにい
る」と告げよ』と言われます。
12 わたしがあなたから離れるとすぐに、主の霊があなたをわたしの知らな
い所へ運んで行くでしょう。そしてわたしが来てアハブに告げ、彼があなた
を見つけられなければ、彼はわたしを殺すでしょう。しかし、あなたのしもべ
であるわたしは、若いころから主を恐れてきました。
13 イゼベルが主の預言者たちを殺したとき、わたしがしたこと、すなわ
ち、わたしが主の預言者たちのうち百人の男たちを五十人ずつほ
ら穴に隠し、パンと水で彼らを養ったことが、わが主君に告げられていなかっ
たのでしょうか。
14 今、あなたは『行って、あなたの主君に「見よ、エリヤがここにい
る」と告げよ』と言われます。彼はわたしを殺すでしょう。」
15 エリヤは言った。「わたしがその御前に立っている万軍の主は生きておら
れる。わたしは今日、必ず彼に姿を見せる。」
16 そこでオバデヤはアハブに会いに行き、彼に告げた。アハブはエリヤ
に会いに行った。
17 アハブはエリヤを見たとき、彼に言った。「それはあなたか。イスラエル
を煩わす者よ。」
18 彼は答えた。「わたしがイスラエルを煩わしたのではなく、あなたとあな
たの父の家です。あなたがたが主の戒めを捨て、バアルたちに従って行ったか
らです。
19 ですから今、人を遣わし、全イスラエルをカルメル山に、わたしのところ
に集めてください。また、イゼベルの食卓で食べる四百五十人のバアルの預言
者たちと、四百人のアシェラの預言者たちもです。」
20 そこでアハブはイスラエルのすべての子らに人を遣わし、預言者たちをカ
ルメル山に集めた。
21 エリヤはすべての民に近づいて言った。「あなたがたはいつまで二つの立
場の間で揺れ動いているのか。もし主が神であるなら、彼に従いなさい。しか
し、もしバアルであるなら、彼に従いなさい。」
民は彼にひと言も答えなかった。
22 そこでエリヤは民に言った。「わたし、ただわたし一人だけが主の預言
者として残された。しかし、バアルの預言者たちは四百五十人いる。
23 だから、われわれに二頭の牛を与えてほしい。彼らに自分のために一
頭の牛を選ばせ、それを切り分けて木の上に載せさせよ。しかし、そ
の下に火を置いてはならない。わたしはもう一頭の牛を整えて木の上に載せる
が、その下に火を置くことはしない。
24 あなたがたは自分たちの神の名を呼べ。わたしは主の御名を呼ぶ。火をも
って答える神、その方を神とせよ。」
すべての民は答えて、「あなたの言うことは良い」と言った。

25 エリヤはバアルの預言者たちに言った。「あなたがたは自分たちのために一頭の牛を選び、まずそれを整えなさい。あなたがたは数が多いからだ。そしてあなたがたの神の名を呼べ。しかし、下に火を置いてはならない。」
26 彼らは自分たちに与えられた牛を取り、それを整え、朝から真昼まで「バアルよ、われわれの声を聞いてください！」と言ってバアルの名を呼んだ。しかし声はなく、答える者もいなかった。彼らは築かれた祭壇の周りを跳ね回った。
27 真昼になると、エリヤは彼らをあざけって言った。「大声で叫べ。彼は神なのだから。彼は思いふけっているのか、それとも席を外しているのか、それとも旅に出ているのか。もしかすると彼は眠っていて、起こされなければならないのかもしれない。」
28 彼らは大声で叫び、彼らのやり方に従って、彼らの上に血が噴き出すまで短剣と槍で自分たちの体を切り裂いた。
29 昼が過ぎても、彼らは夕暮れのささげ物をささげる時まで預言し続けた。しかし声はなく、答える者もなく、注意を払う者もいなかった。
30 エリヤはすべての民に言った。「わたしのところに近づきなさい。」すべての民は彼に近づいた。彼は打ち壊されていた主の祭壇を修復した。
31 エリヤは、主の言葉が臨んで「あなたの名はイスラエルとなる」と言われたヤコブの息子たちの部族の数にしたがって、十二の石を取った。
32 彼はその石で主の御名によって祭壇を築いた。彼は祭壇の周りに、二セア* 分の種が入るほどの溝を掘った。
33 彼は木を並べ、牛を切り分けて木の上に載せた。彼は言った。「四つの壺に水を満たし、全焼のささげ物と木の上に注げ。」
34 彼は言った。「二度目を行え。」彼らは二度目を行った。彼は言った。「三度目を行え。」彼らは三度目を行った。
35 水は祭壇の周りを流れ、彼は溝にも水を満たした。
36 夕暮れのささげ物をささげる時になって、預言者エリヤは近づいて言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、わたしがあなたのしもべであり、わたしがあなたの言葉によってこれらすべてのことを行ったということが、今日知られますように。
37 わたしに答えてください、主よ、わたしに答えてください。この民が、主よ、あなたが神であり、あなたが彼らの心を再び立ち返らせてくださったことを知るためです。」
38 すると主の火が降って、全焼のささげ物と、木と、石と、ちりを食い尽くし、溝にあった水をなめ尽くした。
39 すべての民はそれを見たとき、地に顔を伏せた。彼らは言った。「主こそ神である！ 主こそ神である！」
40 エリヤは彼らに言った。「バアルの預言者たちを捕らえよ！ 彼らを一人も逃がしてはならない！」彼らが彼らを捕らえると、エリヤは彼らをキション川に連れ下り、そこで彼らを殺した。
41 エリヤはアハブに言った。「起きて、飲み食いしなさい。激しい雨の音がするからだ。」
42 そこでアハブは飲み食いするために上って行った。エリヤはカルメルの頂に上り、地に身をかがめ、顔をひざの間にうずめた。
43 彼は自分のしもべに言った。「今、上って行き、海の方を見なさい。」
彼は上って行き、見て、言った。「何もありません。」
彼は言った。「もう一度行きなさい。」それを七度繰り返した。
44 七度目に彼は言った。「見よ、人の手のような小さな雲が海から上って来ます。」

* **18:32 18:32** ―セアは約7リットル、または1.9ガロン、あるいは0.8ペックである。

彼は言った。「上って行き、アハブに『雨があなたを妨げないように、支度をして下って行きなさい』と告げよ。」
45 しばらくすると、空は雲と風で黒くなり、大雨となった。アハブは戦車に乗ってエズレルへ行った。
46 主の御手がエリヤの上にあり、彼は上着を帯に挟み、アハブの前を走ってエズレルの入り口まで行った。

19

1 アハブは、エリヤがしたすべてのこと、また彼が預言者たちをみな剣で殺した次第をイゼベルに告げた。
2 するとイゼベルはエリヤに使者を遣わして言った。「もしわたしが明日の今ごろまでに、あなたの命をあの者たちの一人の命のようにしなければ、神々がわたしにそのように行い、さらに増し加えられるように！」
3 彼はそれを見て、自分の命のために立ち上がって逃げ、ユダに属するベエルシェバに来て、そこに自分のしもべを残した。
4 しかし彼自身は荒野へ一日の道のりを行き、一本のえにしだの木の下に来て座った。彼は自分が死ぬことを願い求めて言った。「もう十分です。今、主よ、わたしの命を取ってください。わたしは父祖たちに勝る者ではないからです。」
5 彼はえにしだの木の下に横たわって眠った。すると見よ、御使いが彼に触れて、「起きて食べなさい！」と彼に言った。
6 彼が見ると、見よ、彼の頭のそばには炭火で焼いたパンと、水の壺があった。彼は食べて飲み、再び横たわった。
7 主の御使いが二度目に再び来て、彼に触れて言った。「起きて食べなさい。道のりがあなたには長すぎるからだ。」
8 彼は起きて、飲み食いし、その食べ物の力で四十日四十夜歩いて、神の山ホレブに行った。
9 彼はそこにあるほら穴に来て、そこで泊まった。すると見よ、主の言葉が彼に臨んで、彼に言った。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」
10 彼は言った。「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でした。イスラエルの子らはあなたの契約を捨て、あなたの祭壇を打ち壊し、あなたの預言者たちを剣で殺したからです。わたし、ただわたし一人だけが残り、彼らはわたしの命を取ろうと狙っています。」
11 彼は言った。「外に出て、主の前の山の上に立ちなさい。」
見よ、主が通り過ぎられ、主の前に大いに強い風が山々を裂き、岩を打ち砕いたが、主はその風の中にはおられなかった。風の後に地震があったが、主は地震の中にもおられなかった。
12 地震の後に火があったが、主は火の中にもおられなかった。火の後に、静かな細い声があった。
13 エリヤはそれを聞くと、外套で顔を覆い、外に出て、ほら穴の入り口に立った。見よ、声が彼に臨んで言った。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」
14 彼は言った。「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でした。イスラエルの子らはあなたの契約を捨て、あなたの祭壇を打ち壊し、あなたの預言者たちを剣で殺したからです。わたし、ただわたし一人だけが残り、彼らはわたしの命を取ろうと狙っています。」
15 主は彼に言われた。「行って、ダマスコの荒野への道を帰りなさい。あなたが着いたなら、ハザエルに油を注いでアラムの上の王としなさい。
16 また、ニムシの息子イエフに油を注いでイスラエルの上の王としなさい。そして、アベル・メホラ出身のシャファテの息子エリシャに油を注いで、あなたの代わりに預言者としなさい。

17 ハザエルの剣から逃れる者をイエフが殺し、イエフの剣から逃れる者をエリシャが殺すであろう。
18 しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残した。そのひざは皆バアルにかがまず、その口は皆彼に口づけしなかった。」
19 そこで彼はそこから出発し、十二くびきの牛を前にしてすきを引いている、シャファテの息子エリシャを見つけた。エリシャ自身は十二番目のくびきとともにいた。エリヤは彼のところに渡って行き、自分の外套を彼に投げかけた。
20 彼は牛を置いてエリヤの後に走り、「どうか、わたしの父と母に口づけさせてください。それからあなたに従います」と言った。
彼は彼に言った。「帰りなさい。わたしがあなたに何をしたというのか。」
21 彼はエリヤの後を追うのをやめて戻り、一くびきの牛を取ってほふり、牛の用具でその肉を煮て、それを民に与えた。彼らは食べた。それから彼は立ち上がってエリヤの後に行き、彼に仕えた。

20

1 アラムの王ベン・ハダドはその全軍勢を集めた。彼とともに三十二人の王たちがおり、馬と戦車があった。彼は上って行ってサマリアを包囲し、それと戦った。
2 彼は町の中にいるイスラエルの王アハブに使者たちを遣わし、彼に言った。「ベン・ハダドはこう言う。
3 『あなたの銀とあなたの金はわたしのものだ。あなたの妻たちとあなたの子らも、その最も良い者はわたしのものだ。』」
4 イスラエルの王は答えた。「わが君、王よ、あなたの言葉のとおりです。わたしも、わたしのすべてのものも、あなたのものです。」
5 使者たちは再び来て言った。「ベン・ハダドはこう言う。『わたしはあなたに人を遣わして、「あなたは自分の銀と金、妻たちと子らをわたしに引き渡さなければならない。
6 わたしは明日の今ごろ、わたしのしもべたちをあなたのところに遣わす。彼らはあなたの家とあなたのしもべたちの家を捜し、あなたの目に好ましいものは何でも彼らの手に取って持ち去るだろう」と言った。』」
7 そこでイスラエルの王はその地のすべての長老たちを呼んで言った。「どうか、この男がどのようにわざわいを求めているかに気づいてください。彼がわたしの妻たち、わたしの子ら、わたしの銀、わたしの金のために人を遣わしたとき、わたしは彼を拒まなかったからです。」
8 すべての長老たちとすべての民は彼に言った。「耳を傾けてはなりません。承諾してもなりません。」
9 それゆえ、彼はベン・ハダドの使者たちに言った。「わが君、王に告げよ。『あなたが最初にあなたのしもべに求めたことはすべて行いますが、この事は行うことができません。』」使者たちは去って行き、彼に再び言葉を持ち帰った。
10 ベン・ハダドは彼に人を遣わして言った。「もしサマリアのちりが、わたしに従うすべての民の手に満ちるほどあるなら、神々がわたしにそのように行い、さらに増し加えられるように。」
11 イスラエルの王は答えた。「彼に告げよ。『武具を着ける者が、それを脱ぐ者のように誇ってはならない。』」
12 ベン・ハダドは、王たちとともに天幕の中で飲んでいたときにこの知らせを聞くと、自分のしもべたちに「陣を敷け！」と言った。彼らは町に対して陣を敷いた。
13 見よ、一人の預言者がイスラエルの王アハブに近づいて言った。「主はこう言われる。『あなたはこのすべての大群衆を見たか。見よ、わたしは今日、

それをあなたの手に引き渡す。そうして、あなたはわたしが主であることを知るであろう。』」
14 アハブは言った。「だれによってですか。」
彼は言った。「主はこう言われる。『諸州の君主たちに仕える若者たちによってである。』」
それから彼は言った。「だれが戦いを始めるのですか。」
彼は答えた。「あなたです。」
15 そこで彼は諸州の君主たちに仕える若者たちを召集した。彼らは二百三十二人であった。彼らの後で、彼はすべての民、すなわちイスラエルのすべての子らを召集し、それは七千人であった。
16 彼らは真昼に出て行った。しかしベン・ハダドは、彼と王たち、すなわち彼を助ける三十二人の王たちとともに天幕の中で酔いつぶれていた。
17 諸州の君主たちに仕える若者たちが最初に出て行った。ベン・ハダドは人を遣わし、彼らは彼に「男たちがサマリアから出て来ます」と告げた。
18 彼は言った。「もし彼らが平和のために出て来たなら、彼らを生けどりにせよ。もし彼らが戦いのために出て来たとしても、彼らを生けどりにせよ。」
19 こうして彼ら、すなわち諸州の君主たちに仕える若者たちと、彼らに従う軍勢が町から出て行った。
20 彼らはそれぞれ自分に向かってくる者を殺した。アラム人は逃げ、イスラエルは彼らを追った。アラムの王ベン・ハダドは騎兵とともに馬で逃れた。
21 イスラエルの王は出て行き、馬と戦車を打ち、アラム人を大殺戮をもって殺した。
22 その預言者がイスラエルの王に近づいて彼に言った。「行って、自らを強め、何をすべきかよく考え、備えなさい。年が改まると、アラムの王があなたに攻め上って来るからです。」
23 アラムの王のしもべたちは彼に言った。「彼らの神は丘の神です。それゆえ、彼らはわれわれよりも強かったのです。しかし、われわれが平野で彼らと戦えば、われわれは必ず彼らよりも強くなります。
24 この事を行ってください。王たちを皆その地位から除き、彼らの代わりに隊長たちを就かせてください。
25 そして、あなたが失った軍勢と同数の軍勢を、馬には馬、戦車には戦車として召集してください。われわれが平野で彼らと戦えば、われわれは必ず彼らよりも強くなります。」
彼は彼らの声に聞き従い、そのように行った。
26 年が改まると、ベン・ハダドはアラム人を召集し、イスラエルと戦うためにアフェクへ上って行った。
27 イスラエルの子らも召集され、食糧を備えて、彼らに立ち向かって行った。イスラエルの子らは子やぎの二つの小さな群れのように彼らの前に陣を敷いたが、アラム人はその地を満たしていた。
28 神の人が近づいてイスラエルの王に語って言った。「主はこう言われる。『アラム人が、「主は丘の神であり、谷の神ではない」と言ったので、わたしはこのすべての大群衆をあなたの手に引き渡す。そうして、あなたがたはわたしが主であることを知るであろう。』」
29 彼らは互いに向かい合って七日間陣を敷いた。そして七日目に戦いが交えられ、イスラエルの子らは一日にしてアラム人の歩兵十万人を殺した。
30 しかし残りの者はアフェクの町の中に逃げ込んだが、残されていた二万七千人の男たちの上に城壁が倒れ落ちた。ベン・ハダドは逃げて、町の中の奥の部屋に入った。
31 彼のしもべたちは彼に言った。「見よ、われわれはイスラエルの家の王たちが、あわれみ深い王たちであると聞いています。どうか、われわれの体に粗布をまとい、頭に縄を巻いて、イスラエルの王のところに出て行かせてください。もしかすると彼はあなたの命を救ってくれるかもしれません。」

32 そこで彼らは体に粗布をまとい、頭に縄を巻いてイスラエルの王のところに来て言った。「あなたのしもべベン・ハダドは、『どうか、わたしを生かしてください』と言っています。」
彼は言った。「彼はまだ生きているのか。彼はわたしの兄弟だ。」
33 さて、その男たちは注意深く様子をうかがい、急いでその言葉をとらえて言った。「あなたの兄弟ベン・ハダドです。」
すると彼は言った。「行って、彼を連れて来なさい。」
そこでベン・ハダドは彼のところに出て来たので、彼は彼を戦車に上らせた。
34 ベン・ハダドは彼に言った。「わたしの父があなたの父から奪った町々を、わたしは返還します。わたしの父がサマリアに造ったように、あなたはダマスコに自分のための通りを造りなさい。」
アハブは「わたしはこの契約をもってあなたを行かせよう」と言った。こうして彼は彼と契約を結び、彼を行かせた。
35 預言者の子らのある男が、主の言葉によって自分の仲間に言った。「どうか、わたしを打ってくれ！」
その男は彼を打つことを拒んだ。
36 そこで彼は彼に言った。「あなたが主の声に聞き従わなかったので、見よ、あなたがわたしから去るとすぐに、獅子があなたを殺すだろう。」
彼が彼から去るとすぐに、獅子が彼を見つけて殺した。
37 それから彼は別の男を見つけて、「どうか、わたしを打ってくれ」と言った。
その男は彼を打ち、打って彼を傷つけた。
38 そこで預言者は去って行き、頭帯を目の上に巻いて変装し、道端で王を待った。
39 王が通り過ぎたとき、彼は王に向かって叫び、言った。「あなたのしもべは戦いの真っただ中に出て行きました。すると見よ、一人の男がわきにそれて、わたしのもとに一人の男を連れて来て言いました。『この男を見張れ！もし何らかの理由で彼がいなくなれば、あなたの命が彼の命の代わりとなるか、あるいはあなたが銀一タラント* を払わなければならない。』
40 あなたのしもべがあちこちで忙しくしているうちに、彼はいなくなってしまいました。」
イスラエルの王は彼に言った。「あなたのさばきはそのようになる。あなた自身がそれを決めたのだ。」
41 彼は急いで目から頭飾りを取り去った。イスラエルの王は、彼が預言者の一人であることに気づいた。
42 彼は彼に言った。「主はこう言われる。『わたしが滅びのためにささげた男を、あなたの手から逃がしたので、あなたの命は彼の命の代わりとなり、あなたの民は彼の民の代わりとなる。』」
43 イスラエルの王は不機嫌に怒って自分の家に向かい、サマリアに来た。

21

1 これらの事の後、イズレエル人ナボテにはイズレエルにぶどう畑があった。それはサマリアの王アハブの宮殿のそばにあった。
2 アハブはナボテに語って言った。「あなたのぶどう畑をわたしに譲ってくれ。野菜畑にしたい。わたしの家のすぐそばにあるからだ。その代わりに、わたしはあなたにもっと良いぶどう畑を与えよう。もしあなたが望むなら、その価値に見合うだけの銀を支払おう。」
3 ナボテはアハブに言った。「わたしが自分の父祖の相続地をあなたに与えることを、主が禁じてくださいますように。」

* **20:39 20:39** 一タラントは約30キログラム、または66ポンドである。

4 アハブは、「わたしの父祖の相続地をあなたには与えない」と言ったナボテの言葉ゆえに、不機嫌で憤って家に帰った。彼は寝台に横になり、顔を背け、パンを食べようとはしなかった。
5 彼の妻イゼベルが彼のもとに来て、彼に言った。「なぜあなたの心はそれほど不機嫌で、パンを食べようとしないのですか。」
6 彼は彼女に言った。「わたしがイズレエル人ナボテに、『あなたのぶどう畑を金で譲ってくれ。あるいは、もし望むなら、その代わりに別のぶどう畑をやろう』と言ったからだ。しかし彼は、『わたしのぶどう畑をあなたには与えない』と言った。」
7 彼の妻イゼベルは彼に言った。「あなたは今、イスラエルの王国を支配しているのですか。起きてパンを食べ、心を明るくしなさい。わたしがイズレエル人ナボテのぶどう畑をあなたに与えます。」
8 そこで彼女はアハブの名で手紙を書き、彼の印を押して封をし、ナボテの町に住む長老たちと貴族たちにその手紙を送った。
9 彼女はその手紙の中にこう書いた。「断食を布告し、ナボテを民の頭に座らせよ。
10 そして二人のならず者を彼の前に座らせ、彼らにこう証言させよ。『あなたは神と王を呪った。』それから彼を外に連れ出し、石で打って殺せ。」
11 彼の町に住む人々、すなわち彼の町の長老たちと貴族たちは、イゼベルが送った手紙に書かれていたとおりに行った。彼女が彼らに送った手紙に記されていたとおりにしたのである。
12 彼らは断食を布告し、ナボテを民の頭に座らせた。
13 二人のならず者が入って来て、彼の前に座った。ならず者たちは民の前でナボテに対して証言し、「ナボテは神と王を呪った」と言った。そこで彼らは彼を町の外に連れ出し、石で打って殺した。
14 それから彼らはイゼベルに人を遣わして、「ナボテは石で打たれて死にました」と告げた。
15 イゼベルはナボテが石で打たれて死んだことを聞くと、アハブに言った。「起きて、イズレエル人ナボテがあなたに金で売ることを拒んだぶどう畑を所有しなさい。ナボテは生きてはおらず、死んだからです。」
16 アハブはナボテが死んだことを聞くと、起きてイズレエル人ナボテのぶどう畑を所有するために下って行った。
17 主の言葉がティシュベ人エリヤに臨んで言った。
18 「起きて、サマリアにいるイスラエルの王アハブに会いに行きなさい。見よ、彼はナボテのぶどう畑を所有するために、そこにいる。彼はそれを所有しに下って行った。
19 あなたは彼にこう語りなさい。『主はこう言われる。「あなたは殺したうえに、所有までしようとするのか。」』また彼にこう言いなさい。『主はこう言われる。「犬がナボテの血をなめたその場所で、犬はあなたの血、あなた自身の血をもなめる。」』」
20 アハブはエリヤに言った。「わたしの敵よ、あなたはわたしを見つけたのか。」
彼は答えた。「見つけました。あなたが主の御目に悪であることを行うために自分を売ったからです。
21 見よ、わたしはあなたにわざわいをもたらし、あなたを一掃する。わたしはアハブから、壁に向かって放尿する者*、またイスラエルにいる閉じ込められた者も、自由に残された者も断ち切る。
22 わたしはあなたの家をネバテの息子ヤロブアムの家のようにし、アヒヤの息子バアシャの家のようにする。あなたがわたしを怒らせ、イスラエルに罪を犯させたからである。

* **21:21 21:21** または、男子

23 主はイゼベルについても言われた。『犬がイズレエルの城壁のそばでイゼベルを食うであろう。』
24 アハブに属する者で町で死ぬ者は犬が食い、
野で死ぬ者は空の鳥が食う。」
25 （実際、妻イゼベルにそそのかされて、主の御目に悪であることを行うために自分を売ったアハブのような者は一人もいなかった。
26 彼は主がイスラエルの子らの前から追い払ったアモリ人が行ったすべてのことと同じように、偶像に従って非常に忌むべきことを行った。）
27 アハブがこれらの言葉を聞いたとき、彼は自分の服を引き裂き、粗布を体にまとい、断食し、粗布の中で寝て、うなだれて歩いた。
28 主の言葉がティシュベ人エリヤに臨んで言った。
29「アハブがわたしの前に自分を低くしたのを見たか。彼がわたしの前に自分を低くしたので、わたしは彼の生きている間にはわざわいをもたらさない。彼の息子の時代に、彼の家へわざわいをもたらす。」

22

1 アラムとイスラエルの間に戦いのないまま、三年が過ぎた。
2 三年目に、ユダの王ヨシャファテがイスラエルの王のもとに下って来た。
3 イスラエルの王はしもべたちに言った。「ラモテ・ギレアデがわれわれのものであることを、あなたがたは知らないのか。それなのに、われわれはアラムの王の手からそれを奪い返さずに、黙っているのか。」
4 彼はヨシャファテに言った。「わたしと一緒にラモテ・ギレアデへ戦いに行くか。」
ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「わたしもあなたも、わたしの民もあなたの民も、馬もあなたの馬も同じです。」
5 ヨシャファテはさらにイスラエルの王に言った。「どうか、まず主の言葉を伺ってください。」
6 そこでイスラエルの王は約四百人の預言者を集め、彼らに言った。「わたしはラモテ・ギレアデへ戦いに行くべきか、それともやめるべきか。」
彼らは言った。「上って行きなさい。主がそれを王の手に引き渡されます。」
7 ヨシャファテは言った。「ここには、われわれが伺いを立てることができるような主の預言者が、まだだれかいないのでしょうか。」
8 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「まだ一人の男がいますが、彼を通して主に伺いを立てることができます。イムラの息子ミカヤという者です。しかし、わたしは彼を憎んでいます。彼はわたしについて良いことは預言せず、悪いことだけを預言するからです。」
ヨシャファテは言った。「王よ、そのようなことを言わないでください。」
9 そこでイスラエルの王は一人の役人を呼び、「イムラの息子ミカヤを急いで連れて来い」と言った。
10 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、それぞれ王服を着て、サマリアの門の入り口にある広場で、王座に座っていた。すべての預言者が彼らの前で預言していた。
11 ケナアナの息子ゼデキヤは自分のために鉄の角を造り、言った。「主はこう言われます。『これをもって、あなたはアラム人を突き刺し、ついに彼らを滅ぼすであろう。』」
12 すべての預言者たちも同じように預言して言った。「ラモテ・ギレアデへ上って行き、勝利を収めなさい。主はそれを王の手に引き渡されます。」
13 ミカヤを呼びに行った使者は彼に語って言った。「見よ、預言者たちの言葉は皆、一致して王に良いことを告げている。どうか、あなたの言葉も彼らの言葉のようになり、良いことを告げてくれ。」

14 ミカヤは言った。「主は生きておられる。主がわたしに告げられること、それだけをわたしは語る。」
15 彼が王のところに来ると、王は彼に言った。「ミカヤよ、われわれはラモテ・ギレアデへ戦いに行くべきか、それともやめるべきか。」
彼は彼に答えた。「上って行き、勝利を収めなさい。主はそれを王の手に引き渡されます。」
16 王は彼に言った。「何度、わたしはあなたに誓わせなければならないのか。あなたが主の御名において、真実なこと以外は何も語らないようにと。」
17 そこで彼は言った。「全イスラエルが羊飼いのいない羊のように山々に散っているのを、わたしは見ました。主は『彼らに主人がない。それぞれ自分の家に平安のうちに帰らせよ』と言われました。」
18 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「彼がわたしについて良いことは預言せず、悪いことばかりを預言すると言ったではないか。」
19 ミカヤは言った。「ですから、主の言葉を聞きなさい。わたしは主が王座に座っておられ、天のすべての軍勢がその左右に立っているのを見ました。
20 主は言われました。『だれがアハブを誘い出し、彼が上って行ってラモテ・ギレアデで倒れるようにするのか。』ある者はこう言い、別の者はそのように言いました。
21 すると一人の霊が出て来て主の前に立ち、『わたしが彼を誘い出します』と言いました。主は彼に、『どのようにしてか』と言われました。
22 彼は『行って、アハブのすべての預言者の口の中に偽りの霊となります』と言いました。主は言われました。『あなたは彼を誘い出し、それを行うことができる。行って、そのようにせよ。』
23 ですから今、見よ、主はこれらのあなたのすべての預言者の口の中に偽りの霊を入れられました。主はあなたに対してわざわいを語られました。」
24 ケナアナの息子ゼデキヤは近づき、ミカヤの頬を打って言った。「主の霊がどの道を通ってわたしから離れ、あなたと語ったのか。」
25 ミカヤは言った。「見よ、あなたが身を隠すために奥の部屋に入るその日に、あなたは知ることになる。」
26 イスラエルの王は言った。「ミカヤを取り、町の長官アモンと王の息子ヨアシュのところへ連れ戻せ。
27 そして言え。『王はこう言う。「この男を監獄に入れ、わたしが平安のうちに帰るまで、苦しみのパンと苦しみの水を与えよ。」』」
28 ミカヤは言った。「もしあなたが平安のうちに帰るなら、主はわたしを通して語られなかった。」そして彼は言った。「聞け、すべての民よ！」
29 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、ラモテ・ギレアデへ上って行った。
30 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「わたしは変装して戦いに入る。しかしあなたは王服を着ていなさい。」イスラエルの王は変装して戦いに入った。
31 アラムの王は、彼の戦車の長たち三十二人に命じて言った。「身分の低い者とも高い者とも戦わず、ただイスラエルの王だけを相手にせよ。」
32 戦車の長たちがヨシャファテを見たとき、彼らは「確かにこれはイスラエルの王だ」と言い、彼を攻撃しようと向きを変えた。ヨシャファテは叫び声を上げた。
33 戦車の長たちは、彼がイスラエルの王ではないのを見て、彼を追うのをやめた。
34 ある男が何げなく弓を引くと、イスラエルの王の甲冑の継ぎ目に当たった。王は御者に言った。「向きを変えて、陣営の外へわたしを連れ出せ。わたしは傷ついたからだ。」
35 その日の戦いは激しく、王は戦車の中でアラム人に向かって身を支えていたが、夕方には死んだ。血が傷口から戦車の底に流れていた。

36 日が沈むころ、陣営のすべての者に叫びが広まった。「それぞれ自
分の町へ、それぞれ自分の土地へ！」
37 王は死に、サマリアに運ばれ、彼らはサマリアで王を葬った。
38 彼らはサマリアの池で戦車を洗った。犬が彼の血をなめ、娼婦たちがそこ
で身を洗った。それは主が語られた言葉のとおりであった。
39 アハブのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼が建てた象
牙の家、彼が建てたすべての町々は、イスラエルの王たちの年代記の書に記さ
れているではないか。
40 アハブは父祖たちとともに眠りにつき、その息子アハズヤが彼に代わっ
て王となった。
41 イスラエルの王アハブの第四年に、アサの息子ヨシャファテがユダの王と
なった。
42 ヨシャファテは王になり始めたとき三十五歳で、エルサレムで二十五年間
統治した。彼の母の名はアズバといい、シルヒの娘であった。
43 彼は父アサのすべての道を歩み、そこから逸れなかった。彼は主の御
目に正しいことを行った。しかし、高き所は取り除かれず、民はまだ高き所で
いけにえをささげ、香をたいていた。
44 ヨシャファテはイスラエルの王と和睦した。
45 ヨシャファテのその他の事績、彼が示した力、彼がどのように戦ったか
は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
46 彼の父アサの時代に残っていた神殿男娼の残党を、彼はその地から一掃し
た。
47 当時、エドムには王がなく、総督が統治していた。
48 ヨシャファテはオフィルに金を取りに行くためにタルシシュの船を造った
が、それらはエツヨン・ゲベルで難破したので、行けなかった。
49 その時、アハブの息子アハズヤはヨシャファテに、「わたしのしもべたち
をあなたのしもべたちとともに船に行かせよ」と言ったが、ヨシャファテは承
諾しなかった。
50 ヨシャファテは父祖たちとともに眠りにつき、父ダビデの町に父祖たちと
ともに葬られた。そしてその息子エホラムが彼に代わって王となった。
51 ユダの王ヨシャファテの第十七年に、アハブの息子アハズヤがサマリアで
イスラエルの王となり、二年間イスラエルを治めた。
52 彼は主の御目に悪であることを行い、彼の父の道、彼の母の道、またイス
ラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの道を歩んだ。
53 彼はバアルに仕えてこれを拝み、彼の父が行ったすべてのことと同じよう
に、イスラエルの神、主を怒らせた。

列王記第二

1 アハブの死後、モアブはイスラエルに背いた。
2 アハズヤはサマリアにある屋上の部屋の格子から落ちて、病気になった。そこで彼は使者たちを遣わし、彼らに「行って、エクロンの神バアル・ゼブブに、わたしがこの病気から回復するかどうかを伺え」と言った。
3 しかし主*の使いはティシュベ人エリヤに言った。「立って、サマリアの王の使者たちを迎えに上って行き、彼らに言え。『あなたがたがエクロンの神バアル・ゼブブに伺いを立てに行くのは、イスラエルに神がいないからなのか。
4 それゆえ今、主はこう言われる。「あなたは上って行った寝台から下りることはなく、必ず死ぬ。」』」そしてエリヤは去って行った。
5 使者たちが彼のもとに帰って来たので、彼は彼らに「なぜ帰って来たのか」と言った。
6 彼らは彼に言った。「一人の男がわれわれを迎えに上って来て、われわれに言いました。『行って、あなたがたを遣わした王のところに帰り、彼に言え。「主はこう言われる。『あなたがエクロンの神バアル・ゼブブに伺いを立てるために人を遣わすのは、イスラエルに神がいないからなのか。それゆえ、あなたは上って行った寝台から下りることはなく、必ず死ぬ。』」』」
7 彼は彼らに言った。「あなたがたを迎えに上って来て、これらの言葉を語ったのは、どのような男だったのか。」
8 彼らは彼に答えた。「毛深い男で、腰に革の帯を締めていました。」
彼は言った。「それはティシュベ人エリヤだ。」
9 そこで王は五十人の長と、その五十人の部下をエリヤのもとに遣わした。五十人の長がエリヤのもとに上って行くと、見よ、彼は丘の頂に座っていた。その長はエリヤに言った。「神の人よ、王が『下って来い』と言っておられる。」
10 エリヤは五十人の長に答えて言った。「もしわたしが神の人であるなら、天から火が下り、あなたとあなたの五十人を食い尽くすように！」すると天から火が下り、彼とその五十人を食い尽くした。
11 王は再び、別の五十人の長と、その五十人の部下をエリヤのもとに遣わした。その長はエリヤに言った。「神の人よ、王はこう言っておられる。『急いで下って来い！』」
12 エリヤは彼らに答えて言った。「もしわたしが神の人であるなら、天から火が下り、あなたとあなたの五十人を食い尽くすように！」すると神の火が天から下り、彼とその五十人を食い尽くした。
13 王は再び、三番目の五十人の長と、その五十人の部下を遣わした。三番目の五十人の長は上って行き、エリヤの前に来てひざまずき、彼に懇願して言った。「神の人よ、どうか、わたしの命と、あなたのしもべであるこの五十人の命を、あなたの御目に尊いものとしてください。
14 見よ、天から火が下り、前の二人の五十人の長とその五十人の部下を食い尽くしました。しかし今、わたしの命をあなたの御目に尊いものとしてください。」
15 主の使いはエリヤに言った。「彼と一緒に下って行きなさい。彼を恐れてはならない。」そこで彼は立ち上がり、彼と一緒に王のところへ下って行った。

---

* **1:3 1:3** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה（ヤハウェ）から来ている。ただし、短い形のיה（ヤ

16 彼は王に言った。「主はこう言われる。『あなたがエクロンの神バアル・ゼブブに伺いを立てるために使者たちを遣わしたのは、イスラエルにはその言葉を伺う神がいないからなのか。それゆえ、あなたは上って行った寝台から下りることはなく、必ず死ぬ。』」
17 こうして、エリヤが語った主の言葉のとおりに、彼は死んだ。彼には息子がいなかったので、ユダの王ヨシャファテの息子エホラムの第二年に、エホラムが彼に代わって王となった。
18 アハズヤが行ったその他の事績は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

2

1 主がエリヤをつむじ風で天へ上げようとされたとき、エリヤはエリシャとともにギルガルから出て行った。
2 エリヤはエリシャに言った。「どうか、ここにとどまってくれ。主がわたしをベテルまで遣わされたからだ。」
エリシャは言った。「主は生きておられ、あなたのいのちにかけても誓います。わたしはあなたから離れません。」こうして彼らはベテルへ下って行った。
3 ベテルにいた預言者の子らがエリシャのところに出て来て、彼に言った。「主が今日、あなたの上からあなたの主人を取り去られることを、あなたは知っているか。」
彼は言った。「そうだ、わたしは知っている。黙っていなさい。」
4 エリヤは彼に言った。「エリシャよ、どうか、ここにとどまってくれ。主がわたしをエリコに遣わされたからだ。」
彼は言った。「主は生きておられ、あなたのいのちにかけても誓います。わたしはあなたから離れません。」こうして彼らはエリコに来た。
5 エリコにいた預言者の子らがエリシャに近づいて、彼に言った。「主が今日、あなたの上からあなたの主人を取り去られることを、あなたは知っているか。」
彼は答えた。「そうだ、わたしは知っている。黙っていなさい。」
6 エリヤは彼に言った。「どうか、ここにとどまってくれ。主がわたしをヨルダン川に遣わされたからだ。」
彼は言った。「主は生きておられ、あなたのいのちにかけても誓います。わたしはあなたから離れません。」こうして彼ら二人は進んで行った。
7 預言者の子らの中から五十人の男が行って、彼らに向かい合う遠く離れた所に立った。彼ら二人はヨルダン川のそばに立った。
8 エリヤは自分の外套を取り、それを丸めて水を打った。すると水はあちらとこちらに分かれ、彼ら二人は乾いた地を渡って行った。
9 彼らが渡った後、エリヤはエリシャに言った。「わたしがあなたから取り去られる前に、わたしがあなたのために何をすべきか求めなさい。」
エリシャは言った。「どうか、あなたの霊の二倍の分け前がわたしの上にありますように。」
10 彼は言った。「あなたは難しいことを求めた。わたしがあなたから取り去られるときに、あなたがわたしを見るなら、あなたにとってそのようになるだろう。しかし、そうでないなら、そのようにはならない。」
11 彼らがなお進みながら話していると、見よ、火の戦車と火の馬が現れ、彼ら二人を引き離した。そしてエリヤはつむじ風で天へ上って行った。
12 エリシャはそれを見て、「わが父よ、わが父よ。イスラエルの戦車とその騎兵たちよ！」と叫んだ。
彼はもはや彼を見ることはなかった。彼は自分の服をつかみ、それを二つに引き裂いた。

13 彼はまた、エリヤから落ちた外套を拾い上げ、戻って行ってヨルダン川の岸辺に立った。
14 彼はエリヤから落ちた外套を取り、水を打って言った。「エリヤの神、主はどこにおられるのか。」そう言って彼が水を打つと、水はあちらとこちらに分かれ、エリシャは渡って行った。
15 彼の向かいのエリコにいた預言者の子らが彼を見たとき、彼らは「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている」と言った。彼らは彼を迎えに来て、彼の前で地にひれ伏した。
16 彼らは彼に言った。「見よ、今、あなたのしもべたちとともに五十人の力強い男たちがいます。どうか、彼らを行かせて、あなたの主人を探させてください。もしかすると主の霊が彼を連れ上げ、どこかの山の上か、どこかの谷に投げ捨てたかもしれません。」
彼は言った。「彼らを遣わしてはならない。」
17 彼らが恥じ入るほど彼に強く勧めたので、彼は「遣わすがよい」と言った。そこで彼らは五十人の男を遣わし、三日間探したが、彼を見つけることはできなかった。
18 彼がエリコにとどまっている間に、彼らは彼のもとに帰って来た。彼は彼らに言った。「『行くな』とあなたがたに言ったではないか。」
19 その町の人々がエリシャに言った。「見よ、わが主君がご覧のように、この町の状況は良いのですが、水は悪く、地は不毛です。」
20 彼は言った。「新しい壺をわたしのところに持って来て、そこに塩を入れなさい。」彼らはそれを彼のところに持って来た。
21 彼は水の泉へ出て行き、そこに塩を投げ入れて言った。「主はこう言われる。『わたしはこの水をいやした。ここから死や不毛が生じることは、もはやない。』」
22 エリシャが語った言葉のとおりに、水はいやされて今日に至っている。
23 彼はそこからベテルへ上って行った。彼が道を上っていると、町から若者たちが出て来て、彼をあざけって言った。「上って行け、はげ頭。上って行け、はげ頭。」
24 彼は後ろを振り向いて彼らを見、主の御名によって彼らを呪った。すると森から二頭の雌熊が出て来て、彼らのうち四十二人の若者をかき裂いた。
25 彼はそこからカルメル山へ行き、そこからサマリアへ帰った。

3

1 ユダの王ヨシャファテの第十八年に、アハブの息子エホラムがサマリアでイスラエルを治め始め、十二年間統治した。
2 彼は主の御目に悪であることを行ったが、彼の父や彼の母のようではなかった。彼は父が造ったバアルの柱を取り除いたからである。
3 それでも彼は、イスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪に固く結びつき、そこから離れなかった。
4 さて、モアブの王メシャは羊を飼う者であった。彼はイスラエルの王に、十万匹の子羊と十万頭の雄羊の羊毛を納めていた。
5 しかしアハブが死ぬと、モアブの王はイスラエルの王に背いた。
6 その時、エホラム王はサマリアから出て行き、全イスラエルを召集した。
7 彼は行ってユダの王ヨシャファテのところに人を遣わして言った。「モアブの王がわたしに背いた。あなたはわたしと一緒にモアブへ戦いに行くか。」
彼は言った。「わたしは上って行く。わたしはあなたと同じであり、わたしの民はあなたの民と同じであり、わたしの馬はあなたの馬と同じである。」
8 彼は言った。「どの道を上って行こうか。」
彼は答えた。「エドムの荒野の道である。」

9 こうしてイスラエルの王、ユダの王、そしてエドムの王は出発した。彼らは七日間の道のりを回り道して行った。その軍勢のためにも、彼らに従う家畜のためにも水がなかった。
10 イスラエルの王は言った。「ああ、主はこの三人の王を呼び集めて、彼らをモアブの手に引き渡されるのか。」
11 しかしヨシャファテは言った。「ここには、われわれが彼を通して主に伺いを立てることができるような主の預言者がいないのか。」
イスラエルの王のしもべの一人が答えて言った。「ここには、エリヤの手に水を注いだ、シャファテの息子エリシャがいます。」
12 ヨシャファテは「主の言葉は彼とともにある」と言った。そこでイスラエルの王とヨシャファテ、およびエドムの王は彼のところへ下って行った。
13 エリシャはイスラエルの王に言った。「わたしがあなたと何のかかわりがあるのか。あなたの父の預言者たちと、あなたの母の預言者たちのところへ行きなさい。」
イスラエルの王は彼に言った。「いや、主はこの三人の王を呼び集めて、彼らをモアブの手に引き渡されるからだ。」
14 エリシャは言った。「わたしがその御前に立っている万軍の主は生きておられる。確かに、もしわたしがユダの王ヨシャファテに敬意を払っていなかったなら、わたしはあなたに目を向けることも、あなたを見ることもなかっただろう。
15 しかし今、楽人をわたしのところに連れて来なさい。」
楽人が奏でたとき、主の御手が彼の上に臨んだ。
16 彼は言った。「主はこう言われる。『この谷を溝でいっぱいにせよ。』
17 主はこう言われるからである。『あなたがたは風を見ることもなく、雨を見ることもないが、その谷は水で満たされる。あなたがたも、あなたがたの家畜も、他の動物たちも飲むであろう。』
18 これは主の御目には簡単なことである。主はモアブ人をもあなたがたの手に引き渡される。
19 あなたがたはすべての防備の町とすべての良い町を打ち、すべての良い木を切り倒し、すべての水の泉をふさぎ、すべての良い土地を石で台無しにするであろう。」
20 朝になり、ささげ物をささげるころ、見よ、エドムの道から水が流れて来て、その地は水で満たされた。
21 さて、すべてのモアブ人は王たちが自分たちと戦うために上って来たことを聞き、武具を身に着けられる者を若い者から年長者まで皆集め、国境に立った。
22 彼らが朝早く起きると、太陽が水の上に輝いており、モアブ人は向かいにある水が血のように赤いのに気づいた。
23 彼らは言った。「これは血だ。王たちは確かに滅ぼされ、互いに打ち合ったのだ。それなら今、モアブよ、略奪だ！」
24 彼らがイスラエルの陣営に来ると、イスラエル人は立ち上がってモアブ人を打ったので、彼らは彼らの前から逃げた。彼らはさらに進んでモアブ人を打ちながらその地に入った。
25 彼らは町々を打ち壊し、すべての良い土地に各自が自分の石を投げてそれを満たした。彼らはまたすべての水の泉をふさぎ、すべての良い木を切り倒した。キル・ハレセテでは石だけが残ったが、石投げを持った者たちがそれを取り囲んで打った。
26 モアブの王は戦いが自分にとって激しすぎるのを見ると、エドムの王のところへ突破するために、剣を抜く七百人の男たちを自分とともに引き連れたが、彼らはできなかった。

27 それから彼は自分の代わりに王となるはずであった長男を取り、城
壁の上で彼を全焼のささげ物としてささげた。イスラエルに対して激しい怒り
が起こり、彼らは彼から離れ去り、自分たちの地へ帰った。

4

1 預言者の子らの妻の一人がエリシャに叫んで言った。「あなたのしもべで
あるわたしの夫は死にました。あなたのしもべが主を恐れる者であったこと
は、あなたがご存じです。しかし債権者が来て、わたしの二人の子どもを自
分の奴隷にしようとしています。」
2 エリシャは彼女に言った。「わたしはあなたのために何をしようか。あな
たの家に何があるか、わたしに告げなさい。」
彼女は言った。「あなたのはしための家には、油の壺一つのほか、何もあり
ません。」
3 彼は言った。「外に出て、すべての隣人から空の器を借りなさい。少しだ
けにしてはならない。
4 あなたは中に入り、あなたと息子たちの後ろで戸を閉め、それらすべて
の器に油を注ぎ入れなさい。そして、いっぱいになったものはわきに置きなさ
い。」
5 そこで彼女は彼から去り、自分と息子たちの後ろで戸を閉めた。彼らが彼
女に器を持ってくると、彼女は注ぎ入れた。
6 器がいっぱいになったとき、彼女は息子に言った。「器をもう一つ持って
きなさい。」
彼は彼女に、「器はもうありません」と言った。すると、油は止まった。
7 それから彼女は来て、神の人に告げた。彼は言った。「行って、
油を売り、あなたの負債を払いなさい。そして、あなたとあなたの息子たち
は、残ったもので生活しなさい。」
8 ある日、エリシャはシュネムへ渡って行った。そこには有力な女がいて、
彼に食事をするよう強く勧めた。それで、彼はそこを通り過ぎるたびに、食
事をするためにそこに立ち寄った。
9 彼女は夫に言った。「見よ、わたしたちのところをいつも通り過ぎるこ
の人は、聖なる神の人だとわたしにはわかります。
10 どうか、屋上に壁のある小さな部屋を造りましょう。そこに彼のために寝
台、机、椅子、ともしび台を置きましょう。そうすれば、彼がわたしたちのと
ころに来たとき、そこに泊まることができます。」
11 ある日、彼はそこに来て、その部屋に入り、そこで横になった。
12 彼はしもべゲハジに言った。「このシュネムの女を呼んでくれ。」彼が彼
女を呼ぶと、彼女は彼の前に立った。
13 エリシャはゲハジに言った。「今、彼女に言いなさい。『見よ、あなたは
このように細やかにわれわれの世話をしてくれた。わたしはあなたのため
に何をすべきか。王や軍の長に取り次いでほしいことがあるか。』」
彼女は答えた。「わたしは自分の民の間に住んでいます。」
14 彼は言った。「それでは、彼女のために何をすべきか。」
ゲハジは答えた。「確かに、彼女には息子がなく、夫は年老いています。」
15 彼は言った。「彼女を呼んでくれ。」彼が彼女を呼ぶと、彼女は戸
口に立った。
16 彼は言った。「来年のこの時期に、あなたは息子を抱くであろう。」
彼女は言った。「いいえ、わが主君、神の人よ。あなたのはしためを欺かな
いでください。」
17 女は身ごもり、エリシャが彼女に言ったとおり、次の年のその時期に息
子を産んだ。

18 子どもが大きくなったある日、彼は刈り入れをする者たちのところにいる父のもとへ出て行った。
19 彼は父に「頭が、わたしの頭が！」と言った。
父はしもべに、「彼を母親のところに連れて行け」と言った。
20 彼がその子を連れて母親のところに連れて来ると、子どもは昼まで彼女のひざの上に座っていたが、死んでしまった。
21 彼女は上って行き、彼を神の人の寝台の上に寝かせ、彼の後ろで戸を閉めて出て行った。
22 彼女は夫を呼んで言った。「どうか、しもべ一人と、ろば一頭をわたしのところに送ってください。わたしが神の人のところへ急いで行き、また戻って来られるように。」
23 彼は言った。「なぜ今日、彼のところへ行くのか。新月でも安息日でもないのに。」
彼女は言った。「大丈夫です。」
24 そこで彼女はろばに鞍を置き、しもべに言った。「進め、急ぎなさい。わたしが命じない限り、わたしのために速度を緩めてはならない。」
25 そこで彼女は出発し、カルメル山の神の人のところへ来た。神の人が遠くから彼女を見たとき、彼はしもべゲハジに言った。「見よ、あのシュネムの女だ。
26 今、走って彼女を迎えに行き、彼女に『あなたは無事か。あなたの夫は無事か。子どもは無事か』と言いなさい。」
彼女は答えた。「無事です。」
27 彼女は山の神の人のところに来ると、彼の足にすがりついた。ゲハジが彼女を引き離そうと近づいたが、神の人は言った。「彼女をそのままにしておけ。彼女の魂は苦しんでいるからだ。主はそれをわたしから隠し、わたしに告げられなかった。」
28 すると彼女は言った。「わたしがわが主君に息子を求めたでしょうか。『わたしを欺かないでください』とわたしは言わなかったでしょうか。」
29 そこで彼はゲハジに言った。「裾を帯にはさみ、わたしの杖を手に持って行きなさい。だれかに会っても挨拶をしてはならない。だれかがあなたに挨拶をしても答えてはならない。そしてわたしの杖を子どもの顔の上に置きなさい。」
30 子どもの母は言った。「主は生きておられ、あなたのいのちにかけても誓います。わたしはあなたから離れません。」そこで彼は立ち上がり、彼女の後に従った。
31 ゲハジは彼らより先に行き、杖を子どもの顔の上に置いたが、声もなく、聞く様子もなかった。それゆえ彼は引き返してエリシャに会い、「子どもは目を覚ましません」と彼に告げた。
32 エリシャが家に入ると、見よ、子どもは死んで彼の寝台に横たわっていた。
33 彼は中に入り、二人だけになるように戸を閉め、主に祈った。
34 彼は上って子どもの上に横たわり、自分の口を彼の口の上に、自分の目を彼の目の上に、自分の手を彼の手の上に置き、彼の上に身を伸ばした。すると子どもの肉は温かくなった。
35 それから彼は戻って、家の中を一度あちらこちらへと歩き、上って行って彼の上に身を伸ばした。すると子どもは七回くしゃみをし、子どもは目を開いた。
36 彼はゲハジを呼んで、「あのシュネムの女を呼んでくれ」と言った。そこで彼は彼女を呼んだ。彼女が彼のもとに来たとき、彼は「あなたの息子を取りなさい」と言った。
37 そこで彼女は入り、彼の足もとにひれ伏し、地に身をかがめた。そして彼女は息子を取り、出て行った。

38 エリシャはギルガルに戻った。その地にはききんがあった。預言者の子らが彼の前に座っていた。彼は自分のしもべに「大きな鍋を火にかけ、預言者の子らのために煮物を作りなさい」と言った。
39 一人が野草を摘むために野に出て行き、野生のつる草を見つけ、それから野生のひょうたんを自分の上着いっぱいに集めた。彼は戻って来て、それらを切り刻んで煮物の鍋に入れた。彼らはそれが何であるか知らなかったからである。
40 そこで彼らは、人々が食べるためにそれを注ぎ出した。彼らが煮物を食べていたとき、彼らは叫んで言った。「神の人よ、鍋の中に死がありま す！」彼らはそれを食べることができなかった。
41 しかし彼は、「麦粉を持ってきなさい」と言った。彼はそれを鍋の中に投げ入れ、「民が食べるために注ぎ出しなさい」と言った。そして鍋の中には有害なものは何もなくなった。
42 ある男がバアル・シャリシャから来て、初穂のパンとして大麦のパン二十個と、袋に入った新鮮な穀物の穂を添えて神の人のもとに持って来た。彼は、「民が食べるために与えなさい」と言った。
43 彼のしもべは言った。「どうしてこれを百人の男の前に出せましょうか。」
しかし彼は言った。「民が食べるために与えなさい。主はこう言われるからである。『彼らは食べ、しかも残すであろう。』」
44 そこで彼は彼らの前にそれを出し、主の言葉のとおりに彼らは食べ、しかも残した。

5

1 アラムの王の軍の長ナアマンは、その主君の前に大いなる男であり、重んじられていた。主が彼によってアラムに勝利を与えられたからである。彼は力ある勇士でもあったが、規定の病に冒されていた。
2 アラム人は略奪隊として出て行き、イスラエルの地から一人の若い娘を捕らえてきていた。彼女はナアマンの妻に仕えていた。
3 彼女は女主人に言った。「わたしの主人がサマリアにいる預言者のところに行けたらよいのに。そうすれば、彼は主人の規定の病をいやしてくれるでしょう。」
4 ある者が入って来てその主君に告げて言った。「イスラエルの地から来た娘は、かくかくしかじかに言いました。」
5 アラムの王は言った。「行きなさい。わたしもイスラエルの王に手紙を送ろう。」彼は銀十タラント*、金六千枚、それに十着の着替えを持って出発した。
6 彼はイスラエルの王に手紙を持って行った。その手紙にはこう書かれていた。「さて、この手紙があなたに届くとき、見よ、わたしはしもべナアマンをあなたのもとに遣わした。あなたが彼の規定の病をいやしてくれるためである。」
7 イスラエルの王はその手紙を読むと、自分の服を引き裂いて言った。「わたしは、人を殺したり生かしたりする神なのか。あの王は、人の規定の病をいやすようにと、わたしのところに人を遣わしてきた。どうか、彼がわたしに言いがかりをつけようとしていることを、よく考え、見極めてほしい。」
8 神の人エリシャは、イスラエルの王が服を引き裂いたことを聞くと、王に人を遣わして言った。「なぜあなたは服を引き裂いたのですか。彼をわたしのところに来させてください。そうすれば、彼はイスラエルに預言者がいることを知るでしょう。」
9 そこでナアマンは馬と戦車とともに来て、エリシャの家の戸口に立った。

* **5:5 5:5** ―タラントは約30キログラム、または約66ポンドである。

10 エリシャは彼に使者を遣わして言った。「行って、ヨルダン川で七回身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉は元通りになり、あなたはきよくなる。」
11 しかしナアマンは怒って去り、そして言った。「見よ、わたしは『彼は必ずわたしのところに出て来て立ち、彼の神、主の御名を呼び、手を患部の上で振って、規定の病の者をいやすだろう』と思っていた。
12 ダマスコの川であるアバナやパルパルは、イスラエルのすべての水よりも良いではないか。わたしはそれらの中で身を洗い、きよくなることができないというのか。」こうして彼は向きを変え、怒って去って行った。
13 彼のしもべたちは近づいて彼に語って言った。「わが父よ。もし預言者があなたに何か大きなことを命じたなら、あなたはなさったのではありませんか。まして彼があなたに、『身を洗え。そうすればきよくなる』と言っただけなら、なおさらではありませんか。」
14 そこで彼は下って行き、神の人の言葉にしたがって、ヨルダン川に七回身を浸した。すると彼の肉は幼い子どもの肉のように元通りになり、彼はきよくなった。
15 彼は供の者たち皆とともに神の人のところに戻り、来て彼の前に立って言った。「見よ、今わたしは、イスラエルのほかに全地に神がいないことを知りました。ですから今、どうかあなたのしもべから贈り物を受け取ってください。」
16 しかし彼は言った。「わたしがその御前に立っている主は生きておられる。わたしは受け取らない。」彼は彼に受け取るようにと強く勧めたが、彼は拒んだ。
17 ナアマンは言った。「そうされないのでしたら、どうかあなたのしもべに、ろば二頭分の土を与えてください。あなたのしもべは今後、主以外の他の神々に全焼のささげ物やいけにえをささげることはしないからです。
18 この事において主があなたのしもべを赦してくださいますように。わたしの主君がリモンの家に入ってそこで拝み、彼がわたしの手によりかかり、わたしもリモンの家で身をかがめるとき、わたしがリモンの家で身をかがめるときに、この事について主があなたのしもべを赦してくださいますように。」
19 彼は彼に、「平安のうちに行きなさい」と言った。こうして彼は彼から少しの道のりを去って行った。
20 しかし神の人エリシャのしもべゲハジは言った。「見よ、わたしの主人はこのアラム人ナアマンを見逃して、彼が持ってきたものを彼の手から受け取らなかった。主は生きておられる。わたしは彼の後を走って行き、彼から何かをもらってこよう。」
21 そこでゲハジはナアマンの後を追った。ナアマンは彼が自分の後を走って来るのを見ると、戦車から下りて彼を迎え、「無事か」と言った。
22 彼は言った。「無事です。わたしの主人がわたしを遣わしてこう言いました。『見よ、今、エフライムの山地から預言者の子らの二人の若者がわたしのところに来た。どうか彼らに、銀一タラントと二着の着替えを与えてほしい。』」
23 ナアマンは、「どうか、二タラントを受け取ってくれ」と言った。彼は彼に強く勧め、二タラントの銀を二つの袋に縛り入れ、二着の着替えとともに二人のしもべに載せた。彼らはゲハジの前でそれらを運んだ。
24 ゲハジが丘に着くと、彼は彼らの手からそれらを取り、家の中にしまい込んだ。そして彼は男たちを去らせ、彼らは去って行った。
25 それから彼は入って行き、主人の前に立った。エリシャは彼に言った。「ゲハジ、どこから来たのか。」
彼は「あなたのしもべはどこへも行きませんでした」と言った。
26 彼は彼に言った。「あの男があなたに会うために戦車から向きを変えたとき、わたしの心はあなたとともに行かなかっただろうか。今は、銀を受け取っ

たり、衣服、オリーブ畑、ぶどう畑、羊、牛、あるいは男女の奴隷を受け取ったりする時だろうか。
27 それゆえ、ナアマンの規定の病があなたと、あなたの子孫†
にとこしえにまといつくように。」そして彼は、雪のような規定の病の者となって彼の前から出て行った。

6

1 預言者の子らはエリシャに言った。「見よ、われわれがあなたとともに住んでいる場所は、われわれには狭すぎます。
2 どうか、ヨルダン川へ行かせてください。それぞれがそこから梁を取り、われわれが住むための場所をそこに造りましょう。」
彼は答えた。「行きなさい。」
3 一人が「どうか、あなたのしもべたちと一緒に行ってください」と言った。
彼は「わたしも行こう」と答えた。
4 そこで彼は彼らとともに行った。彼らがヨルダン川に来たとき、彼らは木を切り倒した。
5 しかし一人が梁を切り倒しているとき、斧の頭が水の中に落ちた。すると彼は叫んで、「ああ、わが主君よ。それは借り物だったのです」と言った。
6 神の人は尋ねた。「それはどこに落ちたのか。」彼がその場所を示すと、彼は木の枝を切り取り、それをそこに投げ入れて、その鉄を浮かばせた。
7 彼は「それを取りなさい」と言った。そこで彼は手を伸ばしてそれを取った。
8 さて、アラムの王はイスラエルと戦っていた。彼は自分のしもべたちと協議して、「わたしの陣はこれこれの場所に張る」と言った。
9 神の人はイスラエルの王に人を遣わして言った。「その場所を通り過ぎないように注意しなさい。アラム人がそこに下って来るからです。」
10 イスラエルの王は、神の人が彼に告げ、彼に警告した場所へ人を遣わした。そして彼はそこで警戒した。それは一度や二度のことではなかった。
11 アラムの王の心はこの事のためにひどく動揺した。彼は自分のしもべたちを呼んで、彼らに言った。「われわれのうちのだれがイスラエルの王の味方なのか、わたしに示してくれないか。」
12 彼のしもべの一人が言った。「いいえ、わが君、王よ。イスラエルにいる預言者エリシャが、あなたが寝室で語られる言葉を、イスラエルの王に告げているのです。」
13 彼は言った。「行って、彼がどこにいるか見なさい。わたしが人を遣わして彼を捕らえよう。」
彼は、「見よ、彼はドタンにいます」と告げられた。
14 それゆえ、彼はそこに馬と戦車と大軍勢を遣わした。彼らは夜の間にやって来て、町を包囲した。
15 神の人のしもべが朝早く起きて外に出ると、見よ、馬と戦車を伴った軍勢が町を取り囲んでいた。彼のしもべは彼に、「ああ、わが主君よ。われわれはどうすればよいのでしょうか」と言った。
16 彼は答えた。「恐れることはない。われわれとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いからだ。」
17 エリシャは祈って、「主よ、どうか彼の目を開いて、彼が見えるようにしてください」と言った。主がその若者の目を開かれると、彼は見た。そして見よ、山はエリシャの周りの火の馬と戦車で満ちていた。

† **5:27 5:27** または「種」。

18 彼らが彼のもとへ下って来たとき、エリシャは主に祈って、「どうか、この民を打って目を見えなくしてください」と言った。主はエリシャの言葉にしたがって、彼らを打って目を見えなくされた。
19 エリシャは彼らに言った。「これはその道ではなく、この町でもない。わたしに従いなさい。あなたがたが捜している男のところへ連れて行こう。」彼は彼らをサマリアへ連れて行った。
20 彼らがサマリアに入ったとき、エリシャは「主よ、この男たちの目を開いて、彼らが見えるようにしてください」と言った。
主が彼らの目を開かれると、彼らは見た。そして見よ、彼らはサマリアの中ほどにいた。
21 イスラエルの王は彼らを見たとき、エリシャに言った。「わが父よ、彼らを打ちましょうか。彼らを打ちましょうか。」
22 彼は答えた。「彼らを打ってはならない。あなたは、自分の剣と自分の弓で捕らえた捕虜たちを打つだろうか。彼らの前にパンと水を置き、彼らが飲み食いして、彼らの主人のところへ帰るようにしなさい。」
23 彼は彼らのために盛大な食事を用意した。彼らが飲み食いした後、彼は彼らを送り出し、彼らは自分たちの主人のところへ帰って行った。アラムの略奪隊は、イスラエルの地に入ることをやめた。
24 この事の後、アラムの王ベン・ハダドはその全軍勢を集め、上って行ってサマリアを包囲した。
25 サマリアには激しいききんがあった。見よ、彼らはそれを包囲したので、ろばの頭一つが銀八十枚で売られ、四分の一カブ*の鳩の糞が銀五枚で売られた。
26 イスラエルの王が城壁の上を通り過ぎていたとき、一人の女が彼に向かって叫んで、「お助けください、わが君、王よ」と言った。
27 彼は言った。「もし主があなたを助けてくださらないなら、わたしはどこからあなたを助けることができるだろうか。打ち場からか、それとも酒ぶねからか。」
28 それから王は彼女に尋ねた。「あなたはどうしたのか。」
彼女は答えた。「この女がわたしに、『あなたの息子を出しなさい。今日それを食べ、明日わたしの息子を食べましょう』と言いました。
29 そこでわたしたちはわたしの息子を煮て、彼を食べました。次の日、わたしが彼女に『あなたの息子を出しなさい。彼を食べましょう』と言うと、彼女は自分の息子を隠してしまいました。」
30 王は女の言葉を聞いたとき、自分の服を引き裂いた（彼は城壁の上を通り過ぎていた）。民が見ると、見よ、彼は肌に粗布をまとっていた。
31 それから彼は言った。「今日、もしシャファテの息子エリシャの首が彼の体に残っているなら、神がわたしにそのように行い、さらに増し加えられるように。」
32 しかしエリシャは自分の家に座っており、長老たちも彼とともに座っていた。それから王は自分の前から一人を遣わした。しかし使者が彼のところに来る前に、彼は長老たちに言った。「この人殺しの息子が、わたしの頭を取るために人を遣わしたのを見るか。見よ、使者が来たら戸を閉め、彼を戸の外に押しとどめよ。彼の主君の足音が彼の後ろにあるではないか。」
33 彼がまだ彼らと話している間に、見よ、使者が彼のもとへ下って来た。王は言った。「見よ、この悪は主から出たものだ。なぜわたしはこれ以上主を待たなければならないのか。」

---

* **6:25 6:25** 一カブは約2リットルで、その四分の一カブは約500ミリリットル、または約1パイントである。

7

1 エリシャは言った。「主の言葉を聞きなさい。主はこう言われる。『明日の今ごろ、サマリアの門で、一セア* の上等の小麦粉が一シェケル† で、二セアの大麦が一シェケルで売られるであろう。』」
2 すると王がその手によりかかっていた隊長は神の人に答えて言った。「見よ、主が天に窓を造られたとしても、このようなことがあるだろうか。」
彼は言った。「見よ、あなたはそれを自分の目で見るだろう。しかしそれを食べることはない。」
3 さて、門の入り口には規定の病の四人の男がいた。彼らは互いに言った。「なぜわれわれは死ぬまでここに座っているのか。
4 もしわれわれが『町に入ろう』と言えば、町にはききんがあるので、われわれはそこで死ぬ。もしわれわれがここに座ったままでいても、われわれはやはり死ぬ。だから今、さあ、アラム人の陣営に降伏しよう。もし彼らがわれわれを生かしておいてくれるなら、われわれは生きる。もし彼らがわれわれを殺すなら、ただ死ぬだけだ。」
5 彼らは夕暮れ時にアラム人の陣営へ行くために起き上がった。彼らがアラム人の陣営の外れに来たとき、見よ、そこにはだれもいなかった。
6 主‡ がアラム人の軍勢に、戦車の音、馬の音、すなわち大軍勢の音を聞かせられたからである。彼らは互いに、「見よ、イスラエルの王がわれわれに攻めかかろうと、ヘテ人の王たちとエジプト人の王たちを雇ったのだ」と言った。
7 それゆえ、彼らは夕暮れ時に起き上がって逃げ、自分たちの天幕、馬、ろば、すなわち陣営をそのまま残し、命からがら逃げ去っていた。
8 これらの規定の病の者たちが陣営の外れに来たとき、彼らは一つの天幕に入り、飲み食いし、そこから銀、金、衣服を持ち去り、行ってそれを隠した。それから彼らは戻って来て、別の天幕に入り、そこからも物を持ち去り、行ってそれらを隠した。
9 それから彼らは互いに言った。「われわれのしていることは正しくない。今日は良い知らせの日なのに、われわれは黙っている。もし朝の光が射すまで待てば、罰がわれわれに追いつくであろう。だから今、さあ、行って王の家族に告げよう。」
10 そこで彼らは来て、町の門番たちに呼びかけ、彼らに告げて言った。「われわれはアラム人の陣営へ行きました。すると見よ、そこにはだれもおらず、人の声もなく、ただ馬とろばがつながれ、天幕もそのままでした。」
11 門番たちは呼びかけ、王の家族の内側にそれを告げた。
12 王は夜の間に起き上がり、自分のしもべたちに言った。「今、アラム人がわれわれに何をしたか、わたしがあなたがたに示そう。彼らはわれわれが飢えているのを知っている。それゆえ、彼らは陣営から出て行き、野に隠れて、『彼らが町から出て来たとき、われわれは彼らを生け捕りにし、町の中に入ろう』と言っているのだ。」
13 彼のしもべの一人が答えた。「どうか、町に残されている五頭の馬を数人に取らせてください。見よ、それらはここに残っているイスラエルの全群衆と同じ運命でしょう。見よ、それらは滅び失せるイスラエルの全群衆と同じです。遣わして、確かめさせてください。」
14 そこで彼らは馬を伴った二台の戦車を取り、王はそれらをアラムの軍勢の後に遣わして、「行って見よ」と言った。
15 彼らは彼らの後を追ってヨルダン川まで行った。すると見よ、すべての道は、アラム人が急いで投げ捨てた衣服や武具で満ちていた。使者たちは戻って来て、王に告げた。

---

* **7:1** **7:1** 一セアは約7リットル、または1.9ガロン、または0.8ペックである。 † **7:1** **7:1** 一シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。 ‡ **7:6** **7:6** 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

16 民は出て行き、アラム人の陣営を略奪した。こうして、主の言葉のとおりに、一セアの上等の小麦粉が一シェケルで、二セアの大麦が一シェケルで売られた。
17 王は彼がその手によりかかっていた隊長を門の管理に就かせた。しかし民は門で彼を踏みつけ、彼は死んだ。王が彼のもとへ下って来たときに神の人が語った、その言葉のとおりであった。
18 それは、神の人が王に語ったとおりになった。「明日の今ごろ、サマリアの門で、二セアの大麦が一シェケルで、一セアの上等の小麦粉が一シェケルになるであろう。」
19 その隊長は神の人に答えて、「今、見よ、主が天に窓を造られたとしても、このようなことがあるだろうか」と言い、彼は「見よ、あなたはそれを自分の目で見るだろう。しかしそれを食べることはない」と言っていた。
20 まさにその通りに彼に起こった。民が門で彼を踏みつけ、彼は死んだからである。

8

1 さて、エリシャはその息子を生き返らせた女に語って言った。「起きて、あなたの家族とともに行き、滞在できるところならどこにでもしばらく滞在しなさい。主がききんを呼び寄せられたからである。それはまた、七年間この地に臨むであろう。」
2 女は起き上がり、神の人の言葉にしたがって出て行った。彼女は家族とともに行き、ペリシテ人の地に七年間住んだ。
3 七年の終わりに、女はペリシテ人の地から帰って来た。それから彼女は、自分の家と自分の土地のために王に訴え出た。
4 さて、王は神の人のしもべであるゲハジと話しており、「どうか、エリシャがしたすべての偉大なことをわたしに話してくれ」と言っていた。
5 彼がどのように死者を生き返らせたかを王に話していたとき、見よ、エリシャがその息子を生き返らせた女が、自分の家と自分の土地のために王に訴え出た。ゲハジは、「わが君、王よ、これがその女であり、これがエリシャが生き返らせた彼女の息子です」と言った。
6 王が女に尋ねると、彼女は彼に語った。そこで王は彼女のために一人の役人を任命し、言った。「彼女のものだったすべてと、彼女がこの地を去った日から今に至るまでの、畑のすべての産物を返しなさい。」
7 エリシャはダマスコに来た。アラムの王ベン・ハダドは病気であった。彼は「神の人がここに来ました」と告げられた。
8 王はハザエルに言った。「手に贈り物を取り、行って神の人を迎えなさい。そして彼を通して主に伺いを立て、『わたしはこの病気から回復するだろうか』と言いなさい。」
9 そこでハザエルは彼を迎えに行き、四十頭のらくだの荷となるほどのダマスコのあらゆる良いものを贈り物として彼と一緒に持って行き、来て彼の前に立って言った。「あなたの息子であるアラムの王ベン・ハダドがわたしをあなたに遣わし、『わたしはこの病気から回復するだろうか』と言っています。」
10 エリシャは彼に言った。「行って、彼に『あなたは必ず回復する』と言いなさい。しかし主は、彼が必ず死ぬことをわたしに示された。」
11 エリシャはハザエルが恥じ入るほど、じっと見つめ続けた。それから神の人は泣いた。
12 ハザエルは言った。「なぜわが主君は泣くのですか。」
彼は答えた。「あなたがイスラエルの子らに対して行う悪を、わたしが知っているからだ。あなたは彼らの要害に火を放ち、彼らの若者たちを剣で殺し、

彼らの幼い子どもたちを粉々に打ち砕き、彼らの身重の女たちを切り裂くであろう。」
13 ハザエルは言った。「犬にすぎないあなたのしもべが、どうしてこの偉大なことができるでしょうか。」
エリシャは答えた。「主はあなたがアラムの王となることを、わたしに示された。」
14 それから彼はエリシャから去り、自分の主人のところへ帰った。主人は彼に、「エリシャはあなたに何と言ったか」と言った。
彼は答えた。「彼はわたしに、あなたが必ず回復すると言いました。」
15 次の日、彼は厚い布を取り、それを水に浸し、それを王の顔の上に広げたので、彼は死んだ。そしてハザエルが彼に代わって王となった。
16 イスラエルの王、アハブの息子ヨラムの第五年、その時ユダの王はヨシャファテであったが、ユダの王ヨシャファテの息子エホラムが治め始めた。
17 彼は治め始めたとき三十二歳であった。彼はエルサレムで八年間統治した。
18 アハブの家がしたように、彼はイスラエルの王たちの道を歩んだ。彼はアハブの娘を妻としていたからである。彼は主の御目に悪であることを行った。
19 しかし主は、そのしもべダビデのゆえに、ユダを滅ぼそうとはされなかった。それは彼とその子孫にいつもともしびを与えるために、彼に約束されたからである。
20 彼の時代に、エドムはユダの手の下から背き、自分たちの上に王を立てた。
21 それでヨラムはツァイルへ渡って行き、すべての戦車も彼とともにあった。彼は夜に起き上がり、彼を取り囲んでいたエドム人と戦車の長たちを打った。そして民は自分たちの天幕へ逃げた。
22 こうしてエドムはユダの手の下から背き、今日に至っている。それからリブナも同じ時に背いた。
23 ヨラムのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
24 ヨラムは父祖たちとともに眠りにつき、ダビデの町で父祖たちとともに葬られた。そしてその息子アハズヤが彼に代わって王となった。
25 イスラエルの王、アハブの息子ヨラムの第十二年に、ユダの王エホラムの息子アハズヤが治め始めた。
26 アハズヤは治め始めたとき二十二歳であり、エルサレムで一年間統治した。彼の母の名はアタルヤといい、イスラエルの王オムリの娘であった。
27 彼はアハブの家の道を歩み、アハブの家がしたように、主の御目に悪であることを行った。彼はアハブの家の婿であったからである。
28 彼はアハブの息子ヨラムとともに、ラモテ・ギレアデでアラムの王ハザエルと戦うために行き、アラム人はヨラムを傷つけた。
29 ヨラム王は、アラムの王ハザエルと戦ったときにラマでアラム人が彼に負わせた傷をいやすために、イズレエルへ帰った。ユダの王エホラムの息子アハズヤは、アハブの息子ヨラムが病気であったため、彼を見舞うためにイズレエルへ下って行った。

9

1 預言者エリシャは預言者の子らの一人を呼んで、彼に言った。「あなたの腰に帯を締め、この油の壺を手に持って、ラモテ・ギレアデへ行きなさい。
2 そこに着いたなら、そこでニムシの子ヨシャファテの息子イエフを探し、中に入り、彼を仲間たちの中から立たせて、奥の部屋へ連れて行きなさい。

3 それから油の壺を取り、彼の頭に注いで、『主はこう言われる。「わたしはあなたに油を注いでイスラエルの上の王とする」』と言いなさい。それから戸を開け、逃げなさい。待っていてはならない。」
4 こうしてその若者、すなわち預言者である若者はラモテ・ギレアデへ行った。
5 彼が着いたとき、見よ、軍の長たちが座っていた。そこで彼は言った。「隊長、あなたに伝えることがあります。」
イエフは言った。「われわれのうち、だれにだ。」
彼は言った。「隊長、あなたです。」
6 彼は立ち上がって、家の中に入った。すると若者は彼の頭に油を注いで彼に言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしはあなたに油を注いで主の民、すなわちイスラエルの上の王とする。
7 あなたはあなたの主君アハブの家を打たなければならない。わたしがわたしのしもべである預言者たちの血と、主のすべてのしもべたちの血をイゼベルの手から復讐するためである。
8 アハブの全家は滅びるからである。わたしはイスラエルで、壁に放尿するすべての者*、閉じ込められている者も、残されている者も、アハブから断ち切る。
9 わたしはアハブの家をネバテの息子ヤロブアムの家のようにし、アヒヤの息子バシャの家のようにする。
10 犬がイズレエルの地所でイゼベルを食うであろう。彼女を葬る者はだれもいない。』」それから彼は戸を開け、逃げた。
11 それからイエフは主君のしもべたちのところに出て来た。ある者が彼に言った。「無事か。なぜあの気の触れた男があなたのところに来たのか。」
彼は彼らに言った。「あなたがたはあの男と、その言いぐさを知っているだろう。」
12 彼らは言った。「それは違う。さあ、われわれに告げてくれ。」
彼は言った。「彼はわたしにこのように語り、『主はこう言われる。「わたしはあなたに油を注いでイスラエルの上の王とする」』と言った。」
13 すると彼らは急ぎ、各自が自分の上着を取り、階段の頂にある彼の下に置き、角笛を吹き鳴らして、「イエフが王だ」と言った。
14 こうしてニムシの子ヨシャファテの息子イエフは、ヨラムに対して陰謀を企てた。（さて、ヨラムと全イスラエルは、アラムの王ハザエルのゆえにラモテ・ギレアデを守っていた。
15 しかし、ヨラム王はアラムの王ハザエルと戦ったときにアラム人が彼に負わせた傷をいやすため、イズレエルへ帰っていた。）
イエフは言った。「もしこれがあなたがたの思いなら、イズレエルへ行って知らせるために、だれも町から逃げ出させてはならない。」
16 そこでイエフは戦車に乗り、イズレエルへ行った。ヨラムがそこに横たわっていたからである。ユダの王アハズヤはヨラムを見舞うために下って来ていた。
17 イズレエルのやぐらの上に立っていた見張りは、イエフが来るにつれてその群衆を見つけ、言った。「群衆が見えます。」
ヨラムは言った。「騎兵を一人選んで、彼らを迎えに遣わし、『平和か』と言わせよ。」
18 そこで馬に乗った男が彼を迎えに行き、「王が『平和か』と言っておられます」と言った。
イエフは言った。「あなたに平和と何のかかわりがあるのか。わたしの後ろに従え！」

* **9:8 9:8** または、男子

見張りは、「使者は彼らのところに行きましたが、戻って来ません」と告げた。
19 そこで彼は二人目の馬に乗った者を遣わした。彼は彼らのところに来て言った。「王が『平和か』と言っておられます。」
イエフは答えた。「あなたに平和と何のかかわりがあるのか。わたしの後ろに従え！」
20 見張りは告げた。「彼は彼らのところに行きましたが、戻って来ません。そして、その走りはニムシの子イエフの走りのようです。彼が狂ったように走っているからです。」
21 ヨラムは言った。「準備せよ！」彼らは彼の戦車を準備した。イスラエルの王ヨラムとユダの王アハズヤは、それぞれ自分の戦車で出て行き、イエフを迎えに出た。彼らはイズレエル人ナボテの地所で彼を見つけた。
22 ヨラムはイエフを見たとき、言った。「平和か、イエフよ。」
彼は答えた。「あなたの母イゼベルの淫行とその魔術が満ちあふれているのに、何の平和があるか。」
23 ヨラムは向きを変えて逃げ、アハズヤに言った。「反逆だ、アハズヤ！」
24 イエフは力いっぱい弓を引き、ヨラムの両腕の間を射た。矢は彼の心臓を貫き抜け、彼は戦車の中に崩れ落ちた。
25 それからイエフは自分の隊長ビデカルに言った。「彼を持ち上げ、イズレエル人ナボテの畑の地所に投げ捨てよ。あなたとわたしがともに彼の父アハブの後ろに乗っていたとき、主が彼に対してこの宣告を置かれたのを思い出しなさい。
26 『確かにわたしは昨日、ナボテの血と彼の息子たちの血を見た』と主は言われる。『わたしはこの地所であなたに報いる』と主は言われる。だから今、主の言葉のとおりに、彼を取ってその地所に投げ捨てよ。」
27 ユダの王アハズヤはこれを見ると、園の家の道を通って逃げた。イエフは彼の後を追い、「彼も戦車の中で打て！」と言った。彼らはイブレアムのそばにあるグルの上り坂で彼を打った。彼はメギドへ逃げ、そこで死んだ。
28 彼のしもべたちは彼を戦車でエルサレムに運び、ダビデの町にある彼の墓に、彼の父祖たちとともに彼を葬った。
29 アハブの息子ヨラムの第十一年に、アハズヤはユダを治め始めていた。
30 イエフがイズレエルに来たとき、イゼベルはそれを聞いた。彼女は目に化粧を施し、頭を飾り、窓から見下ろした。
31 イエフが門から入って来たとき、彼女は言った。「平和か、ジムリ、自分の主君を殺した者よ。」
32 彼は窓に顔を上げ、そして言った。「だれがわたしの味方か。だれか。」二、三人の宦官が彼を見下ろした。
33 彼は言った。「彼女を突き落とせ！」そこで彼らは彼女を突き落とした。彼女の血のいくらかが壁と馬に跳ねかかった。そして彼は彼女を足で踏みつけた。
34 彼が中に入り、飲み食いした後、彼は言った。「さあ、この呪われた女の始末をして、彼女を葬れ。彼女は王の娘だからだ。」
35 彼らは彼女を葬りに行ったが、頭蓋骨と両足と手のひらのほかには何も見つからなかった。
36 それゆえ彼らは戻って来て、彼に告げた。彼は言った。「これは主の言葉だ。主がそのしもべであるティシュベ人エリヤを通して語って言われた。『犬がイズレエルの地所でイゼベルの肉を食うであろう。
37 イゼベルの死体はイズレエルの地所の野の面で糞のようになる。そのため、だれも「これがイゼベルだ」とは言えなくなる。』」

10

1 さて、アハブにはサマリアに七十人の息子がいた。イエフは手
紙を書き、サマリアへ、イズレエルの支配者たち、すなわち長老たちと、アハブの子らを育てた者たちのところに送って言った。
2 「今、この手紙があなたがたに届き次第、あなたがたの主君の息子たちはあなたがたのところにおり、あなたがたには戦車と馬、防備の町と武具もあるのだから、
3 あなたがたの主君の息子たちの中から最も優れ、ふさわしい者を選び、彼を父の王座に就かせ、あなたがたの主君の家のために戦え。」
4 しかし彼らは非常に恐れて言った。「見よ、二人の王でさえ彼の前に立てなかった！ まして、どうしてわれわれが立てようか。」
5 そこで、家を管理する者、町を管理する者、また長老たちと子どもたちを育てた者たちは、イエフに人を遣わして言った。「われわれはあなたのしもべであり、あなたがわれわれに求めるすべてのことを行います。われわれはだれも王とはしません。あなたの目に良いと思うことを何でも行ってください。」
6 すると彼は彼らに二度目の手紙を書いて言った。「もしあなたがたがわたしの味方であり、わたしの声に聞き従うなら、あなたがたの主君の息子たちの首を取り、明日の今ごろ、イズレエルのわたしのところに来なさい。」さて、王の息子たちである七十人は、彼らを育てた町の有力者たちと一緒にいた。
7 手紙が彼らに届くと、彼らは王の息子たちを捕らえ、その七十人を殺し、彼らの首をかごに入れ、イズレエルの彼のもとに送った。
8 使者が来て彼に告げて言った。「彼らが王の息子たちの首を持って来ました。」彼は言った。「朝まで、門の入り口に二つの山にして置いておけ。」
9 朝になって彼は外に出、立って、すべての民に言った。「あなたがたは潔白だ。見よ、わたしは主君に対して陰謀を企て、彼を殺した。しかし、これらすべての者を打ったのはだれか。
10 アハブの家について主が語られた主の言葉は、何一つ地に落ちないことを今知るように。主はそのしもべエリヤを通して語られた事を行われたからである。」
11 こうしてイエフは、イズレエルにいるアハブの家に残っていたすべての者、彼のすべての有力者、彼の親しい友人たち、彼の祭司たちを、彼に一人も残る者がいなくなるまで打った。
12 彼は立ち上がって出発し、サマリアへ行った。彼が途中の羊飼いたちの毛刈り場にいたとき、
13 イエフはユダの王アハズヤの兄弟たちに出会い、言った。「あなたがたはだれか。」彼らは答えた。「われわれはアハズヤの兄弟です。王の子らと王妃の子らに挨拶するために下って行くところです。」
14 彼は「彼らを生け捕りにせよ！」と言った。彼らは彼らを生け捕りにし、毛刈りの家の穴で彼ら四十二人を殺した。彼は彼らのうち一人も残さなかった。
15 彼はそこから出発したとき、レカブの息子エホナダブが彼を迎えに来るのを見つけた。彼は彼に挨拶し、彼に言った。「わたしの心があなたの心に対してまっすぐであるように、あなたの心もまっすぐか。」
エホナダブは「そうです」と答えた。
「もしそうなら、わたしに手を差し出せ。」彼は手を差し出した。そしてイエフは彼を自分の戦車に引き上げた。
16 彼は言った。「わたしと一緒に来て、主へのわたしの熱心を見よ。」こうして彼らは彼を戦車に乗せた。

17 彼がサマリアに来たとき、主がエリヤに語られた言葉のとおりに、彼はサマリアにいるアハブの家に残っていたすべての者を打ち、ついに彼を滅ぼした。
18 イエフはすべての民を一つに集め、彼らに言った。「アハブは少しだけバアルに仕えたが、イエフは大いに彼に仕えるであろう。
19 だから今、バアルのすべての預言者たち、彼のすべての礼拝者たち、彼のすべての祭司たちをわたしのところに呼べ。だれも欠けてはならない。わたしはバアルに大いなるいけにえをささげるからだ。だれでも欠ける者は、生きられない。」しかし、イエフはバアルの礼拝者たちを滅ぼすために、これを巧みに行ったのである。
20 イエフは「バアルのために厳かな集会を聖別せよ！」と言った。彼らはそれを布告した。
21 イエフは全イスラエルに人を遣わした。そしてバアルのすべての礼拝者たちが来て、来ない者は一人もいなかった。彼らはバアルの家に入り、バアルの家は端から端までいっぱいになった。
22 彼は衣装部屋を管理する者に言った。「バアルのすべての礼拝者たちのために長服を出して来い！」彼は彼らのために長服を出して来た。
23 イエフはレカブの息子エホナダブとともにバアルの家に入った。それから彼はバアルの礼拝者たちに言った。「探し、よく見よ。あなたがたとともに主のしもべが一人もおらず、ただバアルの礼拝者だけがここにいるようにせよ。」
24 彼らはいけにえと全焼のささげ物をささげるために入った。さて、イエフは自分のために外に八十人の男たちを配置し、こう言っていた。「わたしがあなたがたの手に引き渡す男たちのうち、だれかを逃がしたなら、彼を逃がした者の命は彼の命の代わりとなる。」
25 全焼のささげ物をささげ終えるやいなや、イエフは護衛兵と隊長たちに言った。「入って彼らを殺せ！だれも逃がすな。」彼らは剣の刃で彼らを打った。護衛兵と隊長たちは彼らを投げ捨て、バアルの家の奥の聖所に入った。
26 彼らはバアルの家にあった柱を持ち出し、それらを焼いた。
27 彼らはバアルの柱を打ち壊し、バアルの家を打ち壊し、それを便所にして今日に至っている。
28 このようにして、イエフはバアルをイスラエルから滅ぼした。
29 しかしイエフは、ネバテの息子ヤロブアムの罪、すなわち彼がイスラエルに罪を犯させた罪である、ベテルとダンにある二頭の金の子牛から離れなかった。
30 主はイエフに言われた。「あなたはわたしの目に正しいことを行うことにおいてよくやり、わたしの心にあったすべてのことにしたがってアハブの家に対して行ったので、あなたの子孫は四代目までイスラエルの王座に着くであろう。」
31 しかし、イエフは心を尽くしてイスラエルの神、主の律法に歩むよう注意を払わなかった。彼はヤロブアムがイスラエルに罪を犯させたその罪から離れなかった。
32 そのころ、主はイスラエルの一部を断ち切り始められた。ハザエルはイスラエルのすべての国境で彼らを打った。
33 ヨルダン川から東の方、ギレアデの全地、ガド人、ルベン人、マナセ人、アルノン谷のそばにあるアロエルから、ギレアデとバシャンに至るまでであった。
34 イエフのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼のすべての力は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。
35 イエフは父祖たちとともに眠りにつき、人々は彼をサマリアに葬った。その息子エホアハズが彼に代わって王となった。

36 イエフがサマリアでイスラエルを治めた期間は二十八年間であった。

11

1 アハズヤの母アタルヤは、自分の息子が死んだのを見ると、立ち上がって王家の子孫をすべて滅ぼした。
2 しかし、ヨラム王の娘でアハズヤの姉妹であるエホシェバは、アハズヤの息子ヨアシュを取り、殺されようとしていた王の息子たちの中から、彼とその乳母をこっそり連れ出して寝室に入れた。こうして彼らは彼をアタルヤから隠したので、彼は殺されなかった。
3 彼は彼女とともに主の家に六年間隠れていた。その間、アタルヤがその地を治めていた。
4 第七年に、エホヤダは人を遣わしてカリ人と護衛兵の百人隊長たちを呼び寄せ、彼らを主の家の自分のところに連れて来た。彼は彼らと契約を結び、主の家で彼らに誓いを立てさせ、王の息子を彼らに見せた。
5 彼は彼らに命じて言った。「あなたがたのすべきことはこれである。安息日に入って来るあなたがたの三分の一は、王の家の見張りをせよ。
6 三分の一はスルの門に、三分の一は護衛兵の後ろの門にいなさい。このようにして、あなたがたは家の見張りをし、防壁となれ。
7 安息日に出て行くあなたがたの二つの部隊、すなわちすべての者は、王の周りで主の家の見張りをせよ。
8 あなたがたは、各自が武器を手に持って王を取り囲め。隊列の中に入って来る者は殺させよ。王が出て行くときも、入って来るときも、王とともにいなさい。」
9 百人隊長たちは、祭司エホヤダが命じたすべてのことにしたがって行った。各自が自分の部下たち、すなわち安息日に入って来る者たちと、安息日に出て行く者たちを連れて、祭司エホヤダのところに来た。
10 祭司は、主の家にあったダビデ王の槍と盾を百人隊長たちに渡した。
11 護衛兵は、各自が武器を手に持ち、家の右側から家の左側まで、祭壇と家に沿って王の周りに立った。
12 それから彼は王の息子を連れ出し、彼に王冠をかぶせ、彼にあかしを授けた。彼らは彼を王とし、彼に油を注いだ。そして彼らは手をたたいて、「王、万歳！」と言った。
13 アタルヤは護衛兵と民の音を聞くと、主の家にいる民のところへ来た。
14 彼女が見ると、見よ、王は習慣にしたがって柱のそばに立っており、百人隊長たちとラッパを吹く者たちが王のそばにいた。その地のすべての民は喜び、ラッパを吹き鳴らしていた。するとアタルヤは自分の服を引き裂き、「反逆だ！反逆だ！」と叫んだ。
15 祭司エホヤダは軍の上に立つ百人隊長たちに命じて、彼らに言った。「彼女を隊列の外へ連れ出せ。彼女に従う者は剣で殺せ。」祭司は、「主の家で彼女を殺してはならない」と言ったからである。
16 そこで彼らは彼女を捕らえて連れ出し、彼女は馬の入り口を通って王の家へ行った。彼女はそこで殺された。
17 エホヤダは、主と王および民との間に、彼らが主の民となるという契約を結ばせた。また、王と民との間にも契約を結ばせた。
18 その地のすべての民はバアルの家に行き、それを打ち壊した。彼らはその祭壇と像を完全に打ち砕き、祭壇の前でバアルの祭司マタンを殺した。祭司は主の家の上に役人たちを任命した。
19 彼は百人隊長たち、カリ人、護衛兵、およびその地のすべての民を連れ、彼らは王を主の家から連れ下り、護衛兵の門を通って王の家に来た。王は王たちの王座に座った。

20 こうしてその地のすべての民は喜び、町は平穏であった。彼らはアタルヤを王の家で剣にかけて殺していた。
21 エホアシュは治め始めたとき七歳であった。

12

1 イエフの第七年にエホアシュは治め始め、エルサレムで四十年間統治した。彼の母の名はベエルシェバのツィビヤといった。
2 エホアシュは、祭司エホヤダが彼を教え導いたすべての日々において、主の御目に正しいことを行った。
3 しかし高き所は取り除かれず、民はまだ高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。
4 エホアシュは祭司たちに言った。「主の家に持ち込まれる聖別されたすべての銀、すなわち通用する銀、各人に割り当てられた評価額の銀、また人が主の家に持ち込もうと心に決めたすべての銀を、
5 祭司たちはそれぞれ自分に任された人から受け取り、家の破れが見つかったところはどこでも、その家の破れを修理させよ。」
6 しかし、エホアシュ王の第二十三年になっても、祭司たちは家の破れを修理していなかった。
7 そこでエホアシュ王は祭司エホヤダと他の祭司たちを呼んで、彼らに言った。「なぜあなたがたは家の破れを修理しないのか。だから今、あなたがたに任された人からこれ以上銀を受け取ってはならない。それを家の破れのために引き渡せ。」
8 祭司たちは民からこれ以上銀を受け取らないこと、また家の破れを修理しないことに同意した。
9 しかし祭司エホヤダは一つの箱を取り、その蓋に穴を開け、主の家に入って来る者の右側、祭壇のそばにそれを置いた。門を守る祭司たちは、主の家に持ち込まれたすべての銀をその中に入れた。
10 箱の中に銀がたくさんあるのを彼らが見ると、王の書記官と大祭司が上って来て、主の家で見つかった銀を袋に縛り入れ、それを数えた。
11 彼らは量られた銀を、仕事をする者たち、すなわち主の家を監督する者たちの手に渡し、彼らはそれを主の家で働く大工や建築者たち、
12 石工、石を切り出す者たちに支払い、また主の家の破れを修理するための木材と切り石を買うため、そして家を修理するために費やされるすべてのために支払った。
13 しかし、主の家に持ち込まれた銀から、主の家のための銀の杯、芯切りばさみ、鉢、ラッパ、金の器や銀の器は何も造られなかった。
14 彼らはそれを仕事をする者たちに与え、それで主の家を修理したからである。
15 さらに彼らは、仕事をする者たちに支払うために銀を手渡した男たちとは計算をしなかった。彼らが忠実に事を行っていたからである。
16 咎のささげ物の銀と罪のささげ物の銀は、主の家には持ち込まれなかった。それは祭司たちのものであった。
17 その時、アラムの王ハザエルは上って行ってガテと戦い、それを攻め取った。そしてハザエルはエルサレムに上って行こうと顔を向けた。
18 ユダの王エホアシュは、彼の父祖たちであるユダの王たち、ヨシャファテ、エホラム、アハズヤが聖別したすべての聖なるもの、彼自身の聖なるもの、および主の家の宝物庫と王の家で見つかったすべての金を取り、それをアラムの王ハザエルに送った。すると彼はエルサレムから去って行った。
19 ヨアシュのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
20 彼のしもべたちは立ち上がって陰謀を企て、シラへ下るミロの家でヨアシュを打ち殺した。

21 シメアテの息子ヨザカルと、ショメルの息子エホザバド、すなわち彼のしもべたちが彼を打ったので、彼は死んだ。そして彼らは彼をダビデの町で父祖たちとともに葬り、その息子アマツヤが彼に代わって王となった。

13

1 ユダの王、アハズヤの息子ヨアシュの第二十三年に、イエフの息子エホアハズがサマリアでイスラエルを治め始め、十七年間統治した。
2 彼は主の御目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪に従った。彼はそこから離れなかった。
3 主の怒りがイスラエルに対して燃え上がり、主は彼らのすべての日々において、アラムの王ハザエルの手と、ハザエルの息子ベン・ハダドの手に彼らを引き渡された。
4 エホアハズは主に懇願し、主は彼に聞き従われた。アラムの王がイスラエルを苦しめたので、主がイスラエルの苦しみをご覧になったからである。
5 （主はイスラエルに一人の救い主を与えられたので、彼らはアラム人の手の下から逃れ出た。そしてイスラエルの子らは以前のように自分たちの天幕に住んだ。
6 それにもかかわらず、彼らはイスラエルに罪を犯させたヤロブアムの家の罪から離れず、その中を歩んだ。アシェラ像もまたサマリアに残っていた。）
7 彼はエホアハズに、五十人の騎兵、十台の戦車、一万人の歩兵のほかには民を残さなかった。アラムの王が彼らを滅ぼし、彼らを打ち場にあるちりのようにしたからである。
8 エホアハズのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、および彼の力は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。
9 エホアハズは父祖たちとともに眠りにつき、彼らは彼をサマリアに葬った。そしてその息子ヨアシュが彼に代わって王となった。
10 ユダの王ヨアシュの第三十七年に、エホアハズの息子エホアシュがサマリアでイスラエルを治め始め、十六年間統治した。
11 彼は主の御目に悪であることを行った。彼はイスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムのすべての罪から離れず、その中を歩んだ。
12 ヨアシュのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼がユダの王アマツヤと戦ったときの彼の力は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。
13 ヨアシュは父祖たちとともに眠りにつき、ヤロブアムが彼の王座に座った。ヨアシュはイスラエルの王たちとともにサマリアに葬られた。
14 さて、エリシャは自分が死ぬことになる病に倒れた。イスラエルの王ヨアシュは彼のもとへ下って来て、彼の顔の上で泣き、こう言った。「わが父よ、わが父よ。イスラエルの戦車とその騎兵たちよ！」
15 エリシャは彼に言った。「弓と矢を取りなさい。」そこで彼は弓と矢を取った。
16 エリシャはイスラエルの王に言った。「あなたの手を弓に置きなさい。」彼が手を置くと、エリシャは王の手の上に自分の手を置いた。
17 そして彼は言った。「東の窓を開けなさい。」彼がそれを開けると、エリシャは「射なさい」と言った。彼が射ると、彼は言った。「主の救いの矢、アラムからの救いの矢。あなたはアフェクでアラム人を打ち、ついに彼らを滅ぼすであろう。」
18 彼はまた、「矢を取りなさい」と言った。彼がそれを取ると、エリシャはイスラエルの王に、「地面を打ちなさい」と言った。彼は三度打って、やめた。

19 神の人は彼に向かって怒って言った。「あなたは五度か六度打つべきであった。そうすれば、あなたはアラム人を打ち、ついにこれを滅ぼしたであろうに。しかし今、あなたがアラムを打つのは三度だけである。」
20 エリシャは死に、彼らは彼を葬った。さて、年が改まるころ、モアブ人の略奪隊がその地に侵入してきた。
21 人々がある男を葬っていたとき、見よ、彼らは略奪隊を見つけた。そこで彼らはその男をエリシャの墓に投げ込んだ。男が下ろされてエリシャの骨に触れると、彼は生き返り、自分の足で立ち上がった。
22 アラムの王ハザエルは、エホアハズのすべての日々においてイスラエルを苦しめた。
23 しかし主は彼らに恵みを与え、彼らをあわれみ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約のゆえに彼らに目を向けられた。主は彼らを滅ぼそうとはされず、今に至るまで彼らをご自分の前から投げ捨てることはされなかった。
24 アラムの王ハザエルは死に、その息子ベン・ハダドが彼に代わって王となった。
25 エホアハズの息子エホアシュは、ハザエルの息子ベン・ハダドの手から、彼が戦いによって父エホアハズの手から奪った町々を再び奪い返した。ヨアシュは三度彼を打ち負かし、イスラエルの町々を回復した。

14

1 イスラエルの王、ヨアハズの息子ヨアシュの第二年に、ユダの王、ヨアシュの息子アマツヤが治め始めた。
2 彼は治め始めたとき二十五歳で、エルサレムで二十九年間統治した。彼の母の名はエルサレムのエホアダンといった。
3 彼は主の御目に正しいことを行ったが、彼の父ダビデのようではなかった。彼は父ヨアシュが行ったすべてのことに従って行った。
4 しかし高き所は取り除かれず、民はまだ高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。
5 彼の手に王国が確かなものとなるとすぐに、彼は彼の父である王を殺した自分のしもべたちを殺した。
6 しかし、人を殺した者たちの子らは死に渡さなかった。それは、モーセの律法の書に書かれていることに従ったためである。そこで主は命じて、「父は子らのゆえに死に渡されてはならず、子らも父たちのゆえに死に渡されてはならない。各人は自分自身の罪のゆえに死に渡されなければならない」と言われた。
7 彼は塩の谷でエドム人一万人を殺し、戦いによってセラを攻め取り、その名をヨクテエルと呼んで今日に至っている。
8 その時、アマツヤはイエフの息子エホアハズの息子であるイスラエルの王エホアシュに使者たちを遣わして、「来い、互いに顔を合わせようではないか」と言った。
9 イスラエルの王エホアシュはユダの王アマツヤに人を遣わして言った。「レバノンにあるあざみが、レバノンにある杉に人を遣わして、『あなたの娘をわたしの息子に妻として与えよ』と言った。するとレバノンにある野の獣が通り過ぎて、そのあざみを踏みにじった。
10 あなたは確かにエドムを打った。そしてあなたの心はあなたを高ぶらせた。この栄光を楽しんで、自分の家にとどまっていなさい。なぜあなたはわざわいを招くように手出しをして、あなたも、あなたとともにいるユダも倒れなければならないのか。」
11 しかしアマツヤは聞き入れようとはしなかった。それゆえイスラエルの王エホアシュは上って行き、彼とユダの王アマツヤはユダに属するベテ・シェメシュで互いに顔を合わせた。
12 ユダはイスラエルの前に打ち負かされ、それぞれ自分の天幕へ逃げた。

13 イスラエルの王エホアシュはベテ・シェメシュで、アハズヤの息子ヨアシュの息子であるユダの王アマツヤを捕らえた。それから彼はエルサレムに来て、エルサレムの城壁をエフライムの門から隅の門まで、四百キュビト* 打ち壊した。
14 彼は主の家と王の家の宝物庫で見つかったすべての金、銀、すべての器、また人質を取り、サマリアへ帰った。
15 エホアシュが行ったその他の事績、彼の力、彼がどのようにユダの王アマツヤと戦ったかは、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。
16 エホアシュは父祖たちとともに眠りにつき、サマリアでイスラエルの王たちとともに葬られた。そしてその息子ヤロブアムが彼に代わって王となった。
17 ユダの王ヨアシュの息子アマツヤは、イスラエルの王ヨアハズの息子エホアシュの死後、十五年生きた。
18 アマツヤのその他の事績は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
19 彼らはエルサレムで彼に対して陰謀を企てたので、彼はラキシュへ逃げた。しかし彼らはラキシュへ彼を追いかけて人を遣わし、そこで彼を殺した。
20 彼らは彼を馬で運び、彼はエルサレムでダビデの町に父祖たちとともに葬られた。
21 ユダのすべての民は十六歳であったアザルヤを取り、彼の父アマツヤの代わりに彼を王とした。
22 王が父祖たちとともに眠りについた後、彼はエラテを建て、それをユダに回復した。
23 ユダの王、ヨアシュの息子アマツヤの第十五年に、イスラエルの王、ヨアシュの息子ヤロブアムがサマリアで治め始め、四十一年間統治した。
24 彼は主の御目に悪であることを行った。彼はイスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムのすべての罪から離れなかった。
25 彼はハマテの入り口からアラバの海に至るまでのイスラエルの領土を回復した。これはイスラエルの神、主がガテ・ヘフェル出身の預言者であるそのしもべ、アミタイの息子ヨナを通して語られた主の言葉のとおりであった。
26 主は、イスラエルの苦しみが奴隷にも自由人にも非常に激しく、イスラエルを助ける者がいないのをご覧になったからである。
27 しかし主は、イスラエルの名を天の下から消し去るとは言われず、ヨアシュの息子ヤロブアムの手によって彼らを救われた。
28 ヤロブアムのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼の力、彼がどのように戦い、どのようにしてユダに属していたダマスコとハマテをイスラエルのために回復したかは、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。
29 ヤロブアムは父祖たち、すなわちイスラエルの王たちとともに眠りにつき、その息子ゼカリヤが彼に代わって王となった。

15

1 イスラエルの王ヤロブアムの第二十七年に、ユダの王アマツヤの息子アザルヤが治め始めた。
2 彼は治め始めたとき十六歳で、エルサレムで五十二年間統治した。彼の母の名はエコルヤといい、エルサレムの出身であった。
3 彼は父アマツヤが行ったすべてのことに従って、主の御目に正しいことを行った。

---

* **14:13 14:13** ―キュビトは肘から中指の先までの長さで、約46センチメートル、または18インチである。

4 しかし高き所は取り除かれず、民はまだ高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。
5 主は王を打たれたので、彼は死ぬ日まで規定の病の者となり、隔離された家に住んだ。王の息子ヨタムが家を管理し、その地の民をさばいた。
6 アザルヤのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
7 アザルヤは父祖たちとともに眠りにつき、彼らは彼をダビデの町で父祖たちとともに葬った。そしてその息子ヨタムが彼に代わって王となった。
8 ユダの王アザルヤの第三十八年に、ヤロブアムの息子ゼカリヤがサマリアでイスラエルを治め始め、六か月間統治した。
9 彼は彼の父祖たちがしたように、主の御目に悪であることを行った。彼はイスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪から離れなかった。
10 ヤベシュの息子シャルムは彼に対して陰謀を企て、民の前で彼を打って殺し、彼に代わって王となった。
11 ゼカリヤのその他の事績は、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。
12 これは主がイエフに語って、「あなたの子孫は四代目までイスラエルの王座に着くであろう」と言われた主の言葉であった。そしてそのようになった。
13 ユダの王ウジヤの第三十九年に、ヤベシュの息子シャルムが治め始めた。彼はサマリアで丸一か月間統治した。
14 ガディの息子メナヘムがティルツァから上って来て、サマリアに入り、サマリアでヤベシュの息子シャルムを打って殺し、彼に代わって王となった。
15 シャルムのその他の事績と、彼が企てた反逆は、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。
16 その時、メナヘムはティルツァから来て、ティフサとそこにあるすべてのもの、およびその国境を打った。彼らが彼に対して門を開かなかったからである。それゆえ彼はそれを打ち、そこにいる身重の女たちをすべて切り裂いた。
17 ユダの王アザルヤの第三十九年に、ガディの息子メナヘムがイスラエルを治め始め、サマリアで十年間統治した。
18 彼は主の御目に悪であることを行った。彼はそのすべての日々において、イスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪から離れなかった。
19 アッシリアの王プルがその地に攻めて来た。メナヘムは銀一千タラント* をプルに与え、自分の手に王国を確かなものとするために、彼の手が自分とともにあるようにした。
20 メナヘムは、アッシリアの王に与えるために、イスラエルのすべての裕福な有力者から、一人につき銀五十シェケル† ずつを徴収した。こうしてアッシリアの王は引き返し、その地にとどまらなかった。
21 メナヘムのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。
22 メナヘムは父祖たちとともに眠りにつき、その息子ペカフヤが彼に代わって王となった。
23 ユダの王アザルヤの第五十年に、メナヘムの息子ペカフヤがサマリアでイスラエルを治め始め、二年間統治した。
24 彼は主の御目に悪であることを行った。彼はイスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪から離れなかった。

---

* **15:19 15:19** ―タラントは約30キログラム、または約66ポンドである。千タラントは約30メートルトンである。
† **15:20 15:20** ―シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。五十シェケルは約500グラム、または約1.1ポ

25 彼の軍の長である、レマルヤの息子ペカは彼に対して陰謀を企て、アルゴブとアリエとともに、サマリアの王の家の城郭で彼を打った。彼とともにギレアデ人五十人の男がいた。彼は彼を殺し、彼に代わって王となった。
26 ペカフヤのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。
27 ユダの王アザルヤの第五十二年に、レマルヤの息子ペカがサマリアでイスラエルを治め始め、二十年間統治した。
28 彼は主の御目に悪であることを行った。彼はイスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの罪から離れなかった。
29 イスラエルの王ペカの時代に、アッシリアの王ティグラテ・ピレセルが来て、イヨン、アベル・ベテ・マアカ、ヤノア、ケデシュ、ハツォル、ギレアデ、ガリラヤ、すなわちナフタリの全地を奪い、彼らをアッシリアへ捕らえ移した。
30 エラの息子ホセアは、レマルヤの息子ペカに対して陰謀を企て、彼を打って殺し、ウジヤの息子ヨタムの第二十年に彼に代わって王となった。
31 ペカのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。
32 イスラエルの王、レマルヤの息子ペカの第二年に、ユダの王ウジヤの息子ヨタムが治め始めた。
33 彼は治め始めたとき二十五歳で、エルサレムで十六年間統治した。彼の母の名はエルシャといい、ツァドクの娘であった。
34 彼は主の御目に正しいことを行った。彼は父ウジヤが行ったすべてのことに従って行った。
35 しかし高き所は取り除かれず、民はまだ高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。彼は主の家の上の門を建てた。
36 ヨタムのその他の事績と、彼が行ったことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
37 その時代に、主はアラムの王レツィンとレマルヤの息子ペカをユダに対して送り始められた。
38 ヨタムは父祖たちとともに眠りにつき、父ダビデの町で父祖たちとともに葬られた。そしてその息子アハズが彼に代わって王となった。

16

1 レマルヤの息子ペカの第十七年に、ユダの王ヨタムの息子アハズが治め始めた。
2 アハズは治め始めたとき二十歳で、エルサレムで十六年間統治した。彼はその父ダビデのように、彼の神、主の御目に正しいことを行わなかった。
3 彼はイスラエルの王たちの道を歩み、主がイスラエルの子らの前から追い払われた国々の忌むべきことの通りに、自分の息子を火の中を通らせることさえした。
4 彼はまた、高き所、丘の上、そしてすべての青々とした木の下でいけにえをささげ、香をたいた。
5 その時、アラムの王レツィンと、イスラエルの王、レマルヤの息子ペカがエルサレムへ戦いに上って来た。彼らはアハズを包囲したが、彼に打ち勝つことはできなかった。
6 その時、アラムの王レツィンはエラテをアラムに回復し、ユダの人々をエラテから追い払った。アラム人たちがエラテにやって来てそこに住み、今日に至っている。
7 そこでアハズはアッシリアの王ティグラテ・ピレセルに使者たちを遣わして言った。「わたしはあなたのしもべであり、あなたの息子です。上って来て、わたしに立ち向かって起き上がっているアラムの王の手とイスラエルの王の手から、わたしを救い出してください。」

8 アハズは主の家と王の家の宝物庫で見つかった銀と金を取り、アッシリアの王に贈り物として送った。
9 アッシリアの王は彼に聞き従った。アッシリアの王はダマスコへ上って行ってそれを攻め取り、その民をキルへ捕らえ移し、レツィンを殺した。
10 アハズ王はアッシリアの王ティグラテ・ピレセルに会うためにダマスコへ行った。彼はダマスコにある祭壇を見た。アハズ王は祭壇の図面と、そのすべての造りの詳細な模型を祭司ウリヤに送った。
11 祭司ウリヤは、アハズ王がダマスコから送ったすべてのことに従って祭壇を築いた。アハズ王がダマスコから帰って来る前に、祭司ウリヤはそのようにそれを造った。
12 王がダマスコから帰って来たとき、王は祭壇を見た。そして王は祭壇に近づき、その上に上った。
13 彼は全焼のささげ物と穀物のささげ物を焼き、注ぎのささげ物を注ぎ、和解のいけにえの血を祭壇に振りかけた。
14 また彼は主の前にあった青銅の祭壇を、家の前から、すなわち新しい祭壇と主の家の間から移し、それを新しい祭壇の北側に置いた。
15 アハズ王は祭司ウリヤに命じて言った。「大きな祭壇の上で、朝の全焼のささげ物と、夕暮れの穀物のささげ物と、王の全焼のささげ物とその穀物のささげ物と、その地のすべての民の全焼のささげ物と彼らの穀物のささげ物と彼らの注ぎのささげ物を焼きなさい。そして全焼のささげ物のすべての血と、いけにえのすべての血をそれに振りかけなさい。しかし青銅の祭壇は、わたしが伺いを立てるためのものとする。」
16 祭司ウリヤは、アハズ王が命じたすべてのことに従ってそのように行った。
17 アハズ王は台座の側板を切り取り、そこから洗盤を取り除いた。また海をその下にあった青銅の牛から下ろし、それを石の敷物の上に置いた。
18 家の中に建てられていた安息日のための覆いと、王の外の入り口を、アッシリアの王のゆえに主の家から移した。
19 アハズが行ったその他の事績は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
20 アハズは父祖たちとともに眠りにつき、ダビデの町で父祖たちとともに葬られた。そしてその息子ヒゼキヤが彼に代わって王となった。

17

1 ユダの王アハズの第十二年に、エラの息子ホセアがサマリアでイスラエルを治め始め、九年間統治した。
2 彼は主の御目に悪であることを行ったが、彼より前にいたイスラエルの王たちのようではなかった。
3 アッシリアの王シャルマネセルが彼に攻め上って来た。ホセアは彼のしもべとなり、彼に貢ぎ物を持って来た。
4 アッシリアの王はホセアの反逆を見つけた。彼がエジプトの王ソに使者たちを遣わし、年ごとにしていたようにはアッシリアの王に貢ぎ物を納めなかったからである。それゆえアッシリアの王は彼を閉じ込め、監獄につないだ。
5 それからアッシリアの王はその全地に攻め上り、サマリアに上って来て、三年間それを包囲した。
6 ホセアの第九年に、アッシリアの王はサマリアを攻め取り、イスラエルをアッシリアへ捕らえ移した。そして彼らをハラと、ゴザンの川のハボルと、メディア人の町々に住まわせた。

7 イスラエルの子らが、自分たちをエジプトの地から、エジプトの王ファラオの手の下から導き上られた彼らの神、主に対して罪を犯し、他の神々を恐れ、
8 主がイスラエルの子らの前から追い払われた国々の定めや、イスラエルの王たちが作った定めの中を歩んだので、この事が起こった。
9 イスラエルの子らは、彼らの神、主に対して正しくない事柄を密かに行い、見張りのやぐらから防備の町に至るまで、すべての町々に高き所を建てた。
10 彼らはすべての高い丘の上と、すべての青々とした木の下に、石の柱とアシェラ像を立て、
11 主が彼らの前から捕らえ移された国々がしたように、すべての高き所で香をたいた。彼らは悪事を行って主を怒らせた。
12 彼らは、主が彼らに「あなたがたはこの事を行ってはならない」と言われていた偶像に仕えた。
13 それでも主は、すべての預言者とすべての先見者を通してイスラエルとユダに警告して言われた。「あなたがたの悪い道から立ち返り、わたしがあなたがたの父祖たちに命じ、またわたしのしもべである預言者たちを通してあなたがたに送ったすべての律法に従って、わたしの戒めとわたしの定めを守りなさい。」
14 しかし彼らは聞き入れようとはせず、彼らの神、主を信じなかった彼らの父祖たちのうなじのように、自分たちのうなじを固くした。
15 彼らは主の定めと、主が彼らの父祖たちと結ばれた契約と、主が彼らに与えられたあかしを退けた。彼らはむなしいものに従って歩み、自らもむなしくなり、主が彼らに「彼らのように行ってはならない」と命じられていた、周囲の国々のようになった。
16 彼らは彼らの神、主のすべての戒めを捨て、自分のために鋳造の像、すなわち二頭の子牛を造り、アシェラ像を造り、天のすべての軍勢を拝み、バアルに仕えた。
17 彼らは自分たちの息子や娘たちを火の中を通らせ、占いを用い、まじないを行い、主の御目に悪であることを行うために身を売り、彼を怒らせた。
18 それゆえ、主はイスラエルに向かって非常に怒られ、彼らを御前から取り除かれた。ユダの部族のほかには何も残らなかった。
19 ユダもまた、彼らの神、主の戒めを守らず、イスラエルが作った定めの中を歩んだ。
20 主はイスラエルのすべての子孫を退け、彼らを苦しめ、彼らを略奪者たちの手に引き渡された。ついに彼はご自分の前から彼らを投げ捨てられた。
21 彼がイスラエルをダビデの家から引き裂かれたとき、彼らはネバテの息子ヤロブアムを王とした。ヤロブアムはイスラエルを主に従うことからそらせて、彼らに大いなる罪を犯させた。
22 イスラエルの子らはヤロブアムが犯したすべての罪の中を歩んだ。彼らはそこから離れず、
23 ついに主は、そのすべてのしもべである預言者たちを通して語られたとおりに、ご自分の前からイスラエルを取り除かれた。こうしてイスラエルは自分たちの地からアッシリアへ捕らえ移され、今日に至っている。
24 アッシリアの王はバビロン、クタ、アワ、ハマテ、セファルワイムから人々を連れて来て、イスラエルの子らの代わりにサマリアの町々に住まわせた。彼らはサマリアを所有し、その町々に住んだ。
25 彼らがそこに住み始めたころ、彼らは主を恐れていなかったので、主は彼らの中に獅子を送られ、獅子は彼らの中の何人かを殺した。
26 それゆえ人々はアッシリアの王に語って言った。「あなたが移住させ、サマリアの町々に住まわせた国々は、その地の神の定めを知りません。それゆ

え、神は彼らの中に獅子を送られ、見よ、獅子は彼らを殺しています。彼らがその地の神の定めを知らないからです。」
27 そこでアッシリアの王は命じて言った。「あなたがたがそこから捕らえ移した祭司の一人をそこに連れて行け。彼に*行ってそこに住まわせ、その地の神の定めを彼らに教えさせよ。」
28 そこで、彼らがサマリアから捕らえ移した祭司の一人が来てベテルに住み、どのように主を恐れるべきかを彼らに教えた。
29 しかし、それぞれの国が自分たちの神々を造り、サマリア人が造った高き所の家々にそれらを置いた。それぞれの国が自分たちの住んでいる町々でそのようにした。
30 バビロンの人々はスコテ・ベノテを造り、クタの人々はネルガルを造り、ハマテの人々はアシマを造り、
31 アワ人はニブハズとタルタクを造り、セファルワイム人はセファルワイムの神々であるアドラメレクとアナメレクのために自分たちの子らを火で焼いた。
32 彼らは主を恐れながらも、自分たちの中から高き所の祭司たちを作り、その祭司たちは彼らのために高き所の家々でいけにえをささげた。
33 彼らは主を恐れながらも、彼らが捕らえ移されてきた国々の習慣に従って、自分たちの神々に仕えた。
34 今日まで、彼らは以前の習慣に従っている。彼らは主を恐れず、自分たちの掟や定めにも、主がイスラエルと名づけられたヤコブの子らに、主が命じられた律法や戒めにも従って行わない。
35 主は彼らと契約を結び、彼らに命じて言われた。「あなたがたは他の神々を恐れてはならない。またそれらを拝んではならないし、それらに仕えてはならないし、それらにいけにえをささげてはならない。
36 しかし、大いなる力と伸ばされた腕をもってあなたがたをエジプトの地から導き上られた主、彼をあなたがたは恐れ、彼を拝み、彼にいけにえをささげなければならない。
37 彼があなたがたのために書き記された掟、定め、律法、戒めを、あなたがたはいつまでも守って行わなければならない。他の神々を恐れてはならない。
38 わたしがあなたがたに結んだ契約を忘れてはならない。また他の神々を恐れてはならない。
39 しかし、あなたがたの神、主を恐れなさい。そうすれば、彼はあなたがたをすべての敵の手から救い出される。」
40 しかし彼らは聞き入れようとはせず、以前の習慣に従って行った。
41 こうしてこれらの国々は主を恐れながらも、その刻まれた像に仕えた。彼らの子らも、その子らの子らも同じである。彼らの父祖たちが行ったように、彼らも行い、今日に至っている。

18

1 イスラエルの王、エラの息子ホセアの第三年に、ユダの王アハズの息子ヒゼキヤが治め始めた。
2 彼は治め始めたとき二十五歳で、エルサレムで二十九年間統治した。彼の母の名はアビといい、ゼカリヤの娘であった。
3 彼は父ダビデが行ったすべてのことに従って、主の御目に正しいことを行った。
4 彼は高き所を取り除き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒した。彼はまた、モーセが造った青銅の蛇を粉々に打ち砕いた。そのころまでイスラエルの子らはそれに香をたいていたからである。彼はそれをネフシュタンと呼んだ。

* **17:27 17:27** ヘブル語では「彼らに」（複数形）である。

5 彼はイスラエルの神、主に信頼した。そのため、彼の後にも、彼より前にいた者たちの中にも、ユダのすべての王たちの中に彼のような者はいなかった。
6 彼は主に堅く従い、彼に従うことから離れず、主がモーセに命じられた彼の戒めを守ったからである。
7 主は彼とともにおられた。彼はどこへ行っても成功した。彼はアッシリアの王に背き、彼に仕えなかった。
8 彼は見張りのやぐらから防備の町に至るまで、ペリシテ人をガザとその国境まで打った。

9 ヒゼキヤ王の第四年、すなわちイスラエルの王、エラの息子ホセアの第七年に、アッシリアの王シャルマネセルがサマリアに攻め上って来て、これを包囲した。
10 三年の終わりに彼らはそれを攻め取った。ヒゼキヤの第六年、すなわちイスラエルの王ホセアの第九年に、サマリアは攻め取られた。
11 アッシリアの王はイスラエルをアッシリアへ捕らえ移し、彼らをハラと、ゴザンの川のハボルと、メディア人の町々に置いた。
12 彼らが彼らの神、主の声に聞き従わず、その契約、すなわち主のしもべモーセが命じたすべてのことに背き、それを聞こうとも行おうともしなかったからである。

13 ヒゼキヤ王の第十四年に、アッシリアの王セナケリブがユダのすべての防備の町々に攻め上って来て、それらを攻め取った。
14 ユダの王ヒゼキヤはラキシュにいるアッシリアの王に人を遣わして言った。「わたしは罪を犯しました。わたしから引き返してください。あなたがわたしに課すものは何でも負います。」アッシリアの王はユダの王ヒゼキヤに、銀三百タラント* と金三十タラントを課した。
15 ヒゼキヤは主の家と王の家の宝物庫で見つかったすべての銀を彼に与えた。
16 その時、ヒゼキヤは主の神殿の扉と、ユダの王ヒゼキヤが金をかぶせた柱から金を切り取り、それをアッシリアの王に与えた。

17 アッシリアの王は、タルタン、ラブサリス、ラブシャケをラキシュからヒゼキヤ王のもとへ、大軍勢を率いてエルサレムに遣わした。彼らは上って行ってエルサレムに来た。彼らが上って来たとき、彼らは来て、布さらしの野の大通りにある上の池の水道のそばに立った。
18 彼らが王を呼ぶと、家を管理するヒルキヤの息子エリアキム、書記官シェブナ、記録官であるアサフの息子ヨアが彼らのところに出て来た。

19 ラブシャケは彼らに言った。「さあ、ヒゼキヤに言え。『大王、アッシリアの王はこう言われる。「あなたが頼みとしているこの頼みは何なのか。
20 あなたは（それは空しい言葉にすぎないが）『戦いのための助言と力がある』と言っている。今、あなたはだれに頼んで、わたしに背いたのか。
21 今、見よ、あなたはこの傷ついた葦の杖、すなわちエジプトを頼みとしている。人がそれによりかかれば、それは彼の手に入り込んで突き刺さるであろう。エジプトの王ファラオは、彼を頼みとするすべての者にとってそのようである。
22 しかし、もしあなたがたがわたしに、『われわれはわれわれの神、主に頼む』と言うなら、ヒゼキヤがその高き所と祭壇を取り除き、ユダとエルサレムに『あなたがたはエルサレムにあるこの祭壇の前で拝まなければならない』と言った、その方ではないか。」

---

* **18:14 18:14** ―タラントは約30キログラム、または66ポンドである。

23 だから今、どうか、わたしの主君であるアッシリアの王に担保を差し出してみよ。もしあなたが自分の側でそれらに乗り手を乗せることができるなら、わたしはあなたに二千頭の馬を与えよう。
24 それなら、どうしてあなたはわたしの主君のしもべたちのうち最も小さな隊長一人さえ退けることができようか。まして、戦車と騎兵のためにエジプトを頼みとするとは。
25 わたしが今、この場所を滅ぼすために主によらずに上って来たであろうか。主はわたしに、「この地に上って行き、それを滅ぼせ」と言われたのだ。』」
26 ヒルキヤの息子エリアキムとシェブナとヨアは、ラブシャケに言った。「どうか、あなたのしもべたちにアラム語で話してください。われわれはそれを理解できるからです。城壁の上にいる民が聞いているところで、ユダの言葉でわれわれと話さないでください。」
27 しかしラブシャケは彼らに言った。「わたしの主君はあなたの主君とあなたにこれらの言葉を語るためにわたしを遣わしたのだろうか。彼は、あなたがたとともに自分たちの糞を食い、自分たちの尿を飲むために城壁の上に座っている男たちに、わたしを遣わしたのではないか。」
28 それからラブシャケは立ち、ユダの言葉で大声で叫び、語って言った。「大王、アッシリアの王の言葉を聞け。
29 王はこう言われる。『ヒゼキヤに欺かれてはならない。彼は彼の手からあなたがたを救い出すことはできないからだ。
30 ヒゼキヤが「主は必ずわれわれを救い出され、この町はアッシリアの王の手に引き渡されることはない」と言って、あなたがたに主を頼みとさせてはならない。
31 ヒゼキヤに聞き入れてはならない。』アッシリアの王はこう言われるからである。『わたしと和睦し、わたしのところに出て来い。そして、あなたがたはそれぞれ自分のぶどうの木から食べ、それぞれ自分のいちじくの木から食べ、それぞれ自分の井戸の水を飲め。
32 わたしが来て、あなたがたをあなたがた自身の地のような地、穀物と新しいぶどう酒の地、パンとぶどう畑の地、オリーブの木とはちみつの地へ連れ去るまでである。そうして、あなたがたは生きて死なない。ヒゼキヤが「主はわれわれを救い出される」と言ってあなたがたを説き伏せようとするとき、彼に聞き入れてはならない。
33 諸国の神々のうち、その地をアッシリアの王の手から救い出した者が、かつていただろうか。
34 ハマテとアルパドの神々はどこにいるか。セファルワイム、ヘナ、イワの神々はどこにいるか。彼らはサマリアをわたしの手から救い出したか。
35 これらの国々のすべての神々のうち、だれが自分の国をわたしの手から救い出したので、主がエルサレムをわたしの手から救い出せるというのか。』」
36 しかし民は黙っており、彼にひと言も答えなかった。王の命令が、「彼に答えてはならない」というものだったからである。
37 それから、家を管理するヒルキヤの息子エリアキム、書記官シェブナ、および記録官であるアサフの息子ヨアは、服を引き裂いてヒゼキヤのところに来て、ラブシャケの言葉を彼に告げた。

19

1 ヒゼキヤ王はそれを聞いたとき、自分の服を引き裂き、粗布を体にまとって、主の家に入った。
2 彼は家を管理するエリアキム、書記官シェブナ、および祭司の長老たちに粗布をまとわせて、アモツの息子である預言者イザヤのもとに遣わした。

3 彼らは彼に言った。「ヒゼキヤはこう言います。『今日は苦難と、責めと、拒絶の日である。子どもたちが生まれようとしているのに、産み出す力がないからだ。
4 あなたの神、主が、生ける神をそしるためにその主君であるアッシリアの王が遣わしたラブシャケのすべての言葉を聞き、あなたの神、主が聞かれたその言葉を責めてくださるかもしれない。それゆえ、残されている残りの者のために、あなたの祈りをささげてほしい。』」
5 こうして、ヒゼキヤ王のしもべたちはイザヤのところに来た。
6 イザヤは彼らに言った。「あなたがたの主君にこう言いなさい。『主はこう言われる。「アッシリアの王のしもべたちがわたしを冒涜した、あなたが聞いた言葉を恐れてはならない。
7 見よ、わたしは彼のうちに一つの霊を置く。彼は知らせを聞いて、自分の国へ帰る。わたしは彼を、彼自身の国で剣によって倒れさせる。」』」
8 ラブシャケが帰って行くと、アッシリアの王がリブナと戦っているのを見つけた。彼がラキシュから去ったと聞いたからである。
9 彼がエチオピアの王ティルハカについて、「見よ、彼はあなたと戦うために出て来た」と言うのを聞いたとき、彼は再び使者たちをヒゼキヤに遣わして言った。
10 「あなたがたはユダの王ヒゼキヤにこう語って言え。『あなたが頼みとしているあなたの神が、「エルサレムはアッシリアの王の手に引き渡されることはない」と言ってあなたを欺かせてはならない。
11 見よ、あなたはアッシリアの王たちがすべての地に対して、それらを完全に滅ぼすことによってしたことを聞いたはずだ。あなたは救い出されるだろうか。
12 わたしの父祖たちが滅ぼした諸国の神々は、彼らを救い出しただろうか。ゴザン、ハラン、レツェフ、そしてテラサルにいたエデンの子らを。
13 ハマテの王、アルパドの王、セファルワイムの町の王、ヘナの王、イワの王はどこにいるか。』」
14 ヒゼキヤは使者たちの手から手紙を受け取り、それを読んだ。それからヒゼキヤは主の家へ上って行き、それを主の前に広げた。
15 ヒゼキヤは主の御前で祈って言った。「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、主よ。あなたこそ、ただあなただけが、地上のすべての王国の神です。あなたが天と地を造られました。
16 主よ、耳を傾けて聞いてください。主よ、目を開いて見てください。生ける神をそしるために彼が送ったセナケリブの言葉を聞いてください。
17 主よ、確かにアッシリアの王たちは諸国とその地を荒れ廃れさせ、
18 彼らの神々を火に投げ込みました。それらは神々ではなく、人の手のわざ、木や石にすぎなかったからです。それゆえ、彼らはそれらを滅ぼしたのです。
19 ですから今、われわれの神、主よ、どうか彼の手からわれわれを救ってください。そうして、地上のすべての王国が、主よ、あなただけが神であることを知るためです。」
20 アモツの息子イザヤはヒゼキヤに人を遣わして言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『あなたがアッシリアの王セナケリブについてわたしに祈ったことを、わたしは聞いた。』
21 これが、主が彼について語られた言葉である。
『処女であるシオンの娘は、あなたをさげすみ、あなたをあざ笑った。
エルサレムの娘は、あなたの後ろで頭を振った。
22 あなたはだれをそしり、冒涜したのか。
あなたはだれに向かって声を上げ、目を高く上げたのか。
イスラエルの聖なる方に向かってではないか。

23 あなたは自分の使者たちによって主をそしり、そして言った。
「わたしの数多くの戦車で、わたしは山々の高い所、レバノンの奥深くまで上って来た。
わたしはその高い杉の木と、選び抜かれた糸杉の木を切り倒し、
その最も奥の宿り場、その豊かな森に入る。
24 わたしは穴を掘り、見知らぬ水を飲んだ。
わたしの足の裏でエジプトのすべての川を干上がらせる。」

25 わたしが昔からそれを行い、
古の時代からそれを形造ったことを、あなたは聞いていないのか。
今、わたしはそれを実現させ、
あなたが防備の町々を廃墟の山とするようにした。
26 それゆえ、そこの住民は力が弱く、
恐れおののき、恥じ入った。
彼らは野の草や青々とした草のようになり、
屋上の草や、成長する前に枯れてしまう穀物のようになった。

27 しかし、わたしはあなたの座ることも、
出入りすることも、
わたしに向かって激しく怒ることも知っている。
28 あなたがわたしに向かって激しく怒り、あなたの傲慢さがわたしの耳に届いたため、
わたしはあなたの鼻にわたしの鉤をかけ、あなたの唇にわたしのくつわをはめ、
あなたが来た道からあなたを引き返させる。』

29 『これがあなたへのしるしとなる。
今年は自然に生えたものを食べ、
二年目にはそこから伸びたものを食べる。
そして三年目には種を蒔いて刈り入れ、ぶどう畑を作ってその実を食べよ。
30 ユダの家の生き残った残りの者は、再び下に根を張り、上に実を結ぶ。
31 残りの者がエルサレムから出て行き、逃れた者がシオンの山から出て行くからである。
万軍の主の熱心がこれを行う。』

32 それゆえ、アッシリアの王について主はこう言われる。
『彼がこの町に入ることはなく、
ここに矢を射ることもなく、
盾をもってその前に来ることもなく、
これに対して土塁を築くこともない。
33 彼は自分が来た道を帰り、
この町に入ることはない』と主は言われる。
34 『わたしはこの町を守ってこれを救う。
わたし自身のため、またわたしのしもべダビデのために。』」
35 その夜、主の使いが出て行き、アッシリアの陣営で十八万五千人を打った。人々が朝早く起きると、見よ、これらは皆、死体であった。
36 そこでアッシリアの王セナケリブは立ち去り、帰って行ってニネベに住んだ。
37 彼がその神ニスロクの家で拝んでいたとき、彼の子であるアドラメレクとシャレツェルが剣で彼を打ち、アララテの地へ逃げた。そして彼の息子エサル・ハドンが彼に代わって王となった。

20

1 そのころ、ヒゼキヤは病気になって死にかかっていた。アモツの息子である預言者イザヤが彼のところに来て、彼に言った。「主はこう言われる。『あなたの家を整えよ。あなたは死ぬ。生きることはない。』」
2 すると彼は壁に顔を向け、主に祈って言った。
3 「主よ、どうか今、わたしが真実と完全な心をもってあなたの前を歩み、あなたの御目に良いことを行ってきたことを思い出してください。」そしてヒゼキヤは激しく泣いた。
4 イザヤが町の真ん中まで出ないうちに、主の言葉が彼に臨んで言った。
5 「引き返して、わたしの民の君主ヒゼキヤに言え。『あなたの父ダビデの神、主はこう言われる。「わたしはあなたの祈りを聞いた。わたしはあなたの涙を見た。見よ、わたしはあなたをいやす。三日目には、あなたは主の家へ上って行くであろう。
6 わたしはあなたの日々に十五年を加える。わたしはあなたとこの町をアッシリアの王の手から救い出し、わたし自身のため、またわたしのしもべダビデのために、この町を守る。」』」
7 イザヤは、「いちじくの塊を持ってきなさい」と言った。彼らがそれを持ってきて腫れ物の上に当てると、彼は回復した。
8 ヒゼキヤはイザヤに言った。「主がわたしをいやし、わたしが三日目に主の家へ上って行くという、どんなしるしがあるのか。」
9 イザヤは言った。「主が語られた事を行われるという、主からのしるしはこれである。影が十段進むのがよいか、それとも十段戻るのがよいか。」
10 ヒゼキヤは答えた。「影が十段進むのは簡単なことです。そうではなく、影を十段戻らせてください。」
11 預言者イザヤが主に呼ばわると、主はアハズの日時計に下っていた影を十段戻された。
12 その時、バビロンの王、バラダンの息子ベロダク・バラダンが、ヒゼキヤに手紙と贈り物を送った。ヒゼキヤが病気であったことを聞いたからである。
13 ヒゼキヤは彼らの言うことを聞き、宝物庫のすべて、すなわち銀、金、香料、高価な油、および武器庫のすべてと、宝物の中に見つかるすべてのものを彼らに見せた。ヒゼキヤが自分の家の中、また全支配地の中で彼らに見せなかったものは何一つなかった。
14 それから預言者イザヤはヒゼキヤ王のところに来て、彼に言った。「あの男たちは何と言ったのか。彼らはどこからあなたのところに来たのか。」
ヒゼキヤは言った。「彼らは遠い国、バビロンから来ました。」
15 彼は言った。「彼らはあなたの家で何を見たのか。」
ヒゼキヤは答えた。「彼らはわたしの家にあるすべてのものを見ました。わたしの宝物の中で、わたしが彼らに見せなかったものは何一つありません。」
16 イザヤはヒゼキヤに言った。「主の言葉を聞きなさい。
17 『見よ、あなたの家にあるすべてのもの、またあなたの父祖たちが今日まで蓄えてきたものが、バビロンへ運び去られる日が来る。何一つ残されることはない』と主は言われる。
18 『また彼らは、あなたから出る、あなたがもうけるあなたの息子たちのうちから何人かを取り去り、彼らはバビロンの王の宮殿で宦官となるであろう。』」
19 するとヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが語った主の言葉は良いものです。」彼はさらに言った。「わたしの時代に平和と真実があるなら、よいではないか。」
20 ヒゼキヤのその他の事績、彼のすべての力、彼がどのようにして池と水道を造り、町に水を引いたかは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

21 ヒゼキヤは父祖たちとともに眠りにつき、その息子マナセが彼に代わって王となった。

21

1 マナセは治め始めたとき十二歳で、エルサレムで五十五年間統治した。彼の母の名はヘフジバといった。
2 彼は、主がイスラエルの子らの前から追い払われた国々の忌むべきことの通りに、主の御目に悪であることを行った。
3 彼は父ヒゼキヤが打ち壊した高き所を再び建て、アハブがイスラエルの王として行ったように、バアルのために祭壇を築き、アシェラ像を造り、天のすべての軍勢を拝み、これらに仕えた。
4 彼は、主が「エルサレムにわたしの名を置く」と言われた主の家に祭壇を築いた。
5 彼は主の家の二つの庭に、天のすべての軍勢のために祭壇を築いた。
6 彼は自分の息子を火の中を通らせ、まじないを行い、占いを用い、霊媒や口寄せと関わった。彼は主の御目に悪であることを多く行い、主を怒らせた。
7 彼は自分が造ったアシェラの刻まれた像を家に置いた。この家については、主がダビデとその息子ソロモンに言われていた。「わたしがイスラエルのすべての部族の中から選んだこの家とエルサレムに、わたしの名をとこしえに置く。
8 もし彼らが、わたしが彼らに命じたすべてのこと、およびわたしのしもべモーセが彼らに命じたすべての律法に従って注意深く行うなら、わたしはイスラエルの足を、わたしが彼らの父祖たちに与えた地から二度とさまよい出させることはしない。」
9 しかし彼らは聞き入れなかった。マナセは彼らを惑わし、主がイスラエルの子らの前から滅ぼされた国々よりもさらに多くの悪を行わせた。
10 主はそのしもべである預言者たちを通して語って言われた。
11 「ユダの王マナセがこれらの忌むべきことを行い、彼より前にいたアモリ人が行ったすべてのことよりも悪を行い、彼が造った偶像によってユダにも罪を犯させたので、
12 それゆえ、イスラエルの神、主はこう言われる。『見よ、わたしはエルサレムとユダにわざわいをもたらす。それを聞く者は皆、両耳が鳴るであろう。
13 わたしはエルサレムの上に、サマリアの測り縄とアハブの家の下げ振りを伸ばす。人が皿をぬぐい、ぬぐってそれを伏せるように、わたしはエルサレムをぬぐい去る。
14 わたしはわたしの相続の民の残りの者を捨て、彼らを敵の手に引き渡す。彼らはすべての敵のえじきとなり、略奪される。
15 彼らがわたしの目に悪であることを行い、彼らの父祖たちがエジプトから出て来た日から今日に至るまで、わたしを怒らせてきたからである。』」
16 マナセが主の御目に悪であることを行ってユダに犯させたその罪のほかに、マナセは非常に多くの罪のない血を流し、エルサレムを端から端までそれで満たした。
17 マナセのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼が犯した罪は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
18 マナセは父祖たちとともに眠りにつき、彼自身の家の園、すなわちウザの園に葬られた。そしてその息子アモンが彼に代わって王となった。
19 アモンは治め始めたとき二十二歳で、エルサレムで二年間統治した。彼の母の名はメシュレメテといい、ヨトバのハルツの娘であった。
20 彼は父マナセが行ったように、主の御目に悪であることを行った。
21 彼は父が歩んだすべての道を歩み、父が仕えた偶像に仕え、これらを拝んだ。

22 彼は彼の父祖たちの神、主を捨て、主の道を歩まなかった。
23 アモンのしもべたちは彼に対して陰謀を企て、王を彼自身の家で殺した。
24 その地の民は、アモン王に対して陰謀を企てた者たちをすべて打ち殺し、その地の民はその息子ヨシヤを彼の代わりに王とした。
25 アモンが行ったその他の事績は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
26 彼はウザの園にある彼自身の墓に葬られた。そしてその息子ヨシヤが彼に代わって王となった。

22

1 ヨシヤは治め始めたとき八歳で、エルサレムで三十一年間統治した。彼の母の名はエディダといい、ボツカテのアダヤの娘であった。
2 彼は主の御目に正しいことを行い、彼の父ダビデのすべての道を歩み、右にも左にも逸れなかった。
3 ヨシヤ王の第十八年に、王はメシュラムの息子アツァルヤの息子である書記官シャファンを主の家に遣わして言った。
4 「大祭司ヒルキヤのところに上って行き、主の家に持ち込まれた銀、すなわち門を守る者たちが民から集めた銀を数えさせなさい。
5 それを、主の家を監督する仕事をする者たちの手に渡させ、彼らがそれを主の家で働く仕事をする者たちに与え、家の破れを修理させるようにしなさい。
6 すなわち、大工、建築者、石工たちに与えさせ、家を修理するための木材と切り石を買わせなさい。
7 しかし、彼らの手に渡された銀について彼らと計算をしてはならない。彼らが忠実に事を行っているからである。」
8 大祭司ヒルキヤは書記官シャファンに言った。「わたしは主の家で律法の書を見つけた。」ヒルキヤはその書をシャファンに渡し、彼はそれを読んだ。
9 書記官シャファンは王のところに来て、王に報告して言った。「あなたのしもべたちは家で見つかった銀を取り出し、それを主の家を監督する仕事をする者たちの手に渡しました。」
10 書記官シャファンは王に告げて、「祭司ヒルキヤがわたしに一つの書を渡しました」と言った。そしてシャファンはそれを王の前で読んだ。
11 王は律法の書の言葉を聞いたとき、自分の服を引き裂いた。
12 王は祭司ヒルキヤ、シャファンの息子アヒカム、ミカヤの息子アクボル、書記官シャファン、および王のしもべアサヤに命じて言った。
13 「行って、見つかったこの書の言葉について、わたしのため、民のため、そして全ユダのために主に伺いを立てなさい。われわれの父祖たちがこの書の言葉に聞き従わず、われわれについて書かれているすべてのことにしたがって行わなかったため、われわれに向かって燃え上がっている主の激怒は大いなるものだからである。」
14 そこで祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャファン、アサヤは、ハルハスの息子ティクワの息子である、衣装部屋を管理するシャルムの妻、女預言者フルダのところに行った（彼女はエルサレムの第二区に住んでいた）。彼らは彼女と話した。
15 彼女は彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『あなたがたをわたしのところに遣わした男に言いなさい。
16 「主はこう言われる。『見よ、ユダの王が読んだあの書のすべての言葉の通りに、わたしはこの場所とその住民にわざわいをもたらす。

17 彼らがわたしを捨て、他の神々に香をたき、彼らの手のすべてのわざによってわたしを怒らせたからである。それゆえ、わたしの激怒はこの場所に向かって燃え上がり、消えることはない。』」
18 しかし、主に伺いを立てるためにあなたがたを遣わしたユダの王については、彼にこう言わなければならない。「あなたが聞いた言葉について、イスラエルの神、主はこう言われる。
19 わたしがこの場所とその住民に対して、『彼らは荒れ廃れ、呪いとなる』と語ったのを聞いたとき、あなたの心は優しく、あなたは主の前に自分を低くし、自分の服を引き裂いてわたしの前で泣いたので、わたしもまたあなたの言うことを聞いた」と主は言われる。
20 「それゆえ見よ、わたしはあなたをあなたの父祖たちに集める。あなたは平安のうちにあなたの墓に集められ、わたしがこの場所にもたらすすべてのわざわいをあなたの目が見ることはない。」』」彼らは王に言葉を持ち帰った。

23

1 そこで王は人を遣わし、彼らはユダとエルサレムのすべての長老たちを彼のもとに集めた。
2 王は主の家へ上って行き、ユダのすべての男たち、エルサレムのすべての住民、祭司たち、預言者たち、および小さい者から大きい者まで、すべての民も彼とともに行った。彼は主の家で見つかった契約の書のすべての言葉を彼らの耳に読み聞かせた。
3 王は柱のそばに立ち、主の御前で契約を結び、主に従って歩み、心を尽くし魂を尽くして主の戒めとあかしと定めを守り、この書に書かれているこの契約の言葉を確立することを誓った。すべての民はその契約の側に立った。
4 王は大祭司ヒルキヤ、第二位の祭司たち、および門を守る者たちに命じて、バアルのため、アシェラのため、そして天のすべての軍勢のために造られたすべての器を主の神殿から持ち出させた。彼はそれらをエルサレムの外のキデロンの野で焼き、その灰をベテルへ運んだ。
5 彼は、ユダの王たちがユダの町々の高き所とエルサレムの周辺で香をたくために任命した、偶像に仕える祭司たちを取り除き、またバアル、太陽、月、惑星、天のすべての軍勢に香をたく者たちを取り除いた。
6 彼は主の家からアシェラ像をエルサレムの外のキデロンの川に持ち出し、キデロンの川でそれを焼き、粉々に打ち砕いてちりにし、そのちりを一般の民の墓の上にまき散らした。
7 彼は主の家にあった神殿男娼の家を取り壊した。そこは女たちがアシェラのために掛け布を織っていたところである。
8 彼はユダの町々からすべての祭司を連れ出し、ゲバからベエルシェバに至るまで、祭司たちが香をたいていた高き所を汚した。彼は町の長官ヨシュアの門の入り口にある、門の高き所を打ち壊した。それは町の門に入る人の左手にあった。
9 しかし、高き所の祭司たちはエルサレムにある主の祭壇には上らず、その兄弟たちの間で種なしパンを食べた。
10 彼はまた、ベン・ヒンノムの谷にあるトフェテを汚し、だれもモレクのために自分の息子や娘を火の中を通らせることがないようにした。
11 彼は、ユダの王たちが太陽にささげた馬を、主の家の入り口から、境内にあった宦官ナタン・メレクの部屋のそばから取り除き、太陽の戦車を火で焼いた。
12 ユダの王たちが造ったアハズの上の部屋の屋上にある祭壇と、マナセが主の家の二つの庭に造った祭壇を、王は打ち壊し、そこからそれらを砕き下ろし、そのちりをキデロンの川に投げ捨てた。

13 イスラエルの王ソロモンがシドン人の忌むべきものアシュトレテのため、モアブの忌むべきものケモシュのため、アンモンの子らの忌むべきものミルコムのために建てた、エルサレムの前、滅びの山の右側にあった高き所を、王は汚した。
14 彼は石の柱を粉々に打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、その場所を人の骨で満たした。
15 イスラエルに罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムが造った、ベテルにある祭壇、その高き所について言えば、彼はその祭壇と高き所を打ち壊し、高き所を焼いて粉々に打ち砕いてちりにし、アシェラ像を焼いた。
16 ヨシヤが振り向くと、そこに山にある墓が見えた。彼は人を遣わして墓から骨を取り出し、それを祭壇の上で焼いてそれを汚した。これは、神の人が告げ知らせた主の言葉のとおりであった。彼はこれらのことを告げ知らせていた。
17 それから彼は、「わたしが見ているこの記念碑は何だ」と言った。
町の男たちは彼に告げた。「それはユダから来て、あなたがベテルの祭壇に対して行ったこれらのことを告げ知らせた神の人の墓です。」
18 彼は言った。「そのままにしておけ。だれも彼の骨を動かしてはならない。」そこで彼らは、サマリアから来た預言者の骨とともに、彼の骨をそのままにしておいた。
19 イスラエルの王たちが造って主を怒らせた、サマリアの町々にあった高き所のすべての家も、ヨシヤは取り除き、彼がベテルで行ったすべてのことと同様にそれらに対して行った。
20 彼はそこにいた高き所のすべての祭司を祭壇の上で殺し、その上で人の骨を焼き、それからエルサレムへ帰った。
21 王はすべての民に命じて言った。「この契約の書に書かれているように、あなたがたの神、主に過越の祭りを守りなさい。」
22 イスラエルをさばいた士師たちの時代から、イスラエルの王たちの時代、およびユダの王たちの時代を通じて、このような過越の祭りが守られたことはなかったからである。
23 しかし、ヨシヤ王の第十八年に、この過越の祭りがエルサレムで主に対して守られた。
24 さらに、ヨシヤは、霊媒、口寄せ、テラフィム*、偶像、およびユダの地とエルサレムで見られたすべての忌むべきものを取り除いた。祭司ヒルキヤが主の家で見つけた書物に書かれている律法の言葉を彼が確立するためであった。
25 彼より前に、彼のように心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くしてモーセのすべての律法に従って主に立ち返った王はいなかった。また彼の後にも、彼のような者は起きなかった。
26 それにもかかわらず、主はその燃える大いなる激怒から立ち返られなかった。マナセが主を怒らせたすべての挑発のために、主の怒りはユダに向かって燃え上がっていたからである。
27 主は言われた。「わたしはイスラエルを取り除いたように、ユダもわたしの前から取り除き、わたしが選んだこの町エルサレムと、『わたしの名がそこにある』とわたしが言った家を捨てる。」
28 ヨシヤのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
29 彼の日々に、エジプトの王ファラオ・ネコがアッシリアの王に向かってユーフラテス川へ上って行った。ヨシヤ王は彼に立ち向かって行ったが、ファラオ・ネコは彼を見たとき、メギドで彼を殺した。

---

* **23:24 23:24** テラフィムは家の偶像であり、家の財産の相続権と関係していた可能性がある。

30 彼のしもべたちは、彼が死んだままメギドから戦車で彼を運び、エルサレムに連れて来て彼自身の墓に葬った。その地の民はヨシヤの息子エホアハズを取り、彼に油を注いで彼の父の代わりに王とした。
31 エホアハズは治め始めたとき二十三歳で、エルサレムで三か月間統治した。彼の母の名はハムタルといい、リブナのエレミヤの娘であった。
32 彼は彼の父祖たちが行ったすべてのことに従って、主の御目に悪であることを行った。
33 ファラオ・ネコはハマトの地にあるリブラで彼を監獄につなぎ、彼がエルサレムで治めることができないようにした。そしてその地に銀百タラント†と金一タラントの罰金を課した。
34 ファラオ・ネコはヨシヤの息子エリアキムを、彼の父ヨシヤの代わりに王とし、彼の名をエホヤキムと改めさせた。しかし彼はエホアハズを連れ去り、彼はエジプトへ行き、そこで死んだ。
35 エホヤキムはファラオに銀と金を与えたが、彼はファラオの命令にしたがって銀を与えるためにその地に税を課した。彼はエジプトの王ファラオに与えるために、その地の民の各人から、その評価にしたがって銀と金を取り立てた。
36 エホヤキムは治め始めたとき二十五歳で、エルサレムで十一年間統治した。彼の母の名はゼビダといい、ルマのペダヤの娘であった。
37 彼は彼の父祖たちが行ったすべてのことに従って、主の御目に悪であることを行った。

24

1 彼の時代に、バビロンの王ネブカドネザルが攻め上って来たので、エホヤキムは三年間彼のしもべとなった。その後、彼は向きを変えて彼に背いた。
2 主はカルデア人の略奪隊、アラム人の略奪隊、モアブ人の略奪隊、アンモンの子らの略奪隊を彼に対して送られた。主は彼らをユダに対して送り、これを滅ぼそうとされた。主がそのしもべである預言者たちを通して語られた言葉のとおりであった。
3 確かに主の命令によってこの事がユダに起こった。それは彼らを御前から取り除くためであり、マナセが犯したすべての罪のため、
4 また彼が流した罪のない血のためであった。彼がエルサレムを罪のない血で満たしたので、主は赦そうとはされなかった。
5 エホヤキムのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。
6 エホヤキムは父祖たちとともに眠りにつき、その息子エホヤキンが彼に代わって王となった。
7 エジプトの王は二度と自分の国から出て来なかった。バビロンの王がエジプトの川からユーフラテス川に至るまで、エジプトの王に属するすべてのものを奪い取っていたからである。
8 エホヤキンは治め始めたとき十八歳で、エルサレムで三か月間統治した。彼の母の名はネフシュタといい、エルサレムのエルナタンの娘であった。
9 彼は父が行ったすべてのことに従って、主の御目に悪であることを行った。
10 その時、バビロンの王ネブカドネザルのしもべたちがエルサレムに攻め上って来て、町は包囲された。
11 そのしもべたちが町を包囲している間に、バビロンの王ネブカドネザルが町にやって来た。

† **23:33 23:33** ―タラントは約30キログラム、または66ポンドである。

12 ユダの王エホヤキンは、彼と、その母と、そのしもべたちと、その君主たちと、その役人たちとともにバビロンの王のところに出て行った。バビロンの王は、その治世の第八年に彼を捕らえた。
13 主が言われていたように、彼はそこから主の家のすべての宝物と王の家の宝物を運び出し、イスラエルの王ソロモンが主の神殿に造ったすべての金の器を切り刻んだ。
14 彼はエルサレムのすべての者、すべての君主、すべての勇士、すなわち一万人の捕虜、およびすべての職人と鍛冶屋を捕らえ移した。その地の民の最も貧しい者たちのほかには、だれも残されなかった。
15 彼はエホヤキンをバビロンへ捕らえ移した。また、王の母、王の妻たち、彼の役人たち、その地の有力者たちを、彼はエルサレムからバビロンへ捕らえ移した。
16 バビロンの王は、七千人のすべての勇士と、一千人の職人や鍛冶屋、すなわち戦いに適したすべての力強い男たちを、捕虜としてバビロンに連れて行った。
17 バビロンの王はエホヤキンの父の兄弟であるマタヌヤを彼の代わりに王とし、その名をゼデキヤと改めさせた。
18 ゼデキヤは治め始めたとき二十一歳で、エルサレムで十一年間統治した。彼の母の名はハムタルといい、リブナのエレミヤの娘であった。
19 彼はエホヤキムが行ったすべてのことに従って、主の御目に悪であることを行った。
20 主の怒りによって、主が彼らを御前から投げ捨てるまで、この事がエルサレムとユダに起こったのである。ゼデキヤはバビロンの王に背いた。

25

1 彼の治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネザルが、彼とその全軍勢とともにエルサレムに対して攻め上り、それに対して陣を敷いた。そして彼らはその周囲に土塁を築いた。
2 こうして町はゼデキヤ王の第十一年まで包囲された。
3 第四の月の九日に、町にききんが激しくなり、その地の民のためのパンがなくなった。
4 その時、町が破られ、すべての戦士たちは夜の間に、王の園のそばにある二つの城壁の間にある門の道を通って逃げた（カルデア人は町の周囲にいた）。そして王はアラバの道を通って行った。
5 しかし、カルデア人の軍勢は王を追跡し、エリコの平野で彼に追いついた。彼の全軍勢は彼から散り去っていた。
6 彼らは王を捕らえ、リブラにいるバビロンの王のところへ彼を連れて上った。そして彼らは彼にさばきを下した。
7 彼らはゼデキヤの目の前でゼデキヤの息子たちを殺し、ゼデキヤの目をえぐり出し、青銅の足枷で彼を縛ってバビロンへ連れて行った。
8 さて、第五の月の七日、すなわちバビロンの王ネブカドネザルの第十九年に、バビロンの王のしもべである護衛兵の長ネブザルアダンがエルサレムに来た。
9 彼は主の家と王の家を焼き、エルサレムのすべての家、すなわちすべての大きな家を火で焼いた。
10 護衛兵の長とともにいたカルデア人の全軍勢は、エルサレムの周囲の城壁を打ち壊した。
11 護衛兵の長ネブザルアダンは、町に残されていた民の残りの者と、バビロンの王に降伏して離反した者たちと、群衆の残りの者を捕らえ移した。
12 しかし、護衛兵の長は、ぶどう畑と畑で働かせるために、その地の最も貧しい者たちを残した。

13 カルデア人は主の家にあった青銅の柱と、主の家にあった台座と青
銅の海を打ち砕き、その青銅をバビロンへ運んだ。
14 彼らはまた、鍋、十能、芯切りばさみ、さじ、および彼らが奉仕に用い
ていたすべての青銅の器を奪い去った。
15 護衛兵の長は火皿と鉢を取り、金でできたものは金として、銀でできた
ものは銀として奪い去った。
16 ソロモンが主の家のために造った二本の柱、一つの海、そして台座につい
ては、これらすべての器の青銅は量りきれなかった。
17 一本の柱の高さは十八キュビト* であり、その上に青銅の柱頭があった。
柱頭の高さは三キュビトであり、柱頭の周囲にある網とざくろはすべて青銅で
あった。二本目の柱もその網とともにこれと同じであった。
18 護衛兵の長は祭司の長セラヤと、第二位の祭司ゼファニヤと、三
人の門を守る者たちを捕らえた。
19 彼は町から、戦士たちを統率していた一人の役人と、町で見つかっ
た王の側近の五人の男と、その地の民を召集した軍の長である書記官と、
町で見つかったその地の民六十人を捕らえた。
20 護衛兵の長ネブザルアダンは彼らを捕らえ、リブラにいるバビロンの王のと
ころへ彼らを連れて行った。
21 バビロンの王はハマトの地にあるリブラで彼らを打って殺した。こうして
ユダは自分の地から捕らえ移された。
22 ユダの地に残された民、すなわちバビロンの王ネブカドネザルが残し
た民について言えば、彼はシャファンの息子アヒカムの息子ゲダルヤを彼ら
の上の総督とした。
23 すべての軍の長たち、すなわち彼らとその部下たちは、バビロンの王がゲ
ダルヤを総督としたことを聞くと、彼らはミツパのゲダルヤのところ
に来た。すなわちネタヌヤの息子イシュマエル、カレアの息子ヨハナン、ネト
ファ人タンフメテの息子セラヤ、マアカ人の息子ヤアザヌヤ、彼らとその部
下たちである。
24 ゲダルヤは彼らと彼らの部下たちに誓って、彼らに言った。「カルデ
ア人のしもべたちを恐れてはならない。この地に住み、バビロンの王に仕えな
さい。そうすれば、あなたがたにとって良いこととなる。」
25 しかし、第七の月に、王族の出身であるエリシャマの息子ネタヌヤの息
子イシュマエルが、十人の男たちとともにやって来て、ゲダルヤを打ち殺し
た。またミツパで彼とともにいたユダヤ人やカルデア人も打ち殺した。
26 小さい者から大きい者まで、すべての民と軍の長たちは立ち上がり、エジ
プトへ行った。彼らがカルデア人を恐れたからである。
27 ユダの王エホヤキンが捕らえ移されてから第三十七年、第十二の月の二十
七日に、バビロンの王エビル・メロダクは、その治世の初めの年に、ユダ
の王エホヤキンを監獄から解放した。
28 彼はエホヤキンに優しく語りかけ、彼の王座をバビロンで彼とともにい
た王たちの王座よりも高い所に置いた。
29 彼は囚人服を着替えさせた。エホヤキンは生涯のすべての日々において、
常に王の前でパンを食べた。
30 彼への手当については、生涯のすべての日々において、日々の分として、
王から絶えず手当が与えられた。

---

* **25:17 25:17** ―キュビトは成人男性の中指の先から肘までの長さで、約46センチメートル、または18インチである。